

医学部

第一内科学教室 (呼吸器内科)	3	放射線腫瘍学教室	90
第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)	8	麻酔科学教室	90
第一内科学教室 (神経内科)	14	臨床検査医学教室	93
第二内科学教室 (循環器内科)	16	総合医療学教室	94
不整脈先進治療学研究講座	21	リハビリテーション医学教室	96
第二内科学教室 (血液内科)	22	リハビリテーション室	
第三内科学教室 (消化器内科)	22	(リハビリテーション医学教室)	98
第三内科学教室 (糖尿病・内分泌・代謝内科)	29	脳卒中医学教室	98
腫瘍内科学教室	33	医学教育学教室	104
高齢医学教室	40	解剖学教室 (肉眼解剖学)	104
精神神経科学教室	43	解剖学教室 (顕微解剖学)	105
小児科学教室	45	統合生理学教室	107
外科学教室 (消化器・一般外科)	47	細胞生理学教室	108
外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)	50	生化学教室 (1)	110
外科学教室 (乳腺外科)	52	生化学教室 (2)	110
小児外科学教室	53	薬理学教室	111
救急医学教室	54	病理学教室	112
脳神経外科学教室	55	感染症学教室 (微生物学)	114
心臓血管外科学教室	59	感染症学教室 (寄生虫学)	117
整形外科学教室	61	衛生学公衆衛生学教室	118
皮膚科学教室	65	法医学教室	120
形成外科学教室	68	共同研究施設 RI部門	121
泌尿器科学教室	72	フローサイトメトリー部門	121
多発性嚢胞腎研究講座	75	実験動物施設部門	121
眼科学教室	76	生物学教室	122
耳鼻咽喉科学教室	83	物理学教室	123
産科婦人科学教室	86	化学教室	123
放射線医学教室	89	英語学教室	123

第一内科学教室
(呼吸器内科)

講演

- 石井晴之: 症例を臨床から分子レベルまで考える 間質性肺炎. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 市川華理, 下田真史, 佐久間翔, 野坂岳志, 野村知宏, 福田のぞみ, 小田未来, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 無症状で診断されたMulticentric Castleman's Diseaseの臨床的特徴. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 肥留川一郎, 横山琢磨, 平田彩, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: 進行進行 non-Sq NSCLC に対する nab-paclitaxel+ CBDCA+bevacizumab療法第II相試験(ALCT004). 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 井澤麻耶, 佐藤絵梨, 加藤冠, 高野智子, 木村文平, 滝澤始: COPDの併存症と質問票による自覚症状評価の内容についての検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 中本啓太郎, 皿谷健, 平田彩, 和田翔子, 中本康雄, 渡邊崇靖, 三倉直, 西沢知剛, 下田真史, 大熊康介, 肥留川一郎, 石田学, 小田未来, 佐田充, 乾俊哉, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: 抗CAM-140/MDA5 抗体陽性間質性肺炎の臨床的検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 乾俊哉, 渡辺雅人, 中本啓太郎, 佐田充, 辻晋吾, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 和田裕雄, 滝澤始: ヒト気道上皮細胞のGRO α 産生制御機構. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 小田未来, 三倉直, 大熊康介, 下田真史, 西沢知剛, 石田学, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: Densitometryを用いた肺胞蛋白症における高分解能CT所見の臨床的意義. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 小川ゆかり, 石井晴之, 渡邊崇靖, 西沢知剛, 三倉直, 石田学, 小田未来, 肥留川一郎, 小出卓, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 滝澤始: 特発性肺線維症の急性増悪における発症後早期(28日以内)の予後解析. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 小出卓, 皿谷健, 福田のぞみ, 西沢知剛, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: サルコイドーシスにおける胸部CT上のGalaxy signの臨床的意義について. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 皿谷健, Richard W. Light, 滝澤始: グリコロール酸及び血性/胸水T-BILを用いた胆汁性胸水の新たな診断方法と病態生理学的検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 和田翔子, 石田学, 中本康雄, 平田彩, 渡邊崇靖, 大熊康介, 下田真史, 西沢知剛, 三倉直, 小田未来, 肥留川一郎, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: サルコイドーシスにおける肺胞マクロファージの形態学的特徴. 第56回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2016年4月8-10日.
- 皿谷健, 倉井大輔, 木村博一, 石井晴之, 滝澤始: 気道ウイルス感染が喘息発作に及ぼす影響に関する前向きコホート研究. 第90回日本感染症学会総会・学術講演会, 仙台, 2016年4月15-16日.
- 倉井大輔, 塚越博之, 皿谷健, 石井晴之, 木村博一, 滝澤始: 成人下気道感染と呼吸器ウイルス: HRV・HMPV・RSV検出患者の比較. 第90回日本感染症学会総会・学術講演会, 仙台, 2016年4月15-16日.
- 猪股浩平, 下田真史, 倉井大輔, 大熊康介, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 急性Epstein-Barr virus (EBV)感染により著明な血小板減少を呈した成人の1例. 第90回日本感染症学会総会・学術講演会, 仙台, 2016年4月15-16日.
- 乾俊哉, 渡辺雅人, 中本啓太郎, 佐田充, 辻晋吾, 平田彩, 中村益夫, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: ヒト気道上皮細胞のGRO α 産生制御機構. 第35回気道分泌研究会, 津, 2016年4月23-24日.
- 大澤武司, 渡辺雅人, 吉山崇, 松田周一, 佐々木結花, 倉島篤之, 尾形英雄, 工藤翔二, 後藤元: 血清Procalcitoninを用いた肺結核患者の予後予測モデルの検討. 第35回気道分泌研究会, 津, 2016年4月23-24日.
- 福田のぞみ, 小出卓, 石田学, 横山琢磨, 皿谷健, 石井晴之, 藤原正親, 菅間博, 滝澤始: 原発性肺癌との鑑別を要し, 肺転移・脳転移を認めた晩期再発(術後10年)直腸癌の一例. 第114回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2016東京, 東京, 2016年5月12日.
- Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Saraya T, Ishida M, Nakata K: Clinical Information of Secondary Pulmonary Alveolar Proteinosis in Japan. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
- Saraya T, Richard W. Light, Sakuma S, Nakamoto K, Wada S, Shimoda M, Ohkuma K, Ishida M, Hirukawa I, Oda M, Inui T, Ogawa Y, Koida T, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: A new diagnostic approach for bilious pleural effusion. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
- Kurai D, Saraya T, Ishii H, Sasaki Y, Tsukagoshi H, Kimura H, Takizawa H: Pathogen Profiles and Molecular Epidemiology of Respiratory Viruses in Japanese Inpatients with Community-Acquired Pneumonia. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
- Ichikawa K, Saraya T, Fujiwara M, Ishii H, Mitsuya T, Karita M, Kawachi R, Takizawa H: A Rare Case of Multicentric Castleman's Disease Without Apparent Mediastinal Lymphadenopathy and a Review of the Japanese Literature. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
- Ohkuma K, Saraya T, Ishii H, Takizawa H: Esophageal Malignancy with Esophagorespiratory Fistula Masquerading as Pneumonia. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
- Watanabe T, Saraya T, Tsukahara Y, Ohkuma K, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Relationship Clinical and Radiological Findings Between Child and Adult Patients with Mycoplasma Pneumoniae Pneumonia Using Scoring System on Chest X-Ray. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
- Ishida M, Ishii H, Wada S, Koide T, Saraya T, Tazawa R, Nakata K, Takizawa H: The Morphological Feature of Alveolar Macrophage Form on Bronchoalveolar Lavage Fluid in Patients with Sarcoidosis. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.

25. Nishizawa T, Kurai D, Saraya T, Ishii H, Takizawa H: A Japanese Patient Diagnosed Good Syndrome with Prolonged Time After Thymectomy. American Thoracic Society 2016 International Conference, USA, May 13th-18th, 2016.
26. Ishii H: Secondary pulmonary alveolar proteinosis in Japan:summary of 71case. NIH-International Rare Lung Disease Meeting, USA, May 19th, 2016.
27. Yokoyama T, Matsumoto S, Yoh K, Seto T, Murakami H, Iwama E, Ohe Y, Shingyoji M, Ohashi K, Takeda K, Hattori Y, Sugawara S, Saeki S, Fukui T, Nishio M, Kodani M, Kohno T, Tsuta K, Tsuchihara K, Goto k: Development of nationwide genomic screening project (LC-SCRUM-Japan) contributing to the establishment of precision medicine in Japan. 2016 ASCO Annual Meeting, USA, June 3rd-7th, 2016.
28. 下田真史, 倉井大輔, 中本啓太郎, 乾俊哉, 肥留川一郎, 麻生純平, 石井晴之, 滝澤始: 結核病床を有しない大学病院での結核治療患者の予後と患者背景について. 第91回結核病学会総会, 金沢, 2016年5月26-27日.
29. 倉井大輔: 北多摩南部地区における病葉吸入指導連携について. 第9回北多摩南部吸入療法研究会, 三鷹, 2016年6月7日.
30. 中本啓太郎, 渡辺雅人, 佐田充, 乾俊哉, 中村益夫, 本多紘二郎, 倉井大輔, 皿谷健, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始: 気管支喘息患者における参加ストレスの検討. 第65回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2016年6月17-19日.
31. 佐田充, 渡辺雅人, 乾俊哉, 中本啓太郎, 松崎博崇, 山内康宏, 滝澤始: 気道上皮細胞におけるウイルス感染時のCCL5の発現とその制御の検討. 第65回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2016年6月17-19日.
32. 乾俊哉, 中本啓太郎, 佐田充, 辻晋吾, 平田彩, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 石井晴之, 三上優, 堀江真史, 滝澤始: 気管支喘息とCOPDにおけるバイオマーカーと大気汚染物質: GSTP1遺伝子型の影響. 第39回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 名古屋, 2016年6月23-24日.
33. 皿谷健: ウイルス感染と呼吸器疾患 気管支喘息を中心に. 第21回三鷹市医師会呼吸器病研究会, 三鷹, 2016年6月29日.
34. 滝澤始: COPD増悪のメカニズムとその対策. 第41回KRC神奈川呼吸カンファランス, 横浜, 2016年7月1日.
35. 皿谷健: 呼吸器のアセスメント 平成28年度版呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを基礎から学ぶ. 医療従事者のためのフィジカルアセスメントセミナー, 東京, 2016年7月1日.
36. 石田学, 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の疫学研究: 続報と課題. 平成28年度第1回班会議 平成28年度日本医療研究開発機構研究費 肺胞蛋白症, 遺伝性間質性肺疾患に関する研究: 重症難治化要因とその克服, 大阪, 2016年7月3日.
37. 滝澤始: マクロライド療法: 現状と将来. 第1回北葛北部医師会学術講演会, 幸手, 2016年7月5日.
38. 乾俊哉, 中本啓太郎, 佐田充, 中村益夫, 本多紘二郎, 渡辺雅人, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 松崎博崇, 野口智史, 三上優, 堀江真史, 金俊行, 小山ひかり, 和田裕雄, 山内康宏, 幸山正, 滝澤始: 気管支喘息, COPDにおけるバイオマーカーと大気汚染物質: GSTP1遺伝子型の影響. 第47回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会, 大阪, 2016年7月8-9日.
39. 石井晴之: 呼吸器疾患の診断ポイントを探せ! -学生, 初期研修医キーパッド式参加型セミナー. 第220回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2016年7月9日.
40. 皿谷健: 間質性肺障害の診断と治療について. 第163回城西胸部画像研究会総会・定例会, 武蔵野, 2016年7月12日.
41. 中元康雄, 皿谷健, 野村知宏, 比留川一郎, 石井晴之, 滝澤始: 胸部CTでは同定できず気管支動脈造影で診断しえた気管支動脈蔓状血管腫の1例. 第219回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2016年7月19日.
42. 滝澤始: マクロライド療法: 現状と将来. 第1回岩槻医師会学術講演会, さいたま, 2016年8月2日.
43. 滝澤始: 喘息重症化のメカニズムとその対策. 第28回専門の垣根を越えた臨床医学研究会, 東京, 2016年8月30日.
44. Nakamoto k, Watanabe M, Sada M, Inui T, Ogawa Y, Nakamura M, Honda K, Koide T, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Wada H, Ishii H, Takizawa H: Reactive oxygen metabolite levels are surrogate biomarkers for predicting exacerbation of bronchial asthma. ERS International Congress 2016, UK, September 3rd-7th, 2016.
45. Inui T, Watanabe M, Nakamoto K, Sada M, Tsuji S, Hirata A, Nakamura M, Ogawa Y, Koide T, Takata S, Yokoyama T, Kurai D, Saraya T, Ishii H, Wada H, Takizawa H: Regulation of GRO α production in human bronchial epithelial cells. ERS International Congress 2016, UK, September 3rd-7th, 2016.
46. Sada M, Watanabe M, Inui T, Nakamoto K, Nakamura M, Matsuzaki H, Yamauchi Y, Takizawa H: Upregulation of CCL5 production in the airway epithelium at the time of the viral infection. ERS International Congress 2016, UK, September 3rd-7th, 2016.
47. Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Nakata K: Clinical information of Secondary Pulmonary Alveolar Proteinosis in Japan:A follow-up report. Rare Lung Disease Consortium 2016, USA, September 22nd-25th, 2016.
48. 宮岡智花, 皿谷健, 大熊康介, 和田翔子, 乾俊哉, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始: 肺野先行型膠原病との鑑別を要したIgG4関連肺疾患の1例. 第170回日本結核病学会関東支部会 第221日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 甲府, 2016年9月24日.
49. 吉田悠貴, 石田学, 和田翔子, 皿谷健, 滝澤始: 脳転移による汎下垂体機能低下症を呈した肺腺癌の1例. 第170回日本結核病学会関東支部会 第221日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 甲府, 2016年9月24日.
50. 廬昌聖, 皿谷健, 渡邊崇靖, 佐久間翔, 小川ゆかり, 佐藤洋平, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始: 悪性胸膜中皮腫との鑑別を要した悪性黒色腫による胸水の2例. 第170回日本結核病学会関東支部会 第221日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 甲府, 2016年9月24日.
51. 倉井大輔: ステロイド治療できずに増悪傾向を呈するアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例. 第2回難治性呼吸器感染症マネージメント研究会, 立川, 2016年10月6日.
52. Saraya T: Clinical utility of new diagnostic tool for analyzing lung sounds. The 41st annual conference of International Lung Sounds Association, Tokyo, October 7th-8th, 2016.
53. 本多紘二郎, 田中良明, 山名一平, 吉田勤, 佐々木結花, 吉山崇, 吉森浩三, 大沢文子, 黒崎敦子, 尾形英雄, 後藤元: 肺結核治療中に低酸素血症を認めた1例. 第11回多摩びまん性肺疾患研究会, 東京, 2016年10月12日.
54. 滝澤始: マクロライド療法の現実と将来. 第55回日本鼻

- 科学会総会・学術講演会, 宇都宮, 2016年10月13-15日.
55. 石田学, 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の臨床像解析: 先行肺病変の検討. 平成28年度第2回班会議 平成28年度日本医療研究開発機構研究費 肺胞蛋白症, 遺伝性間質性肺疾患に関する研究: 重症難治化要因とその克服, 東京, 2016年10月23日.
 56. 滝澤始: 呼吸器疾患におけるマクロライド療法の現状と将来展望. 第18回長崎マクロライド研究会, 長崎, 2016年11月2日.
 57. 本多紘二郎, 田中良明, 国東博之, 中川隆行, 佐々木結花, 黒崎敦子, 菊池文史, 尾形英雄, 後藤元: すりガラス状陰影を呈した1例. 第27回 Young Chest Conference (YCC), 東京, 2016年11月6日.
 58. 倉井大輔: 当院での髄膜炎菌検出時の院内感染対策. 第15回北多摩南部ICTネットワーク, 武蔵野, 2016年11月8日.
 59. 皿谷健: Common diseaseのUncommon presentation. 第22回新宿肺感染症研究会, 東京, 2016年11月9日.
 60. 本多紘二郎, 佐々木結花, 辻晋吾, 国東博之, 田中良明, 吉山崇, 吉森浩三, 菊池文史, 黒崎敦子, 尾形英雄, 後藤元: 繰り返した問診の後に喫煙歴が判明した急性好酸球性肺炎の症例. 第78回臨床アレルギー研究, 東京, 2016年11月12日.
 61. 倉井大輔: 吸入指導 (喘息・COPD) の病薬連携における問題点. 第10回北多摩南部吸入療法研究会, 三鷹, 2016年11月15日.
 62. 井上真奈美, 皿谷健, 小田未来, 布川寛樹, 藤原正親, 滝澤始: 家族内発症した夏型過敏性肺炎の検討. 第78回臨床アレルギー研究会, 東京, 2016年11月12日.
 63. Ishii H, Tazawa R, Saraya T, Inoue Y, Nakata K: Characteristics of secondary pulmonary alveolar proteinosis complicated with myelodysplastic syndrome in Japan: Follow-up report. 21th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Thailand, November 12th-15th, 2016.
 64. 渡辺雅人: 呼吸器疾患におけるインフルエンザの位置づけ. インフルエンザフォーラム2016 in 長岡, 長岡, 2016年11月30日.
 65. 石井晴之: 骨髄異形成症候群に合併した続発性肺胞蛋白症の国際共同研究. MDS-s PAP conference2016, 平成28年度日本医療研究開発機構研究費 肺胞蛋白症, 遺伝性間質性肺疾患に関する研究: 重症難治化要因とその克服, 東京, 2016年12月3日.
 66. 平田彩, 横山琢磨, 乾俊哉, 小川ゆかり, 中本啓太郎, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始: Stockings/ Sleeves/ Selected Prophylactic Drugs: 3Sを用いたnab-PTXの末梢神経障害に対する予防効果の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016年12月19-21日.
 67. 小川ゆかり, 横山琢磨, 平田彩, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始: EGFR-TKIに耐性を来したEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者に対するre-biopsyの実施可能性の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016年12月19-21日.
 68. 倉井大輔: 知って得する, インフルエンザと肺炎の基礎知識. 市民講演会, 狛江, 2017年1月25日.
 69. 本多紘二郎, 田中良明, 奥村昌夫, 佐々木結花, 吉山崇, 尾形英雄, 菊池文史, 黒崎敦子, 大滝美浩, 後藤元: 肉芽腫性肝疾患の経過観察中に肺結核を発症した1例. 171回結核病学会関東地方会, 東京, 2017年2月21日.
 70. 皿谷健: 日常よく出会う呼吸器疾患. 21世紀 適々齋塾, 大阪, 2017年2月26日.
 71. 滝澤始: 咳嗽の鑑別診断と治療～閉塞性肺疾患・マイコプラズマ感染症を含めて～. 小金井市医師会学術講演会, 東京, 2017年3月10日.
 72. 今井静佳, 下田真史, 倉井大輔, 田村仁樹, 皿谷健, 横山琢磨, 石井晴之, 滝澤始: 急速に増大する肺多発結節影を認め, 感染性疾患との鑑別を要したALK陽性未分化大細胞リンパ腫の1例. 日本内科学会第631回関東地方会, 東京, 2017年3月11日.
 73. 井上真奈美, 小田未来, 布川寛樹, 藤原正親, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 家族内発症した夏型過敏性肺炎の3症例. 第160回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2017年3月18日.
 74. 倉井大輔: 間質性肺炎に合併した *Aspergillus fumigatus* 膿胸の1例. 第9回関東呼吸器真菌研究会, 東京, 2017年3月18日.
 75. 石井晴之: すこやかに生活するための肺を知ろう 間質性肺炎について (肺がかたくなるとは?). 市民公開講座, 三鷹, 2016年3月25日.
 76. 横山琢磨: すこやかに生活するための肺を知ろう 肺がんの基本的な話. 市民公開講座, 三鷹, 2016年3月25日.
 77. 高田佐織: すこやかに生活するための肺を知ろう ここまで進んだ肺がん治療. 市民公開講座, 三鷹, 2016年3月25日.
 78. Ogawa Y, Saraya T, Watanabe T, Ohkuma K, Oda M, Nakamoto K, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Pulmonary involvement in myeloperoxidase antineutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA) related disease. CT findings in 18 patients. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th. 2017.
 79. Nakamoto K, Saraya T, Tsukahara Y, Ogawa Y, Tamura M, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Analysis of correlation between bronchial asthma status and thoracic CT findings in patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th. 2017.
- 論文**
1. Kimura H¹, Nagasawa K¹, Tsukagoshi H², Matsushima Y³, Fujita K⁴, Yoshida LM⁵, Tanaka R⁶, Ishii H, Shimojo N⁷, Kuroda M¹, Ryo A⁹ (1National Institute of Infectious Diseases, 2Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, 3Kawasaki City Institute for Public Health, 4Gumma Paz College, 5Nagasaki University, 6Department of Surgery, 7Chiba University, 8Yokohama City University Graduate School of Medicine): Molecular evolution of the fusion protein gene in human respiratory syncytial virus subgroup A. *Infect Genet Evol.* 43:398-406, 2016.
 2. Koide T, Saraya T, Tsukahara Y, Bonella F, Borner E, Ishida M, Ogawa Y, Hirukawa I, Oda M, Shimoda M, Ohkuma K, Fujiwara M, Takata S, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Takizawa H: Clinical significance of the "galaxy sign" in patients with pulmonary sarcoidosis in a Japanese single-center cohort. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis.* 33(3):247-252, 2016.
 3. Saraya T, Tsujimoto N, Yamada Y, Nunokawa H, Ohkuma K, Yonetani S¹, Makino H¹, Araki K¹, Tsukahara Y², Fujiwara M³, Ishii H, Takizawa H (1Department of Laboratory Medicine, 2Department of Radiology, 3Department of Pathology): Hidden Disease with Pulmonary Alveolar Hemorrhage. *J Gen Fam Med.* 17:77-82, 2016.
 4. Saraya T, Tsujimoto N, Tamon H, Nunokawa H, Ohkuma

- K, Tsukahara Y¹, Fujiwara M², Ishii H, Takizawa H (1^{Department of Radiology, 2Department of Pathology}): Spontaneous regression of Epstein-Barr virus-negative diffuse large B-cell lymphoma that presented with multiple pulmonary nodules. *J Gen Fam Med.* 17:244-248, 2016.
5. Saraya T, Mikura S, Oda M, Takizawa H: Acute eosinophilic pneumonia masquerading as multiple pulmonary embolisms. *BMJ Case Rep.* 2016. (in press)
 6. Saraya T, Light RW, Sakuma S, Nakamoto Y, Wada S, Ishida M, Inui T, Koide T, Ishii H, Takizawa H: A new diagnostic approach for bilious pleural effusion. *Respir Investig.* 54(5):364-8, 2016.
 7. Saraya T, Yokoyama T, Hirata A, Takizawa H: Broncholithiasis and Lithoptysis Associated with Diffuse Panbronchiolitis. *Intern Med.* 55(16):2315-2356, 2016.
 8. Ohkuma K, Saraya T, Hirata A, Takizawa H: Esophageal Malignancy with an Esophagorespiratory Fistula Masquerading as Pneumonia. *Intern Med.* 55(15):2119-2120, 2016.
 9. Neerukonda A¹, Saraya T, Tsujimoto N, Kosuke Ohkuma, Fujiwara M², Takizawa H (1^{SUNY Stony Brook Department of Internal Medicine, 2Department of Pathology}): Huge Protruded Metastatic Skull Tumor. *J Gen Fam Med.* 17:168-169, 2016.
 10. Kurai D, Sasaki Y, Saraya T, Ishii H, Tsukagoshi H, Kozawa K, Ryo A, Ishioka T, Kuroda M, Oishi K, Takizawa H, Kimura H: Pathogen profiles and molecular epidemiology of respiratory viruses in Japanese inpatients with community-acquired pneumonia. *Respir Investig.* 54(4):255-263, 2016.
 11. Mikura S, Saraya T, Takizawa H: Huge Mycotic Abdominal Aneurysm with Nerve Irritation. *Intern Med.* 55(12):1681-1682, 2016.
 12. Honda K, Wada H, Nakamura M, Nakamoto K, Inui T, Sada M, Koide T, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Takizawa H: IL-17A synergistically stimulates TNF- α -induced IL-8 production in human airway epithelial cells: A potential role in amplifying airway inflammation. *Exp Lung Res.* 42(4):205-216, 2016.
 13. Saraya T, Nunokawa H, Fujiwara M, Ohkuma K, Tsujimoto N, Tsukahara Y, Ishii H, Goto H, Takizawa H: Tracheobronchial Amyloidosis in a Patient with Sjogren's Syndrome. *Intern Med.* 55(8):981-4, 2016.
 14. Nakamoto K, Watanabe M, Sada M, Inui T, Nakamura M, Honda K, Wada H, Mikami Y, Matsuzaki H, Horie M, Noguchi S, Yamauchi Y, Koyama H, Kogane T, Kohyama T, Takizawa H: Serum Reactive Oxygen Metabolite Levels Predict Severe Exacerbations of Asthma. *PLoS One.* 11(10):e0164948, 2016.
 15. Neerukonda AR¹, Lan F¹, Gabig T¹, Takeshi Saraya (1^{SUNY Stony Brook University Hospital, USA}): Refractory Adult Primary Autoimmune Neutropenia that Responded to Alemtuzumab. *Internal Medicine.* 12:1667-1670, 2016.
 16. Imura Y¹, Yukawa N¹, Handa T², Nakashima R¹, Murakami K¹, Yoshifuji H¹, Ohmura K¹, Ishii H, Nakata K³, Mimori T¹(1^{Department of Rheumatology and Clinical Immunology, 2Graduate School of Medicine, 3Niigata University}): Two cases of autoimmune and secondary pulmonary alveolar proteinosis during immunosuppressive therapy in dermatomyositis with interstitial lung disease. *Mod Rheumatol.* 11:1-6, 2016.
 17. Nunomura S¹, Tanaka T¹, Nakayama T², Otani K¹, Ishii H, Tabata K¹, Kondoh Y³, Kataoka K³, Johkoh T⁴, Taniguchi H³, Fukuoka J⁵ (1^{Toyama University Hospital, 2Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, 3Tosei General Hospital, 4Kinki Central Hospital of Mutual Aid Association of Public School Teachers, 5Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences}): Pulmonary alveolar proteinosis-like change: A fairly common reaction associated with the severity of idiopathic pulmonary fibrosis. *Respir Investig.* 54(4):272-279, 2016.
 18. Saraya T, Minami T¹, Mikura S, Satoh T², Takizawa H (1^{The Warren Alpert Medical School of Brown University, 2Department of Cardiology}): Elevated Jugular Venous Pressure with Y-Dip on Inspection. *Pulm Res Respir Med Open J SE(1):S1-S2*, 2016.
 19. Tasaka S¹, Saraya T, Kuraishi H², Simbara H³, Oda K⁴, Takizawa H (1^{Hirosaki University Graduate School of Medicine, 2Nagano Red Cross Hospital, 3Engineering Operation, Media Business Division, JVC Kenwood Corporation, 4Engineering Operation, Automotive OEM Business Division, JVC Kenwood Corporation}): Consistency of Interpretation of Lung Sounds between Experienced Physicians and Automatic Analysis Using a Newly Developed Algorithm Based on the Acoustic. *Pulm Res Respir Med Open J SE(1):S8-S11*, 2016.
 20. Saraya T, Takata S, Fujiwara M¹, Ishida M, Oda M, Ohkuma K, Watanabe T, Ogawa Y, Tsujimoto N, Tamura M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: The Role of Vital Signs in Predicting Cardiac Tamponade in Asymptomatic Patients with Malignancy: Associated Pericardial Effusion. *Pulm Res Respir Med Open J. SE(1): S3-S7*, 2016.
 21. Saraya T, Minami T¹, Mikura S, Satoh T², Takizawa H (1^{The Warren Alpert Medical School of Brown University, 2Department of Cardiology}): Cheyne-Stokes Respiration Revisited: Clinical Clue to the Diagnosis for Acute Exacerbation of Congestive Heart Failure. *Pulm Res Respir Med Open J SE(1):S12-S13*, 2016.
 22. Minami T¹, Minami A¹, Manzoor K¹, Saraya T (1^{The Warren Alpert Medical School of Brown University}): Modern Technology in Respiratory Medicine: Lung Ultrasonography-Is it Time for the Stethoscope to Give Up its Throne? *Pulm Res Respir Med Open J 3(3):55-56*, 2016.
 23. Mikura S, Saraya T, Minami T¹, Satoh T², Oda K³, Shinbara H⁴, Tasaka S⁵, Kuraishi H⁶, Takizawa H (1^{The Warren Alpert Medical School of Brown University, 2Department of Cardiology, 3Engineering Operation, Automotive OEM Business Division, JVC Kenwood Corporation, 4Engineering Operation, Media Business Division, JVC Kenwood Corporation, 5Hirosaki University School of Medicine, 6Nagano Red Cross Hospital}): Diaphragm Ultrasonography as a Tool to Assess Paradoxical Breathing in a Patient With Asthma Attack. *Pulm Res Respir Med Open J SE(1): S20-S21*, 2016.
 24. Saraya T, Mikura S, Minami T¹, Satoh T², Ishii H, Takizawa H (1^{The Warren Alpert Medical School of Brown University, 2Department of Cardiology}): Utility of a Sticky Note "Post-it" and a Cotton

- Swab as a Tool to Aid Cardiac Examination. *Pulm Res Respir Med Open J SE*(1):S17-S19, 2016.
25. Mikura S, Saraya T, Satoh T¹, Nunokawa H, Minami T², Takizawa H (1Department of Cardiology, 2The Warren Alpert Medical School of Brown University): Diaphragm Ultrasonography as a Tool To Assess the Respiratory Issues of a Patient With Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS). *Pulm Res Respir Med Open J SE*(1):S14-S16, 2016.
 26. Mikura S, Saraya T, Satoh T¹, Nunokawa H, Minami T², Takizawa H (1Department of Cardiology, 2The Warren Alpert Medical School of Brown University): Diaphragmatic Dysfunction without Paradoxical Breathing: A Case of Nemaline Myopathy. *Pulm Res Respir Med Open J SE*(1):S22-S24, 2016.
 27. Mikura S, Saraya T, Minami T¹, Satoh T², Takizawa H(1The Warren Alpert Medical School of Brown University, 2Department of Cardiology): A Diagnostic Tool Yet Simple and Strong: Inspection of the Jugular Veins. *Pulm Res Respir Med Open J SE*(1):S25-S26, 2016.
 28. Mikura S, Saraya T, Minami T¹, Satoh T², Takizawa H (1The Warren Alpert Medical School of Brown University, 2Department of Cardiology): Diaphragm Ultrasonography as an Important Aid to Diagnose Spinal Cord Injury. *Pulm Res Respir Med Open J SE*(1):S27-S30, 2016.
 29. Nishizawa T, Saraya T, Kurai D, Sohara E, Tsukahara Y¹, Ishii H, Goto H, Takizawa H(1Department of Radiology): Good Syndrome Occurred in a Patient a Prolonged Time after Thymectomy: A Case Report and Literature Review of Cases in Japan. *J Gen Fam Med* 17:238-243, 2016.
 30. Saraya T, Tsujimoto N, Tamon H, Nunokawa H, Ohkuma K, Tsukahara Y¹, Fujiwara M², Ishii H, Takizawa H (1Department of Radiology, 2Department of Pathology): Spontaneous Regression of Epstein-Barr Virus-negative Diffuse Large B-cell Lymphoma that Presented with Multiple Pulmonary Nodules. *J Gen Fam Med* 17:244-248, 2016.
 31. Saraya T, Ishida M, Wada S, Fujiwara M¹, Takizawa H(1Department of Pathology): Rapid Diagnosis of Hemosiderin-Laden Macrophages with Diff-Quick Stain. *Pulm Res Respir Med Open J.* 2(4):128, 2016.
 32. Hirata A, Saraya T, Arai N¹, Karita S¹, Kawachi R¹, Takei H¹, Ohkuma K, Ishida M, Fujiwara M², Takizawa H(1Department of General Thoracic Surgery, 2Department of Pathology): Giant bulla formation in the lung because of a check-valve mechanism. *Respir Investig.* 55(1):63-68, 2017.
 33. Saraya T, Watanabe T, Tsukahara Y¹, Ohkuma K, Ishii H, Kimura H², Yan K³, Goto H, Takizawa H(1Department of Radiology, 2National Institute of Infectious Diseases, 3Department of Pediatrics): Comparisons of Clinical and Radiological Findings between Child and Adult Patients with Mycoplasma pneumoniae Pneumonia: Scoring System Values on Chest X-Ray. *Intern Med.* 2017. (in press).
 34. Saraya T: Mycoplasma pneumoniae pneumonia: Basics. *J Gen Fam Med.* 2017. (in press).
 35. 乾俊哉, 中本啓太郎, 佐田充, 辻晋吾, 中村益夫, 本多紘二郎, 渡辺雅人, 小川ゆかり, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 松崎博崇¹, 野口智史¹, 三上優¹, 堀江真史¹, 金俊行², 小山ひかり², 和田裕雄, 山内康宏¹, 幸山正², 滝澤始 (1東大, 2帝京大): 気管支喘息, COPDにおけるバイオマーカーと大気汚染物質 GSTP1遺伝子多型の影響. *日本職業・環境アレルギー学会誌* 23(2):33-39, 2016.
 36. 和田翔子, 皿谷健, 辻本直貴, 蘇原慧伶, 中元康雄, 渡邊崇靖, 平田彩, 辻晋吾, 西沢知剛, 武井秀史¹, 藤原正親², 矢澤卓也², 滝澤始, 後藤元 (1杏林大・医・外科(呼吸器・甲状腺), 2杏林大・医・病理学): 胸部CTにおいて特発性間質性肺炎 (fibrotic nonspecific interstitial pneumonia)との鑑別を要し胸腔鏡下肺生検で診断し得たトリコスボロン抗原吸入による慢性過敏性肺炎の1例. *日本胸部臨床* 75(5):551-556, 2016.
 37. 滝澤始: アレルギー疾患の検査法概論 機能的診断法. *日本医師会雑誌* 145(特別1):S101-S102, 2016.
 38. 滝澤始: アレルギー疾患におけるトータルケアの重要性. *日本内科学会雑誌* 105(10):1925-1927, 2016.
 39. 石井晴之: 骨髄異形成症候群と肺胞マクロファージ続発性肺胞蛋白症を中心に. *日本肺サーファクタント・界面医学会雑誌* 47:17-19, 2016.
 40. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症 最新の知見と今後の課題. *日本胸部臨床* 75(11):1126-1235, 2016.
 41. 乾俊哉, 中本啓太郎, 佐田充, 肥留川一郎, 渡辺雅人, 滝澤始: 喘息とCOPDの併存例 (ACOS)の診断と治療. *呼吸器内科* 29(6):510-516, 2016.
 42. 皿谷健, 下田真史, 小川ゆかり, 田中康隆, 小嶋幸一郎, 竹内弘久, 滝澤始: 一目瞭然!目で診る症例. *日本内科学会雑誌* 105(12):2463-2465, 2016.
 43. 田村仁樹, 滝澤始: COPDの併存症とその対策. *呼吸器内科* 30(6):537-542, 2016.
 44. 皿谷健: 胸部単純X線. *内科* 117(4):536-540, 2016.
 45. 皿谷健: 長引く咳への治療アプローチ マイコプラズマ肺炎. *感染と抗菌薬* 19(2):120-126, 2016.
 46. 皿谷健: マイコプラズマ肺炎. *月刊レジデント* 9(8):15-21, 2016.
 47. 皿谷健: 一目瞭然!目で診る症例. *日本内科学会雑誌* 105(6):1069-1071, 2016.
 48. 皿谷健, 下田真史, 小川ゆかり, 田中康隆, 小嶋幸一郎, 竹内弘久, 滝澤始: 一目瞭然!目で診る症例. *日本内科学会雑誌* 105(12):2463-2465, 2016.
 49. 皿谷健: 呼吸器感染症 マイコプラズマ肺炎. *Medicina* 53(7):950-954, 2016.
 50. 皿谷健: 風邪と呼吸器疾患 (1)下痢・微熱・嘔気・咽頭痛がある時, (2)咳や喀痰が出る時. *総合診療* 26(3):215-219, 2016.
 51. 皿谷健: 特殊な肺炎への対応 その他のウイルス性肺炎の重要性. *Medicina* 54(1):114-117, 2017.
 52. 山田敦子, 倉井大輔, 滝澤始: 気管支喘息治療薬・COPD治療薬. *医薬ジャーナル* 53(増刊):446-452, 2017.
 53. 滝澤始: PM2.5と酸化ストレス. *別冊Bio Clinica 慢性炎症と疾患* 6(1):47-51, 2017.
- 著書**
1. 渡辺雅人, 滝澤始: 大気汚染物質とアレルギー・喘息概論. *日本臨床 免疫症候群 (第2版) II*. 大阪, 日本臨床社, 2016. p.551-557.
 2. 滝澤始: 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患を診療する好酸球性肺炎. *膠原病・リウマチ・アレルギー研修ノート*. 上阪等, 渥美達也, 亀田秀人, 中島裕史, 藤本学, 山口正雄編. 東京, 診断と治療社, 2016. p.473-475.
 3. 滝澤始: 気胸, 縦隔気腫/肺高血圧, 右心不全. 特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き 改訂第3版. *日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会編*. 東京, 南江堂, 2016, p.124.

- 滝澤始：「気管支拡張症」と診断されました。今日の健康11月号。東京，NHK出版，2016。p.117.
- 滝澤始：びまん性汎細気管支炎 呼吸器。今日の治療指針。福井次矢，高木誠，小室一成総編。東京，医学書院，2017。p.298-299.
- 皿谷健：聴診スキル講座。喜舎場朝雄，工藤翔二，滝澤始監修。Web。看護roo!。2016。https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2424.

報告書

- 皿谷健，石井晴之，倉井大輔，長澤耕男，木村博一，滝澤始：間質性肺炎の急性増悪とウイルス感染に関する Prospective study. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 2017年度 研究報告書。p.181-186.
- 石井晴之：続発性肺胞蛋白症の疫学調査に関する研究。平成28年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 難治性疾患実用化研究事業。「肺胞蛋白症，遺伝性間質性肺疾患に関する研究：重症難治化要因とその克服」総合研究報告書。p.55-56.

その他

- 滝澤始：「杏林シンポジウム」シリーズ「COPD・喘息の最新情報」ACOSの治療と予後，ラジオNIKKEI，2016年11月14日。
- 皿谷健：第55回米国胸部学会日本部会賞 (ACCP award) 受賞，2016年10月29日。
- 皿谷健：聴診器発明から200年，化学療法の領域，巻頭言，2016年11月号 (Vol.32 No.11) p.19.
- 皿谷健：臨床医ならCASE REPORTを書きなさい 第11回 Case Reportマイスターから学ぶ (前編) あらためて，Case Reportの意義。週刊医学界新聞 第3211号 2017年2月13日。
- 皿谷健：臨床医ならCASE REPORTを書きなさい 第12回 (最終回) Case Reportマイスターから学ぶ (後編) 指導医もいろいろ考えてる！。週刊医学界新聞 第3215号 2017年3月13日。

第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)

講演

- 福岡利仁：当院における保存期治療の実際～導入後の管理も含めて～。中外TVフォーラム，東京，2016年4月1日。
- 有村義宏：ANCA関連間質性肺炎「症例への意見」と「手引き」作成に向けての意見。第56回日本呼吸器学会学術講演会，京都，2016年4月9日。
- 有村義宏：ANCA関連血管炎と耳鼻咽喉科，東京都耳鼻咽喉科学会学術講演会，東京，2016年4月16日。
- 福岡利仁：透析の基本。CKD連携フォーラム，東京，2016年4月16日。
- 要伸也：腎臓病療養指導士について。第18回国際腎と栄養代謝学会 CKD食事療法セミナー，宜野湾，2016年4月19-23日。
- 有村義宏：難治性ANCA関連血管炎の治療。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 内田裕子，福岡利仁，軽部美穂，清水英樹，佐藤綾，稲永亮平，上野愛，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：当院におけるANCA陽性悪性腫瘍の臨床的検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 稲永亮平，清水英樹，上野愛，松田朝子，久木元光，佐藤由利子，七条祥恵，宮本彩子，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：巨細胞性動脈炎とリウマチ性多発筋痛症合併例の臨床的検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016

年4月21-23日。

- 片岡郁穂，駒形嘉紀，遠藤彰子，内田裕子，軽部美穂，要伸也，有村義宏：非定型家族性地中海熱の2症例の検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 小澤祐子，軽部美穂，池谷紀子，川嶋聡子，清水英樹，窪田沙也花，國沢恭平，宮本彩子，前園知宏，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：当院におけるANCA関連血管炎に対するリツキシマブ治療効果の検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 増古紳太郎，川嶋聡子，窪田沙也花，福岡利仁，軽部美穂，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：強皮症腎クリーゼを呈した皮膚硬化を欠く限局型強皮症 (systemic sclerosis sine scleroderma) の検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 川嶋聡子，福岡利仁，軽部美穂，吉原堅，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：当院における過去30年間の高齢発症ANCA関連血管炎の検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 上野愛，清水英樹，稲永亮平，小林昌史，久木元光，佐藤由利子，七条祥恵，宮本彩子，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：中年以後発症高安静脈炎 (TAK) の臨床像の検討。第60回日本リウマチ学会総会，横浜，2016年4月21-23日。
- 要伸也，小澤祐子：CKDとは・検査値が読める話。第11回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム，三鷹，2016年5月14日。
- 佐藤由利子：糖尿病？肥満？生活習慣病と腎臓の話。第11回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム，三鷹，2016年5月14日。
- 福岡利仁：腎と高血圧。第11回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム，三鷹，2016年5月14日。
- 軽部美穂：いま聞きたい関節リウマチ治療。RA Nurse Challenge Seminar，東京，2016年5月21日。
- 要伸也：aHUSおよびその周辺疾患の診断と治療。第6回徳島腎臓病を考える会，徳島，2016年5月31日。
- 要伸也：腎臓病の機能と腎臓病の診断法。腎臓病病態栄養セミナー，大阪，2016年6月4-5日。
- 有村義宏：「血管炎の新分類と皮膚血管炎の位置づけ」内科医の視点からみたCHCC2012新分類。第115回日本皮膚科学会総会，京都，2016年6月5日。
- 池谷紀子，宮本彩子，小澤祐子，前園知宏，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：難治性多発血管炎性肉芽腫症 (Granulomatosis with polyangiitis; GPA) にリツキシマブが奏効した維持透析の1例。第61回日本透析医学会，大阪，2016年6月9-12日。
- 上野愛，軽部美穂，清水英樹，稲永亮平，内田裕子，塚田弘之，佐藤綾，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：リツキシマブ導入で免疫学的活動性が抑えられたループス腎炎透析患者の一例。第61回日本透析医学会，大阪，2016年6月9-12日。
- 七条祥恵，清水英樹，稲永亮平，内田裕子，塚田弘之，軽部美穂，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：血液透析導入時に心外膜炎を発症した一例。第61回日本透析医学会，大阪，2016年6月9-12日。
- 福岡利仁，要伸也，山田明，有村義宏：藻類バイオマスを用いた腹膜透析排液の有効利用に関する研究。第61回日本透析医学会，大阪，2016年6月9-12日。
- 内田裕子，清水英樹，軽部美穂，小寺永章，田中健太郎，稲永亮平，上野愛，久木元光，塚田弘之，佐藤綾，福岡利仁，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏：担癌患者に対し透析導入した二例。第61回日本透析医学会，大阪，2016年6月9-12日。
- 小澤祐子，池谷紀子，宮本彩子，上野愛，前園知宏，駒

- 形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 長期維持透析患者に発症したG群溶連菌による多発膿瘍の一例. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016年6月9-12日.
27. 久木元光, 清水英樹, 軽部美穂, 蜂須浩嗣, 中野由加里, 田中伸一郎, 窪田沙也花, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 透析導入期に精神科介入を要した摂食障害のある血液透析患者の一例. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016年6月9-12日.
 28. 浜井章, 片山満代, 渡邊恭子, 曹由美, 千々和京介, 山田佐紀子, 西川あや子, 山田裕信, 軽部美穂, 要伸也: 当透析センターのインシデント・アクシデントレポートの現状と課題. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016年6月9-12日.
 29. 渡邊恭子, 妹尾多位子, 田坂華世, 浜井章, 山田佐紀子, 西川あや子, 軽部美穂, 要伸也: 訪問看護師が必要としている自宅腹膜透析に関する情報. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016年6月9-12日.
 30. 宮本彩子, 池谷紀子, 上野愛, 小澤祐子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: たこつぼ型心筋症を契機に診断された大動脈解離合併透析患者に一例. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016年6月9-12日.
 31. 稲永亮平, 軽部美穂, 清水英樹, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 腹膜透析患者におけるクエン酸第二鉄の使用効果. 第61回日本透析医学会, 大阪, 2016年6月9-12日.
 32. 駒形嘉紀: 関節リウマチにおけるT細胞の役割. 腸管炎症免疫セミナー, 秋田, 2016年6月16日.
 33. 有村義宏: 全身性血管炎に関する難治性血管炎調査研究班の研究成果と課題. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 34. 有村義宏: ANCA関連血管炎の治療～わが国の現状と国際試験～. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 35. 川嶋聡子, 増古紳太郎, 國沢恭平, 窪田沙也花, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 当院におけるRPGN有無と高齢発症ANCA関連血管炎の臨床像の検討. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 36. 増古紳太郎, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 当院における膠原病に合併した急性腎障害症例の臨床的検討. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 37. 齋藤督芸, 要伸也, 清水英樹, 佐野香津子, 駒形嘉紀, 有村義宏: 虚血再灌流後AKIモデルにおけるアパタセプトの抑制効果. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 38. 清水英樹, 内田裕子, 稲永亮平, 七条祥恵, 窪田沙也花, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: サルコイドーシスにおける腎病変の臨床的検討. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 39. 軽部美穂, 要伸也, 清水英樹, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏: ループス腎炎維持療法におけるミコフェノール酸モフェチルの有効性とステロイド減量効果. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 40. 福岡利仁, 軽部美穂, 清水英樹, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 保存期腎不全におけるクエン酸第二鉄水和物の効果についての臨床的検討. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17-19日.
 41. 福岡利仁: Short Lecture RAにおける生物学的製剤の使い方と現状. 第19回臨床力アップのための腎臓内科セミナー (NEIL), 東京, 2016年6月25日.
 42. 増古紳太郎, 川嶋聡子, 佐藤由利子, 片岡郁穂, 遠藤彰子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 経過中に難治性中枢神経障害をきたした顕微鏡的多発血管炎 (MPA) の1剖検例. 第57回関東リウマチ研究会, 東京, 2016年6月25日.
 43. 佐藤由利子, 川嶋聡子, 内田裕子, 國沢恭平, 増古紳太郎, 片岡郁穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 栗山廉二郎: リツキシマブ療法により維持血液透析を離脱し得た顕微鏡的多発血管炎の1例. 三多摩腎疾患治療医会第71回研究会, 三鷹, 2016年6月26日.
 44. 駒形嘉紀, 遠藤彰子, 村上華奈子, 山岸好実, 要伸也, 有村義宏: AAV患者好中球NETs放出能の病勢マーカーとしての有用性. 平成28年度厚生労働省難治性血管炎調査研究班第1回班会議, 東京, 2016年7月1日.
 45. 要伸也: 尿検査からわかること～腎臓病の診断と治療に生かす“わざ”～. USC研究会2016 (東洋紡臨床検査技師向け講演会), 東京, 2016年7月9日.
 46. 駒形嘉紀: 選定療養費の義務化とその病診連携に及ぼす影響. 第6回多摩RA病診連携の会, 三鷹, 2016年7月9日.
 47. 要伸也: CKD患者の紹介基準. 北多摩CKD病診連携講演会, 東京, 2016年7月14日.
 48. 福岡利仁: CKDとは. CKD連携フォーラム, 東京, 2016年7月16日.
 49. 福岡利仁: 高齢RA患者における生物学的製剤の治療戦略. リウマチ・マネージメントセミナー, 東京, 2016年7月16日.
 50. 宮澤さやか, 軽部美穂, 國沢恭平, 佐藤綾, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 悪性リンパ腫再発に対して臍帯血移植を行い, 2年後にTMA病変を発症した一例. 第17回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 東京, 2016年7月23日.
 51. 軽部美穂: 関節リウマチ治療における留意点. 武蔵野市薬剤師会学術講演会, 東京, 2016年7月28日.
 52. 要伸也: 保存期CKD患者の栄養管理と療養指導. 第3回宮城CKD栄養研究会, 宮城, 2016年8月06日.
 53. 軽部美穂: 関節リウマチ (RA) の合併症・関節外症状について. 第7回リウマチ膠原病教室, 三鷹, 2016年8月6日.
 54. 福岡利仁: 血圧・血糖・脂質と生活習慣病. 七生特別支援学校産業医講習会, 東京, 2016年8月25日.
 55. 要伸也: リウマチ, 膠原病って何?. 杏林大学三鷹公開講演会, 三鷹, 2016年9月17日.
 56. Fukuoka K, Maesono T, Miyamoto A, Ikegaya N, Karube M, Komagat Y, Kaname S, Arimura Y: A case of systemic lupus erythematosus complicated with thrombotic microangiopathy. 15th Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN) and 52nd Australian and New Zealand Society of Nephrology Annual Scientific Meeting, Australia, September 18th, 2016.
 57. Karube M, Kaname S, Fukuoka K, Shimizu H, Komagat Y, Arimura Y: Involvement of von Willebrand factor in secondary TTP of SLE. 52nd Australian and New Zealand Society of Nephrology Annual Scientific Meeting, Australia, September 17th-20th, 2016.
 58. 福岡利仁, 富安朋宏, 清水英樹, 中林巖, 多川斉, 村上円人, 要伸也, 有村義宏: 多摩地区のCKD-MBDの現状. 日本腹膜透析学会, 札幌, 2016年9月25日.
 59. 稲永亮平, 軽部美穂, 窪田沙也花, 佐藤綾, 片岡郁穂, 兵頭智夏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: ボルテゾミブ・デキサメサゾン療法にて腎機能の改善が得られた軽鎖沈着症の1例. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7-8日.
 60. 久木元光, 清水英樹, 片岡郁穂, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 櫻井裕之, 要伸也, 有村義宏: 家族性的高尿酸血症と先天性股関節形成不全を合併したまれな間質性腎炎の一例. 第46回日本腎臓学会東部学術

- 大会, 東京, 2016年10月7-8日.
61. 佐藤由利子, 川嶋聡子, 内田裕子, 國沢恭平, 増古紳太郎, 片岡郁穂, 駒形嘉紀, 栗山廉二郎, 要伸也, 有村義宏: リツキシマブ療法により維持血液透析を離脱し得た顕微鏡的多発血管炎の1例. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7-8日.
 62. 石出崇, 齋藤督芸, 清水英樹, 小林昌史, 下山田博明, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: メサンギウム領域にIgA沈着を伴うANCA陽性RPGNの一例. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7-8日.
 63. 塚田弘之, 清水英樹, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 南学正臣, 要伸也, 有村義宏: 両側性腎腫大と急性腎障害を呈した腎限局性サルコイドーシスの一例. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7-8日.
 64. 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: もう一度やり直す血管炎. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7-8日.
 65. 軽部美穂: SLEの特殊病態とその治療. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7日.
 66. 有村義宏: 全身性血管炎による腎血管炎-ANCA関連血管炎を中心に-. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月8日.
 67. 高橋孝幸, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 免疫抑制剤が奏功したCTD-PAGの2例. 第五回膠原病とPHを考える会, 武蔵野, 2016年10月13日.
 68. 福岡利仁: CKDとは. CKD連携フォーラム, 東京, 2016年10月15日.
 69. 久木元光, 清水英樹, 下山田博明, 稲永亮平, 内田裕子, 片山郁穂, 塚田弘之, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 下山田博明: 病理組織学的に早期診断が困難であった乳房腫瘍で発症したMPO-ANCA陽性AAVの一例. 第21回日本血管病理研究会, 三鷹, 2016年10月22日.
 70. 軽部美穂, 佐藤綾, 國沢恭平, 宮澤さやか, 早川哲, 要伸也, 有村義宏: 四肢のしびれで整形外科を受診し, 高カリウム血症にて当科紹介となった一例. 第48回臨床体液研究会, 東京, 2016年10月29日.
 71. 福岡利仁: 水・電解質・酸塩基平衡とCKD. 2016年集中ケア認定看護師セミナー, 東京, 2016年11月4日.
 72. 有村義宏: 皮膚科領域でみる血管炎の内科サイドからのアプローチ(診断と治療). 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京, 2016年11月5日.
 73. 福岡利仁, 富安朋宏, 清水英樹, 吉田雅治, 安藤亮一, 角田隆俊, 西尾康英, 花岡一成, 村上円人, 要伸也: 東京多摩地区における腹膜炎の現状調査結果. 多摩PD研究会. 東京, 2016年11月6日.
 74. 宮本彩子, 池谷紀子, 李恵怜, 小澤祐子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 不全型ベーチェット病と高安病の鑑別を要した大型血管炎の1例. 第45回杏林医学会総会, 東京, 2016年11月19日.
 75. 福岡利仁: 保存期から透析導入期におけるCERAの使用経験. 第19回多摩腎不全フォーラム, 東京, 2016年11月19日.
 76. 要伸也: aHUSの治療総論. 第37回日本アフェレンス学会学術大会, 横浜, 2016年11月25-27日.
 77. 中島瑛里子, 軽部美穂, 河野郁枝, 中島昌典, 千葉厚郎, 要伸也, 有村義宏: 血漿交換療法が抗MAG抗体関連ニューロパチーの進行抑制効果を認めた1例. 第37回日本アフェレンス学会学術大会, 横浜, 2016年11月25-27日.
 78. Arimura Y: Paradigm Shift in the Management of ANCA-Associated Vasculitis (AAV). 2016 Annual Meeting of Taiwan Society of Nephrology, Taiwan, 2016年11月26日.
 79. 要伸也: 保存期CKD対策について~腎臓病療養指導士(仮称)も含めたチーム医療と病診連携~. 高知県CKD医療連携研修会, 高知, 2016年12月1日.
 80. 下田佐知子, 池谷紀子, 竹森愛, 宮本彩子, 小澤祐子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 吉原堅: 心嚢ドレナージ術を必要とした, 悪性関節リウマチによる心膜炎の1例. 第27回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 東京, 2016年12月3日.
 81. 小澤祐子, 池谷紀子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 心膜炎を呈した抗EJ抗体陽性皮膚筋炎の1例. 第27回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 東京, 2016年12月3日.
 82. 駒形嘉紀, 遠藤彰子, 村上華奈子, 山岸好実, 要伸也, 有村義宏: AAV患者好中球NETs放出能の病勢マーカーとしての有用性. 平成28年度厚生労働省難治性血管炎調査研究班第2回班会議, 東京, 2016年12月9日.
 83. 駒形嘉紀: 多摩エリア病診連携の現状と今後. 第7回多摩RA病診連携の会, 三鷹, 2016年12月17日.
 84. 軽部美穂: RA患者の治療について(医療連携も含めて). 第7回多摩RA病診連携の会, 三鷹, 2016年12月17日.
 85. 石出崇, 福岡利仁: ぶどう膜炎・2型糖尿病に合併した若年女性の発熱. 第4回膠原病を熱く語る会, 東京, 2017年1月17日.
 86. 小澤祐子, 福岡利仁, 池谷紀子, 宮本彩子, 竹森愛, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 胃腸障害ののちシャント閉塞で入院となった長期透析の一例. 第20回臨床力アップのための腎臓内科セミナー, 東京, 2017年1月28日.
 87. 軽部美穂: SLEの特殊病態と最新治療について(ループス腎炎を中心に). 第40回東京腎と薬剤研究会, 東京, 2017年2月16日.
 88. 高橋孝幸, 駒形嘉紀, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 当院における膠原病性肺高血圧症15例の検討. 第4回多摩膠原病カンファレンス, 東京, 2017年2月18日.
 89. 要伸也: CKDにおける利尿薬の使い方. 多摩高血圧セミナー2017, 東京, 2017年2月21日.
 90. 要伸也: より良い透析生活を送るために. 平成28年度心施会“透析を考える会”, 八王子, 2017年2月26日.
 91. 要伸也: エビデンスから考えるCKD-MBD Update. 第3回透析患者の糖尿病治療を考える会, 東京, 2017年3月2日.
 92. 要伸也: 腎臓病療養指導士について. 厚生労働省主催慢性腎臓病(CKD)シンポジウム, 東京, 2017年3月9日.
 93. 要伸也: 腎臓病療養指導士について. 世界腎臓デーに合わせたCKD啓発イベント「実践的なCKD対策: 学際的連携と協働」講演会, 東京, 2017年3月12日.
 94. 要伸也: 急速進行性腎炎およびANCA関連腎炎に関する最近の知見. 第61回群馬腎疾患研究会, 前橋, 2017年3月16日.
 95. Arimura Y: Diversity and Integration for Tomorrow. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
 96. Karube M, Matsuda T, Kosho M, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: Two cases of myelodysplastic syndrome with MPO-defective neutrophils in the remission stage of MPO-ANCA-positive microscopic polyangiitis. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
 97. Komagata Y, Arimura Y: COMPARISON OF CLINICAL FEATURES BETWEEN MPO-ANCA- AND PR3-ANCA-POSITIVE AAV IN JAPANESE PATIENTS. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.

98. Takemori A, Shimizu H, Inanaga R, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: CLINICAL CHARACTERISTICS OF ELDERLY-ONSET TAKAYASU'S ARTERITIS. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
99. Inanaga R, Shimizu H, Takemori A, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: CLINICAL CHARACTERISTICS OF 21 CASES OF GIANT CELL ARTERITIS IN OUR HOSPITAL. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
100. Kukimoto H, Shimizu H, Shimoyamada H, Inanaga R, Uchida H, Kataoka I, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: A RARE CASE OF MPO-ANCA-ASSOCIATED VASCULITIS WITH BREAST GRANULOMA AT THE ONSET. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
101. Uchida H, Fukuoka K, Inanaga R, Takemori A, Sato A, Shimizu H, Karube M, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: A CASE OF MPO-ANCA-ASSOCIATED VASCULITIS WITH MALIGNANT LYMPHOMA. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
102. Ishide T, Saito M, Shimizu H, Kunitomo R, Kobayashi M, Karube M, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: FIVE CASES OF ANTI-NEUTROPHIL CYTOPLASMIC ANTIBODY (ANCA)-ASSOCIATED VASCULITIS WITH MESANGIAL IGA DEPOSITS IN OUR HOSPITAL. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
103. Miyamoto A, Ikegaya N, Lee H, Ozawa Y, Hukuoka K, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: NFLIXIMAB THERAPY FOR BEHCET'S DISEASE COMPLICATED WITH LARGE VESSEL VASCULITIS. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
104. Endo A, Komagata Y, Murakami K, Saito M, Shimizu H, Kawashima S, Ikegaya N, Fukuoka K, Karube M, Kaname S, Arimura Y: NEUTROPHIL EXTRACELLULAR TRAPS FROM NEUTROPHILS CULTURED WITH GLOMERULARENDOTHELIAL CELLS CAUSE ENDOTHELIAL CELL DAMAGE. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
105. Kawashima S, Sano K, Hyodo C, Shimoda S, Sato Y, Fukuoka K, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: THE ROLE OF MPO, CD20 AND PLASMA CELLS IN THE PATHOGENESIS OF HUMAN MPO-ANCA-ASSOCIATED GLOMERULONEPHRITIS. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
106. Ito-Ihara T, Furuta S, Komagata Y, Muso E, Endo T, Uchida S, Kono H, Hamano Y, Tsukamoto T, Endo S, Yamagata K, Michael Walsh, Peter Merkel, David Jayne, Suzuki K, Arimura Y, Makino H, Fujimoto S: TWO INTERNATIONAL MULTIREGIONAL INVESTIGATOR INITIATED CLINICAL TRIALS ON VASCULITIS: COLLABORATION WITH EUVAS, VCRC AND NATIONWIDE VASCULITIS STUDY GROUPS OF JAPAN. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
107. Kono H, Uchida S, Muso E, Endo T, Kakita H, Hamano Y, Tsukamoto T, Endo S, Yamagata K, Usui J, Walsh M, Merkel P, Jayne D, Sada K, Makino H, Komagata Y, Arimura Y, Suzuki K, Ito-Ihara T, Fujimoto S: DEMOGRAPHIC CHARACTERISTICS OF JAPANESE PARTICIPANTS IN PEXIVAS AS COMPARED WITH REMIT-JAV. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.
108. Sato Y, Kawashima S, Uchida Y, Kunisawa K, Masuko S, Kataoka I, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: RITUXIMAB FOR ANCA-ASSOCIATED VASCULITIS WITH SEVERE RENAL INVOLVEMENT: A SINGLE CENTER EXPERIENCE. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017.

論文

- 河野郁枝, 清水英樹, 要伸也, 軽部美穂, 高昌京, 齋藤督芸, 中島瑛里子, 片岡郁穂, 前園知宏, 塚田弘之, 内田裕子, 片岡肇一, 駒形嘉紀, 有村義宏: 透析導入後に関節リウマチを発症シアバタセプトが有効であった維持透析患者の1例. 透析会誌 49(9):593-597, 2016.
- 稲永亮平, 要伸也: Bartter症候群・Gitelman症候群. 腎臓内科・泌尿器科 4(5):465-470, 2016.
- 要伸也: 糸球体疾患の分子標的治療. 日本腎臓学会誌 58(4):556-561, 2016.
- 要伸也: RPGNの治療. 腎と透析 80(増刊):261-265, 2016.
- 小澤祐子, 國沢恭平, 要伸也: ANCA関連血管炎. 腎と透析 81(3):364-370, 2016.
- 川嶋聡子, 要伸也: 血管炎症候群における肺・腎病変. Medical Practice 33(6):899-904, 2016.
- 要伸也: 包括的CKD診療を目指した多職種協働による取り組み. Medi-CORE 7:3-5, 2016.
- 要伸也: CKDのバイオマーカー: 総論. 生体の科学 67(5):400-401, 2016.
- 軽部美穂, 要伸也: 免疫機能異常に由来する疾患(4)ルーブス腎炎. 臨床透析 32(4):47-54, 2016.
- 佐藤由里子, 福岡利仁, 増古紳太郎, 川嶋聡子, 要伸也, 有村義宏: 脳卒中後に著しい高リン, 高カリウム, 高窒素血症を呈した透析患者の一例. 臨床体液2016 43:32-37, 2016.
- 福岡利仁: 急速進行性腎炎. Medicina2017 54(2):264-271, 2017.
- 有村義宏, 川嶋聡子, 池谷紀子: AAV B細胞標的治療の効果は?(解説/特集). Mebio 33(10):52-61, 2016.
- 岩橋優花, 川崎綾, 平野史生, 岡笑美, 古川宏, 佐田憲映, 小林茂人, 山田秀裕, 山縣邦弘, 住田孝之, 宮坂信之, 當間重人, 尾崎承一, 松尾清一, 橋本博史, 榎野博史, 有村義宏, 針谷正祥, 土屋尚之: ANCA関連血管炎とTNFSF4多型の関連. 日本臨床免疫学会誌 39(4):407, 2016.
- 横山望, 川崎綾, 八谷有紀, 平野史生, 佐田憲映, 小林茂人, 山田秀裕, 古川宏, 山縣邦弘, 住田孝之, 宮坂信之, 當間重人, 尾崎承一, 松尾清一, 橋本博史, 榎野博史, 有村義宏, 針谷正祥, 土屋尚之: 日本人集団におけるANCA関連血管炎とHLA-G*3'非翻訳領域多型の関連. 日本臨床免疫学会誌 39(4):407, 2016.
- 有村義宏: 誘因の明らかな続発性血管炎 薬剤誘発性血管炎. Clinical Neuroscience 34(5):575-577, 2016.
- 河野郁枝, 清水英樹, 要伸也, 軽部美穂, 高昌京, 齋藤督芸, 中島瑛里子, 片岡郁穂, 前園知宏, 塚田弘之, 内田裕子, 片岡肇一, 駒形嘉紀, 有村義宏: 透析導入後に関節リウマチを発症シアバタセプトが有効であった維持透析患者の1例. 日本透析医学会雑誌 49(9):593-597, 2016.
- 清水英樹, 駒形嘉紀, 有村義宏: ANCA関連血管炎の病態. Geriatric Medicine 54(9):887-892, 2016.
- 稲永亮平, 軽部美穂, 窪田沙也花, 佐藤綾, 片岡郁穂, 兵動智夏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: ボルテゾミブ・デキサメサゾン療法にて腎機能の改善が得られた軽鎖沈

- 着症の1例. 日本腎臓学会誌 58(6) : 814, 2016.
19. 塚田弘之, 清水英樹, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 南学正臣, 要伸也, 有村義宏: 両側性腎腫大と急性腎障害を呈した腎限局性サルコイドーシスの一例. 日本腎臓学会誌 58(6) : 773, 2016.
 20. 久木元光, 清水英樹, 片郁穂, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 櫻井裕之, 要伸也, 有村義宏: 家族性的高尿酸血症と先天性股関節形成不全を合併したまれな間質性腎炎の一例. 日本腎臓学会誌 58(6) : 766, 2016.
 21. 佐藤由利子, 川嶋聡子, 内田裕子, 國沢恭平, 増古紳太郎, 片岡郁穂, 駒形嘉紀, 栗山廉二郎, 要伸也, 有村義宏: リツキシマブ療法により維持血液透析を離脱し得た顕微鏡的多発血管炎の1例. 日本腎臓学会誌 58(6) : 759, 2016.
 22. 石出崇, 齋藤督芸, 清水英樹, 小林昌史, 下山田博明, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: メサンギウム領域にIgA沈着を伴うANCA陽性RPGNの一例. 日本腎臓学会誌 58(6) : 759, 2016.
 23. 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: もう一度やり直す血管炎. 日本腎臓学会誌 58(6) : 751, 2016.
 24. 有村義宏: 全身性血管炎による腎血管炎 ANCA関連血管炎を中心に. 日本腎臓学会誌 58(6) : 745, 2016.
 25. 上野愛, 清水英樹, 稲永亮平, 小林昌史, 久木元光, 佐藤由利子, 七条祥恵, 宮本彩子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 中年以後発症高安静脈炎(TAK)の臨床像の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60: 663, 2016.
 26. 佐田憲映, 針谷正祥, 臼井丈一, 山縣邦弘, 本間栄, 土橋浩章, 石津明洋, 杉山齊, 岡田保典, 有村義宏, 榎野博史: 前向きコホート研究RemIT-JAV-RPGNにおける抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎の寛解に関する検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60: 532, 2016.
 27. 川嶋聡子, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉 堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 当院における過去30年間の高齢発症ANCA関連血管炎の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 531, 2016.
 28. 増古紳太郎, 川嶋聡子, 窪田沙也花, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 強皮症腎クリーゼを呈した皮膚硬化を欠く限局型強皮症(systemic sclerosis sine scleroderma)の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 528, 2016.
 29. 小澤祐子, 軽部美穂, 池谷紀子, 川嶋聡子, 清水英樹, 窪田沙也花, 國沢恭平, 宮本彩子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 血管炎 当院におけるANCA関連血管炎に対するリツキシマブ治療効果の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60: 382, 2016.
 30. 片岡郁穂, 駒形嘉紀, 遠藤彰子, 内田裕子, 軽部美穂, 要伸也, 有村義宏: 自己炎症症候群 非定型家族性地中海熱の2症例の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 359, 2016.
 31. 稲永亮平, 清水英樹, 上野愛, 松田朝子, 久木元光, 佐藤由利子, 七条祥恵, 宮本彩子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 血管炎 巨細胞性動脈炎とリウマチ性多発筋痛症合併例の臨床的検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 329, 2016.
 32. 内田裕子, 福岡利仁, 軽部美穂, 清水英樹, 佐藤綾, 稲永亮平, 上野愛, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 血管炎 当院におけるANCA陽性悪性腫瘍の臨床的検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 328, 2016.
 33. 長坂憲治, 佐田憲映, 駒形嘉紀, 堤野みち, 針谷正祥, 有村義宏: 血管炎症候群の診療ガイドライン リツキシマブによる新規治療. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 317, 2016.
 34. 針谷正祥, 本間栄, 丸山彰一, 有村義宏: 血管炎症候群の診療ガイドライン 抗好中球細胞質抗体関連血管炎の診療ガイドライン. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60 : 317, 2016.
 35. 有村義宏: 難治性ANCA関連血管炎の治療. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 60: 289, 2016.
 36. 磯村杏耶, 下山田博明, 近藤凡子, 小島薫子, 要伸也, 有村義宏, 菅間博: 特発性膜性腎症とループス腎炎の膜性病変の超解像顕微鏡を用いた比較解析. 日本病理学会誌 105(1) : 517, 2016.
 37. 中山真紀子, 慶野博, 渡辺交世, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏, 岡田アナベルあやめ: ベーチェットぶどう膜網膜炎におけるインフリキシマブ中止後の眼炎症活動性の評価. 日本眼科学会雑誌 120(臨増) : 225, 2016.
 38. 川嶋聡子, 有村義宏: 全身疾患に伴う腎疾患 血管炎に伴う腎障害—ANCA関連腎症. 腎と透析 80(増刊) : 361-365, 2016.
 39. 有村義宏: ANCA関連間質性肺炎. 日本呼吸器学会誌 5(増刊) : 54, 2016.
 40. 宮本彩子, 池谷紀子, 上野愛, 小澤祐子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: たこつぼ型心筋症を契機に診断された大動脈解離合併透析患者の一例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 875, 2016.
 41. 小澤祐子, 池谷紀子, 宮本彩子, 上野愛, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 長期維持透析患者に発症したG群溶連菌による多発膿瘍の一例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 811, 2016.
 42. 上野愛, 軽部美穂, 清水英樹, 稲永亮平, 内田裕子, 塚田弘之, 佐藤綾, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: リツキシマブ導入で免疫学的活動性が抑えられたループス腎炎透析患者の一例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 688, 2016.
 43. 池谷紀子, 宮本彩子, 小澤祐子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 難治性多発血管炎性肉芽腫症(Granulomatosis with polyangiitis; GPA)にリツキシマブが奏効した維持透析の1例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 686, 2016.
 44. 稲永亮平, 軽部美穂, 清水英樹, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 腹膜透析患者におけるクエン酸第二鉄の使用効果. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 603, 2016.
 45. 内田裕子, 清水英樹, 軽部美穂, 小寺永章, 田中健太郎, 稲永亮平, 上野愛, 久木元光, 塚田弘之, 佐藤綾, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 担癌患者に対し透析導入した二例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 581, 2016.
 46. 福岡利仁, 要伸也, 山田明, 有村義宏: 藻類バイオマスをを用いた腹膜透析排液の有効利用に関する研究. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 539, 2016.
 47. 久木元光, 清水英樹, 軽部美穂, 蜂須浩嗣, 中野由加里, 田中伸一郎, 窪田沙也花, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 透析導入期に精神科介入を要した摂食障害のある血液透析患者の一例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 526, 2016.
 48. 七条祥恵, 清水英樹, 稲永亮平, 内田裕子, 塚田弘之, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 血液透析導入時に心外膜炎を発症した一例. 日本透析医学会雑誌 49(Suppl.1) : 426, 2016.
 49. 稲永亮平, 清水英樹, 内田裕子, 片岡郁穂, 小林昌史, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: IgA腎症に急性の経過でネフローゼ症候群を発症した木村氏病の1例. 日本内科学会雑誌 105(5) : 881-885, 2016.

50. 増古紳太郎, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 当院における膠原病に合併した急性腎障害症例の臨床的検討. 日本腎臓学会誌 58(3): 379, 2016.
51. 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 保存期腎不全におけるクエン酸第二鉄水和物の効果についての臨床的検討. 日本腎臓学会誌 58(3): 332, 2016.
52. 清水英樹, 塚田弘之, 内田裕子, 稲永亮平, 七條祥恵, 窪田沙也花, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: サルコイドーシスにおける腎病変の臨床的検討. 日本腎臓学会誌 58(3): 326, 2016.
53. 川嶋聡子, 増古紳太郎, 國沢恭平, 窪田沙也花, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 当院におけるRPGN有無と高齢発症ANCA関連血管炎の臨床像の検討. 日本腎臓学会誌 58(3): 309, 2016.
54. 軽部美穂, 要伸也, 清水英樹, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏: ループス腎炎維持療法におけるミコフェノール酸モフェチルの有効性とステロイド減量効果. 日本腎臓学会誌 58(3): 308, 2016.
55. 齋藤督芸, 要伸也, 清水英樹, 佐野香津子, 駒形嘉紀, 有村義宏: 虚血再灌流後AKIモデルにおけるアパタセプトの抑制効果. 日本腎臓学会誌 58(3): 276, 2016.
56. 有村義宏: 全身性血管炎に関する難治性血管炎調査研究班の研究成果と課題. 日本腎臓学会誌 58(3): 251, 2016.
57. 有村義宏: 血管炎新分類(CHCC2012)と皮膚血管炎の位置づけ内科医の視線で. 日本皮膚科学会雑誌 126(5): 811, 2016.
58. 宮本彩子, 福岡利仁, 池谷紀子, 小澤祐子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 乳癌骨髄転移により成人Still病様症状を呈した1例. 日本内科学会関東地方会 622: 34, 2016.
59. 軽部美穂, 有村義宏: リウマチ性疾患の難治性病態の治療(第5回)治療抵抗性血管炎. 分子リウマチ治療 9(2): 93-98, 2016.
60. 塚田弘之, 有村義宏: 腎機能を悪化させない日常診療; 自己免疫疾患における腎機能のみかたと対策. 成人病と生活習慣病 46(3): 381-386, 2016.
61. 稲永亮平, 清水英樹, 内田裕子, 増古紳太郎, 片岡郁穂, 窪田沙也花, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 潰瘍性大腸炎に対するメサラジン治療中に発症した多発血管炎性肉芽腫症(GPA)の一例. 関東リウマチ 49: 245-252, 2016.
62. 武曾恵理, 有村義宏: 腎臓学この一年の進歩; 血管炎. 日本腎臓学会誌 58(1): 5-11, 2016.
63. 有村義宏: 急速進行性腎炎症候群を呈したANCA関連血管炎のガイドラインと最新治療. 医学のあゆみ 257(2): 159-164, 2016.
64. 有村義宏: 巨細胞性動脈炎. 臨床免疫・アレルギー科 65(1): 1-5, 2016.
65. 有村義宏: 血管炎症候群, 分子リウマチ治療 10(1): 16-23, 2017.
66. 駒形嘉紀: 医学用語解説 NETs (neutrophil extracellular traps). 炎症と免疫 24(6): 553-555, 2016.
67. 軽部美穂, 要伸也: 免疫機能異常に由来する疾患 ループス腎炎. 臨床透析 32(4): 431-438, 2016.
68. Fukuoka K, Miyamoto A, Ozawa Y, Ikegaya N, Maesono T, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: Adult-onset Still's disease-like manifestation accompanied by the cancer recurrence after long-term resting state. Mod Rheumatol Dec 9:1-5, 2016. (Epub ahead of print).
69. Fukuoka K, Sato Y, Sakurai H, Kawashima S, Kaname S, Arimura Y: A dialysis patient with hyperphosphatemia, hyperlalemia, and azotemia without an excessive intake. Kidney International Reports 2017. (in press).
70. Tsukada H, Shimizu H, Kaname S: Bilateral nephromegaly due to isolated renal sarcoidosis. Clin Exp Nephrol 2016. (Epub ahead of print).
71. Kato H, Nangaku M, Hataya H, Sawai T, Ashida A, Fujimaru R, Hidaka Y, Kaname S, Maruyama S, Yasuda T, Yoshida Y, Ito S, Hattori M, Miyakawa Y, Fujimura Y, Okada H, Kagami S: Joint Committee for the Revision of Clinical Guides of Atypical Hemolytic Uremic Syndrome in Japan: Clinical guides for atypical hemolytic uremic syndrome in Japan. Clin Exp Nephrol 20:536-543, 2016.
72. Kato H, Nangaku M, Hataya H, Sawai T, Ashida A, Fujimaru R, Hidaka Y, Kaname S, Maruyama S, Yasuda T, Yoshida Y, Ito S, Hattori M, Miyakawa Y, Fujimura Y, Okada H, Kagami S: Joint Committee for the Revision of Clinical Guides of Atypical Hemolytic Uremic Syndrome in Japan: Clinical guides for atypical hemolytic uremic syndrome in Japan. Pediatr Int. 58(7):549-555, 2016.
73. Arimura Y, Muso E, Fujimoto S, Hasegawa M, Kaname S, Usui J, Ihara T, Kobayashi M, Itabashi M, Kitagawa K, Hirahashi J, Kimura K, Matsuo S: Evidence-based clinical practice guidelines for rapidly progressive glomerulonephritis 2014. Clin Exp Nephrol 20:322-341, 2016.
74. Furuta S, Chaudhry AN, Arimura Y, Dobashi H, Fujimoto S, Homma S, Rasmussen N, Jayne DR: Comparison of the Phenotype and Outcome of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts. J Rheumatol 2016 (1):2016. (Epub ahead of print).
75. Furuta S, Chaudhry AN, Arimura Y, Dobashi H, Fujimoto S, Homma S, Rasmussen N, Jayne DR: Comparison of the Phenotype and Outcome of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts. J Rheumatol. 44(2):216-222, 2017.
76. Watanabe-Imai K, Harigai M, Sada KE, Yamamura M, Fujii T, Dobashi H, Amano K, Ito S, Homma S, Kumagai S, Banno S, Arimura Y, Makino H: Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan: Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study. Mod Rheumatol. 10:1-6, 2016. (Epub ahead of print).
77. Kawasaki A, Hasebe N, Hidaka M, Hirano F, Sada KE, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Yamagata K, Sumida T, Miyasaka N, Tohma S, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N: Protective Role of HLA-DRB1*13:02 against Microscopic Polyangiitis and MPO-ANCA-Positive Vasculitides in a Japanese Population: A Case-Control Study. PLoS One. 11(5):e0154393, 2016. doi:10.1371/journal.pone.0154393.
78. Muso E, Arimura Y: [Vasculitis]. Nihon Jinzo Gakkai Shi. 58(1):5-11, 2016.
79. Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S,

Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan: Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study. *Mod Rheumatol.* 26(5): 730-737, 2016.

著書

1. 要伸也：急速進行性腎炎症候群（ANCA関連腎炎を含む）。今日の治療指針2017年版。福井次矢，高木誠，小室一成総編。東京，医学書院，2017。p. 571-573。
2. 要伸也：リツキシマブ。腎疾患・透析最新の治療2017-2019。山縣邦弘，南学正臣編。東京，南江堂，2017。p. 339-342。
3. 竹森愛，要伸也：抗甲状腺薬による腎障害とはどのようなものですか？。薬剤性腎障害（DKI）診療Q&A。山縣邦弘，臼井丈一，成田一衛，寺田典生，平田純生編。東京，診断と治療社，2017。p. 154-156。
4. Hirofumi S, Kaname S, Gamou S: Vascular Access: Experiences in the Aged Japanese Society in Hemodialysis Access. *Fundamentals and Advanced Managements.* Shalhub S, Dua A, Shin S, eds. Switzerland, Springer International Publishing, 2017. p. 49-56.

その他

1. 要伸也：膠原病・血管炎と腎臓病。聞き手：斎藤郁夫。ラジオNIKKEI医学情報番組「杏林シンポジア」シリーズ「腎・尿路疾患診療の最新情報」日経ラジオ，東京，2016年4月18日。
2. 有村義宏：第21回血管病理研究会主催，三鷹，2016年10月29日。
3. Arimura Y: The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo, March 25th-28th, 2017主催。
4. 要伸也：序論 女性と腎臓。腎臓 vol. 39, 2017。
5. 要伸也：アメリカ大統領選と医療制度。臨床透析 33(2): 125-126, 2016。
6. 要伸也：寿命と腎臓。腎臓 vol. 38: 4-5, 2016。
7. 要伸也，福岡利仁：研究施設紹介 杏林大学医学部付属病院。Nephrology Frontier 15(2): 54-55, 2016。
8. 要伸也：包括的CKD診療を目指した多職種協働による取り組み—杏林大学医学部付属病院。Medi・Core 7:1-4, 2016。

第一内科学教室 (神経内科)

講演

1. 岡野晴子，中島昌典，阿部光世，鈴木亜希子，鈴木理恵子，鳥居正剛，笹森寛生，千葉厚郎，塩川芳昭，平野照之：急性期脳卒中患者における弾性ストッキングの深部静脈血栓予防効果。第41回日本脳卒中学会総会，札幌，2016年4月14日。
2. 綾野水樹，蛭沢志織，城野喬史，中西郁，鈴木理恵子，千葉厚郎，塩川芳昭，平野照之：入院中に発症した脳梗塞症例に関する検討。第41回日本脳卒中学会総会，札幌，2016年4月14日。
3. 中島昌典，岡野晴子，笹森寛生，鳥居正剛，鈴木理恵子，海野佳子，平野照之，千葉厚郎，塩川芳昭：経口抗凝固

療法実施例におけるアピキサバン選択の傾向。第41回日本脳卒中学会総会，札幌，2016年4月14日。

4. 永井健太郎，岡野晴子，海野佳子，平野照之：左LSA領域に脳梗塞を発症した片頭痛性脳梗塞の1例。多摩頭痛フォーラム，立川，2016年5月31日。
5. 内堀歩，千葉厚郎：眼球運動障害を伴うGuillain-Barré症候群・Fisher症候群・Bickerstaff型脳幹脳炎における糖脂質抗体の検討—抗GQ1b抗体陰性例を中心に—。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016年5月18-21日。
6. 大石知瑞子，園生雅弘，千葉厚郎：下肢末梢神経伝導検査における振幅左右差（第2報）：年齢層別検討からの原因の推測。第57回日本神経学会総会，神戸，2016年5月18-21日。
7. 園生雅弘，北國圭一，大石知瑞子：臨床症候（特に筋力低下分布と感覚障害範囲）と，電気生理学的所見からの局在診断。第57回日本神経学会総会，神戸，2016年5月18-21日。
8. 栗田瑛子，中島昌典，内堀歩，田港朝也，大石知瑞子，市川弥生子，千葉厚郎：進行性の球麻痺・橋の巨大石灰化を伴う脳幹萎縮があり入眠により喉頭軟化所見を呈した69歳男性例。第217回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2016年6月4日。
9. Uchibori A, Gyohda A, Chiba A: Ca²⁺-dependent anti-GQ1b antibody in GQ1b-seronegative Fisher syndrome and related disorders. *Inflammatory Neuropathy Consortium of the Peripheral Nerve Society 2016*, Scotland, June 23rd, 2016.
10. 内堀歩，行田敦子，千葉厚郎：GQ1b抗体陰性Fisher症候群にはCa²⁺依存性GQ1b抗体が高率に検出される。第27回日本末梢神経学会学術集会，大阪，2016年8月27-28日。
11. 大石知瑞子，宮地洋輔，神林隆道，千葉厚郎，園生雅弘：正中神経逆行性感覚神経伝導検査におけるpitfall：手掌部での部分刺激。第27回日本末梢神経学会学術集会，大阪，2016年8月27-28日。
12. 宮地洋輔，大石知瑞子，神谷久雄，田中章景，園生雅弘：長時間のホルン演奏後に痛みを伴う麻痺を発症したが，2年前の外傷による手首部尺骨神経損傷とfunctional overlayと診断した14歳女性例。第27回日本末梢神経学会学術集会，大阪，2016年8月27-28日。
13. 溝井令一，宮地洋輔，大石知瑞子，神谷久雄，畑中裕己，園生雅弘：手根管症候群の電気生理的偽陽性例についての検討。第27回日本末梢神経学会学術集会，大阪，2016年8月27-28日。
14. 澁谷裕彦，綾野水樹，田中雅貴，内堀歩，大石知瑞子，宮崎泰，市川弥生子，千葉厚郎：頸部筋力低下および球麻痺で発症し，アセチルコリン受容体抗体陽性，糖脂質抗体陰性のGuillain-Barré症候群症候群の37歳男性例。第218回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2016年9月3日。
15. Oishi C, Miyaji Y, Kanbayashi k, Chiba A, Sonoo M: A pitfall of the antidromic SCS of the median nerve: partial stimulation at the palm. *American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 63th Annual Meeting.* USA, September 14th-17th, 2016.
16. 内堀歩，行田敦子，千葉厚郎：GQ1b抗体陰性Fisher症候群にはCa²⁺依存性GQ1b抗体が高率に検出される。第28回日本神経免疫学会学術集会，長崎，2016年9月30日。
17. 大石知瑞子，園生雅弘，東原真奈，千葉厚郎：下肢末梢神経伝導検査における「50%ルール」の妥当性について。第46回日本臨床神経生理学学会・学術集会，福島，2016年10月27-29日。
18. 小野秀子，東原真奈，桜山千恵子，大石知瑞子，村山繁雄，時村文秋，園生雅弘：下位腕神経叢障害を示唆する

神経伝導検査所見のパターンについての検討〜ルーチンNCSから, 下位腕神経叢障害を見出すための試み〜. 第46回日本臨床神経生理学会・学術集会, 福島, 2016年10月27-29日.

19. 伊藤洋人, 原田祐三子, 小林麗, 岡田久, 奥田聡, 畑中裕己, 内堀歩, 千葉厚郎: Guillain-Barre/Fisher症候群の再発後にBickerstaff型脳幹脳炎を発症した1例. 第146回日本神経学会東海北陸地方会, 石川, 2016年10月29日.
20. 伊藤大, 澁谷裕彦, 綾野水樹, 田中雅貴, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: アルコール多飲と偏食からペラグラをきたした66歳男性例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
21. 千葉厚郎: カンピロバクター腸炎とギラン・バレー症候群. 第9回日本カンピロバクター研究会総会, 三鷹, 2016年11月26日.
22. 千葉厚郎, 内堀歩, 行田敦子: GQ1b抗体陰性Fisher症候群にはCa²⁺依存性GQ1b抗体が高率に検出される. 平成28年度神経免疫疾患政策・実用化研究班合同班会議, 東京, 2017年1月19日.
23. 千葉厚郎, 内堀歩, 行田敦子: GQ1b抗体陰性 Fisher症候群関連病態の血清学的検討. 第10回多摩神経免疫研究会, 立川, 2017年2月2日.
24. 澁谷裕彦, 永井健太郎, 田中雅貴, 内堀歩, 大石知瑞子, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎, 中島一郎: 痙攣発作で発症し, 右耳側半盲視神経炎, 腰仙部多発神経根炎が続発した抗MOG抗体陽性26歳男性例. 第220回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2016年3月4日.
25. 中島昌典, 岡野晴子, 鳥居正剛, 河野浩之, 天野達雄, 鈴木理恵子, 海野佳子, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 経口抗凝固療法実施例における当センターの傾向. 第42回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2017年3月17日.
26. 綾野水樹, 蛭沢志織, 川井田善太郎, 河野浩之, 岡野晴子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 他科入院中に発症した虚血性脳血管障害症例の特徴. 第42回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2017年3月17日.

論文

1. Kadoya A, Ogawa G, Kawakami S, Yokota I, Hatanaka Y, Uchibori A, Chiba A, Sonoo M: The correlation between the change of distal motor latency of the median nerve and the abundant A-waves in Guillain-Barré syndrome. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 87(4): 444-446, 2016.
2. Hida A, Yamashita T, Hosono Y, Inoue M, Kaida K, Kadoya M, Miwa Y, Yajima N, Maezawa R, Arai S, Kurasawa K, Ito K, Shimada H, Iwanami T, Sonoo M, Hatanaka Y, Murayama S, Uchibori A, Chiba A, Aizawa H, Momoo T, Nakae Y, Sakurai Y, Shioo Y, Hashida H, Yoshizawa T, Sakiyama Y, Oda A, Inoue K, Takeuchi S, Iwata NK, Date H, Masuda N, Mikata T, Motoyoshi Y, Uesaka Y, Maeda MH, Nakashima R, Tsuji S, Kwak S, Mimori T, Shimizu J: Anti-TIF1- γ antibody and cancer-associated myositis: A clinicohistopathologic study. *Neurology* 87: 299-308, 2016.
3. Uchibori A, Gyohda A, Chiba A: Ca(2+)-dependent anti-GQ1b antibody in GQ1b-seronegative Fisher syndrome and related disorders. *J Neuroimmunol* 298: 172-177, 2016.
4. Kadoya M, Hida A, Hashimoto Maeda M, Taira K, Ikenaga C, Uchio N, Kubota A, Kaida K, Miwa Y, Kurasawa K, Shimada H, Sonoo M, Chiba A, Shioo Y, Uesaka Y, Sakurai Y, Izumi T, Inoue M, Kwak S, Tsuji S, Shimizu J: Cancer association as a risk

factor for anti-HMGCR antibody-positive myopathy. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm* 3: e290, 2016.

5. Kadoya M, Kaida K, Koike H, Takazaki H, Ogata H, Moriguchi K, Shimizu J, Nagata E, Takizawa S, Chiba A, Yamasaki R, Kira JI, Sobue G, Ikewaki K: IgG4 anti-neurofascin155 antibodies in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy: Clinical significance and diagnostic utility of a conventional assay. *J Neuroimmunol* 301: 16-22, 2016.
6. Yamagami M, Sakurai Y, Hamada K, Sugimoto I, Hatanaka Y, Uchibori A, Chiba A: Unilateral hypoglossal nerve palsy with asymmetric facial and limb paresis in axonal Guillain-Barré syndrome. *Neurol Clin Neurosci* 4: 25-27, 2016.
7. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤英仁, 窪田博, 磯村杏耶, 下山田博明, 大倉康男, 塩川芳昭: 大動脈原性脳塞栓症を発症し, 上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. *脳卒中* 39: 129-134, 2017
8. 渡辺敏樹, 気賀沢一輝, 宮崎泰, 平形明人: 視神経萎縮で発見された神経梅毒の一症例. *神経眼科* 33(4): 385-391, 2016.
9. 市川弥生子, 辻省次¹(¹東京大): 遺伝性脊髄小脳変性症の早期診断. *神経内科* 86: 44-51, 2017.
10. 市川弥生子: ハンチントン病について. *難病と在宅ケア* 22:40-43, 2017.

著書

1. 田中雅貴, 千葉厚郎: 糖尿病性神経障害. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針(第4版). 田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫, 辻貞俊, 塩川芳昭, 成田善孝編. 東京, メジカルビュー社, 2016. p.577-578.
2. 千葉厚郎: 電解質浸透圧異常. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針(第4版). 田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫, 辻貞俊, 塩川芳昭, 成田善孝編. 東京, メジカルビュー社, 2016. p.615-619.
3. 市川弥生子: 神経疾患の遺伝相談. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針(第4版). 田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫, 辻貞俊, 塩川芳昭, 成田善孝編. 東京, メジカルビュー社, 2016. p. 786-790
4. Chiba A: Fisher Syndrome. *Neuroimmunological Diseases*. Kusunoki S, ed. Springer-Verlag, 2016, p. 187-202.
5. Chiba A: Miller Fisher Syndrome. *GBS100 Celebrating a Century of Progress in Guillain-Barré syndrome*. Willisin HJ, Goodfellow JA, eds. Peripheral Nerve Society, 2016, p.109-119.
6. 千葉厚郎: 慢性先勝性脱髄性多発ニューロパチー(CIDP). 今日の治療指針2017. 福井次矢, 高木誠, 小室一誠総編. 東京, 医学書院, 2017. p.940-941.

その他

1. 市川弥生子: ハンチントン病医療相談会. 神経内科専門医および臨床遺伝専門医として個別医療相談. 東京都難病相談・支援センター(渋谷区), 2016年6月19日.
2. 岡野晴子: 2016年度 EDUCATE-ESUS研究第1回全体会議塞栓原不明脳梗塞患者における7日間連続心電図記録器を用いた発作性心房細動検出の有用性に関する多施設共同観察研究. 品川, 2016年6月17日.
3. 宮崎泰: 健康知りたい話, パーキンソン病で生じる症状と最近の治療について, 東京, ラジオ日本, 2016年7月11-15日.

第二内科学教室 (循環器内科)

講演

1. Soejima K: Catheter Ablation of VT in Ischemic Cardiomyopathy. APHRS Summit, Singapore, April 2nd, 2016.
2. 佐藤徹: 肺高血圧症はこうやって診ます. 横浜北部PAH講演会, 横浜, 2016年4月8日.
3. 副島京子: 徐脈治療の変遷. Device spring conference in Fukuyama. 福山, 2016年4月8日.
4. 副島京子: 不整脈治療の最前線. 城南若手医師の会, 東京, 2016年4月15日.
5. 副島京子: 徐脈治療の変遷. BIOTRONIK, 東京, 2016年4月16日.
6. 坂田好美: 徹底理解! 右心機能と肺高血圧 肺動脈圧推定と心エコー図法. 第27回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016年4月22日.
7. 副島京子: 徐脈治療の変遷. 文京区女性循環器医師の会, 東京, 2016年4月23日.
8. 副島京子: 徐脈治療の変遷. 愛知尾張不整脈 名古屋不整脈研究会, 名古屋, 2016年4月27日.
9. Soejima K: How to session. HRS2016 37th Annual Scientific Sessions, USA, May 5th, 2016.
10. 副島京子: 心房細動アブレーションの抗凝固療法. 相模大野循環器勉強会, 相模原, 2016年5月11日.
11. 副島京子: 心室頻拍治療. 南大阪不整脈研究会, 大阪, 2016年5月13日.
12. 副島京子: 心室頻拍治療. 循環器高度先進治療研究会, 岐阜, 2016年5月18日.
13. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最近の治療とオプスミットの使用経験. オプスミット発売1周年記念講演会, 名古屋, 2016年5月20日.
14. 佐藤徹: 私はこのように治療している(レビュー及び症例提示). オプスミットフォーラム東京, 東京, 2016年5月21日.
15. 副島京子: 医療被曝軽減の重要性. Catheter ablation course for AF, 高槻, 2016年5月21日.
16. Sakata K, Iwai M, Uesugi Y, Isaka A, Matsushita K, Yokoyama K, Nitadori T, Yoshino H: Evaluation of Myocardial Degeneration and Cardiovascular Risk Using Speckle tracking Echocardiography in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy. The 89th MEETING OF THE JAPAN SOCIETY OF ULTRASONICS IN MEDICINE, Kyoto, May 28th, 2016.
17. Isaka A, Sakata K, Uesugi Y, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Characteristics of Echocardiographic Findings in Patients With Heart Failure with preserved ejection fraction. The 89th MEETING OF THE JAPAN SOCIETY OF ULTRASONICS IN MEDICINE, Kyoto, May 29th, 2016.
18. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最近の治療とオプスミットの使用経験. 第6回阪神肺高血圧症研究会, 尼崎, 2016年6月1日.
19. 三輪陽介: 心房細動の治療. 第4回井の頭ファーマ会, 東京, 2016年6月3日.
20. 水見彩子, 南島俊徳, 長岡身佳, 三浦陽平, 松下健一, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: 肺高血圧症を妊娠中に発症し, 治療が奏功した一例. 第24回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年6月4日.
21. 副島京子: デバイス治療の進歩. Sapporo monitoring management conference, 札幌, 2016年6月11日.
22. 副島京子: 不整脈治療の変遷. G-Girls(gunma girls intervention Rhythm, Physiological laboratory society), 前橋, 2016年6月17日.
23. 佐藤徹: 循環器疾患 Q&A. 府中循環器勉強会, 府中, 2016年6月20日.
24. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最近の治療とオプスミットの使用経験. 第9回横浜肺高血圧研究会, 横浜, 2016年6月24日.
25. 坂田好美: 高血圧症の診断における心エコーの有用性. 北海道肺高血圧チーム医療講演会, 札幌, 2016年6月30日.
26. 副島京子: 不整脈治療の変遷. 広島不整脈治療セミナー, 広島, 2016年7月1日.
27. 副島京子: リードレスペースメーカー. 心不全・不整脈医のコラボレーション, 東京, 2016年7月2日.
28. 坂田好美: 循環器医からみた糖尿病治療. アステラス製薬講演会, 東京, 2016年7月7日.
29. Matsushita K, Minamishima T, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Differences in predictors of one-year mortality between patients with hypertensive and non-hypertensive acute heart failure: Usefulness of E/E' in hypertensive heart failure. The 26th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, France, June 10th-13th, 2016.
30. 坂田好美: ω 3脂肪酸製剤と生活習慣病治療 Up Date. Digestive Disease Conference, 東京, 2016年7月13日.
31. Ueda A, Soejima K, Miwa Y, Takeuchi S, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miyakoshi M, Togashi I, Sato T, Yoshino H: Idiopathic VPC/VT ablation using non-fluoroscopic catheter visualization system vs, conventional fluoroscopy. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016年7月14-17日.
32. Matsushita N, Nagaoka M, Takeuchi S, Momose Y, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Sato T, Miyazawa E, Sato H, Yoshino H, Soejima K: Effect of Stellate Ganglion Phototherapy on Autonomic Nervous System Function. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016年7月14-17日.
33. Togashi I, Sato T, Soejima K, Ueda A, Miwa Y, Hoshida K, Matsushita N, Momose Y, Nagaoka M, Takeuchi S, Yoshino H: The comparison of lethal arrhythmic episodes and the cause of death between patients with cardiac resynchronization therapy pacemaker and defibrillator. 第63回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2016年7月14-17日.
34. Miwa Y, Soejima K, Momose Y, Nagaoka M, Takeuchi S, Matsushita N, Hoshida K, Togashi I, Ueda A, Sato T, Yoshino H: Significant Reduction of Radiation Exposure during Catheter Ablation of Atrial Fibrillation Using MediGuide™ Technology. 63rd Japanese Heart Rhythm Society, Sapporo, July 15th, 2016.
35. 副島京子: 透視軽減. 第63回日本不整脈心電学会学術集会, 札幌, 2016年7月15-16日.
36. 合田あゆみ, 菊池華子, 水見彩子, 横山さち, 鈴木和基, 吉野秀朗, 佐藤徹: 運動制限が肺循環に及ぼす影響. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016年7月16-17日.
37. 合田あゆみ, 菊池華子, 水見彩子, 重田洋平, 伊波巧, 石黒晴久, 吉野秀朗, 佐藤徹: 運動時肺高血圧における肺動脈圧上昇の程度と運動耐容能および低酸素血症との関連. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集

- 会, 東京, 2016年7月16-17日.
38. Kongoji K, Kasahara M, Kuwata S, Mitarai T, Ishibashi Y, Koyama K, Yoneyama K, Akashi Y: Prognosis after percutaneous transluminal renal artery stenting in patients with arteriosclerotic renal artery stenosis. CVIT 2016, Tokyo, July 18th, 2016.
 39. 副島京子: 不整脈治療の変遷. 埼玉循環器研究会, さいたま, 2016年7月20日.
 40. Kongoji K: ALI video session case 2. TOPIC 2016, Tokyo, July 20th, 2016.
 41. Kongoji K: Intervention 医のためのトレーニングコース【EVT 適応】. TOPIC 2016, Tokyo, July 22nd, 2016.
 42. 三輪陽介: 不整脈治療Up to Date. 不整脈地域連携講演会, 東京, 2016年7月22日.
 43. 上田明子: 心室性期外収縮・心室頻拍. 不整脈治療Up to date, 東京, 2016年7月22日.
 44. 副島京子: 不整脈治療の変遷. 循環器卒後セミナー, 長崎, 2016年7月30日.
 45. Soejima K: How to achieve successful VT ablation. MEET THE MASTER IN HONGKONG, 中国, 2016年8月13-14日.
 46. 副島京子: 不整脈治療の変遷. IKAC2, 名古屋, 2016年8月20日.
 47. 上田明子: 不整脈診療において知っておきたい薬の使い方. 調布市内科医会, 東京, 2016年8月23日.
 48. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta H, Kikuchi H, Nishina Y, Fukushi K, Funabashi S, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for mid-term outcome in inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension. ESC CONGRESS 2016, Italy, August 26th-30th, 2016.
 49. Shigeta Y, Inami T, Kataoka M, Shigeta H, Kikuchi H, Nishina Y, Fukushi K, Funabashi S, Yoshino H, Satoh T: Usefulness of pressure-wire-guided percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for pulmonary circulation on exercise. ESC CONGRESS 2016, Italy, August 26th-30th, 2016.
 50. Nishina Y, Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta H, Kikuchi H, Fukushi K, Funabashi S, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty on right ventricular function. ESC CONGRESS 2016, Italy, August 26th-30th, 2016.
 51. Goda A, Mizumi S, Kikuchi, Shigeta Y, Inami T, Ishiguro H, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Validation of exercise-induced elevation of pulmonary arterial wedge pressure (PAWP) as occult left ventricular diastolic dysfunction. Congress of European Society of Cardiology, Italy, August 27th-31st, 2016.
 52. Furuya M, Sakata K, Imai M, Uesugi Y, Matsushita K, Yokoyama K, Nitadori T, Yoshino H: Evaluation of Myocardial Degeneration and Prognosis Using Speckle-tracking Echocardiography in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy. European Society of Cardiology Congress 2016, Italy, August 29th, 2016.
 53. 副島京子: How to map VT. Arrhythmia Academy, 成田, 2016年9月3日.
 54. 副島京子: 不整脈治療の変遷. 次世代不整脈エキスパート講座, 坂出, 2016年9月10日.
 55. 副島京子: 不整脈治療の変遷. 佐賀不整脈研究会, 坂出, 2016年9月12日.
 56. 副島京子: 虚血性心疾患の不整脈治療. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016年9月23-24日.
 57. 坂田好美, 上杉陽一郎, 井坂葵, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 三次元スペックルトラッキング心エコーを用いた右室機能および予後評価. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016年9月23日.
 58. 坂田好美: RV-Wall-motion Trackingによる右室機能評価. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016年9月24日.
 59. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 佐藤徹, 吉野秀朗: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術の長期成績. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016年9月25日.
 60. 副島京子: VT ablation in patients with AVR. 8th ASPAC Tsukuba VT course, つくば, 2016年9月27日.
 61. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の診療の進歩と新しい知見. 第1回日本肺高血圧・肺循環学術集会, 東京, 2016年10月1-2日.
 62. 石黒晴久, 伊波巧, 重田洋平, 仁科善雄, 柳澤亮爾, 片岡雅晴, 志村亘彦, 佐藤徹, 吉野秀朗: Pressure-wire Guided BPA. 第1回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 2016年10月1日.
 63. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 合田あゆみ, 佐藤徹, 吉野秀朗: 経皮的肺動脈形成術合併症のトラブルシューティング. 第1回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 2016年10月1日.
 64. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 合田あゆみ, 佐藤徹, 吉野秀朗: プレッシャーワイヤーガイド経皮的肺動脈形成術の有用性. 第1回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 2016年10月1日.
 65. 小柳正道, 福島啓太, 荻安俊哉, 勝目有美, 伊波巧, 宮崎功, 佐藤徹, 吉野秀朗, 横山健一, 似鳥俊明, 壺井美香: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するCT撮像法の至適線量検討. 第1回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 2016年10月1日.
 66. 伊波巧: プロスタグランディンI2製剤の杏林式合併症対策. 第1回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 2016年10月1日.
 67. 千葉知, 伊波巧, 片岡雅晴, 佐藤徹, 菅間博: 杏林大学における肺高血圧症剖検症例の解析. 第1回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 2016年10月1日.
 68. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 佐藤徹, 吉野秀朗: PEA術後のBPAの効果. 第62回日本脈管学会総会, 奈良, 2016年10月14日.
 69. Soejima K: Asia Pacific Heart Rhythm Society Session, Korea, October 14th-15th, 2016.
 70. 三輪陽介: 心室頻拍/心室期外収縮(特発性, 流出路起源, 基質心疾患). 不整脈治療関連指定講習会・応用編, 大阪, 2016年10月16日.
 71. Higuchi S: Paradoxical segmental abnormality after retrograde approach in the setting of acute coronary syndrome; importance to select the collateral channel. Complex Cardiovascular Therapeutics 2016 oral session, USA, October 20th, 2016.
 72. 副島京子: Epicardial Catheter Ablation. Women in EP, USA, 2016年10月22-23日.
 73. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 合田あゆみ, 佐藤徹, 吉野秀朗: 経皮的肺動脈形成術後の長期的治療効果. 第53回日本臨床生理学会総会, 東京, 2016年10月28日.

74. 伊波巧:CTEPH治療の現状-カテーテル治療(PTPA)の進歩と効果-。多摩慢性肺血栓塞栓症を考える会, 東京, 2016年10月28日。
75. 坂田好美:運動負荷/薬剤負荷心エコー検査の最前線。第53回日本臨床生理学会, 東京, 2016年10月29日。
76. 副島京子:不整脈治療の変遷。Chiba Arrhythmia 2016 Autumn, 千葉, 2016年11月4日。
77. 金剛寺謙, 金谷充博, 上杉陽一郎, 山岸民治, 重田洋平, 樋口聡, 高唱秀安, 吉野秀朗:高度石灰化病変に対してCrosserとガイドワイヤーを匍匐前進的に進めることで病変通過に成功した重症下肢虚血の1例。多摩虚血性心疾患研究会, 東京, 2016年11月5日。
78. 副島京子:不整脈治療の変遷。日本有病者歯科医療学会学術研修会, 東京, 2016年11月6日。
79. 副島京子:不整脈治療の変遷。調布医師会勉強会, 調布, 2016年11月9日。
80. 佐藤徹:肺高血圧症の最新の治療。肺高血圧症を考える会in所沢, 所沢, 2016年11月25日。
81. 副島京子:不整脈治療の変遷。栃木県心臓電気生理研究会, 宇都宮, 2016年11月25日。
82. 伊波巧:当院のCTEPH治療戦略。第3回肺塞栓ネットワークセミナー, 神戸, 2016年11月25日。
83. 副島京子:被曝軽減の努力。Young Investigators Meeting, 横浜, 2016年11月26日。
84. 伊波巧, 佐藤徹, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 重田洋平, 石黒晴久, 佐藤徹:当院における急性肺塞栓症診療のまとめ。第23回肺塞栓症研究会, 東京, 2016年11月26日。
85. Soejima K: New technology discussion. Epicardial ablation in non-ischemic VT. International symposium on progress in clinical pacing, Italy, November 29th, 2016.
86. Matsushita N, Soejima K, Nagaoka M, Takeuchi S, Momose Y, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Sato T, Yoshino H: Cardiac MRI in Patients with complete AV block for Risk Stratification for Heart Failure and Ventricular Tachycardia. XVII International Symposium on Progress in Clinical Pacing, Italy, November 29th, - December 2nd, 2016.
87. 副島京子:虚血性心疾患の不整脈治療。第30回日本冠疾患学会学術集会, 三鷹, 2016年12月10日。
88. 伊波巧:Current status of PTPA for CTEPH in our institution. 第30回日本冠疾患学会学術集会, 三鷹, 2016年12月10日。
89. 三輪陽介:虚血性心疾患の不整脈(1)診断。第30回日本冠疾患学会学術集会, 三鷹, 2016年12月10日。
90. 樋口聡:多機能カテーテルとしてのGuideLiner V3。第30回日本冠疾患学会学術集会, 三鷹, 2016年12月11日。
91. 樋口聡, 仁科善雄, 金谷允博, 上杉陽一郎, 重田洋平, 山岸民治, 伊波巧, 石黒晴久, 高昌秀安, 金剛寺謙, 吉野秀朗:急性冠症候群を発症した超高齢者における院内死亡の危険因子に関する検討。第30回日本冠疾患学会学術集会, 三鷹, 2016年12月11日。
92. 副島京子:心室頻拍アブレーションのstrategy。Meet the Expert Meeting, 名古屋, 2016年12月16日。
93. 副島京子:不整脈治療の変遷。鹿沼新しい治療を考える会, 鹿沼, 2017年1月11日。
94. 佐藤徹:肺動脈形成術の成果。第33回首都心臓病カンファレンス, 東京, 2017年1月14日。
95. 坂田好美:右室機能評価の新たな指標。第279回多摩エコー研究会, 東京, 2017年1月19日。
96. 上田明子:プライマリーケア医が知っておきたい不整脈診療。不整脈治療Up to date, 東京, 2017年1月23日。
97. 副島京子:不整脈治療の変遷。不整脈フォーラムin 倉敷, 倉敷, 2017年1月27日。
98. 副島京子:不整脈治療の変遷。京都ハートクラブ, 京都, 2017年1月28日。
99. Satoh T: Overview and rationale for multimodal assessment of CTEPH lesions treated with balloon pulmonary angioplasties. International Scientific Conference 2017, Poland, 2017年1月31日。
100. Shigeta Y, Inami T, Ishiguro H, Yoshino H, Satoh: Case presentations by participants and general discussion. Advanced multimodal assessment of pulmonary arteries in chronic thromboembolic pulmonary hypertension treated with PTPA/BPA, Poland, January 31st, 2017.
101. Inami T, Ishiguro H, Shigeta H, Yoshino H, Satoh: Pressure wire for safety and efficacy increase of balloon pulmonary angioplasties in CTEPH. Advanced multimodal assessment of pulmonary arteries in chronic thromboembolic pulmonary hypertension treated with PTPA/BPA, Poland, January 31st, 2017.
102. Ishiguro H, Inami T, Shigeta Y, Yoshino H, Satoh: Technique, OCT, how to treat proximal lesions. Advanced multimodal assessment of pulmonary arteries in chronic thromboembolic pulmonary hypertension treated with PTPA/BPA, Poland, January 31st, 2017.
103. 副島京子:抗凝固療法。相模大野医師会, 相模原, 2017年2月1日。
104. 副島京子:不整脈治療の変遷。横浜心臓塾, 横浜, 2017年2月3日。
105. 佐藤徹:肺高血圧症治療の最近の進歩。第14回患者と医療者が創るフォーラム, 東京, 2017年2月16日。
106. 副島京子:留学の勧め慈恵医大葛飾医療センター。葛西医療センター不整脈セミナー, 葛飾, 2017年2月13日。
107. 富樫郁子, 佐藤俊明, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 星田京子, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 竹内真介, 勝目有美, 吉野秀朗:2 incisionによるSubcutaneous-ICD植込み。第9回植込みデバイス関連冬季大会, 大阪, 2017年2月16-18日。
108. 副島京子:周術期の抗凝固療法。日本不整脈心電学会デバイス冬季大会, 大阪, 2017年2月17日。
109. 伊波巧:Long term outcome after balloon pulmonary angioplasty for CTEPH in our center. Japan endovascular treatment conference 2017, Tokyo, February 18th, 2017.
110. 佐藤徹:肺動脈性肺高血圧症の最近の治療。肺高血圧症を考えるin富山, 富山, 2017年3月2日。
111. 坂田好美:肺高血圧症の診断と治療-心エコーを用いた評価-。群馬診診連携講演会, 高崎, 2017年2月25日。
112. 上田明子:心房細動による不整脈依存性心筋症に対するアブレーション治療。三鷹医師会循環器研究会, 東京, 2017年3月8日。
113. 佐藤徹:肺動脈性肺高血圧症の最近の治療。八王子肺高血圧症講演会, 八王子, 2017年3月10日。
114. Sakata K, Isaka A, Iwata M, Uesugi Y, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Ventricular Dysfunction and Prognosis Using Three-Dimensional Right Ventricular Wall Motion Tracking in Patients with Pulmonary Arterial Hypertension. The 81st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society. Kanazawa, March 17th, 2017.

115. Ueda A, Katsume Y, Momose Y, Takeuchi S, Nagaoka M, Komeda M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Sato O, Soejima K, Yoshino H: ECG-defined RV enlargement useful marked of response to cardiac resynchronization therapy. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017年3月17-19日.
116. Ayumi G, Saiko M, Hanako K Yohei S, Takumi I, Haruhisa I Konomi S Toru S, Hideaki Y: Validation of exercise-induced elevation of pulmonary arterial wedge pressure (PAWP) as occult left ventricular diastolic dysfunction. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017年3月17-19日.
117. Matsushita N, Soejima K, Nagaoka M, Takeuchi S, Momose Y, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Sato T, Yoshino H: Cardiac MRI in Patients with complete AV block for Risk Stratification for Heart Failure and Ventricular Tachycardia. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017年3月17-19日.
118. Iwata M, Sakata K, Isaka A, Uesugi Y, Furuya M, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Quantification of Left Ventricular Function Using Multimodality Strain: Comparison between Cardiac Cine Magnetic Resonance Multimodality Tissue Tracking and Two-dimensional Speckle-tracking-Echocardiography. The 81st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society. Kanazawa, March 19th, 2017.
119. 副島京子: 不整脈治療の進歩. AIC: Aizu intervention conference, 会津坂下, 2017年3月24日.
120. Soejima K: VT ablation in Non-ischemic Cardiomyopathy. 2017 International Forum of Ventricular Arrhythmia, China, 2017年3月11-12日.
121. 副島京子: 心室頻拍治療の進歩. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017年3月29日.
122. 副島京子: 心房細動アブレーション. Innovating Anticoagulation Care Conference, 東京, 2017年3月29日.

論文

和文

1. 吉野秀朗: 急性大動脈解離の診断と治療方針の決定. 呼吸と循環 64(5):435-443, 2016.
2. 吉野秀朗: 有害事象とその対策 心機能障害とモニタリング. 臨床消化器内科 31(7):1043-1054, 2016.
3. 吉野秀朗: 急性冠症候群の臨床(ST上昇型心筋梗塞を除く)日本における急性冠症候群の実態. 日本臨床 74(増6):191-195, 2016.
4. 吉野秀朗, 安達秀雄, 高橋寿由樹: 急性大動脈解離 病態解明, 診断治療, 診療体制の問題点. カレントセラピー 34(9):918-928, 2016.
5. 吉野秀朗: 大動脈解離 診断と治療の進歩. 心臓 48(9):1099-1101, 2016.
6. 吉野秀朗: 動脈疾患を治す 急性大動脈解離での使い方. Heart View 20(12):167-170, 2016.
7. 吉野秀朗: 急性大動脈解離 急性大動脈解離の診断と治療に関する疑問. 救急・集中治療 28(臨増): e230-e238, 2016.
8. 佐藤徹: 実臨床における早期診断と肺高血圧症分類の鑑別の進め方: 専門医への紹介のタイミングとは. 内科 117(3):375-381, 2016.
9. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の薬物療法. 呼吸と循環 64(5):497-502, 2016.
10. 佐藤徹: 佐藤徹: 肺高血圧診療の最近の進歩. 日本内科学会雑誌 105(9):1775-1783, 2016.

11. 佐藤徹: 肺循環障害の日常診察で気をつけること. 呼吸器内科 30(4):318-319, 2016.
12. 佐藤徹: 特発性肺動脈性肺高血圧症での使い方. Heart View 20(12):197-207, 2016.
13. 佐藤徹: プロスタグランジン I₂ の進歩. Pulmonary Hypertension Update 2(2):12-21, 2016.
14. 佐藤徹: 慢性肺動脈血拴塞栓症に対するバルーン肺動脈拡張術(BPA)慢性肺動脈血拴塞栓症の臨床診断とBPAの適応. 循環器内科医がかかわる各種インターベンション最前線, Coronary Intervention 12(5):12-18, 2016.
15. 松下紀子, 副島京子, 上田明子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 富樫郁子, 佐藤俊明, 森山久美, 萬知子, 吉野秀朗: 星状神経節光線療法により植え込み型除細動器作動抑制が可能であったフアロー四徴症根治術後, 心室細動電氣的ストームの1例. 日本成人先天性心疾患学会雑誌 5(2):32-38, 2016.
16. 三輪陽介, 百瀬裕一, 長岡身佳, 松下紀子, 星田京子, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗, 副島京子: 心室頻拍・心室細動 ICD・CRT-D植え込み例におけるアミオダロンの使用. Progress in Medicine 36(Suppl.1):451-453, 2016.
17. 百瀬裕一, 佐藤俊明, 長岡身佳, 松下紀子, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 副島京子, 吉野秀朗: たこつぼ心筋症を外科手術後に再発し, 急性期に房室ブロックと心室頻拍を合併した1例. 心臓 48(Suppl.1):130-135, 2016.
18. 百瀬裕一, 上田明子, 長岡身佳, 松下紀子, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 前田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗, 副島京子: 左室中隔でvoltage channel内でのペースマッピング中のmultiple exit siteにてアブレーションに成功した大動脈弁置換術後の心室頻拍の1例. 心臓 48(Suppl.2):237-243, 2016.

英文

1. Satoh T: Systemic Abnormalities Derived From Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension and Their Improvement by Balloon Pulmonary Angioplasty. Circ J:80(4):823-824, 2016
2. Satoh T: Medical Therapy for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. Springer: 185-192, 2016.
3. Satoh T: Improvement in Quality of Life in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension With Balloon Pulmonary Angioplasty. Circulation Journal 81(4):442-443, 2016.
4. Satoh T, Kataoka M, Inami T, Ishiguro H, Yanagisawa R, Shimura N, Shigeta Y, Yoshino H: Endovascular treatment for chronic pulmonary hypertension: a focus on angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension. Expert Rev Cardiovasc Ther. 14(9):1089-1094, 2016.
5. Soejima K¹, Edmonson J², Ellingson ML², Herberg B², Wiklund C², Zhao J²(¹Department of Cardiology, Kyorin University Hospital, ²Medtronic plc, Mounds View): Safety evaluation of a leadless transcatheter pacemaker for magnetic resonance imaging use. Heart Rhythm. 13(10):2056-2063, 2016.
6. Sakata K, Uesugi Y, Osaka A, Minamishima T, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of right atrial function using right atrial speckle tracking analysis in patients with pulmonary artery hypertension. J Echocardiogr 14:30-38, 2016.

7. Fukushi K, Kataoka M¹, Shimura N, Inami T, Fukuda K¹, Yoshino H, Satoh T (Keio University): Impaired respiratory function in chronic thromboembolic pulmonary hypertension: a comparative study with healthy control subjects. *Ann Am Thorac Soc* 13:1183-1184, 2016.
8. Hoepfer MM¹, McLaughlin VV², Dalaan AM³, Satoh T, Galiè N⁴: Lancet (Hannover Medical School and German Centre for Lung Research, ²University of Michigan Health System, ³King Faisal Specialist Hospital and Research Center, ⁴King Faisal Specialist Hospital and Research Center): Treatment of pulmonary hypertension. *Respir Med* 4(4):323-336, 2016.
9. Inami T, Kataoka M¹, Yanagisawa R, Ishiguro H, Shimura N, Fukuda K¹, Yoshino H, Satoh T (Keio University): Long-term outcomes after percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension. *Circulation* 134:2030-2032, 2016.
10. Isobe S¹, Kataoka M¹, Aimi Y², Gamou S, Satoh T, Fukuda K¹ (Keio University School of Medicine, ²Kyorin University School of Health Sciences): Improved Survival of Patients with Pulmonary Arterial Hypertension with BMPR2 Mutations in the Last Decade. *Am J Respir Crit Care Med* 193(11):1310-4, 2016.
11. Kataoka M, Momose Y, Aimi Y, Fukuda K, Gamou S, Satoh T: Familial Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension in a Pair of Japanese Brothers. *Chest* 150(3):748-749, 2016.
12. Kataoka M¹, Satoh T, Fukuda K¹ (Keio University School of Medicine): Letter by Kataoka et al Regarding Article, "Dynamic Risk Stratification of Patient Long-Term Outcome After Pulmonary Endarterectomy: Results From the United Kingdom National Cohort" *Circulation* 134(14): e299-e300, 2016.
13. Kataoka M¹, Satoh T, Fukuda K¹ (Keio University School of Medicine): Letter by Kataoka et al Regarding Article, "Bone Morphogenetic Protein Receptor Type 2 Mutation in Pulmonary Arterial Hypertension: A View on the Right Ventricle". *Circulation* 134(9), 2016.
14. Kawazoe H, Nakano Y, Ochi H, Takagi M, Hayashi Y, Uchimura Y, Tokuyama T, Watanabe Y, Matsumura H, Tomomori S, Sairaku A, Suenari K, Awazu A, Miwa Y, Soejima K, Chayama K, Kihara Y: Risk stratification of ventricular fibrillation in Brugada syndrome using noninvasive scoring methods. *Heart Rhythm*. 13(10):1947-1954, 2016.
15. Kubota H¹, Endo H¹, Ishii H¹, Tsuchiya H¹, Takahashi Y¹, Inaba Y¹, Noma M², Yoshimoto A³, Higuchi S, Kohshoh H, Tani ai S, Ishiguro H, Yoshino H, Sudo K⁴ (Cardiovascular Surgery, Kyorin University, ²Tokai University, ³Tsukuba Memorial Hospital, ⁴Jiseikai Nomura Hospital) Patency of Saphenous Vein Grafts Using the PAS-Port System During Coronary Artery Bypass Surgery. *Ann Thorac Surg*, 2017. doi: 10.1016/j.athoracsur.2016.11.014. (Epub ahead of print).
16. Matsushita K: Pathogenetic pathways of cardiovascular renal syndrome and their possible therapeutic implications. *Curr Pharm Des* 22:4629-4637, 2016.
17. Matsushita K: Mesenchymal stem cells and metabolic syndrome: current understanding and potential clinical implications. *Stem Cells Int* 2016: 2892840, 2016.
18. Matsushita K, Wu Y¹, Pratt RE, Dzau VJ² (Duke University Medical Center, ²National Academy of Medicine): Deletion of angiotensin II type 2 receptor accelerates adipogenesis in murine mesenchymal stem cells via Wnt10b/beta-catenin signaling. *Lab Invest* 96(8):909-917, 2016.
19. Miwa Y, Minamishima T, Sato T, Sakata K, Yoshino H, Soejima K: Resolution of a warfarin and dabigatran-resistant left atrial appendage thrombus with apixaban. *J Arrhythm*. 32(3):233-235, 2016.
20. Saji T¹, Myoishi M¹, Sugimura K, Tahara N, Takeda Y, Fukuda K¹, Olschewski H, Matsuda Y, Nikkho S, Satoh T (Toho University Omori Medical Center): Efficacy and Safety of Inhaled Iloprost in Japanese Patients With Pulmonary Arterial Hypertension- Insights From the IBUKI and AIR Studies. *Circ J* 80(4):835-842, 2016.
21. Shiraishi Y, Kohsaka S, Harada K, Miyamoto T, Tanimoto S, Iida K, Sakai T, Miyazaki T, Yagawa M, Matsushita K, Furihata S, Sato N, Fukuda K, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M: Correlation of pre- and in-hospital systolic blood pressure in acute heart failure patients and the prognostic implications - report from the Tokyo Cardiac Care Unit Network emergency medical service database. *Circ J* 80(12): 2473-2481, 2016.
22. Ueda A, Oginosawa Y, Soejima K, Abe H, Kohno R, Ohe H, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Miyakoshi M, Togashi I, Maeda A, Sato T, Yoshino H: Outcomes of single- or dual-chamber implantable cardioverter defibrillator systems in Japanese patients. *J Arrhythm*. 32(2):89-94, 2016.
23. Yanagisawa R, Kataoka M¹, Inami T, Fukuda K¹, Yoshino H, Satoh T (Keio University): Intravascular imaging-guided percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for peripheral pulmonary stenosis and pulmonary Takayasu arteritis. *J Heart Lung Transplant* 35:537-540, 2016.
24. Sakata K, Satoh T, Isaka A, Uesugi Y, Furuya M, Matsushita K, Yoshino H: Cardiac dysfunction of pulmonary artery aneurysm in patients with pulmonary arterial hypertension. *Int J Cardiol*. 228:1035-1040, 2017.
25. Higuchi S, Kabeya Y¹, Matsushita K, Taguchi H, Ishiguro H, Kohshoh H, Yoshino H (Tokai University): Clinical Impact of Non-Culprit Lesions on 1-Year Mortality in Very Elderly Patients with Acute Coronary Syndrome. *Heart and Vessels*. 32(1): 8-15, 2017.
26. Higuchi S, Kabeya Y¹, Kato K² (Tokai University, ²Tokyo Saiseikai Central Hospital): Visceral-to-subcutaneous fat ratio is independently related to small and large cerebrovascular lesions even in healthy subjects. *Atherosclerosis*, 2017. (Epub).
27. Kongoji K, Ishibashi Y, Kotoku N, Kasahara M, Yamazaki H, Mitarai T, Kamijima R, Koyama K,

- Yoneyama K, Tanabe Y, Akashi YJ: Angioscopic and optical coherence tomographic evaluation of neointimal coverage: 9 months after expandable polyterafluoroethylene covered stent implantation. *Heart Vessels* 32:777-779, 2017. (Epub).
28. Kimura G, Kataoka M, Inami T, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T: Sorafenib as a potential strategy for refractory pulmonary arterial hypertension. *Pulm Pharmacol Ther* S1094-5539(17)30084-6, 2017.
 29. Matsushita K, Minamishima T, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Differences in predictors of one-year mortality between patients with hypertensive and non-hypertensive acute heart failure: Usefulness of E/E' in hypertensive heart failure. *Eur J Intern Med.* 38: e13-e14, 2017.
 30. Minamishima T, Matsushita K, Morikubo H, Isaka A, Matsushita N, Endo H¹, Kubota H¹, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: (¹Cardiovascular Surgery) Considerations in cardio-oncology: Multiple mobile left-sided cardiac thrombi in chemotherapy-induced cardiomyopathy. *J Infect Chemother.* S1341-321X(17)30030-2, 2017.
 31. Yanagisawa R, Fetterly KA¹, Johnson GB¹, Foley TA¹, Williamson EE¹, Gulati R¹, Sandhu GS¹, Frantz RP¹ (¹Mayo Clinic): Integrated Use of Perfusion SPECT/CTA Fusion Imaging and Pulmonary Balloon Angioplasty for Chronic Pulmonary Thromboembolism. *JACC Cardiovasc Interv.* 10(5):532-534, 2017.
 32. Yagawa M¹, Nagatomo Y¹, Izumi Y¹, Mahara K¹, Tomoike H¹, Shiraishi Y², Kohno T², Mizuno A³, Goda A, Kohsaka S², Yoshikawa T¹: West Tokyo Heart Failure (WET-HF) Registry Collaborative Group (¹Sakakibara Heart Institute, ²Keio University, ³StLuka Hospital): Effect of Obesity on the Prognostic Impact of Atrial Fibrillation in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction. *Circ J.* 2017. (Epub).
- 著書**
1. Satoh T: Medical Therapy for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. Diagnosis and Treatment of Pulmonary Hypertension. Fukumoto Y ed. Springer, 2017. p.185-192.
 2. 副島京子, 松田央郎, 三輪陽介, 勝目有美: 症例を考えよう カスタムメイドの不整脈治療. *medicina* 第54巻第3号. 東京, 医学書院, 2017. p.408-418.
 3. 坂田好美: 拡張性心不全の基礎知識 拡張性心不全と加齢. 成人病と生活習慣病 まるごと教えます 今話題の拡張性心不全. 東京, 東京医学社, 2017. p.302-307.
 4. 坂田好美: 心臓超音波, 心エコー検査 - Echocardiography -. 杏林医学会雑誌 48巻1号. 三鷹, 杏林医学会, 2017. p.39-44.
 5. 上田明子, 副島京子: 心外膜アプローチ: 適応・手技・合併症と処置. 循環器内科 第81巻第4号. 東京, 科学評論社, 2017. p.397-403.
 6. 三輪陽介, 副島京子: 不整脈の起源や機序を推測する心室頻拍の起源を読むか?. エキスパートはここを見る 心電図読み方の極意1版. 三田村秀雄編. 東京, 南山堂, 2016. p.124-131.
 7. 三輪陽介: 心室頻拍 急性期治療. *medicina* 第54巻第3号. 東京, 医学書院, 2017. p.510-513.
 8. 三輪陽介, 副島京子: 新たな焼灼法. 心室頻拍のすべて. 野上昭彦, 小林義典, 里見和浩編. 東京, 南江堂, 2016. p.123-130.
 9. 松下紀子, 副島京子: WPW症候群. *Medicina* 第54巻第3号. 東京, 医学書院, 2017. p.54.
 10. 安達仁, 大宮一人, 小川陽子, 木阪智彦, 小池朗, 合田あゆみ, 長山雅俊, 前田知子, 前原和平, 牧田茂, 松本晃裕子: 運動負荷試験とその解釈の原理 (原書第5版). 伊東春樹監訳. 東京, ジャパンハートクラブ, 2017.
- その他**
1. 伊波巧: 平成28年度杏林医学会奨励賞受賞, 三鷹, 2016年11月19日.
- 不整脈先進治療学研究講座**
- 講演**
1. 佐藤俊明: CIEDsの最新トピックステデバイス患者管理実務に関して. Sapporo Monitoring Management Conference ~Pioneer Spirits~, 札幌, 2016年6月11日.
 2. Sato T, Soejima K, Ueda A, Togashi I, Miwa Y, Higuchi S, Hoshida K, Matsushita N, Momose Y, Yoshino H: Implantation of Quadripolar Left Ventricular Lead for Cardiac Resynchronization Therapy in Contrast Material-Intolerant Patients. 第31回日本不整脈学会学術大会, 札幌, 2016年7月14-17日.
 3. Togashi I, Sato T, Soejima K, Ueda A, Miwa Y, Higuchi S, Hoshida K, Matsushita N, Momose Y, Yoshino H: The Comparison of Lethal Arrhythmic Episodes and the Cause of Death Between Patients with Cardiac Resynchronization Therapy Pacemaker and Defibrillator. 第31回日本不整脈学会学術大会, 札幌, 2016年7月14-17日.
 4. 佐藤俊明: S-ICDの患者ベネフィットを考える. S-ICDカンファレンス札幌, 札幌, 2016年9月10日.
 5. 佐藤俊明: 非気管内挿管下, 静脈麻酔によるS-ICD植込み. S-ICDカンファレンス東京, 東京, 2016年9月25日.
 6. 長岡身佳, 佐藤俊明, 吉野秀朗, 上田明子, 三輪陽介, 宮越睦, 星田京子, 松下紀子, 百瀬裕一, 竹内真介, 副島京子: 心筋炎急性期に単形性心室頻拍を合併し, 慢性期にも単形性心室頻拍のstormをきたした1例. 第29回心臓性急死研究会, 東京, 2016年12月17日.
 7. 佐藤俊明, 副島京子, 前田明子, 勝目有美, 竹内真介, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 星田京子, 三輪陽介, 上田明子, 吉野秀朗: 左室収縮能軽度低下を伴う洞不全症候群に対しHis束ペーシングを施行した1例. 第9回植込みデバイス関連冬季大会, 大阪, 2017年2月16-18日.
 8. 富樫郁子, 佐藤俊明, 勝目有美, 竹内真介, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 星田京子, 三輪陽介, 上田明子, 吉野秀朗, 副島京子: 2 incisionによるSubcutaneous-ICD植込み. 第9回植込みデバイス関連冬季大会, 大阪, 2017年2月16-18日.
 9. 星田京子, 佐藤俊明, 勝目有美, 竹内真介, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 吉野秀朗, 副島京子: 非気管内挿管下, 静脈麻酔によるS-ICD植込み. 第9回植込みデバイス関連冬季大会, 大阪, 2017年2月16-18日.
 10. 露口晃, 小沼健人, 中島明日美, 吉村高寛, 安村佑樹, 川上俊一郎, 村野祐司, 萩原陽, 佐藤俊明, 副島京子: 予測寿命より早期にERIに達したICD(SJM Current. の一例). 第9回植込みデバイス関連冬季大会, 大阪, 2017年2月16-18日.
 11. Matsushita N, Soejima K, Sato, T, Ueda A, Togashi

I, Miwa Y, Hoshida K, Nagaoka M, Momose Y, Takeuchi S, Katsume Y, Yoshino H: Cardiac MRI in Patients with Complete AV block for Risk Stratification for Heart Failure and Ventricular Tachycardia. 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017年3月17-20日.

論文

1. 百瀬裕一¹, 佐藤俊明, 長岡身佳¹, 松下紀子¹, 星田京子¹, 三輪陽介¹, 富樫郁子¹, 上田明子, 副島京子¹, 吉野秀朗¹ (杏林大・医・循環器内科): たこつぼ心筋症を外科手術後に再発し, 急性期に房室ブロックと心室頻拍を合併した1例. 心臓 48(Suppl. 1):130-135, 2016.
2. 百瀬裕一¹, 上田明子, 長岡身佳¹, 松下紀子¹, 星田京子¹, 三輪陽介¹, 富樫郁子¹, 前田明子¹, 佐藤俊明, 吉野秀朗¹, 副島京子¹ (杏林大・医・循環器内科): 左室中隔で voltage channel内でのペースマッピング中の multiple exit siteにてアブレーションに成功した大動脈弁置換術後の心室頻拍の1例. 心臓 48(Suppl. 2):237-243, 2016.
3. 松下紀子¹, 副島京子¹, 上田明子, 長岡身佳¹, 百瀬裕一¹, 樋口聡¹, 星田京子¹, 宮越睦¹, 三輪陽介¹, 富樫郁子¹, 佐藤俊明, 森山久美², 萬知子², 吉野秀朗¹ (杏林大・医・循環器内科, ²麻酔科): 星状神経節光線療法により植え込み型除細動器作動抑制が可能であったファロー四徴症根治術後, 心室細動電気的ストームの1例. 日本成人先天性心疾患学会雑誌 5:32-38, 2016.
4. 佐藤俊明: 条件付きMRI対応の植え込み型心臓デバイス. 循環器ナーシング 6:58-65, 2016.
5. 百瀬裕一¹, 佐藤俊明 (杏林大・医・循環器内科): 心房細動, 抗凝固薬, 抗血小板薬 心房細動(Question19). 治療 98(3):388-390, 2016.
6. 三輪陽介¹, 百瀬裕一¹, 長岡身佳¹, 松下紀子¹, 星田京子¹, 富樫郁子¹, 上田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗¹, 副島京子¹ (杏林大・医・循環器内科): 心室頻拍・心室細動 ICD・CRT-D 植え込み例におけるアミオダロンの使用. Progress in Medicine 36(Suppl. 1):451-453, 2016.
7. 星田京子¹, 佐藤俊明 (杏林大・医・循環器内科): 失神の既往のある肥大型心筋症はICDの適応か?. 救急・集中治療 29(3・4):283-290, 2017.

著書

1. 池田隆徳, 佐藤俊明: 心電図検定公式問題集&ガイド 改訂2版. 池田隆徳監修. 大阪, メディカ出版, 2017.

第二内科学教室 (血液内科)

講演

1. 川端恵未, 関雅史, 桑原彩子, 百瀬恵美, 小林誠, 佐藤範英, 高山信之: 非乾酪性肉芽腫を伴い, 確定診断までに3回の生検を要したホジキンリンパ腫の1例. 第5回日本血液学会関東甲信越地方会, 新潟, 2016年7月2日.
2. Satoh N, Seki M, Kuwabara A, Kobayashi M, Momose E, Takayama N: Successful cord blood transplantation for refractory cold agglutinin disease. 第78回日本血液学会学術集会, 横浜, 2016年10月13日.
3. Seki M, Satoh N, Kuwabara A, Takayama N: A case of chronic myeloid leukemia developed as extramedullary T-lymphoblastic blast crisis. 第78回日本血液学会学術集会, 横浜, 2016年10月13日.
4. Kobayashi M, Satoh N, Seki M, Kuwabara A, Momose E, Takayama N: Concurrent MDS and cryptic DLBCL in bone marrow: Emergence of overt lymphoma after AZA treatment. 第78回日本血液学会学術集会, 横浜, 2016年10月13日.
5. Takayama N, Kuwabara A, Seki M, Kobayashi M, Momose

E, Satoh N: Impact of very low-dose anti-thymocyte globulin in RIC regimen for cord blood transplantation. 第78回日本血液学会学術集会, 横浜, 2016年10月14日.

6. 高山信之: 移植適応骨髄腫患者に対する寛解導入療法. 多摩エムプリシティ発売記念講演会, 立川, 2016年11月4日.
7. 佐藤範英, 桑原彩子, 関雅史, 小林誠, 百瀬恵美, 高山信之: 自家移植後非寛解のDLBCLに対し, 早期の臍帯血移植が有効であった1例: 臍帯血による強力な移植片対リンパ腫効果の可能性. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 島根, 2017年3月4日.
8. 高山信之, 桑原彩子, 関雅史, 小林誠, 百瀬恵美, 佐藤範英: 当施設における非ホジキンリンパ腫に対する同種造血幹細胞移植の後方視的解析. 第39回日本造血細胞移植学会総会, 島根, 2017年3月4日.
9. 高山信之: 当施設におけるKRd療法の治療成績. TAMA Myeloma Summit, 立川, 2017年3月16日.
10. 関雅史, 佐藤範英, 桑原彩子, 小林誠, 齋藤邦昭, 永根基雄, 高山信之: 中枢神経病変による神経症状により発症したHepatosplenic T-cell lymphoma. 第6回日本血液学会関東甲信越地方会, 東京, 2017年3月18日.
11. 佐藤範英: 当施設における再発難治 indolent B-cell lymphoma に対するBR療法の治療成績. トレアキシン効果追加記念講演会, 立川, 2017年3月30日.

著書

1. 高山信之: メルカプトプリン水和物. プロフェッショナルがんナーシング2017年別冊 がん化学療法の薬 はや調ベノート. 古瀬純司編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p. 114-115.
2. 高山信之: フルダラビンリン酸エステル. プロフェッショナルがんナーシング2017年別冊 がん化学療法の薬 はや調ベノート. 古瀬純司編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p. 116-117.
3. 高山信之: クラドリビン. プロフェッショナルがんナーシング2017年別冊 がん化学療法の薬 はや調ベノート. 古瀬純司編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p. 118-119.
4. 高山信之: ダウノルビシン塩酸塩. プロフェッショナルがんナーシング2017年別冊 がん化学療法の薬 はや調ベノート. 古瀬純司編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p. 162-163.

第三内科学教室 (消化器内科)

講演

1. 久松理一: 潰瘍性大腸炎のマネージメントーモニタリングの重要性と最新治療に関するトピックス. Infliximab Meeting, 名古屋, 2016年4月8日.
2. 久松理一: クロウン病治療の現状と課題今後について. MLN0002 クロウン病試験全国説明会, 東京, 2016年4月9日.
3. 森秀明: 腹部エコーマスター講座 (STEP 1: ビギナー向けセミナー). アスリードセミナー, 東京, 2016年4月17日.
4. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 ビギナーセミナー 胆道・膵臓・脾臓. アスリードセミナー, 東京, 2016年4月17日.
5. 久松理一: IBDにおける抗TNF α 製剤が与えたインパクトと今後の課題. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016年4月21日.
6. 林田真理, 三浦みき, 久松理一: 当科における小腸憩室症についての検討. 第102回日本消化器病学会総会, 東

- 京, 2016年4月22日.
7. 久松理一: Bio時代の栄養療法を考えるー成分栄養療法のメカニズムと実践ー. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016年4月22日.
 8. 久松理一, 鈴木宏明, 金井隆典: Translational medicineへの展開を目指した腸疾患研究血漿アミノ酸プロファイルからのIBDバイオマーカーの確立のアプローチ. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016年4月23日.
 9. 久松理一: 小腸疾患のトピックスー非特異性多発性小腸潰瘍症の原因遺伝子同定ー. 第1回多摩GI・肝疾患研究会, 立川, 2016年4月27日.
 10. 林田真理, 三浦みき, 池崎修, 三井達也, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 徳永健吾, 小山元一, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 原因不明消化管出血で, NSAIDsや低用量バイアスピリン服用症例に対するパテンシーカプセルの有用性とカプセル内視鏡所見について. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016年5月13日.
 11. 大野亜希子, 新井健介, 畑英行, 土岐真郎, 辻陽介, 高橋信一, 藤城光弘, 久松理一: 当院における大腸ESD導入について. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016年5月13日.
 12. 清水孝夫, 奥山秀平, 八谷隆仁, 権藤興一, 關里和, 塚田幾太郎, 佐藤悦久, 川村直弘, 西川かおり, 森秀明, 久松理一, 高橋信一, 望月眞: NASH肝硬変にA型急性肝炎を合併した一例. 第339回日本消化器病学会関東支部例会, 2016年5月21日.
 13. Matsumoto T, Motoya S, Watanabe K, Hisamatsu T, Nakase H, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T: Comparison of Adalimumab Monotherapy and a Combination With Azathioprine for Patients With Crohn's Disease: A Prospective, Multicenter, Open-Labelled Clinical Trial (DIAMOND Study). Research Forum Digestive Disease Week, USA, May 21st-24th, 2016.
 14. 森秀明: 検査士および指導検査士制度の現状と問題点. 日本超音波医学会第89回学術集会, 京都, 2016年5月27日.
 15. 森秀明, 西川かおり, 塚田幾太郎, 關里和, 小樽二世, 本田普久, 峯佳毅, 岸野智則, 贅田真由美: 腹部領域におけるSMI (Superb Micro-vascular Imaging)の検討. 日本超音波医学会第89回学術集会, 京都, 2016年5月29日.
 16. 久松理一: IBD治療におけるアドヒアランスの重要性. 第7回千葉IBD講演会, 千葉, 2016年5月28日.
 17. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるチオプリン製剤と抗TNF抗体製剤の位置付け. 上越炎症性腸疾患セミナー, 上越, 2016年6月3日.
 18. 久松理一: 日本と多摩地区における大腸がん検診の現状. 第17回武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇談会. 武蔵野, 2016年6月7日.
 19. 久松理一: IBD治療戦略における抗TNF抗体製剤の位置づけ. 第16回IBDフォーラム in札幌, 札幌, 2016年6月11日.
 20. 青柳龍太郎, 今枝博之, 山岡稔, 芦谷啓吾, 大庫秀樹, 梅野淳嗣, 久松理一, 細江直樹, 山田健人, 宮川義隆, 橋本正良, 山本啓二, 中本秀友, 日比紀文, 松本主之: 貧血を契機に診断された非特異性多発性小腸潰瘍症の1例. 第102回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2016年6月11日.
 21. 土岐真朗, 両角克朗, 倉田勇, 高橋信一, 久松理一: 内視鏡載石術施行時におけるバスケット吸引法の有用性の検討. 第102回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2016年6月12日.
 22. 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一: 潰瘍性大腸炎と鑑別を要する内視鏡像を呈したMEFV変異の2例. 第102回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2016年6月12日.
 23. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療ー基本からピットフォーラムまでー. 城北IBD治療フォーラム, 東京, 2016年6月17日.
 24. 森英毅, 鈴木秀和, 伊藤慎芳, 浅岡大介, 鈴木雅之, 川村洋, 川上浩平, 榊信廣, 嶋田裕慈, 佐々木仁, 栗原直人, 小俣富美雄, 徳永健吾, 河合隆, 高橋信一 (東京HP研究会): 東京都内多施設共同調査による一次・二次除菌率の経年的変化ーボノブラザンは除菌率を如何に変えたかー. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月24日.
 25. 徳永健吾, 伊藤慎芳, 浅岡大介, 永原章仁, 嶋田裕慈, 水野滋章, 栗原直人, 川村洋, 小俣富美雄, 河合隆, 鈴木秀和, 大草敏史, 榊信廣, 峯徹哉, 高橋信一 (東京HP研究会): シタフロキサシンを用いた H. pylori 三次除菌療法の有用性ーボノブラザンの有用性も含めてー. 東京都内多施設検討会. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月25日.
 26. 伊藤慎芳, 浅岡大介, 森英毅, 永原章仁, 嶋田裕慈, 水野滋章, 小俣富美雄, 栗原直人, 鈴木秀和, 正岡建洋, 徳永健吾, 高橋信一, 榊信廣, 峯徹哉, 河合隆 (東京HP研究会): ペニシリンを用いないヘリコバクター除菌治療ーボノブラザンは有用か?ー. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月25日.
 27. 大崎敬子, 徳永健吾, 田中昭文, ザマンシンシア, 米澤英雄, 北条史, 花輪智子, 高橋信一, 神谷茂: Helicobacter pylori感染と胃内細菌叢. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月25日.
 28. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療の最適化. 久留米IBD Expert Meeting, 久留米, 2016年6月30日.
 29. Hisamatsu T: Management of IBD Current topics and future prospect. The 4th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis. Kyoto, July 8th, 2016.
 30. Hisamatsu T: Asian Forum Asian guidelines on IBD The 4th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis. Kyoto, July 8th, 2016.
 31. Ikezaki O, Mori H, Mitsui T, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Hayashida M, Hisamatsu T: Non-invasive assessment of ulcerative colitis by bowel ultrasonography. The 4th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Kyoto, July 8th, 2016.
 32. Saito D, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Tokunaga K, Mori H, Hisamatsu T: Two cases of MEFV mutations confirmed by endoscopic images, which requires differentiation from ulcerative colitis. The 4th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis. Kyoto, July 8th, 2016.
 33. 池崎修, 森秀明, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一: 活動期潰瘍性大腸炎における体外式超音波検査による罹患範囲診断, 活動性評価, 治療効果判定の有用性の検討. 第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2016年7月10日.
 34. 森秀明: 腹部超音波検査ー最近の話題ー. 第256回南部胃腸同好会, 青森, 2016年7月15日.
 35. 久松理一: CD治療におけるHUMIRA治療の最適化, 長期疾患管理を目指したCD治療. HUMIRA IBD Forum 2016, 東京, 2016年7月16日.
 36. 小栗典明, 倉田勇, 野坂岳士, 尾崎良, 深澤友里, 落合

- 一成, 太田博崇, 権藤興一, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 中村健二, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: Mirizzi症候群による胆道出血を来した稀な1例. 第340回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2016年7月16日.
37. 村上義孝, 大庭真梨, 桑原絵里加, 朝倉敬子, 竹内健, 長堀正和, 久松理一, 大藤さとこ, 福島若葉, 鈴木康夫, 西脇祐司: 潰瘍性大腸炎およびクローン病に関する二次調査の計画案. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会. 東京, 2016年7月21-22日.
 38. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型ペーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト(鈴木班・水木班合同プロジェクト). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 39. 杉田昭, 小金井一隆, 内野基, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 渡邊聡明, 福島浩平, 板橋道朗, 篠崎大, 池内浩基, 荒木俊光, 高橋賢一, 水島恒和, 畑啓介, 植田剛, 亀山仁史, 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病に対する外科治療の現況調査(多施設共同研究). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究東京」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 40. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとこ, 福島若葉, 梁井俊一, 稲場勇平, 藤谷幹治, 櫻庭裕丈, 遠藤克哉, 勝野達郎, 大森鉄平, 飯塚文瑛, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 内藤裕二, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 飯室正樹, 中村志郎, 長末智寛, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 穂苺量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 鈴木康夫, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験, Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 41. 松本主之, 本谷聡, 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 吉村直樹, 石田哲也, 加藤真吾, 長堀正和, 松井敏幸, 内藤裕二, 金井隆典, 鈴木康夫, 野島正寛, 渡辺守, 日比紀文: DIAMOND studyの経過報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 42. 久松理一, 松本主之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Diamond2試験参加施設多施設共同医師主導型臨床研究「アダリムマブと免疫調節剤併用中の寛解クローン病患者における免疫調節剤休業の検討-Diamond2」. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 43. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井郁仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: 「インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究—HAYABUSA study—」: 進捗状況報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 44. 久松理一, 中村志郎, 長堀正和, 横山薫, 国崎玲子, 辻川知之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Ceriser試験参加施設インフリキシマブによる寛解維持治療における効果不十分なクローン病患者を対象とした栄養療法併用効果確認試験(CERISIER Trial). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 45. 金井隆典, 長沼誠, 杉本真也, 水野慎大, 南木康作, 内藤裕二, 内山和彦, 安藤朗, 馬場重樹, 光山慶一, 山崎博, 金城福則, 渡辺憲治, 石黒陽, 田中信治, 上野義隆, 穂苺量太, 渡辺知佳子, 佐々木誠, 北村和哉, 花井洋行, 池谷賢太郎, 新井勝大, 清水泰岳, 北野厚生, 松本主之, 梁井俊一, 吉田優, 星奈美子, 仲瀬裕志, 山本隆行, 大井秀久, 鮫島洋一, 稲津東彦, 芦塚伸也, 吉村直樹, 渡辺修, 松岡克善, 渡辺守, 上野伸展, 藤谷幹弘, 日比紀文, 小林拓, 平井郁仁, 三枝慶一郎, 中澤敦, 諸星雄一, 市川仁志, 久松理一, 中村志郎, 櫻庭裕丈, 猿田雅之, 山本章二郎, 竹内健, 鈴木康夫: カプセル化された青蒿の潰瘍性大腸炎に対する無作為化二重盲検比較試験(多施設共同研究). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 46. 仲瀬裕志, 本澤有介, 小野寺馨, 本谷聡, 田中浩紀, 松浦稔, 豊永貴彦, 小林拓, 久松理一, 国崎玲子, 江崎幹宏, 竹内健, 石黒陽, 松本主之, 鈴木康夫, 日比紀文: 炎症性腸疾患病態におけるMEFV遺伝子変異の意義. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 47. 角田洋一, 木内喜孝, 内藤健夫, 佐々木誠人, 岡庭紀子, 小林拓, 西田淳史, 花井洋行, 飯田貴之, 久松理一, 石黒陽, 中村志郎, 高川哲也, 長沼誠, 梁井俊一, 平岡佐規子, 穂苺量太, 遠藤克哉, 安藤朗, 鈴木康夫, 下瀬川徹: 炎症性腸疾患患者におけるチオプリン関連副作用とNUDT15遺伝子多型との相関性に関する多施設共同研究(MENDEL Study). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月21-22日.
 48. 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 久松理一, 河内修司, 青柳邦彦, 渡辺憲治, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月22日.
 49. 杉浦悠毅, 服部裕子, 末松誠, 久松理一: 組織/血清材料中プロスタグランジンの網羅的解析による疾患プロファイル. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月22日.
 50. 緒方晴彦, 細江直樹, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 梁井俊一, 大塚和朗, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の内視鏡像とアトラス作成の試み. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月22日.
 51. 仲瀬裕志, 小野寺馨, 田中浩紀, 本谷聡, 本澤有介, 松浦稔, 豊永貴彦, 小林拓, 国崎玲子, 石黒陽, 竹内健, 鈴木康夫, 渡辺英伸, 久松理一, 日比紀文: 地中海熱類縁腸炎(MEFV関連腸炎)の診断法確立に向けて—臨床所見ならびに遺伝子解析検討結果—. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第1回総会, 東京, 2016年7月22日.
 52. 森秀明: 日常臨床における肝疾患のトータルマネージメント 日常臨床に役立つ肝臓の超音波検査. 超音波セミナー2016, 横浜, 2016年7月23日.

53. 久松理一: 進歩している炎症性腸疾患治療. 第17回臨床消化器病研究会, 東京, 2016年7月23日.
54. 土岐真朗, 久松理一: 高齢者の胆嚢診療ガイドライン. 第19回日本高齢消化器病学会総会, 東京, 2016年7月23日.
55. 三井達也, 齋藤大祐, 尾崎良, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 当院における超高齢者の大腸憩室出血についての検討. 第19回日本高齢消化器病学会総会, 東京, 2016年7月23日.
56. 権藤興一, 土岐真朗, 後藤知之, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 高齢者(80歳以上)の膵癌による胆管狭窄に対するSelf-Expandable Metallic Stentの使用成績. 第19回日本高齢消化器病学会総会, 東京, 2016年7月23日.
57. 久松理一: 1時間でわかる炎症性腸疾患. 西東京市消化器科医会講演会, 西東京, 2016年7月27日.
58. 奥山秀平: PBCの病態とかゆみの現状~アンケート調査の結果に基づいて~. レミッチ効能追加1周年記念講演会 in 多摩, 立川, 2016年7月28日.
59. 長堀正和, 井上詠, 久松理一: 腸管ペーチェットガイドライン作成の経過報告. 厚生労働科学研究難治性疾患等政策研究事業 ペーチェット病に関する調査研究班 平成28年度第1回会議, 横浜, 2016年7月29日.
60. 久松理一: Bio時代の栄養療法を考えるー成分栄養剤のメカニズムと実践ー. 第14回IBD Club Jr. Kyushu, 福岡, 2016年7月30日.
61. 久松理一: 炎症性腸疾患の病態と治療. 持田製薬社内講演, 東京, 2016年8月3日.
62. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるチオプリンと抗TNF α 抗体製剤の位置付け. 三重IBD研究会, 津, 2016年8月4日.
63. 落合一成, 土岐真朗, 太田博崇, 権藤興一, 新井健介, 渡邊俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 感染性膵仮性嚢胞より肝膿瘍を生じ, 内視鏡的に治療し得た1例. 第47回日本膵臓学会大会, 仙台, 2016年8月4-7日.
64. 森秀明: 日常臨床における肝疾患のトータルマネージメント 日常臨床に役立つ肝臓の超音波検査. 超音波セミナー2016, 東京, 2016年8月27日.
65. 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病診療の課題と今後の展望. IBD Clinical Seminar 2016 (広島), 広島, 2016年9月6日.
66. 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病診療の課題と今後の展望. 第44回日本臨床免疫学会総会, 東京, 2016年9月9日.
67. 久松理一: 分子標的薬のアンニアルレビューー炎症性腸疾患における分子標的薬 Update. 第44回日本臨床免疫学会総会, 東京, 2016年9月10日.
68. 久松理一: 抗TNF α 抗体製剤の現状と課題. 第30回浜名湖胃と腸フォーラム, 浜松, 2016年9月10日.
69. 久松理一: 1時間で学ぶIBDの病態. 第16回岡山IBDカンファレンス, 岡山, 2016年9月15日.
70. Nakamura M, Øverby A, Kodama Y, Matui H, Takahashi S: Helicobacter heilmannii -induced salivary and lacrimal gland lymphocytic infiltration in mouse: relation to Sjogren Syndrome. XXIXth International Workshop on Helicobacter and Microbiota in Inflammation & Cancer. Germany, September 15th-19th, 2016.
71. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: Metagenomic analysis for microbial ecology between Helicobacter pylori and gastric microbiota in the patients with atrophic gastritis. XXIXth International workshop on Helicobacter & Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 17th, 2016.
72. 森秀明: 腹部エコーマスター講座アドバンスドエコーセミナー. アスリードセミナー, 東京, 2016年9月18日.
73. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座アドバンスドセミナー胆道・膵臓. アスリードセミナー, 東京, 2016年9月18日.
74. 久松理一: 非特異性多発性小腸潰瘍症の原因遺伝子同定から学んだこと若手消化器内科Dr.へのメッセージ. 日本消化器病学会関東支部第341回例会, 東京, 2016年9月24日.
75. 宮本尚彦, 池崎修, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 望月眞, 久松理一: 癌性腹膜炎が疑われ, 病理解剖で腹膜中皮腫と診断し得た一例. 日本消化器病学会関東支部第341回例会, 東京, 2016年9月24日.
76. 久松理一: 難治性小腸潰瘍のトピックス~腸管ペーチェット病と非特異性多発性小腸潰瘍症~. 第100回宮城IBD研究会, 仙台, 2016年10月1日.
77. 徳永健吾: ピロリ除菌~何歳までを適応と考えるか?~. 第15回静岡県消化器科医会総会学術講演会, 静岡, 2016年10月8日.
78. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるチオプリン製剤と抗TNF α 抗体製剤の位置づけ. 秋田県IBD講演会2016, 秋田, 2016年10月14日.
79. Tokunaga K, Tanaka A, Saito D, Miura M, Hayashida M, Takahashi S, Mori H, Hisamatsu T: Eradication Rate of New Potassium-Competitive Acid Blocker Based Regimen Compared with Rabeprazole-Based Regimen in Helicobacter pylori Third-line Rescue Therapy. The 81st Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 14th-19th, 2016.
80. 久松理一: 炎症性腸疾患におけるアフェレーシス 現在のエビデンスと今後の展望. 第8回鹿児島消化器アフェレーシス研究会, 鹿児島, 2016年10月28日.
81. Hisamatsu T: IBD Consensus Symposium, Asia Pacific Consensus on IBD Management. Consensus statement for HBV screening and monitoring in patients with inflammatory bowel disease on immunosuppressive therapy in Asia APDW 2016, Kobe, November 2nd-5th, 2016.
82. Mitsui T, Hayashida M, Ikezaki O, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Tokunaga K, Mori H, Takahashi S, Hisamatsu T: Evaluation of the colonic diverticular bleeding in very elderly patients in our hospital. APDW2016, Kobe, November 2nd-5th, 2016.
83. Ochiai K, Watanabe S, Toki M, Fukasawa Y, Ota H, Gondo K, Kurata I, Hasue T, Nakamura K, Yamaguchi Y, Morozumi K, Mori H, Takahashi S, Hisamatsu T: Therapeutic strategy for common bile duct stones in very elderly patients (90 years of age or older). APDW2016, Kobe, November 2nd-5th, 2016.
84. 倉田勇, 土岐真朗, 久松理一: EST後出血に対するエビネフリン加の生理食塩水散布止血法の有用性についての検討. デジタルポスターセッションJDDW 2016, 神戸, 2016年11月3-5日.
85. 渡邊俊介, 土岐真朗, 後藤知之, 深澤友里, 太田博崇,

- 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 山口康晴, 望月眞, 両角克朗, 森秀明, 古瀬純司, 高橋信一, 久松理一: 膵癌による胆管狭窄における経乳頭の胆管生検およびブラシ細胞診の正診率と寄与因子の検討. デジタルポスターセッションJDDW 2016, 神戸, 2016年11月3-5日.
86. 久松理一: 炎症性腸疾患に対する経腸栄養の作用メカニズムを見直す. 第12回日本食品免疫学会, 東京, 2016年11月9日.
87. Hisamatsu T: Intestinal tuberculosis meets CD First ECCO-AOCC Educational Workshop, China, November 11th, 2016.
88. 林田真理, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 山崎浩, 千葉厚郎, 森秀明, 久松理一: 小腸カプセルが診断に有用であった脳有鉤囊虫症および有鉤条虫症重複感染邦人患者の1例. 第54回小腸研究会, 第54回小腸研究会, さいたま, 2016年11月12日.
89. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療 - 難治性への対応とピットフォール -. 第21回山形県炎症性腸疾患研究会, 山形, 2016年11月12日.
90. 久松理一: 炎症性腸疾患治療薬を使用する際の留意点. 東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会, 八王子, 2016年11月15日.
91. 久松理一: 今後出てくるIBD新規治療. 日本炎症性腸疾患学会 (JSIBD) 教育セミナー, 京都, 2016年11月23日.
92. 久松理一: 腸管ペーチェット病診療の現状と課題. 第38回大腸病態・治療研究会, 大阪, 2016年11月24日.
93. 高橋信一: ピロリ菌と胃がん検診. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2016年11月26日.
94. 森秀明: スキルアップレクチャーIV ポイント整理! 腹部エコー (肝・脾) スクリーニングから精査まで. 千葉エコー研究会第14回研究会, 千葉, 2016年11月27日.
95. 西川かおり: ポイント整理 腹部エコー (胆・膵) スクリーニングから精査まで. 第14回千葉エコー研究会第14回研究会, 千葉, 2016年11月27日.
96. 久松理一: Double A-side IBDの病態と新規治療法/腸管ペーチェット病についての基本知識. 虎の門IBDフォーラム, 東京, 2016年11月30日.
97. 久松理一: クロウン病におけるヒュミラの適性使用~最近の話題と展望~. IBD Expert Conference in TOCHIGI, 宇都宮, 2016年12月1日.
98. 久松理一, 長堀正和, 井上詠: 腸管ペーチェットガイドライン作成の経過報告 (鈴木班・水木班合同プロジェクト). 厚生労働科学研究難治性疾患等政策研究事業ペーチェット病に関する調査研究班平成28年度第2回会議, 横浜, 2016年12月2日.
99. 和田晴香, 林田真理, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 大森嘉彦, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 上市英雄, 徳永健吾, 望月眞, 森秀明, 久松理一: 慢性下痢を契機に診断に至った米国人セリアック病の一例. 日本消化器病学会関東支部第342回例会, 東京, 2016年12月3日.
100. 箕輪慎太郎, 齋藤大祐, 岡部直太, 佐藤太龍, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 戸成綾子, 望月眞, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 大腸内視鏡検査が診断に有用であった放射線性腸炎早期障害の1例. 日本消化器病学会関東支部第342回例会, 東京, 2016年12月3日.
101. 深澤友里, 土岐真朗, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 森秀明, 久松理一: 脾被膜下出血を伴った反復膵炎を契機に診断に至った膵癌の1例. 日本消化器病学会関東支部第342回例会, 東京, 2016年12月3日.
102. 川村直弘: サルコペニアの診断基準. 第20回肝臓病治療を考える栄養士の会, 東京, 2016年12月3日.
103. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるチオプリン製剤と抗TNF α 抗体製剤の位置づけ. 静岡県東部IBD治療フォーラム, 沼津, 2016年12月7日.
104. 森秀明: 超音波所見を極める「腎・膀胱」. 超音波スクリーニング研修講演会2016, 東京, 2016年12月17日.
105. 楠原光謙, 大野亜希子, 田邊秀聡, 新井健介, 神保陽子, 畑英行, 森秀明, 北村浩, 菅間博, 久松理一: ヒトパピローマウイルス持続感染により発症した高異型度肛門上皮内腫瘍に対してESDを施行した1例. 第103回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2016年12月18日.
106. 徳永健吾: ピロリ菌のお話し. 第9回小金井つるかめ健康セミナー, 小金井, 2017年1月13日.
107. 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 久松理一, 河内修司, 青柳邦彦, 渡辺憲治, 平井郁仁, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之: 尿中プロスタグランジンE主要代謝産物 (PGE-MUM) 検査の非特異性多発性小腸潰瘍症における有用性. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19日.
108. 緒方晴彦, 細江直樹, 長沼 誠, 金井隆典, 久松理一, 梁井俊一, 大塚和朗, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の内視鏡像とアトラス作成の試み. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19日.
109. 久松理一, 杉浦悠毅, 服部裕子, 金井隆典, 末松誠: 組織/血清試料中プロスタグランジンの網羅的解析による疾患プロファイル 進捗状況. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19日.
110. 仲瀬裕志, 小野寺馨, 田中浩紀, 本谷聡, 本澤有介, 松浦稔, 豊永貴彦, 小林拓, 国崎玲子, 石黒陽, 竹内健, 鈴木康夫, 渡辺英伸, 久松理一, 日比紀文: 地中海熱類縁腸炎 (MEFV関連腸炎) の診断法確立に向けて. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19日.
111. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 小林拓, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型ペーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト (鈴木班・水木班合同プロジェクト). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
112. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 梁井俊一, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 遠藤克哉, 勝野達郎, 大森鉄平, 飯塚文瑛, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 内藤裕二, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 飯室正樹, 中村志郎, 長末智寛, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 徳苺量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 鈴木康夫, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験, Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.

113. 松本主之, 本谷聡, 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 渡辺守, 日比紀文: DIAMOND studyの結果と今後. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
114. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井都仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎疾患に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究—HAYABUSA study—: 進捗状況報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
115. 久松理一, 中村志郎, 長堀正和, 横山薫, 国崎玲子, 辻川知之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Ceriser 試験参加施設インフリキシマブによる寛解維持治療における効果不十分なクローン病患者を対象とした栄養療法併用効果確認試験 (CERISIER Trial). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
116. 杉田昭, 小金井一隆, 内野基, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 渡邊聡明, 福島浩平, 板橋道朗, 篠崎大, 池内浩基, 荒木俊光, 高橋賢一, 水島恒和, 畑啓介, 植田剛, 亀山仁史, 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病, 単純性潰瘍手術例の特徴と予後—多施設共同研究による調査—. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
117. 仲瀬裕志, 本澤有介, 小野寺馨, 本谷聡, 田中浩紀, 松浦稔, 豊永貴彦, 小林拓, 久松理一, 国崎玲子, 江崎幹宏, 竹内健, 石黒陽, 松本主之, 鈴木康夫, 日比紀文: 炎症性腸疾患病態におけるMEFV遺伝子変異意義. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
118. 角田洋一, 木内喜孝, 内藤健夫, 佐々木誠人, 岡庭紀子, 小林拓, 西田淳史, 花井洋行, 飯田貴之, 久松理一, 石黒陽, 中村志郎, 高川哲也, 長沼誠, 梁井俊一, 平岡佐規子, 穂苅量太, 遠藤克哉, 安藤 朗, 鈴木康夫, 下瀬川徹: 炎症性腸疾患患者におけるチオプリン関連副作用とNUDT15遺伝子多型の相関性に関する多施設共同研究 (MENDEL Study). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成28年度第2回総会, 東京, 2017年1月19-20日.
119. 久松理一: IBD治療のUp to Date. 第7回長崎消化器Apheresis研究会, 長崎, 2017年1月27日.
120. 倉田勇, 土岐真朗, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 小暮正晴, 蓮江智彦, 中村健二, 鈴木裕, 山口康晴, 森秀明, 杉山政則, 高橋信一, 久松理一: 急性胆嚢炎合併胆嚢癌に対してENGBD tube留置で加療診断した症例. 第36回多摩消化器シンポジウム, 三鷹, 2017年1月28日.
121. 大野亜希子: 緊急内視鏡から除菌まで. 第2回武蔵野Meet the expert, 三鷹, 2017年2月3日.
122. 佐藤太龍, 三浦みき, 齋藤大祐, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 千葉宏和, 望月眞, 菅間博, 高山信之, 正木忠彦, 森秀明, 久松理一: 腸閉塞を契機に診断されたT細胞リンパ腫の一例. 日本消化器病学会関東支部第343回例会, 東京, 2017年2月4日.
123. 八谷隆仁, 徳永創太郎, 太田博崇, 高橋信一, 田部井弘一, 小山元一, 久松理一, 白山才人, 山口高史, 柳田修, 二階堂孝: 肝表面の播種結節に対し超音波ガイド下針生検にて診断しえた悪性腹膜中皮腫の1例. 日本消化器病学会関東支部第343回例会, 東京, 2017年2月4日.
124. 中村正彦, 松久威史, 高橋信一, 鈴木雅之, 鈴木秀和: 本邦およびミャンマー, ネパールにおける胃疾患NHPHおよびHp感染症例の統計学, 免疫組織化学的解析. 第13回日本消化管学会総会学術集会, 名古屋, 2017年2月17日.
125. 大野亜希子, 楠原光謹, 新井健介, 久松理一: 大型隆起性病変に対する大腸ESDの失敗からの教訓—剥離のストラテジーと追加治療のタイミング—. 第13回日本消化管学会, 名古屋, 2017年2月18日.
126. 齋藤大祐, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: MEFV遺伝子変異に伴う消化管病変. 第13回日本消化管学会, 名古屋, 2017年2月18日.
127. 久松理一: 今出来る最善のIBD治療を考える ステロイド依存性潰瘍性大腸炎の治療戦略. 第13回日本消化管学会, 名古屋, 2017年2月18日.
128. 林田真理, 三浦みき, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 三井達也, 池崎修, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 徳永健吾, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: カプセル内視鏡が診断の契機となったextranodal NK/T-cell lymphoma, nasal typeの一例. 第10回日本カプセル内視鏡学会, 名古屋, 2017年2月19日.
129. Hisamatsu T, Umeno J, Matsumoto T: Identification of a novel disease entity, chronic enteropathy associated with SLC02A1 (CEAS). The 10th International Gastrointestinal Consensus Symposium, Nagoya, February 17th, 2017.
130. Ohno A, Kusahara M, Arai K, Tokunaga K, Hisamatsu T: What is the benefit of gastric ESD under general anesthesia compared with that under conscious sedation?. The 10th International Gastrointestinal Consensus Symposium, Nagoya, February 17th, 2017.
131. 奥山秀平, 川村直弘, 片元遥香, 塚田美裕, 千野貴子, 丹波光子, 宮本孝英, 箕輪慎太郎, 小嶋幸一郎, 保坂利男, 大浦紀彦: 当院における肝硬変患者へのレボカルニチン製剤の使用状況と効果について. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017年2月23日.
132. 久松理一: 新しい治療選択を適正に使用するために 他領域での経験 - 消化器領域 -. ヒュミラ ぶどう膜炎全国講演会, 東京, 2017年2月25日.
133. 久松理一: IBD治療におけるアドヒアランスを向上させるには?. 第12回南神奈川腸疾患カンファレンス, 鎌倉, 2017年3月2日.
134. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療における疾患活動性モニタリングの重要性. 佐倉塾2017春, 幕張, 2017年3月10日.
135. 森秀明: 実臨床における腹部超音波診断. アヴイ合同会社社外講師勉強会, 三鷹, 2017年3月15日.

論文

1. 田中昭文, 徳永健吾, 久松理一, 高橋信一: 高齢者におけるH. pylori一次除菌療法—clarithromycin耐性率と除菌率による検討—. 日本高齢消化器病学会誌 18(2):73-76, 2016.
2. 渡邊俊介, 土岐真朗, 楠原光謹, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 90歳以上の超高齢者における総胆管結石症の治療成績. 日本高齢消化器病学会誌 18(2):43-47, 2016.
3. 土岐真朗, 山口康晴, 楠原光謹, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 渡邊俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 両角克朗, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 後期高齢者におけるERCP関連手技の腸管蠕動抑制薬投与法の工夫. 日本高齢消化器病学会誌 18(2):19-24, 2016.
4. Suzuki H, Hisamatsu T, Chiba S, Mori K, Kitazume

- MT, Shimamura K, Nakamoto N, Matsuoka K, Ebinuma H, Naganuma M, Kanai T: Glycolytic pathway affects differentiation of human monocytes to regulatory macrophages. *Immunol Lett* 176:18-27, 2016.
5. 小林拓, 梅野淳嗣, 久松理一, 江崎幹宏, 松井敏幸, 松本主之, 日比紀文: 非特異性多発性小腸潰瘍症の難病指定とSLC02A1関連小腸症. *日本消化器病学会雑誌* 113(8):1380-1385, 2016.
 6. Saigusa K, Matsuoka K, Sugimoto S, Arai M, Kiyohara H, Takeshita K, Mizuno S, Mori K, Nanki K, Takeshita T, Nakazato Y, Yajima T, Naganuma M, Hisamatsu T, Ogata H, Iwao Y, Kanai T: Ulcerative colitis endoscopic index of severity is associated with long-term prognosis in ulcerative colitis patients treated with infliximab. *Dig Endosc* 28(6):665-670, 2016.
 7. Kinoshita S, Nishizawa T, Hisamatsu T, Kanai T, Yahagi N: Polyglycolic acid sheet for closure of esophagobronchial fistula in a patient with Behçet's disease. *Gastrointest Endosc.* S0016-5107(16):30380-30387, 2016.
 8. Matsumoto T, Motoya S, Watanabe K, Hisamatsu T, Nakase H, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T: Diamond Study Group. Adalimumab monotherapy and a combination with azathioprine for Crohn's disease: A prospective, randomized trial. *J Crohns Colitis* 10(11):1259-1266, 2016.
 9. Hisamatsu T, Erben U, Kuhl AA: The role of T-cell subsets in chronic inflammation in Celiac disease and inflammatory bowel disease patients: More common mechanisms or more differences?. *Inflamm Intest Dis* 1:52-56, 2016.
 10. 中村正彦¹, 間部克裕², 高橋信一^(¹北里大学, ²国立病院機構函館病院): H. heilmannii による胃炎. *消化器内科* 28(8):1330-1331, 2016.
 11. 高橋信一¹, 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一^(¹佼成病院): 高齢者の消化性潰瘍. *Modern Physician* 36(11):1158-1160, 2016.
 12. 徳永健吾: 胃がんリスク検診(ABC検診)の事後指導について～A群でヘリコバクター・ピロリ抗体陰性高値の場合の対応を含めて～. *三鷹医人往来* 38: 17-19, 2016.
 13. Nakamura M¹, Øverby A¹, Kodama Y¹, Matui H², Takahashi S^(¹Kitasato Univ, ²Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato Univ): Helicobacter heilmannii -induced salivary and lacrimal gland lymphocytic infiltration in mouse: relation to Sjogren Syndrome. *Helicobacter* 29(Suppl): 90-91, 2016.
 14. Watanabe K¹, Kishino T², Sano J¹, Ariga T¹, Okuyama S, Mori H, Matsushima S³, Ohtsuka K³, Ohnishi H³, Watanabe T³ (¹Department of Clinical Laboratory, ²Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ³Department of Laboratory Medicine): Relationship between epicardial adipose tissue thickness and early impairment of left ventricular systolic function in patients with preserved ejection fraction. *Heart Vessels* 31: 1010-1015, 2016.
 15. 徳永健吾, 村上和成: 新しい除菌薬を含めたこれからの除菌法. *日本ヘリコバクター学会誌* 18:40-41, 2017.
 16. Øverby A¹, Murayama S.Y⁷, Michimae H², Suzuki H³, Suzuki M⁴, Serizawa H⁵, Tamura R⁸, Nakamura S⁶, Takahashi S, Nakamura M^(¹Kitasato Univ, ²Kitasato Institute for Life Sciences Kitasato Univ, ³Medical Education Center Keio Univ, ⁴Division of Gastroenterology National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁵Kitasato Institute Hospital, ⁶Tokyo Women's Medical Univ, ⁷Nihon Univ, ⁸Kobe City Medical Center): Prevalence of Gastric Non-Helicobacter pylori- Helicobacters in Japanese Patients with Gastric Disease. *Digestion* 95(1): 61-66, 2017.
 17. IGCS Study Group (Yoshida A, Ueno F, Morizane T, Joh T, Kamiya T, Takahashi S, Tokunaga K, Iwakiri R, Kinoshita Y, Suzuki H, Naito Y, Uchiyama K, Fukudo S, Chan F.K.L, Hahm K.B, Kachintorn U, Fock K.M, Rani A.A, Syam A.F, Sollano J.D, Zhu Q): Asian perspectives on diagnostic and therapeutic strategies in inflammatory bowel disease: Report and analysis of a survey with questionnaires. *Digestion* 95(1):79-88, 2017.
 18. Shinozaki M, Kobayashi K, Kunisaki R, Hisamatsu T, Naganuma M, Takahashi K, Iwao Y, Suzuki Y, Watanabe M, Itabashi M, Torii A, Takazoe M, Sugita A: Surveillance for Dysplasia in Patients with Ulcerative Colitis: Discrepancy between Guidelines and Practice. *Dig Endosc.* 2017. (Epub).
 19. Naganuma M, Okuda S, Hisamatsu T, Matsuoka K, Mori K, Hosoe N, Nakazato Y, Ogata H, Kanai T: Findings of ulceration and severe stricture on MRE can predict prognosis of Crohn's disease in patients treated with anti-TNF treatment. *Abdom Radiol(NY)* 42(1):141-151, 2017.
 20. 権藤興一, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 高齢者(80歳以上)の膵癌による胆管閉塞に対するSelf-Expandable Metallic Stentの有用性と安全性についての検討. *日本高齢消化器病学会誌* 19(2):39-43, 2017.
 21. Chiba S, Hisamatsu T, Suzuki H, Mori K, Kitazume MT, Shimamura K, Mizuno S, Nakamoto N, Matsuoka K, Naganuma M, Kanai T: Glycolysis regulates LPS-induced cytokine production in M2 polarized human macrophages. *Immunology Letters* 183:17-23, 2017.
- ### 著書
1. 久松理一: 6-メルカプトプリン/アザチオプリン. 薬局炎症性腸疾患. 東京, 南山堂, 2016. p.27-31.
 2. 久松理一: Crohn病. 成人病と生活習慣病 不定愁訴とどう向き合うか. 東京, 東京医学社, 2016. p.1286-1291.
 3. 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 久松理一, 河内修司, 蔵原晃一, 安川重義, 平井郁仁, 松井敏幸, 八尾恒良, 北園孝成, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症(CEAS)の発症メカニズム. *GI Research 小腸潰瘍発症メカニズムはどこまで明らかになったか*. 吉川敏一編. 東京, 先端医学社, 2016. p.20-27.
 4. 久松理一: SLC02A1の機能とプロスタグランジン関連腸症. *GI Research 小腸潰瘍発症メカニズムはどこまで明らかになったか*. 吉川敏一編. 東京, 先端医学社, 2016. p.28-33.
 5. 高橋信一, 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一: 高齢者の消化性潰瘍. *Modern Physician* 36-11 高齢者の消化器疾患-いつもの対処とどこが違うのか!-. 東京, 新興医学出版社, 2016. p.1158-1160.
 6. 大野亜希子, 林田真理, 久松理一: 特殊な形態を呈する病変 Double Pylorus. *消化器内視鏡 胃疾患アトラス*.

- 東京, 東京医学社, 2016. p.1384-1385.
7. 森秀明: 初学者のためのわかる腹部エコー第2版 所見からみた超音波鑑別診断. 東京, 文光堂, 2016.
 8. 森秀明: 救急・当直の現場で役立つ腹部超音波診断ファーストステップ. 東京, 診断と治療社, 2016.
 9. 徳永健吾, 高橋信一: 胃リンパ腫(DLBCLを中心に). ピロリ陰性時代の上部消化管内視鏡. 山本頼正, 角嶋直美編, 東京, 文光堂, 2016. p.166-169.
 10. 高橋信一: H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン. 日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会編. 東京, 先端医学社, 2016.
 11. Nakamura M, Øverby A, Murayama S.Y, Suzuki H, Takahashi T, Takahashi S, Matsui H: Gastric Non-Helicobacter pylori-Helicobacter: Its significance in human gastric diseases. Helicobacter pylori. Suzuki H, Warren R, Marshall B, editors, Japan, Springer Japan KK, 2016. p.131-140.
 12. 土岐真朗, 渡邊俊介, 倉田勇, 森秀明, 久松理一, 古瀬純司: 消化器がんの合併症とがん化学療法: 消化管閉塞・穿孔, 胆管閉塞. 臨床消化器内科 Vol.31 NO.7. 東京, 日本メディカルセンター, 2016. p.43-47.
 13. 土岐真朗: “染色ムラ”の少ない食道ルゴール撒布法教. 科書では教えてくれない! 私の内視鏡Tips Tips25. Web. Gastropedia, 2016. (https://gastro.igaku-shoin.co.jp/article/show/tips_25).
 14. 阿部展次, 土岐真朗, 杉山政則: 胃顆粒細胞腫. 消化器内視鏡 vol.28 No.8 胃疾患アトラス. 東京, 東京医学社, 2016. p.1224-1225.
 15. 渡邊俊介, 土岐真朗, 久松理一, 古瀬純司: 化学療法中に胆管ステントの閉塞と胆管炎を発症した膵癌の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 東京, 医学と看護社, 2016. p.82-86.
 16. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 582. 東京, 日経BP社, 2016. p.85-86.
 17. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 586. 東京, 日経BP社, 2016. p.85-86.
 18. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 590. 東京, 日経BP社, 2016. p.73-74.
 19. 久松理一: IBD薬物医療の現状. 日本医事新報(4839). 渡辺守監修, 東京, 日本医事新報社, 2017. p.28-35.
 20. 三浦みき, 林田真理, 久松理一: 免疫調節薬・カルシニューリン阻害薬. 日本臨床 炎症性腸疾患—最近の診断・治療—. 大阪, 日本臨床社, 2017. p.408-413.
 21. 久松理一: 腸管Behcet病. 診断と治療 これ一冊でわかる消化器 診断基準と分類法. 穂苅量太編, 東京, 診断と治療社, 2017. p.169-173.
7. 森秀明: 超音波指導検査士によるレクチャー 座長. GEUltrasound Clinical Seminar2016. 東京, 2016年7月31日.
8. Hisamatsu T: APAGE 2nd Clinical Forum on Inflammatory Bowel Disease 座長, Thailand, August 26th-27th, 2016.
 9. 久松理一: 第3回多摩Biological 座長, 立川, 2016年9月2日.
 10. 久松理一: 読売・日本テレビ文化センター健康公開講座・府中市 司会, 府中, 2016年9月4日.
 11. 久松理一: 第44回日本臨床免疫学会総会 司会, 東京, 2016年9月8-10日.
 12. 森秀明: liver Conference in Musashino 座長. 東京, 2016年9月14日.
 13. 久松理一: 第2回下部消化管カンファレンス 座長, 立川, 2016年9月28日.
 14. 久松理一: 第12回多摩腸疾患カンファレンス 座長, 立川, 2016年9月30日.
 15. 森秀明: 第40回超音波ドブラ研究会 座長, 東京, 2016年10月1日.
 16. 森秀明: 講習会・イメージリーディング 座長, 日本超音波医学会関東甲信越地方会第28回学術集会, 東京, 2016年10月23日.
 17. 久松理一: ランチョンセミナー 司会, JDDW 2016, 神戸, 2016年11月2-5日.
 18. 久松理一: デジタルポスター 座長, JDDW 2016, 神戸, 2016年11月2-5日.
 19. Hisamatsu T: Digital Poster Chairperson, APDW 2016, Kobe, November 2nd-5th, 2016.
 20. 久松理一: 一般演題ポスター 座長, 第71回日本大腸肛門病学会学術集会, 伊勢, 2016年11月18日.
 21. 久松理一: 第15回多摩炎症性腸疾患研究会 座長, 立川, 2016年11月25日.
 22. 久松理一: ランチョンセミナー 司会, 第13回日本消化器学会, 名古屋, 2017年2月18日.
 23. 久松理一: シンポジウム 座長, 第10回日本カプセル内視鏡学会, 名古屋, 2017年2月19日.
 24. 久松理一: アミティーザ4周年発売講演会 司会, 武蔵野, 2017年3月16日.

第三内科学教室
(糖尿病・内分泌・代謝内科)

講演

1. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者におけるDPP4阻害薬のポジショニングと使い分け. New Wind for Diabetes and Complication(全国講演会), 東京, 2016年4月10日.
2. 保坂利男: これからの2型糖尿病治療戦略. 明日からの糖尿病治療を考える懇話会, 坂戸, 2016年4月14日.
3. 炭谷由計, 須崎由香, 藤澤裕基, 石飛実紀, 石本麻衣, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 携帯型脈拍計を活用した運動療法の確立とその血糖コントロールに及ぼす臨床的効果の検討. 第113回日本内科学会総会, 東京, 2016年4月15-17日.
4. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者に於けるDPP4阻害薬とSGLT2阻害薬の位置づけ. 第5回徳島県西部糖尿病セミナー, 美馬, 2016年4月19日.
5. 近藤琢磨: 2型糖尿病治療における強化インスリン療法の位置づけ. Insulin Expert Lecture, 立川, 2016年4月19日.
6. 田中利明, 板垣英二, 小沼裕寿, 五林可織, 森谷理恵,

その他

1. 久松理一: サテライトセミナー 司会, 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016年5月12-14日.
2. 大野亜希子: ハンスオンセミナー講師, 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016年5月14日.
3. 森秀明: 日本超音波医学会第89回学術集会 座長, 京都, 2016年5月27日.
4. 久松理一: ランチョンセミナー 司会, 第102回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2016年6月11-12日.
5. 久松理一: ランチョンセミナー 司会, 第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2016年7月10日.
6. 森秀明: 日常臨床における肝疾患のトータルマネージメント 超音波セミナー2016 座長, 横浜, 2016年7月23日.

- 石飛実紀, 近藤健, 石本麻衣, 炭谷由計, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 森井健司, 菅間博, 石田均: 腫瘍切除後に再発と両側肺転移を来した腫瘍性骨軟化症の1例. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016年4月21-23日.
7. 近藤健, 炭谷由計, 鶴久大介, 佐々木有紀, 七条裕孝, 澤井梓, 箕輪久美, 永瀬惟, 石本麻衣, 石飛実紀, 高橋聡, 小沼裕寿, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 板垣英二, 佐藤徹, 石田均: エボプロステノール使用中の特発性肺高血圧症に併発した橋本病急性増悪の一例. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016年4月21-23日.
 8. 石本麻衣, 近藤琢磨, 高橋和人, 炭谷由計, 澤井梓, 七条裕孝, 鶴久大介, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石飛実紀, 近藤健, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 石田均: リラグルチド治療により血糖コントロールと食欲抑制, 体重減少を試みた, 高度肥満2型糖尿病合併Prader-Willi症候群 (PWS) の1例. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016年4月21-23日.
 9. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法を考える. 第3回杏林医学会市民公開フォーラム 糖尿病から身を守る, 三鷹, 2016年5月7日.
 10. 保坂利男: 糖尿病の合併症を克服する. 第3回杏林医学会市民公開講座, 三鷹, 2016年5月7日.
 11. 石田均: 「糖尿病における食事療法の意義と課題」糖尿病食事療法での炭水化物の意義. 第70回日本栄養・食糧学会大会, 西宮, 2016年5月13-15日.
 12. 石田均: 糖尿病関連骨粗鬆症最前線「糖ならびに脂質代謝異常と骨代謝」. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 13. 北原敦子, 高橋和人, 村嶋俊隆, 森田奈瑠, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞の酸化ストレス下におけるオートファジー機構の意義とアスタキサンチンの保護作用の検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 14. 辻野元祥, 西田賢司, 佐藤文紀, 石田均, 吉元勝彦, 近藤琢磨, 杉山徹, 森豊, 櫻井誠, 片山隆司, 藤田進彦, 片平宏, 高村宏, 植木彬夫, 西村一弘, 宮川高一, 貴田岡正史: 北多摩南部保健医療圏における糖尿病災害対策の取り組み. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 15. 勝田秀紀, 小林有紗, 川村光信, 石田均: 2型糖尿病患者の血圧管理における血中C-ペプチドの影響. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 16. 村嶋俊隆, 近藤琢磨, 北原敦子, 森田奈瑠, 小沼裕寿, 高橋和人, 田中利明, 炭谷由計, 西田進, 三好秀明, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞における細胞外ストレスに対するsmall Maf, Nrf2の発現様式とその細胞調節機構について. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 17. 西田進, 鈴木清, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石飛実紀, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 男性2型糖尿病患者における中手骨の骨量の変化とその成因についての検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 18. 保坂利男, 伊東尚浩, 伊藤史織, 矢野互, 安村美沙子, 中川隆, 井上敬介, 田辺宗平, 近藤琢磨, 石田均: 糖質制限食は, 肥満2型糖尿病モデルマウスで体重増加, 血糖悪化, 脂質代謝異常をきたす. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 19. 水石裕, 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 藤澤祐基, 横山敏彦, 小笠原準悦, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病患者における目標運動強度内の運動療法達成率に関する検討—腕時計型脈拍計を用いて—. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 20. 七条裕孝, 炭谷由計, 澤井梓, 鶴久大介, 佐々木有紀, 箕輪久美, 永瀬惟, 石本麻衣, 森田奈瑠, 石飛実紀, 近藤健, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 高橋和人, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 当院における膵臓がんを有する糖尿病症例の臨床的特徴. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 21. 小林庸子, 高橋久子, 下田ゆかり, 今野里美, 浅間泉, 栗山絹世, 塚田芳枝, 佐藤真由美, 水石裕, 五林可織, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: チーム指導による糖尿病透析予防指導管理下での使用薬剤による腎機能への影響に関する3年間のアウトカム. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 22. 高橋久子, 今野里美, 下田ゆかり, 矢野悦子, 大沼美穂, 吉澤直子, 栗山絹世, 塚田芳枝, 小田浩之, 中村未生, 鈴木優子, 小林庸子, 炭谷由計, 高橋和人, 五林可織, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 糖尿病透析予防管理対象者への3年間の継続介入後の実態報告. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 23. 田中耕史, 炭谷由計, 須崎由香, 水石裕, 藤澤祐基, 横山敏彦, 小笠原準悦, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 糖尿病症例における運動指導介入とその実施後のアウトカム—運動指導歴の有無による比較—. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 24. 森田奈瑠, 保坂利男, 北原敦子, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 五林可織, 高橋和人, 炭谷由計, 西田進, 近藤琢磨, 石田均: 肥大化脂肪細胞でのサイトカイン発現におけるAMPK活性化の影響とその生理的役割について. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 25. 石本麻衣, 炭谷由計, 澤井梓, 七条裕孝, 鶴久大介, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石飛実紀, 近藤健, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 高橋和人, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 肥満を合併した2型糖尿病入院患者における簡易睡眠検査装置を用いた睡眠時間と質の実態調査. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 26. 小沼裕寿, 澤井梓, 七条裕孝, 鶴久大介, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 北原敦子, 五林可織, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均, 岡野芝子, 廣田和成, 井上誠, 平形明人: シタグリプチン投与における糖尿病網膜症進展抑制についての検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 27. 栗山絹世, 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 水石裕, 横山敏彦, 中村未生, 小田浩之, 塚田芳枝, 石本麻衣, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 携帯型脈拍計を活用した運動指導と並行して実施した2型糖尿病患者に対する外来栄養指導の臨床効果について—第2報—. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 28. 伊藤史織, 伊東尚浩, 保坂利男, 矢野互, 安村美沙子, 中川隆, 井上敬介, 田辺宗平, 近藤琢磨, 石田均: SGLT2阻害薬Tofogliflozinの血糖低下作用に対する糖質制限食の影響. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 29. 高橋和人, 北原敦子, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 温熱処理は, 2型糖尿病における骨代謝異常の進

- 展をHSP72非依存性経路で抑制する. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
30. 須崎由香, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 藤澤祐基, 横山敏彦, 小笠原準悦, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 糖尿病運動療法における脈拍指標による運動強度設定について. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 31. 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 水石裕, 藤澤祐基, 澤井梓, 七条裕孝, 鶴久大介, 箕輪久美, 佐々木有紀, 永瀬惟, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 横山敏彦, 高橋和人, 西田進, 小笠原準悦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病患者における腕時計型脈拍計を活用した運動療法が骨代謝に及ぼす影響の検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
 32. 近藤琢磨: 基礎インスリンを中心とした2型糖尿病治療について. Insulin Expert Meeting, 立川, 2016年5月24日.
 33. 保坂利男: long-acting型GLP-1アナログの適した患者像. Incretin Symposium in 立川, 立川, 2016年5月25日.
 34. Tanaka T, Itagaki E, Onuma H, Moriya R, Ishitobi M, Ishimoto M, Kondo K, Sumitani Y, Nishida S, Kondo T, Hosaka T, Morii K, Kanma H, Ishida H: A case of tumor-induced osteomalacia in which recurrence and bilateral lung metastases occurred following tumor resection. 18th European Congress of Endocrinology, Germany, May 28th-31st 2016.
 35. 保坂利男: 俗学に惑わされない療養指導へのアプローチ. 第5回CST研究会, 武蔵野, 2016年6月4日.
 36. 保坂利男: SGLT2阻害薬の奥深さを知って今使う理由を考える. 実地医家のための糖尿病セミナー, 諫早, 2016年6月7日.
 37. Murashima T, Kondo T, Kitahara A, Morita N, Takahashi K, Onuma H, Sumitani Y, Tanaka T, Hosaka T, Miyoshi H, Arun J. Sharma, Ishida H: Nrf2 Is Involved in the Cooperative of Insulin Gene Expression with Small-Maf Factors in Pancreatic Beta-Cells. American Diabetes Association 76rd scientific sessions, USA, June 10th-14th 2016.
 38. 近藤琢磨: 2型糖尿病治療における強化インスリン療法の位置付け. Webストーリーミング, Web, 2016年6月21日.
 39. 保坂利男: 俗学に惑わされない療養指導へのアプローチ. 第2回糖尿病療養指導Update, 東京, 2016年6月22日.
 40. 近藤琢磨: 2型糖尿病の治療update. 武蔵野市医師会学術講演会, 武蔵野, 2016年6月22日.
 41. 近藤琢磨: 原発性アルドステロン症の症例より考える. 武蔵野内分泌代謝ネットワーク, 武蔵野, 2016年6月29日.
 42. 石田均: 糖尿病腎症の食品交換表 第3版への改訂ポイント. Diabetes Expert Meeting in Saga~2型糖尿病治療の新展開~, 唐津, 2016年7月1日.
 43. 石田均: 日本人にふさわしい糖尿病食事療法. 第54回日本内科学会近畿支部生涯教育講演会, 大阪, 2016年7月3日.
 44. 近藤琢磨: インクレチン関連薬を用いた治療の再考. 第4回北多摩地区糖尿病治療を考える会, 武蔵野, 2016年7月8日.
 45. 近藤琢磨: 医療連携を含めた糖尿病診療について. 糖尿病セミナー, 西東京, 2016年7月19日.
 46. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義. Diabetes Network Forum, 金沢, 2016年8月4日.
 47. 近藤琢磨: SGLT2阻害薬の膵島細胞への効果とその意義. Web conference, Web, 2016年8月30日.
 48. 石田均: 糖尿病腎症の食品交換表 第3版への改訂ポイント. 糖尿病食事療法を考える会, 三鷹, 2016年9月2日.
 49. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者におけるDPP4阻害薬のポジショニング. Meet the Expert, 大崎, 2016年9月3日.
 50. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者におけるDPP4阻害薬のポジショニングと使い分け. 老年病研究会, 前橋, 2016年9月6日.
 51. 保坂利男: GLP-1アナログの位置づけの再考. 美波セミナー, 立川, 2016年9月13日.
 52. 石田均: 食事のなかの糖質ならびに炭水化物の意義. 日本抗加齢医学会応用・実践編講習会, 東京, 2016年10月2日.
 53. 保坂利男: これからの2型糖尿病治療戦略. The Choice of Diabetes Drugs Conference in 立川, 立川, 2016年10月6日.
 54. 石田均: 「糖尿病腎症の食品交換表」第3版への改訂とそのポイント. 第31回日本糖尿病合併症学会・第22回日本糖尿病眼学会総会, 仙台, 2016年10月7-8日.
 55. 西田進, 鈴木清, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 男性2型糖尿病患者における中手骨の骨量の変化とその成因についての検討. 第31回日本糖尿病合併症学会・第22回日本糖尿病眼学会総会, 仙台, 2016年10月7-8日.
 56. 北原敦子, 高橋和人, 村嶋俊隆, 森田奈瑠, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞における酸化ストレス状態下でのアスタキサンチンの効果ならびにオートファジー機構の解析. 第31回日本糖尿病合併症学会・第22回日本糖尿病眼学会総会, 仙台, 2016年10月7-8日.
 57. 伊藤史織, 伊東尚浩, 保坂利男, 矢野互, 安村美沙子, 清水由香理, 小林秀之, 中川隆, 井上敬介, 田辺宗平, 近藤琢磨, 石田均: SGLT2阻害薬Tofogliflozinの血糖降下作用および肝臓脂肪蓄積に対する食事条件の影響. 第31回日本糖尿病合併症学会・第22回日本糖尿病眼学会総会, 仙台, 2016年10月7-8日.
 58. 安部晶子, 前川亜樹, 新井千賀子, 島村祥子, 小沼裕寿, 平形明人, 石田均: 糖尿病入院患者における眼科医と看護師の糖尿病共同指導の有用性. 第31回日本糖尿病合併症学会・第22回日本糖尿病眼学会総会, 仙台, 2016年10月7-8日.
 59. 近藤琢磨: 持効型インスリンを用いた2型糖尿病治療のコツ. Insulin Special Conference, 立川, 2016年10月11日.
 60. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義. 第5回多摩血管一代謝研究会, 武蔵野, 2016年10月12日.
 61. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬のポジショニング. 65歳からの糖尿病治療を考える懇話会 in 香川, 高松, 2016年10月13日.
 62. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義を考える. 第54回日本糖尿病学会九州地方会, 鹿児島, 2016年10月15日.
 63. 保坂利男: 栄養療法に於ける糖との深い関係. 第6回病診連携スキルアップセミナー, 川越, 2016年10月20日.
 64. 近藤琢磨: 強化インスリン療法を再考する. インスリンアナログ誕生20周年記念講演会, 飯塚, 2016年10月21日.
 65. 保坂利男: 運動療法にふれた今だから感じる糖尿病治療におけるSGLT2阻害薬の奥深さ. 第2回糖尿病三位一体セミナー in OSAKA, 大阪, 2016年10月22日.
 66. 近藤琢磨: 肥満2型糖尿病へのアプローチ. 第9回多摩糖尿病先端医療研究会, 立川, 2016年10月26日.
 67. 近藤琢磨: 心血管イベントを見据えた糖尿病治療戦略. 第4回糖尿病三位一体セミナー, 武蔵野, 2016年10月28日.

- 日.
68. 石田均:臨床栄養学の新たな展開—食事のなかの炭水化物の意義—. 内分泌・代謝学シンポジウム, 東京, 2016年11月1日.
 69. 保坂利男:食事療法を見据えた糖尿病の新たな治療戦略. 第50回日本糖尿病学会北海道地方会, 札幌, 2016年11月6日.
 70. 石田均:食事のなかの炭水化物の臨床栄養学的意義とは?. Diabetes Symposium in Sakura~糖尿病と食事を考える~, 佐倉, 2016年11月8日.
 71. 保坂利男:高齢者2型糖尿病におけるDPP4阻害薬のポジショニングと使い分け. 糖尿病診療を考える会, 山形, 2016年11月8日.
 72. 石田均:臨床栄養学の新たなチャレンジ—食事のなかの炭水化物の意義を考える—. いわて糖尿病FORUM, 盛岡, 2016年11月9日.
 73. 近藤琢磨:肥満がもたらすさまざまな生活習慣病とその対策. 第61回町田市薬剤師会学術講演会, 町田, 2016年11月10日.
 74. 石田均:日本人の健康寿命を保つために—食事療法からのアプローチ—. 神明台ハートセミナー, 府中, 2016年11月18日.
 75. 高橋久子, 下田ゆかり, 今野里美, 高橋和人, 炭谷由計, 五林可織, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均:妊娠糖尿病褥婦の産後長期フォローアップに繋がる助産・看護援助を考える. 第32回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 岡山, 2016年11月18-19日.
 76. 勝又明彦, 七条裕孝, 近藤琢磨, 竹脇史絵, 石本麻衣, 近藤健, 保坂利男, 石田均:DPP-4阻害薬を中止し, 血糖コントロール良好となったインスリン抗体陽性2型糖尿病の一例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
 77. 永瀬惟, 炭谷由計, 澤井梓, 七条裕孝, 石本麻衣, 小沼裕寿, 保坂利男, 近藤琢磨, 石田均:前立腺癌に対するアンドロゲン抑制療法中に糖尿病性ケトアシドーシスを発症した慢性膵炎の1例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
 78. 澤井梓, 炭谷由計, 箕輪久美, 石本麻衣, 今田枝里, 津村哲郎, 七条裕孝, 鶴久大介, 竹脇史恵, 永瀬惟, 佐々木有紀, 近藤健, 小沼裕寿, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均:ジソピラミドとクラリスロマイシン併用により低血糖発作を生じた超高齢者の一例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
 79. 鶴久大介, 炭谷由計, 近藤健, 箕輪久美, 澤井梓, 七条裕孝, 近藤琢磨, 保坂利男, 渡辺俊介, 倉田勇, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 藤原正親, 菅間博, 石田均:コルチゾールとNSAIDによる出血性胃潰瘍が再発したクッシング病. 第26回臨床内分泌代謝Update, さいたま, 2016年11月19日.
 80. 保坂利男:今, 2型糖尿病に適したFirst Lineの治療薬を考える. 糖尿病治療を語る会, 東京, 2016年11月24日.
 81. 近藤琢磨:一次予防例と二次予防例の治療戦略は変えるべきか?. 第7回 T-LED Conference, 立川, 2016年11月24日.
 82. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 市民健康講座 生活習慣を見直そう!, 三鷹, 2016年11月26日.
 83. 保坂利男:高齢2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬のポジショニング. 第21回実地医家のための糖尿病セミナー, 北九州, 2016年11月26日.
 84. 小沼裕寿:妊娠と糖尿病. 一般社団臨床糖尿病支援ネットワーク第60回例会, 八王子, 2016年11月26日.
 85. 保坂利男:食事療法を見据えた糖尿病の新たな治療戦略. 第196回小千谷市魚沼市医師会学術講演会 魚沼地区糖尿病先進治療研究会IN小千谷, 小千谷, 2016年11月29日.
 86. 保坂利男:高齢2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬のポジショニング. 高齢者糖尿病治療を考える会, 仙台, 2016年11月30日.
 87. 石田均:日本人の健康寿命を保つための食事療法—食事のなかの炭水化物の意義を科学的に考える—. サントリーグローバルイノベーションセンター講演会, 京都, 2016年12月2日.
 88. 保坂利男:高齢2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬のポジショニング. 南河内地区病態から考える糖尿病治療のChoice, 大阪, 2016年12月3日.
 89. 石田均:「腎症」交換表第3版改訂のポイント. 第2回食事を通じて糖尿病治療を考える会, 京都, 2016年12月9日.
 90. 保坂利男:糖尿病療養指導UP TO DATE. 平成28年度第4回埼玉栄養士会生涯教育研修会, さいたま, 2016年12月10日.
 91. 石田均:適切な糖尿病食事療法への新たな展開—「腎症」食品交換表第3版への改訂ポイントも含めて—. 第35回倉敷糖尿病合併症研究会, 倉敷, 2017年1月10日.
 92. 北原敦子, 高橋和人, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均:アスタキサンチンは膵ラ氏島の慢性炎症を抑制することで, 膵β細胞保護作用を発揮する. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017年1月13-15日.
 93. 保坂利男, 伊藤史織, 伊東尚浩, 矢野互, 安村美沙子, 中川隆, 井上敬介, 田辺宗平, 近藤琢磨, 石田均:肥満糖尿病の食事療法における主要栄養素バランスの重要性—糖質量調整食餌によるマウス実験からの検討—. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017年1月13-15日.
 94. 志原伸幸, 寺内康夫, 石田均, 貴田岡正史, 佐藤譲, 矢部大介, 山田祐一郎, 清野裕:高齢者2型糖尿病におけるシタグリブチン/グリメピリド比較検討試験 (START-J). 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017年1月13-15日.
 95. 石飛実紀, 炭谷由計, 津村哲郎, 鶴久大介, 石本麻衣, 近藤健, 森田奈瑠, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均:継続した運動療法の体組成への効果と糖・脂質代謝における限界; 運動介入後の肥満2型糖尿病一例からの推察. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017年1月13-15日.
 96. 保坂利男:各学会のガイドラインのまとめと問題点 栄養療法協議会 (ワーキンググループからの報告). 第20回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017年1月13-15日.
 97. 永瀬惟, 炭谷由計, 今田枝里, 澤井梓, 佐々木有紀, 箕輪久美, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均:アンドロゲン抑制療法中に糖尿病ケトアシドーシスを発症した慢性膵炎の1例. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月21日.
 98. 森佳介, 東海俊史, 三橋順子, 若山真理子, 池田和穂, 田中直見, 田中利明, 西田進, 石田均:C型慢性肝炎の新規治療薬の2型糖尿病患者への影響. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月21日.
 99. 七条裕孝, 近藤琢磨, 竹脇史恵, 石本麻衣, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均:DPP-4阻害薬を服用中に血糖不安定性を来した抗インスリン抗体陽性2型糖尿病の一例. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月21日.
 100. 竹脇史恵, 近藤健, 澤井梓, 箕輪久美, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 近藤琢磨, 石田均:高齢で発症した自己免疫性1型糖尿病の2症例. 第54

回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月21日.

101. 澤井梓, 炭谷由計, 箕輪久美, 石本麻衣, 今田枝里, 鶴久大介, 近藤健, 小沼裕寿, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: ジンピラミドとクラリスロマイシン併用により低血糖発作を生じた超高齢者の一例. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月21日.
102. 保坂利男: 糖尿病治療に於けるGLP-1アナログ製剤の位置づけ. 西多摩医師会学術講演会, 羽村, 2017年1月25日.
103. 奥山秀平, 川村直弘, 片元遥香, 塚田美裕, 千野貴子, 丹波光子, 小嶋幸一郎, 保坂利男, 大浦紀彦: 当院におネル肝硬変患者へのレボカルニチン製剤の使用状況と効果について. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山, 2017年2月23-24日.
104. 石田均: 「腎症」食品交換表第3版への改訂とそのポイントについて. 第14回西東京インスリン治療研究会, 武蔵野, 2017年3月4日.
105. 近藤琢磨: SGLT2阻害薬の膵島細胞への効果とその意義. Web conference, Web, 2017年3月7日.
106. 石田均: 適切な糖尿病食事療法を考える—「腎症」食品交換表第3版への改訂ポイントとともに—. 第6回福岡糖尿病チーム医療セミナー, 福岡, 2017年3月10日.
107. 保坂利男: 糖尿病に対して, どう治療すべきなのか?. 第6回高齢者糖尿病治療を考える会in岐阜, 岐阜, 2017年3月14日.
108. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬のポジショニング. 筑豊地区糖尿病フォーラム, 飯塚, 2017年3月16日.
109. 近藤琢磨: インクレチン関連薬基礎を用いた2型糖尿病治療の再考. Diabetes Academic Seminar, 立川, 2017年3月16日.
110. 石田均: 日本人の健康寿命を保つために—食事のなかの炭水化物の意義を考える—. 田川薬剤師会学術講演会, 田川, 2017年3月22日.
111. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法を考える—食事のなかの炭水化物の科学的意義とは?—. 上本町糖尿病ももにフォーラム, 大阪, 2017年3月25日.

論文

1. 石田均: 糖ならびに脂質代謝異常と骨代謝. 日本骨粗鬆症学会誌 2(3):82-84, 2016.
2. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法を考える. 杏林医学会雑誌47 (4):163-165, 2016.
3. 保坂利男, 石田均: 第30回日本糖尿病合併症学会. Angiology Frontier 15(1):67-69 2016
4. 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病の食事療法の考え方と実際. 糖尿病診療マスター 14(6):431-437, 2016.
5. 石田均: 食事のなかでなぜ炭水化物が重要なのか. 栄養と料理 83(2):106-109, 2017.
6. 石田均: 「食品交換表」第7版の思想を現代日本人の糖尿病食事療法に活かす. 糖尿病診療マスター 15(3):204-209, 2017.
7. 保坂利男, 永瀬惟, 澤井梓, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 石田均: 血糖コントロールに対する相対的なHbA1c低値から診断に至った異常ヘモグロビンD症の1例. 糖尿病 59(6):401-406, 2016.
8. 保坂利男: 経腸栄養法と経静脈栄養法. ハリソン内科学第5版 98e:e1-e10, 2017.

著書

1. 田中利明, 石田均: Part6 栄養と体重減少. ハリソン内科学第19版 (日本語版第5版). 東京, メディカル・サイ

エンス・インターナショナル, 2017. p.467.

2. 石田均 (食品交換表編集委員会・腎症食品交換表改訂小委員会: 委員長): 糖尿病腎症の食品交換表第3版. 日本糖尿病学会編著. 東京, 文光堂, 2016.
3. 石田均: それは恩師との不思議なめぐり合いにありました. プラクティス・セレクション糖尿病医療を志す先達から若き人へ贈る言葉129. 東京, 医歯薬出版, 2017. p.204-205.

その他

1. 宇都宮一典, 佐々木敬, 石田均 (座談会): 糖尿病における食事療法を考える—食事療法の個別化を目指して. Current Therapy 34(6): 90-100, 2016.

腫瘍内科学教室

講演

1. 古瀬純司: 膵がんの薬物療法—最新の話題. Oncology Seminar in 新宿, 東京, 2016年5月26日.
2. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と課題—エビデンスからプラクティスへ. Taiho Pancreatic Cancer Forum in Sapporo, 札幌, 2016年5月28日.
3. Ueno M, Ozaka M, Ishii H, Sato T, Ikeda M, Uesugi K, Sata N, Miyashita K, Mizuno N, Tsuji K, Okusaka T, Furuse J: Phase II study of modified FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve patients with metastatic pancreatic cancer. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2016, USA, June 3rd-7th, 2016.
4. Van Cutsem E, Lenz HJ, Furuse J, Tabernero J, Heinemann V, Ioka T, Bazin I, Ueno M, Csösz T, Wasan H, Melichar B, Karasek P, Macarulla TM, Guillen C, Kalinka-Warchocha E, Horvath Z, Prenen H, Schlichting M, Ibrahim A, Bendell JC: MAESTRO: A randomized, double-blind phase III study of evofosfamide (Evo) in combination with gemcitabine (Gem) in previously untreated patients (pts) with metastatic or locally advanced unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma (PDAC). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2016, USA, June 3rd-7th, 2016.
5. Takahashi K, Shitara K, Denda T, Yuki S, Tamura T, Kawasaki K, Shinozaki E, Nakajima E. T, Kato K, Akagi K, Esaki T, Okano N, Kudo T, Kadowaki S, Ebi H, Yamamoto Y, Fujii S, Doi T, Ohtsu A, Yoshino T: The Nationwide Cancer Genome Screening Project for Gastrointestinal Cancer in Japan (GI-SCREEN): MSI-status and Cancer-Related Genome Alterations in advanced colorectal cancer (CRC) (GI-SCREEN 2013-01-CRC sub-study). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2016, USA, June 3rd-7th, 2016.
6. 長島文夫: 栄養アセスメント～高齢者のがん療法は今の治療でよいのか. 第39回栄養アセスメント学会, 神戸, 2016年6月10日.
7. 角谷眞澄, 池田公史, 高山忠利, 沼田和司, 泉並木, 國土典宏, 古瀬純司, 奥坂拓志, 山下哲史, 奥村正文, 工藤正俊: ソラフェニブ国際共同非介入試験GIDEON 最終解析～日本における肝臓治療の実際～. 第14回日本肝がん分子標的治療研究会, 大阪, 2016年6月11日.
8. Furuse J: Pancreatic Cancer Treatments in Japan. The 9th International Conference and Commemorative Lecture of Pin-Wen Lin of Pancreatic Cancer, Taiwan, July 1st, 2016.
9. 古瀬純司: 膵癌化学療法—最近の進歩. 第13回上伊那病

- 診連携がん診療学術研究会, 伊那, 2016年7月14日.
10. 古瀬純司: 肝細胞癌の化学療法—最新情報と今後の展望. 第35回南大阪肝疾患研究会, 堺, 2016年7月15日.
 11. 岡野尚弘: 高Ca血症・腎障害を契機に緊急入院となり, 長期入院を要した1例. 2016年度第1回4大学合同カンファレンス, 東京, 2016年7月16日.
 12. 古瀬純司: 膵神経内分泌腫瘍—基礎から臨床まで. 第17回臨床腫瘍夏期セミナー, 東京, 2016年7月21日.
 13. 岡野尚弘, 河合桐男, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: ゲムシタピン耐性胆道癌患者を対象としたアキシチニブ単剤療法. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 14. 新田理恵, 田端理恵子, 高橋香澄, 野田耕介, 川上英泰, 白井浩明, 古賀しのぶ, 吉田正, 古瀬純司: 当院の閉鎖式薬物移送システム導入後2年の実態調査. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 15. 宮下耕一郎, 尾阪将人, 石井浩, 佐藤俊哉, 上野誠, 池田公史, 上杉和寛, 佐田尚弘, 奥坂拓志, 古瀬純司: Phase II study of modified FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve patients with metastatic pancreatic cancer. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 16. Ioka T, Ikeda M, Fukutomi A, Morizane C, Kasuga A, Takada R, Takahashi H, Todaka A, Okusaka T, Creasy C, Gorman S, Felitsky D, Kobayashi M, Furuse J: A Proof-of-Concept Study of MEK Inhibitor Trametinib Monotherapy in Patients with Biliary Tract Cancers. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 17. Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Ikeda M, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N: Clinicopathological analyses in pancreatic neuroendocrine carcinoma (pNEC); a retrospective multicenter study. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 18. Ueno H, Shiba S, Sasaki M, Ishii H, Ozaka M, Fukutomi A, Todaka A, Ikeda M, Furuse J, Okusaka T: Current status of FOLFIRINOX in Japan: modified or original?. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 19. Nagashima F, Furuse J, Naruge D, Okano N, Kawai K, Kitamura H: Improving the Evidence Generation for Older Adults in Japan. 第14回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 20. 長島文夫: Comprehensive geriatric assessment in clinical trial. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 21. 長島文夫: Geriatric Oncology in Japan 老年腫瘍学—高齢がんに対する臨床研究の考え方とDPC/がん登録データによる実地臨床像—. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016年7月28-30日.
 22. Mizuno N, Hijioka S, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Ikeda M, Kobayashi N, Morizane C, Taguchi H, Kitano M, Komoto I, Kojima Y, Matayoshi N, Murohisa T, Kanno A, Takagi T, Sakaguchi M, Furuse J, Yatabe Y: Rb expression and KRAS mutation as predictors of response to platinum-based chemotherapy (PBC) of small and large cell neuroendocrine carcinoma (NEC): A subgroup analysis of the Japan pNEC study. 47th Annual meeting of the Japan Pancreas Society, 20th IAP, 6th AOPA, Sendai, August 4th-6th, 2016.
 23. Yoshida T, Hijioka S, Yoshitomi H, Furukawa M, Nakamori S, Yane K, Morizane C, Yanagimoto H, Tsuchiya Y, Matsusaki S, Mine T, Ishii H, Tsuji A, Miyabe K, Hashigo S, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N: Surgery for pancreatic neuroendocrine carcinoma (pNEC): A subgroup analysis of Japan pNEC study. 47th Annual meeting of the Japan Pancreas Society, 20th IAP, 6th AOPA, Sendai, August 4th-6th, 2016.
 24. Ozaka M, Ishii H, Sato T, Ueno M, Ikeda M, Uesugi K, Sata N, Miyashita K, Mizuno N, Tsuji K, Okusaka T, Furuse J: Phase II study of modified FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve patients with metastatic pancreatic cancer (MPC). 47th Annual meeting of the Japan Pancreas Society, 20th IAP, 6th AOPA, Sendai, August 4th-6th, 2016.
 25. Okano N, Kawai K, Naruge D, Nagashima F, Furuse J: Second-line treatments after FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel failure for unresectable pancreatic cancer under real-life clinical conditions: Experience at a single institute. 47th Annual meeting of the Japan Pancreas Society, 20th IAP, 6th AOPA, Sendai, August 4th-6th, 2016.
 26. 古瀬純司: 癌化学療法～杏林大学における現況～. Pancreatic Cancer Symposium in KANAGAWA, 横浜, 2016年8月25日.
 27. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と課題. —エビデンスからプラクティスへ. Pancreatic Cancer Forum in Fukui, 福井, 2016年9月1日.
 28. 岡野尚弘: 知るは力なり! 最新のがん化学療法. 杏林大学～がんと共にすこやかに生きる講演会シリーズ～, 三鷹, 2016年9月3日.
 29. 河合桐男, 岡野尚弘, 小林敬明, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: カルシウム血症を呈した膵腺扁平上皮癌に対して化学療法を施行した2例. 日本内科学会関東地方会, 東京, 2016年9月10日.
 30. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と課題. —エビデンスからプラクティスへ. Okayama Pancreatic Cancer Meeting, 岡山, 2016年9月14日.
 31. Kobayashi T, Masaki T, Takayasu K, Kojima K, Mastuoka H, Sugiyama M, Nagashima F, Furuse J: Efficacy of anti-EGFR antibody monotherapy for patients with colorectal cancer with the Kras G13D mutation: report of four cases. CSCO 2016, China, September 22nd, 2016.
 32. Kawai K, Naruge D, N Okano, Kobayashi T, Nagashima F, Furuse J: Cases of 2nd line therapy for gastrointestinal neuroendocrine carcinoma (GI-NEC) including pancreas neuroendocrine carcinoma (P-NEC). CSCO 2016, China, September 22nd, 2016.
 33. 河合桐男, 長島文夫, 近藤恵里, 小林敬明, 岡野尚弘, 成毛大輔, 北村浩, 杉山政則, 柴原純二, 古瀬純司: 幽門部・肝転移の非機能性NECに対してCBDCA+VP16療法が著効した1例. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会, 東京, 2016年9月24日.
 34. 古瀬純司: 神経内分泌腫瘍に対する薬物治療. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会, 東京, 2016年9月24日.
 35. 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能胆道癌に対する2次治療の成績と予後因子の検討. 第52回日本胆道学会学術集会, 横浜, 2016年9月29-30日.
 36. Nozaki E, Kobayashi T, Sakurai H, Nagashima F, Furuse J, Masaki T, Sugiyama M: CXCR3A, but not 3B, confers proliferation and invasion of colorectal cancer. 第75回日本癌学会学術総会, 横浜, 2016年10月6-8日.
 37. Okano N, Kawai K, Kobayashi T, Naruge D, Nagashima F, Furuse J: Analysis of efficacy and prognostic factor for second-line chemotherapy in gemcitabine-refractory advanced biliary tract

- cancer. ESMO 2016 Congress, Denmark, October 7th-11th, 2016.
38. Mizuno N, Todaka A, Mori K, Boku N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Yukisawa S, Nakamori S, Yachi Y, Henmi T, Kobayashi M, Fukutomi A : Observational study of FOLFIRINOX (FFX) for unresectable/recurrent pancreatic cancer (PC) in Japanese patients (pts) (JASPAC 06): final results. ESMO 2016 Congress, Denmark, October 7th-11th, 2016.
 39. 北村浩, 林茂一郎, 河合桐男, 岡野尚弘, 成毛大輔, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: 腫瘍随伴症候群による舞踏病様不随意運動を伴った肺癌の1例. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20-22日.
 40. 成毛大輔, 河合桐男, 岡野尚弘, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: 化学療法による末梢神経障害に対するトランプドール/アセトアミノフェン配合錠の有効性. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20-22日.
 41. 夏目まいか, 渡邊清高, 深澤陽子, 坂本貴彦, 白井亮, 本田健, 太田修二, 市川靖子, 林和彦, 成毛大輔, 古瀬純司, 関順彦: 都内3大学病院におけるがん患者の療養場所のニーズ調査. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20-22日.
 42. 山本英一郎, 遠藤源樹, 林和彦, 唐澤久美子, 渡邊清高, 古瀬純司: 東京女子医科大学病院のがん患者のニーズ調査と充実したサバイバーシップに向けた研究. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20-22日.
 43. 古瀬純司: 膵臓癌化学療法の現状と今後の展望. 日本消化器病学会東北支部第18回教育講演会, 仙台, 2016年11月13日.
 44. Furuse J: The Existing and Potential Development of Immunotherapeutics on Biliary Tract Cancer. *Immuno-Oncology Hong Kong* 2016, Hong Kong, November 19th-20th, 2016.
 45. 古瀬純司: 膵癌の化学療法. 一エビデンスからプラクティスへ. 第4回茨城膵疾患研究会, 水戸, 2016年11月25日.
 46. Doi T, Shitara K, Takahashi H, Ueno M, Kobayashi S, Morimoto M, Ohkawa S, Okusaka T, Ueno H, Morizane C, Shiba S, Okano N, Naruge D, Nagashima F, Furuse J, Yoh K: First-in-man Phase 1 Study of TAS-114 in Combination with S-1 in Japanese Patients with Advanced Solid Tumors. *EORTC-NCI-AACR 2016*, Germany, November 30th, 2016.
 47. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と課題. 一今後の方向性と未来へ. 膵癌治療研究会2016, 福岡, 2016年12月8日.
 48. Nagashima F: Functional assessment of elderly cancer patients. *ESMO ASIA 2016*, Singapore, December 17th, 2016.
 49. 古瀬純司: 膵がん化学療法の困難と期待—新しい治療をどう使う? 新たな治療開発は?. パンキャンジャパン第7回クリスマス・スペシャル勉強会, 東京, 2016年12月25日.
 50. Takahara N, Isayama H, Nakai Y, Ioka T, Kanai M, Sasaki T, Furuse J, Koike K: A single arm, prospective multicenter phase II study FOLFIRINOX in patients with advanced and recurrent biliary tract cancer. *2017 Gastrointestinal Cancers Symposium*. USA, January 19th-21st, 2017.
 51. Kudo M, Ryoo BY, Lim HY, Kim DY, Okusaka T, Ikeda M, Hidaka H, Yeon JE, Mizukoshi E, Morimoto M, Lee MA, Yasui K, Kawaguchi Y, Heo J, Morita S, Kim TY, Furuse J, Katayama K, Aramaki T, Tak WY: Resminostat and sorafenib combination therapy for advanced hepatocellular carcinoma in patients previously untreated with systemic chemotherapy. *2017 Gastrointestinal Cancers Symposium*. USA, January 19th-21st, 2017.
 52. 古瀬純司: 大腸がん化学療法のUP-TO-DATE. 一腹腔鏡手術の導入で化学療法は変わったか?. 第13回千葉県大腸疾患研究会, 千葉, 2017年3月11日.
- ### 論文
- #### 欧文
1. Yokoyama M¹, Ohnishi H², Ohtsuka K², Matsushima S², Ohkura Y³, Furuse J, Watanabe T², Mori T¹, Sugiyama M¹ (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo): KRAS Mutation as a Potential Prognostic Biomarker of Biliary Tract Cancers. *Jpn Clin Med* 2016 (7): 33-39, 2016.
 2. Ikeda M¹, Shimizu S¹, Sato T², Morimoto M³, Kojima Y⁴, Inaba Y⁵, Hagihara A⁶, Kudo M⁷, Nakamori S⁸, Kaneko S⁹, Sugimoto R¹⁰, Tahara T¹¹, Ohmura T¹², Yasui K¹³, Sato K¹⁴, Ishii H¹⁵, Furuse J, Okusaka T¹⁶ (¹National Cancer Center Hospital East, ²Kyoto University School of Public Health, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴National Center for Global Health and Medicine Center Hospital, ⁵Aichi Cancer Center Hospital, ⁶Osaka City University Hospital, ⁷Kinki University School of Medicine, ⁸Osaka National Hospital, ⁹Kanazawa University Hospital, ¹⁰National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ¹¹Saiseikai Utsunomiya Hospital, ¹²Sapporo Kosei General Hospital, ¹³Kyoto Prefectural University of Medicine, ¹⁴Kyoto University Hospital, ¹⁵Shikoku Cancer Center, ¹⁶National Cancer Center Hospital): Sorafenib plus Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin vs. Sorafenib for Advanced Hepatocellular Carcinoma : Randomized Phase II Trial. *Ann Oncol* 27(11): 2090-2096, 2016.
 3. Takai E¹, Yachida S¹, Shimizu K², Furuse J, Kubo E³, Ohmoto A¹, Suzuki M¹, Hruban RH⁴, Okusaka T³, Morizane C³, Furukawa T² (¹National Cancer Center Research Institute, ²Tokyo Women's Medical University, ³National Cancer Center Hospital, ⁴The Sol Goldman Pancreatic Cancer Research Center, The Johns Hopkins University School of Medicine): Germline mutations in Japanese familial pancreatic cancer patients. *Oncotarget* 7(45): 74227-74235, 2016.
 4. Kudo M¹, Hatano E², Ohkawa S³, Fujii H⁴, Masumoto A⁵, Furuse J, Wada Y⁶, Ishii H⁷, Obi S⁸, Kaneko S⁹, Kawazoe S¹⁰, Yokosuka O¹¹, Ikeda M¹², Ukai K¹³, Morita S¹⁴, Tsuji A¹⁵, Kudo T¹⁶, Shimada M¹⁷, Osaki Y¹⁸, Tateishi R¹⁹, Sugiyama G²⁰, Abada PB²¹, Yang L²¹, Okusaka T²², Zhu AX²³ (¹Kindai University Faculty of Medicine, ²Kyoto University Hospital, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴Jichi Medical University, ⁵Aso Iizuka Hospital, ⁶National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ⁷The Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, ⁸Kyoundo Hospital, ⁹Kanazawa University Hospital, ¹⁰Saga-Ken Medical Centre Koseikan, ¹¹Chiba University Hospital, ¹²National Cancer Center Hospital East, ¹³Sendai Medical Center, ¹⁴Kochi Health Sciences Center, ¹⁵Kagawa University Hospital, ¹⁶Osaka University Hospital, ¹⁷Tokushima

- University Hospital, ¹⁸ Osaka Red Cross Hospital, ¹⁹ The University of Tokyo Hospital, ²⁰ Kurume University Medical Center, ²¹ Eli Lilly and Company, ²² National Cancer Center Hospital, ²³ Massachusetts General Hospital Cancer Center): Ramucirumab as second-line treatment in patients with advanced hepatocellular carcinoma: Japanese subgroup analysis of the REACH trial. *J Gastroenterol*. 2016. (in press).
5. Marrero JA¹, Kudo M², Venook AP³, Ye SL⁴, Bronowicki JP⁵, Chen XP⁶, Dagher L⁷, Furuse J, Geschwind JH⁸, de Guevara LL⁹, Papandreou C¹⁰, Takayama T¹¹, Sanyal AJ¹², Yoon SK¹³, Nakajima K¹⁴, Lehr R¹⁴, Heldner S¹⁴, Lencioni R¹⁵ (¹University of Texas Southwestern Medical Center, ² Kinki University School of Medicine, ³ University of California, ⁴Fudan University, ⁵University Henri Poincaré by University of Lorraine, ⁶Tongji Hospital, ⁷Policlínica Metropolitana, ⁸Johns Hopkins University School of Medicine, ⁹Hospital Angeles Clínica Londres, ¹⁰University Hospital of Larissa, ¹¹Nihon University School of Medicine, ¹²Virginia Commonwealth University Medical Center, ¹³ The Catholic University of Korea, ¹⁴Bayer HealthCare Pharmaceuticals, ¹⁵Pisa University Hospital and School of Medicine): Observational registry of sorafenib use in clinical practice across Child-Pugh subgroups: the GIDEON study. *J Hepatol* 65(6): 1140-1147, 2016.
 6. Sawada Y¹, Yoshikawa T², Ofuji K², Yoshimura M², Tsuchiya N¹, Takahashi M², Nobuoka D³, Gotohda N², Takahashi S², Kato Y², Konishi M², Kinoshita T⁴, Ikeda M², Nakachi K², Yamazaki N⁵, Mizuno S², Takayama T⁶, Yamao K⁷, Uesaka K⁸, Furuse J, Endo I⁹, Nakatsura T² (¹National Cancer Center East, Yokohama City University Graduate School of Medicine, ²National Cancer Center East, ³ National Cancer Center East, Okayama University Graduate School of Medicine, ⁴ Aichi Cancer Center Hospital, ⁵ National Cancer Center Hospital, ⁶ Nihon University School of Medicine, ⁷ Aichi Cancer Center Hospital, ⁸ Shizuoka Cancer Center Hospital, ⁹ Yokohama City University Graduate School of Medicine): Phase II study of the GPC3-derived peptide vaccine as an adjuvant therapy for hepatocellular carcinoma patients. *Oncoimmunology* 5(5): e1129483, 2016.
 7. Matsunaga M¹, Kaneta T², Miwa K¹, Ichikawa W², Fujita KI², Nagashima F, Furuse J, Kage M¹, Akagi Y¹, Sasaki Y² (¹Kurume University Hospital, ²Showa University Hospital): A comparison of four methods for detecting KRAS mutations in formalin-fixed specimens from metastatic colorectal cancer patients. *Oncol Lett* 12(1):150-156, 2016.
 8. Shitara K¹, Muro K², Shimada Y³, Hironaka S⁴, Sugimoto N⁵, Komatsu Y⁶, Nishina T⁷, Yamaguchi K⁸, Segawa Y⁹, Omuro Y¹⁰, Tamura T¹¹, Doi T¹, Yukisawa S¹², Yasui H¹³, Nagashima F, Gotoh M¹⁴, Esaki T¹⁵, Emig M¹⁶, Chandrawansa K¹⁶, Liepa AM¹⁶, Wilke H¹⁷, Ichimiya Y¹⁶, Ohtsu A³ (¹National Cancer Center Hospital East, ²Aichi Cancer Center, ³National Cancer Center Hospital, ⁴Chiba Cancer Center, ⁵Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ⁶Hokkaido University Hospital, ⁷Shikoku Cancer Center, ⁸Saitama Cancer Center, ⁹Saitama Medical University International Medical Center, ¹⁰Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, ¹¹Kinki University Faculty of Medicine, ¹²Tochigi Cancer Center, ¹³Shizuoka Cancer Center, ¹⁴Osaka Medical College Hospital, ¹⁵National Kyushu Cancer Center, ¹⁶Eli Lilly and Company, ¹⁷Kliniken Essen-Mitte Center of Palliative Care): Subgroup analyses of the safety and efficacy of ramucirumab in Japanese and Western patients in RAINBOW: a randomized clinical trial in second-line treatment of gastric cancer. *Gastric Cancer* 19(3):927-38, 2016.
 9. Zhu AX¹, Chen D², He W³, Kanai M², Voi M², Chen LT³, Daniele B⁴, Furuse J, Kang YK⁶, Poon RT⁷, Vogel A⁸, Chiang DY⁹ (¹Harvard Medical School, ²Novartis Pharmaceuticals Corporation, ³National Health Research Institutes, National Cheng Kung University Hospital, Kaohsiung Medical University Hospital, ⁴G Rummo Hospital, ⁵University of Ulsan College of Medicine, ⁶Queen Mary Hospital, ⁷Hannover Medical School, ⁸Novartis Institutes for Biomedical Research): Integrative biomarker analyses indicate etiological variations in hepatocellular carcinoma. *J Hepatol* 65(2):296-304, 2016.
 10. Kudo M¹, Ikeda M², Takayama T³, Numata K⁴, Izumi N⁵, Furuse J, Okusaka T⁶, Kadoya M⁷, Yamashita S⁸, Ito Y⁸, Kokudo N⁹ (¹Kinki University School of Medicine, ²National Cancer Center Hospital East, ³Nihon University School of Medicine, ⁴Yokohama City University Medical Center, ⁵Musashino Red Cross Hospital, ⁶National Cancer Center Hospital, ⁷Shinshu University School of Medicine, ⁸Bayer Yakuhin, ⁹Graduate School of Medicine, University of Tokyo): Safety and efficacy of sorafenib in Japanese patients with hepatocellular carcinoma in clinical practice: a subgroup analysis of GIDEON. *J Gastroenterol* 51(12):1150-1160, 2016.
 11. Nitta H¹, Baba H¹, Sugimori K², Furuse J, Ohkawa S³, Yamamoto K⁴, Minami H⁵, Shimokawa M⁶, Wakabayashi GO⁷, Aiba K⁸ (¹Graduate School of Life Sciences, Kumamoto University, ²Yokohama City University Medical Center, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴ Okayama University Graduate School of Medicine, ⁵Kobe University, Hospital and Graduate School of Medicine, ⁶National Kyushu Cancer Center, ⁷Iwate Medical University School of Medicine, ⁸Jikei University School of Medicine): CINV Study Group of Japan. Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting in Patients with Hepatobiliary and Pancreatic Cancer Treated with Chemotherapy: A Prospective Observational Study by the CINV Study Group of Japan. *Anticancer Res* 6(4):1929-1935, 2016.
 12. Mizusawa J¹, Morizane C², Okusaka T², Katayama H¹, Ishii H³, Fukuda H¹, Furuse J (¹JCOG Data Center/Operations Office, National Cancer Center, ²National Cancer Center Hospital, ³National Hospital Organization Shikoku Cancer): Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group. Randomized Phase III study of gemcitabine plus S-1 versus gemcitabine plus cisplatin in advanced biliary tract cancer: Japan Clinical Oncology Group Study(JCOG1113, FUGA-BT). *Jpn J Clin Oncol* 46(4): 385-388, 2016.
 13. Kaneko S¹, Ikeda K², Matsuzaki Y³, Furuse J, Minami H⁴, Okayama Y⁵, Sunaya T⁵, Ito Y⁵, Inuyama L⁵, Okita K⁶ (¹Kanazawa University Graduate School of Medical Science, ²Toranomon Hospital, ³Tokyo Medical University Ibaraki Medical Center, ⁴Kobe

- University Graduate School of Medicine, ⁵Bayer Yakuhin, ⁶Shimonoseki Kosei Hospital) : Safety and effectiveness of sorafenib in Japanese patients with hepatocellular carcinoma in daily medical practice : interim analysis of a prospective postmarketing all-patient surveillance study. *J Gastroenterol* 51(10): 1011-1021, 2016.
14. Kudo M¹, Lencioni R², Marrero JA³, Venook AP⁴, Bronowicki JP⁵, Chen XP⁶, Dagher L⁷, Furuse J, Geschwind JH⁸, Ladrón de Guevara L⁹, Papandreou C¹⁰, Sanyal AJ¹¹, Takayama T¹², Yoon SK¹³, Nakajima K¹⁴, Lehr R¹⁴, Heldner S¹⁴, Ye SL¹⁵ (¹Kinki University School of Medicine, ²Pisa University Hospital and School of Medicine, ³University of Texas Southwestern Medical Center, ⁴University of California, ⁵University of Lorraine, ⁶Tongji Hospital, Tongji Medical College, Huazhong University of Science and Technology, ⁷Policlínica Metropolitana, ⁸Johns Hopkins University School of Medicine, ⁹Hospital Angeles Clínica Londres, ¹⁰University Hospital of Larissa, ¹¹Virginia Commonwealth University Medical Center, ¹²Nihon University School of Medicine, ¹³The Catholic University of Korea, ¹⁴Bayer HealthCare Pharmaceuticals, ¹⁵Liver Cancer Institute and Zhongshan Hospital) : Regional differences in sorafenib-treated patients with hepatocellular carcinoma: GIDEON observational study. *Liver Int* 36(8):1196-205, 2016.
 15. Shinoto M¹, Yamada S², Terashima K³, Yasuda S², Shioyama Y⁴, Honda H³, Kamada T², Tsujii H², Saisho H⁵, Working Group for Pancreas Cancer (¹National Institute of Radiological Sciences, Ion Beam Therapy Center, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ²National Institute of Radiological Sciences, ³Kyushu University, ⁴Ion Beam Therapy Center, ⁵Kaken Hospital) : Carbon Ion Radiation Therapy With Concurrent Gemcitabine for Patients With Locally Advanced Pancreatic Cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 95(1):498-504, 2016.
 16. Geschwind JF¹, Kudo M², Marrero JA³, Venook AP⁴, Chen XP⁵, Bronowicki JP⁶, Dagher L⁷, Furuse J, Ladrón de Guevara L⁸, Papandreou C⁹, Sanyal AJ¹⁰, Takayama T¹¹, Ye SL¹², Yoon SK¹³, Nakajima K¹⁴, Lehr R¹⁴, Heldner S¹⁵, Lencioni R¹⁶ (¹Johns Hopkins University School of Medicine, ²Kinki University School of Medicine, ³University of Texas Southwestern Medical Center, ⁴University of California-San Francisco, ⁵Tongji Medical College, Huazhong University of Science and Technology, ⁶University of Lorraine, ⁷Policlínica Metropolitana, ⁸Hospital Angeles Clínica Londres, ⁹University Hospital of Larissa, ¹⁰Commonwealth University Medical Center, ¹¹Nihon University School of Medicine, ¹²Liver Cancer Institute and Zhongshan Hospital, Fudan University, ¹³University of Korea, ¹⁴Bayer Healthcare Pharmaceuticals, ¹⁵Bayer Pharma AG, ¹⁶Pisa University Hospital and School of Medicine) : TACE Treatment in Patients with Sorafenib-treated Unresectable Hepatocellular Carcinoma in Clinical Practice: Final Analysis of GIDEON. *Radiology* 279(2):630-40, 2016.
 17. Ikeda M¹, Okusaka T², Sato Y³, Furuse J, Mitsunaga S¹, Ueno H², Morizane C², Inaba Y³, Kobayashi T², Arai Y¹ (¹National Cancer Center Hospital East, ²National Cancer Center Hospital, ³Aichi Cancer Center) : A Phase I/II trial of continuous hepatic intra-arterial infusion of 5-fluorouracil, mitoxantrone and cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*:1-8, 2016. (in press).
 18. Furuse J, Nagashima F : Emerging protein kinase inhibitors for treating pancreatic cancer. *Expert Opin Emerg Drugs* 22(1):77-86, 2017.
 19. Matsubayashi H¹, Takaori K², Morizane C³, Maguchi H⁴, Mizuma M⁵, Takahashi H⁶, Wada K⁷, Hosoi H³, Yachida S⁸, Suzuki M⁸, Usui R⁸, Furukawa T⁹, Furuse J, Sato T¹⁰, Ueno M¹¹, Kiyozumi Y¹, Hijioka S¹², Mizuno N¹², Terashima T¹³, Mizumoto M¹⁴, Kodama Y¹⁵, Torishima M¹⁵, Kawaguchi T¹⁵, Ashida R¹⁶, Kitano M¹⁷, Hanada K¹⁸, Furukawa M¹⁹, Kawabe K²⁰, Majima Y²¹, Shimosegawa T⁵ (¹Shizuoka Cancer Center, ²Kyoto University Graduate School of Medicine, ³National Cancer Center Hospital, ⁴Teine-Keijinkai Hospital, ⁵Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁶National Cancer Center Hospital East, ⁷Teikyo University School of Medicine, ⁸National Cancer Center Research Institute, ⁹Tokyo Women's Medical University, ¹⁰Yokohama City University Graduate School of Medicine, ¹¹Kanagawa Cancer Center, ¹²Aichi Cancer Center Hospital, ¹³Kanazawa University Graduate School of Medicine, ¹⁴Japan Baptist Hospital, ¹⁵Kyoto University Graduate School of Medicine, ¹⁶Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ¹⁷Wakayama Medical University, ¹⁸Onomichi General Hospital, ¹⁹National Kyushu Cancer Center, ²⁰Kyushu University Graduate School of Medical Science, ²¹Pancreatic Cancer Action Network) : Familial pancreatic cancer: Concept, management and issues. *World J Gastroenterol* 23(6):935-948, 2017.
 20. Okusaka T¹, Miyakawa H², Fujii H³, Nakamori S⁴, Satoh T⁵, Hamamoto Y⁶, Ito T⁷, Maguchi H⁸, Matsumoto S⁹, Ueno H¹, Ioka T¹⁰, Boku N¹, Egawa S¹¹, Hatori T¹², Furuse J, Mizumoto K¹³, Ohkawa S¹⁴, Yamaguchi T¹⁵, Yamao K¹⁶, Funakoshi A¹⁷, Chen JS¹⁸, Cheng AL¹⁹, Sato A²⁰, Ohashi Y²¹, Tanaka M²²; GEST group (¹National Cancer Center Hospital, ²Sapporo Kosei General Hospital, ³Jichi Medical University, ⁴Osaka National Hospital, ⁵Osaka University Graduate School of Medicine, ⁶Keio University Hospital, ⁷Kyushu University, ⁸Teine-Keijinkai Hospital, ⁹Kyoto University Hospital, ¹⁰Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ¹¹Tohoku University, ¹²International University of Health and Welfare Mita Hospital, ¹³Kyushu University Hospital Cancer Center, ¹⁴Kanagawa Cancer Center, ¹⁵Chiba Cancer Center, ¹⁶Aichi Cancer Center Hospital, ¹⁷Fukuoka Sanno Hospital, ¹⁸Linkou Chang Gung Memorial Hospital and Chang Gung University, ¹⁹National Taiwan University Hospital, and National Taiwan University Cancer Center, ²⁰Hiroasaki University Graduate School of Medicine, ²¹Chuo University, ²²Shimonoseki City Hospital) : Updated results from GEST study: a randomized, three-arm phase III study for advanced pancreatic cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*. 2017. (in press).
 21. Watanabe T¹, Furuse J, Okano N, Suzuki Y², Kamma H³, Sugiyama M² (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : A pathological complete response

- after combined chemotherapy of gemcitabine and S-1 in advanced biliary tract cancer with para-aortic lymph nodes metastasis: a case report. *Surg Case Rep* :26, 2017. (in press).
22. Arima S, Shimizu K¹, Okamoto T², Toki M³, Suzuki Y⁴, Okano N, Naruge D, Kawai K, Kobayashi T, Kasuga A, Kitamura H, Takasu A, Nagashima F, Sugiyama M, Furuse J^(¹Tokyo Women's Medical University, ²The Jikei University Daisan Hospital, ³Third Department of Internal Medicine, Kyorin University, ⁴Department of Surgery, Kyorin University): A Multicenter Phase II Study of Gemcitabine plus S-1 Chemotherapy for Advanced Biliary Tract Cancer. *Anticancer Res* 37(2) : 909-914, 2017.
 23. Ikeda M¹, Shimizu S¹, Sato T², Morimoto M³, Kojima Y⁴, Inaba Y⁵, Hagihara A⁶, Kudo M⁷, Nakamori S⁸, Kaneko S⁹, Sugimoto R¹⁰, Tahara T¹¹, Ohmura T¹², Yasui K¹³, Sato K¹⁴, Ishii H¹⁵, Furuse J, Okusaka T¹⁶ (¹National Cancer Center Hospital East, ²Kyoto University School of Public Health, ³ Kanagawa Cancer Center, ⁴ National Center for Global Health and Medicine Center Hospital, ⁵Aichi Cancer Center Hospital, ⁶Osaka City University Hospital, ⁷Kinki University School of Medicine, ⁸Osaka National Hospital, ⁹Kanazawa University Hospital, ¹⁰National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ¹¹Saiseikai Utsunomiya Hospital, ¹²Sapporo Kosei General Hospital, ¹³ Kyoto Prefectural University of Medicine, ¹⁴Kyoto University Hospital, ¹⁵Shikoku Cancer Center, ¹⁶National Cancer Center Hospital) : Reply to the letter to the editor 'Sorafenib plus Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin vs. Sorafenib for Advanced Hepatocellular Carcinoma : Randomized Phase II Trial' by Fornaro et al. *Ann Oncol*. 2017. (in press).
 24. Ioka T¹, Komatsu Y², Mizuno N³, Tsuji A⁴, Ohkawa S⁵, Tanaka M⁶, Iguchi H⁷, Ishiguro A⁸, Kitano M⁹, Satoh T⁹, Yamaguchi T¹⁰, Takeda K¹¹, Kida M¹², Eguchi K¹³, Ito T⁶, Munakata M¹⁴, Itoi T¹⁵, Furuse J, Hamada C¹⁶, Sakata Y⁶ (¹Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ²Hokkaido University Hospital Cancer Center, ³Aichi Cancer Center Hospital, ⁴Kochi Health Sciences Center, ⁵Kanagawa Cancer Center Hospital, ⁶Kyushu University, ⁷National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁸Hirosaki University, ⁹Kinki University, ¹⁰Chiba Cancer Center Hospital, ¹¹Osaka City General Hospital, ¹²Kitasato University School of Medicine, ¹³Teikyo University School of Medicine, ¹⁴Misawa City Hospital, ¹⁵Tokyo Medical University Hospital, ¹⁶Tokyo University of Science) : Randomised phase II trial of irinotecan plus S-1 in patients with gemcitabine-refractory pancreatic cancer. *Br J Cancer* 116(4):464-471, 2017.
- 和文**
1. 岡野尚弘, 河合桐男, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司 : 膵がん二次治療のエビデンスと最新情報. *Mebio* 33(5) : 62-69, 2016.
 2. 女屋博昭¹, 長島文夫 (¹群馬県立がんセンター) : がん化学療法の画像評価 効果判定と治療継続. *臨床消化器内科* 31(7) : 769-774, 2016.
 3. 河合桐男, 長島文夫, 岡野尚弘, 成毛大輔, 北村浩, 古瀬純司 : 高齢者に対するがん化学療法. *臨床消化器内科* 31(7) : 775-779, 2016.
 4. 土岐真朗¹, 渡邊俊介¹, 倉田勇¹, 森秀明¹, 久松理一¹, 古瀬純司 (¹杏林大・医・第三内科学) : 消化器がんの合併症とがん化学療法 消化管閉塞・穿孔, 胆管閉塞. *臨床消化器内科* 31(7) : 791-795, 2016.
 5. 岡野尚弘, 河合桐男, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司 : 消化器がん化学療法の実例 消化器がんキードラッグの基礎知識 プラチナ系薬剤. *臨床消化器内科* 31(7) : 867-872, 2016.
 6. 成毛大輔, 古瀬純司 : 有害事象とその対策 神経障害 : 末梢神経および白質脳症. *臨床消化器内科* 31(7) : 1019-1024, 2016.
 7. 古瀬純司 : 十二指腸乳頭部癌に対する化学療法一切除不能・再発癌に対する治療と補助療法. *外科* 78(6) : 619-625, 2016.
 8. 古瀬純司 : 序文 : 膵・胆道癌治療とエキスパートオピニオン. *胆と膵* 37(6) : 489-491, 2016.
 9. 成毛大輔, 古瀬純司 : FOLFIRINOX・ナブパクリタキセルによる末梢神経障害への対応. *胆と膵* 37(6) : 545-549, 2016.
 10. 古瀬純司 : 腫瘍内科医からみた局所進行膵癌の外科切除適応. *胆と膵* 37(7) : 597-601, 2016.
 11. 長島文夫, 水谷友紀¹, 濱口哲弥², 小川朝生³, 前野聡子, 古瀬純司 (¹国立がん研究センター 多施設臨床試験支援センター, ²国立がんセンター中央病院, ³国立がんセンター東病院) : 超高齢がん患者に対する臨床試験デザイン. *Cancer Board Square* 2(2) : 255-259, 2016.
 12. 成毛大輔, 古瀬純司 : 切除不能膵癌の治療 化学療法. *コンセンサス癌治療* 14(2) : 98-101, 2016.
 13. 遠藤仁¹, 石原豪史¹, 古瀬純司 (¹ジェイファーマ株式会社) : メタボロームを標的とした新規治療薬 LAT1/JPH203. *医学のあゆみ* 258(5) : 487-493, 2016.
 14. 古瀬純司 : 肝胆膵癌における開発の現状と期待 免疫チェックポイント阻害剤 : 膵癌. *肝胆膵* 73(3) : 419-422, 2016.
 15. 古瀬純司 : 局所進行膵がんに対する化学放射線療法の意義と治療開発. *JASTRO NEWSLETTER* 121:3, 2016.
 16. 加藤俊介¹, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司 (¹順天堂大学) : 「高齢者への化学療法とそのスクリーニングツール」篇. *Cancer Board Square* 2(3) : 608-613, 2016.
 17. 池田登顕¹, 井上俊之¹, 菊谷武², 呉屋朝幸³, 田中良典⁴, 呉屋弘美⁵, 佐野広美⁵, 庄司幸江³, 須藤紀子⁶, 長島文夫, 藤澤節子⁷, 佐藤博之⁸ (¹たんぼぼクリニック, ²日本歯科大口腔リハビリテーション多摩クリニック, ³杏林大学医学部第二外科教室, ⁴武蔵野赤十字病院, ⁵関東中央総合病院, ⁶野村病院, ⁷薬局ルンルンファーマシー, ⁸中町グリーン薬局) : 北多摩南部圏域の多職種連携促進における在宅医療・緩和ケアカンファレンスの意義について. *日本医療マネジメント学会雑誌* 16(4) : 185-189, 2016.
 18. 長島文夫 : 高齢者におけるがん薬物療法 up date 序文. *老年医学* 54(12) : 1217-1218, 2016.
 19. 前野聡子, 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 河合桐男, 小林敬明, 北村浩, 古瀬純司 : 高齢者がん治療. *腫瘍内科* 19(1) : 101-106, 2017.
 20. 古瀬純司 : 化学療法と放射線療法. *成人病と生活習慣病* 47(2) : 247-251, 2017.
 21. 前野聡子, 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 河合桐男, 小林敬明, 北村浩, 古瀬純司 : 老年腫瘍学. *癌と化学療法* 44(2) : 97-101, 2017.
 22. 古瀬純司, 長島文夫 : 超高齢者膵癌に対する化学療法. *肝胆膵* 74(3) : 449-454, 2017.
- 著書**
1. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 長島文夫 : 胆道癌・膵癌 胆道癌・総説 膵癌化学療法における制

- 吐療法. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 消化器癌編[改訂版]. 相羽恵介監修. 大阪, メディカルレビュー社, 2016. p. 20-25.
2. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 長島文夫: 胆道癌・膵癌 胆道癌・治療の実際 GEM+CDDP療法. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 消化器癌編[改訂版]. 相羽恵介監修. 大阪, メディカルレビュー社, 2016. p. 26-29.
 3. 古瀬純司: 管理・治療 膵がんの薬物治療. 診断と治療のABC115(別冊)膵炎・膵がん. 岡崎和一編. 大阪, 最新医学社, 2016. p. 173-179.
 4. 岡野尚弘, 長島文夫, 河合桐男, 小林敬明, 成毛大輔, 古瀬純司: レジメン+症例 大腸がん UFT+LV. 消化器がん化学療法レジメンブック3版. 室圭編. 東京, 日本医事新報社, 2016. p. 151-153.
 5. 岡野尚弘, 長島文夫, 河合桐男, 小林敬明, 成毛大輔, 古瀬純司: レジメン+症例 大腸がん IRI+S-1(TS-1)[IRIS療法]. 消化器がん化学療法レジメンブック3版. 室圭編. 東京, 日本医事新報社, 2016. p. 154-156.
 6. 古瀬純司: 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016.
 7. 古瀬純司: 膵・胆道癌に対する薬物療法の基礎知識. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 9-17.
 8. 成毛大輔: FOLFIRINOX療法で肝転移が消失した膵癌の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 18-21.
 9. 岡野尚弘: 肝転移を伴う膵癌に対するFOLFIRINOX療法: UGT1A1ホモの1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 22-25.
 10. 河合桐男, 古瀬純司: 肝転移を伴う膵癌に対するゲムシタピン+パクリタキセル併用療法後, 末梢神経障害でGEM単独に移行した1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 26-29.
 11. 河合桐男, 古瀬純司: 肝転移, 腹水を伴う高度進行膵癌に対するゲムシタピン+ナブパクリタキセル併用療法の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 30-32.
 12. 岡野尚弘: FOLFIRINOX療法耐性後にゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法を施行した1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 38-42.
 13. 岡野尚弘: FOLFIRINOX療法後に切除が可能となった局所進行膵癌の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 48-51.
 14. 成毛大輔: 組織診断がつかないまま治療を行い, 治療方針に苦慮した1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 52-55.
 15. 古瀬純司: リンパ節転移を伴う肝内胆管癌 ゲムシタピン+シスプラチン併用療法およびS-1単独による化学療法を施行した1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 62-65.
 16. 河合桐男, 古瀬純司: 肝転移を伴う胆嚢癌に対するゲムシタピン+S-1併用療法の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 66-67.
 17. 長島文夫, 前野聡子: ゲムシタピン化学療法中に薬剤性肺障害を発症した膵臓癌の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 76-81.
 18. 渡邊俊介, 土岐真朗, 久松理一, 古瀬純司: 化学療法中に胆管ステントの閉塞と胆管炎を発症した膵癌の1例. 膵・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p. 82-86.
 19. 古瀬純司: 膵疾患の治療(総論) 薬物療法 膵癌の化学療法. 新膵臓病学. 下瀬川徹編. 東京, 南江堂, 2017. p. 258-265.
 20. 岡野尚弘, 古瀬純司: 膵疾患の臨床 膵外分泌腫瘍 膵癌 内科的治療. 新膵臓病学. 下瀬川徹編. 東京, 南江堂, 2017. p. 361-366.
 21. 古瀬純司: 膵疾患のガイドライン 膵腫瘍 膵がん・胆道がん 薬物療法ハンドブック. 新膵臓病学. 下瀬川徹編. 東京, 南江堂, 2017. p. 502-504.
 22. 古瀬純司: 膵癌の新しい薬物療法. 消化器疾患最新の治療2017-2018. 小池和彦, 山本博徳, 瀬戸泰之編. 東京, 南江堂, 2017. p. 47-51.
 23. 古瀬純司: 消化器がん化学療法2016. 臨牀消化器内科編集委員会編, 古瀬純司監修, 東京, 日本メディカルセンター, 2016.
 24. 岡野尚弘, 河合桐男, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: 消化器がん化学療法の実際 消化器がんキードラックの基礎知識プラチナ系薬剤. 臨牀消化器内科 消化器がん化学療法2016. 古瀬純司監修, 臨牀消化器内科編集委員会編, 東京, 日本メディカルセンター, 2016. p. 119-124.
 25. 岡野尚弘: 薬物療法 抗癌剤. プリンシプル消化器疾患の臨床 食道・胃・十二指腸の診療アップデート. 東京, 中山書店, 2017. p. 165-173.
 26. 岡野尚弘: 悪性腫瘍 胆嚢・胆管癌. 薬局 病気とくすり2017. 東京, 南山堂, 2017. p. 1483-1486.
 27. 古瀬純司: がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017.
 28. 古瀬純司: ざっくり解説! ケアにつながる薬の種類と特徴. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 10-11.
 29. 長島文夫: セツキシマブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 34-35.
 30. 長島文夫: パニツムマブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 36-37.
 31. 成毛大輔: レンバチニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 48-49.
 32. 岡野尚弘, 古瀬純司: パンデタニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 54-55.
 33. 岡野尚弘, 古瀬純司: レゴラフェニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 52-53.
 34. 長島文夫: ペマシズマブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 58-59.
 35. 河合桐男, 長島文夫: ベムラフェニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 62-63.
 36. 成毛大輔: 末梢神経障害対策薬. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司編著. 東京, メディカ出版, 2017. p. 236-237.
- 報告書**
1. 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する

る研究. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業)2016年度 委託研究開発成果報告書.

2. 長島文夫: 高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業)2016年度 委託研究開発成果報告書.

その他

1. 長島文夫: 進行再発癌に対する薬物治療-治療の進め方と止め時とは. がんサポート6月号, 2016.
2. 古瀬純司: 消化器がんの化学療法 食道・胃・大腸がん(前編). 日本医師会企画テレビ番組「話題の医学」. テレビ東京, 2016年7月3日.
3. 古瀬純司: 消化器がんの化学療法 肝・胆道・膵がん(後編). 日本医師会企画テレビ番組「話題の医学」. テレビ東京, 2016年7月10日.
4. 長島文夫: 高齢がん患者に適切な医療を. 週刊医学界新聞3200号, 2016年11月21日.
5. 長島文夫: 増える高齢者のがん治療. 朝日新聞デジタルアピタルチャンネル, 2016年11月26日.
6. 長島文夫: がん大国白書 最良の選択を求めて. 高齢がん患者のデータ収集の重要性などについて解説, 毎日新聞, 2016年12月8日.
7. 長島文夫: 高齢者のがん治療のあり方について. 週刊朝日, 2007年1月13日.
8. 長島文夫: 山内曾六日記. 日本医事新報社, 2017年1月14日.
9. 長島文夫: 高齢者のがん手術は余命を延ばしているのか? ~がん対策推進協議会で「高齢者のがん」が初議論. 週刊朝日MOOK, 手術数でわかるいい病院, 2017年3月15日.

高齢医学教室

講演

1. Ishii S, Ogawa S, Kojima T, Iijima K, Kozaki K, Toba K, Akishita M: Recent sex- and age-specific changes in disability, chronic medical conditions and mortality in Japanese older adults. AMERICAN GERIATRICS SOCIETY 2016 ANNUAL SCIENTIFIC MEETING, USA, May 19th-21st, 2016.
2. 大荷満生: 家族性高コレステロール血症の病態と治療-脂質代謝におけるPCSK9の役割を中心に. 調布市医師会学術講演会, 調布, 2016年6月3日.
3. 神崎恒一: 認知症. 平成28年第1回薬物療法専門薬剤師集中講義, 東京, 2016年6月5日.
4. 海老原孝枝: タウオパチーとシヌクレオパチー罹患高齢者の摂食嚥下障害・誤嚥性肺炎の病態解明とテーラメイド戦略. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 6月8-10日.
5. 柴田茂貴: 最新の脳血管昨日評価法の認知症への応用. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
6. 長谷川浩: 地域における認定認知症疾患医療センターの運営と課題. 第58階日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
7. 田中政道, 永井久美子, 小柴ひとみ, 神崎恒一: 外来患者におけるフレイルの評価と臨床測定値との関係. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
8. 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 田中政道, 平澤愛, 柴田茂貴, 神崎恒一: 要介護認定をアウトカムにしたフレイル研究対象高齢者の追跡調査. 第58回日本老年医学

学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.

9. 宮本孝英, 田中政道, 塚原大輔, 長谷川浩, 神崎恒一: Clostridium difficile associated diarrhea(CDAD)の治療期間に関連する因子. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
10. 平澤愛, 小柴ひとみ, 宮澤太機, 永井久美子, 柴田茂貴, 神崎恒一: 高齢者におけるフレイルが脳血流動態に及ぼす影響. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
11. 高附里江, 長田正史, 長谷川浩, 神崎恒一: 超高齢非弁膜症性心房細動患者に対する抗凝固療法の背景・特徴. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
12. 田中政道, 松井敏史, 小柴ひとみ, 永井久美子, 神崎恒一: 外来通院患者での年齢別サルコペニア頻度, 低筋量者, 低歩行速度者の割合. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
13. 小島太郎, 松井敏史, 神崎恒一, 富田尚希, 荒井啓行, 竹屋泰, 樂木宏実, 鈴木裕介, 葛谷雅文, 秋下雅弘: 高齢入院患者における薬物有害作用の危険因子の包括的検討(第2報). 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
14. 船曳茜, 永井久美子, 長田正史, 小原聡将, 長谷川浩, 神崎恒一: 高齢者感染症患者における全身性炎症反応症候群(SIRS)基準の有用性の検討. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
15. 神崎恒一: 老年病専門医の制度設計. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016年6月8-10日.
16. 大荷満生: 介護のある暮らしを考える. 獨協大学市民公開講座, さいたま, 2016年6月10日.
17. 長谷川浩: 地域で高齢者をみるために フレイルと認知症. 千葉県薬剤師漢方研究会, 市川, 2016年6月17日.
18. 大荷満生: 高齢者の自立喪失の様相とフレイル・サルコペニア. 西東京医師会講演会, 西東京, 2016年6月21日.
19. 大荷満生: 健康管理・介護予防概論. 公益財団法人健康・体力づくり事業団 健康運動指導士養成講習会, 東京, 2016年6月24日.
20. 長谷川浩: 杏林大学病院もの忘れセンターにおける東京都認知症疾患医療センターとしての活動. 第1回北多摩南部認知症診療を考える会, 調布, 2016年6月29日.
21. 長谷川浩: 認知症をみるということ. 社会福祉法人にじの会勉強会, 三鷹, 2016年7月1日.
22. 神崎恒一: 高齢者に対する薬物療法. 東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会, 立川, 2016年7月6日.
23. 神崎恒一: 各ガイドライン編集委員が語る脂質異常症治療戦略 日本老年医学会から. 第48回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 東京, 2016年7月14-15日.
24. Hirasawa A, Shibata S, Miyazawa T, Nagai K, Koshiba H, Kozaki K: The relationship between cerebral hemodynamics estimated by Transcranial Doppler ultrasound and pathogenesis of Alzheimer's disease. The 10th APSAVD congress, Tokyo, July 14th-16th, 2016.
25. Nagai K, Hirasawa A, Miyazawa T, Koshiba H, Shibata S, Kozaki K: Relationship between cerebral hemodynamics and the severity of cerebral white matter hyperintensities (WMHs) among the elderly patient with memory disorder. The 10th APSAVD congress, Tokyo, July 14th-16th, 2016.
26. 神崎恒一: 老年病専門医の方向性. 第18回日本在宅医学会大会・第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会, 東京, 2016年7月17日.

27. 神崎恒一: 認知症を正しく理解するために. ベネッセ 地域医療セミナー, 三鷹, 2016年7月24日.
28. 長谷川浩: 認知症の診断・治療における医療機関の役割について考える. 平成28年度杉並区認知症診断・治療に係る医療機関連絡会, 東京, 2016年7月29日.
29. Ebihara T: A comprehensive strategy using aromatherapy for dysphagia in the elderly. medical aromatherapy for a geriatric setting. Botanica2016, United Kingdom, September 2nd-5th, 2016.
30. 神崎恒一: 「認知症にやさしいまち三鷹」づくりのために. 第5回市民公開講座, 三鷹, 2016年9月10日.
31. 長谷川浩: 認知症になってもこの街で自分らしく暮らし続けるために～私にできること. 武蔵野市「認知症を知る月間」講演会, 武蔵野, 2016年9月10日.
32. 大荷満生: フレイル・サルコペニアの病態と治療-栄養学的アプローチによりどこまで治療が可能か. お茶の水女子大学健康食品フォーラム2016市民公開講座, 東京, 2016年9月15日.
33. 伊藤瑛佑, 宮本孝英, 宮城島慶, 長田正史, 長谷川浩, 神崎恒一: バセドウ化した縦隔内甲状腺腫の1例. 第64回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年9月17日.
34. 輪千督高, 高附里江, 竹下実希, 井上慎一郎, 長谷川浩, 神崎恒一: 診断に苦慮した右股関節痛, 発熱, 炎症反応の上昇の一例. 第64回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年9月17日.
35. 大荷満生: 脂質異常症の病態と治療. 平成28年度健康運動指導士養成講習会, 東京, 2016年9月20日.
36. 大荷満生: 循環器領域に残された課題-家族性高コレステロール血症(FH). JCC2016 Round Table Discussion, 東京, 2016年9月25日.
37. 神崎恒一: ロコモと認知症. ロコモキャラバンin佐賀, 佐賀, 2016年10月1日.
38. 神崎恒一: 老人保健施設の認知症ケア3. 第3回老人保健施設管理医研修会(第II期), 東京, 2016年10月2日.
39. Kozaki K: Frailty Associates with Accumulation of Geriatric Syndromes and Progresses with Walking Unsteadiness. EUGMS Congress 2016, Portugal, October 5th-7th, 2016.
40. 保田直美, 寺島直樹, 望月豊, 中島久実子, 大荷満生, 秦葭哉: 片足切断後の栄養運動療法でADLの改善中に健側肢は筋肥大, 切断肢残部には筋萎縮をおこした糖尿病の2例. 第38回日本臨床栄養学会総会, 大阪, 2016年10月9日.
41. 長谷川浩: 認知機能と排尿障害, 薬物治療との関係について. 北多摩尿失禁研修会, 武蔵野, 2016年10月12日.
42. 大荷満生: 家族性高コレステロール血症の診断と最新治療-PCSK9の役割を中心に. 三鷹市医師会講演会, 三鷹, 2016年10月18日.
43. 大荷満生: 循環器内科専門医が知っておくべき家族性高コレステロール血症の病態と最新治療. 医療関係者向け情報Webサイト「e-MR」, 東京, 2016年10月20日.
44. 神崎恒一: 認知症にやさしいまち三鷹づくり. 第1回在宅医療・介護連携フォーラム, 三鷹, 2016年10月29日.
45. 海老原孝枝: 内科医が診る, 高齢者摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の包括的診断治療予防戦略. 第16回碧海呼吸器研究会, 刈谷, 2016年10月29日.
46. 神崎恒一: フレイルの概念と今後の方向性. 新百合ヶ丘学術講演会, 川崎, 2016年11月2日.
47. Shibata H, Hirasawa A, Miyazawa T, Nagai K, Koshihara H, Kozaki K: The relationship between cerebral hemodynamics and frailty in the elderly. 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Nagoya, November 4th-5th, 2016.
48. 田中政道, 永井久美子, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一: 外来通院患者でのサルコペニア3要因とグレリン・レプチンとの関係. 第3回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 名古屋, 2016年11月6日.
49. 神崎恒一: 認知症患者のフレイルと老年症候群. 第22回北多摩認知症を考える会, 清瀬, 2016年11月8日.
50. 長谷川浩: 認知症: 誰にでもあるもの忘れと予防につながる生活について. 杏林大学公開講座, 羽村, 2016年11月10日.
51. 海老原孝枝: 高齢者摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の包括的診断治療予防戦略. 高齢者の嚥下障害と糖尿病 内科医が診る 城北地区講演会, 東京, 2016年11月18日.
52. 神崎恒一: 高齢者医療と糖尿病の管理. 福岡糖尿病アゴラ第30回記念講演会, 福岡, 2016年11月26日.
53. 大荷満生: 家族性高コレステロール血症の病態と治療-PCSK9阻害薬への期待. 榊原記念病院定例講演会, 東京, 2016年11月26日.
54. 小原聡将, 小林義雄, 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 長谷川浩, 神崎恒一: 大脳皮質病変を有するMCI患者の問題行動と介護負担との関係. 第35回日本認知症学会学術集会, 東京, 2016年12月1-3日.
55. 長谷川浩, 神崎恒一, 関根道昭, 榎本恵, 森田和元: 一般および軽度認知障害(MCI)高齢者の自動車運転能力の評価手法の検討. 第35回日本認知症学会学術集会, 東京, 2016年12月1-3日.
56. 山田如子, 永井久美子, 小林義雄, 神崎恒一: 認知症介護負担の関連因子についての検討-SOCスケールを用いて. 第35回日本認知症学会学術集会, 東京, 2016年12月1-3日.
57. 長谷川浩, 神崎恒一, 粟田圭一: 東京都認知症サポート医の活動と課題について(アンケート調査の結果から). 第35回日本認知症学会学術集会, 東京, 2016年12月1-3日.
58. 長谷川浩: 杏林大学病院もの忘れセンターにおける東京都認知症疾患医療センターとしての活動. 第2回北多摩南部認知症診療を考える会, 調布, 2016年12月7日.
59. 長谷川浩: 認知症に関する知識・認知症とは. 東京都看護師対応力向上研修会, 三鷹, 2016年12月10日.
60. 長谷川浩: 認知症を正しく知りましょう～家族が認知症になってもあわてないように～. 府中市公開講演会, 府中, 2016年12月15日.
61. 大荷満生: 家族性高コレステロール血症の病態と診断・治療-脂質代謝におけるPCSK9の役割を中心に. 西多摩医師会学術集会, 東京, 2016年12月16日.
62. 神崎恒一: 認知症の医療について. 平成28年度認知症に関わる講演会, 府中, 2017年1月15日.
63. 長谷川浩: 障害者施設の高齢化対応 地域との連携「認知症について」. 第12回にじの会公開講座, 三鷹, 2017年1月28日.
64. 長谷川浩: 認知症の地域連携～認知症疾患医療センターの役割～. 認知症ネットワーク研究会, 金沢, 2017年2月10日.
65. 長谷川浩: 認知症について. 東京都かかりつけ医認知症研修, 小金井, 2017年2月14日.
66. 神崎恒一: 高齢者のフレイルとサルコペニア. 日本医師会生涯教育講座, 東京, 2017年2月16日.
67. 長谷川浩: 認知症早期診断・治療における実践ノウハウ～老年科医の立場から. 認知症診療最前線in武蔵野, 武蔵野, 2016年2月17日.
68. 神崎恒一: 認知症の人と家族の支援の為の先進的取り組み

- み：地域資源マップの活用．第4回認知症医療介護推進フォーラム，名古屋，2017年2月19日．
69. 長谷川浩：高齢者虐待の現状とその対応．杏林大学病院虐待防止講演会，三鷹，2016年2月24日．
 70. 神崎恒一：高齢者とフレイル．多摩フレイル勉強会，三鷹，2017年3月1日．
 71. 神崎恒一：三鷹・武蔵野から北多摩南部へー認知症診断連携の親展ー．区西北部もの忘れセミナー～認知症を考える～，東京，2017年3月10日．
 72. 輪千督高，船曳茜，長谷川浩，海老原孝枝，神崎恒一：症候性てんかんを発症した前頭側頭葉変性症の一例．第65回日本老年医学会関東甲信越地方会，新潟，2017年3月11日．
 73. 小池裕美子，長田正史，海老原孝枝，長谷川浩，神崎恒一：食堂願意に対するRoux-en-Y再建術後の消化管逆流により誤嚥性肺炎を繰り返した一例．第65回日本老年医学会関東甲信越地方会，新潟，2017年3月11日．
 74. 鳥居正剛，長谷川浩，谷合誠一，笹森寛生，佐藤研隆，平野照之，塩川芳昭：フレイルと高齢者脳卒中外科・血管内治療の適応決定 当施設の頸動脈狭窄症の治療成績および治療決定因子としてのフレイルの捉え方．第46回日本脳卒中外科学会，大阪，2016年3月15日．
 75. 大荷満生：中高年女性の生活習慣病．第43回中高年女性保健セミナー 一般社団法人日本家族計画協会，東京，2017年3月18日．
 76. 長谷川浩：認知症を伴う高齢者の降圧治療について．降圧治療Video Lecture in 武蔵野，武蔵野，2016年3月22日．

論文

1. Ebihara T : A Comprehensive Strategy using Aromatherapy for Dysphagia in the Elderly-Medical Aromatherapy for Geriatric Setting. Internat J Clin Aromatherapy (Conference proceeding): 53-57, 2016.
2. Nagai K, Koshiha H, Tanaka M, Matsui T, Kozaki K: Unsteady gait is a determinant for progression in frailty among the elderly. Geriatr Gerontol Int 16(5): 655-657, 2016.
3. 松井敏史，横山頭，松下幸生，神崎恒一，樋口進，丸山勝也：アルコール関連の諸問題．日本老年医学会雑誌 53(4)：304-317，2016．
4. 長谷川浩，田中政道：高齢社会における認知症の課題と展望 臨床に役立つQ&A 認知症とフレイルの関係について教えてください．Geriatric Medicine 54(5):495-498, 2016.
5. L T, Cheng HJ, Ohte N, Hasegawa H, Morimoto A, Herrington DM, Little WC, Li W, Cheng CP: C-Type Natriuretic Peptide Improves Left Ventricular Functional Performance at Rest and Restores Normal Exercise Responses after Heart Failure. J Pharmacol Exp Ther. 357(3):545-553, 2016. doi: 10.1124/jpet.115.231696. (Epub).
6. 海老原孝枝：摂食嚥下障害・誤嚥性肺炎患者の栄養摂取に対する包括的アプローチ．内分泌・糖尿病・代謝内科科学評論社 43(6):494-500, 2016.
7. 神崎恒一：運動による高齢者の転倒予防．日本医師会雑誌 145(9)：1897-1901, 2016.
8. 海老原孝枝：臨床に役立つQ&A高齢者における誤嚥予防について教えてください．Geriatric Medicine 54(11):1135-1136, 2016.
9. 長谷川浩：主治医として診る高血圧診療 血液，尿検査はどれくらいの頻度で何を診るべきか 脳梗塞既往患者．Medicina 53(11):742-1744, 2016.
10. 田中政道，永井久美子，小柴ひとみ，松井敏史，神崎恒一：杏林大学病院高齢診療科，もの忘れセンターに通院中の患者におけるサルコペニアの実態調査ならびに転倒との関連についての検討．日本老年医学会雑誌 54(1)：63-74，2017．
11. 大野一将，長谷川浩，小原聡将，宮城島慶，井上慎一郎，神崎恒一：体位変換による保存的加療で良好な経過を辿ったupside down stomachの1例．日本老年医学会雑誌 54(1)：81-86，2017．
12. Ebihara S¹, Izukura H¹, Miyagi M¹, Okuni I¹, Sekiya H¹, Ebihara T^(1Toho University): Chemical Senses Affecting Cough and Swallowing. Curr Pharm Des. 22(15):2285-2289, 2016.
13. Ebihara S¹, Sekiya H¹, Miyagi M¹, Ebihara T, Okazaki T² (1Toho University, 2Tohoku University): Dysphagia, dystussia, and aspiration pneumonia in elderly people. J Thorac Dis. 8(3):632-639, 2016. doi: 10.21037/jtd.2016.02.60.

著書

1. 神崎恒一，望月諭：認知症．これからの在宅医療一指針と実務．大島伸一監修，鳥羽研二編集代表．東京，グリーン・プレス，2016． p.80-84.
2. 神崎恒一：包括的高齢者評価（医学評価）．高齢者理学療法学．島田裕之総編，牧迫飛雄馬，山田実編．東京，医歯薬出版，2017． p.108-113.
3. 大荷満生：ライフステージと栄養．成人期の栄養，高齢期の栄養．折茂英生，勝川史憲，田中芳明，吉田博編．東京，建帛社，2017． p.48-53.

報告書

1. 神崎恒一：認知症地域包括ケア実現を目指した地域社会創生のための研究．厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）2016年度 総括研究報告書．
2. 神崎恒一：地域要因に基づいた在宅医療・介護連携推進に関する研究－汎用性の高い在宅医療・介護連携推進・ガイドラインの作成．厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）2016年度 分担研究報告書．
3. 神崎恒一：地域包括ケアにおける摂食嚥下および栄養支援のための評価ツールの開発とその有効性に関する検討．日本医療研究開発機構委託研究開発費（長寿科学研究開発事業）2016年度 成果報告書．
4. 神崎恒一：適時適切な医療・ケアを目指した，認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究．日本医療研究開発機構委託研究開発費（認知症研究開発事業）2016年度 成果報告書．
5. 神崎恒一：身体活動の促進が認知症予防に対する効果についての検証．長寿医療研究開発費 2016年度 分担研究報告書．
6. 神崎恒一：要介護高齢者，フレイル高齢者，認知症高齢者に対する栄養療法，運動療法，薬物療法に関するガイドライン作成に向けた調査研究．長寿医療研究開発費 2016年度 分担研究報告書．
7. 神崎恒一：フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証．長寿医療研究開発費2016年度 分担研究報告書．
8. 神崎恒一：高齢者における認知症や脳血管障害の発症に脳小血管病が関与する臨床的意義の解明．長寿医療研究開発費2016年度 分担研究報告書．
9. 長谷川浩：高齢者の認知機能低下に対する，心機能の向上を介した新規治療概念の構築（副題：PDEⅢ阻害薬であるプレタルのもつ心拍数増加と強心作用に着目した，高齢者の認知機能低下に対する新規予防法・治療法の開発）．長寿医療研究開発費 2016年度 分担研究報告書．
10. 海老原孝枝：レビー小体関連変性疾患の呼吸感覚モダリ

ティー解明と、誤嚥性肺炎発症の連関。科学研究費補助金(基盤研究(C))2016年度 実績報告書。

その他

1. 神崎恒一: 団塊スタイル「認知症 チェックシートを賢く活用」, NHK Eテレ, 2016年7月8日.
2. 神崎恒一: 医学講座「これからの老年内科の役割」, ラジオNIKKEI, 2016年9月1日.
3. 神崎恒一: 『健康 知りたい話』気になる病気 認知症, ラジオ日本, 2016年12月12-16日.
4. 神崎恒一: TVシンポジウム「ロコモと認知症」, NHK Eテレ, 2017年2月11日.

精神神経科学教室

講演

1. 中島亨: 眠気無視に伴う抑うつ状態. 調布睡眠研究会, 調布, 2016年5月26日.
2. 今村弥生: 研修医のための精神医学「せん妄」. 糸魚川病院, 新潟, 2016年5月27日.
3. 渡邊衡一郎: 双極性障害-I型とII型における治療の最適化. 第112回日本精神神経学会学術総会, 千葉, 2016年6月2日.
4. 菊地俊暁: 映像で学ぶ初回面接-家族相談編. 第112回日本精神神経学会学術総会, 千葉, 2016年6月2日.
5. 菊地俊暁: 認知行動療法は向精神薬の処方減らせるか?. 第112回日本精神神経学会, 千葉, 2016年6月2日.
6. 菊地俊暁: 医学近縁領域における精神医療の貢献 認知行動療法の新たな発展. 第112回日本精神神経学会, 千葉, 2016年6月4日.
7. 菊地俊暁, 田島美幸, 蟹江絢子, 渡邊衡一郎, 藤澤大介, 中川敦夫, 佐渡充洋, 宗未来, 大野裕: 認知行動療法は向精神薬の処方減らせるか?. 第112回日本精神神経学会, 千葉, 2016年6月4-5日.
8. 今村弥生, 木村勝智, 宮崎仁: PIPC Revolution デキる内科医のための認知行動療法. アメリカ内科学会日本支部学術総会, 京都, 2016年6月5日.
9. 渡邊衡一郎: 「うつ」がなかなか治らない時に, 我々は何を考え, どう対処すべきなのか. 日本精神神経科診療所協会平成28年度定時総会第22回(通算43回)学術研究会, 大阪, 2016年6月11日.
10. 渡邊衡一郎: 我が国の気分障害圏における向精神薬処方状況の現状と課題 日本精神神経科診療所協会と日本臨床精神神経薬理学会との共同研究の結果から. 日本精神神経科診療所協会平成28年度定時総会第22回(通算43回)学術研究会, 大阪, 2016年6月12日.
11. 中島亨: 高齢者における不眠とせん妄の病態と加療. 上越市医師会講演会, 新潟, 2016年6月16日.
12. 中島亨: 起床困難の病態とその対処. 第23回日本産業精神保健学会, 大阪, 2016年6月17-18日.
13. 中島亨: 容易に眠気に抗した覚醒が可能なヒトについて. 第23回日本産業精神保健学会, 大阪, 2016年6月17-18日.
14. 今村弥生: 発達症とSST. SST普及協会下越支部地区交流会, 新潟, 2016年6月18日.
15. 今村弥生, 田中伸一郎: 王道少年漫画でつたえるレジリエンスの病跡学. 第63回日本病跡学会学術総会, つくば, 2016年6月25日.
16. 神田優太, 坪井貴嗣, 野崎和博, 今村弥生, 松本由美, 菊地俊暁, 渡邊衡一郎: 修正型電気けいれん療法施行後に腸腰筋出血を呈した一例 症例報告と文献的考察. 第46回日本神経精神薬理学会年会, Korea, 2016年7月2日.
17. 渡邊衡一郎: リカバリーのために薬物療法のあるべき姿 - Shared Decision Making -. 第46回日本神経精神薬理学会年会, Korea, 2016年7月2日.
18. Nozaki K, Kikuchi T, Tsuboi T, Kanda Y, Imamura Y, Watanabe K: Longitudinal Survey of Antidepressants Use in Bipolar Disorder: Prospective chart review. 30th International College of Neuropsychopharmacology World Congress, Korea, July 3rd, 2016.
19. 今村弥生, 影山綾子: 統合失調症の理解とかかわり方のコツ. 世田谷区玉川地区平成28年度精神保健講演会, 東京, 2016年7月6日.
20. 中島亨: 睡眠外来で経験するADHDおよびASDの睡眠障害の特徴. 第41回日本睡眠学会学術集会, 東京, 2016年7月7-8日.
21. 渡邊衡一郎: ベンゾジアゼピン受容体作動薬(抗不安薬, 睡眠薬)の功罪について考える. 第16回日本外来精神医療学会, 横浜, 2016年7月9日.
22. 渡邊衡一郎: 不安症と不眠症に対する薬物療法のあるべき姿-ベンゾジアゼピン受容体作動薬の適正使用-. 慶應義塾大学薬学部公開講座, 東京, 2016年7月10日.
23. 新田齊久, 坪井貴嗣, 菅さくら, 小林万葉, 神田優太, 今村弥生, 菊地俊暁, 渡邊衡一郎: ペンラフアキシン服用後にSIADHを呈した症例. 第107回東京精神医学会学術集会, 東京, 2016年7月16日.
24. 渡邊衡一郎: 気分障害の治療における薬物療法の流れ. 最近注目される副作用(催奇形性を含む)-チェックポイントと対処法-. アドヒアランス向上のための取り組み-Shared Decision Makingの手法を取り入れて-. 看護師とメディカルスタッフのための社会精神医学セミナー, 東京, 2016年7月16日.
25. 中島亨: 睡眠障害とうつ. 横浜医師会講演会, 横浜, 2016年7月27日.
26. 今村弥生, 野尻英一: 王道少年漫画を使ったレジリエンスの医学教育. 第48回日本医学教育学会学術総会, 大阪, 2016年7月30日.
27. 渡邊衡一郎: うつ病・双極性障害における「真のリカバリー」を考える-当事者の満足行くゴールを目指して-. 第13回日本うつ病学会総会, 名古屋, 2016年8月5日.
28. 渡邊衡一郎: うつ病性障害ガイドラインの課題と今後の方向性. 第13回日本うつ病学会総会, 名古屋, 2016年8月5日.
29. 渡邊衡一郎: うつ病治療における「当事者に対するレジリエンスを意識したアプローチ」の提案. 第13回日本うつ病学会総会, 名古屋, 2016年8月5日.
30. 菊地俊暁: 双極性障害のアドヒアランスとその改善方法について. 第13回日本うつ病学会総会, 名古屋, 2016年8月5日.
31. 菊地俊暁: 認知行動療法の副作用をどのように評価するか 副作用評価ツールの開発と副作用頻度の調査. 第13回日本うつ病学会総会, 名古屋, 2016年8月5日.
32. 今村弥生: 腑に落ちる発達症とSST. 練馬区社会福祉協議会主催研修会 発達障害の理解と支援方法について, 東京, 2016年8月23日.
33. 菊地俊暁: 精神保健医療福祉の「見える化」: 現在と未来2016. リカバリー全国フォーラム2016, 東京, 2016年8月26日.
34. 今村弥生: 漫画と精神医学part2. 平成28年度第1回杏林大学精神神経科公開セミナー, 三鷹, 2016年9月2日.
35. 早坂友成, 長島泉, 坪井貴嗣, 菊地俊暁, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態における回避性パーソナリティ障害と作業特徴の関係. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016年9月9日.

36. 今村弥生：統合失調症とSST. 新宿区家族教室, 東京, 2016年9月17・31日.
37. 今村弥生:SST初級研修,SST普及協会下越支部地区主催, 新潟, 2016年9月23-24日.
38. 渡邊衡一郎:統合失調症のリカバリー. 第30回東京精神科病院協会学会, 東京, 2016年10月25日.
39. 渡邊衡一郎:治療における「当事者に対するレジリエンスを意識したアプローチ」の提案—うつ病を例にとって—. 第32回日本ストレス学会学術総会, 東京, 2016年10月29日.
40. 中島亨:発達障害の長期睡眠不足状態における逸脱行動とレム関連症状の増加について. 第32回日本ストレス学会学術総会, 東京, 2016年10月29-30日.
41. 今村弥生, 渡邊衡一郎:難治性うつ病における家族の感情表出の実態調査. 第32回日本ストレス学会学術総会, 東京, 2016年10月30日.
42. 中島亨:ナルコレプシーの診断基準を満足し, 眠気に抗し逸脱行動のみられる症例について. 第19回日本薬物脳波学会, 宮古島, 2016年11月11-12日.
43. 渡邊衡一郎:初発統合失調症のリカバリー支援. 第20回日本精神保健・予防学会学術集会, 東京, 2016年11月12日.
44. 渡邊衡一郎:うつ病治療において抗うつ薬が効かなかった時に何を考えるべきか. 日本大学薬学部生涯教育講座, 東京, 2016年11月13日.
45. 荻野聡之, 菊地俊暁, 渡邊衡一郎, 山口芳裕:自殺を企図した急性薬物中毒患者における服薬内容の検討. 第26回日本臨床精神神経薬理学会, 大分, 2016年11月18日.
46. 渡邊衡一郎:うつ病治療のゴールはどこにあるのか?そして治療はいつまで続けるべきなのか?. 第26回日本臨床精神神経薬理学会, 大分, 2016年11月18日.
47. 渡邊衡一郎:統合失調症の多剤併用について改めて考える—なぜ,そしてどうすればよいか—. 第26回日本臨床精神神経薬理学会, 大分, 2016年11月18日.
48. 今村弥生:プライマリ・ケア医のためのミニマム精神医学—せん妄と認知症. JCHO東京城東病院研修医セミナー, 東京, 2016年11月25日.
49. 渡邊衡一郎:うつがなかなか治らない時に我々は何を考え, どう対処すべきなのか. 第29回日本総合病院精神医学会学術総会, 東京, 2016年11月26日.
50. 菊地俊暁:うつ病の認知行動療法トラブルシューティング, 治療がうまくいかない時に. 第16回日本認知療法学会, 大阪, 2016年11月23日.
51. 浅井宏友, 島本啓輔:妊娠希望に対しバルプロ酸投与を継続する?しない?. 第2回東京精神科治療を考える会, 東京, 2016年12月8日.
52. 今村弥生:漫画の精神医学. 川崎市市民公開講座, 川崎, 2016年12月17日.
53. 今村弥生:論語とこころの健康. ノーチラスの会講演, 東京, 2017年1月8日.
54. 今村弥生:メンタルヘルス講演会. 海上技術安全研究所総務課福祉係主催講演会, 東京, 2017年1月11・25日.
55. 今村弥生, 渡邊衡一郎:難治性うつ病における家族の感情表出の実態調査. 第36回日本精神医学会, 東京, 2017年3月4日.
56. 松本泰幸, 坪井貴嗣, 今村弥生, 神田優太, 松本由美, 渡邊衡一郎:誤嚥性肺炎と汎血球減少症を合併した高齢うつ病患者に修正型電気けいれん療法を施行した一例. 第109回東京精神医学会, 東京, 2017年3月11日.
57. 中島亨:睡眠障害の診断技法について. 多摩精神科研究会, 東京, 2017年3月18日.

論文

1. Harada E¹, Sato Y¹, Kikuchi T, Watanabe K, Alev L¹, Mimura M²(¹Eli Lilly Co, ²Keio university) : Residual symptoms in patients with partial versus complete remission of a major depressive disorder episode: Patterns of painful physical symptoms in depression. *Neuropsychiatry Dis Treat* 12:1599-1607, 2016.
2. Ishida T¹, Sakurai H¹, Watanabe K, Iwashita S², Mimura M¹, Uchida H¹(¹Keio university, ²Sakuragaoka Kinen Hospital) : Incidence of deep vein thrombosis in catatonic patients: A chart review. *Psychiatry Research* 241: 61-65, 2016.
3. Ayani N¹, Sakuma M², Morimoto T², Kikuchi T, Watanabe K, Narumoto J¹, Fukui K¹ (¹Kyoto Prefectural University of Medicine, ²Hyogo College of Medicine) : The epidemiology of adverse drug events and medication errors among psychiatric inpatients in Japan: the JADE study. *BMC Psychiatry* 16:303, 2016.
4. Watanabe K, Harada E¹, Inoue T², Tanji Y¹, Kikuchi T(¹Eli Lilly Co, ²Tokyo Medical University): Perceptions and impact of bipolar disorder in Japan: results of an Internet survey. *Neuropsychiatry Dis Treat* 12: 2981-2987, 2016.
5. 渡邊衡一郎:わが国の気分障害圏における向精神薬の処方現状と課題. *日精診雑誌* 42(6) : 3-6, 2016.
6. 渡邊衡一郎:うつ病の当事者に対するレジリエンスを意識したアプローチの重要性. *ストレス科学* 30(3):228-238, 2016.
7. 渡邊衡一郎:製薬会社のパンフレットをどう読み解くか. *こころの科学* 188(7) : 2-6, 2016.
8. 井上猛¹, 渡邊衡一郎 (¹東京医大) : うつ病の薬剤投与指針—躁の要素を持つうつ病では双極性うつ病・躁病に準じた治療がふさわしい(Q&A). *日本医事新報* 4812 : 60-61, 2016.
9. 渡邊衡一郎:スルピリド. *精神科* 29(3):194-197, 2016.
10. 渡邊衡一郎:向精神薬の現状と課題とは—抗精神病薬と抗うつ薬について—. *セラピューティック・リサーチ* 37(11) : 1019-1022, 2016.
11. 渡邊衡一郎:当事者の主観的体験を治療に反映させること. *臨床精神薬理* 20(1) : 23-28, 2017.
12. 渡邊衡一郎:ベンゾジアゼピン受容体作動薬の功罪. *外来精神医療* 17(1) : 27-34, 2017.
13. 渡邊衡一郎:うつ病治療における「真のリカバリー」の考え方の提唱. *臨床精神薬理* 20(3) : 239-247, 2017.
14. 青木裕美¹, 渡邊衡一郎(¹早稲田大) : うつ病領域におけるShared Decision-Making—ホームワーク式SDMのすすめ. *臨床精神薬理* 20(3) : 307-314, 2017.
15. 中島亨:睡眠—覚醒障害群 呼吸関連睡眠障害群. *日本精神病院協会雑誌* 35(6) : 547-551, 2016.
16. 中島亨:すぐに眠ってしまう児童への対応は?. *健* 10: 34-37, 2016.
17. 菊地俊暁:うつ病の薬物療法—抗うつ薬と服薬アドヒアランス. *CLINIC magazine* 561 : 29-33, 2016.
18. 菊地俊暁:認知行動療法の副作用と予防—基礎的スキルの重要性とスーパービジョンの有益性—. *精神科治療学* 31(2) : 203-209, 2016.
19. 坪井貴嗣:新しく導入が期待されるうつ病治療薬のエビデンス—うつ病治療に対する漢方薬—. *臨床精神薬理* 19(7) : 975-981, 2016.
20. 坪井貴嗣:精神症状に対応するための知識・考え方 副

作用として精神症状を認める身体疾患治療薬. *Medicina* 53(12):1992-1995, 2016.

21. 今村弥生: ポリファーマシー@外来 精神科医として. *治療* 98(12):1921-1924, 2016.
22. 今村弥生: 浦河赤十字病院精神科からの学び. *こころの科学* 187(5):124-128, 2016.
23. 今村弥生: プライマリ・ケア現場でのうつ病診療 その人を「うつ病」と診断する前に(解説). *プライマリ・ケア* 1(1):12-14, 2016.
24. 西村真紀¹, 今村弥生¹(高知大): 知的障害を持つ人の健康格差. *治療* 99(1):84-87, 2017

著書

1. 渡邊衡一郎: 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 精神刺激薬. *今日の治療薬 2016 解説と便覧*. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編. 東京, 南江堂, 2016. p. 799-837.
2. 渡邊衡一郎: 抗不安薬 睡眠薬. *今日の治療薬 2016 解説と便覧*. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編. 東京, 南江堂, 2016. p. 838-857.
3. 富田真幸, 渡邊衡一郎: 日本うつ病学会の治療ガイドライン: 軽症うつ病. うつ病の臨床: 現代の病理と最新の治療. 神庭重信編. 大阪, 最新医学社, 2016. p. 109-112.
4. 竹内啓善, 渡邊衡一郎: 薬剤性精神障害と他の症状性精神障害 抗精神病薬による精神症状. *今日の精神疾患治療指針第2版*. 樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信, 朝田隆, 中込和幸編. 東京, 医学書院, 2016. p. 466-469.
5. 渡邊衡一郎: 薬物療法総論 気分安定薬. *今日の精神疾患治療指針第2版*. 樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信, 朝田隆, 中込和幸編. 東京, 医学書院, 2016. p. 466-469.
6. 青木裕見, 渡邊衡一郎: 統合失調症治療における Shared Decision-Making. *精神科治療学* 31巻増刊 統合失調症のベストプラクティス, 東京, 星和書店, 2016. p. 209-213.
7. 中村敬, 西岡和郎, 松本晃明, 渡邊衡一郎: 座談会 日常診療における精神療法: 10分間で何が出来るか. 日常診療における精神療法: 10分間で何が出来るか. 中村敬編. 東京, 星和書店, 2016. p. 1-26.
8. 坪井貴嗣: Meige症候群. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ37 精神医学症候群(第2版) I. 東京, 日本臨牀社, 2017. p. 389-392.
9. 坪井貴嗣: Pisa症候群. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ37 精神医学症候群(第2版) I. 東京, 日本臨牀社, 2017. p. 393-395.
10. 今村弥生, 宮崎仁, 遠井敬大: 生きると向き合う 私たちの自殺対策. 東京, 南山堂, 2017.

その他

1. 渡邊衡一郎, 山田和夫: 心の病気 うつ病. *週刊朝日MOOK 新「名医」の最新治療2017*. 東京, 朝日新聞出版, 2016. p. 153.
2. 菊地俊暁: NHKテレビ: きょうの健康: うつ病 徹底解説 「サインに気づく」「違う病気?」「薬は合っている?」「認知行動療法とは?」, 2016年7月11日-14日.
3. 坪井貴嗣: 日本精神神経学会 第2回記者勉強会 「向精神薬に関して公的に発出されている見解や声明について -ゼプリオン®問題を中心に-」, 東京, 2016年7月15日.

小児科学教室

講演

口演

1. 朽名悟, 米谷正太, 荒木光二, 泉谷秀昌, 小谷昌史, 高木永, 尾戸真由, 小林智恵, 楊國昌: 基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生 *Salmonella* Blockleyによる腸炎の3歳男児例. 第90回日本感染症学会総会・学術講演会,

仙台, 2016年4月15-16日.

2. 山本明日香: 小児の花粉症と口腔アレルギー症候群. 第22回稲城市小児臨床研究会, 立川, 2016年4月22日.
3. 田中佐門: 当院における川崎病年長児例のまとめ. 第22回稲城市小児臨床研究会, 立川, 2016年4月22日.
4. Bessho F, Tanimura M: Effects of prenatal diagnostic irradiation and familial factors on development of children's leukemia. *Pediatric Academic Societies Annual Meeting 2016*. USA, April 30th, -May 3rd, 2016.
5. 中村由紀子, 小松祐美子, 中川美和, 稲見茉莉, 島崎真希子, 宮田世羽, 楊國昌: 教員から見た発達障害児の課題と医療連携の必要性. 第119回日本小児科学会学術集会, 札幌, 2016年5月14日.
6. 上里忠光, 安藤理恵, 宮澤永尚, 朽名悟, 大越陽一, 弦間友紀, 吉野浩, 楊國昌: 頭蓋内出血で発症した急性前骨髄球性白血病の1例. 第116回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2016年6月10日.
7. 松岡雄一郎, 白山未央, 岡本静香, 長谷川典子, 小松祐美子, 中村由紀子, 松田博雄: 久我山病院小児科神経外来の現状と課題. 第116回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2016年6月10日.
8. 中川美和, 神尾朋洋, 木内善太郎, 吉野浩, 楊國昌: 下痢, 血便で発症した原発性硬化性胆管炎に1例. 第628回日本小児科学会東京都地方会講和会, 東京, 2016年6月11日.
9. 上里忠光, 牧野篤司, 朽名悟, 大越陽一, 保崎明, 吉野浩: 頭蓋内出血で発症した急性前骨髄球性白血病の一例. 日本小児救急医学学会, 仙台, 2016年7月1日-3日.
10. 木内善太郎, 羽田伊知郎, 福原大介, 清水章, 楊國昌: ネフローゼ症候群で発症した紫斑病性腎炎の一例. 第51回日本小児腎臓病学会学術集会, 名古屋, 2016年7月7-9日.
11. Miyazawa N: Clinical Characteristics and Risk Factor of Transplantation - Associated Microangiopathy (TAM) in High-risk Neuroblastoma Undergoing Autologous Peripheral Blood Stem Cell Transplantation (auto-PBSCT). *Advances in Neuroblastoma Research (ANR) at Cairns in Australia*, Australia, June 19, 2016.
12. 北見菜々恵, 木内善太郎, 上里忠光, 朽名悟, 楊國昌: 中国からの旅行中に肺炎球菌性髄膜炎を発症した12歳女児例. 第117回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2016年10月14日.
13. 神尾朋洋, 大泉亜友美, 杉本雅子, 鈴木善太, 倉山亮太: B型肝炎による新生児劇症肝炎の1例. 第117回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2016年10月14日.
14. 杉本雅子: 当院における食物アレルギー患者の対応について. 第34回城西ブロック勉強会, 東京, 2016年10月18日.
15. 瀧浦俊彦, 太田知子, 小川敦, 小川哲史, 伊藤純子: 全身性炎症反応症候群を呈した急性副腎不全の2症例. 第16回三鷹小児内分泌セミナー, 三鷹, 2016年10月28日.
16. Takahashi S, Nishibori Y, Yan K: Functional Interaction of USP40 with Nestin in Podocyte. *American Society of Nephrology 2016*, USA, November 15th-20th, 2016.
17. 森久保美保, 高木永, 長谷川淳, 楊國昌: 腰椎化膿性脊椎炎の小児例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
18. 鈴木花瑠, 木内善太郎, 楊國昌: *Yersinia enterocolitica* 腸炎の小児2例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.

19. 朽名悟, 那須ゆかり, 宮澤永尚, 大越陽一, 伊藤雄伍, 保崎明, 楊國昌, 飯田恵庸, 竹内典子, 石和田稔彦: B群溶血性連鎖球菌による細菌性髄膜炎後に水頭症を呈した2例. 第48回日本小児感染症学会総会・学術集会, 岡山, 2016年11月19-20日.
20. 山本明日香: Henoch-Schönlein purpura (HSP)に合併したワクチン株水痘の一例. 第48回日本小児感染症学会総会・学術集会, 岡山, 2016年11月20日.
21. 別所文雄, 谷村雅子: 両親の喫煙の小児がん発生への影響. 第58回日本小児血液・がん学会学術集会, 東京, 2016年12月15-17日.
22. 吉野浩, 宮澤永尚, 安藤理恵, 楊國昌, 別所文雄, 高木正稔: “ETV6遺伝子胚細胞変異を伴う家族性血小板減少症”の一例. 第58回日本小児血液・がん学会学術集会, 東京, 2016年12月15-17日.
23. 安藤理恵, 宮澤永尚, 弦間友紀, 福原大介, 吉野浩, 別所文雄, 楊國昌: ステロイドが効果的なcombined autoimmune cytopeniaの2例. 第58回日本小児血液・がん学会学術集会, 東京, 2016年12月15-17日.
24. 鴫田雅俊: これであなたもNAVAのエキスペート! NAVAマニュアル(長野こども版). 第19回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム, 長野, 2017年2月17日.
25. 大城紗彩, 山本明日香, 牧野篤司, 楊國昌: エンテロウイルスの関与が疑われたステイブンス・ジョンソン症候群の一例. 第118回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2017年3月3日.
26. 小谷昌史, 大熊こずえ, 田中佐門, 羽田伊知郎, 中野瑛子, 高島和章, 長谷川簾: マイコプラズマ肺炎に対してニューキノロン系抗菌薬内服直後に一過性の腎機能障害をきたした1女児例. 第118回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2017年3月3日.
27. 鈴木花瑠, 木内善太郎, 楊國昌: Yersinia enterocolitica腸炎の小児4例. 第24回多摩小児感染・免疫研究会, 三鷹, 2017年3月11日.
28. 宮澤永尚, 安藤理恵, 羽田伊知郎, 木内善太郎, 吉野浩: 両側腎浸潤による腎不全で発症した成熟B細胞性白血病の1例. 第23回武蔵野小児血液・腫瘍懇話会, 東京, 2017年3月24日.

教育講演 シンポジウム

1. Yan K: GLCCI1 as a Therapeutic Target in Idiopathic Nephrotic Syndrome. Pediatric Academic Societies Meeting, USA, May 2nd, 2016.
2. 別所文雄: 低出生体重児における肝芽腫の発生—小児がん登録にみる最新の状況—. 第61回日本新生児育成医学会学術集会, 大阪, 2016年12月3日.
3. 別所文雄: 人生と社会を左右する乳幼児期のケア. ユニセフシンポジウム, 東京, 2016年12月4日.

論文

1. Takagi H, Nishibori Y, Katayama K, Katada T, Takahashi S, Kiuchi Z, Takahashi S, Kamei H, Kawakami H, Akimoto Y, Kudo A, Asanuma K, Takematsu H, Yan K: USP40 gene knockdown disrupts glomerular permeability in zebrafish. *Am J Physiol Renal Physiol* 312(4):F702-F715, 2017. (Epub).
2. Ito Y, Katayama K, Nishibori Y, Akimoto Y, Kudo A, Kurayama R, Hada I, Takahashi S, Kimura T, Fukutomi T, Katada T, Suehiro J, Beltcheva O, Tryggvason K, Yan K: Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 epigenetically regulates nephrin gene expression. *Am J Physiol Renal Physiol* 2017. (in press).
3. *Gordon EJ¹, *Fukuhara D, Weström S¹, Padhan N¹, Sjöström E⁰, van Meerten L¹, He L¹, Orsenigo F², Dejana E¹, Bentley K¹, Spurkland A³, Claesson-Welsh L¹ (¹Uppsala University ²FIRC Institute of Molecular Oncology Foundation ³University of Oslo): The endothelial adaptor molecule TSA1 is required for VEGF-induced angiogenic sprouting through junctional c-Src activation. *Sci Signal.* 9(437):ra72, 2016. *These authors contributed equally to this work.
4. Fukuhara D, Takiura T, Keino H, Okada AA, Yan K: Iatrogenic Cushing's Syndrome Due to Topical Ocular Glucocorticoid Treatment. *Pediatrics.* 2017. doi: 10.1542/peds.2016-1233. (Epub ahead of print).
5. Kutsuna S, Yonetani S, Araki K, Izumiya H: A case of pediatric patient with acute enteritis due to CTX-M-15 extended-spectrum β -lactamase-producing *Salmonella* Blockley. *Jpn J. Antibiot.* 69(5):343-346, 2016.
6. Morimoto A, Shioda Y, Imamura T, Kudo K, Kawaguchi H, Sakashita K, Yasui M, Koga Y, Kobayashi R, Ishii E, Fujimoto J, Horibe K, Bessho F, Tsunematsu Y, Imashuku S: Intensified and prolonged therapy comprising cytarabine, vincristine and prednisolone improves outcome in patients with multisystem Langerhans cell histiocytosis: results of the Japan Langerhans Cell Histiocytosis Study Group-02 Protocol Study. *Int J Hematol* 104:99-109, 2016.
7. Keino H, Watanabe T, Taki W, Nakayama M, Nakamura T, Yan K, Okada AA: Clinical features of uveitis in children and adolescents at a tertiary referral centre in Tokyo. *Br J Ophthalmol.* 2016. doi: 10.1136/bjophthalmol-2015-308194. (Epub).
8. Suzuki T, Miyake N, Tsurusaki Y, Okamoto N, Alkindy A, Inaba A, Sato M, Ito S, Muramatsu K, Kimura S, Ieda D, Saitoh S, Hiyane M, Suzumura H, Yagyu K, Shiraishi H, Nakajima M, Fueki N, Habata Y, Ueda Y, Komatsu Y, Yan K, Shimoda K, Shitara Y, Mizuno S, Ichinomiya K, Sameshima K, Tsuyusaki Y, Kurosawa K, Sakai Y, Haginoya K, Kobayashi Y, Yoshizawa C, Hisano M, Nakashima M, Saitsu H, Takeda S, Matsumoto N: Molecular genetic analysis of 30 families with Joubert syndrome. *Clin Genet.* 2016. doi: 10.1111/cge.12836. (Epub).
9. 別所文雄: 小児がんと疫学. 日本小児禁煙研究会雑誌 6:14-19, 2016.
10. 吉野浩: 小児慢性疾患の成人期移行の現状と問題点: 先天性溶血性貧血. *小児科臨床* 69: 723-728, 2016.
11. 朽名悟, 楊國昌: 当院における小児臨床検体由来インフルエンザ菌に関する検討. *小児科臨床* 69(6): 1017-1022, 2016.
12. 朽名悟: *Salmonella* Saintpaul と *Plesiomonas shigelloides* による細菌性腸炎の1例. *小児感染免疫* 128(4): 219-223, 2016.

著書

1. 楊國昌: 糖質ステロイド作用の新規実行分子GLCCI1の機能解析. 腎と透析80(3). 東京, 東京医学社, 2016. p. 426-429.
2. 楊國昌: 蛋白尿抑制機序の作用機序—ミゾリピン. 腎と透析81(1). 東京, 東京医学社, 2016. p. 142-145.
3. 楊國昌: 小児の慢性腎不全. 今日の治療指針. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編. 東京, 医学書院, 2016. p. 1442-1444.
4. 別所文雄: 日本医科大学小児科学教室の先生方との思い出. 日本医科大学小児科100周年記念誌. 東京, 2016. p. 23-24.
5. 別所文雄: 会員の皆さん, もうタバコは止めました? 特

集：小児科医として今思うこと．小杏会会誌 No. 24．三鷹，小杏会（杏林大学小児科同門会），2016．p.12-14．

6. 福原大介，楊國昌：患者背景別のステロイドの選び方・使い方 小児．月刊薬事 Vol.58 No.10．川合眞一編．東京，じほう，2016．p.2411-2416．
7. 木内善太郎：AKI(急性腎障害)診療ガイドライン2016．AKI(急性腎障害)診療ガイドライン作成委員会編，東京，東京医学社，2016．

その他

1. 楊國昌：第116回多摩小児科臨床懇話会主催，三鷹，2016年6月10日．
2. 楊國昌：第117回多摩小児科臨床懇話会主催，三鷹，2016年10月14日．
3. 楊國昌：第16回三鷹小児内分泌セミナー主催，三鷹，2016年10月28日．
4. 楊國昌：第117回多摩小児科臨床懇話会主催，三鷹，2017年3月3日．
5. 楊國昌：第24回多摩小児感染・免疫研究会主催，三鷹，2017年3月11日．
6. 楊國昌：科学研究費補助金，基盤研究(C)，メタボロームとプロテオームの融合解析による糸球体硬化の病態解明と創薬化研究．
7. 楊國昌：大学間連携による共同研究(京都大学医学部)，難治性ネフローゼの血中惹起分子探索と尿中診断バイオマーカーの確立．
8. 西堀由紀野：川野小児医学奨学財団研究助成金，未熟児網膜症の発症機転におけるVEGF受容体2の新規下流分子TSAdの役割．
9. 福原大介：杏林大学医学部若手支援研究費制度，未熟児網膜症の発症機転におけるVEGF受容体2新規下流分子TSAdの役割．
10. 福原大介：公益財団法人森永奉仕会平成27年度研究奨励金，未熟児網膜症の発症機転におけるVEGF受容体2新規下流分子TSAdの役割—TSAdを新規治療標的部位とした創薬へ向けて—．

外科学教室 (消化器・一般外科)

講演

1. 小嶋幸一郎，正木忠彦，高安甲平，渡邊武志，吉敷智和，橋本佳和，鈴木裕，松岡弘芳，阿部展次，森俊幸，杉山政則，StageIV大腸癌の予後規定因子による細分類についての検討．第84回大腸癌研究会，熊本，2016年1月15日．
2. 森俊幸：食道裂孔ヘルニアに対する外科治療．第50回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会，東京，2016年1月17日．
3. 鶴見賢直，秦正二郎，清水篤志，森田恒治，照屋正則，上西紀夫：肝内胆管癌が疑われた良性肝内狭窄の一例．第28回日本肝胆膵外科学会学術集会，大阪，2016年6月2-4日．
4. Kojima K, Masaki T, Matsuoka H, Takayasu K, Kishiki T, Watanabe T, Hashimoto Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Short term results of colorectal stent as a palliative treatment for malignant colorectal stenosis. 27th Jagelman/37th Turnbull International Colorectal Disease Symposium, USA, February 2nd-7th, 2016.
5. 阿部展次：早期胃癌に対するLECSの長期成績と胃内洗浄細胞診の検討．第12回日本消化管学会総会学術集会，東京，2016年2月26日．
6. 鶴見賢直，兼子晋，森田恒治，照屋正則，上西紀夫：術

前診断し腹腔鏡手術を施行した大網捻転症の1例．第52回日本腹部救急医学会総会，東京，2016年3月3-4日．

7. 小嶋幸一郎，正木忠彦，高安甲平，渡邊武志，吉敷智和，橋本佳和，松岡弘芳，阿部展次，森俊幸，杉山政則：大腸穿孔による限局性腹膜炎に対する保存的治療の有効性．第52回日本腹部救急医学会総会，東京，2016年3月3-4日．
8. 百瀬博一，阿部展次，橋本佳和，近藤恵里，大木亜津子，竹内弘久，長尾玄，鈴木裕，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：腹腔鏡補助下胃全摘術後の左胃動脈仮性瘤破裂の1例．第52回日本腹部救急医学会総会，東京，2016年3月3-4日．
9. Kishiki T, Lapin B, Laurie S, Carbray J, Ujiki M：“Operation Room Fire simulation -Randomized controlled, single-blind trial-”．9th Annual meeting of the consortium of ACS-Accredited Education Institutes, USA, March 7th-8th, 2016.
10. Kishiki T, Tanaka R, Lapin B, Carbray J, Francis T, Hughes K, Ujiki M：“GOAL-SETTING RESULTS IN HIGHER FLS SCORE IMPROVEMENT IN A RANDOMIZED CONTROL TRIAL”．Central Surgical Association, Canada, March 11th-12th, 2016.
11. Kishiki T, Lapin B, Carbray J, Ujiki M：The new system of Laparoscopic simulation training for Hiatal Hernia and Fundoplication. Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons Annual Meeting, USA, March 16th-19th, 2016.
12. 阿部展次，竹内弘久，大木亜津子，橋本佳和，長尾玄，森俊幸，杉山政則：早期胃癌に対するLECSの長期成績．第88回日本胃癌学会総会，別府，2016年3月18日．
13. 橋本佳和，阿部展次，吉本恵理，近藤恵里，大木亜津子，竹内弘久，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：BMI 25kg/m2未満胃癌症例の腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における予防的ドレーン非留置は妥当か？．第88回日本胃癌学会総会，別府，2016年3月18日．
14. 吉本恵理，阿部展次，大木亜津子，近藤恵里，橋本佳和，竹内弘久，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：抗血栓薬内服患者における胃ESD後出血高リスク群の絞り込みは可能か？．第88回日本胃癌学会総会，別府，2016年3月18日．
15. 大木亜津子，阿部展次，吉本恵理，橋本佳和，竹内弘久，海野みちる，正木忠彦，森俊幸，大倉康男，杉山政則：胃癌における胃内洗浄細胞診—洗浄液によって遊離癌細胞検出率と細胞形態に差異が生じるのか？—．第88回日本胃癌学会総会，大分，2016年3月18日．
16. 森俊幸：日本内視鏡外科学会技術認定制度 共通基準．第39回関東LAG研究会，東京，2016年3月23日．
17. 阿部展次：Beyond ESD—胃十二指腸腫瘍に対する新しい治療展開—．第8回佐賀胃腸懇話会，佐賀，2016年4月8日．
18. 松木亮太，三瀬祥弘，石沢武彰，井上陽介，高橋祐，齋浦明夫：深部大腸癌肝転移に対するParenchymal-Sparing Hepatectomyの安全性・有用性の検討．第116回日本外科学会定期学術集会，大阪，2016年4月14日．
19. 橋本佳和，森俊幸，鈴木裕，松岡弘芳，阿部展次，正木忠彦，杉山政則，富田泰彦，赤木美智男：研修医教育を考慮した院内鏡視下手術認定制度—研修医タスク結果の分析—．第116回日本外科学会定期学術集会，大阪，2016年4月16日．
20. 小嶋幸一郎，正木忠彦，高安甲平，吉敷智和，渡邊武志，鈴木裕，松岡弘芳，阿部展次，森俊幸，杉山政則：大腸狭窄に対する緩和治療としての大腸ステントの短期的治療成績．第116回日本外科学会定期学術集会，大阪，2016年4月14-16日．
21. 中里徹矢，松木亮太，小暮正晴，横山政明，鈴木裕，阿

- 部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: FOLFIRINOX療法後にConversion surgeryを施行した局所進行膵癌の臨床像. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016年4月14-16日.
22. 飯岡愛子, 橋本佳和, 近藤恵里, 小嶋幸一郎, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 胃十二指腸狭窄に対する緩和医療としての胃十二指腸ステントの短期治療成績. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016年4月16日.
 23. Mori T: High Resolution Imaging and Laparoscopic Surgery. 7th APTC(Asia-Pacific Topic Conference), Tokyo, April 20th, 2016.
 24. 阿部展次: 明日からできる十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡下手術. 第9回次世代の内視鏡下消化管手術セミナー, 横浜, 2016年5月7日.
 25. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則: Reduced port surgeryにおけるショートタイプ軟性内視鏡の有用性. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2016年5月14日.
 26. 中里徹矢, 鈴木裕, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腸回転解除・mesopancreasの背側アプローチによる門脈合併切除膵頭十二指腸切除の工夫. 第70回手術手技研究会, 東京, 2016年5月21日.
 27. 松木亮太, 井上陽介, 三瀬祥弘, 石沢武彰, 高橋祐, 斎浦明夫: Air injection cholangiography(AIC)による簡便かつ非侵襲的な肝切除ガイド. 第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 大阪, 2016年6月2日.
 28. 小暮正晴, 中里徹矢, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 当科における肝嚢胞に対する肝嚢胞開窓術の有用性の検討. 第28回日本肝胆膵外科学会, 大阪, 2016年6月2-4日.
 29. 中山快貴, 阿部展次, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 森俊幸, 正木忠彦, 鮫島由友, 渡邊佳子, 浮山越史, 杉山政則: 粘膜下埋没した食道異物を内視鏡的に摘出しえた一例. 第102回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2016年6月11日.
 30. 横山政明, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: R0を目指したmesopancreasの切除-腸回転解除を応用して. 第41回日本外科系連合学会学術集会, 大阪, 2016年6月15-17日.
 31. 阿部展次: Beyond the ESD-内視鏡的筋層剥離術と全層切除術- . 第33回文京消化器内視鏡研究会, 東京, 2016年6月23日.
 32. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 腹腔鏡下直腸癌手術の短期成績. 第85回大腸癌研究会, 大阪, 2016年7月1日.
 33. Nakazato T, Suzuki Y, Matsuki R, Kogure M, Kogure M, Abe N, Masaki T, Mori T, Mochizuki M, Sugiyama M: A Case of Pancreatic Hemangioma. The 28th meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Osaka, June 2nd-4th, 2016.
 34. 阿部展次, 橋本佳和, 中里徹矢, 大木亜津子, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 早期胃癌に対する先行+全胃温存腹腔鏡下リンパ流域切除術の長期成績. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016年7月14日.
 35. 橋本佳和, 森俊幸, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則, 富田泰彦, 赤木美智男: 院内鏡視下手術認定制度による研修医教育とクオリティアシュアランス. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016年7月14日.
 36. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 橋本佳和, 竹内弘久, 海野みちる, 正木忠彦, 森俊幸, 大倉康男, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄細胞診. 第71回消化器外科学会総会, 徳島, 2016年7月14日.
 37. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 穿孔性大腸憩室炎に対する治療指針の検討 保存的治療はどこまで可能か?. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016年7月14-16日.
 38. 中里徹矢, 鈴木裕, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 古瀬純司: Conversion surgeryを施行した切除不能膵癌の3例. 第71回日本消化器外科学会総会, 徳島, 2016年7月14-16日.
 39. Kogure M, Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Matsuki R, Mochizuki M, Okura Y, Kanma H, Sugiyama M: A case of solid pseudopapillary neoplasm of the pancreas in a middle-aged male which was difficult to diagnose preoperatively. 第47回日本膵臓学会, 仙台, 2016年8月4-7日.
 40. Nakazato T, Suzuki Y, Matsuki R, Kogure M, Yokoyama M, Abe N, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Effect of Reprimo expression on malignant transformation of IPMN. The 20th meeting of the International Association of Pancreatology, The 6th meeting of the Asian Oseanic Pancreatic Association, The 47th annual meeting of the Japan Pncreas Society, Sendai, August 4th-7th, 2016.
 41. 小暮正晴, 鈴木裕, 横山政明, 松木亮太, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 腸回転解除を用いた膵頭十二指腸切除術の工夫. 第43回膵切研究会, 東京, 2016年8月19-20日.
 42. 森俊幸: 日本内視鏡外科器技術認定制度と手術のリスクマネージメント. 第20回山形内視鏡外科研究会学術集会, 山形, 2016年8月27日.
 43. 小島洋平, 大塚弘毅, 紅谷鮎美, 大西宏明, 渡辺卓, 阿部展次, 大倉康男, 古瀬純司, 杉山政則: 十二指腸腺癌および腺腫の次世代シーケンスによる遺伝子異常解析. 神戸, 2016年9月1-4日.
 44. Shimoyama H, Matsuoka H, Nakamura A, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Watanabe T, Takayasu K, Hashimoto Y, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Lymph Node Metastasis in Colorectal Cancer by Multidetector CT. ~ Does Thin Slice CT provide significant advantage? ~. 第33回環太平洋外科系学会, USA, 2016年9月9-11日.
 45. 曲継超, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 穿孔性横行結腸憩室炎を契機に診断されたS状結腸癌の一例. 第842回外科集談会, 東京, 2016年9月10日.
 46. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 膵胆管合流異常による胆汁膵管逆流現象の一例. 第39回日本膵・胆管合流異常研究会, 東京, 2016年9月10日.
 47. 森俊幸: 内視鏡外科技術認定制度. 第13回腹腔鏡手術の理論と基礎, 東京, 2016年9月17日.
 48. 松木亮太, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 古瀬純司, 杉山政則: FOLFIRINOX療法後にConversion surgeryを施行した進行膵癌の3例. 第11回膵癌術前治療研究会, 仙台, 2016年10月15日.
 49. 小島洋平, 阿部展次, 紅谷鮎美, 吉本恵理, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木敦子, 鈴木裕, 竹内弘久, 長尾玄, 大塚弘毅, 松岡弘芳, 大倉康男, 古瀬純司, 大西宏明, 渡邊卓, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸腺癌および腺腫における次世代シーケンスによる遺伝子変異解析. 神戸, 2016年11月3-6日.
 50. 下山勇人, 阿部展次, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政

- 則：内視鏡的治療適応外の早期胃癌に対するESD単独治療. 第24回日本消化器関連学会週間JDDW2016, 神戸, 2016年11月3-6日.
51. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 近藤恵里, 橋本佳和, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄細胞診-胃内遊離癌細胞脱落のリスク因子と胃内洗浄-. 第24回日本消化器関連学会週間JDDW2016, 神戸, 2016年11月4日.
 52. 橋本佳和, 阿部展次, 近藤恵里, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: エネルギーデバイスの選択が腹腔鏡補助下幽門側胃切除術のアウトカムに及ぼす影響. 第14回日本消化器外科学会大会(JDDW2016), 神戸, 2016年11月5日.
 53. Kishiki T, Lapin B, Schindler N, Talamonti M, Denham W, Spitz J, Linn J, Loris B, Carbray J, Ujiki M: A Valid Tool For Training and Assessment in Laparoscopic Appendectomy. Western Surgical Association, USA, November 5th-8th, 2016.
 54. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 大腸手術症例に対する予防的V. A. C. 療法の有効性. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会, 伊勢, 2016年11月18-19日.
 55. 阿部展次, 橋本佳和, 中里徹矢, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 安全性を最重視した腹腔鏡(補助)下尾側膵切除術の手法と成績. 第8回膵臓内視鏡外科学研究会, 東京, 2016年11月23日.
 56. 横山政明, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: スコア式を用いたIPMNの治療戦略-手術適応と術式, 至適郭清範囲-. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月24-26日.
 57. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 消化器外科手術創に対する予防的V. A. C. 療法の有効性. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月24-26日.
 58. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 適切な尾側膵切除時のドレーン留置. 第78回日本臨床外科学会, 東京, 2016年11月24-26日.
 59. 阿部展次: Beyond the ESD-胃十二指腸腫瘍に対する新しい低侵襲切除法と薬物治療-. 第20回Endoscopy Conference, 東京, 2016年11月25日.
 60. 磯部聡史, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 百瀬博一, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 保存的治療が奏功した穿孔性S状結腸憩室炎に癌合併がみられた一例. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月25日.
 61. 井出麻友美, 飯岡愛子, 巾匡洋, 下山勇人, 高安甲平, 渡邊武志, 小嶋幸一郎, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 小腸イレウスを来した異所性子宮内膜症の2例. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月25日.
 62. 橋本佳和, 森俊幸, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 院内鏡視下手術認定制度による段階的な教育とその成果. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月26日.
 63. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 穿孔性大腸憩室炎に対する新しい治療指針の検討. 第29回日本外科感染症学会総会学術集会, 東京, 2016年11月30日-12月1日.
 64. 阿部展次: 早期胃癌ESDの超適応拡大-腹腔鏡下リンパ流域切除術に付加すべきは先行ESDか, 同時LECSか-. 第10回J-CASE研究会, 横浜, 2016年12月7日.
 65. 山崎彩, 鶴見賢直, 近藤恵理, 大木亜津子, 竹内弘久, 橋本佳和, 長尾玄, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 望月眞, 吉池信哉: 壁外発育型の形態を呈した胃肉腫の一例. 第843回外科集談会, 東京, 2016年12月3日.
 66. 橋本佳和, 阿部展次, 近藤恵里, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術においてBMIによるドレーン留置選択の有用性に関する検討. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016年12月9日.
- 論文**
1. 森俊幸, 杉山政則: 腹腔鏡下胆嚢摘出術. 消化器外科 39(5):790-798, 2016.
 2. 森俊幸: 食道裂孔ヘルニアに対する外科治療. 成人病と生活習慣病 46(5):592-596, 2016
 3. 森俊幸, 鈴木裕, 阿部展次, 杉山政則: 標準的ラパコレ The Critical View of Safetyと標準術式. 臨床外科 71(9):1132-1138, 2016.
 4. Yamashita H, Aoki H, Tanioka K, Mori T, Chiba T: Ultra-high definition(8K UHD) endoscope: our first clinical success. SpringerPlus 5:1445, 2016.
 5. 森俊幸: 内視鏡外科手術と高精細画像-8Kビデオシステムの将来性. 東京都医師会雑誌 69(8):4-6, 2016
 6. 阿部展次, 吉本恵理, 小島洋平, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸粘膜下腫瘍に対する内視鏡的・外科的治療. 消化器内視鏡 28:267-275, 2016.
 7. 阿部展次, 土岐真朗, 杉山政則: 胃顆粒細胞腫. 消化器内視鏡 28:1224, 2016.
 8. 阿部展次, 吉本恵理, 小島洋平, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸腫瘍の術前内視鏡の実際. 消化器内視鏡 28:1972-1979, 2016.
 9. Abe N, Hashimoto Y, Kawaguchi S, Takeuchi H, Shimoyama H, Kojima Y, Yoshimoto E, Kondo E, Ohki A, Takeuchi H, Nagao G, Suzuki Y, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Successful treatment of large adenoma extending close to the papilla in the duodenum by laparoscopy-assisted pancreas-sparing duodenectomy. Asian J Endosc Surg 9(1):52-56, 2016.
 10. 松木亮太, 斎浦明夫, 三瀬祥弘, 石沢武彰, 井上陽介, 高橋祐: 膵切除・膵全摘 後腹膜一括郭清を伴った膵体尾部切除術. 手術 70(7):873-878, 2016.
 11. Matsuki R, Mise Y, MD, Saiura A, Inoue Y, Ishizawa T, Takahashi Y: Parenchymal-sparing hepatectomy for deep-placed colorectal liver metastases. Surgery 160(5):1256-1263, 2016.
 12. Yokoyama M, Ohnishi H¹, Ohtsuka K¹, Matsushima S¹, Ohkura Y², Furuse J³, Watanabe T¹, Mori T, Sugiyama M (1Kyorin University Department of Laboratory Medicine, 2Kyorin University Department of Pathology, 3Kyorin University Department of Medical Oncology): KRAS mutation as a potential prognostic biomarker of biliary tract cancers. Jpn Clin Med. 7:33-39, 2016.
 13. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 吉敷智和, 松岡弘芳, 杉山政則: 大腸憩室 大腸憩室の外科的治療(解説/特集). 臨床消化器内科 31(4):451-455, 2016.
 14. 百瀬博一, 鈴木裕, 杉山政則: 胆道がんの化学療法. 消化器外科Nursing 21(8):719-727, 2016.
 15. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 壊死性膵炎 WON(Walled-off necrosis)の治療 Step-up approach とは?. 肝・胆・膵 73(1):35-40, 2016.
 16. Kishiki T, Lapin B¹, Tanaka R, Francis T¹, Hughes

K¹, Carbray J¹, Ujiki MB¹(¹Northshore University HealthSystem): Goal setting results in improvement in surgical skills: A randomized controlled trial. *Surgery* 160(4):1028-1037, 2016.

17. Kishiki T, Masaki T, Mastuoka H, Abe N, Mori T, Sugiyama M: New Prognostic Scoring System for Incurable Stage IV Colorectal Cancer. *Asian Pac J Cancer Prev.* 17(2):597-601, 2016.
18. 中里徹矢, 鈴木裕, 杉山政則: Groove領域に発生した腺癌による十二指腸への直接浸潤. *消化器内視鏡* 28(6):878-879, 2016.

著書

1. 小暮正晴, 鈴木裕, 横山政明, 松木亮太, 杉山政則: 嚢胞性膵腫瘍 (IPMN/MCN/SCN) の管理・治療. 最新醫學別冊診断と治療のABC115. 東京, 最新医学社, 2016. p. 157-163.
2. 森俊幸, 谷岡健吉, 千葉敏雄: 内視鏡外科手術と高精細画像-8Kビデオシステムの将来性-. *メディカル&イメージング Mook No. 4.* 東京, オプトロニクス社, 2016. p. 52-56.
3. 森俊幸, 谷岡健吉, 千葉敏雄: 世界初, 8K腹腔鏡システムの臨床応用-8Kビデオシステムの将来. 8Kから∞へ 超高精細画像のゆくえ. 東京, 放送文化基金, 2016. p. 14-17.
4. 森俊幸: トレーニングに入る前に 定義・用語. 内視鏡下縫合・結紮手技トレーニング. 黒川良望編. 東京, 南江堂, 2016. p. 2-6.

その他 座長

1. 阿部展次: 一般演題「胃・その他」. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016年4月16日.
2. 阿部展次: ポスター「LECS関連」. 第24回日本消化器関連週間, 神戸, 2016年11月5日.
3. 阿部展次: 第二部「次世代のLECSに向けて」. 第14回腹腔鏡内視鏡合同手術研究会, 神戸, 2016年11月5日.

外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)

講演 国際学会

1. Takei H: Video-assisted thoracoscopic surgery for mediastinal tumor using carbon dioxide (CO2) insufflation. The 2nd International Forum on Chest Tumor Surgery, China, May 20th-22nd, 2016.
2. Tanaka R, Tachibana K, Sakamoto N, Fujiwara M, Kanma H, Kondo H: The Efficiency of Histological Subtyping and Molecular Testing in Bronchoscopic Examinations for Lung Cancer Diagnosis. The 19th International Congress of Cytology, Yokohama, May 29th, 2016.
3. Arai N, Kawachi R, Matsuwaki R, Tachibana K, Karita S, Nakazato Y, Nagashima Y, Tanaka R, Takei H, Kondo H: A rare post-lobectomy complication of right-to-left shunt via foramen ovale. The 24th European Conference on General Thoracic Surgery, Italy, May 29th, -June 1st, 2016.
4. Shiono S, Okumura T, Boku N, Hishida T, Ohde Y, Sakao Y, Yoshiya K, Higashiyama M, Kameyama K, Adachi H, Shiomi K, Kanzaki M, Yoshimura M, Matsuura M, Hata Y, Chen F, Yoshida K, Sasaki H, Horio H, Takenoyama M, Yamashita M, Hashimoto T, Fujita A, Okumura M, Funai K, Asano H, Suzuki M, Shiraishi Y, Nakayama M, Yamada S, Hoshi E,

Yamazaki N, Matsuo T, Miyazawa H, Sato Y, Takao M, Nakamura H, Nakayama H, Shimizu K, Watanabe T, Suzuki H, Kataoka M, Tsunozuka Y, Akamine S, Kadokura M, Hyodo I, Nakata M, Mori K, Kondo H: Outcomes of segmentectomy and wedge resection for pulmonary colorectal cancer metastases. The 24th European Conference on General Thoracic Surgery, European Society of Thoracic Surgeons, Italy, May 29th, -June 1st, 2016.

5. Shimizu R, Hayashi S, Mizuno K, Yasuura Y, Kayata H, Kojima H, Takahashi S, Isaka M, Endo M, Ohde Y: The risk factor of the thrombus formation in pulmonary vein stump after left upper lobectomy. IASLC 17th World Conference on Lung Cancer, Austria, December 4th-7th, 2016.

国内学会

1. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 胸腔鏡下中葉切除術における肺門部リンパ節郭清. 第17回胸骨正中経路による肺癌手術懇話会, 東京, 2016年4月23日.
2. 近藤晴彦: リンパ節郭清の意義: たかが郭清, されど郭清. 第17回胸骨正中経路による肺癌手術懇話会, 東京, 2016年4月23日.
3. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 郭清を意識した分葉不全に対するTS左上葉切除術. 第7回TSの会, 京都, 2016年5月11日.
4. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 胸腔鏡下中葉切除術における肺門部リンパ節郭清. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016年5月12日.
5. 河内利賢, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: Transmanubrial osteomuscular sparing approach (TMA) を用いた血管再建の工夫. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016年5月12日.
6. 古屋敷剛, 須田一晴, 喜多秀文, 藤田敦, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 完全鏡視下にて同側の再手術を行った肺癌症例の検討. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016年5月12日.
7. 橘啓盛, 神尾幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 近藤晴彦: 降下性壊死性縦隔炎に対する胸腔鏡下縦隔ドレナージ. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 2016年5月13日.
8. 三ツ間智也, 橘啓盛, 渋谷幸見, 新井信晃, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 平野浩一, 近藤晴彦: 胸壁浸潤を伴う肺癌と乳癌に対し胸骨柄L字切開 (TMA) + 前方腋窩開胸にて切除した1例. 第171回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年6月11日.
9. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 気管支形成術を伴ったc-VATS左S10区域切除術. 第39回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 名古屋, 2016年6月23日.
10. 近藤晴彦: 肺癌の外科治療のおさらいと間質性肺炎合併肺癌の手術. 第8回山形呼吸器疾患カンファレンス, 山形, 2016年7月2日.
11. 近藤晴彦: 私が呼吸器外科から学んだこと, 学んでいること. 呼吸器外科サマースクール2016, 神戸, 2016年7月10日.
12. 近藤晴彦: 肺癌に対する拡大手術-Pancoast型肺癌を中心に. 第49回日本胸部外科学会九州地方会総会, 鹿児島, 2016年7月21日.
13. 河内利賢, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 左上葉肺癌と右巨大肺嚢胞に対し, 一次的切除を行い, 肺瘻コントロールに難渋した一例. 第2回多摩呼吸器外科医会, 立川, 2016年7月23日.
14. 須田一晴, 古屋敷剛, 三ツ間智也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:

当科における完全鏡視下気管支形成術の検討. 第40回新潟肺癌研究会総会, 新潟, 2016年8月6日.

15. 橋啓盛, 渋谷幸見, 新井信晃, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 近藤晴彦: ほとんどが壊死であった前縦隔腫瘍の1例～診断は?～. 第23回SKAT研究会, 東京, 2016年8月20日.
16. 渋谷幸見, 河内利賢, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 自然気胸に対する胸腔鏡下胸膜テント法一胸膜テント作成の工夫一. 第20回日本気胸・嚢胞性疾患学会総会, 東京, 2016年9月9日.
17. 田中良太: 肺癌個別化治療における病理・細胞診断. 第30回関東臨床細胞学会学術集会, 甲府, 2016年9月10日.
18. 河内利賢, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 自然気胸に対する胸腔鏡下胸膜テント法(変法)の治療成績. 第69回日本胸部外科学会総会, 岡山, 2016年9月30日.
19. 近藤晴彦: T4肺癌に対する拡大手術 When? How? Why?. 第4回新潟県呼吸器外科手術手技研究会, 新潟, 2016年10月15日.
20. 須田一晴, 古屋敷剛, 新井信晃, 近藤晴彦: 癒着リンパ節に対する胸腔鏡下アプローチ～出血を回避するには～. 第4回新潟呼吸器外科手術手技研究会, 新潟, 2016年10月15日.
21. 橋啓盛: 呼吸器外科領域の救急疾患. 第165回城西画像研究会, 武蔵野, 2016年10月18日.
22. 近藤晴彦: 肺がん外科におけるリンパ節郭清一古くて新しいIssue一. 第7回長崎胸部腫瘍セミナー, 長崎, 2016年11月4日.
23. 橋啓盛, 坂本憲彦, 加藤拓, 中里陽子, 田中良太, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: リンパ節針生検の器具洗浄液細胞診で推定しえた縦隔卵黄囊腫瘍の1例. 第55回日本臨床細胞学会秋期大会, 別府, 2016年11月19日.
24. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 当院における完全鏡視下肺全摘術の検討. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月24日.
25. 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 呼吸器外科における超音波凝固切開装置の取り扱い一生体豚モデルを用いたVessel Sealingの実験を踏まえて一. 第29回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016年12月9日.
26. 藤田敦, 小野里良一, 今井久雄, 藤本栄, 湊浩一: pStage IA (>2cm) およびpStage IBにおけるUFT投与群と非投与群の比較検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016年12月19日.
27. 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 近藤晴彦: cN1非小細胞肺癌の画像診断～cN1の診断基準は?～. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016年12月20日.
28. 須田一晴, 古屋敷剛, 新井信晃, 三ツ間智也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 分岐部形成を伴う完全鏡視下右肺全摘術. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016年12月21日.
29. 武井秀史, 渋谷幸見, 新井信晃, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: 術前・術後プラチナ併用化学療法施行後の手術後再発例に対するCBDCA+PEM+BEV療法. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡, 2016年12月21日.
30. 橋啓盛, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 近藤晴彦: 治療に難渋している右上葉切除後遅発性気管支断端瘻の1例. 第3回多摩呼吸器外科医会, 立川, 2017年1月28日.
31. 橋啓盛: リンパ節郭清 右下葉切除の肺門縦隔郭清: #11iの郭清と#11sと連なった#12uどこまで追う?. 第10回General Thoracic Surgical Forum, 東京, 2017年2月

4日.

32. 近藤晴彦: 肺がん外科におけるリンパ節郭清一古くて新しいIssue一. 第8回千葉呼吸器外科手術手技カンファレンス, 千葉, 2017年2月10日.
33. 須田一晴, 新井信晃, 古屋敷剛, 呉屋朝幸, 近藤晴彦: c-VATSをより安全に行うためのMulti-Angle法. 第26回日本呼吸器外科医会冬期学術集会, 茅野, 2017年2月25日.
34. 高橋俊博, 河内利賢, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 左上葉肺癌と右巨大肺嚢胞に対し, 一次的切除を行い, 肺瘻コントロールに難渋した一例. 第26回日本呼吸器外科医会冬季学術集会, 茅野, 2017年2月25日.
35. 河内利賢: 胸腔鏡下拡大胸腺全摘の際, 誤って横隔神経を切断した一例. 鏡視下手術検討会, 三鷹, 2017年2月16日.
36. 渋谷幸見, 田中良太, 三ツ間智也, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 急性肺炎で発見された肺癌術後膈転移の1例. 第178回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2017年3月4日.

論文

1. Kawachi R, Matsuwaki R, Tachibana K, Karita S, Nakazato Y, Tanaka R, Nagashima Y, Takei H, Kondo H: Thoracoscopic modified pleural tent for spontaneous pneumothorax. *Interact Cardiovasc Thorac Surg.* 23(2):190-194, 2016.
2. Vansteenkiste JF¹, Cho BC², Vanakesa T³, De Pas T⁴, Zielinski M⁵, Kim MS⁶, Jassem J⁷, Yoshimura M⁸, Dahabreh J⁹, Nakayama H¹⁰, Havel L¹¹, Kondo H¹², Mitsudomi T¹³, Zarogoulidis K¹⁴, Gladkov OA¹⁵, Udud K¹⁶, Tada H¹⁷, Hoffman H¹⁸, Bugge A¹⁹, Taylor P²⁰, Gonzalez EE²¹, Liao ML²², He J²³, Pujol JL²⁴, Louhed J²⁵, Debois M²⁵, Brichard V²⁵, Debruyne C²⁵, Therasse P²⁵, Altorki N²⁶ (¹University Hospital KU Leuven, ²Yonsei University College of Medicine, ³North Estonian Regional Hospital, ⁴Oncology Unit of Thymic Cancer, Rare Tumors and Sarkomas, ⁵Department of Thoracic Surgery, Zarcompane, ⁶National Cancer Center, Goyang-si Kyunggi-do, ⁷Medical University of Gdansk, ⁸Hyogo Cancer Center, ⁹Athens Medical Centre, ¹⁰Kanagawa Cancer Center, ¹¹Department of Pneumology and Thoracic Surgery, ¹²Shizuoka Cancer Center, ¹³Aichi Cancer Center Hospital, ¹⁴Pulmonary Clinic, G Papanikolaou General Hospital of Thessaloniki, Aristotle University, ¹⁵Regional Oncology Dispensary Medgorodok, ¹⁶Korányi National Institute of Pulmonology, ¹⁷Osaka City General Hospital, ¹⁸Thoraxklinik Heidelberg gGmbH, ¹⁹Oslo University Hospital, ²⁰University Hospital of South Manchester, ²¹Hospital Central de Asturias, ²²Shanghai Chest Hospital, ²³The First Affiliated Hospital of Guangzhou Medical College, ²⁴Arnaud de Villeneuve Hospital, ²⁵GSK Vaccines, ²⁶Joan and Sanford I Weill Medical College of Cornell University): Efficacy of the MAGE-A3 cancer immunotherapeutic as adjuvant therapy in patients with resected MAGE-A3-positive non-small-cell lung cancer (MAGRIT): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet Oncol* 17(6):822-835, 2016.
3. Isaka M¹, Kondo H, Maniwa T¹, Takahashi S¹, Ohde Y¹ (¹Shizuoka Cancer Center): Boundary between N1 and N2 lymph node descriptors in the subcarinal zone in lower lobe lung cancer: A brief report. *J*

Thorac Oncol 11(7):1176-1180, 2016.

4. Hashimoto H^{1,2}, Kurata A², Fujiwara M, Hara K³, Matsumoto J¹, Kusakabe M¹, Tachibana K, Nashiro T¹, Terado Y, Akahane M¹, Usui K¹, Suzuki Y⁴, Kondo H, Kamma H, Kuroda M², Horiuchi H¹ (¹NTT Medical Center Tokyo, ²Tokyo Medical University, ³Tokyo Teishin Hospital, ⁴Asahi General Hospital): Solitary pulmonary capillary hemangioma of adult cases: Clinicopathologic characteristics as an unrecognized entity. Am J Surg Pathol 40(10):1380-1389, 2016.
5. Endo S^{1,6}, Ikeda N^{1,7}, Kondo T^{1,8}, Nakajima J^{1,9}, Kondo H¹, Yokoi K^{1,10}, Chida M^{1,11}, Sato M^{1,12}, Toyooka S^{1,13}, Yoshida K^{1,7}, Okada Y^{1,14}, Sato Y^{1,15}, Okumura M^{2,16}, Masuda M^{2,17}, Chihara K^{3,4,18}, Miyata H^{5,19} (¹Committee for NCD, The Japanese Association for Chest Surgery, ²Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Thoracic Surgery, ³The Japanese Board of General Thoracic Surgery, ⁴The Japanese Board of General Thoracic Surgery Kyoto, ⁵National Clinical Database, ⁶Jichi Medical University, ⁷Tokyo Medical University, ⁸Tohoku Pharmaceutical University Hospital, ⁹University of Tokyo, ¹⁰Nagoya University, ¹¹Dokkyo University, ¹²Kagoshima University, ¹³Okayama University, ¹⁴Tohoku University, ¹⁵University of Tsukuba, ¹⁶Osaka University, ¹⁷Yokohama City University, ¹⁸Shizuoka City Shizuoka Hospital, ¹⁹Keio University): Development of an annually updated Japanese national Clinical database for chest surgery in 2014. Gen Thorac Cardiovasc Surg 64:569-576, 2016.
6. Kimura H, Nagasawa K, Tsukagoshi H, Matsushima Y, Fujita K, Yoshida LM, Tanaka R, Ishii H, Shimojoc N, Kuroda M, Ryo A: Molecular evolution of the fusion protein gene in human respiratory syncytial virus subgroup A. Infection, Genetics and Evolution 43:398-406, 2016.
7. Kishiki T, Lapin B, Tanaka R, Francis T, Hughes K, Carbray J, Ujiki MB: Goal setting results in improvement in surgical skills: A randomized controlled trial. Surgery 160: 1028-1037, 2016.
8. Hishida T¹, Tsuboi M¹, Okumura T², Boku N³, Ohde Y⁴, Sakao Y⁵, Yoshiya K⁶, Hyodo I⁷, Mori K⁴, Kondo H (¹National Cancer Center Hospital East, ²University Hospital Mizonokuchi, Teikyo University School of Medicine, ³National Cancer Center Hospital, ⁴Shizuoka Cancer Center, ⁵Aichi Cancer Center Hospital, ⁶Niigata Cancer Center Hospital, ⁷University of Tsukuba): Does repeated lung resection provide long-term survival for recurrent pulmonary metastases of colorectal cancer? Results of a retrospective Japanese multicenter study. Ann Thorac Surg 103(2):399-405, 2017.
9. Shiono S¹, Okumura T², Boku N³, Hishida T⁴, Ohde Y⁵, Sakao Y⁶, Yoshiya K⁷, Hyodo I⁸, Mori K⁵, Kondo H (¹Yamagata Prefectural Central Hospital, ²University Hospital Mizonokuchi, Teikyo University, ³National Cancer Center Hospital, ⁴National Cancer Center Hospital East, ⁵Shizuoka Cancer Center, ⁶Aichi Cancer Center Hospital, ⁷Niigata Cancer Center Hospital, ⁸University of Tsukuba): Outcomes of segmentectomy and wedge resection for pulmonary metastases from colorectal cancer. Eur J Cardiothorac Surg 51(3):504-510, 2017.
10. Maniwa T¹, Mori K¹, Ohde Y¹, Okumura T¹, Boku N², Hishida T³, Sakao Y⁴, Yoshiya K⁵, Hyodo I⁶, Kondo H (¹Shizuoka Cancer Center, ²National Cancer Center Hospital, ³National Cancer Center Hospital East, ⁴Aichi Cancer Center, ⁵Niigata Cancer Center, ⁶Tsukuba University): Heterogeneity of tumor sizes in multiple pulmonary metastases of colorectal cancer as a prognostic factor. Ann Thorac Surg. 103(1):254-260, 2017.
11. Dorian ED, DeAsis FJ, Lapin B, Amesbury R, Tanaka R, Ujiki MB: A Comparative Assessment of Novel Mini-Laparoscopic Tools. Surgical Innovation 23:35-41, 2017.

著書

1. 河内利賢: 頸部穿通性(鋭的)外傷. 今日の治療指針. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編. 東京, 医学書院, 2017. p. 51-52.

外科学教室 (乳腺外科)

講演

1. 井本滋: センチネルリンパ節1-3個転移陽性の乳癌患者を対象とした腋窩治療に関する観察研究. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016年4月15日.
2. Ueno T, Isaka H, Itoh H, Miyamoto K, Kitamura M, Imoto S: Analysis of in situ expression of hormone receptors and proliferation marker at a single cell level in breast cancer tissues. AACR Annual Meeting 2016, USA, April 16th-20th, 2016.
3. Imoto S, Ueno T, Isaka H, Ito H, Miyamoto K, Chiba T, Kamma H: Immunological profile of metastatic or recurrent breast cancer patients. Presented at AACR2016, USA, April 19th, 2016.
4. 井本滋, 山内智香子, 菰池佳史, 津川浩一郎, 四元大輔, 和田徳昭, 菅江貞亨, 枝園志彦, 津田均, 米山公康, 上野貴之, 大庭真梨: 2014年度班研究最終報告「センチネルリンパ節転移陽性乳癌の腋窩治療の最適化に関する研究」. 第24回日本乳癌学会学術集会, 東京, 2016年6月16日.
5. 上野貴之, 伊坂博嗣, 伊東大樹, 伊美建太郎, 宮本快介, 北村真奈美, 井本滋: 単一細胞レベルでのバイオマーカー探索. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016年6月16-18日.
6. 伊美建太郎, 井本滋, 上野貴之, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 宮本快介, 北村真奈美: 乳癌骨転移症例におけるBSIと骨関連事象および予後との関連. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016年6月16-18日.
7. 北村真奈美, 森田恒治, 金内一, 清水誠一郎: 不均一なHER2発現を示す右進行乳癌の一例. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016年6月16-18日.
8. 伊東大樹, 井本滋, 上野貴之, 伊坂泰嗣, 北村真奈美: 当院におけるHER2陽性進行再発乳癌に対する一次治療としてのPertuzumabの効果の検討. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016年6月17日.
9. 上野貴之: HER2陰性進行再発乳癌の治療. 南東京Breast Cancer Symposium, 東京, 2016年6月30日.
10. Ueno T: Circulating tumor cells: their clinical application and therapeutic potential. The 14th Asian Breast Disease Association Meeting & Symposium, Fukuoka, September 2nd-3rd, 2016.
11. Imoto S, Ueno T, Isaka H, Ito H, Miyamoto K, Kitamura M: Phase II study on radiofrequency ablation in early breast cancer. Presented at

- the 36th Congress of the European Society of Surgical Oncology, Poland, September 14th-16th, 2016.
12. 上野貴之:リキッドバイオプシー Heterogeneityへの挑戦. 城南乳腺研究会, 東京, 2016年9月16日.
 13. Ueno T: Analysis of in situ expression of hormone receptors and proliferation marker at a single cell level in breast cancer tissues. The 4th International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology, China, September 22nd, 2016.
 14. Ito H, Imoto S, Ueno T, Isaka H, Kitamura M: Clinical utility of the expression of HER3, HER4, PTEN and IGF1R in HER2-positive advanced or metastatic breast cancer. The 4th Federation of Asian Clinical Oncology, China, September 22nd, 2016.
 15. Imoto S: Current strategy for the treatment of breast cancer in Japan. Presented at 4th International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology (19th CSCO), China, September 22nd, 2016.
 16. Ueno T: Targeted Treatments for Breast Cancer. 9th Chongqing Chinese Breast Cancer Symposium, China, September 23nd-26th, 2016.
 17. 上野貴之:微小環境を考慮した進行再発乳癌の治療戦略. エリブリンライブセミナー, 東京, 2016年10月3日.
 18. Ueno T: Unwinding anti-HER2 therapy in metastatic settings. The 2nd Asian Breast Cancer Conference Luncheon Seminar, Tokyo, October 8th-9th, 2016.
 19. Imoto S: Current strategy for the treatment of breast cancer in Japan. Presented at 54th JSCO, Yokohama, October 21st, 2016.
 20. Imoto S: A new trial of breast cancer in FACO. Presented at FACO/JSCO joint symposium, Yokohama, October 21st, 2016.
 21. 上野貴之:微小環境をとらえた乳癌治療. ハラヴェン5周年記念講演, 東京, 2016年10月26日.
 22. 上野貴之: HER2陰性乳癌治療 明日への提言. Breast Cancer Conference in Himeji, 姫路, 2016年10月27日.
 23. 上野貴之: 分子標的治療と分子イメージング. 第16回 BREAST IMAGING-Setagaya, 東京, 2016年11月17日.
 24. 井本滋: 乳癌領域における臨床研究. 第17回臨床研究セミナー(第78回日本臨床外科学会総会), 東京, 2016年11月26日.
 25. 上野貴之: 乳癌の Heterogeneity を解きほぐす. Hiroshima Breast Cancer Conference 2016, 広島, 2016年12月13日.
 26. 上野貴之: 乳癌の Heterogeneity とどう向き合うか. 第1回桜山乳腺外科 Conference, 名古屋, 2017年1月28日.
 27. 上野貴之: 微小環境をとらえた乳癌治療. 城北乳癌研究会, 東京, 2017年2月2日.
 28. 上野貴之: Precision Medicine について考える. 第23回日本乳癌疾患研究会, 横浜, 2017年2月24-25日.
 29. 上野貴之: HER2陰性進行再発乳がんの治療戦略を考える. 三重乳癌研究会, 三重, 2017年3月17日.
- targeted therapies in the neo-ALTTO trial. *Ann Oncol.* 2016. pii: mdw434. (Epub ahead of print).
2. Imoto S, Yamauchi C, Komoike Y, Tsugawa K, Yotsumoto D, Wada N, Ueno T, Oba MS, Shien T, Sugae S, Tsuda H, Yoneyama K: Trends in axillary treatment for breast cancer patients undergoing sentinel lymph node biopsy as determined by a questionnaire from the Japanese Breast Cancer Society. *Breast Cancer* 2016. (Epub).
 3. Ueno T, Saji S, Sugimoto M, Masuda N, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Imoto S, Sasano H, Toi M: Clinical significance of the expression of autophagy-associated marker, beclin 1, in breast cancer patients who received neoadjuvant endocrine therapy. *BMC Cancer.* 16(1):230, 2016. doi:10.1186/s12885-016-2270-9.
 4. Kubota M, Komoike Y, Hamada M, Shinzaki W, Azumi T, Hashimoto Y, Imoto S, Takeyama Y, Okuno K: One-step nucleic acid amplification assay for intraoperative prediction of advanced axillary lymph node metastases in breast cancer patients with sentinel lymph node metastasis. *Mol Clin Oncol.* 4(2):173-178, 2016.
 5. Tsuda M, Takano Y, Shigeyasu C, Imoto S, Yamada M: Abnormal corneal lesions induced by trastuzumab emtansine: An antibody-drug conjugate for breast cancer. *Cornea.* 35(10):1378-1380, 2016.
 6. 上野貴之: 乳癌領域における CTC/CEC の意義. *細胞* 48(5):10-13, 2016.
 7. 上野貴之: CREATE-X JBCRG-04. *腫瘍内科* 18(3):252-257, 2016.
 8. 上野貴之: HRD アッセイ. *がん分子標的治療* 15(1):62-65, 2017.
 9. 上野貴之: 乳癌診療における Liquid Biopsy. *日本臨床増刊号 乳癌学*:167-176, 2017.
 10. 上野貴之: Liquid Biopsy-再発巣生検は不要となるか. *医学のあゆみ* 261(5):410-416, 2017.
 11. 井本滋: センチネルリンパ節生検:現状と展望. *日本臨床* 75(3):301-303, 2017.
 12. 井本滋: 乳腺専門医の現状と新制度への対応. *医学のあゆみ* 261(5):555-559, 2017.
- 著 書**
1. 上野貴之: 予後予測マーカーと臨床学的因子. 乳癌診療のための分子病理エッセンシャル. 津田均, 木下貴之, 田村研治編. 東京, 南山堂, 2016. p.173-183.
 2. Imoto S: RFA with a LeVeen needle electrode in early breast cancer. Non-surgical Ablation Therapy for Early-stage Breast Cancer. Kinoshita T. ed. Springer, 2016. p.133-141.
 3. 上野貴之: トラスツズマブエムタンシン, ペルツズマブ. がん化学療法薬 はや調ベノート. 古瀬純司編. 大阪, メディカ出版, 2017. p.40-43.
- 小児外科学教室**
- 講 演**
1. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一郎: 臍部小切開にて手術を行った腸回転異常症の4例. 第2回日本小児へそ研究会, 大阪, 2016年4月14日.
 2. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一郎: 消化管手術後に発症したミルクアレルギー症例の検討. 第53回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2016年5月25

日.

3. 浮山越史, 廣部誠一, 中原さおり, 横井暁子, 石丸由紀, 杉山彰英, 世川修, 平井みさ子, 平川均, 望月響子: 多様なライフプラン: 少人数施設の問題点, 地方施設の問題点. 第53回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2016年5月26日.
4. 鮫島由友, 浮山越史, 渡邊佳子, 佐藤順一朗: 超音波検査によってカタル性虫垂炎の手術 症例が減らせたか?. 第53回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2016年5月26日.
5. 渡邊佳子, 浮山越史, 鮫島由友, 船田敏子: 腸瘻造設によりQOLが向上した慢性特発性偽性腸閉塞症の1例. 第30回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会, 名古屋, 2016年6月25日.
6. 渡邊佳子, 菫澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗: 不自然な外傷から被虐待と判明した1例. 第30回日本小児救急医学会, 仙台, 2016年7月1日.
7. 渡邊佳子, 菫澤融司, 浮山越史: 臍部小切開にて手術を行った4例. 第52回日本周産期・新生児医学会総会, 富山, 2016年7月14日.
8. 浮山越史: 外来診療に必要な小児外科. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2016年10月4日.
9. 鮫島由友, 浮山越史, 渡邊佳子, 船田敏子: 先天性結腸閉鎖症に中間位鎖肛を合併した1例. 第51回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 甲府, 2016年10月8日.
10. 渡邊佳子, 浮山越史, 鮫島由友: QOLを考慮して治療方法を選択した前立性原発横紋筋肉腫の1例. 第27回日本小児外科QOL研究会, 岡山, 2016年10月15日.
11. ニツ橋未来, 中奥由紀子, 浮山越史, 渡邊佳子: 小児便秘外来の現状と課題. 第27回日本小児外科QOL研究会, 岡山, 2016年10月15日.
12. 浮山越史: 外来診療で必要な小児外科疾患. 第34回城西ブロック勉強会, 東京, 2016年10月18日.
13. 鮫島由友, 浮山越史, 渡邊佳子, 船田敏子: カタル性虫垂炎切除術率減少に術前超音波検査がもたらす効果. 第2回日本小児超音波研究会, さいたま, 2016年10月22日.
14. 渡邊佳子, 浮山越史, 鮫島由友: 当科におけるトランジション症例の検討. 第32回日本小児外科学会秋季シンポジウム, さいたま, 2016年10月29日.

論文

1. 浮山越史: Peutz-Jeghers症候群. 小児科診療79(Suppl): 207, 2016.
2. Watanabe T^{1,2}, Yoshida F², Ohno M^{1,2}, Mori M², Tomita H², Ukiyama E, Nakano M², Endo M² (¹National Center for Child Health and Development, ²Saitama City Hospital): Morphology - based investigation of metachronous inguinal hernia after negative laparoscopic evaluation - is it acquired indirect inguinal hernia?. J Pediatr Surg 51(9):1548-1551, 2016.

著書

1. 浮山越史: 腹部の見かたと診断. 小児のPoint of Care Ultrasound エコーでABCDを評価しよう!. 日本小児集中治療研究会編著. 大阪, メディカ出版, 2016. p. 85-115.

その他

1. 浮山越史: 外から見える土木, 見える土木から見えない土木へ. 土木学会誌 102: 48-49, 2017.

救急医学教室

講演

1. Inoue Y, Yu Y, Fischman A. J, Chang P, Yamaguchi Y,

Tompkins R.G, Vakoc B.J, Goverman J, Irimia D: Secondary Wound Necrosis is Suppressed by Resolvin D2. The 48th American Burn Association 48th Annual Meeting, USA, May 3rd-5th, 2016.

2. 山口芳裕: 東京オリンピックの危機管理対応としての医療 論点整理. 第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 郡山, 2016年5月12-14日.
3. 山口芳裕: 新たな被ばく医療体制をめぐる国の論議「緊急被ばく医療に関する検討チーム」. 第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 郡山, 2016年5月12-14日.
4. 海田賢彦, 落合剛二, 加藤聡一郎, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 自家培養表皮を最大限に生かす重症熱傷治療戦略. 第42回日本熱傷学会総会・学術集会, 浦安, 2016年6月2-3日.
5. 加藤聡一郎, 海田賢彦, 庄司高裕, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 小型飛行機墜落事故対応から考える災害時熱傷診療体制のあり方. 第42回日本熱傷学会総会・学術集会, 浦安, 2016年6月2-3日.
6. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 当院の感染制御に係わる高気圧酸素療法の経験. 第13回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会, 東京, 2016年6月25日.
7. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 星亨, 稲田成作, 市村正一, 山口芳裕: 大腿骨幹部骨折A0分類Type Cの治療成績. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016年7月1-2日.
8. 山口芳裕: 東京都の災害医療体制～首都直下地震に備えて～. 「救急の日」シンポジウム, 東京, 2016年9月9日.
9. Shoji T, Tarui T, Mochida Y, Kaita Y, Inoue Y, Miyauchi H, Yamaguchi Y: IABO device, "Rescue-BalloonR", is useful for Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta(REBOA) in case of life-threatening hemorrhagic shock. The 33th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, September 9th-11th, 2016.
10. 庄司高裕, 原田裕久, 関本康人, 山口芳裕: 透析シャント造設困難例に対する浅大腿動脈内シャント術の有効性の検討. 第57回日本脈管学会総会, 奈良, 2016年10月13-15日.
11. 宮内洋: 検死における患者個人データの取り扱いについては事前に同意をもらうことで一助となる. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
12. 海田賢彦, 田中佑也, 五十嵐昂, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 終の棲家は救命センターで良いのか?. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
13. 加藤聡一郎, 坂本学映, 山本明彦, 河口政慎, 刃刀主税, 井上孝隆, 海田賢彦, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 基幹災害医療センターとの日常的な病院間連携をもとにした熊本地震医療支援活動. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
14. 井上孝隆, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: Resolvin D2は熱傷敗血症ラットモデルにおいて肝・腎機能障害を予防する. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
15. 樽井武彦, 荻野聡之, 吉川慧, 井上孝隆, 海田賢彦, 宮内洋, 山口芳裕: Overdose患者のプレホスピタルでの常識を疑う～50錠から100錠ルールへ～. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
16. 山口芳裕: 東京オリンピック・パラリンピックの医療対応準備のための論点整理. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
17. 荻野聡之, 菊地俊暁, 渡邊衛一郎, 山口芳裕: 自殺を企図した急性薬物中毒患者における服薬内容の検討. 第26

回日本臨床精神神経薬理学会, 大分, 2016年11月17-18日.

18. 山口芳裕: 関東地方における指導救命士の進捗状況と今後の課題. 第3回関東地方メディカルコントロール協議会連絡会, 宇都宮, 2017年2月3日.
19. 加藤聡一郎: 災害医療での先進技術活用. IoTに関するシンポジウム, 東京, 2017年2月8日.
20. 加藤聡一郎, 星亨, 山岸賢一郎, 工藤文孝: 高齢者の脛骨近位部脆弱性骨折に対する創外固定器の有用性. 第30回日本創外固定・骨延長学会学術集会, 久留米, 2017年3月3-4日.
21. 荻野聡之, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: 救命救急センターで加療した悪性症候群10例の検討. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017年3月9-11日.
22. 五十嵐昂, 加藤聡一郎, 庄司高裕, 海田賢彦, 井上孝隆, 樽井武彦, 宮内洋, 山口芳裕: 救命センターにおける終末期医療の在り方. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017年3月9-11日.
23. 井上孝隆, 宮内洋, 加藤聡一郎, 庄司高裕, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: Resolvin D2は熱傷敗血症ラットモデルにおいて肝・腎機能障害を予防する. 第44回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2017年3月9-11日.

論 文

1. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 山口芳裕, 稲田成作¹, 市村正一¹, 星亨² (¹杏林大・医・整形外科, ²東大和病院): 大腿骨骨幹部骨折に同側の外傷性股関節脱臼を合併した1例. 骨折 38: 388-391, 2016.
2. 大畑徹也, 稲田成作¹, 丸野秀人¹, 市村正一¹, 山口芳裕, 星亨² (¹杏林大・医・整形外科, ²東大和病院): 当院における寛骨臼骨折の治療成績. 骨折 38: 336-3340, 2016.
3. 庄司高裕, 原田裕久¹, 松井淳一¹ (¹東京医科歯科大): 上腕骨近位端骨折術後に腋窩上腕動脈仮性瘤破裂と巨大胸部血腫を併発した1例. 日集中医誌 23: 567-570, 2016.
4. 大畑徹也, 星亨¹, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一² (¹東大和病院, ²杏林大・医・整形外科): 骨盤輪骨骨折を伴う多発外傷における乳酸値の検討と有用性. 別冊整形外 70: 35-40, 2016.
5. 落合剛二, 山口芳裕: 気管切開. 手術 70: 1165-1170, 2016.
6. 宮国泰彦, 山田賢治, 守永広征, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 庄司高裕, 海田賢彦, 玉田尚, 宮内洋, 樽井武彦, 稲葉雄亮¹, 土屋博司¹, 窪田博¹, 山口芳裕 (¹杏林大・医・心臓血管外科学): 墜落外傷による左心房破裂の1救命例. 日外傷会誌 31: 36-40, 2017.

著 書

1. 吉川慧, 山口芳裕: 熱傷患者の輸液管理. 救急・集中治療のための輸液管理Q&A. 岡元和文編著. 東京, 総合医学社, 2017. p. 257-261.
2. 井上孝隆, 山口芳裕, 島崎修次: 外傷学総論. 臨床工学講座 臨床医学総論. 篠原一彦, 小谷透編. 東京, 医歯薬出版, 2017. p. 269-284.
3. 加藤聡一郎, 山口芳裕: 災害医療. 救命救急・集中治療エキスパートブックR35. 三宅康史編. 東京, 日本医事新報社, 2017. p. 264-289.
4. 荻野聡之, 渡邊衝一郎: 抑うつ障害群 抗うつ薬による副作用: 概論. 精神医学症候群(第2版) I. 東京, 日本臨牀社, 2017. p. 585-590.

その他

1. 山口芳裕: 第13回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会主催, 東京, 2016年6月25日.
2. 山口芳裕: 総務大臣表彰: 平成28年度救急功労者表彰.

2016年9月9日.

3. 山口芳裕: 東京都知事表彰: 東京都の救急医療行政に寄与. 2016年9月9日.

脳神経外科学教室

講 演

1. 塩川芳昭: 老年症候群と大脳白質病変～脳神経外科の立場から～. 第3回健康長寿と動脈硬化フォーラム, 名古屋, 2016年4月6日.
2. 鳥居正剛, 笹森寛生, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭, 当施設の頸動脈狭窄症に対する治療成績と治療戦略—高齢者への治療選択を中心に—. 45回日本脳卒中の外科学会, 札幌, 2016年4月14日.
3. 野口明男, 山口竜一, 丸山啓介, 佐藤栄志, 栗田浩樹, 塩川芳昭: Multimodal treatment 時代に入ったAVMの問題点. 第45回日本脳卒中の外科学会, 札幌, 2016年4月15日.
4. 佐藤栄志, 島田篤, 林基高, 松本淑恵, 笹森寛生, 小松原弘一郎, 前村栄治, 小西善史, 塩川芳昭: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の中期治療成績. 第45回日本脳卒中の外科学会, 札幌, 2016年4月15日.
5. 丸山啓介, 鳥居正剛, 青木耀平, 橋本直己, 塩川芳昭: プロジェクションマッピングによるSTA-MCA吻合術における吻合血管の決定の試み. 第45回日本脳卒中の外科学会, 札幌, 2016年4月16日.
6. 吉田裕毅, 丸山啓介, 永根基雄, 奴田原紀久雄, 東原英二, 塩川芳昭: 多発性嚢胞腎の重症度と合併する頭蓋内動脈瘤に関する研究. 第45回日本脳卒中の外科学会, 札幌, 2016年4月16日.
7. 丸山啓介, 阿部泰明, 横矢重臣, 野口明男, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 高齢者慢性硬膜下血腫の予後不良の要因としての意識障害を伴う基礎疾患. 第29回日本老年脳神経外科学会, 奈良, 2016年4月23日.
8. 鳥居正剛, 笹森寛生, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭, 当施設での80歳以上の高齢者内頸動脈狭窄症への治療成績および積極的ないか治療の有用性. 第29回日本老年脳神経外科学会, 奈良, 2016年4月23日.
9. 塩川芳昭: 超高齢化社会が求める脳神経外科医療 日本老年脳神経外科学会の今後の方向性は?. 第29回日本老年脳神経外科学会, 奈良, 2016年4月23日.
10. Nagane M, Fukumura K, Ueno T, Lee J, Shishido-Hara Y, Mishima K, Ichimura K, Mukasa A, Narita Y, Aburatani H, Nishikawa R, Mano H: Genomic characterization of primary central nervous system lymphoma reveals predominant nonsynonymous somatic mutations of MYD88 and PIM1 genes. 21th International Conference on Brain Tumor Research and Therapy, 名護, 2016年4月13日.
11. 鳥居正剛: 脳卒中予防の為に頸動脈病変治療—血圧管理も含めて—. Stroke Seminar in 府中, 府中, 2016年5月12日.
12. 永山和樹, 丸山啓介, 小林啓一, 中村正直, 戸成綾子, 楠田順子, 永根基雄, 高山誠, 塩川芳昭: 嚢胞性転移性脳腫瘍病変に対するLINAC定位放射線治療(第2報). 第25回日本定位放射線治療学会, 京都, 2016年5月27日.
13. 塩川芳昭: 東京都の脳卒中救急搬送体制の現状と今後の見通し. 第11回富士・玄海Stroke Conference, 福岡, 2016年6月3日.
14. 中内淳: 忘れた頃に遭遇するTPA投与時鑑別すべき疾患, 骨髄硬膜外血腫の一例(NOAC内服例). 第11回富士・玄海Stroke Conference, 福岡, 2016年6月3日.
15. 鳥居正剛, 笹森寛生, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭:

- 当施設の内頸動脈狭窄症の治療成績および積極的ないか治療の有用性. 第25回日本脳ドック学会総会, 長野, 2016年6月9日.
16. Maruyama K, Yoshida H, Sato K, Noguchi A, Shiokawa Y: Selection of skull base technique in removing parasellar tumors. 第28回日本頭蓋底外科学会, 大阪, 2016年6月16日.
 17. 鳥居正剛, 谷合誠一, 笹森寛生, 萬知子, 吉野秀朗, 平野照之, 塩川芳昭: 当院でのCEA術前心疾患スクリーニングの有効性. 第3回日本心血管脳卒中学会学術集会, 東京, 2016年6月18日.
 18. 塩川芳昭: 未破裂脳動脈瘤の管理, 外科的アプローチ. 第3回日本心血管脳卒中学会学術集会, 東京, 2016年6月18日.
 19. 林基高, 日高幸宏, 飯島明, 島田大輔, 山下圭一, 原田洋一, 畑山徹, 大島幸亮, 田中優子, 佐藤栄志: 診療体制の異なる3施設において実施した, 急性期血行再建術経験の比較, 検討. 第13回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年7月8日.
 20. 笹森寛生, 傳法倫久, 小松原弘一郎, 鳥居正剛, 佐藤栄志, 塩川芳昭: Trousseau 症候群による急性期脳主幹動脈閉塞に対して血栓回収術を行った4例の検討. 第13回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年7月9日.
 21. 佐藤栄志, 笹森寛生, 松本淑恵, 塩川芳昭, 前村栄治, 伊藤直行: ED complex coilの使用経験. 第13回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年7月9日.
 22. 永根基雄: 悪性脳腫瘍治療最新事情～2016年ASCO報告解説～. 脳腫瘍2016, 大阪, 2016年7月22日.
 23. 塩川芳昭: 脳梗塞急性期治療・新たな診療体制の構築. Stroke Network Meeting in小江戸, 川越, 2016年7月29日.
 24. 塩川芳昭: 脳血管外科から入る脳神経外科手術修練. 第5回富山脳神経外科夜話会, 富山, 2016年8月6日.
 25. 小林啓一, 水澤純基, 片山宏, 西川亮, 成田善孝, 田部井勇助, 齊藤邦昭, 福田治彦, 永根基雄, JCOG脳腫瘍グループ: 再発膠芽腫に対する用量強化テモゾロミド-ベバシツマブ逐次併用療法: 多施設共同ランダム化第III相試験(JCOG1308C REGEND試験). 第51回ニューロオンコロジーの会, 東京, 2016年8月21日.
 26. 佐藤研隆, 熊切敦, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 出血性椎骨病変に対する直達手術を安全に行うための工夫. 第35回The Mt Fuji workshop on CVD, 東京, 2016年8月27日.
 27. 塩川芳昭: 脳血管外科から入る脳神経外科手術修練. 第111回道南脳神経外科懇話会, 函館, 2016年9月2日.
 28. 永根基雄: 神経膠腫の標準治療とWHO2016新分類下での治療開発. 第21回日本脳腫瘍の外科学, 東京, 2016年9月9日.
 29. 齊藤邦昭: 機能温存を目指した術中神経機能モニタリングの工夫. 第21回日本脳腫瘍の外科学, 東京, 2016年9月10日.
 30. 齊藤邦昭: 島領域の膠芽腫に対する手術戦略. 第21回日本脳腫瘍の外科学, 東京, 2016年9月10日.
 31. Nagane M, Saito K, Kobayashi K, Shimizu S, Suzuki K, Sasaki N, Kume S, Yamagishi Y, Shiokawa Y: Integrated analysis of methylation of MGMT promoter and alteration of mismatch repair enzymes in glioblastoma. 13th Asian Society for Neuro-Oncology Annual Scientific Meeting, Australia, September 11th-14th, 2016.
 32. 鳥居正剛, 頸動脈病変への治療選択, 三鷹市医師会定期講演, 多摩, 2016年9月14日.
 33. 塩川芳昭: 脳血管外科から入る脳神経外科手術修練. 第77回日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2016年9月24日.
 34. Maruyama K, Abe Y, Yokoya S, Noguchi A, Sato E, Nagane M, Shiokawa Y: Outcomes of chronic subdural hematoma with preexisting comorbidities causing disturbed consciousness. Congress of Neurological Surgeons 2016 Annual Meeting, USA, Septembwr 24th-28th, 2016.
 35. 井戸啓介, 黒木亮太, 黒木愛, 西村中, 有村公一, 佐山徹郎, 有賀徹, 嘉田晃子, 西村邦宏, 豊田一則, 吉村紳一, 宮地茂, 塩川芳昭, 小笠原邦昭, 飯原弘二: 高齢者くも膜下出血患者周術期管理と転帰の検討～J-ASPECT study. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月29日.
 36. 丸山啓介, 松本淑恵, 鳥居正剛, 青木耀平, 橋本直己, 塩川芳昭: プロジェクションマッピングによるSTA-MCA吻合術における吻合血管の決定の試み. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月29日.
 37. 笹森寛生, 傳法倫久, 小松原弘一郎, 鳥居正剛, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: Trousseau 症候群による超急性期脳主幹動脈閉塞に対して機械的血栓回収を行った4例の検討. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月29日.
 38. 永根基雄, 小林啓一, 齊藤邦昭, 佐々木重嘉, 久米賢, 山岸夢希, 清水早紀, 鈴木香, 塩川芳昭: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する減量または非照射R-MPV-A療法による生存予後および高次脳機能の改善. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月29日.
 39. 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 山岸夢希, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するDeVIC療法の治療成績. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月30日.
 40. 齊藤邦昭, 小林啓一, 久米賢, 山岸夢希, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発神経膠腫の分子遺伝学的変化に基づく治療戦略の構築. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月30日.
 41. 林基高, 日高幸宏, 飯島明, 豊田富勝, 米倉一郎, 井上瑞穂, 富岡重梨沙, 西岡和輝, 畑山徹, 原田洋一, 山下圭一, 田中雅樹, 島田大輔, 大島幸亮, 田中優, 佐藤栄志: 3施設において経験した, 急性期血行再建術治療の比較と検討. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月30日.
 42. 吉田裕毅, 丸山啓介, 永根基雄, 奴田原紀久雄, 東原英二, 宮崎功, 塩川芳昭: 多発性嚢胞腎に合併する脳動脈瘤の特徴. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年9月30日.
 43. 佐藤栄志, 島田篤, 松本淑恵, 笹森寛生, 前村栄治, 小西善史, 塩川芳昭: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の中期治療成績. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年10月1日.
 44. 野口明男, 塩川芳昭, 佐藤栄志, 丸山啓介, 山口竜一, 栗田浩樹: Multimodal treatment 時代に入ったAVMの問題点. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年10月1日.
 45. 鳥居正剛, 笹森寛生, 今井大也, 佐藤研隆, 平野照之, 塩川芳昭: 医原性頸部動脈損傷に対しての診断および修復方法の検討. 第75回脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016年10月1日.
 46. 黒木愛, 小野塚大介, 萩原明人, 嘉田晃子, 西村邦宏, 井戸啓介, 西村中, 有村公一, 佐山徹郎, 有賀徹, 豊田一則, 吉村紳一, 宮地茂, 塩川芳昭, 小笠原邦昭, 飯原弘二: J-ASPECT studyにおける本邦の脳虚血急性期治

- 療に関する検討. 第75回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2016年10月1日.
47. 齊藤邦昭: 神経膠腫におけるMGMTメチル化とDNAミスマッチ修復酵素の統合解析. 第75回日本癌学会, 横浜, 2016年10月7日.
 48. 笹森寛生, 松本淑恵, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 天野達雄, 平野照之: 血管内治療を行なった慢性期両側椎骨動脈解離の1例. 第33回東京脳血管内治療研究会, 東京, 2016年10月8日.
 49. 塩川芳昭: 未破裂脳動脈瘤をお持ちの患者さんへ. 第24回嚢胞性腎疾患研究会市民公開講座, 三鷹, 2016年10月16日.
 50. 永根基雄: 悪性脳腫瘍治療のエビデンスと標準治療: 神経膠腫・悪性リンパ腫を中心に. 第7回悪性神経膠腫治療カンファレンス, 京都, 2016年10月21日.
 51. 城野喬史, 永井健太郎, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭: 片頭痛発作中に発症した脳梗塞の2例. 第44回日本頭痛学会, 京都, 2016年10月22日.
 52. 丸山啓介, 吉田裕毅, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 脳室内腫瘍における神経内視鏡手術の役割. 第23回日本神経内視鏡学会, 東京, 2016年11月17日.
 53. Saito K, Kobayashi K, Shimizu S, Suzuki S, Shiokawa Y and Nagane M: Upfront chemotherapy prolongs progression free survival of the patients with low-grade oligodendroglial tumors. 21th Scientific Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, November 17th-20th, 2016.
 54. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Sasaki N, Kume K, Yamagishi Y, Shimizu S, Suzuki K, Shiokawa Y: Combined immunochemotherapy, R-MPV-A, with reduced or deferred radiotherapy for PCNSL improves survival with favorable performance and cognitive function. 21th Scientific Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, November 18th, 2016.
 55. 佐藤栄志, 島田篤, 松本淑恵, 笹森寛生, 小西善史, 塩川芳昭: 破裂脳動脈瘤に対するステント支援下塞栓術. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016年11月24-26日.
 56. 佐藤栄志, 笹森寛生, 松本淑恵, 前村栄治, 伊藤宜行, 畑山良, 河合拓也, 塩川芳昭: 脳動脈瘤に対するED complex coilの使用経験. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016年11月24-26日.
 57. 林基高, 日高幸宏, 飯島明, 豊田富勝, 畑山徹, 山下圭一, 原田洋一, 田中優子, 大島幸亮, 伊藤正一, 佐藤栄志: Drip, Ship and recanalization について. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016年11月24-26日.
 58. 永根基雄, 小林啓一, 齊藤邦昭, 李政勲, 佐々木重嘉, 久米賢, 山岸夢希, 清水早紀, 鈴木香, 塩川芳昭: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するR-MPV-A療法の予後因子および高次脳機能解析. 第34回日本脳腫瘍学会学術集會, 甲府, 2016年12月4日.
 59. 田部井勇介, 小林啓一, 齊藤邦昭, 清水早紀, 鈴木香, 鈴木一郎, 永根基雄: IDH1変異膠芽腫の再発後の予後に関する後方視的解析. 第34回日本脳腫瘍学会学術集會, 山梨, 2016年12月4日.
 60. 小林啓一, 久米賢, 山岸夢希, 島田大輔, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するDeVIC療法の治療成績. 第34回日本脳腫瘍学会学術集會, 山梨, 2016年12月4日.
 61. 齊藤邦昭: トラクトグラフィによる脳白質解剖の描出と, 白質解剖を考慮したグリオーマ手術. 第34回日本脳腫瘍学会学術集會, 山梨, 2016年12月4日.
 62. 永根基雄: 悪性神経膠腫に関する国内外の臨床研究動向. GLIADEL CONFERENCE IN TOKYO, 東京, 2016年12月10日.
 63. 塩川芳昭: 東京都脳卒中救急体制改革の進捗状況について. 北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会 平成28年度脳卒中地域連携診療計画合同委員会, 多摩, 2016年12月15日.
 64. 鳥居正剛, 脳卒中予防の為に頸動脈病変治療-血圧管理も含めて-. 日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社東京支店府中営業所社内講演, 多摩, 2016年12月16日.
 65. Nagane M: Difficult Anaplastic Glioma. ESMO ASIA 2016, Singapore, December 16th, 2016.
 66. Narita Y, Nagane M, Kagawa N, Mishima K, Yamamoto T, Wakabayashi T, Hamada T, Odagawa R, Nishimura Y, Kiriya T, Xiong H, Ocampo C, Nishikawa R: Tolerability and pharmacokinetics (PK) of ABT-414 in Japanese patients (pts) with malignant glioma. ESMO ASIA 2016, Singapore, December 17th, 2016.
 67. Nagane M: Invited discussant abstracts 140PD and 141PD. ESMO ASIA 2016, Singapore, December 17th, 2016.
 68. 塩川芳昭: 東京都脳卒中救急体制の現状と課題. 第13回多摩Stroke研究会, 多摩, 2017年2月16日.
 69. 齊藤邦昭, 小林啓一, 松島大将, 高橋沙奈江, 宮崎功, 飯島昌平, 川井田善太郎, 島田大輔, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: トラクトグラフィによる脳機能の可視化と, 3次元融合画像を用いた脳腫瘍手術. 第40回日本脳神経CI学会総会, 鹿児島, 2017年3月3日.
 70. 永井健太郎, 岡野晴子, 海野佳子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: LSA領域に虚血を生じたmigrainous infarction の一例. 第16回首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 2016年3月18日.

論文

1. 塩川芳昭: シンポジウム クモ膜下出血のまとめ. Geriatric Neurosurgery 28:51-53, 2016.
2. 阿部光世^{1,2}, 平野照之^{1,3}, 塩川芳昭 (1杏林大学脳卒中センター, 2杏林大学看護部, 3杏林大学脳卒中医学): 当院脳卒中センターにおける病床運営の現状と課題. Neurosurgical Emergency 21(1): 37-40, 2016.
3. 蛭沢志織^{1,2}, 阿部光世^{1,2}, 脊山英徳³, 平野照之^{1,4}, 塩川芳昭 (1杏林大学脳卒中センター, 2杏林大学看護部, 3小山記念病院脳神経外科, 4杏林大学脳中医学): 脳卒中ケアユニット開設後の病床運営の現状. Neurosurgical Emergency 21(1): 41-44, 2016.
4. 塩川芳昭: 画像検査と脳卒中03 脳ドックに関わる最近の文献情報. 日本脳ドック学会報 2(2): 44-45, 2016.
5. Fukumura K, Kawazu M, Ueno T, Sai E, Soda M, Kojima S, Ueda H, Yasuda T, Yamaguchi H, Lee J, Shishido-Hara Y, Sasaki A, Shirahata M, Mishima K, Ichimura K, Mukasa A, Narita Y, Saito N, Aburatani H, Nishikawa R, Nagane M, Mano H: Genomic characterization of primary central nervous system lymphoma. Acta Neuropathol 131: 865-875, 2016. DOI 10.1007/s00401-016-1536-2.
6. Furuse M, Nonoguchi N, Kuroiwa T, Miyamoto S, Arakawa Y, Shinoda J, Miwa K, Iuchi T, Tsuboi K, Houkin K, Terasaka S, Tabei Y, Nakamura H, Nagane M, Sugiyama K, Terasaki M, Abe T, Narita Y, Saito N, Mukasa A, Ogasawara K, Beppu T, Kumabe T, Nariai T, Tsuyuguchi N, Nakatani E, Kurisu S, Nakagawa Y, Miyatake S: A prospective multicenter single-arm clinical trial of bevacizumab for patients with surgically untreatable, symptomatic brain radiation necrosis. Neuro-Oncol Practice 3(4): 272-280, 2016. doi:10.1093/nop/npv064.

7. Tsuchihashi K, Okazaki S, Ohmura M, Ishikawa M, Sampetean O, Onishi N, Wakimoto H, Yoshikawa M, Seishima R, Iwasaki Y, Morikawa T, Abe S, Takao A, Shimizu M, Masuko T, Nagane M, Furnari FB, Akiyama T, Suematsu M, Baba E, Akashi K, Saya H, and Nagano O: The EGF receptor promotes the malignant potential of glioma by regulating amino acid transport system xc(-). *Cancer Res* 76(10): 2954-2963, 2016. doi:10.1158/0008-5472.CAN-15-2121. (Published Online).
8. Shishido-Hara Y, Yazawa T, Kojima K, Ishii J, Kobayashi K, Lee JH, Chiba T, Sumiishi A, Tsuchiya K, Uchiyama T, Shiokawa Y, Takayama N, Nagane M, Kamma H: Primary CNS lymphoproliferative disorder resembling lymphomatoid granulomatosis: angiocentric T-cell rich B-cell proliferation with t(14;18)(q32;q21) translocation for IgH/BCL2 genes. *Blood* submitted.
9. Arita H, Yamasaki K, Matsushita Y, Nakamura T, Shimokawa A, Takami H, Tanaka S, Mukasa A, Shirahata M, Shimizu S, Suzuki K, Saito K, Kobayashi K, Higuchi F, Uzuka T, Otani R, Tamura K, Sumita K, Ohno M, Miyakita Y, Kagawa N, Hashimoto N, Hatae R, Yoshimoto K, Shinojima N, Nakamura H, Kanemura Y, Okita Y, Kinoshita M, Ishibashi K, Shofuda T, Kodama Y, Mori K, Tomogane Y, Fukai J, Fujita K, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Moriuchi S, Nonaka M, Suzuki H, Shibuya M, Maehara T, Saito N, Nagane M, Kawahara N, Ueki K, Yoshimine T, Miyaoka E, Nishikawa R, Komori T, Yoshitaka Narita Y, Ichimura K: A combination of TERT promoter mutation and MGMT methylation status predicts clinically relevant subgroups of newly diagnosed glioblastomas. *Acta Neuropathologica Communications* 4:79, 2016. DOI 10.1186/s40478-016-0351-2.
10. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Sasaki N, Kume S, Yamagishi Y, Shimizu S, Suzuki K, Shiokawa Y: Combined immunochemotherapy, R-MPV-A, with reduced or deferred radiotherapy for PCNSL improves survival with favorable performance and cognitive function (abst #ACTR-23). *Neuro-Oncology (suppl)*, 2016. (in press).
11. Yamagishi Y, Maruyama K, Kobayashi K, Kume S, Sasaki N, Yokoya S, Saito K, Shiokawa Y, and Nagane M: Black hairy tongue after chemotherapy for malignant brain tumors. *Acta Neurochir* 159: 169-172, 2017. doi:10.1007/s00701-016-3036-5.
12. Nakamura T, Yamashita S, Fukumura K, Tanaka K, Tamura K, Tateishi K, Kinoshita M, Fukushima S, Takami H, Fukuoka K, Yamazaki K, Matsushita Y, Ohno M, Miyakita Y, Shibui S, Kubo A, Shuto T, Kocalkowski S, Yamanaka S, Mukasa A, Sasayama T, Mishima K, Maehara T, Kawahara N, Nagane M, Narita Y, Mano H, Ushijima T, Ichimura K: Genome-wide DNA methylation profiles identifies primary central nervous system lymphomas as a distinct entity from systemic diffuse large B-cell lymphomas. *Acta Neuropathol* 133(2):321-324, 2017.
13. 成田善孝, 洪井壮一郎, 嘉山孝正, 佐藤慎哉, 若林俊彦, 村垣善浩, 永根基雄, 西川亮: JCOG脳腫瘍グループによる悪性脳腫瘍に対する臨床試験. *脳神経外科ジャーナル* 25(7):566-578, 2016.
14. 野口明男: 脳梗塞の「先入観」と脳腫瘍診断. *Modern Physician* 36(7):808, 2016.
15. 永山和樹, 丸山啓介, 小林啓一, 中村正直, 戸成綾子, 楠田順子, 永根基雄, 高山誠, 塩川芳昭: 杏林大学における転移性脳腫瘍に対するLINAC 定位放射線治療16年間の経験 (Linear accelerator stereotactic radiosurgery for metastatic brain tumors: 16 years of experience at Kyorin University Hospital). *定位的放射線治療 (Stereotactic Radiotherapy)* 20: 103-112, 2016.
16. 丸山啓介: データベースを使いこなそう, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 26(1):86-90, 2016.
17. 丸山啓介: エクセルで臨床統計を気軽にやろう, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 26(3):300-304, 2016.
18. 丸山啓介: オフラインを含むパソコンのウィルス対策, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 26(5):532-535, 2016.
19. 丸山啓介: 高度な臨床統計のやり方, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 26(7): 532-535, 2016.
20. 丸山啓介: 論文作成を中心としたMicrosoft Word活用術. 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 26(9):990-994, 2016.
21. 丸山啓介: 論文作成のためのEndNoteの使い方. 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 26(11): 1220-1224, 2016.
22. Kawada M¹, Yokoi H¹, Maruyama K, Matsumoto Y¹, Yamanaka H¹, Ikeda T¹, Shiokawa Y, Saito K¹ (¹Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): Rhinogenic intracranial complication with postoperative frontal sinus pyocele and inverted papilloma in the nasal cavity: A case report and literature review. *SAGE Open Medical Case Reports* 4: 1-4, 2016.
23. Ichimura K, Fukushima S, Totoki Y, Matsushita Y, Otsuka A, Tomiyama A, Niwa T, Takami H, Nakamura T, Suzuki T, Fukuoka K, Yanagisawa T, Mishima K, Nakazato Y, Hosoda F, Narita Y, Shibui S, Yoshida A, Mukasa A, Saito N, Kumabe T, Kanamori M, Tominaga T, Kobayashi K, Shimizu S, Nagane M, Iuchi T, Mizoguchi M, Yoshimoto K, Tamura K, Maehara T, Sugiyama K, Nakada M, Sakai K, Kanemura Y, Nonaka M, Asai A, Yokogami K, Takeshima H, Kawahara N, Takayama T, Yao M, Kato M, Nakamura H, Hama N, Saka R, Ushijima T, Matsutani M, Shibata T, Nishikawa R: Recurrent neomorphic mutations of MTOR in central nervous system and testicular germ cell tumors may be targeted for therapy. *Acta Neuropathol* 131(6):889-901, 2016. DOI 10.1007/s00401-016-1557-x.
24. 熊切敦, 塩川芳昭, 小林祥泰¹ (¹島根大学): くも膜下出血における脳血管攣縮の頻度と合併症の関係. *脳血管攣縮* 31:79, 2016.

著書

- 塩川芳昭: 脳卒中 (脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血・もやもや病). year noteTOPICS 2016-2017内科・外科疾患5th edition 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向. 東京, メディックメディア, 2016. p. 377-383.
- 田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫, 辻貞俊, 塩川芳昭, 成田義孝: EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針 第4版. 東京, メジカルビュー社, 2016.
- 塩川芳昭: くも膜下出血. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針 第4版. 東京, メジカルビュー社, 2016. p. 2-8.
- 塩川芳昭: 第3版序文. 脳神経外科学用語集改訂第3版. 日本脳神経外科学会用語委員会編, 東京, 日本脳神経外

- 科学会, 2016.
- 塩川芳昭, 萬知子: 合併症をきたさないための組織の体制づくりとガバナンスの構築. 脳神経外科M&Mカンファレンス. 寶金清博監修. 森田明夫編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 486-891.
 - 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫. 脳腫瘍診療ガイドライン 2016年版. 日本脳腫瘍学会編. 東京, 金原出版, 2016. p. 939-947.
 - 丸山啓介, 塩川芳昭: 前大脳動脈瘤のシミュレーションと手術の実際 Acom AN Pterional approach 上方・後方向き(低位). 前大脳動脈瘤・椎骨脳底動脈瘤 (ACA・VBA Aneurysm) のすべて—シミュレーションで経験する手術・IVR. 井川房夫, 宮地茂編. 大阪, メディカ出版, 2016. p. 63-66.
 - 小林啓一, 永根基雄: 再発膠芽腫に対する治療のup to date. 脳神経外科速報vol.26 No.9. 大阪, メディカ出版, 2016. p. 939-947.
 - 齊藤邦昭, 永根基雄: グリオーマの基礎知識 脈絡叢腫瘍について. グリオーマ治療のDecision Making. 三國信啓編. 東京, 文光堂, 2016. p. 64-68.
 - 齊藤邦昭, 永根基雄: 脳腫瘍の分子生物学と発生機序 10q LOH. 脳腫瘍学 基礎研究と臨床研究の進歩 日本臨床74巻増刊7. 東京, 日本臨床社, 2016. p. 126-131.
- その他**
- 塩川芳昭: 掲載記事 メディカルノート くも膜下出血. <https://medicalnote.jp/contents/160222-002-JS>. <https://medicalnote.jp/contents/160222-003-S>. <https://medicalnote.jp/contents/160222-004-ZB>. <https://medicalnote.jp/contents/160222-005-XT>.
 - 内山真一郎, 阿部康二, 松本昌泰, 鈴木倫保, 北川一夫, 塩川芳昭: 座談会 脳卒中研究・臨床におけるトピックス2016. 分子脳血管病vol.15 No.1:1-7, 先端医学社, 2016.
 - 小笠原邦昭, 木村和美, 塩川芳昭, 菅貞郎, 鈴木倫保, 豊田一則, 中山博文, 松丸祐司手引き作成委員: 潜因性脳梗塞患者診断の手引き作成部会. 脳卒中 vol.38, NO.4: 278-286, 日本脳卒中学会機関誌, 2016.
 - 佐々木健, 佐々木昌弘, 塩川芳昭, 猪口貞樹, 小山信彌, 明石勝也, 炭山嘉伸, 小栗典明: 座談会 地域医療構想と大学病院のあり方について. 医学振興 83号: 7-26, 日本私立医科大学協会, 2016.
 - 塩川芳昭: 第一回杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラム開催. あんずNo.425: 7, 杏林大学, 2016.
 - 佐藤栄志: ラジオ出演 血管内治療とは 「脳卒中の病態について」4月29日, 「血管内治療とは」5月6日. ラジオ日本「21世紀の医療と介護を見つめて」, 5:10~5:20, 2016.
 - 塩川芳昭: 話題の医学 手術で治る認知症(正常圧水頭症, 慢性硬膜下血腫, 良性脳腫瘍等). 日医生涯教育協力講座, テレビ東京, 2016年5月1日.
 - 丸山啓介: 掲載記事 慢性硬膜下血腫 疑って. 日経新聞, 2016年7月17日.
 - 塩川芳昭: 日本脳卒中学会 脳卒中医療向上・社会保険委員会 rt-PA(アルテプラゼ) 静注療法指針改定部会. rt-PA(アルテプラゼ) 静注療法適正治療指針第二版. 脳卒中vol.39, No.1:37-86, 一般社団法人日本脳卒中学会, 2017.
- 後に吻合部出血を繰り返した1症例. 第168回血管外科症例検討会, 東京, 2016年4月30日.
- Ishii H, Endo H, Tsuchiya H, Takahashi Y, Nishino Y, Hosoi Y, Nunokawa M, Kubota H: Brain infarction caused by a large mobile thrombus at ligamentum arteriosum associated with anemia. 25th European Stroke Conference. Italy. April 14th, 2016.
 - 布川雅雄: 透析シャント造設法. 第23回日本血管外科学会教育セミナー 透析と血管病変, 東京, 2016年5月27日.
 - Ishii H, Endo H, Tsuchiya H, Takahashi Y, Hosoi Y, Nunokawa M, Kubota H: Surgical repair of ventricle perforation after left ventricular endomyocardial biopsy (LVEMB)- mille - feuille laminating methods -. ASCVTS2016, Taiwan, June 10th, 2016.
 - 高橋雄, 遠藤英仁, 土屋博司, 石井光, 窪田博: 超高齢者のTAAAに対して腹腔動脈入口部を閉鎖したTEVERを施行した1例. 第171回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年6月11日.
 - 池添亨, 芳賀真, 西野純史, 細井温, 布川雅雄: 深部静脈血栓症スクリーニングにおける年齢を考慮したD-dimer cut-off値の検討. 第36回日本静脈学会総会, 弘前, 2016年6月23日.
 - 西野純史, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 池添亨, 芳賀真, 細井温, 布川雅雄: 経過観察中に肺塞栓症を併発した内頸静脈venous aneurysmの1治療例. 第36回日本静脈学会総会, 弘前, 2016年6月23日.
 - 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 高橋雄, 稲葉雄亮, 野田真沙衣, 窪田博, 大塚俊哉, 二宮幹雄, 久木隆広: 心拍動下, 心外膜からのメイズ手術を可能にする赤外線凝固器および先端プローブの開発. 第35回多摩不整脈研究会, 東京, 2016年7月2日.
 - Hosoi Y, Nunokawa M, Ikezoe T, Nishino Y, Kubota H: Characteristics of isolated calf vein thrombosis in current clinical practice. 17th Annual meeting of the European Venous Forum, UK, July 7th, 2016.
 - 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 高橋雄, 稲葉雄亮, 野田真沙衣, 窪田博: 低体温循環停止を伴う緊急大動脈術後24時間以内の発熱は予後危険因子となりうるか?. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会, 岡山, 2016年9月29日.
 - 稲葉雄亮, 石井光, 野田真沙衣, 高橋雄, 池添亨, 芳賀真, 土屋博司, 遠藤英仁, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 亜急性期偽腔開存型B型解離に対して胸部ステントグラフトを施行した一例. 第24回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年10月8日.
 - 藤巻圭介, 西野純史, 芳賀真, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 二次性大動脈十二指腸瘻で吐・下血した一例. 第24回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年10月8日.
 - 土屋博司, 高橋雄, 野田真沙衣, 稲葉雄亮, 石井光, 遠藤英仁, 窪田博: 多発性膿疱腎を合併したA型急性大動脈解離の2手術症例. 第57回日本脈管学会総会, 奈良, 2016年10月14日.
 - 布川雅雄: 膠原行と血管疾患(ステロイド, 免疫抑制剤使用例の管理も含む). 第57回日本脈管学会総会, 奈良, 2016年10月15日.
 - Haga M, Hosoi Y, Nunokawa M, Ikezo, e T, Nishino Y, Kubota H: Progression and regression of isolated calf deep vein thrombosis during a 1-year follow-up. 17th Congress of Asian Society for Vascular Surgery, Singapore, October 20th-23rd, 2016.
 - Kubota H: Infrared coagulator to treat atrial

心臓血管外科学教室

講演

- 西野純史, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 池添亨, 芳賀真, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 重傷虚血肢に対するバイパス術

fibrillation, infectious endocarditis and cardiac tumors. ISMICS 2016 WINTER WORKSHOP, Kyoto, October 29th, 2016.

17. Tsuchiya H, Kubota H, Ishii H, Endo H, Ishii H, Takahashi Y, Inaba Y, Noda M, Otsuka T, Ninomiya M, Hisaki M, Nonaka T: Treatment of atrial fibrillation using infrared radiation through the epicardium under thoracoscopic guidance. ISMICS 2016 WINTER WORKSHOP, Kyoto, October 29th, 2016.
18. 石井光, 遠藤英仁, 土屋博司, 高橋雄, 稲葉雄亮, 窪田博:術後呼吸管理に難渋した急性肺血栓塞栓症の一手術例.第172回日本胸部外科学会関東甲信越地方会,東京,2016年11月5日.
19. 吉田瑛建, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 高橋雄, 稲葉雄亮, 野田真沙衣, 窪田博:乳癌治療薬トラスツマブ投与中にmobile LV thrombusを伴う心不全を呈した1例.第172回日本胸部外科学会関東甲信越地方会,東京,2016年11月5日.
20. 石井光, 遠藤英仁, 土屋博司, 稲葉雄亮, 野田真沙衣, 窪田博:臓器虚血を伴うStanford A型急性解離に対しオープンステントグラフトを使用し救命しえた1例.第172回日本胸部外科学会関東甲信越地方会,東京,2016年11月5日.
21. Haga M, Ikezoe T, Hosoi Y, Nunokawa M, Nishino Y, Kubota H: A guidewire-like device identified in the iliac artery following endovascular stent graft repair. The 13th Tokyo Shanghai international Symposium for Vascular Surgery, Tokyo, November 11th, 2016.
22. 細井温:「あなたの血管大丈夫?」～エコノミークラス症候群を予防するために～.杉並保健所健康づくり自主グループの会,東京,2016年11月15日.
23. 野田真沙衣, 石井光, 高橋雄, 稲葉雄亮, 土屋博司, 遠藤英仁, 窪田博:心腔内びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫(DLBCL)に対し化学療法が著効した一例.日本循環器学会関東甲信越地方会,東京,2016年12月3日.
24. Kubota H: International Conference for Innovations in Cardiovascular Systems (Heart, Brain and Peripheral Vessels) and High-Tech Life Science Industry. "Infrared coagulation to treat arrhythmia". Innovation award competition, Israel, December 4th, 2016.
25. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 高橋雄, 野田真沙衣, 窪田博: CABGにおける大伏在静脈を使用したPAS-Portsystemの有効性.第30回日本冠疾患学会学術集会,三鷹,2016年12月10日.
26. 高橋雄, 野田真沙衣, 稲葉雄亮, 土屋博司, 石井光, 遠藤英仁, 窪田博:低左心機能症例(LVEF \leq 35%)に対する単独CABGの早期及び中遠隔期成績の検討.第30回日本冠疾患学会学術集会,三鷹,2016年12月10日.
27. 土屋博司, 野田真沙衣, 高橋雄, 稲葉雄亮, 石井光, 遠藤英仁, 窪田博:赤外線凝固器を用いた心房ablationの心房興奮伝達の検討.第47回日本心臓血管外科学会学術総会,東京,2017年3月1日.

論文

1. 池添亨, 布川雅雄, 細井温, 窪田博, 鈴木裕, 植木ひさよ, 杉山政則:腹腔鏡検査が治療方針決定に有用であった腸間膜静脈血栓症の1例.静脈学 27(3): 393-397, 2016.
2. 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博:正中弓状靭帯圧迫による腹腔動脈狭窄を伴う十二指腸動脈瘤破裂の1例.日本血管外科学会誌.血管外科 35(1): 63, 2016.
3. Kubota H, Endo H, Noma M: Endovascular stent graft repair of the ascending aorta-final frontier in

the endovascular treatment of the aorta. Journal of Thoracic Disease. 8(10): E1358-E1360, 2016.

4. Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Takahashi Y, Inaba Y, Nishino Y, Hirakata A, Kubota H: Observations of retinal vessels during intermittent pressureaugmented retrograde cerebral perfusion in clinical cases. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 23(2): 259-265, 2016. doi:10.1093/icvts/ivw120.
5. Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Takahashi Y, Shimoyamada H, Isomura A, Nakajima M, Hirano T, Ohkura Y, Kubota H: Pathologic Features of Lone Aortic Mobile Thrombus in the Ascending Aorta. The Society of Thoracic Surgeons. Ann Thorac Surg 102(4): e313-e315, 2016.
6. 布川雅雄:透析シャント造設法.日本血管外科学会雑誌 26(1): 13-18, 2017.
7. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Takahashi Y, Inaba Y, Noma M, Yoshimoto A, Higuchi S, Kohshoh H, Tani ai S, Ishiguro H, Yoshino H, Sudo K: Patency of Saphenous Vein Grafts Using the PAS-Port System During Coronary Artery Bypass Surgery. The Society of Thoracic Surgeons. 104: 560-567, 2017.
8. 宮国泰彦, 山田賢治, 守永広征, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 庄司高裕, 海田賢彦, 玉田尚, 宮内洋, 樽井武彦, 稲葉雄亮, 土屋博司, 窪田博, 山口芳裕:墜落外傷による左心房破裂の1救命例.日本外傷学会雑誌 31(1): 36-40, 2017.
9. Ishii H, Endo H, Kubota H: Brain infarction associate with a mobile thrombus in the aortic arch at the previous site of the ductus arteriosus. The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2017. (Published online).

著書

1. 窪田博:心臓血管外科手術後肺炎のリスク因子解析.胸部外科 Vol.69 No.9.東京,南江堂,2016. p.731-738.
2. 細井温:血栓症の予防と治療.腫瘍内科,18(5).東京,科学評論社,2016. p.473-479.
3. 窪田博:大動脈解離のステントグラフト治療.月刊カレントセラピー Vol.34 No.9.名古屋,ライフメディコム,2016. p.80-84.
4. 窪田博:連合弁膜症の治療戦略.新心臓血管外科テキスト.安達秀雄,小野稔,坂本喜三郎,志水秀行,宮田哲郎編.東京,中外医薬社,2016. p.185-191.
5. 窪田博:私の一曲 オーバルニユの歌.週刊日本医事新報 4822号.東京,日本医事新報社,2016. p.73.

その他

1. 布川雅雄:EVT治療のTechnical remarks.第44回日本血管外科学会学術総会,東京,2016年5月26日.
2. 細井温:座長,シャント作成 私のこだわり.第44回日本血管外科学会学術総会,東京,2016年5月26日.
3. 遠藤英仁:座長,ステント治療(大動脈瘤).第171回日本胸部外科学会関東甲信越地方会,東京,2016年6月11日.
4. 布川雅雄:座長,静脈疾患(基礎).第36回日本静脈学会総会,弘前,2016年6月23日.
5. 細井温:座長,静脈血栓塞栓症(予防).第36回日本静脈学会総会,弘前,2016年6月23日.
6. 窪田博:座長,A型解離1.第69回日本胸部外科学会定期学術集会,岡山,2016年9月28日.
7. 細井温:座長,末梢血管2.第24回日本血管外科学会関東甲信越地方会,東京,2016年10月8日.

8. 布川雅雄: 膠原病と血管疾患(ステロイド, 免疫抑制剤使用例の管理も含む). 第24回日本血管外科学会教育セミナー. 奈良, 2016年10月15日.
9. 石井光: 座長, 大動脈解離第. 第172回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年11月5日.
10. 窪田博: Globes English Israel business news. Eight startups to compete for cardio invention of 2016. Israel, December 4th, 2016.
11. 窪田博: 杏林医学会第24回例会開催報告. 第24回杏林医学会例会, 三鷹, 2017年2月22日.
12. 窪田博: 座長, 解離一手術時間短縮～治療法③. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会, 東京, 2017年3月1日.

整形外科学教室

講演

発表(学会, 研究会)

1. 高橋雅人, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 大柵英昭, 長谷川淳, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 里見和彦, 市村正一: 近位型頸椎症性筋萎縮症の予後予測. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉, 2016年4月14-16日.
2. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 里見和彦, 市村正一: 骨粗鬆性椎体骨折に対するBKPと後方固定術の手術成績-過度のアライメント矯正は術後新規椎体骨折を合併する. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉, 2016年4月14-16日.
3. 藤原靖, 松山幸弘, 小林祥, 伊藤全哉, 寒竹司, 山田圭, 齋藤貴徳, 川端茂徳, 木田和伸, 和田簡一郎, 安藤宗治, 山本直也, 高橋雅人, 谷俊一: 脊髄内腫瘍摘出術における麻痺の持続期間に影響を与える因子の検討. 日本脊椎脊髄病学会多施設共同前向き研究. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉, 2016年4月14-16日.
4. 伊藤全哉, 松山幸弘, 安藤宗治, 寒竹司, 小林祥, 山本直也, 和田簡一郎, 山田圭, 田所伸朗, 木田和伸, 藤原靖, 高橋雅人, 川端茂徳, 四宮謙一, 里見和彦, 谷俊一: 胸椎後縦靭帯骨化症(OPLL)手術におけるBr-MEPのアラムポイント-8年後越しの検討. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉, 2016年4月14-16日.
5. 小林祥, 松山幸弘, 川端茂徳, 安藤宗治, 寒竹司, 高橋雅人, 伊藤全哉, 藤原靖, 山田圭, 和田簡一郎, 田所伸朗, 山本直也, 谷俊一: 防ぎ得た麻痺の根絶にむけて-この10年間のJSSR術中脊髄モニタリング多施設研究成果より-. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉, 2016年4月14-16日.
6. 森井健司, 岸野智則, 嶋森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 軟部腫瘍の診断における超音波検査の有用性の検討. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
7. 正岡利紀, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 松下和彦, 森井健司, 山田浩司, 山本謙吾: 人工関節および脊椎インストゥルメンテーション術後感染の全国再調査に向けて. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
8. 高橋雅人, 長谷川淳, 大柵英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 里見和彦, 市村正一: 近位型頸椎症性筋萎縮症の静的・動的予後不良因子. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
9. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 里見和彦, 市村正一: 骨粗鬆性椎体骨折に対するBKPと後方固定術の手術成績-過度のアライメント矯正は術後新規椎体骨折を合併する-. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
10. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宝亀登, 宮坂芳郎, 森脇孝博: ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討～アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え～. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
11. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 宝亀登, 田島崇, 安部一平, 市村正一: 橈骨遠位端骨折における関節内骨折発症の患者背景因子. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
12. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇, 市村正一: 高悪性度骨・軟部腫瘍における術後化学療法開始遅延は予後不良因子である. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
13. 大柵英昭, 高橋雅人, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一, 里見和彦: 頸髄半裁ラットにおける前肢運動機能代償-神経解剖学的検証. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
14. 長谷川淳, 高橋雅人, 里見和彦, 佐野秀仁, 大柵英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸椎後縦靭帯骨化症における画像所見と電気生理学的障害高位診断. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
15. 竹内拓海, 里見和彦, 渡邊隼人, 斯波卓哉, 市村正一: 白血病と鑑別を要した腰椎術後感染の1例. 第15回京都鴨川脊椎手術研究会, 京都, 2016年6月25日.
16. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 星亨, 丸野秀人, 山口芳裕, 市村正一: 骨折を伴った外傷性コンパートメント症候群の治療成績. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016年7月1-2日.
17. 稲田成作, 丸野秀人, 大畑徹也, 市村正一: 見逃された新鮮小児モンテジア脱臼骨折の検討. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016年7月1-2日.
18. 松隈卓徳, 稲田成作, 大畑徹也, 相原大和, 安部学, 市村正一: 鎖骨遠位端骨折に対するtension band wiring法とClavicle Wiring Plateを用いた手術法の比較. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016年7月1-2日.
19. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 星亨, 稲田成作, 市村正一, 山口芳裕: 大腿骨骨幹部骨折A0分類TypeCの治療成績. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016年7月1-2日.
20. 高柳正俊, 大畑徹也, 稲田成作, 市村正一: 両大腿骨骨幹部骨折に左大腿骨頸基部骨折を伴った1例の治療経験. 第42回日本骨折治療学会, 東京, 2016年7月1-2日.
21. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇, 市村正一: 悪性骨軟部腫瘍の全身化学療法におけるpegfilgrastimの有効性の検討. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
22. 正岡利紀, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 松下和彦, 森井健司, 山田浩司, 山本謙吾: 人工関節および脊椎インストゥルメンテーション術後感染の全国調査の概要. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
23. 山田浩司, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 正岡利紀, 松下和彦, 森井健司, 山本謙吾: SSIの予防・対策のエビデンス. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
24. 松下和彦, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 正岡利紀, 森井健司, 山田浩司, 山本謙吾: SSIに対する抗菌剤投与のエビデンス. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
25. 篠崎智大, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 立岩俊之, 正岡利紀, 松下和彦, 森井健司, 山田浩司, 山本謙吾: SSIの全国疫学調査の統計学的検討. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
26. 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 悪性軟部腫瘍

- 切除における形成外科的再建術の手術部位感染発生への影響の検討. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
27. 大畑徹也, 加藤聡一郎, 稲田成作, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 蜂窩織炎として初期診断された劇症型レンサ球菌感染症4例. 第39回日本骨関節感染症学会, 岡山, 2016年7月8-9日.
 28. 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 軟部肉腫 MR像におけるtail like patternの臨床的意義. 第49回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 東京, 2016年7月14-15日.
 29. 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 肉腫治療開始時からの緩和医療介入のためのスクリーニングシステム. 第49回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 東京, 2016年7月14-15日.
 30. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇, 市村正一: 高悪性度軟部腫瘍の全身化学療法におけるPegfilgrastimの有効性の解析. 第49回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 東京, 2016年7月14-15日.
 31. 青柳貴之, 森井健司: 上腕骨骨肉腫術後仮性動脈瘤を生じた1例. 第8回信濃町骨・軟部腫瘍研究会, 東京, 2016年7月23日.
 32. 坂倉健吾, 佐々木茂: Dual row法とDAFF法による腱板修復術の比較. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016年7月28-30日.
 33. 佐藤行紀, 小谷明弘, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 佐々木茂: 膝前十字靭帯にムコイド変性を認めた2例. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016年7月28-30日.
 34. 竹内拓海, 里見和彦, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一: 白血病と鑑別を要した腰椎術後感染の1例. 5th Japan Association of Spine surgeons with Ambition, 金沢, 2016年8月6-7日.
 35. 青柳貴之, 田島崇, 森井健司: 診断に難渋した大腿部軟部腫瘍の1例. 第25回多摩骨軟部腫瘍研究会, 東京, 2016年8月27日.
 36. 長谷川雅一, 佐野秀仁, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 市村正一: BKP術後装具使用状況による検討. 第7回骨粗鬆症性椎体骨折研究会, 甲府, 2016年9月1日.
 37. 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一: 成人脊柱変形に対するOLIF(Oblique lateral interbody fusion)を用いたshort fusionの効果. 第24回腰痛学会, 甲府, 2016年9月2-3日.
 38. 佐野秀仁, 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔: 長期椎体骨折例と椎体後壁損傷例に対するBalloon Kyphoplasty(BKP)の適応. 第24回腰痛学会, 甲府, 2016年9月2-3日.
 39. 長谷川雅一, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一: 脊椎外科医からみた骨粗鬆症性骨折～骨粗鬆症性椎体骨折に対するコルセット療法の有用性～. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 40. 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 長谷川雅一, 佐藤俊輔, 大田道起, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の術中脊髄モニタリングによる麻痺回復予測. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 41. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇, 市村正一: Gemcitabine-docetaxel療法が有効であった骨平滑筋肉腫の1例. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 42. 森井健司, 岸野智則, 嵐森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 表在性軟部腫瘍の超音波診断. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 43. 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 太田道紀, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の術中脊髄モニタリングによる麻痺回復予測. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 44. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 市村正一: 骨粗鬆症の程度と大腿骨骨頭下骨折の関連性と治療選択. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 45. 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 大畑徹也, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一: 当院における外傷性胸腰椎破裂骨折に対する経皮的椎体固定術の治療成績. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 46. 高柳正俊, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 市村正一, 鈴木啓司, 小谷明弘, 佐々木茂: 深部静脈血栓症の検討. 第65回東日本整災学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
 47. 長谷川雅一, 稲永紗季, 井上功三朗, 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるデノスマブの治療経験. 第18回日本骨粗鬆症学会, 仙台, 2016年10月6-8日.
 48. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大沢英昭, 大野公宏, 長谷川雅一, 市村正一: 転移性頸椎腫瘍モデルの作製と3D μ X線CTによる腫瘍進展様式. 第31回日本整形外科基礎学会, 熊本, 2016年10月13-14日.
 49. 小西一斉, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 大森雅夫, 中島剛, 大木紫, 市村正一: ヒト間接的皮質-脊髄路興奮の長期増強は錐体路と末梢神経におけるコンパインド刺激の持続時間に依存する. 第31回日本整形外科基礎学会, 熊本, 2016年10月13-14日.
 50. 坂倉健吾, 佐々木茂, 市村正一: Double row法とDAFF法による腱板修復術の臨床成績. 第43回日本肩関節学会, 広島, 2016年10月21-22日.
 51. Suzuki K, kamimura T, kimura M, Kotani A, Ichimura S: Patial transphyseal anterior cruciate ligament reconstruction in adolescents with open physes. The 9th Congress of Asia Pacific Knee Society, Yokohama, October 27th-28th, 2016.
 52. 井上功三朗, 小寺正純, 森脇孝博, 市村正一: 当院におけるTHA術後脱臼の現状. 第43回日本股関節学会, 大阪, 2016年11月4-5日.
 53. 佐野秀仁, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 市村正一: 胸腰椎黄色靭帯骨化切除後に胸椎椎間板ヘルニアを発生した手術症例. 第51回日本脊髄障害医学会, 千葉, 2016年11月10-11日.
 54. 山田浩司, 市村正一, 山本謙吾, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 松下和彦, 森井健司, 正岡利紀: 手術部位感染 (SSI) の克服にむけてSSI予防update (術前準備, 設備, 環境). 第44回日本関節病学会, 別府, 2016年11月11-12日.
 55. 立岩俊之, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 正岡利紀, 松下和彦, 森井健司, 山田浩司, 山本謙吾: 手術部位感染 (SSI) の克服にむけて人工膝・股関節置換術および脊椎インストゥルメンテーション手術部位感染の全国再調査の概要. 第44回日本関節病学会, 別府, 2016年11月11-12日.
 56. 松下和彦, 市村正一, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 正岡利紀, 森井健司, 山田浩司, 山本謙吾: 手術部位感染 (SSI) の克服にむけてSSI予防update (術前準備, 設備, 環境). 第44回日本関節病学会, 別府, 2016年11月11-12日.
 57. 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一: 成人脊柱変形に対するOLIF (Oblique lateral interbody fusion)を用いたshort fusionの効果. 第50回日本側彎症学会, 京都, 2016年11月17-19日.
 58. 篠知広, 青柳貴之, 田島崇, 森井健司, 市村正一: 上腕骨骨肉腫切除術後に仮性動脈瘤を生じ出血性ショックをきたした1例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.

59. 陣内快史, 長谷川淳, 長谷川雅一, 市村正一: 診断に難渋した腰椎椎間板ヘルニアを伴う脊髄終糸症候群の1例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
 60. 篠知広, 青柳貴之, 田島崇, 森井健司, 市村正一: 上腕骨骨肉腫切除術後に仮性動脈瘤を生じ出血性ショックをきたした1例. 関東整形災害外科学会第683回月例会, 東京, 2016年12月17日.
 61. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇: 骨軟部腫瘍の化学療法におけるPegfilgrastimの有効性. 第9回信濃町骨・軟部腫瘍研究会, 東京, 2017年1月28日.
 62. 大畑徹也: 症例報告-股関節固定後の大腿骨転子部骨折. 第12回東日本骨軟部外傷研究会, 東京, 2017年2月4日.
 63. 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 太田道紀, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の術中脊髄モニタリングによる麻痺回復予測. 第38回脊髄機能診断研究会, 東京, 2017年2月4日.
 64. 佐藤行紀, 小谷明弘, 坂倉健吾, 片山和洋, 佐々木茂, 鈴木啓司, 市村正一: Charcot関節に対する人工膝関節置換術の治療成績. 第47回日本人工関節学会, 宜野湾, 2017年2月24-25日.
 65. 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一: 当院における M/L Taper Kinectiv Technology®を使用したTHAの短期成績. 第47回日本人工関節学会, 宜野湾, 2017年2月24-25日.
 66. 坂倉健吾, 佐々木茂, 佐藤行紀, 鈴木啓司, 小谷明弘, 富田哲也, 菅本一臣, 山崎隆治, 市村正一: Mobile bearing PS型人工膝関節の生体内動作解析. 第47回日本人工関節学会, 宜野湾, 2017年2月24-25日.
 67. 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 西野雅人: 広範囲骨欠損を伴う感染性偽関節に対するIlizarov法の治療戦略. 第30回日本創外固定・骨延長学会学術集会, 久留米, 2017年3月3-4日.
 68. 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 西野雅人: 骨欠損に対する治療法 Ilizarov法の極み. 第30回日本創外固定・骨延長学会学術集会, 久留米, 2017年3月3-4日.
 69. 加藤聡一郎, 星亨, 山岸賢一郎, 工藤文孝: 高齢者の脛骨近位部骨折に対する窓外固定器の有用性. 第30回日本創外固定・骨延長学会学術集会, 久留米, 2017年3月3-4日.
 70. 森井健司, 須佐美知郎, 小林英介: デノスマブによる骨巨細胞腫治療に関する多施設共同研究-プロトコール解析による問題点抽出の試み-. 第57回関東整形災害外科学会, 東京, 2017年3月17-18日.
 71. 日下達夫, 長谷川雅一, 市村正一: PTH週1回製剤と連日製剤の服薬アドヒアランスに関する調査. 第57回関東整形災害外科学会, 東京, 2017年3月17-18日.
 72. 稲田成作, 丸野秀人, 大畑徹也, 宝亀登, 市村正一: 橈骨遠位端骨折患者において骨粗鬆症の合併は受傷時施行する単純レントゲン線像で予測できる. 第57回関東整形災害外科学会, 東京, 2017年3月17-18日.
- 講演 (教育研修講演, 他)**
1. 市村正一: 整形外科における骨粗鬆症診療の実際. 第5回たちかわ生活習慣病フォーラム, 立川, 2016年4月7日.
 2. 市村正一: 最新の骨粗鬆症に対する薬物療法. 富士吉田医師会学術講演会, 富士吉田, 2016年6月3日.
 3. 星亨: 大腿骨近位部骨折の治療 なぜ偽関節になった!?原因と対処法. Hip Fracture Symposium 2016, 東京, 2016年6月12日.
 4. 市村正一: 日常診療における骨粗鬆症治療. 城東骨粗鬆症セミナー, 東京, 2016年6月14日.
 5. 市村正一: 実臨床における骨粗鬆症薬物治療-ビスホスホネート月1回製剤及びエルデカルシトールを中心にして-. 第4回琉球整形外科フォーラム, 南風原, 2016年6月18日.
 6. 林光俊: 運動器傷害について. 埼玉県養護教員研修会, 東京, 2016年7月25日.
 7. 星亨: 大腿骨近位部骨折の治療 なぜ偽関節になった!?原因と対処法. Hip Fracture Symposium 2016, 東京, 2016年7月10日.
 8. 森井健司: 骨軟部腫瘍の外来診療-症例に学ぶ病診連携-. 鹿嶋整形外科医会, 鹿嶋, 2016年7月27日.
 9. 市村正一: 多様化する骨粗鬆症薬物療法の実際. Osteoporosis Expert Forum in 浜松, 浜松, 2016年8月18日.
 10. 長谷川雅一: ~健康長寿へ向けて~ロコモティブシンドロームと骨粗鬆症対策. 三鷹市健康長寿講演会, 三鷹, 2016年9月10日.
 11. 市村正一: 日常診療における骨粗鬆症薬物療法-Iバンドロネートを中心にして-. 「ロコモ」予防と治療を考える会, つくば, 2016年9月15日.
 12. 林光俊: テニスによるスポーツ傷害と予防法-全日本医師会テニス大会のアンケート調査を主として-. 日本医師会テニス協会予防医学研究会, 昭島, 2016年9月18日.
 13. 市村正一: 日常診療における骨粗鬆症治療. 鎌倉市内科医会学術講演会, 鎌倉, 2016年10月4日.
 14. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるビスホスホネート静注製剤の有用性. 第18回日本骨粗鬆症学会, 仙台, 2016年10月8日.
 15. 星亨: 大腿骨遠位端, 脛骨近位端骨折 創外固定法. 日本骨折治療学会研修会第8回アドバンスコース, 神戸, 2016年10月10日.
 16. 市村正一: 脊椎・脊髄性の慢性疼痛に対する薬物療法. Chronic Pain Forum in Yamanashi, 甲府, 2016年10月19日.
 17. 市村正一: 脊椎疾患におけるテリパラチドの有用性-最新の知見とその課題-. 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 長崎, 2016年10月28日.
 18. 市村正一: 脊椎疾患におけるテリパラチドの臨床応用. 第50回日本側彎症学会, 京都, 2016年11月18日.
 19. 長谷川雅一: 骨粗鬆症性骨折について~予防, 診断, 治療~. 杏林医学会市民公開講座, 三鷹, 2016年11月19日.
 20. 星亨: 大腿骨転子部骨折の注意すべき骨折とその整復手技. 第64回JABO研修会, 大阪, 2016年11月20日.
 21. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるデノスマブの有用性. KYO会, 甲府, 2016年11月24日.
 22. 市村正一: デュロキセチンの脊椎疾患における有用性. Face to Face Seminar in Tama, 東京, 2016年11月26日.
 23. 市村正一: デュロキセチンの脊椎疾患における有用性. 多摩地区慢性疼痛セミナー, 立川, 2016年12月1日.
 24. 市村正一: 脆弱性椎体骨折の予防と治療. 第5回ATA脊椎疾患秒針連携研究会, 東京, 2016年12月2日.
 25. 長谷川雅一: 学校健診における運動器検診の役割. 東村山市学校保健会全体研修会, 東村山, 2016年12月3日.
 26. 長谷川雅一: ~健康長寿へ向けて~ロコモティブシンドロームと骨粗鬆症対策. 三鷹市老人会, 三鷹, 2016年12月10日.
 27. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の実際と今後の課題. 第154回小県医師会学術講演会, 上田, 2017年2月21日.
 28. 市村正一: 実臨床に学ぶ骨粗鬆症薬物療法. 第82回柏市整形外科医会学術講演会, 柏, 2017年2月24日.
 29. 長谷川雅一: 骨粗鬆症・椎体骨折に起因する腰痛へのアプローチ~保存療法による腰痛へのアプローチ~薬物療法の選択と開始のタイミング. 第28回腰痛シンポジウム, 東京, 2017年3月4日.

論文

1. 市村正一：骨代謝マーカー(解説)．腫瘍内科 18(4)：377-382, 2016.
2. Ito Z¹, Matsuyama Y¹, Ando M¹, Kawabata S¹, Kanchiku T¹, Kida K¹, Fujiwara Y¹, Yamada K¹, Yamamoto N¹, Kobayashi S¹, Saito T¹, Wada K¹, Satomi K, Shinomiya K¹, Tani T¹(¹Spinal cord Monitoring Committee of JSSR): What is the best multimodality combination for intraoperative spinal cord monitoring of motor function? A multicenter study by the Monitoring Committee of Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Global Spine J* 3(6):234-241, 2016.
3. Kemmochi M, Sasaki S, Fujisaki K, Oguri Y, Kotani A, Ichimura S: A new classification of anterior talofibular ligament injuries based on ultrasonography findings. *J Orthop Sci.* 21(6):770-778, 2016.
4. 山田圭¹, 松山幸弘¹, 小林祥¹, 長濱賢¹, 和田簡一郎¹, 田所伸朗¹, 村本明生¹, 寒竹司¹, 岩崎博¹, 関根二¹, 平尾雄二郎¹, 溝田敦子¹, 安藤宗治¹, 山本直也¹, 角谷智¹, 大田亮¹, 伊藤全哉¹, 藤原靖¹, 木田和伸¹, 高橋雅人, 川端茂徳¹, 齋藤貴徳¹, 谷俊一¹, 里見和彦, 四宮謙一¹ (¹日本脊椎脊髄病学会モニタリングワーキンググループ): 脊柱変形の病態別に見た脊椎矯正手術におけるアラームポイントの検討 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ多施設前向き研究. *J Spine Res* 7:901-907, 2016.
5. 小林祥¹, 松山幸弘¹, 川端茂徳¹, 安藤宗治¹, 寒竹司¹, 高橋雅人, 伊藤全哉¹, 藤原靖¹, 田所伸朗¹, 和田簡一郎¹, 山田圭¹, 山本直也¹, 木田和伸¹, 谷俊一¹ (¹日本脊椎脊髄病学会モニタリングワーキンググループ): ハイリスク脊椎手術における術中脊髄モニタリング 脊椎脊髄病学会モニタリング委員会によるBr(E)-MsEP多施設研究. *J Spine Res* 7:897-900, 2016.
6. 小林祥¹, 松山幸弘¹, 川端茂徳¹, 安藤宗治¹, 寒竹司¹, 高橋雅人, 伊藤全哉¹, 藤原靖¹, 田所伸朗¹, 和田簡一郎¹, 山田圭¹, 山本直也¹, 谷俊一¹ (¹日本脊椎脊髄病学会モニタリングワーキンググループ): 日本脊椎脊髄病学会術中脊髄モニタリングワーキンググループの過去8年にわたる多施設研究成果. *臨神生* 44(3):116-119, 2016.
7. 小林祥¹, 松山幸弘¹, 川端茂徳¹, 安藤宗治¹, 寒竹司¹, 高橋雅人, 伊藤全哉¹, 藤原靖¹, 田所伸朗¹, 和田簡一郎¹, 山田圭¹, 山本直也¹, 木田和伸¹, 谷俊一¹ (¹日本脊椎脊髄病学会モニタリングワーキンググループ): 高リスク脊椎手術におけるBr(E)-MsEP解析 脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による多施設研究. *脊髄機能診断* 36:172-176, 2016.
8. 藤原靖¹, 松山幸弘¹, 小林祥¹, 伊藤全哉¹, 山田圭¹, 齋藤貴徳¹, 川端茂徳¹, 木田和伸¹, 寒竹司¹, 和田簡一郎¹, 安藤宗治¹, 山本直也¹, 高橋雅人, 四宮謙一¹, 里見和彦, 谷俊一¹ (¹日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ): 経頭蓋刺激筋誘発電位術中脊髄モニタリングを用いた脊髄内腫瘍摘出術の手術戦略 日本脊椎脊髄病学会多施設共同前向き研究. *脊髄機能診断* 36:164-171, 2016.
9. Ito Z¹, Matsuyama Y¹, Ando M¹, Kawabata S¹, Kanchiku T¹, Kida K¹, Fujiwara Y¹, Yamada K¹, Yamamoto N¹, Kobayashi S¹, Saito T¹, Wada K¹, Tadokoro N¹, Takahashi M, Satomi K, Shinomiya K¹, Tani T¹(¹Spinal cord Monitoring Committee of JSSR): Postoperative Paralysis From Thoracic Ossification of Posterior Longitudinal Ligament Surgery Risk Factor of Neurologic Injury: Nationwide Multiinstitution Survey. *Spine* 41(19):E1159-E1163, 2016.
10. Fujiwara Y¹, Matsuyama Y¹, Kobayashi S¹, Ito Z¹, Saito T¹, Kawabata S¹, Kanchiku T¹, Kida K¹, Yamada K¹, Wada K¹, Takahashi M, Yamamoto N¹, Ando M¹, Shinomiya K¹, Satomi K, Tani T¹ (¹Spinal cord Monitoring Committee of JSSR): Two stage alarm strategy for intramedullary spinal cord tumors on the transcranial electrically stimulated muscle evoked potential monitoring; The JSSR prospective multi-center study. *J Spine Research* 7(9):1343-1351, 2016.
11. 大畑徹也, 稲田成作, 丸野秀人, 市村正一, 山口芳裕, 星亨: 当院における寛骨臼骨折の治療成績. *骨折* 38(2):336-340, 2016.
12. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 山口芳裕, 稲田成作, 市村正一, 星亨: 大腿骨骨幹部骨折に同側の外傷性股関節脱臼を合併した1例. *骨折* 38(2):388-391, 2016.
13. 大畑徹也, 星亨, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 骨盤輪骨折を伴う多発外傷における血清乳酸値の検討と有用性. *別冊整形外* 70:35-40, 2016.
14. 佐野秀仁, 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 里見和彦: 胸腰椎移行部での骨粗鬆症性椎体圧迫骨折に対する後側方固定術の臨床成績. *J Spine Res* 7(6):1034-1042, 2016.
15. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一: ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討～アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え～. *日本骨粗鬆症会誌* 2:180-183, 2016.
16. 坂倉健吾, 佐々木茂, 市村正一: Mini-open直視下腱板修復術と鏡視下腱板修復術の比較. *肩関節* 40(3):976-978, 2016.
17. 稲田成作, 丸野秀人, 大畑徹也, 市村正一: 小児Monteggia骨折に橈尺骨遠位骨端線損傷を合併した1例. *骨折* 38(4):878-880, 2016.
18. 青柳貴之, 森井健司, 市村正一: 乳児の中手骨に発生したランゲルハンス組織球症の1例. *東日本整災会誌* 28:449-453, 2016.
19. 竹内拓海, 河野仁, 片岡嗣和, 中道清広, 橘安津子, 市村正一: 頸椎前方固定術後血腫を繰り返した1例. *日脊髄障害医会誌* 29(1):88-89, 2016.
20. 藤井肇, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一: 発症時片麻痺を呈したBrown-Sequard typeの急性頸椎硬膜外血腫の1例. *日脊髄障害医会誌* 29(1):144-146, 2016.
21. 松隈卓徳, 大畑徹也, 稲田成作, 市村正一, 丸野秀人, 山口芳裕: 距骨骨折に同側の踵骨骨折を伴った3例. *骨折* 38(4):1006-1010, 2016.
22. 高柳正俊, 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎: 非転位型大腿骨頸部骨折におけるハンソンピンの治療成績. *骨折* 38(3):633-637, 2016.
23. 稲永紗季, 森井健司, 丸野秀人, 本谷啓太, 平野和彦, 市村正一: 手根骨に発生した骨巨細胞腫の1例. *整形外科* 67(7):633-637, 2016.
24. 川野洋介, 青柳貴之, 吉山晶, 田島崇, 森井健司, 市村正一: 類骨骨腫の切除における3DCTの応用. *関東整災誌* 47(4): 228-233, 2016.
25. 大畑徹也: 整形外科領域における感染対策 軟部組織感染症. *臨と微生物* 44(2):57-63, 2017.
26. 市村正一: 整形外科学領域における感染症「骨・関節術後感染予防ガイドライン2015」の概要. *臨と微生物* 44(2):107-109, 2017.
27. 林光俊: アキレス腱断裂の保存療法-MRI, カラードブプラ, エラストグラフィを用いた経時的経過を主として-. *関節外科* 36(1):52-59, 2017.

28. 小林幸一郎, 佐々木茂, 久保寺司, 白倉裕也, 向山耕太, 荻原千尋, 代永紗妃, 前嶋哲男, 相川大介, 諸井威彦: 当院における地域スポーツ活動への関わりー高校柔道部をモデルとしてー. 山梨医 44:47-52, 2017.
29. 大森雅夫, 渋谷賢, 佐野秀仁, 中島剛, 鈴木伸弥, 入江駿, 大木紫, 遠藤隆志, 五十嵐一峰, 市村正一: 頸髄症患者における巧緻運動機能の客観的評価法の開発. 脊髄機能診断 37(1):43-48, 2017.
30. 長谷川淳, 高橋雅人, 里見和彦, 佐野秀仁, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 術中脊髄モニタリングが有用と思われた頸椎後縦靭帯骨化症の1例. 脊髄機能診断 37(1):90-93, 2017.
31. 西野雅人, 森脇孝博, 五十嵐一峰, 市村正一: 大腿骨転子部骨折後に大腿骨外側部の仮性動脈瘤を合併した1例. 関東整災誌 48(1):25-29, 2017.

著書

1. 森井健司: 骨・軟部腫瘍および腫瘍類似疾患 脊索腫. 今日の整形外科治療指針 第7版. 土屋弘行, 紺野慎一, 田中康仁, 田中栄, 松田秀一編. 東京, 医学書院, 2016. p. 215.

報告書

1. 森井健司: 厚生労働科学研究委託費 革新的がん医療実用化研究事業 高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究. 平成27年度 委託業務成果報告書.

その他

1. 市村正一: 腰部脊柱管狭窄症. 月刊ことぶき6月号, 寿出版株式会社, 2016, p. 52-54.
2. 市村正一: カルシウム摂取量と骨折リスク: 系統的レビュー. MMJ 13(1):28-29, 2017.

皮膚科学教室

講演

1. 大医学: 症例から学ぶ難治性脱毛症治療の考え方. 第32回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 岡山, 2016年4月23日.
2. 川野貴代, 佐藤洋平, 加藤峰幸, 早川順, 大医学: ニボルマブからベムラフェニブに変更し皮疹出現後も継続投与可能であった悪性黒色腫の1例. 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 鹿児島, 2016年5月27日.
3. 福山雅大, 向井美穂, 稲積豊子: 左上下肢に生じた好酸球性筋膜炎の1例. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016年6月3日.
4. 佐藤洋平, 早川順, 大医学: ニボルマブ投与により甲状腺機能異常を来した悪性黒色腫の2例. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016年6月3-5日.
5. 加藤峰幸: ウイルス・薬剤による紅皮症. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016年6月3-5日.
6. 橋本亜理沙, 早川順, 水川良子, 大医学: 40代男性に発症した抗CADM抗体陽性の皮膚筋炎2例. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016年6月3-5日.
7. 大医学: 男性型脱毛症revisit-病態・診断・治療を改めて考える-. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016年6月5日.
8. 下田由莉江: 発汗障害から考えるアトピー性皮膚炎の病態とその対策. 第115回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016年6月5日.
9. Ohyama M: Current strategy of using stem/progenitor cells for the treatment of hair diseases. 18th Hamchun Dermatology Symposium, Korea, June 11th, 2016.
10. 福山雅大, 佐藤洋平, 早川順, 大医学: 頭部の紅色皮膚

- 腫瘍. 第32回二本皮膚病理組織学会, 東京, 2016年6月18日.
11. 新田桐子, 下田由莉江, 早川順, 大医学, 小林誠, 高山信之: 当初, 蜂窩織炎を考えた後天性血友病の1例. 日本皮膚科学会第866回東京地方会, 東京, 2016年6月18日.
12. 木下(伊勢)美咲, 久保亮治, 佐々木貴史, 梅垣知子, 天谷雅行, 大医学: 画像解析を用いたLIPH c.736T>A変異による常染色体劣性縮毛症・乏毛症の臨床的重症度に寄与する因子の同定. 第43回皮膚かたち研究学会, 東京, 2016年6月19日.
13. 大医学: 小児の脱毛症診療のポイントー円形脱毛症を中心にー. 第40回日本小児皮膚科学会, 広島, 2016年7月3日.
14. 福山雅大, 向井美穂, 稲積豊子: 呼吸不全により急速な転帰を辿った腫瘍関連血管炎の1例. 日本皮膚科学会第867回東京支部合同臨床地方会, 東京, 2016年7月9日.
15. 大医学: データから考えるビマトプロストの作用機序と睫毛貧毛症への応用. 第34回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 東京, 2016年8月7日.
16. Ohyama M: Current strategy for the management of hair loss diseases in Japan. Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016, Australia, August 25th-28th, 2016.
17. Sato Y, Hayakawa J, Ohyama M: Time course observation of thyroid-associated autoantibody and hormone profiles on patients receiving nivolumab for metastatic melanoma. Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016, Australia, August 25th-28th, 2016.
18. 下田由莉江, 佐藤洋平, 吉池沙保里, 磯村杏耶, 下山田博明, 早川順, 大医学: 有茎性腫瘍を呈した肛門乳房外Paget病の1例. 日本皮膚科学会第868回東京地方会, 東京, 2016年9月10日.
19. 川北梨乃, 水川良子, 内田理美, 新田桐子, 大医学: 皮膚コレステリン肉芽腫の1例. 日本皮膚科学会第868回東京地方会, 東京, 2016年9月10日.
20. 新田桐子, 水川良子, 松岡弘芳, 大医学: Leucocytoclastic vasculitisを認めた悪性腫瘍随伴皮膚筋炎の1例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 浜松, 2016年10月30日.
21. 加藤峰幸, 新田桐子, 狩野葉子, 山田昌和, 大医学: 偽膜形成の眼症状からステイブンス・ジョンソン症候群を考えた塩酸フェニレフリン点眼剤による接触皮膚炎の一例. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京, 2016年11月5日.
22. Sato Y, Takahashi R, Hayakawa J, Ohyama M: Attempt to identify predictors for outcomes of intravenous corticosteroid pulse therapy for rapidly progressive alopecia areata. The 4th Eastern Asia Dermatology Congress, Urayasu, November 16th-18th, 2016.
23. 福井香苗, 下田由莉江, 佐藤洋平, 早川順, 大医学: Eccrine spiradenomaの2例ー免疫組織化学的考察を加えて. 第869回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2016年11月19日.
24. 村松有亜, 加藤峰幸, 佐藤洋平, 大医学: アナフィラキシーショックで発症し複数の食物アレルギーをもつ口腔アレルギー症候群の1例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
25. 菅野秀美, 佐藤洋平, 早川順, 大医学: 寛解中にBowen病を発症し腫瘍周囲のみに水疱の再発をみた水疱性類天疱瘡の1例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.

26. 吉池沙保里, 福山雅大, 長内喜代乃, 大森嘉彦, 大工学: Sertoli-Leydig細胞腫の摘出により症状の改善をみた女性型脱毛症の1例. 第24回毛髪科学研究会, 北九州, 2016年12月3日.
27. 佐藤洋平, 吉池沙保里, 福山雅大, 木下美咲, 大工学: 重症広汎性円形脱毛症に対する点滴静注ステロイドパルス療法が患者の全身状態に与える影響について. 第24回毛髪科学研究会, 北九州, 2016年12月3日.
28. Sato Y, Takahashi R, Kimishima M, Yamasaki Y, Shiohara T, Ohyama M: Search for early predictive factors for recovery from rapidlu-progressive alopecia areata after intravenous corticosteroid pulse therapy. The 41st Annual meeting of the Japanese society for investigative dermatology, Sendai, December 11th, 2016.
29. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohyama M: Impact of therapeutic PD-1 blickade on T cell profile in advanced malignant meranoma: a possible link between PD-1+CD4+ cell and prognosis. The 41st Annual meeting of the Japanese society for investigative dermatology, Sendai, December 11th, 2016.
30. 水川良子: 日常診療でよくみる蕁疹. 第3回総合アレルギー講習会, 横浜, 2016年12月17日.
31. 菅野秀美, 佐藤洋平, 早川順, 大工学: 寛解中にSCCが生じ腫瘍周囲のみに再燃した水疱性類天疱瘡の1例. 第870回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2016年12月17日.
32. 村松有亜, 福山雅大, 早川順, 千葉知宏, 大工学: 局所再発を繰り返した神経内分泌化を伴う外陰部皮膚粘膜癌の1例. 第871回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2017年1月21日.
33. 大工学: 脱毛症治療の考え方 病態を考慮したアプローチの最適化を目指して. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 横浜, 2017年2月11日.
34. 下田由莉江, 福井香苗, 早川順, 大工学: 切除後再発を繰り返し顔面肉芽腫と考えた1例. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 横浜, 2017年2月11日.
35. 木下美咲, 塚島明希, 木下智成, 山崎好美, 大工学: ヒト線維芽細胞におけるWNTシグナル活性化時のFGF発現プロファイルの変化とその毛包再生促進効果の検討. 第16回日本再生医療学会総会, 仙台, 2017年3月9日.
36. 吉池沙保里, 福山雅大, 長内喜代乃, 大森嘉彦, 大工学: 男性ホルモン産生腫瘍により生じた女性型脱毛症の1例. 第279回日本皮膚科学会東海地方会, 津, 2017年3月11日.
37. Kato M, Kano Y, Shiohara T, Ohyama M: The mortality rate of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis increases in dialysis patients. The 27th Annual Meeting of the Korean Society for Investigative Dermatology, Korea, March 25th, 2017.
38. Ohyama M, Tsukashima A, Kimishima M, Yamazaki Y, Okano H: Attempt to establish a hair follicle co-culture model using feeder-free human iPS cells. The 27th Annual Meeting of the Korean Society for Investigative Dermatology, Korea, March 25th, 2017.
- 論 文**
1. 水川良子: 蕁疹という“地雷”. *Visual Dermatol* 15(4): 385-389, 2016.
2. 水川良子: CMV, HHV-6, HHV-7感染症のすべて. *Derma*. 242: 32-38, 2016.
3. 角田梨沙¹, 大工学, 池田政身², 加藤りか², 戸田郁子³, 坪田一男¹, 久保亮治¹ (¹慶應大学, ²高松赤十字病院, ³南青山アイクリニック): KID症候群の1例 感染コントロールの重要性. *臨皮* 70(4): 347-352, 2016.
4. 吉池沙保里, 佐藤洋平, 早川順, 大工学: 画像所見から石灰化上皮腫も疑われた巨大皮膚線維腫. *皮膚診療* 38: 383-386, 2016.
5. 大工学: 男性型脱毛症の新しい治療. *臨皮* 70(5): 100-103, 2016.
6. Iwabuchi T¹, Ideta T¹, Ehama R¹, Yamanishi H¹, Iino M¹, Nakazawa Y¹, Kobayashi T², Ohyama M, Kishimoto J¹ (¹Shiseido Research Center, ²Teikyo University): Topical adenosine increases the proportion of thick hair on Caucasian men with androgenetic alopecia. *J Dermatol* 43: 567-70, 2016.
7. Mizukawa Y, Doi T, Yamazaki Y, Kudo A¹, Shiohara T (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine): Epidermal neuromedin U attenuates IgE-mediated allergic skin inflammation. *PLoS One* 11: e0160122, 2016.
8. 福山雅大, 早川順, 五味方樹, 大工学: MRSA感染を合併し特異な臨床像を呈した落葉状天疱瘡の1例. *臨皮* 70(8): 579-584, 2016.
9. 水川良子, 塩入瑞江, 青山裕美¹ (¹川崎医科大学): 重症蕁疹のバイオマーカーとしてのサイトカイン, ケモカイン. *Derma*. 247: 51-56, 2016.
10. Shiohara T, Sato Y, Komatsu Y, Ushigome Y, Mizukawa Y: Sweat as an efficient natural moisturizer. *Curr Probl Dermatol* 51: 30-41, 2016.
11. 塩原哲夫, 狩野葉子, 水川良子, ほか: 重症多形滲出性紅斑 ステイブンス・ジョンソン症候群・中毒性表皮壊死症診療ガイドライン. *日皮会誌* 126(9):1637-1685, 2016.
12. Kato M, Kano Y, Sato Y, Shiohara T: Severe agranulocytosis in two patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms. *Acta Derm Venereol* 96: 842-843, 2016.
13. 狩野葉子, 平原和久: 重症蕁疹の予後. *Derma*. 247: 63-69, 2016.
14. 川野貴代, 堀江千穂, 早川順, 水川良子, 狩野葉子, 塩原哲夫: mycoplasma fermentansが関与したと考えられる急性陰門潰瘍. *臨皮* 70(9): 721-724, 2016.
15. Tanese K¹, Funakoshi T¹, Yasuda F¹, Ohi Y¹, Fukuyama M², Arakawa H¹, Ekmekecioglu S³, Saito M¹ (¹Keio University, ²Kyousai Tachikawa Hospital, ³The University of Texas MD Anderson Cancer Center): Case of squamous cell carcinoma showing delayed metastasis and histologically exhibiting alterations of the surrounding immune cell populations along with the tumor invasion: Expression of monocyte chemotactic protein-1 in deeply invaded tumor cells and interleukin-6 in surrounding histiocytes. *J Dermatol* 44: 346, 2017.
16. 大工学: これが毛の正常構造だ!. *Visual Dermatol* 15(11): 1136-1137, 2016.
17. 大工学: これが円形脱毛症の組織像だ!. *Visual Dermatol* 15(11): 1138-1139, 2016.
18. 向井美穂¹, 福山雅大, 稲積豊子¹, 平田俊吉² (¹国家公務員共済組合連合会立川病院, ²平田循環器内科): 後天性穿孔性皮膚症を合併した結節型類天疱瘡. *皮膚診療* 38: 1015-1018, 2016.
19. Takehara A¹, Aoyama Y^{2,3}, Kurosawa M⁴, Shirafuji Y¹, Umemura H¹, Kamiya K⁵, Ushigome Y, Kano Y, Shiohara T, Iwatsuki K¹ (¹Okayama University, ²Kawasaki Medical School, ³Kawasaki Hospital,

- ⁴Juntendo University, ⁵Hamamatsu University): Longitudinal analysis of antibody profiles against plakins in severe drug eruptions: Emphasis on correlation with tissue damage in DiHS/DRESS. *Br J Dermatol* 175: 944-952, 2016.
20. Mitomo T, Ushigome Y, Fukuda T, Kano Y, Shiohara T: Two cases of Chromomycosis identified by molecular phylogenetic analysis. *Med Mycol J* 57:J133-J139, 2016.
21. 吉池沙保里, 加藤峰幸, 大山路: 偽リンパ腫様の外観を呈した皮膚線維腫の1例. *皮膚臨床* 58(12):1877-1880, 2016.
22. Ouchi T¹, Morikawa S¹, Shibata S¹, Fukuda K², Okuno H¹, Fujimura T¹, Kuroda T¹, Ohyama M, Akamatsu W¹, Nakagawa T¹, Okano H¹ (¹Keio University, ²Tokyo Metropolitan University): LNGFR+THY-1+ human pluripotent stem cell-derived neural crest-like cells have the potential to develop into mesenchymal stem cells. *Differentiation* 92:270-280, 2016.
23. 水川良子, 狩野葉子: 口唇に生じる固定薬疹. *Derma.* 251: 22-28, 2016.
24. Kinoshita-Ise M, Kubo A¹, Sasaki T¹, Umegaki-Arao N¹, Amagai M¹, Ohyama M (¹Keio University): Identification of factors contributing to phenotypic divergence via quantitative image analyses of autosomal recessive woolly hair/hypotrichosis with homozygous c.736Tgreaterthan A LIPH mutation. *Br J Dermatol* 176:138-144, 2017.
25. Doi T, Mizukawa Y, Shimoda Y, Shiohara T: Importance of water content of the stratum corneum in mouse models for contact hypersensitivity. *J Invest Dermatol* 137: 151-158, 2017.
26. 佐藤洋平, 大山路: おとなの急速進行型円形脱毛症に対するステロイドパルス療法の実際. *Derma.* 252:37-43, 2017.
27. 吉池沙保里, 大山路: おとなが悩む睫毛貧毛症の基礎知識とその治療. *Derma.* 252: 58-64, 2017.
28. Veraitch O¹, Mabuchi Y^{2,3}, Matsuzaki Y^{2,3}, Sasaki T¹, Okuno H¹, Tsukashima A, Amagai M¹, Okano H¹, Ohyama M (¹Keio University, ²Tokyo Medical and Dental University, ³Shimane University): Induction of hair follicle dermal papilla cell properties in human induced pluripotent stem cell-derived multipotent LNGFR(+)/THY-1(+) mesenchymal cells. *Sci Rep* 7: 42777, 2017.
29. Shiohara T, Kano Y: Drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS): incidence, pathogenesis and management. *Expert Opin Drug Saf* 16: 139-147, 2017.
30. Fukuyama M, Sato Y, Hayama J, Ohyama M: Cutaneous metaplastic synovial cyst: case report and literature review from the dermatological point of view. *Keio J Med* 66: 9-13, 2017.
31. Andoh-Noda T¹, Akamatsu W¹, Miyake K¹, Kobayashi T¹, Ohyama M, Kurosawa H¹, Kubota T¹, Okano H¹ (¹Keio University): Differential X Chromosome Inactivation Patterns during the Propagation of Human Induced Pluripotent Stem Cells. *Keio J Med.* 66: 1-8, 2017.
32. Nakatsuji H¹, Araki A^{1,2}, Hashizume A¹, Hijikata Y¹, Yamada S¹, Inagaki T¹, Suzuki K^{1,3}, Banno H¹, Suga N^{1,4}, Okada Y^{5,6}, Ohyama M, Nakagawa T⁷, Kishida K^{8,9}, Funahashi T⁸, Shimomura I⁸, Okano H⁶, Katsuno M¹, Sobue G¹ (¹Nagoya University, ²Kasugai Municipal Hospital, ³National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁴Sarashina Rehabilitation Clinic, ⁵Aichi Medical University, ⁶Keio University, ⁷Hitachi Health Care Center, ⁸Osaka University, ⁹Kishida Clinic): Correlation of insulin resistance and motor function in the spinal and bulbar muscular atrophy. *J Neurol* 264: 839-847, 2017.
33. 狩野葉子, 水川良子: 薬剤性過敏症候群における肺炎-ニューモシスチス肺炎を中心に-. *日皮会誌* 127:463-468, 2017.
34. Okuno H¹, Nakabayashi K², Abe K², Ando T¹, Sanosaka T¹, Kohyama J¹, Akamatsu W³, Ohyama M, Takahashi T¹, Kosaki K¹, Okano H¹ (¹Keio University, ²National Research Institute for Child Health and Development, ³Juntendo University): Changeability of the fully methylated status of the 15q11.2 region in induced pluripotent stem cells derived from a patient with Prader-Willi syndrome. *Congenit Anom (Kyoto)*: 2017. (in press).

著書

- 水川良子: 重症薬疹としての固定薬疹. 薬疹の診断と治療アップデート-重症薬疹を中心に-. 塩原哲夫編. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2016. p.91-97.
- Ohyama M, Nagao K: Hair follicle. Component of skin immune cells. *Immunology of the skin.* Kabashima K ed. Tokyo, Springer, 2016. p.203-211.
- 大山路: 脱毛症. マイスターから学ぶ 皮膚科治療薬の服薬指導術. 大谷道輝, 宮地良樹編. 大阪, メディカルレビュー社, 2016. p.338-341.

その他

- 水川良子: 皮膚科救急現場から~入院か外来か? ステロイドを使うか, 使わないでこらえるか?. マルホ皮膚科セミナー 241: 25-29, 2016.
- Ohyama M: The eyelash comes to the fore. *Br J Dermatol* 174(4): 710-711, 2016.
- 大山路: 病態から考える円形脱毛症の治療. 第30回東邦大学皮膚科同門会総会・学術講演会, 東京, 2016年5月21日.
- 下田由莉江: 毛孔性紅色糠疹? の経過中に水疱性類天疱瘡を合併した1例. 多摩皮膚科専門医会6月例会, 武蔵野, 2016年6月11日.
- Ohyama M: Hirsutism management needs to be more patient oriented. *Br J Dermatol* 175: 12, 2016.
- 大山路: 外科・整形外科医のための皮膚科最新情報-杏林大学での取り組みも含めて-. 三鷹外科・整形外科医療連携ゼミナール, 東京, 2016年7月6日.
- 大山路: 知っておきたい皮膚科最新情報-杏林大学の取り組みも含めて-. 調布市医師会学術講演会, 東京, 2016年7月12日.
- 佐藤洋平: IPL脱毛後の発汗障害と皮膚疾患. 第3回汗と皮膚疾患の研究会, 東京, 2016年7月30日.
- 佐藤洋平: 杏林大学における皮膚悪性腫瘍治療. 多摩皮膚悪性腫瘍病診連携セミナー, 東京, 2016年9月14日.
- 大山路: 円形脱毛症-治療の一工夫. 第17回皮膚科合同カンファレンス, 東京, 2016年9月17日.
- 早川順: うっかりではすまないフッ化水素熱傷. 第17回皮膚科合同カンファレンス, 東京, 2016年9月17日.
- 新田桐子: 治りにくい蕁麻疹の治療. 第17回皮膚科合同カンファレンス, 東京, 2016年9月17日.
- 佐藤洋平: 悪性黒色腫-最新の治療-. 第17回皮膚科合同カンファレンス, 東京, 2016年9月17日.

14. 大山大:耳鼻咽喉科医師のための皮膚科最新情報 -杏林大学での取り組みも含めて-.第26回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス・講習会,東京,2016年10月1日.
15. 新田桐子:乾癬に合併した水疱症の1例.多摩皮膚科専門医会10月例会,武蔵野,2016年10月8日.
16. 吉池沙保里:鉍石を用いた乾癬治療による接触皮膚炎が疑われた1例.多摩皮膚科専門医会10月例会,武蔵野,2016年10月8日.
17. 大山大:病態を考えた脱毛症治療の実際.七地区皮膚科医会合同学術集会,東京,2016年10月22日.
18. 大山大:皮膚科情報アップデート -杏林大学の取り組みも含めて-.武蔵野市医師会学術講演会,東京,2016年10月26日.
19. 加藤峰幸:接触皮膚炎の診断におけるパッチテストの有用性.第134回デルマ会,東京,2016年10月30日.
20. 水川良子:薬疹 Up to Date 第5回葛南部皮膚疾患勉強会,千葉,2016年11月2日.
21. 大山大:脱毛症治療update.2016 Hot Topics in Dermatology,大阪,2016年11月11日.
22. 大山大:どこまで治せる?新しい脱毛症治療.文部科学省 地(知)の拠点「健康寿命延伸」講座,三鷹,2016年11月12日.
23. 大山大:脱毛症update.第12回ウインターセミナー,東京,2016年11月24日.
24. 大山大:杏林大学皮膚科の取り組み-特に脱毛症,アトピー性皮膚炎,皮膚感染症を中心に-.三鷹市医師会学術講演会,東京,2016年12月1日.
25. 大山大:脱毛症治療の新知見-杏林大学での取り組みを含めて-.第4回春景会(横浜市大皮膚科同門会)学術講演会,東京,2017年1月7日.
26. 大山大:脱毛症と再生医療.平成28年度日本皮膚科学会研修講習会 必須Bコース,東京,2017年1月8日.
27. 水川良子:保湿剤が効く様々な皮膚疾患 マルホスキンケアセミナー,東京,2017年1月28日.
28. 水川良子:乾癬治療の最前線 -IL-17阻害薬治療経験をふまえて-,東京,2017年2月8日.
29. 大山大:病態に基づく脱毛症治療のストラテジー.西宮市・芦屋市・尼崎市・伊丹市・宝塚市医師会皮膚科医会,学術講演会,西宮,2017年2月28日.
30. 佐藤洋平:1mmグラフトが有効だった白斑の1例.多摩皮膚科専門医会3月例会,武蔵野,2017年3月4日.
31. 福山雅大:Vogt-小柳-原田病に伴う脱毛について -実際の症例の治療経験に基づく考察-.多摩皮膚科専門医会3月例会,武蔵野,2017年3月4日.
4. 安倍吉郎,柏木圭介,峯田一秀,山下雄太郎,橋本一郎:Malar flapを用いた下眼瞼再建症例の検討 ~術後外反と下垂はなぜ起こるのか~.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13-15日.
5. 橋本一郎,安倍吉郎,柏木圭介,峯田一秀,山下雄太郎.神経障害を主原因とする糖尿病足潰瘍の治療法:遊離組織移植術を中心に.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13-15日.
6. 白石知大,菅浩隆,多久嶋亮彦,波利井清紀:乳房正面に瘢痕を残さない乳房固定術(Breast Lift via inferolateral incision).第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13-15日.
7. 白石知大,菅浩隆,多久嶋亮彦,波利井清紀:なぜ思い通りに再建できないのか?-skin envelopeとcontentの関係.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13-15日.
8. 岩科裕己,尾崎峰,井原玲,栗田昌和,多久嶋亮彦,波利井清紀:動静脈奇形切除後の再建方式による病変制御,再発に関する検討.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13-15日.
9. 大浦紀彦,清家志円,河内司,井原玲,若林桂介,景山大輔,大峯啓志,多久嶋亮彦,波利井清紀:糖尿病性足壊疽に対する血管柄付き自家遊離組織移植術の工夫-吻合と静脈灌流不全に関する検討-.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月15日.
10. 大浦紀彦:糖尿病性足病変の治療戦略 なぜ形成外科医が治療しなくてはいけないのか.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月15日.
11. 大浦紀彦:形成外科の成長戦略 新設された下肢末梢動脈疾患指導管理加算のインパクト.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月15日.
12. Ozaki M, Ihara A, Iwashina Y, Seike S, Shiraishi T, Takushima A, Harii K: Bordering Procedure: An innovative technique for resection of arteriovenous malformations in the head region. The 21th International Workshop on Vascular Anomalies, Argentina, April 26th, 2016.
13. Iwashina Y: Comparative study of recurrence after resection and reconstruction of arteriovenous malformation. The 21th international workshop on vascular anomalies ISSVA 2016, Argentina, April 26th-29th, 2016.
14. 大浦紀彦:透析患者のCLIを救え!はじめよう,透析患者の下肢の重症化予防.第19回埼玉フットケア研究会,さいたま,2016年4月26日.
15. 大浦紀彦:透析患者のための下肢の重症化予防.第31回東京看護腎臓不全研究会,東京,2016年5月15日.
16. Hashimoto I, Abe Y, Ishida S, Kashiwagi K, Minoda K, Yamashita Y: Free-style pedicle perforator flaps for vulva, vagina, buttock, and decubitus reconstruction: internal pudendal artery perforator flap(iPap flap). The 13th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Kanazawa, May 15th-17th, 2016.
17. Suga H, Shiraishi T, Shibasaki Y, Takushima A, Harii K: Predictive factors for drainage volume following expander-based breast reconstruction. The 13th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Kanazawa, May 16th, 2016.
18. Takushima A: Double Innervated Latisimus Dorsi Muscle Transfer for facial reanimation. The 13th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Kanazawa, May 17th, 2016.
19. 多久嶋亮彦:顔面神経機能再建の進歩と将来 先天性顔

形成外科学教室

講演

1. 尾崎峰,井原玲,岩科裕己,清家志円,白石知大,多久嶋亮彦,波利井清紀:頭頸部動静脈奇形に対する分割切除法”bordering method”.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13日.
2. 菅浩隆,尾崎峰,成田圭吾,白石知大,江藤ひとみ,佐藤卓士,多久嶋亮彦,波利井清紀:眼瞼下垂症手術における修正手術のリスク因子解析.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13日.
3. 成田圭吾,多久嶋亮彦,白石知大,菅浩隆,尾崎峰,波利井清紀:二腹に分割した神経血管柄付き遊離広背筋移植による笑いの再建.第59回日本形成外科学会総会・学術集会,福岡,2016年4月13-15日.

- 面神経麻痺に対する笑いの再建. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月20日.
20. 岩科裕己: ICPモニターを用いて切除術を施行した頭蓋内顔面部巨大動静脈奇形の1例. 第13回日本血管腫血管奇形学会学術集会, 石垣, 2016年5月20-21日.
 21. 大浦紀彦: 糖尿病における下肢救済・足病治療の向上による重症化予防 歩行のため足創傷治療と多施設連携. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月21日.
 22. 海野早織, 尾崎峰, 井原玲, 岩科裕己, 平野浩一, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 治療に難渋した幼児頸部巨大静脈奇形の一例. 第13回日本血管腫血管奇形学会学術集会, 石垣, 2016年5月21日.
 23. 井原玲, 尾崎峰, 岩科裕己, 清家志円, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 鎖骨部血管奇形に対する我々の治療方針. 第13回日本血管腫血管奇形学会学術集会, 石垣, 2016年5月21日.
 24. 北澤直美, 滝沢サユミ, 岩崎恵, 金安美喜, 金城多恵子, 具志堅真里, 大浦紀彦: 血液透析患者の還流指標 (PI) による足趾血流評価. 第8回日本下肢救済・足病学会学術集会, 東京, 2016年5月26日.
 25. 清家志円, 大浦紀彦, 森重侑樹, 大島直也, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 形成外科医が発信する創傷治療 血管柄付き遊離組織移植術による再建. 第8回日本下肢救済・足病学会学術集会, 東京, 2016年5月26日.
 26. 尾崎峰, 井原玲, 岩科裕己, 栗田昌和: 下肢における血管奇形病変の診断と治療 - 特にKlippel-Trenaunay Syndromeについて. 第8回日本下肢救済・足病学会学術集会, 東京, 2016年5月27日.
 27. 柏木圭介, 福永豊, 安倍吉郎, 峯田一秀, 山下雄太郎, 橋本一郎: 末梢神経ブロック下で施行した下肢大切断の3例. 第8回日本下肢救済・足病学会学術集会, 東京, 2016年5月27-28日.
 28. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 陳旧性顔面神経麻痺に対する一期的遊離広背筋移植術: 再移植症例の検討. 第39回日本顔面神経研究会, 大阪, 2016年5月26-27日.
 29. 多久嶋亮彦: 病的共同運動・顔面拘縮に対するわれわれの治療方針. 第39回日本顔面神経研究会, 大阪, 2016年5月27日.
 30. 森重侑樹, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血に対する下肢大切断術の検討. 第8回日本下肢救済足病学会学術集会, 東京, 2016年5月28日.
 31. 宇都宮誠, 大浦紀彦, 河内司, 木下幹雄, 富田益臣: AAAレジストリーから見えてきた足病診療の現実と課題. 第8回日本下肢救済足病学会学術集会, 2016年5月28日.
 32. 峯田一秀, 松村辰彦, 戸田皓大, 山下雄太郎, 柏木圭介, 安倍吉郎, 橋本一郎: 当科における皮膚原発浸潤性有棘細胞癌の臨床統計. 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 鹿児島, 2016年5月27-28日.
 33. 大浦紀彦: 下肢救済のための治療・活動, 今後の展望 下肢重症化予防の夜明け. 第8回日本下肢救済足病学会学術集会, 東京, 2016年5月28日.
 34. 大浦紀彦: 下肢救済のための創傷治療とケア - 下肢重症化予防 -. 第5回博多糖尿病・フットケアセミナー, 福岡, 2016年6月8日.
 35. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 頭頸部癌放射線治療後の後遺症に対する外科治療. 第40回日本頭頸部癌学会学術集会, さいたま, 2016年6月9-10日.
 36. 尾崎峰, 栗田昌和, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 顔面単純性血管腫に対する幼少時期のラジウム針治療が発生源と考えられた巨大顔面扁平上皮癌の1例. 第40回日本頭頸部癌学会学術集会, さいたま, 2016年6月10日.
 37. 大浦紀彦: 医療政策現場から考える 『骨太の方針2015 策定後の「下肢末梢動脈疾患指導管理料」の実現』への道のりについて. 第61回日本透析医学会学術集会, 大阪, 2016年6月12日.
 38. 宮本快介, 上野貴之, 伊坂泰嗣, 伊藤大樹, 伊美建太郎, 北村真奈美, 井本滋, 白石知大: 当院における乳がん手術, 乳房再建術の動向と評価. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016年6月16-18日.
 39. 大浦紀彦: 最新の創傷治療 NPWT・透析患者のフットケア. システム総研慢性創傷セミナー, 東京, 2016年6月25日.
 40. 大浦紀彦: 透析患者の下肢重症化予防のための創傷ケア. 第19回飯田橋透析・アクセス懇話会, 東京, 2016年6月28日.
 41. 大浦紀彦: 透析患者の下肢重症化予防. 第38回新宿副都心透析医会, 東京, 2016年6月30日.
 42. 大浦紀彦: 透析患者の下肢重症化予防のための創傷ケア. 第19回三河透析懇話会, 名古屋, 2016年7月2日.
 43. Ohura N: Current Status of DFU in Japan and Construction of Podiatric Cooperation System. The 1th Congress of Diabetic Limb Salvage in Asia Symposia, Korea, July 8th, 2016.
 44. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の感染症対策 下肢軟部組織感染の考え方. 関西医大フットケアセミナー, 大阪, 2016年7月9日.
 45. 尾崎峰, 佐藤卓志, 江藤ひとみ, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 陳旧性眼窩内骨折に伴う眼球陥凹に対するわれわれの治療法. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2016年7月21日.
 46. 海野早織, 大浦紀彦, 大島直也, 森重侑樹, 関山琢也, 河内司, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 入院治療を行った難治性下肢潰瘍患者の実情と転帰. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2016年7月21日.
 47. 森重侑樹, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 逆行性胸鎖乳突筋弁により胸鎖関節部感染・胸骨骨髓炎を治療した1例. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2016年7月21日.
 48. 大浦紀彦: 下肢軟部組織感染症に対する治療戦略. MRSA感染症フォーラム in yonago, 米子, 2016年7月29日.
 49. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア. 第1回糖尿病フットケアセミナーIN多摩, 国分寺, 2016年8月27日.
 50. 大浦紀彦: 高齢者のトータルサポート Skin tears の治療. 第18回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2016年9月2日.
 51. 大浦紀彦: 創傷被覆材の使い方. 第18回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2016年9月3日.
 52. 吉村美音, 長谷川恵梨, 石園夢, 川島智美, 山田千尋, 鈴木尚, 大浦紀彦: クリティカルケア領域でのマネジメント 周術期・手術室における褥瘡発生と予防. 第18回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2016年9月3日.
 53. 大浦紀彦: 透析下肢末梢動脈疾患患者の重症化予防. 第2回透析患者の糖尿病治療を考える会, 東京, 2016年9月6日.
 54. 佐久智紀, 森光代, 石田幸平, 成田圭吾, 岡島康友: 壊死性筋膜炎後の肘屈筋群および橈骨神経傷害に対する薄筋移植と円回内筋移行による機能再建症例の経験. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016年9月9-11日.
 55. 大浦紀彦: CLIの治療戦略 - 透析患者をCLIから救うために行うべきこと - 末梢動脈疾患患者の重症化予防. 第12回那珂川フットケアミーティング, 福岡, 2016年9月15日.
 56. Ohura N, Ohura T, Takahashi M, Harii K: Which

- dressing has resulted the pressure ulcer prevention by the friction and shear reduction effect?. World Union of Wound Healing Societies congress, Italy, September 24th, 2016.
57. Sekiyama T, Ohura N, Matsui S, Kikuchi K, Takushima A, Harii K: The use and effects of LDL apheresis in patients with critical limb ischemia. World Union of Wound Healing Societies congress, Italy, September 24th, 2016.
 58. Yoshimura M, Ohura, Norihiko Tanaka J, Kagaya Yu, Ichimura S, Kasuya Y, Hotta O, Tanba M, Suzuki N: The effectiveness of soft silicone multi-layered foam dressings for preventing intraoperatively acquired pressure ulcers in spine surgery patients: The Border Operating room Spine Surgery (BOSS) trial in Japan. World Union of Wound Healing Societies congress, Italy, September 24th 2016.
 59. Ohura N, Seike S, Sato T, Furukawa M, Harii K: The effectiveness of free flap transfer in patients with Rutherford class 6 critical limb ischemia. World Union of Wound Healing Societies congress, Italy, September 24th, 2016.
 60. Ohura N: Pressure Injury Prevention in the Operation Room The Border Operating room Spine Surgery (BOSS) trial in Japan Pressure Ulcer Prevention Satellite Symposium. World Union of Wound Healing Societies congress, Italy, September 24th, 2016.
 61. 大浦紀彦: 高齢者の創傷治療とケア スキンケアの予防と管理. 第23回西多摩栄養管理研究会, 青梅, 2016年10月8日.
 62. 大浦紀彦: Act Against Amputationと武士道. MEDプレゼン2106 ツナガール一般社団法人チーム医療フォーラム~参加する医療で, 社会を良くする, 東京, 2016年10月16日.
 63. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア. 第1回魚沼足を学ぶ会, 新潟, 2016年10月20日.
 64. 大浦紀彦: 軟部組織感染症に対する治療戦略 洗浄と血流で感染を制御しよう. 第65回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第63回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 新潟, 2016年10月28日.
 65. 尾崎峰: 顔面骨骨折の画像診断-Knack & Pitfalls. 第34回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 2016年11月11日.
 66. 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 創傷治癒過程におけるサイトカイン分泌を介した血管新生メカニズム. 第25回日本形成外科学会基礎学術集会, 大阪, 2016年9月15日.
 67. Narita K, Takushima A, Harii K: A new vascularized nerve graft for immediate facial nerve reconstruction following radical ablation of parotid cancer: the Intercoastal nerve segments nourished by the deep inferior epigastric vessels. Plastic Surgery The Meeting 2016, USA, September 23rd-27th, 2016.
 68. 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 人工物を用いた再建の合併症: 西洋の問題点How to avoid-2. 第4回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 舞浜, 2016年10月6-7日.
 69. 白石知大, 菅浩隆, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 高齢者における乳房再建術: 再建中断症例の検討. 第4回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 舞浜, 2016年10月6-7日.
 70. 藤木政英, 尾崎峰, 中山玲玲, 江藤ひとみ, 海咲子, 海野早織, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 切除と炭酸ガスレーザーによる削皮を組み合わせた広範型表皮母斑の治療. 第37回日本レーザー医学界総会, 旭川, 2016年10月21-22日.
 71. Takushima A: Neurovascular free muscle transfer for facial reanimation past and future. The 19th Chinese University of Hong Kong Surgical Symposium, Hong Kong, October 25th, 2016.
 72. 大浦紀彦: 軟部組織感染症に対する治療戦略. Hiroshima Infection Summit, 広島, 2016年11月4日.
 73. 佐藤大介, 尾崎峰, 成田圭吾, 倉地彩奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 視性刺激遮断弱視予防を目的としたthread liftを用いた眼瞼形成術. 第34回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 2016年11月10-11日.
 74. Ohura N: Pressure Ulcer Prevention in the Operation Room. The Border Operating room Spinal Surgery (BOSS) trial in Japan. Stop Pressure Ulcer Day Symposium, Singapore, November 15th, 2016.
 75. 松永洋明, 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 三叉神経麻痺を伴う陳旧性顔面神経麻痺患者に対する角膜知覚再建の経験. 第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 広島, 2016年11月17-18日.
 76. 大浦紀彦, 清家志円, 倉地功, 佐藤大介, 多田朋子, 斉藤隆文, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 糖尿病性足壊疽に対する血管柄付き自家遊離組織移植術における鬱血を克服する工夫. 第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 広島, 2016年11月18日.
 77. Ohura N: Standard Wound Care for Diabetic Foot Ulcers in Japan. The 6th AFFA NARA Symposium 4 Pandemic of Diabetic Foot, Nara, 2016年11月20日.
 78. Ozaki M, Sato T, Eto H, Takushima A, Harii K: A new method for the treatment of traumatic intractable bony ankylosis of the temporomandibular joint: Report of two clinical case. The 11th Congress of the Asian Pacific Craniofacial Association, Nara, Decenbaer 1st, 2016.
 79. 白石知大: 再建困難な乳房に対する乳房再建術. 乳房再建セミナー in Tokyo, 東京, 2016年11月6日.
 80. 佐藤大介, 尾崎峰, 成田圭吾, 倉地彩奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 視性刺激遮断弱視予防を目的としたthread liftを用いた眼瞼形成術. 第34回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 2016年11月10-11日.
 81. 白石知大: 組織拡張器挿入術. Natrelle Master Class, 東京, 2016年11月13日.
 82. 白石知大: 下垂のある乳房の再建. Ebis meeting, 大阪, 2016年11月19日.
 83. 大浦紀彦: 在宅における褥瘡治療. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会第14回東京支部フォーラム・第10回東京都在宅褥瘡セミナー, 東京, 2017年1月22日.
 84. 大浦紀彦: 創傷治療の基本と感染症例での戦略. H28年度第4回東京都臨床整形外科医会統合研修会, 東京, 2017年1月7日.
 85. 大浦紀彦: 糖尿病・透析で足を切断しないために 一生, 自分の足で歩こう. 杏林大学公開講座, 三鷹, 2017年1月14日.
 86. 大浦紀彦: 日本の糖尿病性足病変の現状-下肢重症化予防-フットケアの日に向けて. Act Against Amputationメディアセミナー, 東京, 2017年1月26日.
 87. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア. 糖尿病と足病変を学ぶ会, 市川, 2017年1月31日.
 88. 多久嶋亮彦: 小児の顔面神経麻痺に対する形成外科の治療. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会,

東京, 2017年2月3日.

89. 大浦紀彦:最新のアンチエイジング ~形成外科医の立場から~. 東京都看護協会 医療公開講座, 東京, 2017年2月4日.
90. 大浦紀彦:下肢末梢動脈疾患の治療戦略ー下肢末梢動脈疾患指導管理加算ー. 第8回昭和大学藤が丘CLI研究会, 横浜, 2017年2月9日.
91. 大浦紀彦:重症下肢虚血治療の現状Happy になるためのチーム医療. 第3回旭中央病院フットケアセミナー, 千葉, 2017年2月10日.
92. 大浦紀彦:透析・重症下肢虚血の重症化予防. 第15回徳島透析フットケア研究会, 徳島, 2017年2月14日.
93. 松永洋明, 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:三叉神経麻痺を伴う陳旧性顔面神経麻痺患者に対する角膜知覚再建の経験. 第22回日本形成外科手術手技学会, 東京, 2017年2月18日.
94. 大浦紀彦:透析患者の下肢重症化予防「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」の意義. 第45回東京透析研究会, 東京, 2017年2月19日.
95. 大浦紀彦:透析患者の下肢重症化予防「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」の意義. 下肢救済・フットケア研究会, 東京, 2017年2月24日.
96. 大浦紀彦:糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア. 第2回高知足を学ぶ会, 高知, 2017年3月3日.
97. 大浦紀彦:透析と足病透析しながら歩き続けるために. 佐賀腎臓病協会 市民公開講座, 佐賀, 2017年3月19日.
98. 大浦紀彦:「専門医が支えるフットケアの極意」形成外科医の立場から. 第15回日本フットケア学会, 岡山, 2017年3月24日.

論文

1. 多久嶋亮彦, 成田圭吾, 白石知大:病的共同運動・顔面拘縮に対する外科的治療. *Facial Nerve Research* 36:68-70, 2016.
2. 多久嶋亮彦:顔面神経麻痺の機能再建・再生医療 顔面神経麻痺に対する動的再建. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 88:492-497, 2016.
3. 多久嶋亮彦:顔面神経機能再建の進歩と将来 先天性顔面神経麻痺に対する再建術. *日本耳鼻咽喉科学会会報* 120:97-103, 2017.
4. 辻直子, 吉村浩太郎, 波利井清紀:段階的脂肪由来幹細胞付加脂肪移植 (Step-CAL) による乳房再建. *形成外科* 59(5):496-504, 2016.
5. 佐藤卓士, 江藤ひとみ, 小林よう, 中山玲玲, 井原玲, 尾崎峰, 多久嶋亮彦:老人性色素斑に対するレーザー治療に伴う炎症後色素沈着の発症についての後ろ向き研究 Qスイッチルビーレーザーと半波長QスイッチNd:YAGレーザーの比較. *日本レーザー医学会誌* 37:24-28, 2016.
6. 江藤ひとみ, 小林よう, 中山玲玲, 佐藤卓士, 井原玲, 海暁子, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:異所性蒙古斑のレーザー治療回数に影響する因子の検討. *日本レーザー医学会誌* 37:30-35, 2016.
7. Utsunomiya M, Takahara M, Iida O, Yamauchi Y, Kawasaki D, Yokoi Y, Soga Y, Ohura N, Nakamura M: Wound Blush Obtainment Is the Most Important Angiographic Endpoint for Wound Healing. *JACC Cardiovasc Interv.* 10(2):188-194, 2017.
8. Ando M, Sunaguchi N, Shimao D, Pan A, Yuasa T, Mori K, Suzuki Y, Jin G, Kim JK, Lim JH, Seo SJ, Ichihara S, Ohura N, Gupta R: Dark-Field Imaging: Recent developments and potential clinical applications. *Phys Med.* 32(12):1801-1812, 2016.
9. Yoshimura M, Ohura N, Tanaka J, Ichimura S, Kasuya Y, Hotta O, Kagaya Y, Sekiyama T, Tannba M, Suzuki N: Soft silicone foam dressing is more effective than polyurethane film dressing for preventing intraoperatively acquired pressure ulcers in spinal surgery patients: the Border Operating room Spinal Surgery (BOSS) trial in Japan. *Int Wound J*, 2016.
10. 大浦紀彦, 佐藤大介, 海野早織: Wound bed preparation とTIME. *医学のあゆみ* 258(9):829-832, 2016.
11. 大浦紀彦:圧とずれを考えた予防的ドレッシング 実験的・臨床的データから解説する. *WOC Nursing* 4(8):92-96, 2016.
12. 大浦紀彦, 関山琢也, 森重侑樹, 加賀谷優, 大島直也, 海暁子, 海野早織, 多久嶋亮彦:皮膚灌流圧 (SPP) による末梢動脈疾患 (PAD) 評価. *Diabetes Journal: 糖尿病と代謝* 44(2):96-98, 2016.
13. 大浦紀彦:糖尿病最前線 「少し様子を見よう」が手遅れに. *べんちのーと* 104号 27(3):7, 2016.
14. 大浦紀彦:第8回日本下肢救済・足病学会学術集会を終えて. *日本下肢救済・足病学会誌* 8(3):121, 2016.
15. 大浦紀彦, 山下雄太郎, 加賀谷優, 関山琢也, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:慢性皮膚潰瘍の治療 Total Contact Cast (TCC). *PEPARS* 119:45-51, 2016.
16. 紺家千津子, 溝上祐子, 上出良一, 大浦紀彦, 徳永恵子, 真田弘美, 仲上豪二郎, 安部正敏, 大桑麻由美, 野口博史, 飯坂真司, 加瀬昌子, 小柳礼恵, 祖父江正代, 高橋麻由美, 丹波光子, 柄折綾香, 内藤亜由美, 中村徳子, 間宮直子, 宮永友美, 山田清美:日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術教育委員会 医療用テープによるスキン-ケアの実態. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌* 20(1):43-48, 2016.
17. 海暁子, 尾崎峰, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:肺血栓塞栓症の原因がBaker嚢腫と考えられた1例. *形成外科* 59(10):1109-1113, 2016.
18. 大浦紀彦, 合志清隆:皮膚移植術 (compromised skin grafts and flaps). *日本高気圧環境・潜水医学会雑誌* 51(3):123-125, 2016.
19. 大浦紀彦, 合志清隆:重症の熱傷 (凍傷) (Severe Thermal Burn Injury). *日本高気圧環境・潜水医学会雑誌* 51(3):126-127, 2016.
20. 秋山陽一, 鈴木由美, 吉川泉, 浜由紀子, 富田香, 尾崎峰, 山田昌和:巨大眼瞼部乳児血管腫を伴い不同視弱視治療を要した乳児例 特殊眼鏡の作製工夫. *眼科臨床紀要* 9:581-586, 2016.
21. Suga H, Shiraishi T, Shibasaki Y, Takushima A, Harii K: Predictive factors for drainage volume after expander-based breast reconstruction. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 4:e727, 2016.
22. 成田圭吾, 多久嶋亮彦:Angular branchを茎とする肩甲骨弁を用いた上顎二次再建. *形成外科* 59:397-407, 2016.
23. 美馬俊介, 瀬渡洋道, 吉井聡佳, 山下雄太郎:大腿部マシソン孤虫症の1例. *日本形成外科学会会誌* 36(11):545-549, 2016.
24. 吉井聡佳, 瀬渡洋道, 山下雄太郎:髓内釘の露出した下腿感染創を持続陰圧洗浄とヒラメ筋弁側方移動術で温存し得た1例. *創傷* 7(2):81-86, 2016.
25. 山下雄太郎, 瀬渡洋道:工夫!下涙小管断裂に対するナイロン糸留置法. *形成外科* 59(2):212-216, 2016.
26. Hashimoto I, Abe Y, Ishida S, kashiwagi K, Minoda K, Yamashita Y, Yamato R, Toda A, Fukunaga Yu, Yoshimoto S, Tsuda T, Nagasaka S, Keyama T: Development of skin flaps for reconstructive

surgery: random pattern flap to perforator flap. The journal of medical investigation 63:159-162, 2016.

27. Yamashita Y, Hiroaki N, Hashimoto I: Ambulatory surgery for pilonidal sinus: tract excision and open treatment followed by at-home irrigation. The journal of medical investigation 63:216-218, 2016.
28. Yamashita Y, Nagae H, Yamato R, Sedo H, Abe Y, Hashimoto I: Proximal nail fold flap for digital mucous cyst excision. The journal of medical investigation 63:278-280, 2016.
29. Shiraiishi T, Kurita M, Narita K, Takushima A, Harii K: Fingertip Replantation with the Use of a Long Vein Graft: Training Young Surgeons in a Feasible Technique to Maintain Optimal Results. J Reconstr Microsurg Open. 1(2):100-105, 2016.
30. 北幸紘, 栗田昌和, 成田圭吾, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: メビウス症候群による両側顔面神経麻痺に対して神経血管柄付き遊離薄筋移植術を行った成人例の1例. 形成外科 59(3):304-309, 2016.

著書

1. 大浦紀彦: 褥瘡. TEXT形成外科学. 波利井清紀監修. 東京, 南山堂, 2017. p. 314-323.
2. 大浦紀彦, 井原玲: 循環器内科と形成外科連携 形成外科的観点から. 格段にうまくいくEVTの基本とコツ. 横井宏佳編. 東京, 羊土社, 2016. p. 238-240.
3. 大浦紀彦, 吉村美音, 関山琢也: 治療・ケア 期待される予防的ドレッシング材の開発と使用方法. 進化を続ける褥瘡・創傷治療・ケア アップデート. 真田弘美, 市岡滋, 溝上裕子編. 東京, 照林社, 2016. p. 166-169.
4. 大浦紀彦: コラム重症下肢虚血と連携. 足病の教科書. 大浦武彦, 秋野公造著. 東京, 三五館, 2016. p. 76-78.
5. 大浦紀彦: あとがき. 足病の教科書. 大浦武彦, 秋野公造著. 東京, 三五館, 2016. p. 215.
6. 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺の再建法. 日本臨床 頭頸部癌学. 東京, 日本臨社, 2017. p. 407-411.
7. 尾崎峰: 血管腫・血管奇形・脈管系疾患. TEXT形成外科学改訂3版. 波利井清紀監修, 中塚貴志編, 東京, 南山堂, 2017. p. 359-364.

その他

1. 大浦紀彦: 大会長第8回日本下肢救済足病学会学術集会, 東京, 2016年5月27-28日.
2. 大浦紀彦: 主催「2月10日はフットケアの日」Act Against Amputation メディアセミナー, Act Against Amputation 主催, 東京, 2017年1月26日.
3. 大浦紀彦: 第1回L-sawnnカンファレンス 他職種医療連携による創傷ケアのトータルマネージメント ~病院から在宅へ~, 2017年2月25日
4. 成田圭吾: 第51回中部形成外科学会学術集会ハンズオンセミナー講師, 沼津, 2016年7月9日.

泌尿器科学教室

講演

1. 鮫島未央, 長嶺陽平, 松本龍貴, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的薬投与における腎機能障害の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23日.
2. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 野間康史, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 術前推定前立

腺容積80ml以上の前立腺肥大症に対するHoLEPの手術成績~前立腺容積80ml未満との比較検討~. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23日.

3. 森川泰如, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対するセカンドライン分子標的薬による腫瘍縮小と全生存期間の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23日.
4. 原秀彦, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎癌におけるfirst line 治療の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23日.
5. 金城真実, 榎本香織, 嘉村康邦, 関口由紀, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者における低活動膀胱についての検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23日.
6. 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: PNLの治療成績と合併症. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月24日.
7. 板谷直, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌における術後再発予測因子の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月24日.
8. 山口剛, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月24日.
9. 榎本香織, 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者における精神症状との関連性とソリフェナシン投与による効果-HADSを用いた精神症状の評価-. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月24日.
10. 多武保光宏, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院におけるTUL術後発熱の予測因子. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月25日.
11. 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 杏林大学泌尿器科におけるBCG膀胱内注入療法の臨床的検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月25日.
12. 桶川隆嗣, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌治療における末梢循環癌細胞とandrogen-receptor splice variant-7の意義. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月25日.
13. 金城真実, 榎本香織, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者におけるβ刺激薬治療効果の年齢による影響. 第29回日本老年泌尿器科学会, 福岡, 2016年5月14日.
14. 奴田原紀久雄: 尿路結石A to Z. すみれ医療株式会社公開セミナー, 盛岡, 2016年5月26日.
15. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌における個別化治療の展望. CRPCカンファレンスin宮城, 仙台, 2016年6月4日.
16. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌における個別化治療戦略. 高知CRPC治療セミナー, 高知, 2016年6月8日.

17. 金城真実, 榎本香織, 嘉村康邦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: TVM手術時尿道スリング術併用の有無における下部尿路症状に関する検討. 第18回日本女性骨盤底医学会, 北九州, 2016年6月11日.
18. 多武保光宏: 前立腺肥大症の診断と治療. 八王子市医師会学術講演会, 八王子, 2016年6月15日.
19. 東原英二, 堀江重郎, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 原秀彦, 山口剛, 榎本香織, 河野春奈, 要伸也, 奴田原紀久雄: ADPKDではPKD1 nontruncating変異部位は病予後に影響を与える. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月17日.
20. 山口剛, 東原英二, 二宮直紀, 舛田一樹, 鮫島未央, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 日本人のADPKD患者に適するeGFRはCKD stageにより変化する. 第59回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2016年6月18日.
21. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌の治療戦略—最適なマネジメント—. いわき地区CRPCセミナー, いわき, 2016年6月21日.
22. 榎本香織, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 川口翔平, 小島幸一郎, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則: 排便での怒責を契機に, 尿閉・直腸脱を発症した骨盤臓器脱の1例. 第621回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2016年6月25日.
23. 奴田原紀久雄: 多発性嚢胞腎について. 第95回TEUS (Tokyo Expert Urology Seminar), 東京, 2016年6月20日.
24. 原秀彦, 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における分子標的薬の使用経験. RCC Target Therapy Clinical Seminar in Tama, 立川, 2016年6月24日.
25. 原秀彦, 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的薬治療の効果予測としてのNLRの意義. 第47回腎癌研究会, 東京, 2016年7月9日.
26. 奴田原紀久雄, 桶川隆嗣, 金城真実, 多武保光宏, 原秀彦, 板谷直, 山口剛, 榎本香織, 舛田一樹, 北村盾二, 長嶺陽平, 田中界, 宮川昌悟, 東原英二: 三鷹市前立腺がん検診の変遷. 第133回多摩泌尿器科医会, 狛江, 2016年6月25日.
27. 多武保光宏: 前立腺肥大症の診断と治療. 第3回新川BPHミーティング, 三鷹, 2016年7月28日.
28. Tambo M, Matsumoto R, Nagamine Y, Kitamura J, Samejima M, Masuda K, Morikawa Y, Yamaguchi T, Itaya N, Hara H, Okegawa T, Nutahara K: Clinical usefulness of presepsin in obstructive acute pyelonephritis due to upper urinary tract calculi. 13th International symposium on urolithiasis, Chiba, 2016年7月19日.
29. 榎本香織: 排便時の努責により, 尿閉・直腸脱を併発した骨盤臓器脱の一例. 第3回女性骨盤底勉強会, 立川, 2016年7月29日.
30. 金城真実, 榎本香織, 藤崎章子, 嘉村康邦, 関口由紀, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性泌尿器科患者におけるパートナーの性機能および治療に関する検討. 日本性機能学会第27回学術総会, 大阪, 2016年8月26日.
31. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療におけるオーダーメイド医療—From Bench to Bedside—. 三重泌尿器科臨床セミナー, 津, 2016年9月9日.
32. Kinjo M, Enomoto K, Yoshimura Y, Okegawa T, Nutahara K: Does concomitant anti-incontinence surgery at the trans-vaginal mesh surgery in prolapse patient affect urinary incontinence specific quality of life?. ICS 2016, Tokyo, September 15th, 2016.
33. 榎本香織, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: PKD遺伝子変異が陰性であった片側性嚢胞性腎疾患の一例. 第46回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2016年10月7日.
34. 中村雄, 富樫庸介, 寺嶋雅人, デベラスコマルコ, 坂井和子, 藤田至彦, 桶川隆嗣, 濱田傑, 西尾和人: 頭頸部または食道扁平上皮癌に対するアファチニブの効果: 頭頸部扁平上皮癌における活性型発癌性HER4遺伝子変異. 第75回日本癌学会学術集会, 横浜, 2016年10月7日.
35. 桶川隆嗣: CRPCのprecision medicine~何に注目し, 今何をすべきか?~. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月8日.
36. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 前立腺癌バイオマーカーのパラダイムシフト—去勢抵抗性前立腺癌における末梢循環癌細胞とandrogen receptor splice variant 7の意義. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月8日.
37. 北村盾二, 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ロボット支援前立腺全摘除術後の尿禁制回復における関連因子についての検討. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月8日.
38. 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 榎本香織, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎癌に対する一次分子標的治療における好中球/リンパ球比と腫瘍縮小率の検討. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月8日.
39. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 上部尿路結石治療の最新技術—最新週期管理技術. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月9日.
40. 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における後腹膜腫瘍の臨床的検討. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月9日.
41. 長嶺陽平, 田中界, 宮川昌悟, 北村盾二, 山口剛, 榎本香織, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における去勢抵抗性前立腺癌に対するカバジタキセルの治療経験. 第81回日本泌尿器科学会東部総会, 青森, 2016年10月9日.
42. 桶川隆嗣: CRPCのPrecision Medicineを実現する戦略と技術. 西毛伊勢崎泌尿器科講演会, 高崎, 2016年10月14日.
43. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢循環癌細胞のARV7を用いた治療効果予測. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20日.
44. 桶川隆嗣: 新規CRPC薬剤の使用経験と今後の展望. 茨城県県央地区CRPC講演会, 水戸, 2016年10月27日.
45. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療における個別化治療戦略. 第40回熊本泌尿器科医会学術講演会, 熊本, 2016年11月10日.
46. 多武保光宏, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: リン酸マグネシウムアンモニウム結石に対するPNLの臨床的検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月18日.
47. 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 1cm以上の上部尿管結石に対するTULとPNLの治療成績. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月18日.
48. 板谷直, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口

- 剛, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌における開創手術と腹腔鏡手術の臨床的比較検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月18日.
49. 原秀彦, 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎盂形成術の検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月18日.
50. 北村盾二, 長嶺陽平, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ロボット支援前立腺全摘術と腹腔鏡下前立腺全摘術の術後尿禁制の比較検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月19日.
51. 山口剛, 北村盾二, 榎本香織, 板谷直, 原秀彦, 金城真実, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月19日.
52. 桶川隆嗣, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 精巣腫瘍に対する腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術の検討. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月19日.
53. 多武保光宏, 加藤祐司, 志賀直樹, 西松寛明, 三浦浩康, 麦谷荘一: JSE上部尿路結石内視鏡治療標準化シンポジウム-URS班-一周術期管理. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月19日.
54. 三浦浩康, 多武保光宏, 加藤祐司, 志賀直樹, 西松寛明, 麦谷荘一: JSE上部尿路結石内視鏡治療標準化シンポジウム-URS班-合併症対策. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月19日.
55. 加藤祐司, 多武保光宏, 志賀直樹, 西松寛明, 三浦浩康, 麦谷荘一: JSE上部尿路結石内視鏡治療標準化シンポジウム-URS班-長径2~2.5cmの腎結石に対するTUL. 第30回日本泌尿器内視鏡学会, 大阪, 2016年11月19日.
56. 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 大窪泰弘, 下山田博明, 菅間博: 下大静脈背側のparagangliomaに対する後腹膜鏡下腫瘍摘除術の経験. 第135回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2016年11月25日.
57. 桶川隆嗣: CRPCのPrecision Medicineを実現する戦略と技術. Prostate Cancer frontier conference, 横浜, 2016年11月30日.
58. 舛田一樹, 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 中村雄, 山口剛, 榎本香織, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における前立腺肥大症に対するHoLEP術後の排尿状態および尿失禁の検討. 第23回日本排尿機能学会, 東京, 2016年12月6日.
59. 金城真実, 舛田一樹, 榎本香織, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者における低活動膀胱についての検討(第二報). 第23回日本排尿機能学会, 東京, 2016年12月7日.
60. 舛田一樹, 桶川隆嗣, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢血循環癌細胞検出の意義. 第1回Liquid Biopsy 研究会, 東京, 2017年1月21日.
61. 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 千葉宏宏, 菅間博: 副腎海綿状血管腫の1例. 第136回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2017年1月27日.
62. 舛田一樹, 桶川隆嗣, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢血循環癌細胞検出の意義. 第17回関東ホルモンと癌研究会, 東京, 2017年1月28日.
63. 奴田原紀久雄: 尿路結石症 最近の話題-結石とその治療による腎障害. 第12回Gunma Urological Meeting, 前橋, 2017年2月9日.
64. 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 大窪泰弘, 下山田博明, 菅間博: 後腹膜鏡下腫瘍摘除術を施行し得た下大静脈背側paragangliomaの1例. 第623回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2017年2月16日.
65. 奴田原紀久雄: 上部尿路結石: 最近の話題(結石とその治療による腎障害). 第107回秋田県泌尿器科集談会, 2017年3月4日.
66. 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における女性泌尿器科手術に関する検討. 第11回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会, 2017年3月12日.

論文

- Okegawa T, Itaya N, Hara H, Tambo M, Nutahara K: Epidermal Growth Factor Receptor Status in Circulating Tumor Cells as a Predictive Biomarker of Sensitivity in Castration-Resistant Prostate Cancer Patients Treated with Docetaxel Chemotherapy. *Int J Mol Sci* 17(12), 2016. pii: E2008.
- Nakamura Y, Togashi Y¹, Nakahara H¹, Tomida S¹, Banno E¹, Terashima M¹, Hayashi H¹, de Velasco MA¹, Sakai K¹, Fujita Y¹, Okegawa T, Nutahara K, Hamada S¹, Nishio K¹ (¹Kindai University): Afatinib against Esophageal or Head-and-Neck Squamous Cell Carcinoma: Significance of Activating Oncogenic HER4 Mutations in HNSCC. *Mol Cancer Ther* 15(8): 1988-1997, 2016.
- Kinjo M, Sekiguchi Y¹, Yoshimura Y², Nutahara K (¹LUNA Pelvic Floor Total Support Clinic, ²Yotsuya Medical Cube) : Long-term Persistence with Mirabegron versus Solifenacin in Women with Overactive Bladder: Prospective, Randomized Trial. *Low Urin Tract Symptoms*. 2016. (Epub ahead of print)
- Kinoshita M¹, Higashihara E², Kawano H³, Higashiyama R¹, Koga D¹, Fukui T⁴, Gondo N⁴, Oka T⁵, Kawahara K⁵, Rigo K⁶, Hague T⁶, Katsuragi K¹, Sudo K¹, Takeshi M⁷, Horie S³, Nutahara K (¹Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., ²Department of ADPKD Research, School of Medicine, Kyorin University, ³Juntendo University, ⁴FALCO biosystems Ltd., ⁵World Fusion Co., Ltd., ⁶omixon Ltd., ⁷Samon-cho Clinic): Technical Evaluation: Identification of Pathogenic Mutations in PKD1 and PKD2 in Patients with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease by Next-Generation Sequencing and Use of a Comprehensive New Classification System. *Plos One* 11(11):e0166288, 2016.
- Ieda T¹, Muto S², Shimizu F³, Taguri M⁴, Yanada S⁵, Kitamura K¹, Terai K², Saito K², Ogishima T⁶, Nagata M¹, Ide H², Okegawa T, Wakumoto Y¹, Sakamoto Y³, Tsujimura A⁵, Yamaguchi R², Nutahara K, Horie S¹ (¹Juntendo University, ²Teikyo University, ³Juntendo Nerima Hospital, ⁴Yokohama City University, ⁵Juntendo Urayasu Hospital, ⁶Tokushukai Hospital): Development and Validation of a Novel Recurrence Risk Stratification for Initial Non-muscle Invasive Bladder Cancer in Asia. *EBioMedicine* 12:98-104, 2016.
- Horie S¹, Mochizuki T², Muto S³, Hanaoka K⁴, Fukushima Y⁵, Narita I⁶, Nutahara K, Tsuchiya K², Tsuruya K⁷, Kamura K⁸, Nishio S⁹, Suwabe T¹⁰, Ubara

多発性嚢胞腎研究講座

講演

- Y¹⁰, Ishimura E¹¹, Nakanishi K¹², Furukawa K¹³, Kimura K¹⁴, Matsuo S¹⁵(¹Juntendo University, ²Tokyo Women's Medical University, ³Teikyo University, ⁴Jikei University, ⁵Shinshu University, ⁶Niigata University, ⁷Kyushu University, ⁸National Hospital Organization Chiba-East Hospital, ⁹Hokkaido University, ¹⁰Toranomon Hospital, ¹¹Osaka City University, ¹²Wakayama Medical University, ¹³St. Luke's International Hospital, ¹⁴St. Marianna University, ¹⁵Nagoya University): Evidence-based clinical practice guidelines for polycystic kidney disease 2014. Clin Exp Nephrol 20(4):493-509, 2016.
7. 奴田原紀久雄:ADPKDの疫学・予後・合併症. 腎と透析治療指針2016, 腎と透析2016 80(増刊):417-419, 2016.
 8. 東原英二¹, 奴田原紀久雄¹(杏林大・医・多発性嚢胞腎研究講座): 常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)に対する新たな治療. Med Pract 33: 933-935, 2016.
 9. 奴田原紀久雄: ADPKD/ARPKDの腎外病変. 腎と透析80(6):845-848, 2016.
 10. 奴田原紀久雄: 尿路結石. 医と薬学 73:1505-1510, 2016.
 11. 谷口珠実¹, 奴田原紀久雄¹(山梨大学): 平成28年度三鷹・武蔵野・小金井 排尿障害勉強会 開催報告. 多摩泌尿器科医会雑誌 20:37-47, 2016.
 12. 桶川隆嗣, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢循環癌細胞クラスターとandrogen-receptor splice variant 7の意義. 泌外29(8): 1253-1256, 2016.
 13. 桶川隆嗣: がん治療(標準治療)の基礎知識 治療の流れを理解し, より適切な治療を受けるために(第13回) 精巣がん. ライフライン21がん先進医療 22: 71-74, 2016.
 14. 桶川隆嗣: PSAアイソフォームおよび関連パラメーターの有用性. 日本臨牀 74(増刊3): 300-304, 2016.
 15. 多武保光宏: まるごと尿路結石症-PNLのトラブルシューティング. Uro-Lo 21(5): 88-92, 2016.
 16. 金城真実, 榎本香織, 藤崎章子¹, 嘉村康邦¹, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄(¹四谷メディカルキューブ): TVM手術における性生活と合併症の検討. 日女性骨盤底医会誌13(1): 5-8, 2016.
 17. Shimizu F^{1,2}, Muto S³, Taguri M⁴, Ieda T¹, Tsujimura A^{1,5}, Sakamoto Y^{1,2}, Fujita K^{1,6}, Okegawa T, Yamaguchi R³, Horie S^{1,3}(¹Juntendo University, ²Juntendo Nerima Hospital, ³Teikyo University, ⁴Yokohama City University, ⁵Juntendo Urayasu Hospital, ⁶Juntendo Shizuoka Hospital): Effectiveness of platinum-based adjuvant chemotherapy for muscle-invasive bladder cancer: A weighted propensity score analysis. Int J Urol 24(5):367-372, 2017. (Epub)
 18. 奴田原紀久雄: 最近の尿路結石治療. 日医雑誌145:2132-2133, 2017.

著書

1. 桶川隆嗣: 泌尿器科疾患 神経因性膀胱. 今日の治療指針2017年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編. 東京, 医学書院, 2017. p.1130-1132.
2. 桶川隆嗣: 泌尿器科疾患 神経因性膀胱. 今日の治療指針2017年版(ポケット版). 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2017. p.1130-1132.
3. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 尿路感染症. 腎疾患・透析最新の治療2017-2019. 山懸邦弘, 南学正臣編. 東京, 南江堂, 2017. p.213-216.

講演

1. 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 杏林大学泌尿器科におけるBCG膀胱内注入療法の臨床的検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
2. 山口剛, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
3. 板谷直, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌における術後再発予測因子の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
4. 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: PNLの治療成績と合併症. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
5. 原秀彦, 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎癌に対するfirst line治療の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
6. 森川泰如, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対するセカンドライン分子標的薬による腫瘍縮小と全生存期間の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
7. 舛田一樹, 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 75歳以上の高齢者に対するHoLEPの臨床的比較検討 75歳未満との比較. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.
8. 鮫島未央, 長嶺陽平, 松本龍貴, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的薬投与における腎機能障害の検討. 第104回日本泌尿器科学会総会, 仙台, 2016年4月23-25日.

論文

和文

1. 舛田一樹¹, 宮川昌悟¹, 田中界¹, 長嶺陽平¹, 北村盾二¹, 山口剛¹, 榎本香織¹, 板谷直¹, 原秀彦¹, 多武保光宏¹, 金城真実¹, 桶川隆嗣¹, 東原英二, 奴田原紀久雄¹(¹杏林大学医学部附属病院): 当院における前立腺肥大症に対するHoLEP術後の排尿状態および尿失禁の検討. 日本排尿機能学会誌 27(1):276, 2016.
2. 山口剛¹, 北村盾二¹, 榎本香織¹, 板谷直¹, 原秀彦¹, 金城真実¹, 多武保光宏¹, 東原英二, 桶川隆嗣¹, 奴田原紀久雄¹(¹杏林大学泌尿器科, ²杏林大学多発性嚢胞腎研究講座): 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. Japanese Journal of Endourology 29: 325, 2016.
3. 長嶺陽平¹, 北村盾二¹, 山口剛¹, 板谷直¹, 原秀彦¹, 多武保光宏¹, 桶川隆嗣¹, 奴田原紀久雄¹, 東原英二²(¹杏林大学泌尿器科): 1cm以上の上部尿管結石に対するTULとPNLの治療成績. Japanese Journal of Endourology 29: 277, 2016.
4. 榎本香織¹, 桶川隆嗣¹, 奴田原紀久雄¹, 東原英二(¹杏林

大学泌尿器科):PKD遺伝子変異が陰性であった片側性嚢胞性腎疾患の一例. 日本腎臓学会誌 58: 786, 2016.

5. 山口剛¹, 東原英二, 二宮直紀¹, 舛田一樹¹, 鮫島未央¹, 原秀彦¹, 多武保光宏¹, 桶川隆嗣¹, 奴田原紀久雄¹(¹杏林大学医学部泌尿器科):日本人のADPKD患者に適するeGFRはCKD stageにより変化する. 日本腎臓学会誌 58: 283, 2016.
6. 東原英二, 堀江重郎¹, 桶川隆嗣², 多武保光宏², 原秀彦², 山口剛², 榎本香織², 河野春奈¹, 要伸也³, 奴田原紀久雄²(¹順天堂大学, ²杏林大学医学部泌尿器科, ³杏林大学医学部第一内科):ADPKDではPKD1 nontruncating変異部位は病気予後に影響を与える. 日本腎臓学会誌 58: 266, 2016.
7. 東原英二, 奴田原紀久雄¹(¹杏林大学医学部泌尿器科):常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)に対する新たな治療. Medical Practice 33(6):933-935, 2016.
8. 榎本香織¹, 東原英二(¹杏林大学医学部泌尿器科):臨床ADPKDの診療ガイドライン. 腎と透析2016 80(6):829-834, 2016.

欧文

1. Devuyst O¹, Chapman AB², Gansevoort RT³, Higashihara E, Perrone RD⁴, Torres VE⁵, Blais JD⁶, Zhou W⁶, Ouyang J⁶, Czerwiec FS⁶(¹University of Zurich, ²University of Chicago, ³University of Groningen, ⁴Tufts University School of Medicine, ⁵Mayo Clinic, ⁶Otsuka Pharmaceutical Development and Commercialization): Urine osmolality, response to tolvaptan, and outcome in autosomal dominant polycystic kidney disease: Results from the TEMPO 3:4 trial. J Am Soc Nephrol. 28(5):1592-1602, 2016.
2. Casteleijn NF¹, Blais JD², Chapman AB³, Czerwiec FS², Devuyst O⁴, Higashihara E, Leliveld AM⁵, Ouyang J², Perrone RD⁶, Torres VE⁷, Gansevoort RT⁸; TEMPO(Tolvaptan Efficacy and Safety in Management of Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease and Its Outcomes) 3:4 Trial Investigators. (¹University of Groningen, ²Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization, ³Emory University School of Medicine, ⁴University of Zurich, ⁵University of Groningen, ⁶Tufts University School of Medicine, ⁷Mayo Clinic, ⁸University of Groningen): Tolvaptan and kidney pain in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease: secondary analysis from a randomized controlled trial. Am J Kidney Dis. 69(2):210-219, 2016.
3. Kinoshita M¹, Higashihara E, Kawano H³, Higashiyama R¹, Koga D¹, Fukui T⁴, Gondo N⁴, Oka T⁵, Kawahara K⁵, Rigo K⁶, Hague T⁶, Katsuragi K¹, Sudo K¹, Takeshi M⁷, Horie S³, Nutahara K² (¹Otsuka Pharmaceutical Co., ²Department of Urology Kyorin University, ³Juntendo University, ⁴FALCO biosystems Ltd., ⁵World Fusion Co., ⁶Omixon Ltd., ⁷Samon-cho Clinic): Technical evaluation: Identification of pathogenic mutations in PKD1 and PKD2 in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease by next-generation sequencing and use of a comprehensive new classification system. PLoS One. 11(11):e0166288, 2016.
4. Gansevoort RT¹, Meijer E¹, Chapman AB², Czerwiec FS³, Devuyst O^{4,5}, Grantham JJ⁶, Higashihara E, Krasa HB³, Ouyang J³, Perrone RD⁷, Torres VE⁸; TEMPO 3:4 Investigators (¹University of Groningen, ²Emory University School of Medicine, ³Otsuka Pharmaceutical Development and Commercialization, ⁴Université Catholique de Louvain Medical School,

⁵University of Zurich, ⁶Kansas University Medical Center, ⁷Tufts University School of Medicine, ⁸Mayo Clinic): Albuminuria and tolvaptan in autosomal-dominant polycystic kidney disease: results of the TEMPO 3:4 Trial. Nephrol Dial Transplant. 31(11):1887-1894, 2016.

5. Casteleijn NF^{1,2}, Messchendorp AL^{3,4}, Bae KT⁵, Higashihara E, Kappert P^{4,6}, Torres V⁷, Meijer E^{3,4}, Leliveld AM^{4,8}(¹University Medical Center Groningen, ²Expertise Center for Polycystic Kidney Disease, ³University of Groningen, ⁴Expertise Center for Polycystic Kidney Disease, ⁵University of Pittsburgh School of Medicine, ⁶University of Groningen, ⁷Mayo Clinic, ⁸University of Groningen): Polyuria due to vasopressin V2 receptor antagonism is not associated with increased ureter diameter in ADPKD patients. Clin Exp Nephrol. 2016.
6. Grantham JJ¹, Chapman AB², Blais J³, Czerwiec FS³, Devuyst O⁴, Gansevoort RT⁵, Higashihara E, Krasa H³, Zhou W³, Ouyang J³, Perrone RD⁶, Torres VE⁷; TEMPO 3:4 Investigators (¹Kansas University Medical Center, ²University of Chicago, ³Otsuka Pharmaceutical Development and Commercialization, Inc., ⁴University of Zurich, ⁵University of Groningen, ⁶Tufts Medical Center, ⁷Mayo Clinic): Tolvaptan suppresses monocyte chemotactic protein-1 excretion in autosomal-dominant polycystic kidney disease. Nephrol Dial Transplant. 2016. pii: gfw060. (in press).
7. Torres VE¹, Higashihara E, Devuyst O¹, Chapman AB¹, Gansevoort RT¹, Grantham JJ¹, Perrone RD¹, Ouyang J¹, Blais JD¹, Czerwiec FS¹; TEMPO 3:4 Trial Investigators (¹Due to the number of contributing authors, the affiliations are provided in the Supplemental Material): Effect of tolvaptan in autosomal dominant polycystic kidney disease by CKD stage: Results from the TEMPO 3:4 trial. Clin J Am Soc Nephrol. 11(5):803-811, 2016.

その他

1. 東原英二: 医療ルネサンス, 読売新聞, 2016年5月23-27日.
2. 榎本香織, 東原英二: 家族と健康, 日本家族計画協会, 2016年8月1日.
3. 東原英二: きょうの健康, NHK出版, 2016年8月21日.

眼科学教室

講演

1. 中山真紀子, 慶野博, 渡辺交世, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏, 岡田アナベルあやめ: ベーチェットぶどう膜網膜炎におけるインフリキシマブ中止後の眼炎症活動性の評価. 第120回日本眼科学会総会, 仙台, 2016年4月7-10日.
2. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 中山真紀子, 吉田ゆみ子, 小林宏明: 治療歴のない滲出型AMDに対するアフリベルセプト Treat and Extend療法2年経過. 第120回日本眼科学会総会, 仙台, 2016年4月7日.
3. 澤口翔太, 古泉英貴, 山本亜希子, 小笠原雅, 荒川久弥, 丸子一朗, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹, 飯田知弘: アフリベルセプト療法中に著明な脈絡膜菲薄化を生じた滲出型加齢黄斑変性の頻度と特徴. 第120回日本眼科学会総会, 仙台, 2016年4月7日.
4. 山田昌和: コンタクトレンズと涙液成分. 第120回日本

- 眼科学会総会, 仙台, 2016年4月7日.
5. 山田昌和: 因子分析を用いたドライアイのパターン解析. 第120回日本眼科学会総会, 仙台, 2016年4月8日.
 6. 井上真: 粘弾性物質の進歩—分野別使用法のキーポイント—. 第120回日本眼科学会総会, 仙台, 2016年4月8日.
 7. 井上真: インstrument・カニューラ. 第120回日本眼科学会総会, 仙台, 2016年4月10日.
 8. 井上真: 増殖糖尿病網膜症への小切開硝子体手術. 第31回糖尿病眼合併症を考える会, 東京, 2016年4月14日.
 9. Inoue M: Micro-incision Vitrectomy for Myopic Traction Maculopathy. International Retina Forum/Annual Meeting of Chinese Ocular Fundus Diseases Society, China, April 15th-16th, 2016.
 10. 富田茜, 柳沼重晴, 今野公士, 清水英樹, 軽部美穂, 福岡利仁, 平形明人: 杏林アイセンターにおけるIgG4関連疾患治療について. 多摩眼科集談会, 三鷹, 2016年4月16日.
 11. Nakayama M, Keino K, Watanabe T, Okada AA: Clinical features and visual outcomes of patients with acute new-onset Vogt-Koyanagi-Harada disease at a tertiary center in Tokyo. International Uveitis Society Group (IUSG), Ireland, April 18th-21st, 2016.
 12. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Nakayama M: Maintained remission of uveoretinitis associated with Behcet's disease after discontinuation of successful infliximab therapy. International Uveitis Society Group (IUSG), Ireland, April 18th-21th, 2016.
 13. Keino H, Nakayama N, Watanabe T, Koto T, Okada AA: Compromised optic nerve head blood flow in acute retinal necrosis. ARVO Imaging Conference, USA, April 30th, 2016.
 14. Sakono T, Meguro A, Ohno S, Sakamoto T, Tsuneoka H, Okada AA, Fukuhara T, Ohguro N, Okinami S, Mizuki N: Replication of previous genome-wide association study findings for Vogt-Koyanagi-Harada disease in a Japanese population. ARVO, USA, May 1st-5th, 2016.
 15. Tokizawa R, Inoue M, Itoh Y, Kita Y, Koto T, Hirakata A: Correlation of postoperative vision and fundus autofluorescence after vitrectomy for epiretinal membrane. ARVO, USA, May 1st-5th, 2016.
 16. Inoue M, Kunita D, Itoh Y, Hirakata A: Effect of optical diameter of intraocular lenses with intrascleral fixation in higher-order aberrations. ARVO, USA, May 2nd, 2016.
 17. 山田昌和: 自覚症状から選ぶドライアイ治療. 第5回日本視野学会, 神戸, 2016年5月14日.
 18. 高橋洋如: 硝子体手術後に悪化した糖尿病黄斑浮腫の一例. 8th Eye Center Summit. 東京, 2016年5月14日.
 19. 山田昌和: 自覚症状を重視したドライアイ治療. Ocular Surface Symposium 2016, 東京, 2016年5月15日.
 20. 山田昌和: クリニックにおける日本のドライアイの実態. 第10回箱根ドライアイクラブ, 小田原, 2016年5月20日.
 21. 平形明人: 糖尿病網膜症の病診連携. 第5回Retina Metabolic眼科・内科研究会, 東京, 2016年5月26日.
 22. 井上真: 術後眼内炎への対応 ミニシンポジウム感染症について知っておくべきこと. 第49回日本眼科講演会(東京ブロック講習会), 東京, 2016年5月28日.
 23. 井上真: 硝子体手術手技 My way. 2016 Alcon Seminar, 札幌, 2016年6月4日.
 24. Inoue M: Duke course. EVRS, Monaco, June 7th-9th, 2016.
 25. 山田昌和: 角結膜疾患の診断と治療. 東京都眼科医会卒後研修会, 東京, 2016年6月11日.
 26. 平形明人: Management of optic pit maculopathy. Tianjin International Ophthalmology Forum 2016, China, 2016年6月18日.
 27. 鈴木由美, 浜由起子, 藤原海渡, 満川忠広, 吉川泉, 富田香, 山田昌和: 部分調節性内斜視手術例の予後に関する術前因子. 第72回日本弱視斜視学会, 横浜, 2016年6月24日.
 28. 富田茜, 鈴木由美, 内田裕規, 山田昌和: 斜視手術から20年以上経って生じた化膿性肉芽腫の1例. 第72回日本弱視斜視学会, 横浜, 2016年6月24日.
 29. 重安千花, 中島貴友, 慶野博, 山根みお, 堀江大介, 朝戸裕, 山田昌和: ハンセン病における眼疾患後遺症の現状. 第50回日本眼炎症学会, 東京, 2016年7月2-3日.
 30. 中山真紀子, 慶野博, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 原田病初発例123例の臨床経過の検討. 第50回日本眼炎症学会, 東京, 2016年7月2-3日.
 31. 慶野博: ぶどう膜炎の画像検査 眼底自発蛍光. 第50回日本眼炎症学会, 東京, 2016年7月2-3日.
 32. 山田昌和: CL装用による眼表面の生化学的変化. 第59回日本コンタクトレンズ学会, 東京, 2016年7月3日.
 33. Inoue M, Hirakata A: Duration of prone positioning after macular hole surgery determined by swept source optical coherence tomography. Gonin Meeting, Bordeaux, France, July 6th-8th, 2016.
 34. 岡田アナベルあやめ: 眼炎症疾患: 最近のトピックス. 第8回眼科病診連携セミナーin佐倉, 佐倉, 2016年7月14日.
 35. 井上真: RVO黄斑浮腫に対する最新治療を考える. 第33回日本眼循環学会, 福岡, 2016年7月22日.
 36. 慶野博, 中山真紀子, 厚東隆, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: レーザースペックル法にて視神経乳頭部血流を観察できた急性網膜壊死の1例. 第33回日本眼循環学会, 福岡, 2016年7月22-24日.
 37. 北善幸: 緑内障診療におけるOCTの使い方. 第2回H&Cの会, 武蔵野, 2016年7月23日.
 38. 平形明人: 糖尿病網膜症の病診連携. 多摩眼科3Mネットワーク, 武蔵野, 2016年7月27日.
 39. 北善幸: 緑内障手術療法について. 第5回多摩眼科学術セミナー, 東京, 2016年7月27日.
 40. 井上真: 黄斑手術における術中OCTと術後所見の比較. Japan Macula Club, 蒲郡, 2016年8月27-28日.
 41. Hirakata A: Surgical Case Conference. ASRS meeting, USA, August 10th-14th, 2016.
 42. Sano M, Hirakata A, Inoue M: Unsuccessful risk factors following vitrectomy for optic pit maculopathy. ASRS meeting, USA, August 10th-14th, 2016.
 43. Inoue M, Itoh Y, Koto T, Hirakata A: Correlation of intraoperative optical coherence tomographic (iOCT) images with postoperative foveal microstructure in eyes with idiopathic macular hole. ASRS meeting, USA, August 10th-14th, 2016.
 44. Inoue M: Transplantation of vitreous cortex into the optic pit in an eye with macular retinoschisis associated with optic disc pit. ASRS 34rd Annual Meeting 2016 Film Festival ASRS meeting, USA, August 10th-14th, 2016.
 45. Inoue M: Intraoperative optical coherence

- tomography (iOCT) guided vitrectomy for lamellar macular hole. ASRS 34rd Annual Meeting 2016 Film Festival ASRS meeting, USA, August 10th-14th, 2016.
46. Inoue M: case presentation. Instruction course. ASRS meeting, USA, August 10th-14th, 2016.
 47. Nakayama M, Keino M, Watanabe T, Okada AA: Clinical features and visual outcomes of patients with acute new-onset Vogt-Koyanagi-Harada disease at a tertiary center in Tokyo. 9th International Symposium on Uveitis, Ireland, August 18th-21st, 2016.
 48. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Nakayama M: Maintained remission of uveoretinitis associated with Behcet's disease after discontinuation of successful infliximab therapy. 9th International Symposium on Uveitis, Ireland, August 18th-21st, 2016.
 49. 平形明人:杏林アイセンターのロービジョン外来を振り返って. 第17回日本ロービジョン学会総会, 新潟, 2016年8月26-28日.
 50. 山田昌和:急増するドライアイとその対策. 慶應義塾大学医学部生涯教育研修夏期特別セミナー, 東京, 2016年8月27日.
 51. 平形明人: Recommendation of "Case Reports". Capital Retina Club 1st Meeting, 東京, 2016年9月1日.
 52. Nakayama M, Yamamoto A, Okada AA: CNV in Angioid Streaks. 1st Capital Retina Club, 東京, 2016年9月1日.
 53. 山田昌和:コンタクトレンズ, 合併症や問題点のトピックス. 平成28年度コンタクトレンズ管理者講習会, 東京, 2016年9月3日.
 54. 北善幸: 緑内障検査 OCT?眼底写真?どっちが有用?. 多摩地区緑内障勉強会, AYR 2016, 立川, 2016年9月3日.
 55. 井上真:黄斑浮腫に対する最新治療アプローチを考える. いわきバイエル Educational Program, 福島, 2016年9月6日.
 56. Hirakata A: Retinaws Symposium. 16th Euretina Congress, Denmark, September 8th-11th, 2016.
 57. 北善幸:正常眼圧緑内障の診断 OCTと眼底写真 どちらが有用?. ファイザー株式会社社内勉強会, 東京, 2016年9月14日.
 58. 山田昌和:コンタクトレンズとオキュラーサーフェス. 練馬区眼科医会学術講演会, 東京, 2016年9月29日.
 59. Kita Y: Preserved retinal sensitivity in spatial correspondence to an intrachoroidal cavitation area with full thickness retinal defect. 3rd international conference on Pathologic Myopia, Tokyo, 2016年9月30日.
 60. Takahashi H, Inoue M, Koto T, Hirota K, Itoh Y, Hirakata A: Inverted internal limiting membrane flap technique for macular hole retinal detachment in highly myopic eyes. 3rd international conference of pathologic myopia. Tokyo, September 30th, - October 1st, 2016.
 61. 井上真:術中OCTを使いこなそう. 瀬戸内眼科コロシウム2016, 岡山, 2016年10月1日.
 62. 松木奈央子:飛蚊症, 網膜剥離, 糖尿病と目. 目の愛護デーTokyo Eye Festival, 東京, 2016年10月9日.
 63. Tokizawa R, Inoue M, Itoh Y, Kita Y, Koto T, Hirakata A: Evaluation of ellipsoid zone and fundus autofluorescence following vitrectomy for epiretinal membrane. AAO 2016, USA, October 15th-18th, 2016.
 64. Takahashi H, Inoue M, Koto T, Hirota K, Itoh Y, Hirakata A: Inverted internal limiting membrane flap technique for macular hole retinal detachment in highly myopic eyes. AAO 2016, USA, October 15th-18th, 2016.
 65. Hirakata A: Myopic traction maculopathy. AAO 2016, USA, October 15th-18th, 2016.
 66. 山田昌和:眼科医療の価値を科学する. 第20回中越眼科サージェリーの会, 長岡, 2016年10月19日.
 67. 井上真: PAT Survey 2016の動向について. 第19回信濃町網膜研究会, 東京, 2016年10月21日.
 68. 江本宜暢, 佐野公彦, 折原唯史, 鵜沢亮, 高橋洋如, 北善幸, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人:マイラゲルを使用した網膜復位術後10年以上の合併症とその対応. 第59回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2016年10月22日.
 69. 安藤良将, 重安千花, 山田昌和:メタゲノム解析を用いて診断に至ったフザリウム角膜炎の1例. 第59回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2016年10月22日.
 70. 平形明人:網膜硝子体手術における「Progress comes from doing the unconventional」. 慶大眼科オタムセミナー, 東京, 2016年10月23日.
 71. 平形明人:網膜分離様所見を呈する病変の手術. 第7回沼津ベイエリア眼科フォーラム, 沼津, 2016年10月27日.
 72. 井上真:小切開硝子体手術の最前線. 第18回福岡教育フォーラム, 福岡, 2016年10月29日.
 73. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊:眼科医のための臨床疫学研究デザイン塾 後ろ向きコホート研究をやってみよう. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月3日.
 74. 今野公士, 柳沼重晴, 齊藤恒浩, 近藤義之:涙管チューブプラクリファストESの使用経験. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月3日.
 75. 井上真:レチナナイトメア 無念の爪痕. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月4日.
 76. 中山真紀子, 慶野博, 渡邊交世, 岡田アナベルあやめ:AZOORにおける眼底自発蛍光の検討. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月3-16日.
 77. 柳沼重晴, 齊藤恒浩, 今野公士, 重安千花, 山田昌和:涙道閉塞手術前後の涙液動態, 涙液性状の変化. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月3日.
 78. 山田昌和:眼科医療の「価値」を科学する. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月5日.
 79. 井上真:実践27G硝子体手術「基本設定と黄斑疾患」. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月5日.
 80. 山本亜希子, 古泉英貴, 小笠原雅, 石龍鉄樹, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ:滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプトTreat & Extend法の多施設前向き研究. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月5日.
 81. 小笠原雅, 山本亜希子, 古泉英貴, 丸子一朗, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘, 石龍鉄樹:視力良好滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト硝子体注射成績. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月3-6日.
 82. 渡辺仁, 島崎潤, 横井則彦, 山田昌和:ドライアイスペシャリストの老舗こだわり講座, CL, オフィスワーカーを中心に. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月6日.
 83. 井上真:最新!糖尿病網膜症マネジメントのすべてアップデートと症例検討会「硝子体手術」. 第70回日本臨床眼科学会, 京都, 2016年11月6日.
 84. 慶野博:症例検討「徹底討論, 病的近視」. 第70回日本

- 臨床眼科学会, 京都, 2016年11月3-6日.
85. 北善幸: 明日から役立つOCTの使い方. 第19回浜松眼科フォーラム, 浜松, 2016年11月11日.
 86. 井上真: 視神経乳頭異常合併疾患への硝子体手術. 第1回Aichi Retina Meeting, 名古屋, 2016年11月12日.
 87. 井上真: 光凝固と硝子体手術の適応. RVO Expert Meeting, 京都, 2016年11月17日.
 88. 北善幸: スーチャートラベクトミー後に眼内炎をきたした1例. 第1回多摩GTO研究会, 東京, 2016年11月22日.
 89. 渡辺敏樹, 眞島行彦, 気賀沢一輝, 平形明人: 79歳で発症したレーベル遺伝性視神経症の一症例. 第54回日本神経眼科学会, 宮崎, 2016年11月25日.
 90. 平形明人: 網膜分離様所見を呈する病変の手術. Retina Forum 2016 in SAPPORO, 札幌, 2016年11月26日.
 91. Inoue M: Surgical approach to massive submacular hemorrhage. PCV Summit 2016, China, November 26th-27th, 2016.
 92. 山田昌和: 角結膜疾患の薬物治療: 薬剤の選択と使い方. 第174回岡山県眼科医会生涯教育講座, 岡山, 2016年11月27日.
 93. 北善幸: 緑内障診断に役立つOCTの利用法. 東多摩地区学術講演会, 武蔵野, 2016年11月30日.
 94. 高橋洋如, 井上真, 厚東隆志, 廣田和成, 伊東祐二, 平形明人: 強度近視眼の黄斑円孔網膜剥離への強膜短縮併用硝子体手術. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2-4日.
 95. 佐野公彦, 井上真, 伊東祐二, 北善幸, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: 増殖糖尿病網膜症における25ゲージ手術と27ゲージ手術の比較検討. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2-4日.
 96. 江本宜暢, 佐野公彦, 折原唯史, 鴫沢亮, 高橋洋如, 北善幸, 伊東祐二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: マイラゲルを使用した網膜復位術後長期間経過した症例の合併症とその対応. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2-4日.
 97. 望月司, 佐野公彦, 折原唯史, 北善幸, 伊東祐二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 硝子体手術を施行した白内障術後眼内炎の起因菌と手術成績の推移. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2-4日.
 98. 古泉英貴, 山本亜希子, 小笠原雅, 長谷川泰司, 丸子一朗, 荒川久弥, 板垣可奈子, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹, 飯田知弘: 滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト療法後の網膜色素上皮萎縮. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2日.
 99. 山内康行, 望月潤一, 小林円, 袖山丈男, 平形明人, 宇多重員: 進行した白内障眼における網膜電位図の変化. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2-4日.
 100. Koizumi H, Yamamoto A, Ogasawara M, Itagaki K, Maruko I, Sekiryu T, Okada AA, Iida T: Two-year outcomes of aflibercept therapy for polypoidal choroidal vasculopathy. Idiopathic polypoidal choroidal vasculopathy, at the 10th Asia-Pacific Vitreo-Retina Society Congress, Thailand, December 8th-10th, 2016.
 101. Sano M, Inoue M, Itoh Y, Kita Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Comparison of 27-gauge and 25-gauge vitrectomy. 10th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society, Thailand, December 8th-10th, 2016.
 102. Kita Y, Inoue M, Sano M, Koto T, Hirakata A: Foveal avascular zone area after macular hole surgery with internal limiting membrane peeling. The 10th Asia-Pacific Vitreo-Retina Society, Thailand, December 8th-10th, 2016.
 103. 岡田アナベルあやめ: 非感染性ぶどう膜炎. 東京都眼科医会卒後研修研究会, 東京, 2016年12月10日.
 104. 平形明人: 網膜分離様所見を呈する病変の手術. 第17回三重県眼科手術懇話会, 津, 2016年12月11日.
 105. 平形明人: 糖尿病網膜症の治療戦略. 2th多摩 Evening Eye Conference, 多摩, 2016年12月14日.
 106. 平形明人: 網膜分離様所見を呈する病変の手術. 第45回名古屋大学眼科集談会, 名古屋, 2016年12月17日.
 107. 平形明人: 網膜疾患. 平成28年度東京都眼科医会卒後研修会, 東京, 2017年1月7日.
 108. 北善幸: 意外と身近な緑内障 その怖さ知っていますか... 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2017年1月21日.
 109. 北善幸: 緑内障診断と治療. 大塚製薬招聘勉強会, 三鷹, 2017年2月23日.
 110. 北善幸: 緑内障診断と治療. 参天製薬社内研修会, 立川, 2017年1月26日.
 111. 山田昌和: 知覚過敏, 知覚鈍麻とドライアイ. 中野区医師会眼科分科部学術講演会, 東京, 2017年2月1日.
 112. 平形明人: 糖尿病網膜症のチーム医療. 豊島区糖尿病医療連携ネットワーク研修会, 東京, 2017年2月3日.
 113. 五月女典久, 齋藤恒浩, 北善幸: アトピー性皮膚炎合併の落屑緑内障に対する線維柱帯切除術後に眼内炎が生じた1例. 14th Tokyo Glaucoma Retina Joint Conference, 東京, 2017年2月3日.
 114. 井上真: 硝子体手術でのcutting edge. 第172回宮崎県眼科医会講習会, 宮崎, 2017年2月4日.
 115. 中山真紀子, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ: 抗VEGF療法にも光線力学療法にも抵抗を示した症例. AMD Update Seminar Part2, 東京, 2017年2月4日.
 116. 山田昌和: 成人眼科検診の有用性, 実施可能性に関する研究. 厚生労働科学研究, 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究, 平成28年度研究成果発表会, 東京, 2017年2月7日.
 117. 山田昌和: 前眼部形成異常の診断基準. 第41回日本角膜学会, 福岡, 2017年2月16日.
 118. 岡田アナベルあやめ: 生物学製剤: 眼科医のための基本知識. 第17回網膜ラウンジ, 東京, 2017年2月18日.
 119. 安藤良将, 重安千花, 慶野博, 大田学, 山田昌和: 散瞳薬による重症眼瞼皮膚炎と偽膜性結膜炎を生じた1例. 角膜カンファレンス2017, 福岡, 2017年2月16-18日.
 120. 柳沼重晴, 齋藤恒浩, 今野公士, 重安千花, 山田昌和: 涙道閉塞例の涙液成分の変化. 角膜カンファレンス2017, 福岡, 2017年2月16-18日.
 121. 名畑浩昌, 秋山陽一, 重安千花, 山田昌和: スリット型スペキュラーマイクロスコープを用いた角膜内皮の評価. 角膜カンファレンス2017, 福岡, 2017年2月16-18日.
 122. 津田麻祐子, 重安千花, 山田昌和: 先天性遺伝性角膜実質ジストロフィと考えられた1例. 角膜カンファレンス2017, 福岡, 2017年2月17日.
 123. 井上真: 黄斑下出血に対する術中OCTガイド硝子体手術. Vitrectomy Winter Meeting 2017, 虻田, 2017年2月20日-22日.
 124. 山田昌和: なみだの秘密, はじめの一步. 第5回D&D東京, 東京, 2017年2月23日.
 125. 平形明人: 杏林アイセンターのロービジョン外来を振り返って. 済生会新潟第2病院眼科市民公開講座2017, 新潟, 2017年2月25日.
 126. 山田昌和: 外部環境に起因するドライアイの診断と治療. 長崎県眼科医会学術講演会, 長崎, 2017年2月25日.

127. 井上真：患者紹介を受ける立場から-網膜硝子体手術. 第95回岡山大学眼科研究会, 岡山, 2017年2月25日.
128. Inoue M: Surgical Technique: Tips and Tricks; Macular Surgery for Intraoperative OCT. APAO, Singapore, March 1st-5th, 2017.
129. 中山真紀子, 岡田アナベルあやめ: 抗TNF- α 製剤の新時代におけるブドウ膜炎治療. 眼疾患を呼ぶ会, 東京, 2017年3月2日.
130. 平形明人: 硝子体手術MIVSへの道. 第3回城西武蔵野眼科講演会, 東京, 2017年3月8日.
131. 山田昌和: 角結膜疾患の診断と治療. 第3回城西武蔵野眼科講演会, 東京, 2017年3月8日.
132. 北善幸: 角膜移植術後眼に生じた裂孔原性網膜剥離の1例. 網膜硝子体 竹内塾!, 東京, 2017年3月10日.
133. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群に対する治療up date. Osaka Retina Meeting, 大阪, 2017年3月11日.
134. 北善幸: 緑内障診療におけるOCTの有用性とその注意点. 第264回長野県眼科医会集談会, 松本, 2017年3月12日.
135. 山田昌和: 眼科領域での予防医学の推進と公的眼科検診の必要性. 平成28年度日本眼科医療機器協会総会, 東京, 2017年3月24日.
136. 井上真: 術中OCTを用いた硝子体手術. キンキVitsの会, 神戸, 2017年3月25日.
137. Okada AA: Behcet's Disease: Ocular Manifestations and Advances in Treatment. 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, March 27th, 2017.
138. 平形明人: 杏林アイセンターのロービジョン外来を振り返って. 東多摩ロービジョンケアセミナー, 武蔵野, 2017年3月30日.
139. 井上真: 10Kベベルドカッター. 第20回信濃町研究会, 東京, 2017年3月31日.
- 論文**
1. Abouammoh MA¹, Alsulaiman SM², Gupta VS², Mousa A¹, Hirakata A, Berrocal MH³, Chenworth M³, Chhablani J⁴, Oshima Y⁵, AlZamil WM⁶, Casella AM⁷, Papa-Oliva G⁸, Banker AS⁹, Arevalo JF¹⁰; King Khaled Eye Specialist Hospital International Collaborative Retina Study Group (¹King Saud University, ²King Khaled Eye Specialist Hospital, ³University of Puerto Rico, ⁴Smt. Kanuri Santhamma Retina Vitreous Centre, ⁵Oshima Eye Clinic, ⁶King Fahad Hospital of the University, ⁷Universidade Estadual de Londrina, ⁸Hospital Miguel Perez Carreno- IVSS, ⁹Banker's Retina Clinic and Laser Centre, ¹⁰King Khaled Eye Specialist Hospital): Pars plana vitrectomy with juxtapapillary laser photocoagulation versus vitrectomy without juxtapapillary laser photocoagulation for the treatment of optic disc pit maculopathy: the results of the KKESH International Collaborative Retina Study Group. *Br J Ophthalmol* 100:478-483, 2016.
2. Nakanishi A¹, Ueno S¹, Hayashi T², Katagiri S², Kominami T¹, Ito Y¹, Gekka T², Masuda Y², Tsuneoka H², Shinoda K³, Hirakata A, Inoue M, Fujinami K⁴, Tsunoda K⁴, Iwata T⁴, Terasaki H¹ (¹Nagoya University Graduate School of Medicine, ²The Jikei University, ³Teikyo University, ⁴National Hospital Organization): Clinical and genetic findings of autosomal recessive bestrophinopathy in Japanese cohort. *Am J Ophthalmol* 168:86-94, 2016.
3. Endo H¹, Ishii H², Tsuchiya H², Takahashi Y², Inaba Y², Nishino Y², Hirakata A, Kubota H² (¹Department of Cardiovascular Surgery, Kyorin University, ²Department of Cardiovascular Surgery, Kyorin University): Observations of retinal vessels during intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion in clinical cases. *Interact Cardiovasc Thorac Surg* 23(2):259-265, 2016.
4. Ogura Y, Shiraga F, Terasaki H, Ohji M, Ishida S, Sakamoto T, Hirakata A, Ishibashi T: Clinical practice pattern in management of diabetic macular edema in Japan: survey results of Japanese retinal specialists. *Jpn J Ophthalmol* 61:43-50, 2016.
5. 江内田寛, 平形明人, 大路正人, 西田幸二, 久保田敏昭, 緒方奈保子, 園田康平, 内山麻希子, 岸本淳司, 戸高浩司, 中西洋一, 石橋達朗: A0001 (プリリアントブルー-G250)の内境界膜染色と剥離に対する有効性と安全性の検討-多施設共同第III相医師主導治験. *日本眼科学会雑誌* 120:439-448, 2016.
6. Yamauchi Y, Mochizuki JI, Hirakata A, Uda S: Single flash electroretinograms of mature cataractous and fellow eyes. *Clin Ophthalmol* 10:2031-2034, 2016.
7. Higashi K, Meguro A, Takeuchi M, Yamane T, Kitaichi N, Horie Y, Namba K, Ohno S, Nakao K, Sakamoto T, Sakai T, Tsuneoka H, Keino H, Okada AA, Takeda A, Fukuhara T, Mashimo H, Ohguro N, Ohno S, Enaida H, Okinami S, Mizuki N: Investigation of association between IL10 gene polymorphisms and Vogt-Koyanagi-Harada disease in a Japanese population. *Ophthalmic Genet* 4:1-3, 2016.
8. Koizumi H, Yamamoto A, Maruko I, Okada AA, Iida T, Kano M, Saito M, Sekiryu T, Kawasaki R: Author Reply regarding "Short-term changes in choroidal thickness after aflibercept therapy for neovascular age-related macular degeneration. *Am J Ophthalmol* 168:287-288, 2016.
9. Nakamura T, Keino H, Okada AA: SUB-TENON TRIAMCINOLONE ACETONIDE INJECTION IN A PREGNANT PATIENT WITH VOGT-KOYANAGI-HARADA DISEASE. *Retin Cases Brief Rep*, 2016. (in press).
10. Tano T, Ono K, Hiratsuka Y, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Kikuchi S, Onishi Y, Takegami M, Yamada M, Fukuhara S, Murakami A. Retinal vessel diameters in a Japanese population: the Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Acta Ophthalmol*. 94(6):e432-e441, 2016.
11. Kawashima M, Hiratsuka Y, Nakano T, Tamura H, Ono K, Murakami A, Inoue S, Tsubota K, Yamada M: The association between legal Japanese visual impairment grades and vision related quality of life. *Jpn J Ophthalmol*. 60:219-225, 2016.
12. Nakano T, Kawashima M, Hiratsuka Y, Tamura H, Ono K, Murakami A, Tsubota K, Yamada M: Assessment of quality of life in patients with visual impairments using a new visual function questionnaire: the VFQ-J11. *Clin Ophthalmol*. 10:1939-1944, 2016.
13. 高静花, 小島隆司, 山田昌和, 横井則彦, 渡辺仁: CLとドライアイ. *日コレ誌* 58: 24-30, 2016.
14. 山田昌和: 上輪部角結膜炎. *あたらしい眼科* 33:1461-1462, 2016.
15. 木下茂, 新家真, 杉山和久, 横井則彦, 山田昌和: 緑内障とドライアイ. *Frontiers in Dry Eye* 11: 94-101, 2016.
16. 山田昌和: 結膜弛緩症と上輪部角結膜炎の手術治療. *日本の眼科* 87:1615-1616, 2016.

17. Sano M, Inoue M, Itoh Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Efficacy of higher cutting rates during micro incision vitrectomy for proliferative diabetic retinopathy. *Eur J Ophthalmol* 26(4):364-368, 2016.
18. Nakanishi A, Ueno S, Hayashi T, Katagiri S, Kominami T, Ito Y, Gekka T, Masuda Y, Tsuneoka H, Shinoda K, Hirakata A, Inoue M, Fujinami K, Tsunoda K, Iwata T, Terasaki H: Clinical and Genetic Findings of Autosomal Recessive Bestrophinopathy in Japanese Cohort. *Am J Ophthalmol.* 168:86-94, 2016.
19. Sano M, Inoue M, Itoh Y, Kita Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Duration of prone positioning after macular hole surgery determined by swept source optical coherence tomography. *Retina.* 2016. (Epub ahead of print).
20. 折原唯史, 廣田和成, 横田怜二, 國田大輔, 伊東裕二, 利井東昇, 厚東隆志, 平岡智之, 井上真, 平形明人: 強度近視眼の有水晶体眼における裂孔原性網膜剥離の特徴. *日眼会誌* 120:382-389, 2016.
21. 津田麻祐子, 富田茜, 佐野公彦, 柳沼重晴, 井上真, 山口竜一, 平形明人: 網膜血管腫の治療中に脳腫瘍症状を発症した von Hippel-Lindau 病の一例. *眼科* 58(10):1085-1092, 2016.
22. Kunita D, Inoue M, Koto T, Hirakata A: Retinal detachment associated with peripapillary staphyloma imaged with swept source optical coherence tomography. *Retin Cases Brief Rep.* 2017. (Epub ahead of print).
23. Kita Y, Inoue M, Holló G, Kita R, Sano M, Hirakata A: Preserved retinal sensitivity in spatial correspondence to an intrachoroidal cavitation area with full thickness retinal defect: a case report. *BMC Ophthalmology.* 16:186, 2016. DOI:10.1186/s12886-016-0362-6.
24. 北善幸: 海外医学情報 3Dボリュームスキャンを用いた視神経乳頭周囲網膜厚の緑内障診断力. *日本の眼科* 87:1498-1499, 2016
25. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Echizen N, Inoue M, Takayama N, Nagane M: Spectral-domain Optical Coherence Tomography Patterns in Intraocular Lymphoma. *Ocul Immunol Inflamm.* 24(3):268-273, 2016.
26. 渡辺交世, 慶野博, 宮東昭彦¹, 佐藤泰彦², 岡田アナベルあやめ¹(¹杏林大・医・解剖学, ²杏林大・医・共同研究施設RI部門): 外国誌要覧 実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎における眼局所のmicroRNAの発現. *日本眼科学会雑誌* 120:465, 2016.
27. 慶野博: 前房関連免疫偏位(ACAID)と制御性T細胞 眼を介した免疫寛容. *医学のあゆみ* 256(13):1262-1266, 2016.
28. 慶野博: 強膜炎. *Oculista.* 37:33-40, 2016.
29. 慶野博: その他の黄斑浮腫に対する薬物療法. *Oculista.* 41:17-24, 2016.
30. Shigeyasu C, Yamada M, Akune Y¹, Fukui¹ (¹Division for Vision Research, National Institute of Sensory Organs, National Hospital Organization Tokyo Medical Center): Diqafosol for Soft Contact Lens Dryness: Clinical Evaluation and Tear Analysis. *Optom Vis Sci.* 93:973-978, 2016.
31. Tsuda M, Takano Y¹, Shigeyasu C, Imoto S², Yamada M (¹Department of Ophthalmology, Kawasaki Municipal Ida Hospital, ²Department of Breast Surgery): Abnormal Corneal Lesions Induced by Trastuzumab Emtansine: An Antibody-Drug Conjugate for Breast Cancer. *Cornea.* 35:1378-1380, 2016.
32. Shimazaki J¹, Shigeyasu C, Saijo-Ban Y¹, Dogru M¹, Den S¹ (¹Department of Ophthalmology, Tokyo Dental College, Ichikawa General Hospital): Effectiveness of bandage contact lens application in corneal epithelialization and pain alleviation following corneal transplantation; prospective, randomized clinical trial. *BMC Ophthalmol.* 16:174, 2016.
33. Shigeyasu C, Yamada M, Akune Y¹ (¹Division for Vision Research, National Institute of Sensory Organs, National Hospital Organization Tokyo Medical Center): Influence of Ophthalmic Solutions on Tear Components. *Cornea.* 35(Suppl 1):S71-S77, 2016.
34. 秋山陽一, 鈴木由美, 吉川泉, 浜由紀子, 富田香, 成田圭吾, 尾崎峰, 山田昌和: 巨大眼瞼部乳児血管腫を伴い不同視弱視治療を要した乳児例. *眼科臨床紀要* 9(7):581-586, 2016
35. 鈴木由美, 山田昌和: 斜視診断の基本(部分)調節性内斜視. *あたらしい眼科* 33(12):1681-1686, 2016.
36. 渡辺敏樹, 気賀沢一輝, 宮崎泰, 平形明人: 視神経萎縮で発見された神経梅毒の一症例. *神経眼科* 33:385-391, 2016.
37. 今野公士, 山田昌和, 重安千花, 近藤義之¹(¹近藤眼科): 周術期2%レバミピド点眼液による白内障術前後の眼表面保護効果. *あたらしい眼科* 33:589-593, 2016.
38. 重安千花, 山田昌和: 細隙灯顕微鏡とデジタルフォトリットマイクロスコープ(解説/特集). *眼科* 58(11):1121-1126, 2016.
39. Cunningham ET, Tugal-Tutkun I, Khairallah M, Okada AA, Bodaghi B, Zierhut M: Behcet uveitis [Editorial]. *Ocular Immunol Inflamm* 25:2-6, 2017.
40. 岡田アナベルあやめ, 蕪城俊克: 生物学的製剤の時代における非感染性ぶどう膜炎の治療戦略. *あたらしい眼科* 34:461-462, 2017.
41. Yamamoto A¹, Okada AA¹, Nakayama M¹, Yoshida YI², Kobayashi H^{1,3} (¹Department of Ophthalmology, Kyorin University Hospital, ²Kosei Hospital, ³Juntendo University Hospital): One-year outcomes of a treat-and-extend regimen of aflibercept for exudative age-related macular degeneration. *Ophthalmologica*, 2017. DOI: 10.1159/000458538. (in press).
42. Fukuhara D, Takiura T, Keino H, Okada AA, Yan K: Iatrogenic Cushing's Syndrome Due to Topical Ocular Glucocorticoid Treatment. *Pediatrics*, 2017. (in press).
43. Tsubota K, Yokoi N, Shimazaki J, Watanabe H, Dogru M, Yamada M, Kinoshita S, Kim HM, Tchah HW, Hyon JY, Yoon KC, Seo KY, Sun X, Chen W, Liang L, Mingwu L, Liu Z: New Perspectives on Dry Eye Definition and Diagnosis: A Consensus Report by the Asia Dry Eye Society. *Ocul Surf.* 15:65-76, 2017.
44. Kita Y, Soutome N, Horie D, Kita R, Holló G: Circumpapillary ganglion cell complex thickness to diagnosis glaucoma: A pilot study. *Indian Journal of Ophthalmology.* 65(1):41-47, 2017
45. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Nakayama M, Nakamura T: Efficacy of Infliximab for Early Remission Induction in Refractory Uveoretinitis Associated with Behcet Disease: A 2-year Follow-up Study. *Ocul Immunol Inflamm.* 25(1):46-51, 2017.
46. Keino H, Watanabe T, Taki W, Nakayama M, Nakamura T, Yan K, Okada AA: Clinical features of uveitis

in children and adolescents at a tertiary referral centre in Tokyo. Br J Ophthalmol. 101(4):406-410, 2017.

47. Ando Y, Hirakata A, Ohara A¹, Yokota R, Orihara T, Hirota K, Koto T, Inoue M: Vitrectomy and scleral imbrication in patients with myopic traction maculopathy and macular hole retinal detachment. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 255(4):673-680, 2017. (Epub)
48. Kawashima M¹, Yamada M, Suwaki K², Shigeyasu C, Uchino M¹, Hiratsuka Y³, Yokoi N⁴, Tsubota K¹; DECS-J Study Group (¹Department of Ophthalmology, Keio University School of Medicine, ²Santen Pharmaceutical Co., Ltd, ³Department of Ophthalmology, Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁴Department of Ophthalmology, Kyoto Prefectural University of Medicine): A Clinic-based Survey of Clinical Characteristics and Practice Pattern of Dry Eye in Japan. Adv Ther. 34:732-743, 2017.

著書

1. 厚東隆志, 平形明人: 近視性牽引黄斑症 治療/硝子体手術(総論). 専門医のための眼科診療クオリファイ28 近視の病態とマネジメント. 大野京子編. 東京, 中山書店, 2016. p. 225-230.
2. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 野田徹: 今日の眼疾患治療指針第3版. 東京, 医学書院, 2016.
3. 慶野博: 真菌性眼内炎. 今日の眼疾患治療指針第3版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 野田徹編. 東京, 医学書院, 2016. p. 434-435.
4. 慶野博: 全眼球炎. 今日の眼疾患治療指針第3版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 野田徹編. 東京, 医学書院, 2016. p. 436.
5. 平形明人: 乳頭小窩(ピット)黄斑症候群. 今日の眼疾患治療指針第3版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 野田徹編. 東京, 医学書院, 2016. p. 553-555.
6. 平形明人: 朝顔症候群. 今日の眼疾患治療指針第3版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 野田徹編. 東京, 医学書院, 2016. p. 555-556.
7. 平形明人: 超広角眼底撮影(Optos®). 眼科診療マイスターI 診察と検査. 飯田知弘, 中澤徹, 堀裕一編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 198-203.
8. 井上真: 近視性牽引黄斑症に対する黄斑バックル・強膜短縮術. Monthly Book OCULISTA 36. 東京, 全日本病院出版会, 2016. p. 27-30.
9. 廣田和成, 平形明人: 網膜・硝子体の救急. Monthly Book OCULISTA 44. 東京, 全日本病院出版会, 2016. p. 26-34.
10. 平形明人: 網膜剥離を合併する視神経乳頭異常. 眼科診療マイスターII 診断と治療. 飯田知弘, 中澤徹, 堀裕一編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 226-233.
11. 山田昌和: 涙液油層の成分とその評価. マイボーム腺機能不全(MGD)の診断と治療. 坪田一男編. 東京, 金原出版, 2016. p. 93-99.
12. 根木昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和: 眼科検査ガイド第2版. 東京, 文光堂, 2016.
13. 山田昌和: 前眼部写真の撮影法. 眼科検査ガイド第2版. 根木昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和編. 東京, 文光堂, 2016. p. 379-380.
14. 野田徹, 井上真: 網膜硝子体のスリットランプ検査. 眼科検査ガイド第2版. 根木昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和編. 東京, 文光堂, 2016. p. 476-483.
15. 柳沼重晴, 今野公士: 眼球突出計. 眼科検査ガイド第2版. 根木昭, 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和編. 東京, 文光堂, 2016. p. 344-345.
16. 井上真: 硝子体手術とは そして注意すべきこととは?. 知っているようで知らない新しい糖尿病網膜症診療. 石田晋編. 東京, メジカルビュー社, 2016. p. 118-125.
17. 井上真: 若年性網膜分離症. 眼科疾患最新の治療2016-2018. 大橋裕一, 白神史雄, 村上晶編. 東京, 南江堂, 2016. p. 208.
18. 慶野博: 中間部ぶどう膜炎. 眼科疾患最新の治療2016-2018. 大橋裕一, 白神史雄, 村上晶編. 東京, 南江堂, 2016. p. 256.
19. 井上真: 黄斑下出血のマネジメント. 眼科 鼻涙管狭窄の外科治療アップデート. 東京, 金原出版, 2016. p. 853-857.
20. 慶野博: ぶどう膜炎 OCT. 眼科診療マイスターI 診察と検査. 飯田知弘, 中澤徹, 堀裕一編. 東京, メジカルビュー社, 2016. p. 240-243.
21. 北善幸: 格子状変性巣内の萎縮性円孔による網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 78-81.
22. 北善幸: 多発円孔による網膜剥離(強度近視眼). どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 96-100.
23. 北善幸: 高齢者の格子状変性巣内円孔による網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 122-125.
24. 北善幸: 硝子体出血合併の網膜剥離(LASIK眼). どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 157-159.
25. 北善幸: 先天性白内障術後無水晶体眼網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 199-202.
26. 井上真, 慶野博: 裂孔不明の全剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 203-207.
27. 井上真: 裂孔厳正網膜剥離の硝子体手術とバックリング手術. 眼科診療マイスターIII 処置と手術手技. 飯田知弘, 中澤徹, 堀裕一編. 東京, メジカルビュー, 2017. p. 179-183.
28. 井上真: スリットを用いた網膜硝子体の観察. Monthly Book OCULISTA 46. 東京, 全日本病院出版会, 2017. p. 31-36.
29. 井上真: ICCを伴った網膜剥離. 眼科臨床エキスパート画像診断から考える病的近視診療. 大野京子, 前田直之, 吉村長久編. 東京, 医学書院, 2017. p. 174-176.
30. 慶野博: 蛍光眼底造影. 眼科グラフィックス vol.6. 大阪, メディカ出版, 2017. p. 139-147.

その他

1. 平形明人: 眼科検診における画像検査の進歩. 各科臨床のトピックス. 日本医師会雑誌雑誌 145:282-284, 2016.
2. 平形明人: 目の病気 最新情報, 糖尿病網膜症, 加齢黄斑変性. NHKきょうの健康, 9月号, p. 42-49, 2016.
3. 平形明人: 目の病気 最新情報, 糖尿病網膜症, 加齢黄斑変性. NHKきょうの健康, テレビ出演, 2016年8月31日-9月1日.
4. 平形明人: 眼底疾患の手術治療. テレビ東京 話題の医学, テレビ出演, 2016年10月23日.
5. 平形明人: 強度近視の牽引性黄斑症. Retina Medicine vol.5秋号, 東京, 先端医学社, 2016. p. 67-73.
6. 平形明人: 目の健康を守る(インタビュー). 日本経済新聞11月10日夕刊, p12, 2016.

7. 平形明人: 目の病気 最新情報, 糖尿病網膜症, 加齢黄斑変性. NHKきょうの健康より抜粋, p. 5-8, ノバルティスファーマ株式会社, 2016.
8. 平形明人: 硝子体手術を極める 座長. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2016年12月2-4日.
9. 山田昌和: 分担研究者. 平成27年度厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業), 希少難治性角膜疾患の疫学調査(H27-難治等(難)一般-072)報告書, 2016年.
10. 山田昌和: 40歳を越えたら眼科検診を. 日刊ゲンダイ, 2016年9月15日号.
11. 山田昌和: ドライアイ, 予防対策の要は三つの「コン」. 朝日新聞, 2016年10月12日号.
12. 平形明人: 網膜硝子体手術. 週刊朝日MOOK手術数でわかるいい病院2017, p. 109, 朝日新聞出版, 2016.
13. 岡田アナベルあやめ: 非感染性ぶどう膜炎に新たな生物学製剤が承認(巻頭言). 日本眼科学会雑誌 121: 3-5, 2017.
12. Watanabe I, Nakagawa H, Kubomura I, Matsuda T, Kohno N, Kono T, Saito K: Salvage phonosurgery after excessive injection of autologous fat into the vocal fold. 2016 Joint Meeting of the World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology & the International Bronchoesophagological Society (19th WCBIP/WCBE World Congress), Italy, May 8th-11th, 2016.
13. Kono T, Saito K, Ogawa K: Phonosurgical resection via the submucosal infusion: therapeutic method for laryngeal precancerosis. 2016 Joint Meeting of the World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology & the International Bronchoesophagological Society (19th WCBIP/WCBE World Congress), Italy, May 8th-11th, 2016.
14. Kohno N: Consensus and future perspective for sentinel node navigation surgery for head, neck, lung cancer. 2016 Joint Meeting of the World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology & the International Bronchoesophagological Society (19th WCBIP/WCBE World Congress), Italy, May 8th-11th, 2016.

耳鼻咽喉科学教室

講演

1. 唐帆健浩: 嚥下造影検査の実際と観察のポイント. 第13回日本耳鼻咽喉科学会嚥下障害講習会, 東京, 2016年4月3日.
2. 齋藤康一郎: 喉頭乳頭腫の診かた. 東京医科大学医療連携耳鼻咽喉科カンファレンス, 東京, 2016年4月7日.
3. 岩丸有史, 齋藤康一郎, 座間猛: 肺癌特異的メチル化DNA領域を利用した肺癌早期診断技術. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016年4月14-16日.
4. Matsumoto Y, Sakurai Y, Kogashiwa Y, Saito K: Cetuximab inhibits migration, invasion, metastasis and epithelial-mesenchymal transition but not proliferation via GEP100-Arf6-AMAP1 pathway in head and neck squamous cell carcinoma. Annual Meeting of American Association for Cancer Research, USA, April 16th-20th, 2016.
5. 小野修平: 鼓室型グロームス腫瘍の一例. 第25回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年4月23日.
6. 渡邊格: 当院における日帰り外来喉頭手術. 第25回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年4月23日.
7. 茂呂順久: 内視鏡下手術を行った両側先天性後鼻孔閉鎖症の1例. 第25回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年4月23日.
8. 佐藤大: 当科における頭頸部腫瘍の外科治療(特に機能温存手術). 第25回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年4月23日.
9. 池田哲也: 耳鼻咽喉科領域における歯科口腔外科疾患. 第25回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年4月23日.
10. 齋藤康一郎: 喉頭領域の日常診療を巡るトピックス. 武蔵野市医師会学術講演会, 武蔵野, 2016年4月27日.
11. Ikeda T, Yokoi H, Kohno N, Saito K: Imbalance of autonomic nerve system to induce malignant transformation in oropharyngeal leukoplakia. 2016 Joint Meeting of the World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology & the International Bronchoesophagological Society (19th WCBIP/WCBE World Congress), Italy, May 8th-11th, 2016.
15. 茂呂順久, 佐藤大, 笠倉奈津子, 松本吉史, 濱之上泰裕, 齋藤康一郎: 傍腫瘍性神経症候群の合併が示唆された頭頸部癌の2例. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月18-21日.
16. 横井秀格, 川田往嗣, 松本祐磨, 山中英敬, 齋藤康一郎: 内視鏡下副鼻腔手術を施行した眼症状を併発する鼻副鼻腔疾患の臨床的検討. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月18-21日.
17. 富岡拓矢, 松延毅, 奥雄介, 平井絢子, 金信秀, 木下尚之, 笠倉奈津子, 齋藤康一郎: 頭直達鏡操作時に心停止を来した一例. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月18-21日.
18. 唐帆健浩: 耳鼻咽喉科領域のリハビリテーションー現状とEBMを求めてー. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月18-21日.
19. 横井秀格: United airway disease-耳鼻咽喉科からみた臨床像と治療, および歯性副鼻腔炎の最新の治験について. 東京都耳鼻咽喉科医学学術講演会, 東京, 2016年6月11日.
20. 佐藤大: 頭頸部癌における施設経験を踏まえた治療の実際. 第二回若手頭頸部癌治療検討会, 東京, 2016年6月14日.
21. Masuda M, Matsumoto J, Nakamura T, Matsuda T, Kohno N, Saito K: The impact of postoperative antrum pneumatization on hearing outcome after canal wall-down tympanoplasty with softwall reconstruction for cholesteatoma. 10th International Conference on Cholesteatoma & Middle Ear Surgery (CHOLE2016), UK, June 5th-8th, 2016.
22. 横井秀格, 児玉悟, 齋藤康一郎: 左眼窩先端部の腫瘍性病変を認めた鼻副鼻腔サルコイドーシスの一例. 第28回日本頭底外科学会, 大阪, 2016年6月14-17日.
23. Yokoi H: A case of sinonasal sarcoidosis in which neoplastic lesion in left orbital apex was confirmed. 7th International Congress of the World Federation of Skull Base Societies, Osaka, June 15th-17th, 2016.
24. 尾川昌孝, 横井秀格, 濱之上泰裕, 唐帆健浩, 齋藤康一郎: 顔面瘻孔を生じた歯性感染症例の8例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 鹿児島, 2016年6月23-24日.
25. 横井秀格, 児玉悟, 齋藤康一郎: 左眼窩先端部の腫瘍性

- 病変を認めた鼻副鼻腔サルコイドーシスの一例. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 鹿児島, 2016年6月23-24日.
26. 齋藤康一郎: 気管切開および経皮的気道確保の適応と注意点. 第42回日耳鼻夏期講習会, 軽井沢, 2016年7月2-3日.
 27. Yokoi H, Matsumoto Y, Kawada M, Takato Y, Shinagawa K, Saito K: The involvement of CCD-Specific IgE antibodies in pollen allergy testing. 26th Congress of the European Rhinologic Society, Sweden, July 3rd-7th, 2016.
 28. Matsumoto Y: Involvement of Gastrin-Releasing Peptide in Allergic Rhinitis. 26th Congress of the European Rhinologic Society, Sweden, July 3rd-7th, 2016.
 29. 池田哲也, 萬知子, 森山久美, 田村まどか, 加賀あかり, 齋藤康一郎: 当院における周術期管理外来での口腔衛生評価の取り組み. 第53回日本外科代謝栄養学会学術集会, 東京, 2016年7月7-9日.
 30. 齋藤康一郎: 音声障害の診断と治療. 調布市耳鼻科医会学術講演会, 調布, 2016年7月26日.
 31. 横井秀格: Extended transsphenoidal approach—鼻副鼻腔の解剖と頭蓋底へのcorridor作成—. 第22回杏林大学脳神経外科学教室多摩微小解剖セミナー, 三鷹, 2016年7月29日-8月1日.
 32. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の治療～根治的治療に向けての新しいダニ舌下免疫療法～. 城東SLIT Forum 2016～アテシア®ダニ舌下錠 講演会～, 東京, 2016年8月5日.
 33. 池田哲也: 耳鼻咽喉科領域における菌性感染症. 第7回多摩杏林耳鼻科会, 武蔵野, 2016年8月6日.
 34. 佐藤大, 齋藤康一郎: 口腔底癌術後の組織欠損に対し鎖骨上動脈島状皮弁 (SCAIF) で再建を行った1例. 第29回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会, 松江, 2016年9月8-9日.
 35. 池田哲也, 甲能直幸, 横井秀格, 齋藤康一郎: 当院における周術期管理外来での口腔衛生評価の取り組み. 第29回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会, 松江, 2016年9月8-9日.
 36. Uno K, Saito K, Yabe H, Kono T, Ogawa K: Multidisciplinary Team Approach for Safe Airway Management. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting (AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO 2016), USA, September 18th-21st, 2016.
 37. Watanabe I, Nakagawa H, Kono T, Saito K: Salvage Phonosurgery for Over-Injected Autologous Fat. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting (AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO 2016), USA, September 18th-21st, 2016.
 38. Kono T, Yabe H, Uno K, Ogawa K, Saito K: Vocal Function after Laser Surgery for Laryngeal Papillomatosis. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting (AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO 2016), USA, September 18th-21st, 2016.
 39. Saito K, Hachiya A, Iino Y, Uno K, Yabe H, Kono T, Tsuji D: Vocal Function Glottic Cancer: Japan x Brazil Project. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting (AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO 2016), USA, September 18th-21st, 2016.
 40. 松田昌之: 動眼神経麻痺を生じた慢性副鼻腔炎の一例. 第26回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年10月1日.
 41. 齋藤伸夫: 局所麻酔下の声門閉鎖術. 第26回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年10月1日.
 42. 永藤裕: 水中内視鏡下後鼻神経切断術. 第26回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年10月1日.
 43. 池田哲也: 周術期管理外来において口腔内評価を行い判明した疾患による口腔衛生状態の差. 第26回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2016年10月1日.
 44. 増田正次, 大石直樹, 松田雄大, 藤岡正人, 中村健大, 松崎佐栄子, 松本文武, 鈴木法臣, 小川郁, 齋藤康一郎: 中耳真珠腫に対する外耳道後壁削除・軟組織再建鼓室形成術後の聴力改善に術後乳突洞再含気化は重要か?. 第26回日本耳科学会総会・学術講演会, 長野, 2016年10月5-8日.
 45. 松本祐磨, 木村徹, 櫻井裕之: ガストリン放出ペプチドは, マウスにおけるアレルギー性鼻炎の成立に関与する. 第135回日本薬理学会関東部会, 浜松, 2016年10月8日.
 46. Yokoi H, Matsumoto Y, Saito K: Involvement of Gastrin-Releasing Peptide (GRP) and Gastrin-Releasing Peptide Receptor (GRPR) in the mouse model of allergic rhinitis. 第55回日本鼻科学会総会・学術講演会, 宇都宮, 2016年10月13-15日.
 47. 中川隆之, 児玉悟, 小林正佳, 讃岐徹治, 田中秀峰, 花澤豊行, 鈴木元彦, 横井秀格, 大森孝一: 嗅神経芽細胞腫に対する手術手技: 内視鏡下経鼻単独あるいは経頭蓋コンバインドアプローチ. 第55回日本鼻科学会総会・学術講演会, 宇都宮, 2016年10月13-15日.
 48. 松本祐磨, 横井秀格, 川田往嗣, 山中英敬, 茂呂順久, 池田哲也, 齋藤康一郎: Biphasic Low-Grade Nasopharyngeal Papillary Adenocarcinomaの一例. 第55回日本鼻科学会総会・学術講演会, 宇都宮, 2016年10月13-15日.
 49. 茂呂順久, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 山中英敬, 齋藤康一郎: 内視鏡下手術を行った両側先天性後鼻孔閉鎖症の1例. 第55回日本鼻科学会総会・学術講演会, 宇都宮, 2016年10月13-15日.
 50. 宮本重樹, 金子忠良, 池田哲也, 近津大地, 齋藤康一郎: 新型プローブを用いた interstitial photodynamic therapyにおける抗腫瘍効果の基礎的検討. 第37回日本レーザー医学会総会, 旭川, 2016年10月21-22日.
 51. Saito K: Office based phonosurgery. 46th Brazilian Congress of Otorhinolaryngology and Cervical-Facial Surgery, Brazil, November 2nd-5th, 2016.
 52. Saito K: Glottal chinks: How do I deal?. 46th Brazilian Congress of Otorhinolaryngology and Cervical-Facial Surgery, Brazil, November 2nd-5th, 2016.
 53. Saito K: Microlaryngeal surgery for precancerous and early glottic cancer. 46th Brazilian Congress of Otorhinolaryngology and Cervical-Facial Surgery, Brazil, November 2nd-5th, 2016.
 54. Saito K: Laryngeal papillomatosis. 46th Brazilian Congress of Otorhinolaryngology and Cervical-Facial Surgery, Brazil, November 2nd-5th, 2016.
 55. 齋藤康一郎: 音声機能検査と声のリハビリテーション. 公益社団法人東京都医師会平成28年度「保険医療講習会」(耳鼻咽喉科), 東京, 2016年11月12日.
 56. 渡邊格, 中川秀樹, 久保村郁子, 齋藤康一郎: 当院における入院加療を要した咽喉頭食道異物症例の検討. 第68回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2016年11月17-18日.

57. 齋藤康一郎: 外科的気道確保. 第68回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2016年11月17-18日.
58. 齋藤康一郎: 嚥下障害に対する栄養管理. 第9回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 東京, 2016年11月19日.
59. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の治療戦略. 大鵬薬品社内研修会, 三鷹, 2016年11月24日.
60. 池田哲也, 宮本重樹, 佐藤麻梨香, 里見貴史, 近津大地, 齋藤康一郎: 当科における白板症の臨床病理組織学的検討. 第61回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月25-27日.
61. 池田哲也, 宮本重樹, 田村まどか, 加賀あかり, 佐藤麻梨香, 近津大地, 里見貴史, 宇都宮紀子, 齋藤康一郎: 当院における周術期管理外来での口腔衛生評価の取り組み. 第61回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月25-27日.
62. 加賀あかり, 池田哲也, 宮本重樹, 佐藤麻梨香, 田村まどか, 近津大地, 里見貴史, 宇都宮紀子, 齋藤康一郎: 周術期管理外来を受診した全ての患者の口腔内環境について. 第61回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月25-27日.
63. 田村まどか, 池田哲也, 宮本重樹, 佐藤麻梨香, 加賀あかり, 近津大地, 里見貴史, 宇都宮紀子, 齋藤康一郎: 当院における周術期口腔衛生管理開始により判明した導入時の問題点. 第61回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月25-27日.
64. 齋藤康一郎: 喉頭乳頭腫との付き合い方. 第16回四国頭頸部外科学研究会, 高知, 2016年12月3日.
65. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と最新の治療戦略. いわき市耳鼻科医会学術講演会, いわき, 2016年12月15日.
66. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と最新の治療戦略. 東京都耳鼻咽喉科医学学術講演会, 東京, 2016年12月17日.
67. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の検査と治療戦略. 第38回滋賀県耳鼻咽喉科オープンセミナー, 草津, 2017年1月19日.
68. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の治療戦略. 豊島区耳鼻科医会学術講演会, 東京, 2017年1月20日.
69. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と最新の治療戦略. 第84回郡山耳鼻科勉強会, 郡山, 2017年1月26日.
70. 佐藤大, 笠倉奈津子, 濱之上泰裕, 尾川昌孝, 茂呂順久, 齋藤康一郎: 耳下腺腫瘍に対する審美的に優れた必要最小限の皮膚切開線設定の工夫. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2017年2月2-3日.
71. 笠倉奈津子, 佐藤大, 茂呂順久, 渡邊格, 濱之上泰裕, 齋藤康一郎: 原発巣, 頸部リンパ節転移巣ともにハニカム様構造を認めた甲状腺乳頭癌の一例. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2017年2月2-3日.
72. 横井秀格, 児玉悟, 齋藤康一郎: 内視鏡下経翼口蓋窩アプローチにて摘出した巨大蝶形骨洞内蝶形骨縁膜腫の一例. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2017年2月2-3日.
73. 池田哲也: 顎口腔領域に発生する疾患とその対応について. 東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 2017年2月4日.
74. 齋藤康一郎: 超高齢社会と耳鼻咽喉科一声の老化を中心に. 三鷹老人会健康長寿講演会, 三鷹, 2017年2月7日.
75. 齋藤康一郎: 音声障害の診断と治療. 日耳鼻埼玉県地方部会・埼玉県耳鼻咽喉科医会学術集会, さいたま, 2017年2月12日.
76. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と最新の治療戦略. 東京都薬剤師会臨床薬学研究会, 八王子, 2017年2月14日.
77. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と最新の治療戦略. 武蔵野市薬剤師会学術講演会, 武蔵野, 2017年2月23日.
78. 渡邊格, 佐藤大, 齋藤伸夫, 木村泰彰, 川原敬祐, 中川秀樹, 二藤隆春, 齋藤康一郎: 局所麻酔科声門閉鎖術の有用性. 第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2017年2月24-25日.
79. 川原敬祐, 唐帆健浩, 林良幸, 中村みゆき, 齋藤康一郎: 食道癌術後の逆流による反復性嚥下性肺炎の1例. 第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 東京, 2017年2月24-25日.
80. 唐帆健浩: 摂食嚥下機能療法(嚥下機能, 口腔ケアを含む). 第10回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 東京, 2017年2月26日.
81. 齋藤康一郎: 超高齢社会における咽喉頭疾患の臨床. 第6回三鷹外科・整形外科医療連携ゼミナール, 三鷹, 2017年3月1日.
82. 池田哲也, 佐藤麻梨香, 宮本重樹, 近津大地: 当院における周術期管理外来での口腔衛生評価の取り組み. 第26回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 金沢, 2017年3月3-5日.
83. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と最新の治療戦略. 調布市耳鼻科医会, 調布, 2017年3月14日.
84. 池田哲也: 骨代謝抑制剤を投与されている患者への対応方法. 骨粗鬆症治療を考える, 三鷹, 2017年3月14日.
85. 横井秀格, 丸山啓介, 塩川芳昭, 齋藤康一郎: 経鼻内視鏡下髄液漏閉鎖手術を施行した2症例について. 第2回関東経鼻内視鏡手術セミナー, 東京, 2017年3月17日.

論文

- 齋藤康一郎, 新井由美¹ (1杏林大学医学部付属病院看護部): 気道管理におけるメディカルスタッフの役割(解説/特集). *JOHNS* 32(4): 446-448, 2016.
- 増田正次: 外耳道炎. *耳喉頭頸* 88(5): 78-80, 2016.
- 齋藤康一郎, 鈴木亮¹ (1福島県立医大): 経皮的気管切開術. *日気食会報* 67(2): 171-173, 2016.
- 齋藤康一郎: 急性喉頭炎. *耳喉頭頸* 88(5): 144-146, 2016.
- 鈴木賢二¹, 大森孝一², 齋藤康一郎, 松塚崇³, 宮本直哉⁴, 耳鼻咽喉科診療機器の感染制御ワーキンググループ, 一般社団法人耳鼻咽喉科学会 (1尚徳会ヨナハ総合病院, 2京都大, 3福島県立医大, 4宮本ファミリー耳鼻科): 耳鼻咽喉科内視鏡の感染制御に関する手引き. *日耳鼻会報* 119(6): 916-925, 2016.
- 齋藤康一郎, 渡邊格: 頸部リンパ節腫脹 炎症性疾患. *耳喉頭頸* 88(9): 625-635, 2016.
- 齋藤康一郎: 音声障害の基礎知識. *J Clin Rehab* 25(10): 948-955, 2016.
- 齋藤康一郎: 外来処置 ネブライザー用薬. *耳喉頭頸* 88(12): 908-912, 2016.
- 唐帆健浩: 高齢者の嚥下障害. *耳喉頭頸* 88(4): 330-336, 2016.
- 宇野光祐¹, 齋藤康一郎, 矢部はる奈², 甲能武幸¹, 小川郁¹ (1慶応義塾大学 耳鼻咽喉科, 2川崎市立井田病院): 喉頭専門外来を受診した咽喉頭異常感症例の検討一胃食道逆流が関連した症例を中心に. *日耳鼻会報* 119(11): 1388-1396, 2016.
- 唐帆健浩: 1枚の写真 咽喉頭アミロイドーシス(図説). *嚥下医学* 6(1): 67-68, 2016.
- 横井秀格: United airway disease—耳鼻咽喉科からみた臨床像と治療, および歯性副鼻腔炎の最新の治療につ

いて. 都耳鼻会報 150 : 45-52, 2016.

13. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断における検査の重要性和と問題点. 都耳鼻会報 152 : 28-33, 2017.
14. 飯野由恵, 齋藤康一郎, 辻哲也, 林隆一: 早期声門癌に対する(化学)放射線治療後の音声機能. 言語聴覚研究 14(1) : 56-64, 2017.
15. Kono T¹, Saito K, Yabe H¹, Uno K¹, Ogawa K¹ (¹Keio University) : Comparative multidimensional assessment of laryngeal function and quality of life after radiotherapy and laser surgery for early glottic cancer. Head Neck 38(7) : 1085-90, 2016.
16. Kono T¹, Yabe H¹, Uno K¹, Saito K, Ogawa K¹ (¹Keio University) : Multidimensional vocal assessment after laser treatment for recurrent respiratory papillomatosis. Laryngoscope 127(3) : 679-684, 2016.
17. Masuda M, Li Y^{1,2}, Park K^{1,2}, Chavez E^{1,2}, Mullen L^{1,2}, Ryan AP^{1,2} (¹UCSD School of Medicine, ²Veterans Administration) : The Promoter and Multiple Enhancers of the pou4f3 Gene Regulate Expression in Inner Ear Hair Cells. Mol Neurobiol. 2016. (WEB).
18. Kono T¹, Saito K, Yabe H¹, Ogawa K¹ (¹Keio University) : Phonosurgical resection using submucosal infusion technique for precancerous laryngeal leukoplakia. Laryngoscope 127(1) : 153-158, 2017.
19. Matsumoto Y, Sakurai H¹, Kogashiwa Y², Kimura T¹, Matsumoto Y, Shionome T³, Asano M³, Saito K, Kohno N : (¹Departments of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University, ²Saitama Medical University International Medical Center, ³Nihon University School of Dentistry) : Inhibition of epithelial-mesenchymal transition by cetuximab via the EGFR-GEP100-Arf6-AMAP1 pathway in head and neck cancer. Head Neck 39(3) : 476-485, 2017.
20. Yokoi H, Yoshitake H¹, Matsumoto Y, Kawada M, Takato Y², Shinagawa K², Sakurai H³, Saito K (¹Juntendo University Graduate School, ²SHIDAX Research Institute, ³Department of Pharmacology, Kyorin University) : Involvement of cross-reactive carbohydrate determinants-specific IgE in pollen allergy testing. Asia Pac Allergy 7(1) : 29-36, 2017.
21. Kasakura-Kimura N, Masuda M, Mutai H¹, Masuda S², Morimoto N³, Ogahara N⁴, Misawa H⁵, Sakamoto H⁶, Saito K, Matsunaga T⁷ (¹National Institute of Sensory Organs, National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ²National Mie Hospital, ³National Center for Child Health and Development, ⁴Kanagawa Children's Medical Center, ⁵National Hospital Organization Nagoya Medical Center, ⁶Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ⁷Medical Genetics Center, National Hospital Organization Tokyo Medical Center) : WFS1 and GJB2 mutations in patients with bilateral low-frequency sensorineural hearing loss. Laryngoscope. 2017. doi : 10.1002/lary.26528 (WEB).
22. Karaho T, Nakajima J¹, Satoh T, Kawahara K, Nakayama T², Kohno N (¹National Defense Medical College, ²Japan Welfare Education College) : Manovideoscopic assessment in the evaluation of the pharyngeal contraction and upper esophageal sphincter function in dysphagic patients. Auris Nasus Larynx 44(1) : 79-85, 2017.

著書

1. 齋藤康一郎: 基本的な手術治療 喉頭微細手術. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 研修ノート改訂第2版. 永井良三総監

修. 東京, 診断と治療社, 2016. p.395-399.

2. 齋藤康一郎: 耳鼻咽喉科疾患 声帯ポリープ. 今日の治療指針 私はこう治療している. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2016. p.1491.
3. 唐帆健浩: 摂食・嚥下障害患者のリハビリテーション. 今日の治療指針 私はこう治療している. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2017. p.1507.
4. 甲能直幸: 頭頸部悪性腫瘍の治療・看護 総論-頭頸部腫瘍/副鼻腔の癌/中・下咽頭腫瘍. 改訂3版 耳鼻咽喉科看護の知識と実際. 森山寛編. 大阪, メディカ出版, 2016. p.202-204/p.212-222/p.242-257.
5. 甲能直幸: 頭部および頸部. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 第9版. 北島政樹, 江川幸二編. 東京, 医学書院, 2017. p.434-442.
6. 甲能直幸: 副鼻腔手術 上顎癌における浅側頭動脈カテーテル留置術. イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科一耳・鼻編 改訂第2版. 村上泰, 久野男監修. 東京, 東京医学社, 2017. p.481-482.

産科婦人科学教室

講演

1. Tanaka K, Sakai K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Nagashima T, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Branched-chain amino acids regulate insulin-like growth factor binding protein -I production by decidua and influence trophoblast migration. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
2. 松本浩範, 小林陽一, 堂園溪, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 岩下光利: 婦人科再発がんのPET検査における再発巣のmaximum standardized uptake (SUVmax)値は治療効果に関連する. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
3. 松島実徳, 井澤朋子, 小林陽一, 岩下光利: 低酸素環境が子宮脱落膜のPregnancy associated plasma protein-A (PAPP-A)分泌に与える影響. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
4. 松澤由記子, 古川誠志, 春名佑美, 北村亜也, 鳥海玲奈, 山田研二, 井澤朋子, 長島隆, 小林陽一, 岩下光利: 分娩時に意識消失と呼吸困難を認めるもその後DICが顕在化した羊水塞栓症の1例: 心肺虚脱型かDIC先行型か. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
5. 戸田友美, 田中啓, 清本千景, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 産後出血による産褥搬送における必要輸血量の予測因子: 産科DICスコアの有用性. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
6. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 佐々木恵子, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 婦人科開腹手術症例における術前下肢深部静脈血栓症スクリーニングとしてのD-ダイマーカットオフ値とリスク因子の疾患別検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
7. 渋谷英里子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 脳転移をきたした婦人科悪性腫瘍の9例. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.
8. 野田清香, 百村麻衣, 鳥海玲奈, 中島千絵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 難治性再発婦人科悪性腫瘍に対するサイバーナイフの有用性. 公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会, 東京, 2016年4月21-24日.

9. 宮川美果, 井澤朋子, 片山沙弥, 春名祐美, 深川裕一郎, 金田由香子, 松島美穂, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 免疫吸着療法を要した全身性エリテマトーデス合併妊娠の2例. 第378回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2016年5月28日.
10. 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 坂本憲彦, 望月眞: 外陰部乳腺様腺癌の1例. 第57回日本臨床細胞学会春期大会, 横浜, 2016年5月29日.
11. 北村亜也, 松澤由紀子, 清本千景, 鳥海玲奈, 山田研二, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 羊水塞栓症を合併した産褥多量出血の2例. 第131回関東連合産科婦人科学会, 東京, 2016年6月18日.
12. 中島千絵, 小林陽一, 鳥海玲奈, 深川裕一郎, 金田由香子, 山田研二, 松島美穂, 松澤由紀子, 井澤朋子, 百村麻衣, 古川誠志, 岩下光利: 卵巣両側性境界悪性腫瘍術後再発に対し保存的治療にて生児を得た2例. 第131回関東連合産科婦人科学会, 東京, 2016年6月18日.
13. 岡愛子, 山田研二, 田中啓, 井澤朋子, 古川誠志. 小林陽一, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術後に子宮内感染を起こした2例. 第375回四水回, 東京, 2016年6月29日.
14. 百村麻衣, 小林陽一, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範: 非産褥期子宮内反症を合併した子宮体癌の1例. 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 米子, 2016年7月8-10日.
15. 村岡由真, 田中啓, 清本千景, 松島美穂, 井澤朋子, 古川誠志, 岩下光利: *F. magna*による子宮筋層炎を合併した子宮動脈塞栓術後の子宮壊死. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016年7月16-18日.
16. 山田研二, 田中啓, 北村亜也, 鳥海玲奈, 片山素子, 松島美穂, 松澤由紀子, 井澤朋子, 古川誠志, 岩下光利: 妊娠中期に拡張腸管を認め, 出生後に先天性結腸閉鎖症と診断された1例. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016年7月16-18日.
17. 田中啓, 酒井啓治, 松島美穂, 松澤由紀子, 井澤朋子, 古川誠志, 岩下光利: アミノ酸がHepG2細胞のInsulin-like growth factor binding protein-1に与える影響. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016年7月16-18日.
18. 池田麗, 古川誠志, 岩下光利: 潜在性甲状腺機能低下症が妊娠に与える影響. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016年7月16-18日.
19. 鳥海玲奈, 古川誠志, 北村亜也, 山田研二, 松澤由紀子, 井澤朋子, 岩下光利: 胎胞形成例における子宮頸管sludgeの影響. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016年7月16-18日.
20. 井澤朋子, 北村亜也, 鳥海玲奈, 清本千景, 田中啓, 山田研二, 金田由香子, 松島美穂, 松澤由紀子, 古川誠志, 岩下光利: 当院における過去5年間に施行した頸管縫縮術の検討. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会, 富山, 2016年7月16-18日.
21. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下子宮体癌術後早期に骨盤内再発が疑われた1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 長崎, 2016年9月1-3日.
22. 安部美由紀, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 山下詠子, 小林陽一, 似鳥俊明, 岩下光利: Sertoli-Leydig細胞腫の1例. JSAWI 第17回シンポジウム, 淡路, 2016年9月2-3日.
23. 小林陽一: がん医療の現状. がん看護研修 基礎編, 三鷹, 2016年9月10日.
24. Iwashita M: Fetal growth and insulin-like growth factor system. The 102nd Annual Congress of KSOG, Korea, September 22nd-25th, 2016.
25. Iwashita M: No fault compensation in perinatal medicine in Japan - from results for 8 years. The 21st Seoul International Symposium, Korea, September 22nd-25th, 2016.
26. Iwashita M: Prediction of spontaneous preterm delivery. Romanian Society of Obstetrics and Gynecology, Romania, October 26th-29th, 2016.
27. Iwashita M: IGF and fetal growth. Romanian Society of Obstetrics and Gynecology, Romania, October 26th-29th, 2016.
28. 小林陽一: 遺伝性腫瘍における婦人科がんの意義. 埼玉KG会講演会, さいたま, 2016年10月27日.
29. 安部美由紀, 長内喜代乃, 北村亜也, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 術前MRI画像で診断しえたSertoli-Leydig細胞腫の1例. 第379回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2016年9月10日.
30. 野田清香, 田中啓, 竹森聖, 鳥海玲奈, 山田研二, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: RPLSを伴った子癩発作後にRCVSを合併した1例. 第132回関東連合産科婦人科学会学術集, 東京, 2016年10月15日.
31. 富岡紀子, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 松島美穂, 西ヶ谷順子, 井澤朋子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 待機的治療を行った子宮頸癌合併妊娠の2例. 第132回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 2016年10月15日.
32. 小林陽一, 松本浩範, 西ヶ谷順子, 堂園溪, 澁谷裕美, 百村麻衣, 岩下光利: 婦人科再発癌のPET検査における再発巣のSUVmax値は治療効果の予測に有用である. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月21日.
33. Watanabe M, Shibuya H, Kobayashi Y, Iwashita M: Study of outcomes after total laparoscopic surgery for early-stage endometrial cancer in our department. 45th AAGL, USA, November 14th-18th, 2016.
34. 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 水谷奈津子, 市川美雄, 坂本憲彦, 長内喜代乃, 百村麻衣, 望月眞, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 卵巣Sertoli-Leydigの1例. 第55回日本臨床細胞学会秋期大会, 別府, 2016年11月18-19日.
35. 古川誠志: 常位胎盤早期剥離症例への対応. 第14回東京都周産期医療ネットワーク区西部ブロック連携会議, 東京, 2016年11月21日.
36. 古川誠志: 妊娠と糖尿病, それぞれの立場から行う糖代謝異常合併妊娠への管理・援助. 一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク第60回例会, 八王子, 2016年11月26日.
37. 古川誠志: 甲状腺機能低下と妊娠. 平成多摩産婦人科勉強会, 立川, 2016年11月29日.
38. 宮川美果, 百村麻衣, 本田理貢, 戸田友美, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 産婦人科医のメンタルヘルス. 第376回四水会, 東京, 2016年11月30日.
39. 古川誠志: 常位胎盤早期剥離症例への対応. 南多摩産婦人科医会講演会, 東京, 2016年12月6日.
40. 岡愛子, 松島美穂, 安部美由紀, 竹森聖, 渋谷英里子, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 特発性赤芽球瘡合併妊娠の1例. 第380回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2016年12月17日.
41. 古川誠志: 妊娠と潜在性甲状腺機能低下. 旭川産婦人科医会講演会, 旭川, 2017年1月20日.
42. Iwashita M: Fetal growth and insulin-like growth factor system. International Seminar "Insulin-like Signaling and Nutrient Signaling: universal signaling for extension of healthy lifespan and improvement of quality for humans and animals", Tokyo, January 24th-26th, 2017.

43. 小林陽一：子宮腺筋症をめぐる最新の話題. 子宮内膜症フォーラム2017, 三鷹, 2017年1月27日.
44. 戸田友美, 百村麻衣, 本田理真, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利：女性生殖器静脈奇形に効果療法を行った2例. 第381回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2017年2月25日.
- 論文**
- 古川誠志：高齢妊娠に伴う諸問題. 杏林医会誌 47:77-79, 2016.
 - 古川誠志, 岩下光利：胎児救急 超緊急帝王切開(グレードA)への対応:周産期センター. 周産期医学 46(4):419-422, 2016.
 - 古川誠志：胎児胎盤循環の評価法 胎児心拍数陣痛図. 産婦の実際 65(4):365-369, 2016.
 - 本田理真, 塚本可奈子¹, 井上双葉¹, 小泉弥生子¹, 新谷大輔¹, 黒須博之¹, 増永彩¹, 菅野素子¹, 菊池友美¹, 一條梨紗¹, 矢野亮¹, 山崎龍王¹, 小林織恵¹, 田村和也¹, 大田昌治¹, 小林弥生子¹, 梅澤聡¹(¹武蔵野赤十字病院): 外陰部硬化性萎縮性苔癬(Lichen sclerosus)の1例. 東京産婦会誌 65:374-377, 2016.
 - Tanaka K, Sakai K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Nagashima T, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Branched-chain amino acids regulate insulin-like growth factor-binding protein I (IGFPI) production by decidua and influence trophoblast migration through IGFBPI. *Mol Hum Reprod* 22:590-599, 2016.
 - 古川誠志：妊娠高血圧症候群(PIH)の胎児心拍数波形. ペリネイタルケア 35(6):574-578, 2016.
 - 古川誠志：絶対に見逃してはいけないCTG波形 注意を要する遅一過性徐脈. 助産雑誌 70(5):356-362, 2016.
 - 清本千景, 松澤由記子, 鳥海玲奈, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利：卵子提供妊娠における周産期管理と新生児予後の検討. 東京産婦会誌 65:430-435, 2016.
 - 中山真恵, 松島実穂, 深川裕一郎, 金田由香子, 田中啓, 山田研二, 井澤朋子, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利：胎児水腫を伴った一過性骨髄異常増殖症の1例. 東京産婦会誌 65:547-551, 2016.
 - 村岡由真, 長内喜代乃, 渋谷英里子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利：成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化との鑑別に苦慮した悪性リンパ腫再発の1例. 東京産婦会誌 65:570-575, 2016.
 - Yoshida A¹, Umehara N¹, Sasahara J², Ozawa K³, Ichizuka K⁴, Tanaka K, Tanemoto T⁵, Ishikawa H⁶, Murakoshi T⁷, Kiyoshi K⁸, Oba M⁹, Ishii K², Sago H¹ (¹National Center for Child Health and Development, ²Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, ³Miyagi Children's Hospital, ⁴Showa University, ⁵The Jikei University School of Medicine, ⁶Kanagawa Children's Medical Center, ⁷Seirei Hamamatsu General Hospital, ⁸Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ⁹Yokohama City University): Prenatal risk stratification of severe small-for-gestational-age infants: a Japanese multicenter study. *J Matern Fetal Neonatal Med* 29:1353-1357, 2016.
 - 竹森聖, 根津幸穂¹, 満下淳地¹, 鈴木由梨奈¹, 明石慶子¹, 堀田大輔¹, 近澤研郎¹, 岩下光利, 今野良¹(¹自治医大さいたま医療センター): 高度肥満者に対し, 専用の吊上げ式器具を用いずに気腹法・吊り上げ法を併用して腹腔鏡下手術を行った1例. 埼玉産婦会誌 46:147-150, 2016.
 - 宮川実果, 井澤朋子, 片山紗弥, 春名佑美, 深川裕一郎, 金田由香子, 松島実穂, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 免疫吸着療法を要した全身性エリテマトーデス合併妊娠の2例. 東京産婦会誌 65:713-718, 2016.
 - Kobayashi Y, Osanai K, Tanaka K, Nishigaya Y, Matsumoto H, Momomura M, Hashiba M¹, Mita S¹, Kyo S², Iwashita M (¹Mochida Pharmaceutical Co., Ltd., ²Shimane University School of Medicine): Endometriotic cyst fluid induces of reactive oxygen species (ROS) in human immortalized epithelial cells derived from ovarian endometrioma. *Redox Rep* 20:1-6, 2016. doi:10.1080/13510002.2016.1258448.
 - Sahara J¹, Ishii K¹, Umehara N², Oba M³, Kiyoshi K⁴, Murakoshi T⁵, Tanemoto T⁶, Ishikawa⁷, Ichizuka K⁸, Yoshida A², Tanaka K, Ozawa K⁹, Sago H² (¹Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, ²National Center for Child Health and Development, ³Toho University, ⁴Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ⁵Seirei Hamamatsu General Hospital, ⁶Jikei University School of Medicine, ⁷Kanagawa Children's Medical Center, ⁸Showa University, ⁹Miyagi Children's Hospital): Significance of oligohydroamios in preterm small-for-gestational-age infants for outcome at 18 months of age. *J Obstet Gynaecol Res* 42:1451-1456, 2016.
 - 堂園溪, 東眞, 渡部耕平, 酒井謙, 小山典宏, 小林陽一, 岩下光利: 分娩後に子宮頸部円錐切除術を施行し頸管閉塞を来した1例. 関東産婦誌 53:475-479, 2016.
 - 春名佑美, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子, 井澤朋子, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 妊娠中にurinomaを発症した一例. 関東産婦誌 53:605-608, 2016.
 - 森田知子¹, 近藤由理香¹, 岩下光利 (¹杏林大・病院・総合周産期母子センター): パースセンターの現況と展望. 臨産 70:1154-1159, 2016.
 - Fujisaki M¹, Furuta K¹, Ohhashi M¹, Furukawa S, Kodama Y¹, Kawagoe Y¹, Sameshima H¹, Ikenoue T¹ (¹University of Miyazaki): Antithrombin improves the maternal and neonatal outcomes but not the angiogenic factors in extremely growth-restricted fetuses at <28 weeks of gestation. *J Perinat Med*. 2016. doi: 10.1515/jpm-2016-0190.
 - Ohhashi M¹, Furukawa S, Sameshima H¹ (¹University of Miyazaki): Circadian Variation in the Onset of Placental Abruption. *J Pregnancy*. 2017:3194814, 2017. doi: 10.1155/2017/3194814.
 - Tanaka K, Kobayashi Y, Sugiyama J¹, Yamazaki T², Dozono K, Watanabe M, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Umezawa S², Takamatsu K¹, Iwashita M (¹The Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, ²The Japanese Red Cross Musashino Hospital): Histologic grade and peritoneal cytology as prognostic factors in type 1 endometrial cancer. *Int J Clin Oncol*. 2017. doi 10.1007/s10147-016-1079-5.
 - 安部美由紀, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 術前MRI画像で鑑別し得たSertoli-Leydig cell tumorの1例. 東京産婦会誌 66:70-74, 2017.
 - Iwashita M: No fault compensatin in perinatal medicine in Japan-from results for 8 years. *Obstet Gynecol Sci* 60:139-144, 2017.
 - Iwashita M: Fetal growth and insulin-like growth factor system. *J Hungarian Obstet Gynecol* 80:30-

放射線医学教室

36, 2017.

25. 西ヶ谷順子:熊本地震支援体制 全国的な支援体制 日本産科婦人科学会医師派遣事業. 周産期医学 47(3):397-399, 2017.
26. 西ヶ谷順子, 増崎英明¹(¹長崎大):熊本地震支援体制 全国的な支援体制 産婦人科災害マニュアル. 周産期医学 47(3):403-407, 2017.
27. Tanaka K, Muraoka Y, Toda Y, Kiyomoto C, Okubo Y¹, Nagashima T, Furukawa S, Fujiwara M¹, Mochizuki M¹, Kobayashi Y, Iwashita M (¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Finegoldia magna myometritis with uterine necrosis after uterine artery embolization. J Obstet Gynaecol, 20:1-2, 2017. doi: 10.1080/01443515.2017.1286303.
28. Tanigaki S¹, Nagata C¹, Ueno K², Ozawa N¹, Nagaoka S, Tanaka K, Sago H¹, Iwashita M (¹National Center for Child Health Development, ²Kawasaki Municipal Hospital): Successful Treatment of Cesarean Scar Pregnancies by Local Treatment Only. Obstet Gynecol Int 2017:9543570, 2017. doi: 10.1155/2017/9543570. (Epub).
29. 長島隆, 岩下光利:子宮卵管造影のコツ. 産科と婦人科 84(3):267-271, 2017.
30. Matsumoto H, Kobayashi Y, Dozono K, Nishigaya Y, Shibuya H, Momomura M, Iwashita M: Utility of the maximum standardized uptake value (SUVmax) on positron emission tomography for predicting therapeutic effect in recurrent gynecological malignancies - A preliminary study -. J Obstet Gynaecol Res 2017. (in press)

著書

1. 長島隆, 岩下光利:性腺疾患 性腺ホルモンの基礎知識. 内分泌代謝専門医ガイドブック 改訂第4版. 成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章編. 東京, 診断と治療社, 2016. p.308-309.
2. 岩下光利:性腺機能低下症(女性). 内分泌代謝専門医ガイドブック 改訂第4版. 成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章編. 東京, 診断と治療社, 2016. p.316-317.
3. 岩下光利:妊娠中 成長因子. 周産期医学必須知識 第8版. 周産期医学編集委員会編. 東京, 東京医学社, 2016. p.54-55.
4. 岩下光利:検査各論 多嚢胞性卵巣症候群. 内分泌臨床検査マニュアル. 肥塚直美編. 東京, 日本医事新報社, 2016. p.192-196.
5. 古川誠志:分娩期 バイタルサイン. 図解でよくわかるお母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント. 中田雅彦, 与田仁志編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p.69-72.
6. 古川誠志:分娩期 陣痛. 図解でよくわかるお母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント. 中田雅彦, 与田仁志編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p.73-77.
7. 古川誠志:分娩期 児心拍. 図解でよくわかるお母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント. 中田雅彦, 与田仁志編著. 大阪, メディカ出版, 2017. p.78-82.

その他

1. 長島隆:疾患モデルマウスを用いた常位胎盤早期剥離に対する革新的治療法の開発(科学研究費助成事業 基盤研究(C)).
2. 長島隆:疾患モデルマウスを用いた常位胎盤早期剥離の革新的治療法の開発(日本私立学校振興・共済事業団(大学間連携等による共同研究資金)).

講演

1. Kariyasu T, Yokoyama K, Imai M, Nitatori T, Sato T, Koyanagi M, Fukushima K, Tsuboi M: Initial experience of assessment of lung perfusion images using lung subtraction in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society. Yokohama, April 14th-17th, 2016.
2. Kariyasu T, Kuroki K, Masuda Y, Katase S, Soejima K, Tateishi H, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Nitatori T: "Sensor-based electromagnetic navigation system for guidewire cannulation in renal and iliac arteries: A Phantom Model Study". The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society. Yokohama, April 14th-17th, 2016.
3. Tadokoro M, Yokoyama K, Imai M, Nitatori T, Fukushima K, Miyazaki I, Ohyu S, Kuhara S, Yamagami T: Evaluation of cine MRI filters in left ventricular myocardial strain analysis using feature tracking. The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society. Yokohama, April 14th-17th, 2016.
4. Ishikawa M: Tumor and Tumor-like conditions of the Inner Cantus of the Orbit: Review and Imaging features. The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society, Yokohama, April 14th-17th, 2016.
5. Kariyasu T, Kuroki K, Masuda Y, Katase S, Soejima K, Tateishi H, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Nitatori T: "Sensor-Based Electromagnetic navigation system for assessment of catheter distal end position in renal artery. A Phantom Model Study". The 45th Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology. Nagoya, May 26th-28th, 2016.
6. 五明美穂: Vantage Titan 3T Saturn Gradientの最新臨床技術; 中枢神経領域を中心に. Vision for tomorrow 2016~診断の次世代へ繋ぐ技術革新~, 大阪, 2016年6月18日.
7. 西川真木子, 菊安俊哉, 山下詠子, 北村盾二, 桶川隆嗣, 大森嘉彦, 望月眞, 寺戸雄一, 似鳥俊明: 下大静脈進展を伴った右腎血管筋脂肪腫の一例. 第30回日本腹部放射線学会, 金沢, 2016年6月24-25日.
8. 大原有紗, 土屋一洋: PRESを示したTTPの一例. 第36回神経放射線ワークショップ, 金沢, 2016年6月30日-7月2日.
9. 横山健一: Aquilion ONEを用いた胸部画像診断(肺サブトラクション). Global Standard CT Symposium 2016, 東京, 2016年8月20日.
10. 横山健一: 条件付きMRI対応デバイスの現状と今後の課題. 第44回日本磁気共鳴医学会大会, さいたま, 2016年9月9-11日.
11. 五明美穂, 土屋一洋, 大原有紗, 片瀬七朗, 渡邊正中, 似鳥俊明: 1.0M造影剤を用いたDCE-MRDSA-DSC 3連続撮像とMRDSA-DSC 2連続撮像の比較検討. 第44回日本磁気共鳴医学会大会, さいたま, 2016年9月9-11日.
12. Kariyasu T, Kuroki K, Masuda Y, Katase S, Soejima K, Tateishi H, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Nitatori T: "Accurate and reliable wire position tracking without fluoroscopy using a 3D navigation system for angiography in the left renal artery: a phantom model study". CIRSE 2016(Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe),

Spain, September 10th-14th, 2016.

13. 大原有紗：頭頸部領域の急性疾患～炎症性疾患，外傷を中心に～．第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会，東京，2016年9月16-18日．
14. 志賀久恵，増田裕，菊安俊哉，山下詠子，千葉知宏，藤原正親，似鳥俊明：尿管坐骨孔ヘルニアの1例．第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会，東京，2016年9月16-18日．
15. 木下雄介，増田裕，黒木一典，菊安俊哉，立石秀勝，似鳥俊明：左鎖骨下静脈から右浅大腿静脈にかけ誤挿入されたガイドワイヤーを経皮的に除去しえた一例．第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会，東京，2016年9月16-18日．
16. Nishikwa M, Yamashita E, Kariyasu T, Kuroki K, Nitatori T: Appearance of IVC neoplasms on CT. 11th symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society, Tokyo, September 17th, 2016.
17. 石川牧子：頭頸部救急疾患の画像診断．多摩画像診断とIVRセミナー－2016：頭頸部の画像診断とIVR－，東京，2016年10月21日．
18. 菊安俊哉，黒木一典，横山健一，似鳥俊明：シャントPTAを想定した模擬血管における磁場を用いたナビゲーションシステムでのカテーテル先端位置の検討．第84回日本心臓血管放射線研究会，津，2017年1月21日．
19. 五明美穂，土屋一洋，宮崎功，大原有紗，片瀬七朗，渡邊正中，似鳥俊明：3D-T1強調 black blood imagingによる椎骨動脈解離の血管壁信号と増強効果の経時的変化の検討．第46回日本神経放射線学会，東京，2017年2月17-19日．
20. Kariyasu T, Kuroki K, Masuda Y, Katase S, Soejima K, Tateishi H, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Nitatori T: "Sensor-Based Electromagnetic navigation system for assessment of catheter distal end position in renal artery. A Phantom Model Study". ECR 2017 (European congress of radiology), Austria, March 1st-5th, 2017.
21. 菊安俊哉，黒木一典：CTガイド下経皮経肝の胆嚢ドレナージが有用であった胆石胆嚢炎の1例．第53回日本腹部救急医学会総会，横浜，2017年3月2-3日．
22. 片瀬七朗：腹部領域の画像解剖．バイエル薬品社内勉強会，東京，2017年3月3日．
23. 五明美穂，土屋一洋，高橋沙奈江，濱田健治，宮崎功，大原有紗，片瀬七朗，似鳥俊明：3DマルチショットEPI-FEによるblack-blood画像と3D TOF-MRAの頭蓋内血管描出能の検討．第40回日本脳神経CI学会総会，鹿児島，2017年3月3-4日．
24. 大原有紗，土屋一洋，五明美穂，渡邊正中，片瀬七朗，似鳥俊明：初期に脳軟膜転移を呈したと考えられる転移性脳腫瘍の3例．第40回日本脳神経CI学会総会，鹿児島，2017年3月3-4日．
25. 横山健一：心臓MRIの基礎 MRIによる心筋性状評価．第11回法医画像勉強会，三鷹，2017年3月11日．

論文

1. 五明美穂，片瀬七朗：画像診断医必携！指定難病の画像診断 脳神経疾患．臨床画像 32(9):938-973, 2016.
2. 西川真木子，横山健一，似鳥俊明：第15回 画像診断道場－実はこうだった心陰影に重なった腫瘍影の診断は？．週刊日本医事新報 4811:5-6, 2016.
3. 西川真木子，横山健一，似鳥俊明：第32回 画像診断道場－実はこうだったこのイレウスの閉塞機転は？．週刊日本医事新報 4828:7-8, 2016.
4. 志賀久恵，増田裕，立石秀勝，森永圭吾，菊安俊哉，高橋信一，黒木一典，似鳥俊明：バルーン閉塞下逆行性経

静脈的塞栓術(B-RTO)変法にて治療した出血性十二指腸静脈瘤の1例．臨床放射線 61(8):1049-1053, 2016.

5. 横山健一，似鳥俊明：大動脈 血管炎のChapell Hill分類改訂の背景．臨床画像 33(3):282-283, 2017.
 6. 大原有紗：眼窩領域 頭頸部炎症性疾患－それとも悪性腫瘍？－．画像診断 37(2):200-212, 2017.
- 西川真木子，横山健一，似鳥俊明：第42回 画像診断道場－実はこうだった突然の心窩部痛の原因は？．週刊日本医事新報 4839:7-8, 2017.
7. 木下雄介，増田裕，本谷啓太，横山健一，黒木一典，似鳥俊明，藤原正親¹，菅間博¹（¹杏林大・医・病理学）：奇静脈への還流を認めた乳児肺葉内分画症の1例．臨床放射線 62(1):203-208, 2017.

著書

1. 横山健一：心血管領域の標準的撮像法 MRI. 画像診断ガイドライン2016年版．日本医学放射線学会編．東京，金原出版，2016. p.214-218.

放射線腫瘍学教室

講演

1. 箕輪慎太郎，齋藤大祐，岡部直太，池崎修，三井達也，三浦みき，櫻庭彰人，林田真理，徳永健吾，戸成綾子，望月眞，柴原純二，森秀明，久松理一：大腸内視鏡検査で診断が得られた放射線性腸炎早期障害の1例．日本消化器病学会関東支部第342回例会，東京，2016年12月3日．

論文

1. 永山和樹，丸山啓介，小林啓一，中村正直，戸成綾子，楠田順子，永根基雄，高山誠，塩川芳昭：杏林大学における転移性脳腫瘍に対するLINAC定位放射線治療16年間の経験．定位放射線治療 20:103-112, 2016.

その他

1. 戸成綾子：平成28年度がん看護研修会公開講演会，がん患者の相談者になる＝放射線治療編＝，杏林大学病院第一会議室，2016年9月10日．

麻酔科学教室

講演

1. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル．関東労災病院ハンズオンセミナー，川崎，2016年4月9日．
2. 渡辺邦太郎，澤田龍治，森山久美，徳嶺譲芳，萬知子：神経ブロックでのレボプロピバカインとロビバカインの力価の比較．日本区域麻酔学会第3回学術集会，弘前，2016年4月15日．
3. 澤田龍治，渡辺邦太郎，森山久美，萬知子：脊髄電気刺激装置植え込み術に対する低濃度大量浸潤麻酔法（TLA法）：症例報告．日本区域麻酔学会第3回学術集会，弘前，2016年4月15日．
4. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル．豊見城中央病院ハンズオンセミナー，豊見城，2016年5月7日．
5. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル．九州大学ハンズオンセミナー，福岡，2016年5月14日．
6. Yorozu T, Moriyama K, Tokumine J, Motoyasu A, Shiokawa Y: Difficulty of reducing catheter related bloodstream infection in the intensive care unit of a university hospital despite strict implementation of a preventive measure bundle. 90th International Anesthesia Research Society, USA, May 22nd, 2016.

7. Motoyasu A, Moriyama K, Yorozu T: Reduction of the Respiratory Rate by High-Flow Nasal Cannula Oxygen Therapy: A Study in Patients with Acute Respiratory Failure in the Intensive Care Unit. 90th International Anesthesia Research Society, USA, May 22nd, 2016.
8. 安藤直朗, 糟谷洋平, 徳嶺譲芳, 森山潔, 萬知子: 麻酔科より始める, 1%クロルヘキシジンアルコールを用いた中心静脈カテーテル挿入時の消毒. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016年5月26日.
9. 森山潔: 経鼻高流量器具のピットフォール. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016年5月26日.
10. 辻大介, 本保晃, 鶴澤康二, 森山久美, 山田達也, 萬知子: 麻酔情報管理システム上での注射薬実施入力漏れ対策と効果. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016年5月26日.
11. 岡野弘, 金井理一郎, 神山智幾, 鶴澤康二, 森山潔, 萬知子: 重症病床におけるパルスオキシメーター2機種の低酸素血症検出精度Accuracy of two pulse oximeters in detecting hypoxemia in intensive and high care units. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016年5月27日.
12. 鶴澤康二: 麻酔薬を究める: 若手麻酔科医の疑問に答える 精神科疾患を合併している患者の麻酔. 日本麻酔科学会第63回学術集会, 福岡, 2016年5月27日.
13. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 帝京大学ちば総合病院ハンズオンセミナー, 千葉, 2016年6月7日.
14. Nakazawa H, Tanaka T, Kuriyama N, Kaneki M: Farnesyltransferase inhibitor prevents burn-induced Hif-1 α expression, basal mTORC1 activation and mitochondrial dysfunction in mouse skeletal muscle. 40th Annual Conference on Shock, USA, June 12th, 2016.
15. Nakazawa H, Tanaka T, Kuriyama N, Kaneki M: Coenzyme Q10 prevents burn-induced muscle Mitochondrial dysfunction/disintegrity and insulin resistance in mouse skeletal muscle. 40th Annual Conference on Shock, USA, June 13th, 2016.
16. 鶴澤康二: 低侵襲心拍出量モニタリングを使い熟せ! クリアサイトの素朴な疑問をクリアに! ~現時点の利点, 欠点のあぶり出し~パトルオンセミナー. 第13回麻酔科サマーセミナー, 沖縄, 2016年6月25日.
17. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 佐渡総合病院ハンズオンセミナー, 佐渡, 2016年7月2日.
18. 鶴澤康二: 周術期の輸液管理(術前, 術中, 術後の水分管理). 周術期管理セミナー, 東京, 2016年7月3日.
19. 安藤直朗: 周術期感染対策 抗菌薬, 消毒薬のup to date. 周術期管理セミナー, 東京, 2016年7月3日.
20. 森山潔, 岡野弘, 萬知子: 急性期・終末期医療におけるHFOTの使用実態Clinical application of high flow oxygen therapy at Kyorin university hospital. 第38回呼吸療法医学会学術集会, 名古屋, 2016年7月9日.
21. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成28年度第1回CVC研修会, 東京, 2016年7月8日.
22. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 三井記念病院ハンズオンセミナー, 東京, 2016年7月22日.
23. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 新潟大学ハンズオンセミナー, 新潟, 2016年8月20日.
24. 安藤直朗, 栗原郁実, 金子友美, 長根亜佐子, 加藤崇央, 小山薫: エンドトキシン吸着療法が著効した壊死性腸炎の一例. 第25回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年8月20日.
25. 岡野弘, 森山潔, 鶴澤康二, 本保晃, 萬知子: 妊娠を契機に発症した重症肺高血患者に対して厳格な周術期管理を要した1例. 第25回日本集中治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年8月20日.
26. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成28年度第2回CVC研修会, 東京, 2016年9月9日.
27. 徳嶺譲芳: ショックにおける中心静脈ラインの功罪. 第40回北九州ショックカンファレンス, 北九州, 2016年9月16日.
28. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 別府医療センターハンズオンセミナー, 別府, 2016年9月17日.
29. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 群馬大学ハンズオンセミナー, 前橋, 2016年9月22日.
30. 鎮西美栄子: がんの痛みと緩和医療一家族はどんなことをしておくべきか. がんプロ連携大学合同市民公開シンポジウム, 東京, 2016年9月24日.
31. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 済生会松坂総合病院ハンズオンセミナー, 松阪, 2016年9月30日.
32. 森山久美, 光田将憲, 山科元範, 田口敦子, 辻大介, 萬知子: 気道管理困難が予想される小児症例の周術期管理小児病院との連携. 第22回小児麻酔学会, 横浜, 2016年10月8日.
33. 辻大介: 気道確保困難が予想される小児症例の周術期管理小児病院との連携. 第22回日本小児麻酔学会, 横浜, 2016年10月9日.
34. 井上望: PHACE症候群の脳室腹腔シャント術の麻酔経験. 第22回日本小児麻酔学会, 横浜, 2016年10月9日.
35. 田淵沙織, 山科元範, 田口敦子, 中澤春政, 萬知子: Treacher Collins 症候群に合併した先天性後鼻孔閉鎖開放術の麻酔と周術期管理についての留意点. 第22回日本小児麻酔学会, 横浜, 2016年10月9日.
36. 澤田龍治: 小児末梢神経ブロックハンズオンインストラクター, 第22回日本小児麻酔学会, 横浜, 2016年10月9日.
37. Uzawa K, Yorozu T, Ushiyama A, Miyao H: Fluorescence microscopy evaluation of the protective effect of tetrastarch on the glycocalyx layer in an acute hemorrhage mouse model. ASA Anesthesiology Annual Meeting, USA, October 22nd, 2016.
38. 鎮西美栄子: 気持ちのつらさ, せん妄. 医師のための緩和ケア研修会, 東京, 2016年10月23日.
39. 徳嶺譲芳: 末梢静脈挿入型中心静脈カテーテルPICC挿入. 三井記念病院ハンズオンセミナー, 東京, 2016年10月28日.
40. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 秋田大学ハンズオンセミナー, 秋田, 2016年11月3日.
41. 鎮西美栄子: 緩和ケアについて. 日野市立病院院内講演会, 東京, 2016年11月10日.
42. 徳嶺譲芳: 安全なCVカテーテル挿入方法. 徳島臨床麻酔セミナー, 徳島, 2016年11月19日.
43. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 群馬大学ハンズオンセミナー, 前橋, 2016年12月4日.
44. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成28年度第3回CVC研修会, 東京, 2016年12月9日.
45. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー 獨協医科大学越谷病院, 越谷, 2016年12月10日.
46. 徳嶺譲芳: エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー 福島県立医科大学病院, 福島, 2016年

- 12月17日.
47. 鶴澤康二：生体蛍光顕微鏡を用いたテトラスターチ6% HES (130/0.4/9) のグリコカリックス保護効果の検討. 第32回体液・代謝管理研究会年次学術集会, 宇都宮, 2017年1月14日.
 48. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー(指導者養成コース)群馬大学, 前橋, 2017年1月14日.
 49. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー(実践コース)群馬大学, 前橋, 2017年1月14日.
 50. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. 別府医療センター ハンズオンセミナー, 別府, 2017年1月20日.
 51. 鶴澤康二：「北の旨味は, SGAのうまみへ！」声門上器具を用いた術中呼吸管理について4つの視点より～筋弛緩なしの陽圧換気派～. 第10回気道確保シンポジウム, 札幌, 2017年1月21日.
 52. 渡辺邦太郎：神経ブロックセミナー. 第1回西東京神経ブロックセミナー, 昭島, 2017年1月29日.
 53. 徳嶺譲芳：中心静脈カテーテル抜去の管理. 日本看護協会セミナー, 東京, 2017年2月1-2日.
 54. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成28年度第4回CVC研修会, 東京, 2017年2月3日.
 55. 辻大介：救命救急科医師との連携により救命し得た術中発症肺動脈損傷の一例. 第67回日本救急医学会関東甲信越地方会, 宇都宮, 2017年2月3日.
 56. 徳嶺譲芳：末梢静脈挿入型中心静脈カテーテルPICC挿入. ハンズオンセミナー北里大学病院, 相模原, 2017年2月8日.
 57. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー(指導者養成コース)新潟大学医歯学総合病院, 新潟, 2017年2月11日.
 58. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー(実践コース)新潟大学医歯学総合病院, 新潟, 2017年2月11日.
 59. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー(指導者養成コース)福島県立医科大学病院, 福島, 2017年2月18日.
 60. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー(実践コース)福島県立医科大学病院, 福島, 2017年2月18日.
 61. 徳嶺譲芳：中心静脈カテーテル挿入(リアルタイム・エコーガイド下). 第1回栄養療法ハンズオンセミナー, 千葉, 2017年2月25日.
 62. 鶴澤康二：周術期の輸液にHESは, 本当に必要か?～臨床データと動物実験データからの提案～. 第28回多摩麻酔懇話会, 東京, 2017年02月25日
 63. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー東京慈恵医科大学附属病院, 東京, 2017年3月4日.
 64. 鶴澤康二：術中輸液療法の今：血圧, 尿量, 動的パラメータの再考!～グリコカリックスの真の姿とは?マウス出血モデルからわかること～. 首都圏麻酔カンファレンス, 東京, 2017年3月4日.
 65. 神保一平：HFNC離脱時における必要酸素流速の検討. 第44回日本集中治療学会, 札幌, 2017年3月10日.
 66. 岡野弘, 森山潔, 金井理一郎, 神山智幾, 萬知子：当院における経鼻高流量酸素療法の呼吸不全終末期における使用実態調査 High flow nasal cannula therapy as a terminal oxygen therapy in patients with acute respiratory failure. 第44回日本集中治療学会, 札幌, 2017年3月10日.
 67. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル. ハンズオンセミナー諏訪赤十字病院, 長野, 2017年3月11日.
 68. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル(指導者養成コース). 第12回日本医学シミュレーション学会学術集会, 出雲, 2017年3月18日.
 69. 徳嶺譲芳：エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル(実践コース). 第12回日本医学シミュレーション学会学術集会, 出雲, 2017年3月18日.
 70. 中澤春政, 徳嶺譲芳, 萬知子, 浅尾高行：中心静脈穿刺シミュレーション・トレーニングにおける達成度評価. 第12回日本医学シミュレーション学会学術集会, 出雲, 2017年3月18日.
- ## 論 文
1. 松下紀子, 副島京子, 上田明子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 富樫郁子, 佐藤俊明, 森山久美, 萬知子, 吉野秀朗：星状神経節光線療法により植え込み型除細動器作動抑制が可能であったファロー四徴症根治術後, 心室細動電氣的ストームの1例. 日本成人先天性心疾患学会雑誌 5(2):32-38, 2016.
 2. 徳嶺譲芳, 金井理一郎, 鶴澤康二：内頸静脈穿刺での動脈誤穿刺 冷静な対処が患者を救う!. *LiSA* 23:118-121, 2016.
 3. 辻大介, 中澤春政, 岡野弘, 神保一平, 田淵沙織, 田嶋佳代子, 本保晃, 神山智幾, 金井理一郎, 山田達也, 萬知子：心臓手術とデクスメトミジン. *臨床麻酔* 40(10):1415-1420, 2016.
 4. Uzawa K, Tokumine J, Lefor AK, Takagi T, Watanabe K, Yorozu T: Difficult Airway Due to an Undiagnosed Subglottic Tumor: A Case Report. *Medicine (Baltimore)*. 95(15):e3383, 2016.
 5. Peng M, Zhang C, Dong Y, Zhang Y, Nakazawa H, Kaneki M, Zheng H, Shen Y, Marcantonio ER, Xie Z: Battery of behavioral tests in mice to study postoperative delirium. *Sci Rep*. 6:29874, 2016.
 6. Kinoshita M, Kato H, Yasumoto H, Shimizu M, Hamaoka S, Naito Y, Akiyama K, Moriyama K, Sawa T: The prophylactic effects of human IgG derived from sera containing high anti-PcrV titers against pneumonia-causing *Pseudomonas aeruginosa*. *Hum Vaccin Immunother*. 25:1-14, 2016.
 7. Watanabe K, Mitsuda S, Tokumine J, Lefor AK, Moriyama K, Yorozu T: Quadratus lumborum block for femoral-femoral bypass graft placement: A case report. *Medicine (Baltimore)*. 95(35):e4437, 2016.
 8. Watanabe K, Tokumine J, Yorozu T, Moriyama K, Sakamoto H, Inoue T: Particulate-steroid betamethasone added to ropivacaine in interscalene brachial plexus block for arthroscopic rotator cuff repair improves postoperative analgesia. *BMC Anesthesiol*. 16(1):84, 2016.
 9. Moriyama K, Ohashi Y, Motoyasu A, Ando T, Moriyama K, Yorozu T: Intrathecal Administration of Morphine Decreases Persistent Pain after Cesarean Section: A Prospective Observational Study. *PLoS One*. 11(5):e0155114, 2016.
 10. 鶴澤康二, 徳嶺譲芳, 鈴木昭広：気道の評価と管理における超音波の有用性. *日集中医誌* 24:55-56, 2017.
 11. Tanaka T, Ikegami Y, Nakazawa H, Kuriyama N, Oki M, Hanai J, Sukhatme VP, Kaneki M: Low-Dose Farnesyltransferase Inhibitor Suppresses HIF-1 α and Snail Expression in Triple-Negative Breast Cancer MDA-MB-231 Cells In Vitro. *J Cell Physiol*.

- 232(1):192-201, 2017.
- Nakazawa H, Chang K, Shinozaki S, Yasukawa T, Ishimaru K, Yasuhara S, Yu YM, Martyn JA, Tompkins RG, Shimokado K, Kaneki M: iNOS as a Driver of Inflammation and Apoptosis in Mouse Skeletal Muscle after Burn Injury: Possible Involvement of Sirt1 S-Nitrosylation-Mediated Acetylation of p65 NF- κ B and p53. *PLoS One*. 12(1), 2017.
 - Watanabe K, Tokumine J, Lefor AK, Moriyama K, Sakamoto H, Inoue T, Yorozu T: Postoperative analgesia comparing levobupivacaine and ropivacaine for brachial plexus block: A randomized prospective trial. *Medicine (Baltimore)*. 96(12):e6457, 2017.
 - Hamaoka S, Naito Y, Katoh H, Shimizu M, Kinoshita M, Akiyama K, Kainuma A, Moriyama K, Ishii KJ, Sawa T: Efficacy comparison of adjuvants in PcrV vaccine against *Pseudomonas aeruginosa* pneumonia. *Microbiol Immunol*. 61(2):64-74, 2017.

著書

- 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳: 肩関節腱板修復術 ステロイドを局所麻酔薬に添加すると腕神経叢ブロックの鎮痛時間が延長する! . 超音波ガイド下末梢神経ブロック第2巻実践25症例. 森本康裕編. 東京, メディカルサイエンスインターナショナル, 2016. p. 79-83.
- 岡野弘, 徳嶺譲芳: 麻酔科からみた周術期管理の基本. 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理. 小林裕幸, 五十嵐博基編. 東京, 羊土社, 2016. p. 70-75.

報告書

- 鶴澤康二: 重症病態における内皮細胞機能の解明. 2014. 4. 1-2017. 3. 31科学研究費補助事業: 若手研究(B) 研究者番号: 26861248 2016年度研究報告書.

その他

- 鶴澤康二: 重症病態における内皮細胞機能の解明. 科学研究費助成事業 若手B (2014年-2016年) 研究者番号: 26861248.
- 鶴澤康二: 重症病態における内皮細胞機能変化の時間空間的イメージング手法による病態生理の解明. 科学研究費助成事業 基盤C 研究課題番号: 16K10973 (2016年-2018年).
- 満田真吾: 微小循環生理学による肥満パラドックスの病態解明への挑戦. 科学研究費補助事業 挑戦的萌芽 分担研究者 研究課題番号: 16K15680 (2016-2017年).
- 鶴澤康二: 周術期輸液と術中人工呼吸管理の違いによる患者予後改善に関する研究. 杏林大学臨床研究 (2016. 7-2018. 6) UMIN000022459.
- Ohnishi H, Ohtsuka K, Matsushima S, Nozaki E, Yonetani S, Yamasaki S, Kishino T, Watanabe T: Genetic Mechanism underlying drug resistance in *Mycobacterium kyorinense* and *Mycobacterium celatum*. The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science, Kobe, September, 1st-4th, 2016.
- Ishii T, Numanoi M, Okazaki Y, Kojima N, Sekiguchi K, Takagi Y, Onishi H, Watanabe T: Fulminant aplastic anemia that was successfully treated by frequent transfusion of HLA-matched platelet concentrate. The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science, Kobe, September, 1st-4th, 2016.
- 小倉航, 大塚弘毅, 横山琢磨, 田中良太, 藤原正親, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 非小細胞肺癌症例における穿刺液検体に対する血漿用EGFR遺伝子変異検査試薬の有用性の検討. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
- 本間慎太郎, 荒木光二, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 細菌性髄膜炎における起炎菌種の違いによる臨床検査値の特徴および予後に関する検討. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
- 青戸依子, 岸野智則, 原島敬一郎, 司茂幸英, 石本翔, 住吉彩, 須藤恵美, 浦田毅, 関口久美子, 高城靖志, 大塚弘毅, 大瀧純一, 大西宏明, 渡邊卓: 腹部超音波検査前に朝食を摂取したときの胆嚢画像の変化. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
- 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 松島早月, 岸野智則, 渡邊卓: EGFR V843I germline変異をもつ遺伝性肺癌症例におけるWhole Genome Sequencing解析. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
- 大西宏明, 大塚弘毅, 松島早月, 渡邊卓, 中村浩之, 広川貴次: 蛋白質立体構造解析と分子動力学に基づくEGFR分子標的薬の効果予測. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
- 小島洋平, 大塚弘毅, 紅谷鮎美, 阿部展次, 大倉康男, 古瀬純次, 大西宏明, 渡邊卓, 杉山政則: 十二指腸腺癌および腺腫の次世代シーケンスによる遺伝子変異解析. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
- 石井隆浩, 沼野井恵, 岡崎ゆり子, 小島直美, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: HLA適合血小板の頻会輸血により重篤な出血傾向を防ぎえた劇症型再生不良性貧血の1例. 第65回日本医学検査学会, 神戸, 2016年9月3-4日.
- 森井健司, 岸野智則, 鴛森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 表在性軟部腫瘍の超音波診断. 第65回東日本整形災害外科学会, 箱根, 2016年9月22-23日.
- 谷合誠一, 竹内真介, 山崎聡子, 佐藤徹, 吉野秀朗: ガイドラインに沿った問診方式による非心臓手術の周術期スクリーニングシステムの効果. 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016年9月23-25日.
- 平尾千尋, 米谷正太, 井田陽子, 奥山貴洋, 広井愛美, 荒木光二, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: ESBL産生性の *Shigella sonnei* が検出された1例. 第12回東京都医学検査学会, 東京, 2016年10月2日.
- 本間慎太郎, 荒木光二, 井田陽子, 米谷正太, 奥山貴洋, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 細菌性髄膜炎における起炎菌種の違いによる臨床検査値の特徴および予後に関する検討. 第12回東京都医学検査学会, 東京, 2016年10月2日.
- 米谷正太, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 高城靖志, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 尿路感染が契機と考えられた *Actinotignum schaalii* による菌血症の4症例.

臨床検査医学教室

講演

- 高橋桂子, 小島直美, 岡崎ゆり子, 石井隆浩, 沼野井恵, 道林美里, 関口久美子, 大西宏明, 渡邊卓: 当院における輸血後感染症検査の啓発活動と検査実施状況についての調査. 第64回日本輸血・細胞治療学会総会, 京都, 2016年4月28-30日.
- 森井健司, 岸野智則, 鴛森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 軟部腫瘍の診断における超音波検査の有用性の検討. 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016年5月12-15日.
- 森秀明, 西川かおり, 塚田幾太郎, 關里和, 小樽二世, 本田普久, 峯佳毅, 岸野智則, 贄田真由美: 腹部領域におけるSMI (Superb Micro-vascular Imaging). 日本超音波医学会第89回学術集会, 京都, 2016年5月27-29日.

第65回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 新潟, 2016年10月26-28日.

18. 大西宏明, 米谷正太, 大塚弘毅, 荒木光二, 松本壮吉, 立石善隆, 河合伸, 渡邊卓: Mycobacterium kyorinense および近縁種 Mycobacterium celatum の薬剤耐性関連遺伝子の解析. 第65回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 新潟, 2016年10月26-28日.
19. 嶋森直子, 岸野智則, 大西宏明, 森井健司, 本谷啓太, 望月眞, 高城靖志, 渡邊卓: 脂肪肉腫の超音波画像と組織型との対比. 第53回日臨技関甲信支部医学検査学会, 甲府, 2016年10月29-30日.
20. 小島洋平, 阿部展次, 紅谷鮎美, 吉本恵理, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木敦子, 鈴木裕, 竹内弘久, 長尾玄, 大塚弘毅, 松岡弘芳, 大倉康男, 古瀬純司, 大西宏明, 渡邊卓, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸腺癌および腺腫における次世代シーケンスによる遺伝子変異解析. 第58回日本消化器病学会大会, 神戸, 2016年11月3-6日.
21. 小林昌永, 柿崎明日香, 宮島彩, 西郷周平, 福田直也, 橋本茂樹, 関昌世, 仁隼人, 原島敬一郎, 岸野智則: 下肢 arterial stiffness index (ASI) の臨床応用への可能性. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
22. 西郷周平, 原島敬一郎, 小林昌永, 柿崎明日香, 関昌世, 橋本茂樹, 福田直也, 宮島彩, 仁隼人, 岸野智則: 経皮的 心 肺 補 助 装 置 (percutaneous cardio-pulmonary support, PCPS) における異物の発生を早期かつ簡便に検出する装置の開発を目指して. 第3回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2016年12月3日.
23. 小林昌永, 原島敬一郎, 柿崎明日香, 宮島彩, 西郷周平, 橋本茂樹, 福田直也, 関昌世, 仁隼人, 岸野智則: 下肢 arterial stiffness index (ASI): 新たな動脈硬化検査法としての可能性. 第3回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2016年12月3日.
24. 奥山貴洋, 米谷正太, 井田陽子, 広井愛美, 平尾千尋, 荒木光二, 大西宏明, 渡邊卓: Clostridium difficile の薬剤感受性分布の検討. 第28回日本臨床微生物学会学術集会, 長崎, 2017年1月20-22日.

論 文

1. Yonetani S^{1,2}, Ohnishi H, Ohkusu K², Matsumoto T^{2,3}, Watanabe T (1Dept Clin Lab, Kyorin Univ Sch Med, 2Dept Microbiol, Tokyo Med Univ, 3Dept Infect Control, Tokyo Med Univ Hosp): Direct identification of microorganisms from positive blood cultures by MALDI-TOF MS using an in-house saponin method. Int J Infect Dis 52:37-42, 2016.
2. Yokoyama M¹, Ohnishi H, Ohtsuka K, Matsushima S, Ohkura Y², Furuse J³, Watanabe T, Mori T¹, Sugiyama M¹ (1Dept Surg, 2Dept Pathol, 3Dept Med Oncol): KRAS mutation as a potential prognostic biomarker of biliary tract cancer. Jap Clin Med 7:33-39, 2016.
3. Watanabe K¹, Kishino T, Sano J¹, Ariga T¹, Okuyama S², Mori H², Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Watanabe T (1Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, 2The Third Dept of Int Med): Relationship between epicardial adipose tissue thickness and early impairment of left ventricular systolic function in patients with preserved ejection fraction. Heart Vessels 31: 1010-1015, 2016.
4. Fujino A¹, Kishino T, Watanabe K¹, Sekiguchi K¹, Takagi Y¹, Matsushima S, Ohtsuka K, Yotsukura M^{2,3}, Ohnishi H, Watanabe T (1Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital, 2Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences, 3The Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Relationship between

pericardial adipose tissue thickness and early impairment of left ventricular function, both evaluated on echocardiography. 臨床病理 64: 1134-1138, 2016.

5. 大西宏明: 自信をもって採血を行うために 採血手技を確認しよう. Medical Technology 44:1039-1044, 2016.
6. 佐藤英樹, 高城靖志, 副島京子, 大西宏明: 杏林大学付属病院 診断医との連携体制と項目設定. 臨床検査 60(11): 1361-1399, 2016.

その他

1. 大西宏明, 渡邊卓: 特別座談会 採血と医療安全. Vita 136:1-23, 2016.
2. 大西宏明: 採血手技のポイント. 宝函 37:42-45, 2016.

総合医療学教室

講 演

1. 佐野彰彦, 西圭史, 河合弘子, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 井田陽子, 倉井大輔, 河合伸: 非albicansによる Candida 菌血症の動向と抗真菌薬の感受性に関する検討. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016年4月15-16日.
2. 畑典孝, 植地貴弘, 菊地真祈, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 非アルコール性Wernicke脳症2症例の検討. 第113回日本内科学会総会, 東京, 2016年4月16-17日.
3. 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 清涼飲料水ケトーシス2症例の検討. 第113回日本内科学会総会, 東京, 2016年4月16-17日.
4. 河合伸: 最近の耐性菌動向と抗菌薬使用の実際. 塩野義製薬社講演会, 東京, 2016年5月16日.
5. 佐野彰彦, 西圭史, 河合弘子, 吉田博昭, 谷正太, 牧野博, 荒木光二, 井田陽子, 奥山貴洋, 森山潔, 倉井大輔, 河合伸: 当院の非albicans 菌血症の実態と検討. 真菌症フォーラム, 東京, 2016年5月21日.
6. 村部妙美: 引きこもりから離脱し, 卒業に向けて取り組んだ事例ー沈黙が言葉になることを支えるー. 第34回日本学生相談学会, 東京, 2016年5月21-23日.
7. 河合伸: HIV感染症. 平川病院院内感染対策講演会, 東京, 2016年6月4日.
8. 石黒睦子, 岡本晋, 吉田正雄, 山本実: インスリン抵抗性からみたメタボリックシンドローム判定の再評価. 第57回日本人間ドック学会学術大会, 松本, 2016年7月29日.
9. 佐野彰彦: 当院におけるカンジダ血症の実態とその治療. 大日本住友社内講演, 東京, 2016年8月16日.
10. 村部妙美: うつ状態の回復の過程においてエコマップと家系図を有効活用した事例. 日本心理臨床学会第35回秋季大会, 横浜, 2016年9月4-7日.
11. 島田正亮, 菅野恵: 児童養護施設における措置変更プロセスに関する研究ー職員支援の視点からの分析ー. 日本心理臨床学会第35回秋季大会, 横浜, 2016年9月4-7日.
12. 菅野恵, 島田正亮: 児童養護施設に入所したネグレクト児の実態調査ークロス集計を中心にー. 日本心理臨床学会第35回秋季大会, 横浜, 2016年9月4-7日.
13. 菅野恵, 島田正亮, 波多江洋介, 坪井裕子, 中島良二, 岡昌之, 村松健司: 児童養護施設における心理的な実践研究をめぐって(5)ーネグレクトに着目してー. 日本心理臨床学会第35回秋季大会, 横浜, 2016年9月4-7日.
14. 河合桐男, 岡野尚宏, 小林敬明, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: カルシウム血症を呈した膵腺扁平上皮癌に対

- して化学療法を施行した2例. 日本内科学会関東地方会, 東京, 2016年9月10日.
15. Hirabuki K, Uechi T, Komatsu Y, Hirose K, Morisawa T, Hata N, Sano Y, Tokutsu T, Miyauchi H, Kobayashi T, Shibata S, Matsuda T: Adult Intussusception Due to Meckel's diverticulum. The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, September 9th-11th, 2016.
 16. Hata N, Uechi T, Hirabuki K, Hirose K, Morisawa T, Komatsu Y, Sano Y, Tokutsu T, Miyauchi H, Kobayashi T, Shibata S, Matsuda T: Non-alcoholic Wernicke Encephalopathy in Emergency Department: Report of Two Cases. The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, September 9th-11th, 2016.
 17. Sano Y, Uechi T, Komatsu Y, Hirabuki K, Hirose K, Morisawa T, Hata N, Tokutsu T, Miyauchi H, Kobayashi T, Shibata S, Matsuda T: Stevens-Johnson Syndrome With Hyperamylasemia. The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. USA, September 9th-11th, 2016.
 18. Hirose K, Uechi T, Komatsu Y, Hirabuki K, Morisawa T, Hata N, Sano Y, Tokutsu T, Miyauchi H, Kobayashi T, Shibata S, Matsuda T: De Garengeot's Hernia: A Case Report. The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. USA, September 9th-11th, 2016.
 19. Komatsu Y, Uechi T, Hirabuki K, Hirose K, Morisawa T, Hata N, Sano Y, Tokutsu T, Miyauchi H, Kobayashi T, Shigeki S, Matsuda T: Acute Paraspinal Compartment Syndrome Accompanied by Rhabdomyolysis. The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. USA, September 9th-11th 2016. (Wada Award 受賞)
 20. Kobayashi T, Masaki T, Takayasu K, Kojima K, Mastuoka H, Sugiyama M, Nagashima F, Furuse J: Efficacy of anti-EGFR antibody monotherapy for patients with colorectal cancer with the Kras G13D mutation: report of four cases. The 19th Annual meeting of Chinese Society of Clinical Oncology (CISCO 2016), 中国, September 22nd, 2016.
 21. Kawai K, Naruge D, N Okano, Kobayashi T, Nagashima F, Furuse J: Cases of 2nd line therapy for gastrointestinal neuroendocrine carcinoma (GI-NEC) including pancreas neuroendocrine carcinoma (P-NEC). The 19th Annual meeting of Chinese Society of Clinical Oncology (CISCO 2016), 中国, September 22nd, 2016.
 22. 石川智: 児童養護施設における性的問題の実態に関する研究. 日本ヒューマンケア心理学会第18回大会, 越谷, 2016年9月24-25日.
 23. 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能胆道癌に対する2次治療の成績と予後因子の検討. 第52回日本胆道学会学術集会, 横浜, 2016年9月29-30日.
 24. Nozaki E, Kobayashi T, Sakurai H, Nagashima F, Furuse J, Masaki T, Sugiyama M: CXCR3A, but not 3B, confers proliferation and invasion of colorectal cancer. 第75回日本癌学会学術総会, 横浜, 2016年10月6-8日.
 25. 北村浩, 林茂一郎, 河合桐男, 岡野尚弘, 成毛大輔, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: 腫瘍随伴症候群による舞踏病様不随意運動を伴った肺癌の1例. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20-22日.
 26. 成毛大輔, 河合桐男, 岡野尚弘, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: 化学療法による末梢神経障害に対するトランプドール/アセトアミノフェン配合錠の有効性. 第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月20-22日.
 27. 米谷正太, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 尿路感染が契機と考えられた Actinotignum schaalii による菌血症の4症例. 第65回日本感染学会地方会, 新潟, 2016年10月26-28日.
 28. 西圭史, 田中宏明, 吉田博昭, 河合弘子, 篠原高雄, 佐野彰彦, 河合伸: 認定薬剤師活動のブレークスルーをめざして! 救命救急領域での活動. 第65回日本感染学会地方会, 新潟, 2016年10月26-28日.
 29. Hirabuki K, Suda T, Hata N, Sano Y, Uechi T, Miyauchi H, Takehiro T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Reproducibility of Left Ventricular Volumes and Function Measured with Three-Dimensional Speckle Tracking Echocardiography. 第6回国際スポーツ医科学ネットワークフォーラム長野2016, 長野, 2016年11月9-11日.
 30. Uechi T, Hirabuki K, Suda T, Hata N, Sano Y, Miyauchi H, Tsukada T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Influence of Atmospheric Temperature on Neurological Mortality after Out-of-Hospital Cardiac Arrest. 第6回国際スポーツ医科学ネットワークフォーラム長野2016. 長野, 2016年11月9-11日.
 31. Suda T, Hirabuki K, Hata N, Sano Y, Uechi T, Miyauchi H, Tsukada T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Comparison of Left Ventricular Myocardial Strain and Twist in Athletes Versus Non-Athletes Using 3D Speckle Tracking Echocardiography. 第6回国際スポーツ医科学ネットワークフォーラム長野2016, 長野, 2016年11月9-11日.
 32. 佐野彰彦: 抗MRSA系抗菌薬の投与下でコントロールできなかったMRSAによる心内膜炎の1例. 東京難治性感染症研究会, 東京, 2016年11月12日.
 33. 河合伸: HIV感染症. 鳥居薬品社内講演会, 東京, 2016年11月9日.
 34. 前田優那, 佐野勇貴, 廣瀬圭太, 平吹一訓, 森澤友博, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 柴田茂貴, 松田剛明: 高アミラーゼ血症を伴ったStevens-Johnson症候群の1例. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
 35. 丸木拓, 森澤友博, 畑典孝, 小舩能華, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 柴田茂貴, 松田剛明: クリーゼに至ったMusk抗体陽性の重症筋無力症の1例. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
 36. 對馬可菜, 須田智也, 畑典孝, 小舩能華, 廣瀬圭太, 平吹一訓, 植地貴弘, 宮内弘子, 柴田茂貴, 松田剛明: 上顎洞を主座とする急性細菌性副鼻腔炎から頭蓋内病変を合併した1例. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
 37. 野中麻衣, 平吹一訓, 小舩能華, 廣瀬圭太, 畑典孝, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 柴田茂貴, 松田剛明: 若年発症のTIAを契機に発見されたFahr病 (特発性基底核石灰化症) 疑いの1例. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
 38. 加藤結子, 小舩能華, 森澤友博, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 小腸アニサキス症にともなう全小腸型の麻痺性イレウスを来した1例. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2016年11月17-19日.
 39. 石川智, 給前麻実子, 久保博文, 星野崇啓: 児童養護施設における性的問題の実態に関する研究-2009年度実態調査と2015年度実態調査の比較から-. 第22回日本子ども

も虐待防止学会, 大阪, 2016年11月25-26日.

40. 菅野恵, 島田正亮: ネグレクトを受けた子どもの行動特性に関する質的分析ー児童養護施設入所時の課題に着目してー. 日本学校メンタルヘルス学会第20回大会, 東京, 2016年12月9-11日.
41. 中島良二, 菅野恵, 島田正亮: ネグレクトにより施設入所に至った小学生2事例の検討ー学校不適応の課題を中心にー. 日本学校メンタルヘルス学会第20回大会, 東京, 2016年12月9-11日.
42. 佐野勇貴, 廣瀬能華, 廣瀬圭太, 平吹一訓, 森澤友博, 須田智也, 畑典孝, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 発熱・尿閉を主訴に来院し, Elsberg症候群と診断した若年男性の1例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2017年2月4日.
43. 對馬可菜, 畑典孝, 廣瀬能華, 廣瀬圭太, 平吹一訓, 森澤友博, 須田智也, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 腹痛を主訴に来院した5例のFitz-Hugh-Curtis syndromeの検討. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2017年2月4日.
44. 加藤結子, 須田智也, 廣瀬能華, 廣瀬圭太, 平吹一訓, 森澤友博, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 術後補助化学療法中に腹部大動脈の壁に血栓によって発症した腎梗塞の1例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2017年2月4日.
45. 朽名貴史, 平吹一訓, 森澤友博, 廣瀬能華, 廣瀬圭太, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: Meckel憩室による成人の腸重積症の1例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2017年2月4日.
46. 廣瀬圭太, 廣瀬能華, 平吹一訓, 森澤友博, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 虫垂の大腿ヘルニア嵌頓から大腿ヘルニア内壊疽性虫垂炎へ至った1例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2017年2月4日.
47. 廣瀬能華, 廣瀬圭太, 平吹一訓, 森澤友博, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 当院の救急外来に来院した清涼飲料水ケトーシス2症例の検討. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2017年2月4日.
48. 佐野彰彦: 当院における血液培養およびカテーテル培養由来カンジダ属菌感受性動向. 大日本住友カンジダ血症を考える会, 東京, 2017年2月9日.
49. 高橋陽子, 倉井大輔, 種岡貴子, 西圭史, 米谷正太, 佐野彰彦, 河合伸: 肺炎患者でのシプロキサシン耐性髄膜炎菌の検出時の対応について: 症例報告. 第32回日本環境感染学会総会, 神戸, 2017年2月24-25日.
50. 佐野彰彦: 当院におけるnon albicans血症の動向. 大日本住友社内講演, 東京, 2017年3月2日.
51. 佐野彰彦: 当院の抗MRSA系薬の使用状況. ファイザー社内講演, 東京, 2017年3月24日.

論文

1. 河合伸: 気道感染症Update. 日本気管食道科学会会報 67: 325-330, 2016.
2. 西圭史¹, 米谷正太², 佐野彰彦, 河合伸 (¹杏林大・病院・薬剤部, ²杏林大・病院・臨床検査部): 2剤耐性緑膿菌とカルバペネム耐性腸内細菌 (CR-Enterobacter aerogenes) による肺炎にアミカシンを1日1回20mg/kgで投与した1例. 日本外科感染症学会雑誌 13:655-659, 2016.
3. 村部妙美: 学生相談機関が有効活用されるための新入生

ガイドランスの工夫と入学期の学生支援の利点についてー2大学の臨床実践の経験からー. 杏林大学研究報告教養部門 34: 15-24, 2016.

4. 前野聡子¹, 長島丈夫¹, 成毛大輔¹, 岡野尚弘¹, 河合桐男¹, 小林敬明, 北村浩¹, 古瀬純司¹ (¹杏林大・医・腫瘍内科学): 高齢者がん治療. 腫瘍内科 19(1):101-106, 2017.
5. 前野聡子¹, 長島丈夫¹, 成毛大輔¹, 岡野尚弘¹, 河合桐男¹, 小林敬明, 北村浩¹, 古瀬純司¹ (¹杏林大・医・腫瘍内科学): 老年腫瘍学. 癌と化学療法 44(2):97-101, 2017.
6. Arima S¹, Shimizu K², Okamoto T³, Toki M⁴, Suzuki Y⁵, Okano N⁶, Naruge D⁶, Kawai K⁶, Kobayashi T, Kasuga A⁶, Kitamura H⁶, Takasu A⁶, Nagashima F⁶, Sugiyama M⁵, Furuse J⁶ (¹Kagoshima University, ²Tokyo Women's Medical University, ³The Jikei University Daisan Hospital, ⁴Third Department of Internal Medicine, Kyorin University, ⁵Department of Surgery, Kyorin University, ⁶Department of Medical Oncology, Kyorin University): A Multicenter Phase II Study of Gemcitabine plus S-1 Chemotherapy for Advanced Biliary Tract Cancer. Anticancer Res 37(2):909-914, 2017.
7. 森澤友博, 植地貴弘, 柴田茂貴, 松田剛明: 伝染性単核球症患者の口蓋点状出血. 杏林医学会雑誌 48(1):11, 2017.

著書

1. 河合伸: 鑑別診断. ARDS診療ガイドライン (Part1). 3学合同ARDS診療ガイドライン2016作成委員会編. 東京, 一般社団法人日本呼吸器学会, 2016. p.61-68.
2. 河合伸: 抗菌療法. ARDS診療ガイドライン (Part1). 3学合同ARDS診療ガイドライン2016作成委員会編. 東京, 一般社団法人日本呼吸器学会, 2016. p.112-117.
3. 小林敬明: 切除不能膀胱癌に対する1次治療. 膀胱・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p.34-36.
4. 小林敬明: 切除不能膀胱癌に対する2次治療. 膀胱・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p.44-47.
5. 小林敬明: 切除不能胆道癌の薬物療法. 膀胱・胆道癌薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司編. 東京, 医学と看護社, 2016. p.58-61.

その他

1. 石川智, 村部妙美, 島田正亮: 特集 みんなのココロを軽くする 学校生活のお悩みレスキュー隊!. Clinical study 37(7): 649-657, 2016.

リハビリテーション医学教室

講演

1. 藤林亜弥, 山田深, 藤巻ありさ, 篠崎由樹子, 明石みなみ, 関本琴恵, 鈴木亜希子, 永田真佑美, 塩川芳昭, 平野照之: 脳卒中センターにおける看護師の介入の有用性〜ICFコアセットを用いた検討〜. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
2. 宅美貴子, 山田深, 岡島康友, 岡野晴子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 失語症をきたした左視床出血. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
3. 永堀啓, 山田深, 石田幸平, 藤澤祐基, 笹森寛生, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 視床出血の予後の検討. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
4. 土井麻莉子, 山田深, 石田幸平, 笹森寛生, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之:

急性期脳卒中センターにおける高齢脳卒中患者のADL能力と転帰先. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.

5. 石田幸平, 山田深, 永堀啓, 笹森寛生, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 心原性脳塞栓症患者のリハビリテーションと予後. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
6. Hayamizu S, Mori E, Yamada S: Treatment of "dystonic clenched fist" with botulinum toxin: A case report of a patient with Parkinson's disease. 10th International Society Physical Medicine, Malaysia, May 29th, -June 2nd, 2016.
7. 丸野秀人, 岡島康友: 足関節外果骨折術後の荷重非制限療法. 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2016年6月10日.
8. 山田深: 有人宇宙開発の医学~国際宇宙ステーションから火星まで~. 杏林大学三鷹オープンキャンパス模擬授業, 三鷹, 2016年7月30日.
9. 岡島康友: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第17回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2016年7月31日.
10. 山田深: 有人宇宙開発の医学~国際宇宙ステーションから火星まで~. 杏林大学三鷹オープンキャンパス模擬授業, 三鷹, 2016年8月20日.
11. 山田深: 有人宇宙開発の挑戦~国際宇宙ステーションから火星まで~. 第5回エビデンスに基づく統合医療研究会, 大阪, 2016年9月4日.
12. 石田幸平, 森光代, 永堀啓, 山田深, 岡島康友: 急性期脳卒中患者の病型と運動機能予後. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016年9月9日.
13. 山田深: 宇宙飛行士の運動トレーニング 無重力と人の体. 市民公開講座, 三鷹, 2016年9月24日.
14. 山田深: 宇宙出前授業. 今治市立乃万小学校, 今治, 2016年9月29日.
15. 山田深: 宇宙出前授業. 愛南町立柏小学校, 愛南, 2016年9月30日.
16. 松田恭平, 山田深, 岡島康友: 重度熱中症により高次脳機能障害を来した1例. 第64回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 新潟, 2016年10月1日.
17. 岡島康友: 東京多摩地域リハビリテーション連携一地域包括ケアにおけるリハビリテーション. 第47回多摩地域リハビリテーション研究会シンポジウム, 三鷹, 2016年10月15日.
18. 山田深: ICFオーバービュー. ICF評価セット短縮版に関するSimple intuitive description 作成ワークショップ, 名古屋, 2016年11月2日.
19. 岡島康友: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第20回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2016年12月11日.
20. 高橋秀寿: 機能的自立度評価法. 第17回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2016年7月31日.
21. 山田深: 宇宙飛行のお話. コズミックカレッジ山梨, 北杜, 2017年1月14日.
22. 山田深: 宇宙飛行士のコアを鍛える, 光のスピード. ミッションX特別授業, 東郷, 2017年2月9日.
23. 山田深: 宇宙開発について知ろう!. ミッションX特別授業, 横浜, 2017年2月27日.
24. 宅美貴子, 山田深, 岡野晴子, 鳥居正剛, 鈴木理恵子, 海野佳子, 岡島康友, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳血管障害における摂食嚥下障害の経過と予後予測. 第42回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2017年3月17

日.

25. 佐藤敦子, 山田深, 藤澤祐基, 岡島康友, 塩川芳昭: くも膜下出血後にシャント術を施行された症例の歩行能力の推移. 第42回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2017年3月17日.
26. 神山裕司, 山田深, 水石裕, 坂本勇斗, 小河百合子, 岡島康友, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 当脳卒中センターにおけるリハビリテーション介入の10年. 第42回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2017年3月18日.

論文

1. 山田深: ICFコアセットマニュアル日本語版翻訳にあたって. Jpn J Rehabil Med 53:676-680, 2016.
2. Indo HP¹, Majima HJ¹, Terada M, Suenaga S¹, Tomita K¹, Yamada S, Higashibata A, Ishioka N, Kanekura T¹, Nonaka I², Hawkins CL³, Davies MJ⁴, Clair DK⁵, Mukai C² (¹Kagoshima University, ²JAXA, ³National Center Hospital for Mental Nervous and Muscular Disorders, ⁴University of Sydney, ⁵University of Copenhagen): Changes in mitochondrial homeostasis and redox status in astronauts following long stays in space. Sci Rep 6:39015, 2016.
3. 藤井浩優, 山田深: 急性期・高密度型脳卒中リハビリテーションの有効性 最近公表されたAVERT研究結果の概要およびその評価. 総合リハ 45: 103-108, 2017.
4. 高橋宣成, 岡島康友: 重症脳卒中患者のリスク管理. 作療ジャーナル 50: 308-314, 2016.

著書

1. 岡島康友: リハビリテーション総論. ナースのための足病の教科書. 大浦紀彦, 大浦武彦編. 東京, 照林社, 2016. p. 266-267.
2. 西川順治, 岡島康友: 疼痛. リハビリテーションにおける評価Ver. 3. 上月正博, 正門由久, 吉永勝訓編. 東京, 医歯薬出版, 2016. p. 132-138.
3. 藤澤祐基, 岡島康友: 運動失調症と片麻痺の書字運動解析. 臨床医とコメディカルのための最新リハビリテーション. 岡島康友, 森田定雄, 田島文博, 佐伯覚, 寺田弘司編. 東京, 先端医療技術研究所, 2016. p. 220-223.
4. 山田深: ICFコアセットの役割と臨床応用. 臨床医とコメディカルのための最新リハビリテーション. 岡島康友, 森田定雄, 田島文博, 佐伯覚, 寺田弘司編集. 東京, 先端医療技術研究所, 2016. p. 61-64.

報告書

1. 山田深: 日常生活動作に関する標準の評価尺度とICFの互換. 厚生労働科学研究費補助金(国際生活機能分類児童版(ICF-CY)の妥当性に関する研究事業)2016年度 総合研究報告書.

その他

1. 山田深: 巻頭言ー疼痛とリハビリテーション. Jpn J Rehabil Med 53: 586, 2016.
2. 山田深: 「きょうの健康」脳卒中最前線, NHK総合, 2016年11月3日.
3. 岡島康友: 「ドクターサロン」腰に負担のかからない座位, ラジオNIKKEI, 2016年11月29日.
4. 山田深(宇宙飛行士運用技術ユニット): 部門長賞受賞. 「こうのとりの5号機」及び「きぼう」の運用における特に顕著な成果と戦略的な情報の発信, 宇宙航空研究開発機構, 2016年12月7日.
5. 山田深: Interview - エビデンスに基づく地域包括ケアシステムの推進. Jpn J Rehabil Med 54: 177-180, 2017.
6. 山田深: Teacher of the Year 2016受賞. 杏林大学医学部.

リハビリテーション室
(リハビリテーション医学教室)

講演

1. 土井麻莉子, 山田深, 石田幸平, 笹森寛生, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳卒中センターにおける高齢脳卒中患者のADL能力と転帰先. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
2. 宅美貴子, 山田深, 岡島康友, 岡野晴子, 鳥居正剛, 鈴木理恵子, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 失語症をきたした左視床出血. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
3. 永堀啓, 山田深, 石田幸平, 藤澤祐基, 笹森寛生, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 視床出血の予後の検討. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
4. 水石裕, 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 藤澤祐基, 横山敏彦, 小笠原準悦, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病患者における目標運動強度内の運動療法達成率に関する検討—腕時計型脈拍計を用いて—. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
5. 田中耕史, 炭谷由計, 須崎由香, 水石裕, 横山敏彦, 小笠原準悦, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病患者を対象とした運動療法の処方における心拍数と自覚的強度の関係について. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
6. 佐久智紀, 森光代, 石田幸平, 成田圭吾, 岡島康友: 壊死性筋膜炎後の肘屈筋群および橈骨神経傷害に対する薄筋移植と円回内筋移行による機能再建症例の経験. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016年9月9-11日.
7. 鈴木和基, 合田あゆみ, 横山さち, 佐藤徹, 岡島康友: 肺高血圧症患者の低酸素血症と自覚症状の関連. 第20回日本心不全学会学術集会, 札幌, 2016年10月7-9日.
8. 鈴木和基, 藤田博暁, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友: 慢性血栓性肺高血圧症患者に対する運動時低酸素血症を予測する因子の検討. 第25回埼玉県理学療法学会, さいたま, 2016年12月11日.
9. 境哲生, 岡島康友: がん患者におけるリハビリテーション介入. 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会, 久留米, 2017年2月4-5日.
10. 若林俊夫, 西田悠一郎, 山田深: 大学生投手における身体的特徴～非投球側股関節機能に着目して～. 第7回北多摩ブロック学術集会, 三鷹, 2017年2月19日.
11. 坂本勇斗, 神山裕司, 山田深: 脳出血を合併した特発性血小板減少性紫斑病患者に対する理学療法介入. 第7回北多摩ブロック学術集会, 三鷹, 2017年2月19日.
12. 林良幸, 山田深, 唐帆健浩, 大浦紀彦, 岡島康友: 迷走神経麻痺患者の嚥下造影検査所見の特徴. 第32回日本静脈経腸栄養学会, 岡山, 2017年2月23-24日.
13. 佐藤敦子, 山田深, 藤澤祐基, 岡島康友, 塩川芳昭: くも膜下出血後にシャント術を施行された症例の歩行能力の推移. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
14. 神山裕司, 山田深, 水石裕, 坂本勇斗, 小河百合子, 岡島康友, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 当脳卒中センターにおけるリハビリテーション介入の10年. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
15. 宅美貴子, 山田深, 岡野晴子, 鳥居正剛, 鈴木理恵子, 海野佳子, 岡島康友, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳血管障害における摂食嚥下障害の経過と予後予測. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月17日.

論文

1. 藤澤祐基, 岡島康友: 巧緻運動障害評価の考え方. リハ医学 54: 219-225, 2017.

著書

1. 藤澤祐基, 岡島康友: 運動失調症と片麻痺の書字運動解析. 先端医療シリーズ47 臨床医とコメディカルのための最新リハビリテーション. 平澤泰介, 椿原彰夫, 才藤栄一, 水間正澄編. 東京, 先端医療技術研究所, 2016. p. 220-223.

脳卒中医学教室

講演

1. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 第18回きたはりまハートクラブ, 小野, 2016年4月7日.
2. 河野浩之, Levi CR, 稲富雄一郎, 米原敏郎, 安東由喜雄, Parsons MW: 急性期血栓溶解療法実施に関する国際的ベンチマーク: 日豪比較. 第41回日本脳卒中学会総会 Stroke 2016, 札幌, 2016年4月14-16日.
3. 斉藤幹人, 鈴木理恵子, 小松原弘一郎, 岡島康友, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳梗塞に対する初期対応・急性期治療における時間短縮への取り組み. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月14日.
4. 城野喬史, 綾野水樹, 中西郁, 鈴木理恵子, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: rt-PA静注療法の効果に性差が及ぼす影響. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月14日.
5. 岡野晴子, 中島昌典, 阿部光世, 鈴木亜希子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 笹森寛生, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳卒中患者における弾性ストッキングの深部静脈血栓予防効果. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月14日.
6. 中島昌典, 岡野晴子, 笹森寛生, 鳥居正剛, 鈴木理恵子, 海野佳子, 平野照之, 千葉厚郎, 塩川芳昭: 経口抗凝固療法実施例におけるアピキサバン選択の傾向. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月14日.
7. 平野照之: DOACを俯瞰する～マクロとミクロ～. STROKE2016, 札幌, 2016年4月15日.
8. 平野照之: アルテプラゼ静注療法適正使用のために. STROKE2016, 札幌, 2016年4月16日.
9. 中西郁, 綾野水樹, 城野喬史, 鈴木理恵子, 平野照之, 千葉厚郎, 塩川芳昭: 超高齢者に対するrt-PA静注療法に関する検討. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
10. 綾野水樹, 蛭沢志織, 城野喬史, 中西郁, 鈴木理恵子, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 入院中に発症した脳梗塞症例に関する検討. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
11. 宅美貴子, 山田深, 岡島康友, 岡野晴子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 失語症をきたした左視床出血. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
12. 永堀啓, 山田深, 石田幸平, 藤澤祐基, 笹森寛生, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 視床出血の予後の検討. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
13. 土井麻莉子, 山田深, 石田幸平, 笹森寛生, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳卒中センターにおける高齢脳卒中患者のADL能力と転帰先. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
14. 石田幸平, 山田深, 永堀啓, 笹森寛生, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 心

- 原性脳塞栓症患者のリハビリテーションと予後. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016年4月16日.
15. Suzuki R, Ayano M, Nakanishi K, Johno T, Sato E, Shiokawa Y, Hirano T: Effect of rt-PA thrombolysis in patients with embolic stroke of undetermined source (ESUS). The European Stroke Organization Conference, Spain, May 10th-12th, 2016.
 16. 平野照之: アテローム血栓症を巡る最近の話題. STROKE EXPERT MEETING, 東京, 2016年5月16日.
 17. 河野浩之, Levi CR, 稲富雄一郎, 米原敏郎, 中島誠, Parsons MW, 安東由喜雄: Door-to-Imaging時間, Imaging-to-Needle時間, Door-to-Needle時間の関係. 第57回日本神経学会学術集会, 神戸, 2016年5月18-21日.
 18. 海野佳子: トリプタンから考える片頭痛治療の現在・過去・未来. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月18日.
 19. Hirano T: Oral anticoagulant therapy for prevention of cardioembolism. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月19日.
 20. 平野照之: 一過性脳虚血発作を見逃さない 画像診断の役割を見直す. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月20日.
 21. 平野照之: 脳卒中治療ガイドライン2015: どこが変わったか?. 第19回中野 Stroke Care研究会, 東京, 2016年5月24日.
 22. 平野照之: 脳梗塞急性期治療 HERMESの次の一手は?. 第10回急性期脳卒中ネットワークの会, 福岡, 2016年6月3日.
 23. 本田有子, 丸山啓介, 野口明男, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: 頸部頸動脈狭窄症に対する外科治療後の頸動脈エコー所見. 第35回日本脳神経超音波学会総会, 横浜, 2016年6月4日.
 24. 平野照之: 脳塞栓症を巡る話題: 何が脳血管を塞ぎ, そこをどう通すか?. 第35回日本脳神経超音波学会総会, 横浜, 2016年6月4日.
 25. 平野照之: MRIの脳卒中診断への活用と3T MRIの有用性. 日本メドトロニック株式会社社内セミナー, 東京, 2016年6月7日.
 26. 本田有子, 丸山啓介, 野口明男, 田村晃, 齋藤勇, 清一美, 曾我隆正, 牛場克明, 櫻井孝, 平野照之, 塩川芳昭: 脳ドック受診者における大脳白質病変とMRA所見の関連性の検討. 第25回日本脳ドック学会総会, 軽井沢, 2016年6月10日.
 27. 平野照之: ESUSへのアプローチ: 2つの方向性. 第3回日本心血管脳卒中学会学術集会, 東京, 2016年6月17日.
 28. 海野佳子: 心臓超音波検査で腫瘤を認めた虚血性脳卒中3例の臨床的検討. 第3回日本心血管脳卒中学会学術集会, 東京, 2016年6月18日.
 29. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 第2回NPC in FUKUOKA, 福岡, 2016年6月18日.
 30. 平野照之: DOACを俯瞰する~マクロとミクロ~. 埼玉県南西部 脳・心フォーラム, 朝霞, 2016年6月22日.
 31. 平野照之: 脳卒中専門医のNOAC選び. 第19回長崎県北脳卒中研究会学術講演会, 佐世保, 2016年6月24日.
 32. 海野佳子: 原性脳塞栓症の再発予防薬~杏林大学病院脳卒中センターでの使い分け~. 脳卒中におけるICT活用を考える会, 東京, 2016年6月29日.
 33. 平野照之: 脳卒中連携医療の進化と深化: K-STREAMから学んだこと. Jonan Stroke Forum 2016, 東京, 2016年7月1日.
 34. 平野照之: 脳卒中治療を巡る最近の話題. 武田薬品工業社外講師勉強会, 武蔵野, 2016年7月4日.
 35. 飯島昌平, 河野浩之, 笹森寛生, 本田有子, 鳥居正剛, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 眼科用VEGF阻害薬による治療中に発症した脳梗塞の一例. 第62回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 2016年7月7日.
 36. 海野佳子: MOHの治療と問題点. Headache Master School Japan 2016 (HMSJ 2016), 盛岡, 2016年7月10日.
 37. 平野照之: DOACを俯瞰する~マクロとミクロ~. 葛飾区抗凝固療法Network Meeting, 東京, 2016年7月12日.
 38. Hirano T: Acute stroke presentation - the difference between the East and the West. Asia Pacific Stroke Conference 2016, Australia, July 14th, 2016.
 39. Kawano H, Bivard A, Lin L, Spratt NJ, Miteff F, Parsons MW, Levi CR: Contrast peak density in collateral vessels may be an important factor in tissue fate in acute ischemic stroke. Asia Pacific Stroke Conference 2016, Australia, July 15th-17th, 2016.
 40. Liebeskind D, Yoo A, Hirano T, Liping Liu: Expert panel crossfire. Asia Pacific Stroke Conference 2016, Australia, July 15th, 2016.
 41. Hirano T: How hyperacute stroke units can be implemented in Australasia and Asia-Pacific. Asia Pacific Stroke Conference 2016, Australia, July 16th, 2016.
 42. Hirano T: Debate 2, To better serve the rural community-more rural stroke physicians or teleneurology. Asia Pacific Stroke Conference 2016, Australia, July 16th, 2016.
 43. Hirano T: Future of acute stroke imaging: areas of controversy and research direction. Asia Pacific Stroke Conference 2016, Australia, July 17th, 2016.
 44. 平野照之: 超高齢社会ニッポンにおける脳梗塞診療: NOAC/DOACの役割. 第19回日本臨床脳神経外科学会, 熊谷, 2016年7月24日.
 45. 平野照之: 脳卒中専門医のNOAC選び. Anticoagulation Conference, 東京, 2016年7月26日.
 46. 平野照之: rt-PA静注療法・過去・現在・未来. 第16回熊本ストローク研究会, 熊本, 2016年7月30日.
 47. 平野照之: 第二次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. 熊本脳卒中予防学術講演会, 熊本, 2016年8月3日.
 48. 平野照之: 脳卒中の概要. 日本メドトロニック Reveal LINQ Sales Specialist Training Lecture, 東京, 2016年8月18日.
 49. 天野達雄: 脳卒中で寝たきりにならないために. ベネッセの地域医療セミナー. 武蔵野, 2016年8月20日.
 50. 平野照之: 未<非>破裂脳動脈瘤の包括的内科治療. 第35回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 東京, 2016年8月27日.
 51. 平野照之: 脳卒中専門医のNOAC選び. 抗凝固療法を考える会, 柏, 2016年9月7日.
 52. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 小笠医師会学術講演会, 掛川, 2016年9月8日.
 53. 石田幸平, 森光代, 永堀啓, 山田深, 岡島康友: 急性期脳卒中患者の病型と運動機能予後. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016年9月9日.
 54. 平野照之: 国際学会行脚, この9年. 第9回脳血管山峰会研究会, 吹田, 2016年9月10日.
 55. 河野浩之: 豪州Newcastle大学での脳卒中臨床研究. 第9回脳血管山峰会研究会, 吹田, 2016年9月10日.
 56. 河野浩之: 造影CTを用いた側副血行発達の評価. Stroke seminar 2016, 三鷹, 2016年9月14日.

57. 平野照之：脳梗塞の急性期治療戦略2016：HERMESの与えたインパクト。第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会，東京，2016年9月16日。
58. 平野照之：危険因子を共有する脳卒中と認知症。第17回日本早期認知症学会学術大会，熊本，2016年9月18日。
59. Hirano T：Optimal oral anticoagulation strategies based on Japanese database research；Challenge or Change VKA？. Hospital Seminar in ASAN Medical Center, South Korea, 2016年9月23日。
60. Hirano T：Optimal oral anticoagulation strategies based on Japanese database research；Challenge or Change VKA？. MASTER CLASS, South Korea, 2016年9月24日。
61. 平野照之：新・DOAC選びの基礎知識。第3回調布・狛江抗凝固薬研究会，調布，2016年9月27日。
62. 平野照之：脳梗塞急性期治療の最新動向。小金井リハビリテーション病院連携の会，小金井，2016年9月28日。
63. 平野照之：脳塞栓症へのチームアプローチ。第25回獨協越谷医療臨臨床神経懇話会，越谷，2016年9月29日。
64. 本田有子，丸山啓介，曾我隆正，牛場克明，清一美，田村晃，斎藤勇，野口明男，櫻井孝，平野照之，塩川芳昭：脳ドック受診者におけるMRA所見の目視的評価分類とリスク因子・大脳白質病変との関連の検討。第75回日本脳神経外科学会総会，福岡，2016年9月29日。
65. 笹森寛生，傳法倫久，小松原弘一郎，鳥居正剛，佐藤栄志，平野照之，塩川芳昭：Trousseau 症候群による超急性期脳主幹動脈閉塞に対して機械的血栓回収を行った4例の検討。第75回日本脳神経外科学会総会，福岡，2016年9月29日。
66. 平野照之：脳塞栓症と心房細動。心房細動のTotal Care～最新の心房細動治療から脳梗塞の管理・予防まで～，東村山，2016年9月30日。
67. 鳥居正剛，平野照之，佐藤研隆，笹森寛生，小松原弘一郎，傳法倫久，佐藤栄志，塩川芳昭：医原性頸部動脈損傷に対する診断および修復方法の検討。第75回日本脳神経外科学会総会，福岡，2016年10月1日。
68. 川井田善太郎，綾野水樹，熊切敦，笹森寛生，平野照之，塩川芳昭：入院中に発症した脳梗塞症例に関する検討。第75回日本脳神経外科学会総会，福岡，2016年10月1日。
69. 平野照之：新たな疾患概念～ESUS (Embolic Stroke of Undetermined Source) とは～。ストップ！NO卒中プロジェクト全国一斉エリア会議東京，東京，2016年10月4日。
70. 平野照之：新・DOAC選びの基礎知識。第4回八千代地区抗凝固療法カンファレンス，佐倉，2016年10月5日。
71. 笹森寛生，松本淑恵，佐藤栄志，塩川芳昭，天野達雄，平野照之：血管内治療を行なった慢性期両側椎骨動脈解離の1例。第33回東京脳血管内治療研究会，東京，2016年10月8日。
72. 平野照之：脳卒中撲滅への歩み：この10年。ストップ！NO卒中プロジェクト全国一斉エリア会議in福島2016，福島，2016年10月11日。
73. 平野照之：超高齢社会ニッポンにおける脳梗塞診療：NOAC/DOACの役割。第225回福井脳・神経疾患談話会，福井，2016年10月13日。
74. 平野照之：rt-PA静注療法：過去・現在・未来。第13回神経治療研究会，米子，2016年10月14日。
75. 平野照之：新・DOAC選びの基礎知識。Anticoagulation Network Meeting，東京，2016年10月17日。
76. 平野照之：間違いだらけのNOAC選び。抗凝固療法 Up to Date，東京，2016年10月18日。
77. 平野照之：潜在性脳梗塞の実態と今後の展望。New Diagnostic Summit，横浜，2016年10月20日。
78. 河野浩之：急性期脳梗塞における造影CTを用いた側副血行路の定量的評価。第37回多摩地区脳卒中研究会，立川，2016年10月21日。
79. 城野喬史，永井健太郎，本田有子，海野佳子，塩川芳昭：片頭痛発作中に発症した脳梗塞の2例。第44回日本頭痛学会総会，京都，2016年10月21-22日。
80. 海野佳子：慢性片頭痛の治療戦略 Therapeutic strategies for Chronic Migraine。第44回日本頭痛学会総会，京都，2016年10月22日。
81. 平野照之：震災で増える脳卒中から身近な人を守る。第6回熊本大学教育学部附属中学校東京同窓会ミニ講演，東京，2016年10月23日。
82. 平野照之：rt-PA血栓溶解療法：これまでとこれから。Sendagi Stroke Conference，東京，2016年10月25日。
83. Hirano T, Kaneko H, Mishina S, Wang F, Morita S: Patient demographic and clinical characteristics in Japanese real world setting who received warfarin, switched from warfarin to NOAC, Apixaban for stroke prevention in atrial fibrillation. 10th World Stroke Congress, India, October 28th, 2016.
84. Saito M, Suzuki R, Komatsubara K, Torii M, Sasamori H, Dembo T, Sato E, Shiohara Y, Hirano T: Reducing revascularization time in acute ischemic stroke: a single center trial. 13th International Symposium on Thrombolysis Thrombectomy and Acute Stroke Therapy, Kobe, October 30th, - November 1st, 2016.
85. Shiohara Y, Hirano T: Reducing revascularization time in acute ischemic stroke: a single center trial. 13th International Symposium on Thrombolysis Thrombectomy and Acute Stroke Therapy, Kobe, October 30th, - November 1st, 2016.
86. Hirano T : ESUS, cryptogenic stroke, and anticoagulation. 13th International Symposium on Thrombolysis Thrombectomy and Acute Stroke Therapy, 神戸，2016年11月1日。
87. 鈴木理恵子：女性と脳卒中。脳卒中予防を中心とした医療連携を考える，東京，2016年11月4日。
88. 平野照之：脳梗塞のリハビリテーションと慢性期ケア。第34回日本神経治療学会，米子，2016年11月5日。
89. 平野照之：後方連携：再発と廃用を防ぐために。第34回日本神経治療学会，米子，2016年11月5日。
90. 天野達雄：脳卒中寝たきりにならないために。ベネッセの地域医療セミナー。府中，2016年11月5日。
91. 平野照之：脳卒中と抗血栓療法。一般社団法人日本有病者歯科医療学会第6回学術教育セミナー，東京，2016年11月6日。
92. 平野照之：新・DOAC選びの基礎知識。江戸川区Network Meeting，東京，2016年11月7日。
93. 平野照之：CKDと脳血管疾患。熊本CKD-MBD病態と治療セミナー，熊本，2016年11月10日。
94. 平野照之：脳血行再建の3つの切り口：治療可能時間，救済可能領域，再灌流障害。第59回日本脳循環代謝学会学術集会，徳島，2016年11月11日。
95. 河野浩之，Bivard A, Lin L, Spratt NJ, Miteff F, Parsons MW, Levi CR, 平野照之：急性期脳梗塞における側副血行の造影剤ピーク濃度は組織予後を予測する。第59回日本脳循環代謝学会学術集会，徳島，2016年11月11-12日。
96. 平野照之：新・DOAC選びの基礎知識。これからの抗凝固療法を考える会，福岡，2016年11月15日。

97. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 神奈川北部 Advancing Anticoagulation Care Conference, 川崎, 2016年11月17日.
98. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 学術講演会, 浜松, 2016年11月18日.
99. 平野照之: 脳梗塞急性期における3T-MRI診断の有用性. Reveal LINQ発売記念企画: 脳神経科と循環器内科の連携医療, 東京, 2016年11月19日.
100. 山田健, 河野浩之, 鈴木理恵子, 天野達雄, 鳥居正剛, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 三叉神経領域の異常感覚を呈した前下小脳動脈領域脳梗塞の一例. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
101. 平野照之: ここまで進んだ急性期治療. 心房細動Webセミナー-高齢者AFのトータルケア「知っておきたい高齢者心原性脳塞栓症の急性期治療から二次予防まで」, 東京, 2016年11月21日.
102. 平野照之: 脳卒中予防のための血圧管理: The lower “really” the better?. 多摩高血圧セミナー, 武蔵野, 2016年11月24日.
103. 平野照之: 頸動脈狭窄症に対する積極的内科治療. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会, 神戸, 2016年11月26日.
104. 平野照之: 脳梗塞診療における3T-MRI診断の有用性. Reveal LINQ発売記念企画: 脳神経科と循環器内科の連携医療, 名古屋, 2016年11月26日.
105. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. Stroke Lecture Meeting, 佐賀, 2016年11月28日.
106. 平野照之: 脳塞栓症と心房細動. 国立ハートカンファレンス, 国立, 2016年11月29日.
107. 平野照之: 脳卒中撲滅への歩み: この10年. ストップ! NO卒中 茨城, つくば, 2016年11月30日.
108. 平野照之: 脳塞栓症の治療～チームアプローチを含めて～. 滋賀脳卒中カンファレンス, 大津, 2016年12月2日.
109. 中西郁, 天野達雄, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 平野照之: 回収した血栓により診断がついた感染性心内膜炎(IE)の1例. 第219回日本神経学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年12月3日.
110. 山田健, 河野浩之, 鈴木理恵子, 天野達雄, 鳥居正剛, 海野佳子, 丸山啓介, 塩川芳昭, 平野照之: 三叉神経領域の異常感覚を呈した前下小脳動脈領域脳梗塞の1例. 第131回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 2016年12月3日.
111. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 世田谷 Network Meeting, 東京, 2016年12月5日.
112. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. Anticoagulant Forum -脳卒中予防最前線-, 横浜, 2016年12月6日.
113. 海野佳子: 心原性脳塞栓症の再発予防. ISLS Metropolitan 2016 2nd, 東京, 2016年12月8日.
114. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 抗凝固療法～Up to date～, 日立, 2016年12月13日.
115. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 抗凝固療法 UPDATE2016 in Okinawa, 那覇, 2016年12月14日.
116. 海野佳子: 心原性脳塞栓症の再発予防薬～杏林大学病院脳卒中センターでの使い分け～. 脳卒中治療を考える会, 東京, 2016年12月18日.
117. 平野照之: 「脳卒中二次予防」の心房細動患者におけるリクシアナの有用性. Lixiana Library, 東京, 2016年12月19日.
118. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識～抗凝固療法は第3ステージへ～. 豊後地区抗凝固療法学術講演会, 豊後大野, 2017年1月13日.
119. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 脳をまもる地域連携セミナー, 神栖, 2017年1月19日.
120. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. STROKE MEETING, 東京, 2017年1月26日.
121. 平野照之: 潜因性脳梗塞へのアプローチ: LINQ vs. ESUS. Reveal LINQ 脳梗塞治療への可能性, 静岡, 2017年1月27日.
122. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 第3回 Antithrombotic Therapy Seminar ～抗凝固療法を考える～, 福岡, 2017年1月31日.
123. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 八戸心臓血管脳梗塞研究会, 八戸, 2017年2月2日.
124. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 東北 Anticoagulation Expert Meeting in Morioka, 盛岡, 2017年2月4日.
125. Hirano T: Interim results of Japanese post marketing surveillance. Anticoagulation Speaker Academy, Spain, February 6th-7th, 2017.
126. Hirano T: Physician and patient anticoagulant preference in Japan. Anticoagulation Speaker Academy, Spain, February 6th-7th, 2017.
127. 天野達雄: 急性期血行再建～血栓回収のコツ～. 第14回東京脳血管内治療研究会技術向上プログラムデバイスセミナー, 東京, 2017年2月11日.
128. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 湖南脳卒中セミナー, 草津, 2017年2月16日.
129. 河野浩之: 豪州Newcastle大学での脳卒中臨床研究. 東京慈恵医科大学神経内科集団会, 東京, 2017年2月20日.
130. Kawano H, Bivard A, Lin L, Ma H, Cheng X, Aviv R, O'Brien B, Butcher K, Lou M, Zhang J, Jannes J, Dong Q, Levi CR, Parsons MW: Pre-treatment Perfusion CT In Stroke Thrombolysis Can Predict Disability-free Life. International Stroke Conference 2017, USA, February 21st-24th, 2017.
131. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 心房細動治療フォーラム, 東京, 2017年2月28日.
132. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 南大阪地区 Core Member Meeting, 大阪, 2017年3月2日.
133. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 第3回北河内脳卒中医療連携ミーティング, 大阪, 2017年3月4日.
134. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 第5回Stroke Expert Meeting in 千葉, 千葉, 2017年3月8日.
135. 天野達雄: 急性期主幹動脈閉塞症例におけるFLAIR Hyperintense Vesselの臨床的意義. 第42回日本脳卒中学会, 大阪, 2017年3月16日.
136. 平野照之: TRAITをCTで見極める. 第42回日本脳卒中学会, 大阪, 2017年3月16-19日.
137. 平野照之: 未体験ゾーンのAggressive Medical Management. 第42回日本脳卒中学会, 大阪, 2017年3月16-19日.
138. 河野浩之: 画像診断: CTとMRI. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
139. 河野浩之, Bivard A, Longting Lin, Levi CR, Parsons MW, 平野照之: 血管再開通療法におけるCT灌流画像の撮影意義-治療前画像評価により長期予後が予測できる. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
140. 飯島昌平, 河野浩之, 山田健, 鳥居正剛, 天野達雄, 鈴木理恵子, 岡野晴子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 虚血発症椎骨動脈解離の血管形態変化と脳梗塞再発に関する検討. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.

141. 生田真麻, 河野浩之, 保坂まり恵, 綾野水樹, 天野達雄, 鈴木理恵子, 海野佳子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 平野照之: 悪性腫瘍が関連した脳梗塞に対するヘパリン皮下注射の効果. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
 142. 海野佳子, 久米賢, 中西郁, 本田有子, 天野達雄, 河野浩之, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 平野照之: テント上大梗塞の治療と予後. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
 143. 齋藤幹人, 鈴木理恵子, 天野達夫, 河野浩之, 海野佳子, 岡野晴子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 平野照之: 塞栓源不明脳塞栓症と発作性心房細動を有する心原性脳塞栓症との比較. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
 144. 吉見亘弘, 鈴木理恵子, 五明美德, 天野達雄, 河野浩之, 海野佳子, 岡野晴子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 平野照之: 大動脈複合粥腫病変の評価における, 経食道心エコーと胸部CT所見の比較. 第42回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017年3月16-19日.
 145. 天野達雄: 後方循環再開通療法の現状は? ~多施設共同後ろ向きアンケート調査結果~. 第8回 Stroke Neurologist研究会, 東京, 2017年3月25日.
 146. 平野照之: 経口抗凝固薬の選び方. 町田市医師会学術講演会~脳卒中二次予防にむけて~, 相模原, 2017年3月28日.
 147. 天野達雄: 脳梗塞血栓回収療法の Nest Stage. Innovating Anticoagulation Care Conference, 東京, 2017年3月29日.
 148. 城野喬史, 河野浩之, 本田有子, 鳥居正剛, 海野佳子, 平野照之: 一過性失語症状をきたした1例. 三鷹ニューロ, 三鷹, 2017年3月30日.
- 平成27年度追加分**
1. 平野照之: 潜因性脳梗塞 基礎および心房細動検出の意義. 日本メドトロニック株式会社社員トレーニング, 東京, 2016年1月15日.
 2. 本田有子, 丸山啓介, 野口明男, 田村晃, 齋藤勇, 清一美, 曾我隆正, 牛場克明, 櫻井孝, 平野照之, 塩川芳昭: 日本人におけるMRI皮質下病変の実態調査. 第39回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月29日.
 3. 中島昌典, 岡野晴子, 栗田瑛里子, 平野照之, 千葉厚郎, 塩川芳昭: 意識障害のエピソードを契機にCerebral amyloid angiopathy(CAA)と診断された83歳女性例. 第39回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月30日.
 4. 永井健太郎, 岡野晴子, 海野佳子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: LSA領域に虚血を生じたmigrainous infarctionの一例. 第16回首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 2016年3月18日.
- 論文**
1. 大平陽平, 小田倉弘典, 木村和美, 坂東重信, 平野照之, 家串和真, 山中聡, 山下武志: 抗凝固薬を用いた心房細動治療における認知・アドヒアランスの実態調査. Prog Med 36(1):83-93, 2016.
 2. 平野照之: ここまで来た脳梗塞急性期治療: Nashville Hopeの時代. 分子脳血管病 15(1): 38-42, 2016.
 3. 平野照之: 脳梗塞の画像診断. medicina 53(2):250-254, 2016.
 4. 平野照之: 血栓回収療法導入後のrt-PA療法の考え方. 脳と循環 21(1):21-26, 2016.
 5. 平野照之, 奥田聡, 宮内靖史, 新田順一: 脳卒中治療ガイドライン/心房細動治療(薬物)ガイドラインを読み解く~実臨床の経験からわかってきたこと~. Medical Tribune. 8-9, 2016.
 6. 平野照之: 血栓溶解療法を判断するうえでの脳卒中急性期患者の診察と画像読影のポイント. Medical Practice 33(3):381-386, 2016.
 7. 山口武典, 平野照之, 中山博文, 永廣信治: 今後の脳卒中を語る. 動脈硬化予防 15(1):78-90, 2016.
 8. 豊田一則, 奥村謙, 橋本洋一郎, 池田隆徳, 小松隆, 平野照之, 福田政久, 松本万夫, 矢坂正弘: 潜因性脳梗塞と塞栓源不明脳塞栓症: わが国における臨床的意義と潜在性心房細動検出の重要性. 脳卒中 38(2):77-85, 2016.
 9. 平野照之: 治療方針決定のための画像読影. 総合リハ 44(3):183-189, 2016.
 10. 平野照之: 脳卒中センターの役割. Cardiocoagulation 3(2):129-134, 2016.
 11. 平野照之: 中枢神経限局性血管炎. Clinical Neuroscience 34(5):566-568, 2016.
 12. 平野照之: ESUSと発作性心房細動. 分子脳血管病 15(2):141-145, 2016.
 13. 平野照之: Cryptogenic strokeとESUS. 循環器内科 80(1):71-76, 2016.
 14. 平野照之: 急性期脳梗塞における画像診断. Proceedings of the 34th Meeting of the Mt. Fuji Workshop on CVD 34:41-47, 2016.
 15. 白川学, 平野照之, 江頭祐介: Big Debate 内科X外科 私ならこうする「軽度頸動脈狭窄で梗塞を繰り返す症例」. 脳神経外科速報 26(9):973-977, 2016.
 16. 平野照之: 抗凝固療法中の出血および緊急手術. 脳梗塞と心房細動 9(3):69-73, 2016.
 17. 三田村秀雄, Connolly SJ, 平野照之, 山田典一: AF/VTE領域の抗凝固療法におけるアピキサバンの位置付け. Medical Tribune特別企画 49(41):10-11, 2016.
 18. 橋本洋一郎, 阪本徹郎, 坂本憲治, 平野照之: DOACによる心原性脳塞栓症の二次予防. Thrombosis Medicine 6(4):257-263, 2016.
 19. 本田有子, 丸山啓介, 野口明男, 田村晃¹, 齋藤勇¹, 清一美¹, 曾我隆正¹, 牛場克明¹, 櫻井孝², 平野照之, 塩川芳昭 (¹富士脳障害研究所附属病院, ²国立長寿医療センター): 日本人の脳ドックにおけるMRI皮質下病変の容量分析. 日本脳ドック学会会報 2:34-36, 2016.
 20. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤英仁, 窪田博, 磯村杏耶, 下山田博明, 大倉康男, 塩川芳昭: 大動脈原性脳塞栓症を発症し上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. 脳卒中. 2016. (早期公開).
 21. 中島昌典, 平野照之: クリティカルケアで必要な脳卒中の診断. Neurosurgical Emergency 21(1):45-47, 2016.
 22. 蛭沢志織, 阿部光世, 脊山英徳, 平野照之, 塩川芳昭: 脳卒中ケアユニット開設後の病床運営の現状. Neurosurgical Emergency 21(1):41-44, 2016.
 23. Yasaka M, Minematsu K, Toyoda K, Yamagami H, Yoshimura S, Nagao T, Mori E, Hirano T, Hamasaki T, Yamaguchi T: Design and Rationale of the RELAXED (Recurrent Embolism Lessened by revaroxaban, an Anti-Xa agent, of Early Dosing for acute ischemic stroke and transient ischemic attack with atrial fibrillation) Study. J Stroke Cerebrovasc Dis 25(6): 1342-1348, 2016.
 24. Toyoda K, Okumura K, Hashimoto Y, Ikeda T, Komatsu T, Hirano T, Fukuda H, Matsumoto K, Yasaka M: Identification of covert atrial fibrillation in cryptogenic ischemic stroke: current clinical practice in Japan Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. J Stroke Cerebrovasc Dis 25(8): 1829-1837, 2016.
 25. Takeuchi M, Miyashita K, Nakagawara J, Toyoda K,

- Todo K, Metoki N, Suzuki R, Manabe Y, Akaiwa Y, Yamamoto Y, Nagatsuka K: Analysis of factors associated with progression and long-term outcomes of penetrating artery territory infarction: a retrospective study. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 25(8): 1952-1959, 2016.
26. Tomari S, Homma K, Noguchi T, Aiba T, Matsuki T, Suzuki R, Koga M, Takigami M, Tagawa H, Hashimoto T, Toyoda K: Development of interstitial lung disease after initiation of apixaban anticoagulation therapy. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 25(7): 1767-1769, 2016.
27. Koga M, Sato K, Ishibashi-Ueda H, Tanaka K, Suzuki R, Sumita Y, Minematsu K, Toyoda K: A preliminary ex vivo study of 3D ultrasonography of aortic atherosclerosis using autopsied aorta. *Int J Stroke.* 11(7): NP 74, 2016. doi: 10.1177/1747493016641957.
28. Tokunaga K, Koga M, Yoshimura S, Arihiro S, Suzuki R, Nagatsuka K, Toyoda K: Optimal peak systolic velocity thresholds for predicting internal carotid artery stenosis greater than or equal to 50%, 60%, 70%, and 80. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 25(4): 921-926, 2016.
29. Kawano H, Bivard A, Lin L, Ma H, Cheng X, Aviv R, O'Brien B, Butcher K, Lou M, Zhang J, Jannes J, Dong Q, Levi CR, Parsons MW: Perfusion CT in stroke thrombolysis patients. *Brain.* 2016. (in press).
30. Kawano H, Bivard A, Lin L, Spratt NJ, Miteff F, Parsons MW, Levi CR: Relationship between collateral status, contrast transit, and contrast density in acute ischemic stroke. *Stroke.* 47(3):742-749, 2016.
31. Kawano H, Levi C, Inatomi Y, Pagram H, Kerr E, Bivard A, Spratt N, Miteff F, Yonehara T, Ando Y, Parsons M: International benchmarking for acute thrombolytic therapy implementation in Australia and Japan. *J Clin Neurosci.* 29:87-91, 2016.
32. 中島昌典¹, 岡野晴子¹, 傳法倫久¹, 平野照之, 千葉厚郎¹, 遠藤英仁², 窪田博², 磯村杏耶³, 下山田博明³, 大倉康男³, 塩川芳昭⁴ (杏林大・医・神経内科学, ²杏林大・医・心臓血管外科学, ³杏林大・医・病理学, ⁴杏林大・医・脳神経外科学): 大動脈原性脳塞栓症を発症し, 上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. *脳卒中* 39(2): 129-134, 2017.
33. Komatsubara K¹, Dembo T², Sato E¹, Sasamori H¹, Torii M¹, Shiokawa Y¹, Hirano T (Departments of Neurosurgery Kyorin University, ²Departments of Neurology Kyorin University): Does reducing the duration from symptom onset to recanalization improve the results of intracranial mechanical thrombectomy in the elderly?. *Neurol Med Chir.* 57(3):107-114, 2017.
34. 平野照之: 血栓溶解療法の現状とこれから: 血管内治療時代の本格的幕開けを迎えて. *分子脳血管病* 16(1):10-14, 2017.
35. 平野照之: 脳卒中センター診療プロセスの検証と改善が健康寿命に与える効果. *杏林CCRC研究所紀要* 3:128-131, 2017.
36. 橋本洋一郎¹, 三田村秀雄², 山口修平³, 平野照之, 寺山靖夫⁴ (熊本市市民病院, ²立川病院, ³島根大学, ⁴岩手医科大学): 心血管疾患リスクと認知症. *Cardio-Coagulation* 4(1): 6-14, 2017.
37. 平野照之: From the World Conference WSC2016 (世界脳卒中会議). *Cardio-Coagulation* 4(1): 54-55, 2017.
38. Kawano H, Bivard A¹, Lin L¹, Ma H², Cheng X³, Aviv R⁴, O'Brien B⁵, Butcher K⁶, Lou M⁷, Zhang J⁸, Jannes J⁹, Dong Q⁹, Levi CR¹, Parsons MW¹ (University of Newcastle, Australia, ²Monash University, Australia, ³Fudan University, China, ⁴University of Toronto, Canada, ⁵Gosford Hospital, Australia, ⁶University of Alberta, Canada, ⁷The Second Affiliated Hospital of Zhejiang University, China, ⁸Baotou Central Hospital, China, ⁹The Queen Elizabeth Hospital, Australia): Perfusion computed tomography in patients with stroke thrombolysis. *Brain.* 140(3): 684-691, 2017.
39. 河野浩之: 忘れられないあの一例. *Vertebral artery stump syndromeの一例. 分子脳血管病* 16(1):86-89, 2017.

平成27年度追加分

1. 平野照之: 脳卒中の最新の治療と予防. *杏林医学会誌* 46(4):301-303, 2015.

著書

1. 平野照之: 静注血栓溶解療法. *脳梗塞診療読本第2版*. 豊田一則編. 東京, 中外医学社, 2016. p. 65-83.
2. 平野照之: 脳卒中治療のくすり 昇圧薬. *BRAIN NURSING2016夏季増刊 脳神経領域で必須のくすり*. 橋本洋一郎監修. 大阪, メディカ出版, 2016. p. 53-58.
3. 平野照之: 機能維持を目指す脳卒中治療. *週刊朝日MOOK 手術数でわかるいい病院2016*. 東京, 朝日新聞出版, 2016. p. 72.
4. 平野照之: 脳梗塞になってしまったら. 別冊NHKきょうの健康「脳梗塞」最新治療・再発予防・リハビリのすべて. 岡田靖総監. 東京, NHK出版, 2017. p. 17-34.
5. 海野佳子: 薬剤の使用過多による頭痛 (薬物乱用頭痛, MOH) はどのように診断し, 治療するのでしょうか?. *神経内科Clinical Questions & Pearls頭痛*. 清水利彦編. 東京, 中外医学社, 2016. p. 264-270.
6. 海野佳子: case approach薬剤の使用過多による頭痛症例. *神経内科Clinical Questions & Pearls頭痛*. 清水利彦編. 東京, 中外医学社, 2016. p. 296-299.
7. 鈴木理恵子: 妊娠中に発症した脳虚血症状の患者. *SCU グリーンノート*. 豊田一則, 古賀政利編著. 東京, 中外医学社, 2016. p. 306-310.
8. 河野浩之: 中大脳動脈狭窄を伴う片側舞踏運動. *脳卒中中症候学 症例編 診療の深みを理解する*. 田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編. 新潟, 西村書店, 2016. p. 135-137.
9. 河野浩之: 発症直後に除脳硬直を認めた両側テント上脳梗塞. *脳卒中中症候学 症例編 診療の深みを理解する*. 田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編. 新潟, 西村書店, 2016. p. 199-201.
10. 河野浩之: 幻視を伴った橋梗塞. *脳卒中中症候学 症例編 診療の深みを理解する*. 田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編. 新潟, 西村書店, 2016. p. 543-544.
11. 河野浩之: 超急性期脳梗塞に対する血管再開通療法の適応拡大のための研究. *第一三共生命科学研究振興財団研究報告集 Vol 32*. 東京, 第一三共生命科学研究振興財団, 2016. p. 262-274.
12. 天野達雄: さまざまな救急体制の紹介 C モバイルチーム型. チームで成功させる脳梗塞血管内治療. 幸原伸夫, 藤堂謙一, 坂井信幸, 今村博敏編. 東京, 診断と治療社, 2016. p. 78-81.
13. 天野達雄, 松丸祐司: 脳血管障害 頸動脈ステントや脳動脈瘤のコイル塞栓術後. *抗血小板療法エキスパートの勘どころ*. 中村正人編. 東京, 南江堂, 2016. p. 80-81.

14. 天野達雄: SCUと繋がる動線 病院到着までの流れ. SCUグリーンノート. 豊田一典, 古賀政利編. 東京, 中外医学社, 2016. p. 75-79.

その他

1. 松本昌泰, 星野晴彦, 卜部貴夫, 豊田一則, 平野照之: 脳血管疾患患者の脂質管理の現場と展望. Stroke座談会 サノフィ株式会社 2016年6月作成.
2. 平野照之: 検脈のすすめ. 健康ひとくちメモ 杏林大学新聞第17号 2017年3月6日発行.

医学教育学教室

講演

1. 赤木美智男: 全国医学部の実情 学外臨床実習の充実に向けて. 第60回医学教育セミナーとワークショップ in 東京医大, 東京, 2016年5月21日.
2. 矢島知治: Generalismを考える. ACP (米国内科学会) 日本支部年次総会 2016, 京都, 2016年6月4日.
3. 矢島知治: 炎症とは? 潰瘍性大腸炎とは?. 第22回多摩内視鏡の会, 東京, 2016年6月17日.
4. 富田泰彦: 臨床研修指導医養成講習会の研修内容に関する現状と課題. 第48回日本医学教育学会総会, 高槻, 2016年7月30日.
5. 赤木美智男: 実習生とのコミュニケーション-フィードバックとふり返りの技法. 第11回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ, 東京, 2016年8月28日.
6. 赤木美智男: 実習生とのコミュニケーション-フィードバックとふり返りの技法. 第1回東京薬科大学実務実習指導のためのFD研修会, 東京, 2017年2月12日.

論文

1. 矢島知治: どのような症状から炎症性腸疾患を疑うか. Medical Practice 33(5):731-734, 2016.
2. 矢島知治: 腹部 脾腫, Medicina 53(4):333-336, 2016.
3. 古本泰之, 石井博之, 井上晶子, 富田泰彦 他: 災害に備えるまちづくり-弱者対応の視点から-. 杏林大学杏林CCRC研究所紀要 3:28-60, 2017.
4. 富田泰彦(地域交流委員会: 医学部執筆担当): 杏林CRC構想における教育活動. 杏林大学杏林CCRC研究所紀要 3:116-127, 2017.
5. 矢島知治: 炎症性腸疾患の疾患概念と疫学について. 日本薬剤師会雑誌 69(1):9-12, 2017.

著書

1. 矢島知治: 潰瘍性大腸炎を疑う臨床症状. IBDを日常診療で診る. 久松理一, 日比紀文編. 東京, 羊土社, 2017. p. 32-34.
2. 矢島知治: 指導医(上司)との関係. 消化器研修ノート改定第2版. 中島淳, 五十嵐良典, 榎本信幸, 穂苅量太編. 東京, 診断と治療社, 2016. p. 46-47.
3. 矢島知治: 症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで 潰瘍性大腸炎. 日経DIクイズ18. 東京, 日経BP社, 2016. p. 48-53.
4. 矢島知治 他: 第110回医師国家試験問題解説. 東京, メディックメディア, 2016.

その他

1. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院 第23回指導医養成ワークショップ ディレクター, 東京, 2016年5月27-28日.
2. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院 第23回指導医養成ワークショップ チーフタスクフォース, 東京, 2016年5月27-28日.
3. 矢島知治: 杏林大学医学部付属病院 第23回指導医養成

ワークショップ タスクフォース, 東京, 2016年5月27-28日.

4. 富田泰彦: 総合診療専門研修特任指導医養成講習会 タスクフォース, 東京, 2016年7月23-24日.
5. 富田泰彦: 総合診療専門研修特任指導医養成講習会 タスクフォース, 東京, 2016年8月6-7日.
6. 矢島知治: 第11回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」主催, 第341回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2016年9月24日.
7. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院 第24回指導医養成ワークショップ ディレクター, 東京, 2016年10月21-22日.
8. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院 第24回指導医養成ワークショップ チーフタスクフォース, 東京, 2016年10月21-22日.
9. 矢島知治: 杏林大学医学部付属病院 第24回指導医養成ワークショップ タスクフォース, 東京, 2016年10月21-22日.
10. 富田泰彦: 第6回自衛隊中央病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 東京, 2016年11月5-6日.
11. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会 第134回臨床研修指導医養成講習会 ディレクター, 東京, 2016年11月4-6日.
12. 富田泰彦: 全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会 第136回臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 東京, 2017年1月27-29日.
13. 矢島知治: 第12回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」主催, 第343回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年2月4日.
14. 赤木美智男: 書評「医療者の心を贈るコミュニケーション-患者さんと一緒に歩きたい」(日下隼人著). 医学のあゆみ257(11), p. 1191-1192, 2016.
15. 矢島知治: 特集「腹痛を診る」, 巻頭言『本特集のねらい』. 内科118(4), 2016.
16. 矢島知治, 後藤田卓志, 中村京太, 佐藤暁幸: 特集「腹痛を診る」, 座談会『腹痛はコワくない!』, 内科118(4), 2016.
17. 矢島知治: 薬学の時間「炎症性腸疾患の疾患概念と疫学」. ラジオNIKKEI, 2016年10月6日.

解剖学教室 (肉眼解剖学)

講演

1. Takami S, Horie S, Matsumura G, Nishiyama F: Neuroepithelial properties of vomeronasal organ of human fetuses by peroxidase-labeled immunostaining and 2-step immunofluorescence labeling. 第57回日本組織細胞化学学会総会・学術集会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
2. 高篠智, 氣賀澤秀明, 廣川達也, 吉田昌記, 王璐, 松村讓兒, 北村修: 過長茎状突起を両側性で認めた1例. 第122回日本解剖学会・全国学術集会, 長崎, 2017年3月28-30日.
3. 天野カオリ, 松村讓兒, 島田和幸: ヒト胎児人中の形態構造について-SEMならびに組織学的観察-. 第122回日本解剖学会・全国学術集会, 長崎, 2017年3月28-30日.

論文

1. Amano K, Amano O¹, Matsumura G, Shimada K² (¹Meikai Univ, ²Kagoshima Univ): Distribution and roles of substance P in human parotid duct. Ital J Anat

Embryol 121(N3): 219-225, 2016.

2. Moriyama H¹, Amano K, Itoh M², Otsuka N¹ (1>Showa Univ, 2Tokyo Med Univ): Morphological Study of the Facial and Skeletal Muscles in Fetuses. Topics in Embryol Avid Science : 1-19, 2016.
3. 島田和幸¹, 天野カオリ, 内藤美智子² (1鹿児島大・東京医科大, 2日本大): 明治期の医師資格試験受験時に利用された「醫術開業試験問題前期答案集」について. 形態科学 19: 43-47, 2016.
4. Amano K, Mitsukawa N¹, Harada T², Aizawa S², Shimada K² (1Chiba Univ, 2Nihon Univ): Study of human Wharton's duct structure and its relationship with salivary flow. Ital J Anat Embryol, 2017. (in press).

著書

1. 松村讓児, 坂井建雄:プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版. 東京, 医学書院, 2017.
2. 松村讓児他: カラー図説 人体の正常構造と機能 7 血液・免疫・内分泌. 東京, 日本医事新報社, 2017.
3. 松村讓児: イラスト解剖学 第9版. 東京, 中外医学社, 2017.
4. 松村讓児: 病気がみえる Vol.2 第4版 循環器. 東京, メディックメディア, 2017.
5. 松村讓児: 末梢系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 2-11.
6. 松村讓児: 中枢系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 18-28.
7. 松村讓児: 免疫・炎症・アレルギー疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 194-203.
8. 松村讓児: 骨・関節・カルシウム代謝疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 279-286.
9. 松村讓児: 循環器系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 344-357.
10. 松村讓児: 血液・造血器系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 460-470.
11. 松村讓児: 泌尿器系・生殖器系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 532-546.
12. 松村讓児: 呼吸器系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 638-645.
13. 松村讓児: 消化器系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 687-695.
14. 松村讓児: 代謝系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 842-850.
15. 松村讓児: 内分泌系疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 913-925.
16. 松村讓児: 眼疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 996-1001.
17. 松村讓児: 耳鼻咽喉疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 1031-1039.

18. 松村讓児: 皮膚疾患. 病気がとくすり 2017 薬局増刊号 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2017. p. 1081-1087.
19. 松村讓児: 病気がみえる Vol.5 第2版 血液. 東京, メディックメディア, 2017.

その他

1. 松村讓児(監修): 見えるくんの人体学習げき場. 小学二年生 5月号: 11-16, 東京, 小学館, 2016.
2. 松村讓児: 国試 110 解説書. 第 110 回医師国家試験問題解説書: 187-188, 東京, 医学評論社. 2016.
3. 松村讓児: 国試 110 解説書. 第 110 回医師国家試験問題解説書: 398-399, 東京, 医学評論社. 2016.
4. 松村讓児: けがをしたときに傷をふさぐ「血小板」. 少年写真新聞 7月18日号: 小学保健ニュース No.1109, 東京, 少年写真新聞社, 2016.
5. 松村讓児: 血小板の働き. 少年写真新聞 7月18日号: 小学保健ニュース No.1109 付録, 東京, 少年写真新聞社, 2016.
6. 松村讓児: 血液に含まれている「血小板」の働き. 少年写真新聞 7月18日号: ほけん通信 小学保健ニュース No.1109 付録, 東京, 少年写真新聞社, 2016.
7. 八木沼洋行¹, 松村讓児, 佐藤洋一², 飯野哲³, 鶴尾吉宏⁴, 大和田祐二⁵, 藤山文乃⁶, 綱塚憲生⁷ (1福島県立医科大・医・神経解剖・発生, 2岩手医科大・総合基礎・細胞生物, 3福医大・医・形態機能医・解剖, 4徳島大院・医歯薬研・医科学・生理顕微解剖, 5東北大院・医研・器官解剖, 6同志社大院・医・脳科学・解剖・神経回路形態, 7北海道大院・歯研・口腔健康科学・硬組織発生生物): 肉眼解剖学教育に関するアンケート調査結果(平成 26 年 3 月). 日本解剖学会教育・若手育成委員会(平成 25・26 年度). 解剖誌 91: 33-40, 2016.
8. 松村讓児(監修): たべる あそぶ ねる, で げん気なからだ! 小学一年生 12月号: 33-48, 東京, 小学館, 2016.
9. 松村讓児: リレーエッセイ時間の風景. 解剖学用語の読み: 呉音・漢音・慣用音. Medical Tribune 2017年3月23日 Vol.5 No.9, 東京, メディカルトリビューン, 2017.

**解剖学教室
(顕微解剖学)**

講演

1. 秋元義弘, 榊田創, 池原早苗, 山口高志, 金載浩, 川上速人, 清水伸幸, 堀勝, 池原讓: プラズマ照射による皮膚創傷治癒への影響の超微形態学的解析. 名古屋大学「プラズマ科学プラットフォーム」開所記念講演会・見学会, 名古屋, 2016年4月26日.
2. 秋元義弘, 池原早苗, 山口高志, 金載浩, 清水伸幸, 堀勝, 榊田創, 松原幸枝, 三浦知子, 関口純理, 川上速人, 池原讓: 大気圧低温プラズマ照射による皮膚創傷治癒への影響の超微形態学的解析. 日本顕微鏡学会第72回学術講演会, 仙台, 2016年6月14-16日.
3. Ikehara Y, Ikehara S, Yamaguchi T, Akimoto Y, Sakakita H, Kim J, Ishikawa K, Hori M, Nakanishi H, Shimizu N: Plasma treatment induces blood clot formation; protein aggregation and hemolysis. 43rd IEEE International Conference on Plasma Science, Canada, June 19th-23rd, 2016.
4. Akimoto Y, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Kawakami H, Shimizu N, Hori M, Sakakita H, Ikehara Y: Increase in galectin expression in healing wounded skin treated with low-temperature plasma: comparison with treatment by electrical

- coagulation. 43rd IEEE International Conference on Plasma Science, Canada, June 19th-23rd, 2016.
5. 塩尻信義, 太田考陽, 福地智一, 安保友香, 関口純理, 松原幸枝, 川上速人: 条鰭類における肝臓構築の多様化はカライワシ目を起点におこる. 第23回肝細胞研究会, 大阪, 2016年7月7-8日.
 6. 宮東昭彦: 汎用画像解析ソフトを利用したデジタル画像データの数値化の基礎. 第41回組織細胞化学講習会, 仙台, 2016年8月3-4日.
 7. 早川敦子, 三浦ゆり, 秋元義弘, 津元裕樹, 岩本真知子, 福井浩二, 遠藤玉夫: 2D-DIGE法を用いた糖尿病モデルラット腎組織のプロテオーム解析. 第67回日本電気泳動学会総会, 釧路, 2016年8月26-27日.
 8. 秋元義弘: プラズマ照射による創傷治癒への影響の組織細胞化学的解析. 第57回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
 9. 牛山明, 片岡華恵, 越智英行, 秋元義弘, 松原幸枝, 川上速人, 飯島毅彦: 敗血症モデルマウスにおける血管内皮グリコカリックス層減衰とその生理学的役割. 第57回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
 10. 浜野翔, 西堀由紀野, 宮東昭彦, 楊國昌: ボドサイト発生におけるCrumbs homolog-2のチロシンリン酸化とmTORC1経路. 第57回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
 11. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管上皮細胞を区別する糖鎖関連分子マーカーの探索. 第57回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
 12. Akimoto Y, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Kawakami H, Shimizu N, Hori M, Sakakita H, Ikehara Y: Expression of galectins and alpha smooth muscle actin in low-temperature plasma-treated healing skin. 6th International Conference on Plasma Medicine, Slovakia, September 4th-9th, 2016.
 13. Nakanishi H, Tanaka H, Akimoto Y, Tanaka A, Hori M, Ikehara Y: Efficacy of intraperitoneal therapy with plasma-activated medium targeting peritoneal micrometastasis as revealed by human gastric cancer cell lines in nude mice. 6th International Conference on Plasma Medicine, Slovakia, September 4th-9th, 2016.
 14. Tanaka A, Hirata M, Ikehara Y, Akimoto Y, Nakanishi H, Tanaka H, Hori M: Health effects of repeated intraperitoneal injections of plasma-activated medium in mice. 6th International Conference on Plasma Medicine, Slovakia, September 4th-9th, 2016.
 15. Yokoyama N, Sakakida H, Akimoto Y, Sivakumar T, Ishikawa K, Hori M, Ikehara Y: Effect of plasma-treatment on the in vitro growth of Trypanosoma brucei. 6th International Conference on Plasma Medicine, Slovakia, September 4th-9th, 2016.
 16. Ikehara Y, Ikehara S, Akimoto Y, Sakakita H, Ishikawa K, Ueda M, Ikeda J, Kim J, Yamaguchi T, Nakanishi H, Shimizu T, Shimizu N, Hori M: Mechanism of blood coagulation induced by plasma treatment in addition to the acceleration of the natural blood coagulation process. 6th International Conference on Plasma Medicine, Slovakia, September 4th-9th, 2016.
 17. 塩尻信義, 川上速人: 肉鰭類シーラカンスの肝臓は哺乳類型で, ハイギョとは異なる. 平成28年度日本動物学会中部支部大会, 静岡, 2016年9月11日.
 18. Akimoto Y: Molecular morphological approach for the mechanism of wound healing with non-thermal plasma. Workshop "Current concept for LTP at atmospheric pressure in medical practice", Germany, September 11th-12th, 2016.
 19. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管ニッチ細胞におけるフコシル化糖鎖発現. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016年9月25-27日.
 20. Yokoyama N, Sakakida H, Akimoto Y, Sivakumar T, Inoue N, Ishikawa K, Hori M, Ikehara Y: Plasma-treatment inhibits the in vitro growth of Trypanosoma brucei. 第57回日本熱帯医学会大会, 東京, 2016年11月5-6日.
 21. 菅原大介: 腸管ニッチ細胞に発現するフコシル化糖タンパク質の機能的意義. 第191回酵母細胞研究会, 横浜, 2016年11月11日.
 22. Akimoto Y, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Kawakami H, Shimizu N, Hori M, Sakakita H, Ikehara Y: Immunoelectron microscopic study of healing wounded skin treated with low-temperature plasma. 日本顕微鏡学会第59回シンポジウム, 東京, 2016年11月18-19日.
 23. Akimoto Y, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Kawakami H, Shimizu N, Hori M, Sakakita H, Ikehara Y: Molecular morphological study of healing wounded skin treated with low-temperature plasma: comparison with treatment by electronical coagulation. International Conference on Plasma Medical Science Innovation 2017, Nagoya, February 26th-28th, 2017.
 24. 光永敬子, 秋元義弘, 安井金也, 山下一郎, 川上速人, 安増茂樹: メダカアリアルスルファターゼB(ArsB)の菱脳室における発現と超微細構造. 日本動物学会中国四国支部広島県例会, 東広島, 2017年3月9日.
 25. 三浦ゆり, 早川敦子, 秋元義弘, 津元裕樹, 岩本真知子, 福井浩二, 遠藤玉夫: 糖尿病モデルラット腎組織のプロテオーム解析. 日本薬学会第137年会, 仙台, 2017年3月24-27日.
 26. 津元裕樹, 秋元義弘, 遠藤玉夫, 三浦ゆり: 効率的なO-GlcNAc化ペプチド濃縮のための担体の比較. 日本薬学会第137年会, 仙台, 2017年3月24-27日.
 27. 糸田奈宝子, 小川裕子, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液エキソソームの消化酵素に対する安定性. 日本薬学会第137年会, 仙台, 2017年3月24-27日.
 28. 小川裕子, 糸田奈宝子, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソーム画分中LPSの結合状態およびマクロファージの活性化への影響. 日本薬学会第137年会, 仙台, 2017年3月24-27日.
 29. 秋元義弘, 早川敦子, 三浦ゆり, 津元裕樹, 岩本真知子, 福井浩二, 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病モデルラット腎組織のプロテオームと免疫組織化学的解析. 第122回日本解剖学会総会・学術集会, 長崎, 2017年3月28-30日.
- ## 論文
1. Akimoto Y, Ikehara S¹, Yamaguchi T¹, Kim J¹, Kawakami H, Shimizu N², Hori M³, Sakakita H¹, Ikehara Y^{1,4} (¹The National Institutes of Advanced Industrial Science and Technology, ²International University of Health and Welfare, Sanno Hospital, ³Nagoya University, ⁴Chiba University): Galectin expression in healing wounded skin treated with low-temperature plasma: comparison with the treatment by electronical coagulation. Arch Biochem Biophys 605: 86-94, 2016.
 2. Aoyagi K¹, Ohara-Imaizumi M¹, Itakura M², Torii S³, Akimoto Y, Nishiwaki C¹, Nakamichi Y¹, Kishimoto

T¹, Kawakami H, Harada A⁴, Takahashi M², Nagamatsu S¹ (¹Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine, ²Kitasato University School of Medicine, ³Gunma University, ⁴Osaka University): VAMP7 regulates autophagy to maintain mitochondrial homeostasis and to control insulin secretion in pancreatic β -cells. *Diabetes* 65: 1648-1659, 2016.

3. Miyamoto Y^{1,2}, Ikehara S¹, Takei H², Akimoto Y, Sakakita H¹, Ishikawa K³, Ueda M⁴, Ikeda J⁵, Yamagishi M¹, Kim J¹, Yamaguchi T¹, Nakanishi H⁶, Shimizu N⁸, Shimizu T⁷, Hori M³, Ikehara Y^{1,9} (¹The National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ²Nikon Co., Ltd, ³Nagoya University, ⁴Okayama University, ⁵Osaka University, ⁶Aichi Cancer Center Hospital, ⁷Terraplasma GmbH, ⁸Sanno Hospital, ⁹Chiba University): Red blood cell coagulation induced by low-temperature plasma treatment. *Arch Biochem Biophys* 605: 95-101, 2016.
4. Itoh K¹, Akimoto Y, Fuwa T¹, Sato C², Komatsu A³, Nishihara S¹ (¹Soka University, ²National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ³Teikyo University): Mucin-type core 1 glycans are involved in determination of location of neuromuscular junctions and establishment of muscle cell architecture in *Drosophila*. *Dev Biol* 412: 114-127, 2016.
5. Ishibashi R^{1,2}, Takemoto M^{1,2}, Akimoto Y, Ishikawa T^{1,2}, He P¹, Maezawa Y^{1,2}, Sakamoto K^{1,2}, Tsurutani Y³, Ide S^{1,2}, Ide K^{1,2}, Kawamura H⁴, Kobayashi K^{1,2}, Tokuyama H⁵, Tryggvason K⁶, Betsholtz C⁷, Yokote K^{1,2} (¹Chiba University Graduate School of Medicine, ²Chiba University Hospital, ³Yokohama Rosai Hospital, ⁴Eastern Chiba Medical Center, ⁵Yukarigaoka Tokuyama Clinic, ⁶Duke-NUS Graduate Medical School, ⁷Uppsala Universitet): A novel podocyte gene, Semaphorin 3G, protects glomerular podocyte from lipopolysaccharide-induced inflammation. *Scientific Report* 6: 25955, 2016.
6. Mizukawa Y¹, Doi T¹, Yamazaki Y¹, Kudo A, Shiohara T¹ (¹Department of Dermatology, Kyorin University School of Medicine): Epidermal neuromedin U attenuates IgE-mediated allergic skin inflammation. *PLoS One* 11(7): e0160122, 2016.
7. Sugahara D, Kobayashi Y¹, Akimoto Y, Kawakami H (¹J-Oil Mills, Inc.): Mouse intestinal niche cells express a distinct α 1,2-fucosylated glycan recognized by a lectin from *Burkholderia cenocepacia*. *Glycobiology* 27: 246-253, 2017.
8. 秋元義弘, 遠藤玉夫¹, 川上速人 (¹東京都健康長寿医療センター): 糖鎖の局を見る. *Clinical Neuroscience* 34: 643-645, 2016.

著書

1. Akimoto Y, Takata K, Kawakami H: Pre-embedding method of electron microscopy for glycan localization in mammalian tissues and cells using lectin probes. *High-Resolution Imaging of Cellular Proteins Methods Mol Biol* vol.1474. Schwartzbach SD, Skalli O, Schikorski T(eds). USA, Humana Press, 2016. p.259-267.
2. 秋元義弘, 三宅正紀: 図II-2 細菌の超薄切片像. 微生物学 病原微生物と治療薬 改訂第7版. 今井康之, 増澤俊幸編. 東京, 南江堂, 2016. p.12.
3. 川上速人: 病気が見えるvol.2 循環器 第4版. 東京, メディックメディア, 2017.

その他

1. 川上速人: 第57回日本組織細胞化学会総会・学術集会主催, 三鷹, 2016年9月3-4日.

統合生理学教室

講演

1. 八木淳一, 小林靖: イモ貝毒素 ω -コノトキシンによる脊髄後根神経節ニューロン活動電位への作用. 第38回日本疼痛学会, 札幌, 2016年6月24-25日.
2. Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Vestibular stimulation facilitates cervical interneuronal systems mediating corticospinal excitation to arm motoneurons in humans. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016年7月20-22日.
3. Irie S, Nakajima T, Suzuki S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Long-lasting potentiation on indirect cortico-motoneuronal excitation in a relaxed muscle could be induced by use of motor imagery. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016年7月20-22日.
4. 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: ヒト脊髄内の代替神経機構を強化する運動機能の回復戦略. 第24回日本運動生理学学会大会, 熊本, 2016年7月23-24日.
5. Shibuya S, Unenaka S, Ohki Y: Observations of other's actions elicit similar movements if the observer feels body ownership of the acting body part. The 10th International Conference on Complex Medical Engineering, Mibu-machi, August 4th-6th, 2016.
6. Unenaka S, Shibuya S, Ohki Y: Brain activities reflecting tactile sensation in an artificial hand during the concurrent stimulation with the real hand. The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering, Mibu-machi, August 4th-6th, 2016.
7. Yagi J, Kobayashi Y: Reduction of the action potential plateau by ω -conotoxin in the nociceptive dorsal root ganglion neurons of adult rats. 16th World Congress on Pain, Yokohama, September 26th-30th, 2016.
8. 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: ヒト脊髄内の代替神経機構を強化する運動機能の回復戦略. 早稲田スポーツサイエンス研究会, 所沢, 2016年10月13日.
9. Irie S, Nakajima T, Suzuki S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Motor imagery of muscle contraction is available to induce long-lasting potentiation in indirect cortico-motoneuronal excitation in a relaxed muscle. *Neuroscience* 2016, USA, October 18th, 2016.
10. 小西一斉, 市村正一, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 大木紫, 中島剛, 大森雅夫: ヒト間接的皮質・脊髄路興奮の長期増強は錐体路と末梢神経におけるコンバインド刺激の持続時間に依存する. 第31回日本整形外科学会基礎学術集会, 福岡, 2016年10月13-14日.
11. 大木紫: 自己身体所有感の操作を用いたリハビリテーション. 第46回日本臨床神経生理学学会学術集会, 郡山, 2016年10月28日.
12. 渋谷賢, 畠中智志: 仮想手の操作が身体性自己意識と身体表象に及ぼす影響. 日本スポーツ心理学会43回大会, 札幌, 2016年11月4-6日.
13. 畠中智志, 渋谷賢: ラバーハンド錯覚中の運動観察に伴う誘発運動. 日本スポーツ心理学会43回大会,

札幌, 2016年11月4-6日.

14. 畝中智志, 渋谷賢, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体所有感は手の運動観察に伴う μ 波抑制を増強する. 第8回多感覚研究会, 東京, 2016年11月19-20日.
15. 中島剛: 歩行機能再建に向けたヒト脊髄神経機構とその可塑性について. BiNI Perspective conference 2017, 長野, 2017年3月4日.
16. 八木淳一, 小林靖: C-タイプ侵害受容性脊髄後根神経節ニューロンにおける活動電位プラトートの機能的役割. 第94回日本生理学会, 浜松, 2017年3月28-30日.

論文

1. Nakajima T, Suzuki S, Futatsubashi G¹, Ohtsuka H², Mezzarane RA³, Barss TS⁴, Klarner T⁴, Zehr EP⁴, Komiyama T⁵ (¹Jobu University ²Health Science University of Hokkaido, ³University of Brasilia, ⁴University of Victoria, ⁵Chiba University): Regionally distinct cutaneous afferent populations contribute to reflex modulation evoked by stimulation of the tibial nerve during walking. *J Neurophysiol.* 116: 183-190, 2016.
2. Nakajima T, Kamibayashi K¹, Kitamura T², Komiyama T³, Zehr EP⁴, Nakazawa K⁵ (¹Doshisya University ²Shibaura University, ³Chiba University, ⁴University of Brasilia, ⁵University of Tokyo): Short-term plasticity in a monosynaptic reflex pathway to forearm muscles after continuous robot-assisted passive stepping. *Front Hum Neurosci.* 10: 368, 2016.
3. Suzuki S, Nakajima T, Futatsubashi G¹, Mezzarane RA², Ohtsuka H³, Ohki Y, Zehr EP⁴, Komiyama T⁵ (¹Jobu University, ²University of Brasilia, ³Health Science University of Hokkaido, ⁴University of Victoria, ⁵Chiba University): Soleus Hoffmann reflex amplitudes are specifically modulated by cutaneous inputs from the arms and opposite leg during walking but not standing. *Exp Brain Res.* 234: 2293-2304, 2016.
4. Sasada S¹, Tazoe T², Nakajima T, Futatsubashi G³, Ohtsuka H⁴, Suzuki S, Zehr EP⁵, Komiyama T⁶ (¹Sagami Women's University, ²University of Miami, ³Jobu University ⁴Health Science University of Hokkaido, ⁵University of Victoria, ⁶Chiba University): A common neural element receiving rhythmic arm and leg activity as assessed by reflex modulation in arm muscles. *J Neurophysiol.* 115: 2065-2075, 2016.
5. Zehr EP¹, Barss TS¹, Dragert K¹, Frigon A², Vasudevan EV³, Haridas C¹, Hundza S¹, Kaupp C¹, Klarner T¹, Klimstra M¹, Komiyama T², Loadman PM¹, Mezzarane RA⁴, Nakajima T, Pearcey GE¹, Sun Y¹ (¹University of Victoria, ²Université de Sherbrooke, ³Stony Brook University, ⁴Chiba University, ⁵Universidade de Brasilia): Neuromechanical interactions between the limbs during human locomotion: an evolutionary perspective with translation to rehabilitation. *Exp Brain Res.* 234:3059-3081, 2016.
6. Nakajima T, Tazoe T¹, Sakamoto M², Endoh T³, Shibuya S, Elias LA⁴, Mezzarane RA⁵, Komiyama T⁶, Ohki Y (¹University of Miami, ²Kumamoto University ³Uekusa Gakuen University,

⁴University of Sao Paulo, ⁵University of Brasilia, ⁶Chiba University): Reassessment of non-monosynaptic excitation from the motor cortex to motoneurons in single motor units of the human biceps brachii. *Front Hum Neurosci.* 11: 19, 2017.

7. Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T¹, Ohki Y (¹Chiba University): Vestibular stimulation-induced facilitation of cervical premotoneuronal systems in humans. *PLOS ONE*, 2017. (in Press).
8. 中島 剛: 体性感覚と歩行. *Clinical Neuroscience* 35: 178-181, 2017.
9. Shibuya S, Unenaka S, Ohki Y: Body Ownership and Agency: Task-Dependent Effects of the Virtual Hand Illusion on Proprioceptive Drift. *Exp Brain Res* 235: 121-134, 2017.
10. Inamura T¹, Unenaka S, Shibuya S, Ohki Y, Oouchida Y², Izumi S² (¹National Institute of Informatics, ²Tohoku University): Development of VR Platform for Cloud-based Neurorehabilitation and its application to research on sense of agency and ownership. *Advanced Robotics* 31(1): 97-106, 2017.

細胞生理学教室

講演

1. 徳重真一, 寺尾安生, 佐々木拓也, 弓削田晃弘, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 湯本真人: 頭皮脳波で検出困難な発作間欠期でかん性放電の特徴と脳磁図の有用性. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月18日.
2. 松本英之, 花島律子, 寺尾安生, 橋田秀司, 宇川義一: ギラン・バレー症候群の馬尾伝導時間. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月18日.
3. 神澤彩, 濱田雅, 佐々木拓也, 徳重真一, 寺田さとみ, 寺尾安生, 辻省次: 筋萎縮性側索硬化症の診断における経頭蓋磁気刺激検査の有用性の検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月18日.
4. 佐々木拓也, 濱田雅, 徳重真一, 弓削田晃弘, 寺田さとみ, 寺尾安生, 辻省次, 宇川義一: 筋萎縮性側索硬化症診断における横隔神経反復刺激試験の有用性の検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月18日.
5. 大塚十里, 佐々木拓也, 徳重真一, 寺尾安生, 辻省次: 重症筋無力症における反復刺激試験-最大随意収縮負荷のwaning検出率向上に対する検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月18日.
6. 清水崇紘, 寺尾安生, 高橋美和子, 百瀬敏光, 辻省次: 進行性核上性麻痺, 大脳皮質基底核変性症の臨床像とDAT SPECT 所見についての検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月19日.
7. 徳重真一, 寺尾安生, 佐々木拓也, 弓削田晃弘, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 湯本真人: 頭皮脳波で検出困難な発作間欠期でかん性放電の特徴と脳磁図の有用性. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月20日.
8. 光武明彦, 平賢一郎, 徳重真一, 上田順子, 松川敬志, 石浦浩之, 岩田淳, 寺尾安生, 清水潤, 酒井規夫, 辻省次: 成人型 Krabbe 病の病初期における画像および電気生理学的所見についての検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月20日.
9. 小口絢子, 作石かおり, 上田順子, 林俊宏, 岩田淳, 寺尾安生, 清水潤, 辻省次: 自己免疫性脳脊髄炎の病態理

解における髄液中GFAPの有用性の検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月21日.

10. 星野恭子, 長尾ゆり, 林雅晴, 木村一恵, 八森啓, 福田秀樹, 徳重真一, 寺尾安: Gilles de la Tourette 症候群の眼球運動検査による基底核障害の評価について. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月21日.
11. 寺田さとみ, 寺尾安生, 徳重真一, 松田俊一, 弓削田晃弘, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次: パーキンソン病における眼球運動の解析-8方向計測の試み. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016年5月21日.
12. 林優子, 小藤剛史, 田丸政男, 赤川公朗: Syntaxin1A遺伝子の欠損を認めた自閉症スペクトラムの5症例. 第58回日本小児神経学会学術集会, 東京, 2016年6月3-5日.
13. 寺尾安生, 徳重真一: 時間認識における「基本単位」-神経疾患における検討-. 文部科学省科学研究費補助金新学術領域「こころの時間学」領域会議, 札幌, 2016年7月10日.
14. 寺尾安生, 松本英之: GBS, CIDPに対する新しい電気生理学的アプローチ-磁気刺激法を含めて-. 第17回茨城県神経免疫フォーラム, つくば, 2016年7月20日.
15. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Hayashi Y, Tamaru M, Akagawa K: HPC-1/syntaxin1A is one of causing gene for autistic spectrum disorder. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016年7月20-22日.
16. 小藤剛史, 藤原智徳, 真田ますみ, 三嶋竜弥, 林優子, 田丸政男, 赤川公朗: Disturbance of HPC-1/syntaxin1A gene expression and its CNV cause autistic spectrum disorder. 第59回日本神経化学会, 福岡, 2016年9月8-11日.
17. 寺尾安生: 眼球運動からParkinson病を診る. 第10回御茶ノ水PD研究会, 東京, 2016年9月16日.
18. 中山高宏, 福富俊之, 赤川公朗: Syntaxin 1A遺伝子の神経特異的発現に関わる新規転写制御因子の探索. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016年9月27日.
19. 星野恭子, 寺尾安生, 林雅晴, 長尾ゆり, 木村一恵, 八森啓, 瓦井俊孝, 梶龍児: 知的退行をきたしたDYT11(myoclonus-dystonia syndrome)の一例. 第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 東京, 2016年10月6日.
20. 寺尾安生: 不随意運動の表面筋電図の取り方. 第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 東京, 2016年10月8日.
21. Tokushige SI, Terao Y, Togashi N, Sasaki T, Inomata-Terada S, Hamada M, Ugawa Y: Impaired reproduction of time length in Parkinson's disease. Time in Tokyo: International Symposium on temporal perception and experience, Tokyo, October 11th, 2016.
22. 寺尾安生: 視線解析の臨床応用. 第46回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016年10月28日.
23. 寺尾安生: 眼球運動の基礎と臨床衝動性眼球運動から神経疾患の病態をみる-眼球運動から小脳機能をみる-. 第46回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016年10月28日.
24. 寺尾安生: DBSがParkinson病に与える影響. 第10回運動障害疾患病態研究会, 東京, 2016年11月11日.
25. 徳重真一, 宇川義一, 寺尾安生, 松本英之, 松田俊一, 古林俊晃, 花島律子, 石川欽也, 他田正義, 矢部一郎, 武田篤, 田中洋康, 畠中めぐみ, 榎本博之, 小林俊輔, 辻省次: 小脳の時間保持能力: タッピング課題を用いた時間的統合の評価. 運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班 班会議, 東京, 2017年1月19-20日.
26. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 小藤剛史, 寺尾安生, 赤川公朗:

シンタキシン1B遺伝子欠損マウスのけいれん表現型の解析. 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月28-30日.

論文

1. Terao Y, Fukuda H¹, Tokushige S², Nomura Y¹, Hanajima R³, Ugawa Y⁴ (¹Segawa Neurological Clinic for Children, ²University of Tokyo, ³Kitasato University, ⁴Fukushima Medical University): Saccade abnormalities associated with focal cerebral lesions - How cortical and basal ganglia commands shape saccades in humans. *Clin Neurophysiol.* 127(8): 2953-2967, 2016.
2. Fujiwara T, Sanada M, Kofuji T¹, Akagawa K (¹Radioisotope Laboratory, Kyorin University School of Medicine): Unusual social behavior in HPC-1/syntaxin1A knockout mice is caused by disruption of the oxytocinergic neural system. *J Neurochem.* 138(1): 117-123, 2016.
3. Nakamura K¹, Groiss SJ¹, Hamada M², Enomoto H¹, Kadowaki S¹, Abe M¹, Murakami T¹, Wiratman W¹, Chang F¹, Kobayashi S¹, Hanajima R³, Terao Y, Ugawa Y¹ (¹Fukushima Medical University, ²The University of Tokyo, ³Kitasato University): Variability in response to quadripulse stimulation of the motor cortex. *Brain Stimul.* 9(6): 859-866, 2016.
4. Tokushige SI¹, Terao Y, Matsuda S¹, Inomata-Terada S¹, Shimizu T¹, Tanaka N¹, Hamada M¹, Yugeta A¹, Hanajima R¹, Mori H¹, Tsuji S¹, Ugawa Y² (¹University of Tokyo, ²Fukushima Medical University): Motor neuron disease with saccadic abnormalities similar to progressive supranuclear palsy. *Neurology and Clin Neurosci.* 4(4):146-152, 2016.
5. Mano KK¹, Matsukawa T¹, Mitsui J¹, Ishiura H¹, Tokushige S¹, Takahashi Y¹, Sato NS¹, Nakamoto FK¹, Ichikawa Y¹, Nagashima Y¹, Terao Y, Shimizu J¹, Hamada M¹, Uesaka Y¹, Oyama G¹, Ogawa G¹, Yoshimura J¹, Doi K¹, Morishita S¹, Tsuji S¹, Goto J¹ (¹University of Tokyo): Atypical parkinsonism caused by Pro105Leu mutation of prion protein: A broad clinical spectrum. *Neurol Genet.* 2(1):e48, 2016.
6. Terao Y, Sakurai Y¹, Ugawa Y² (¹Mitsui Memorial Hospital, ²Fukushima Medical University): Letter by Terao et al Regarding Article, "Damage to the left precentral gyrus is associated with apraxia of speech in acute stroke". *Stroke.* 47(4): e74, 2016.
7. Terao Y, Fukuda H¹, Tokushige SI², Inomata-Terada S², Ugawa Y³ (¹Segawa Neurological Clinic for Children, ²University of Tokyo, ³Fukushima Medical University): How saccade intrusions affect subsequent motor and oculomotor actions. *Front Neurosci.* 10: e608, 2017.
8. Terao Y, Fukuda H¹, Tokushige SI², Inomata-Terada S², Yugeta A², Hamada M², Ugawa Y³ (¹Neurological Clinic for Children, ²University of Tokyo, ³Fukushima Medical University): Distinguishing spinocerebellar ataxia with pure cerebellar manifestation from multiple system atrophy (MSA-C) through saccade profiles. *Clin Neurophysiol.* 128(1): 31-43, 2017.
9. Terao Y, Fukuda H¹, Tokushige SI², Inomata-Terada S², Hamada M², Ugawa Y³ (¹Neurological Clinic for Children, ²University of Tokyo, ³Fukushima Medical University): Saccades abnormalities in posterior cortical atrophy -A case report. *Clin Neurophysiol.* 128(2): 349-350, 2017.
10. Matsukawa T¹, Koshi KM¹, Mitsui J¹, Bannai T¹,

Kawabe M¹, Ishiura H¹, Terao Y, Shimizu J¹, Murayama K², Yoshimura J¹, Doi K¹, Morishita S¹, Tsuji S¹, Goto J¹ (¹University of Tokyo, ²National Rehabilitation Center for Children With Disabilities): Slowly progressive d-bifunctional protein deficiency with survival to adulthood diagnosed by whole-exome sequencing. *J Neurol Sci.* 372: 6-10, 2017.

11. Kodama S¹, Mano T¹, Masuzawa A¹, Hirata Y¹, Nagasako Y¹, Koshi Mano K¹, Hamada M¹, Terao Y, Hayashi T¹, Ono M¹, Tsuji S¹ (¹University of Tokyo): Tacrolimus-Induced reversible cerebral vasoconstriction syndrome with delayed multi-segmental vasoconstriction. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2017. (in press).
12. Hanajima R^{1,2,3}, Tanaka N², Tsutsumi R^{1,2}, Enomoto H⁴, Abe M⁴, Nakamura K⁴, Kobayashi S⁴, Hamada M², Shimizu T^{1,2}, Terao Y, Ugawa Y⁴ (¹Kitasato University, ²University of Tokyo, ³Tottori University, ⁴Fukushima Medical University): The effect of age on the homotopic motor cortical long-term potentiation-like effect induced by quadripulse stimulation. *Exp Brain Res.* 2017. (in press).
13. 寺尾安生: 眼球運動からみた基底核と小脳. *Clinical Neurosci.* 35(1): 103-105, 2017.
14. 寺尾安生: 神経生理検査: 大脳基底核疾患・小脳疾患における最新知見 眼球運動検査. *神経内科* 86(3): 283-289, 2017.
15. Sasaki T¹, Tokushige S¹, Togashi N¹, Inomata-Terada S¹, Terao Y, Ugawa Y², Hamada M¹ (¹University of Tokyo, ²Fukushima Medical University): Effect of subthreshold paired associative stimulation during voluntary contraction on motor learning. *Brain stimul.* 10(2): 352-353, 2017.
16. Tokushige S¹, Terao Y, Matsuda S¹, Oyama G², Shimo Y², Umemura J², Sekimoto S², Sasaki T¹, Inomata-Terada S¹, Yugeta A¹, Hamada M¹, Ugawa Y³, Hattori N², Tsuji S¹ (¹University of Tokyo, ²Juntendo University, ³Fukushima Medical University): The effect of deep brain stimulation on visual scanning of Parkinson's disease patients. *Brain Stimul.* 10(2): 375, 2017.
17. Kofuji T¹, Hayashi Y², Fujiwara T, Sanada M, Tamaru M², Akagawa K (¹Radioisotope Laboratory, Kyorin University School of Medicine, ²Prefectural University Hiroshima): A part of patients with autism spectrum disorder has haploidy of HPC-1/syntaxin1A gene that possibly caused behavioral disturbance as in experimentally gene ablated mice. *Neurosci Lett.* 644:5-9, 2017.

生化学教室 (1)

講演

1. 後藤田貴也: EBMに基づくコレステロール吸収阻害の重要性. 生活習慣病フォーラム in 郡山, 郡山, 2016年6月27日.
2. 後藤田貴也: 糖尿病における脂質管理の重要性. 新宿Evening Lecture, 東京, 2016年7月11日.
3. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: メタボリックシンドローム関連遺伝子KAT-1 (kynurenine aminotransferase-1) の糖代謝に及ぼす影響. 第48回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 東京, 2016年7

月15-16日

4. 後藤田貴也: 糖尿病に合併する脂質異常症の管理と治療戦略. 脂質フォーラム滋賀2016, 大津, 2016年9月10日.
5. 後藤田貴也: 糖尿病に合併する脂質異常症の管理と治療戦略. 脂質の至適管理を考える夕べ, 東京, 2017年1月25日.

論文

1. Takeuchi Y¹, Yahagi N¹, Aita Y¹, Murayama Y¹, Sawada Y¹, Piao X¹, Toya N¹, Oya Y¹, Shikama A¹, Takarada A¹, Masuda Y¹, Nishi M¹, Kubota M¹, Izumida Y¹, Yamamoto T, Sekiya M¹, Matsuzaka T¹, Nakagawa Y¹, Urayama O¹, Kawakami Y¹, Iizuka Y², Gotoda T, Itaka K², Kataoka K², Nagai R², Kadowaki T², Yamada N², Lu Y³, Jain MK³, Shimano H¹ (¹University of Tsukuba, ²University of Tokyo, ³Case Cardiovascular Research Institute): KLF15 enables rapid switching between lipogenesis and gluconeogenesis during fasting. *Cell Rep* 16(9):2373-2386, 2016.
2. 後藤田貴也: 脂質からみた心血管リスク管理. *プラクティス* 34(1):53-55, 2017.
3. 後藤田貴也: 糖尿病に伴う脂質プロファイルの変化とその発生メカニズム. *プラクティス* 34(2):163-165, 2017.

その他

1. 島野仁, 石橋俊, 岡崎啓明, 後藤田貴也, 村勢敏郎, 矢作直也: 山田信博先生追悼座談会. *The Lipid* 27(4):384-393, 2016.

生化学教室 (2)

講演

1. 今泉美佳, 青柳共太, 吉田昌史, 飛田耶馬人, 岸本拓磨, 中道洋子, 西脇知世乃, 崎村建司, 大塚稔久, 加計正文, 永松信哉: インスリン開口分泌におけるアクティブゾーン構成タンパク質ELKSの役割. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19-21日.
2. 今泉美佳: 分泌を含めた開口放出の可塑性や代謝について. 第3回開口放出機構研究会, 東京, 2016年7月11日.
3. 青柳共太, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 鳥居征司, 今泉美佳: VAMP7 regulates autophagy to maintain mitochondrial homeostasis and to control insulin secretion in pancreatic beta-cells. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016年9月25-27日.
4. 青柳共太: 睪β細胞におけるVAMP7を介したオートファジー制御機構とその生理作用. 第10回オートファジー研究会, 新潟, 2016年11月14日.
5. 今泉美佳: 女性研究者活躍に求められるもの—女性研究者自身の意識改革の重要性. 第31回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 横浜, 2017年2月10日.
6. 今泉美佳: インスリン分泌におけるアクティブゾーンタンパク質の役割. 第26回東京インスリン分泌研究会, 東京, 2017年2月23日.

論文

1. Kunii M^{1,2}, Ohara-Imaizumi M, Takahashi N³, Kobayashi M¹, Kawakami R⁴, Kondoh Y⁵, Shimizu T⁵, Simizu S⁶, Lin B², Nunomura K², Aoyagi K, Ohno M³, Ohmuraya M⁷, Sato T¹, Yoshimura SI², Sato K¹, Harada R^{2,8}, Kim YJ², Osada H⁵, Nemoto T⁴, Kasai H³, Kitamura T¹, Nagamatsu S, Harada A^{1,2} (¹Gunma University, ²Osaka University, ³The University of Tokyo, ⁴Hokkaido University, ⁵RIKEN Center for Sustainable Resource Science, ⁶Keio University, ⁷Kumamoto University, ⁸Takarazuka University of Medical and Health Care): Opposing roles for SNAP23 in secretion in exocrine and

endocrine pancreatic cells. *J Cell Biol* 215:121-138, 2016.

2. Aoyagi K, Ohara-Imaizumi M, Itakura M¹, Torii S², Akimoto Y, Nishiwaki C, Nakamichi Y, Kishimoto T, Kawakami H, Harada A³, Takahashi M¹, Nagamatsu S (1Kitasato University, 2Gunma University, 3Osaka University) : VAMP7 regulates autophagy to maintain mitochondrial homeostasis and to control insulin secretion in pancreatic β -cells. *Diabetes* 65:1648-1659, 2016.

その他

1. 今泉美佳 : NHKドキュメンタリー 医療革命「あなたを襲う“血糖値スパイク”」, NHK BS1, 2017年2月3日.

薬理学教室

講演

1. 福富俊之, 木村徹, 小寺義男, 岩下光利, 櫻井裕之 : ペプチドミクスによる妊娠高血圧症候群発症予知マーカーの探索. 第134回日本薬理学会関東部会, 大田原, 2016年7月9日.
2. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人 : マウス腸管上皮細胞を区別する糖鎖関連分子マーカーの探索. 第57回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
3. 中山高宏, 福富俊之, 赤川公朗 : Syntaxin 1A 遺伝子の神経特異的発現に関わる新規転写制御因子の探索. 第89回日本生化学会, 仙台, 2016年9月25-27日.
4. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人 : マウス腸管ニッチ細胞におけるフコシル化糖鎖発現. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016年9月26日.
5. 末弘淳一, 櫻井裕之 : LAT1阻害時の血管内皮細胞におけるトランスクリプトーム解析. 第90回日本薬理学会年会, 長崎, 2017年3月15-17日.

論文

1. Katada T, Sakurai H : Proper Notch activity is necessary for the establishment of proximal cells and differentiation of intermediate, distal, and connecting tubule in *Xenopus* pronephros development. *Dev Dyn* 245:472-482, 2016.
2. Ueno S, Kimura T, Yamaga T, Kawada A¹, Ochiai T¹, Endou H², Sakurai H (1Japan SLC, Inc., 2J-Pharma Co. Ltd.) : Metformin enhances anti-tumor effect of L-type amino acid transporter 1 (LAT1) inhibitor. *J Pharmacol Sci* 131:110-117, 2016.
3. Yamamoto S¹, Takehara M², Kabashima Y¹, Fukutomi T, Ushimaru M¹ (1Department of Chemistry, Kyorin University School of Medicine, 2The University of Shiga Prefecture) : Identification of novel inhibitors of human SPCA2. *Biochem Biophys Res Commun* 477:266-270, 2016.
4. Yoshida S¹, Fukutomi T, Kimura T, Sakurai H, Hatano R¹, Yamamoto H^{1,2}, Mukaisho K², Hattori T², Sugihara H², Asano S¹ (1Ritsumeikan University, 2Shiga University of Medical Science) : Comprehensive proteome analysis of brush border membrane fraction of ileum of ezrin knockdown mice. *Biomed Res* 37:127-139, 2016.
5. Ito Y¹, Katayama K², Nishibori Y¹, Akimoto Y³, Kudo A³, Kurayama R¹, Hada I¹, Takahashi S¹, Kimura T, Fukutomi T, Katada T, Suehiro J, Beltcheva O⁴, Trygvason K², Yan K¹ (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Karolinska Institute, 3Department of Anatomy, Kyorin

University School of Medicine, 4Medical University of Sofia) : Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 epigenetically regulates nephrin gene expression. *Am J Physiol Renal Physiol* 2017. (in press).

6. Yonezawa H¹, Osaki T¹, Fukutomi T, Hanawa T¹, Kurata S¹, Zaman C¹, Hojo F², Kamiya S¹ (1Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 2Institute of Laboratory Animals, Kyorin University) : Diversification of the AlpB outer membrane protein of *Helicobacter pylori* affects biofilm formation and cellular adhesion. *J Bacteriol* 199:e00729-16, 2017.
7. Otsuki H, Kimura T, Yamaga T, Kosaka T¹, Suehiro JI, Sakurai H (1Keio University) : Prostate Cancer Cells in Different Androgen Receptor Status Employ Different Leucine Transporters. *Prostate* 77:222-233, 2017.
8. Takahashi H¹, Kato K², Ueyama K², Kobayashi M², Baik G¹, Yukawa Y¹, Suehiro JI, Matsunaga YT¹ (1The University of Tokyo, 2Screen Holdings Co., Ltd.) : Visualizing dynamics of angiogenic sprouting from a three-dimensional microvasculature model using stage-top optical coherence tomography. *Sci Rep* 7:42426, 2017.
9. Pauty J¹, Usuba R¹, Takahashi H¹, Suehiro J, Fujisawa K¹, Yano K², Nishizawa T², Matsunaga YT¹ (1The University of Tokyo, 2Daiichi Sankyo Co., Ltd.) : A Vascular Permeability Assay Using an In Vitro Human Microvessel Model Mimicking the Inflammatory Condition. *Nanotheranostics* 1:103-113, 2017.
10. Matsumoto Y¹, Sakurai H, Kogashiwa Y², Kimura T, Matsumoto Y¹, Shionome T³, Asano M³, Saito K¹, Kohno N¹ (1Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, 2Saitama Medical University International Medical Center, 3Nihon University) : Inhibition of epithelial-mesenchymal transition by cetuximab via the EGFR-GEP100-Arf6-AMAP1 pathway in head and neck cancer. *Head Neck* 39:476-485, 2017.
11. Yokoi H¹, Yoshitake H², Matsumoto Y¹, Kawada M¹, Takato Y³, Shinagawa K³, Sakurai H, Saito K¹ (1Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, 2Juntendo University, 3SHIDAX Research Institute) : Involvement of cross-reactive carbohydrate determinants-specific IgE in pollen allergy testing. *Asia Pac Allergy* 7:29-36, 2017.
12. Takagi H¹, Nishibori Y¹, Katayama K², Katada T, Takahashi S¹, Kiuchi Z¹, Takahashi SI³, Kamei H³, Kawakami H⁴, Akimoto Y⁴, Kudo A⁴, Asanuma K⁵, Takematsu H⁵, Yan K¹ (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Karolinska Institute, 3The University of Tokyo, 4Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, 5Kyoto University) : USP40 gene knockdown disrupts glomerular permeability in zebrafish. *Am J Physiol Renal Physiol* 312:F702-F715, 2017.
13. Kogashiwa Y¹, Yasuda M¹, Sakurai H, Nakahira M¹, Sano Y¹, Gonda K², Ikeda T³, Inoue H¹, Kuba K¹, Oba S¹, Ishikawa J¹, Enoki Y¹, Matsumura S¹, Minami K¹, Ebihara Y¹, Sugawara M¹ (1Saitama Medical University International Medical Center, 2Japan Community Health Care Organization, 3Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin

University School of Medicine) : PD-L1 expression confers better prognosis in locally advanced oral squamous cell carcinoma. *Anticancer Res* 37:1417-1424, 2017.

14. Kanki Y¹, Nakaki R¹, Shimamura T², Matsunaga T³, Yamamizu K³, Katayama S³, Suehiro JI, Osawa T¹, Aburatani H¹, Kodama T¹, Wada Y¹, Yamashita JK³, Minami T^{1,4} (¹The University of Tokyo, ²Nagoya University, ³Kyoto University, ⁴Kumamoto University): Dynamically and epigenetically coordinated GATA/ETS/SOX transcription factor expression is indispensable for endothelial cell differentiation. *Nucleic Acids Res* 2017. (in press).

病理学教室

講演

1. 鶴久大介, 炭谷由計, 近藤健, 箕輪久美, 澤井梓, 七条裕孝, 近藤琢磨, 保坂利男, 渡辺俊介, 倉田勇, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 藤原正親, 菅間博, 石田均: コルチゾールとNSAIDによる出血性胃潰瘍が再発したクッシング病. 第89回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2016年4月21-23日.
2. 長嶺陽平, 龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 千葉知宏, 寺戸雄一, 菅間博: リンパ脈管筋腫症を合併した類上皮性腎血管筋脂肪腫の一例. 第104回日本泌尿器化学会総会, 東京, 2016年4月22-25日.
3. 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 下山田博明, 菅間博: 後腹膜hemangiopericytomaの1例. 第104回日本泌尿器化学会総会, 東京, 2016年4月22-25日.
4. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 藤原正親, 菅間博: ペニシリンG大量投与によって発症したと考えられる薬剤性出血性膀胱炎の1例. 第104回日本泌尿器化学会総会, 東京, 2016年4月22-25日.
5. 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 菅間博: 成人に発症したMesoblastic Nephromaの1例. 第104回日本泌尿器化学会総会, 東京, 2016年4月22-25日.
6. 相澤陽太, 千葉知宏, 石井順, 澤文, 住石歩, 菅間博: microRNAを用いたSTAT family分子の同時ノックダウンシステムの開発. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
7. 有益優, 寺戸雄一, 藤原正親, 千葉知宏, 石井順, 岡部直太, 菅間博: ALTがん細胞における巨大テロメア核体の形成機序. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
8. 澤文, 千葉知宏, 石井順, 住石歩, 山本浩之, 原尚人, 菅間博: 甲状腺癌増殖シグナルにおけるアデニル酸シクラーゼの作用. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
9. 窪田仰, 千葉知宏, 澤文, 相澤陽太, 住石歩, 片岡雅晴, 佐藤徹, 菅間博: エボプロステノール静注療法に伴う甲状腺腫大の発生機序. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
10. 小和田敬子, 千葉知宏, 鈴木瞳, 藤原正親, 下山田博明, 佐藤徹, 大倉康男, 菅間博: 胃腺窩上皮過形成を伴った肺高血圧症の一例. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
11. 齊藤由希子, 千葉知宏, 大森嘉彦, 望月眞, 稲嶺圭祐, 古川里奈, 近藤凡子, 佐藤徹, 菅間博: 特発性肺動脈性肺高血圧症に未分化大細胞リンパ腫を合併した一例. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
12. 磯村杏耶, 下山田博明, 近藤凡子, 小島薫子, 要伸也, 有村義宏, 菅間博: 特発性膜性とループス腎炎の膜性病変の超解像顕微鏡を用いた比較解析. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
13. 吉池信哉, 菅間博, 井本滋, 大倉康夫, 望月眞, 澤文, 岡部直太, 千葉知宏, 磯村杏那, 大森嘉彦: Intraductal papillary carcinomaを伴う浸潤性乳癌NSTの一例. 乳管内乳頭状病変の鑑別と組織発生. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
14. 氣賀澤秀明, 寺戸雄一, 千葉知宏, 岡部直太, 吉池信哉, 藤原正親, 北村修, 菅間博: 腎癌に転移性乳癌小葉癌が混在した1例. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
15. 岡部直太, 吉池信哉, 大窪泰弘, 下山田博明, 寺戸雄一, 藤原正親, 望月眞, 西ヶ谷順子, 大倉康男, 菅間博: 慢性糸球体腎炎の閉経後女性に発生した子宮体部の脂肪平滑筋腫の1例. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
16. 千葉知宏, 伊波巧, 下山田博明, 藤原正親, 澤文, 片岡雅晴, 大郷恵子, 佐藤徹, 植田初江, 菅間博: 肺高血圧症に対するソラフェニブ治療. 肺血管病理の解析. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
17. 田中利明, 板垣英二, 小沼裕寿, 五林可織, 森谷理恵, 石飛実紀, 近藤健, 石本麻衣, 炭谷由計, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 森井健司, 菅間博, 田均: 切除後に再発と両側肺転移を来した腫瘍性骨軟化症の1例. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
18. 柴原純二, 林玲匡, 三角健人, 深山正久: 混合型肝癌を含む原発性肝癌の適切な組織分類を構築するにあたっての基礎知見. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
19. 林玲匡, 柴原純二, 三角健人, 有田淳一, 阪本良弘, 長谷川潔, 國土典宏, 深山正久: 肝細胞癌における腫瘍内リンパ球・形質細胞浸潤の組織学的アプローチ. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
20. 林玲匡, 柴原純二, 三角健人, 有田淳一, 阪本良弘, 長谷川潔, 國土典宏, 深山正久: 肝内胆管癌における2つのサブタイプの臨床病理学および遺伝学的特徴. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
21. 三角健人, 柴原純二, 林玲匡, 國土典宏, 深山正久: 高感度ISH法による肝内胆管癌におけるアルブミンmRNA発現検討. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
22. 池村雅子, 柴原純二, 武笠晃丈, 田中将太, 相原功輝, 野村昌志, 深山正久: 浸潤性midline gliomaにおけるヒストンH3K27M変異の免疫組織化学的検討. 第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月12-14日.
23. 今井大也, 小林啓一, 千葉知宏, 齊藤邦昭, 菅間博, 塩川芳昭, 永根基雄: 術前診断に難渋したRosai-Dorfman diseaseの一例. 第34回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2016年5月27-28日.
24. 越川卓, 廣川満良, 菅間博, 長沼廣, 近藤哲夫, 加藤良平, 坂本彦彦: 新しい甲状腺癌取り扱い規約(第7版) 組織診断基準と細胞診報告様式. 細胞診断報告様式. 第57回日本臨床細胞学会総会春季大会, 横浜, 2016年5月28-29日.
25. 菅間博: 新しい甲状腺癌取り扱い規約(第7版) 組織診断基準と細胞診報告様式. 甲状腺腫瘍の組織診断基準に

- ついて. 第57回日本臨床細胞学会総会春季大会, 横浜, 2016年5月27-29日.
26. 加藤拓, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 稲嶺圭祐, 菅野大輝, 藤原正親, 望月眞, 大倉康男: 粘表皮癌の細胞診断 悪性度判定と鑑別診断. 第57回日本臨床細胞学会総会春季大会, 横浜, 2016年5月27-29日.
 27. 鈴木瞳, 加藤拓, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 稲嶺圭祐, 菅野大輝, 望月眞, 大倉康男: リンパ節細胞診における良悪性鑑別困難症例の検討. 第57回日本臨床細胞学会総会春季大会, 横浜, 2016年5月27-29日.
 28. Tanaka R, Tachibana K, Sakamoto N, Fujuwara M, Kamma H, Kondo H: The Efficiency of Histological Subtyping and Molecular Testinf in Bronchoscopic Examinations for Lung Cancer Diagnosis. The 19th International Congress of Cytology, YOKOHAMA, May 28th, -June 1st, 2016.
 29. 阪本良弘, 國土典宏, 渡谷岳行, 柴原純二, 山本雅一, 山本裕樹: 肝血管腫の診断と治療に関する全国調査研究とガイドラインの作成. 第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 大阪, 2016年6月2-4日.
 30. 田崎英里, 上野貴之, 宮本快介, 伊東大樹, 伊坂泰嗣, 井本滋, 大森嘉彦, 菅間博, 山下詠子: 術前に腫瘍範囲の診断が困難だった小葉癌の一例. 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016年6月16-18日.
 31. 西野純史, 細井温, 池添亨, 布川雅雄, 大倉康男, 望月眞, 千葉知宏, 窪田博: 経過観察中に肺塞栓症を併発した内頸静脈venous aneurysmの1治験例. 第36回日本静脈学会総会, 弘前, 2016年6月23-24日.
 32. 小倉航, 大塚弘毅, 藤原正親, 田中良太, 横山琢磨, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 非小細胞肺癌症例における穿刺液検体に対する血漿用EGFR遺伝子変異検査試薬の有用性の検討. 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016年9月1-4日.
 33. 寺戸雄一, 有益優, 菅間博: 超解像顕微鏡を用いた間期の核の二本鎖DNA分布の解析. 第57回日本組織細胞化学会総会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
 34. 下山田博明, 磯村杏耶, 寺戸雄一, 菅間博: 膜性糸球体腎炎の超解像顕微鏡による解析. 第57回日本組織細胞化学会総会, 三鷹, 2016年9月3-4日.
 35. 山本浩之, 石井順, 住石歩, 千葉知宏, 菅間博: 腺腫様甲状腺腫の手術検体で偶発的に認められた2mmの髓様癌の一例. 第20回日本内分泌病理学会総会, 東京, 2016年9月16-17日.
 36. 志賀久恵, 増田裕, 荻安俊哉, 山下詠子, 千葉知宏, 藤原正親, 似島俊明: 尿管坐骨孔ヘルニアの1例. 第52回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 東京, 2016年9月16-18日.
 37. 岩崎博幸, 林宏行, 千葉知宏, 菅間博: 上咽頭癌の外照射治療後に発症した甲状腺腫瘍の一例. 第49回日本甲状腺外科学会学術集会, 甲府, 2016年10月27-28日.
 38. 鳥森直子, 岸野智則, 大西宏明, 森井健司, 本谷啓太, 望月眞, 高城靖志, 渡邊卓: 超音波画像所見で脂肪肉腫の組織型を推定する試み. 第53回日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会, 甲府, 2016年10月29-30日.
 39. 渡邊俊介, 土岐真朗, 後藤知之, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 山口康晴, 望月眞, 両角克朗, 森秀明, 古瀬純司, 高橋信一, 久松理一: 膵癌による胆管狭窄における経乳頭の胆管生検およびブラシ細胞診の正診率と寄与因子の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2016年11月3-5日.
 40. 中島収, 坂本亨宇, 柴原純二, 近藤福雄, 相島慎一, 秋葉純, 佐々木素子: 混合型肝癌の病理診断コンセンサスを指すための多施設検討. 第62回日本病理学会秋期特別総会, 金沢, 2016年11月10-11日.
 41. 井上真奈美, 皿谷健, 小田未来, 布川寛樹, 藤原正親, 滝澤始: 家族内発症した夏型過敏症肺炎の検討. 第78回臨床アレルギー研究会, 東京, 2016年11月12日.
 42. 菅間博: 小児甲状腺腫瘍の特徴. 第55回日本臨床細胞学会, 別府, 2016年11月18-19日.
 43. 加藤拓, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 稲嶺圭祐, 菅野大輝, 山野環, 住石歩, 近藤凡子, 藤原正親, 望月眞, 柴原純二: 多形腺腫を極める 典型像からピットフォールまで. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会, 別府, 2016年11月18-19日.
 44. 橋啓盛, 坂本憲彦, 加藤拓, 中里陽子, 田中良太, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: リンパ節針生検の器具洗浄液細胞診で推定しえた縦隔卵黄嚢腫瘍の1例. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会, 別府, 2016年11月18-19日.
 45. 菅野大輝, 加藤拓, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 稲嶺圭祐, 住石歩, 近藤凡子, 菅間博, 柴原純二: 唾液腺多型低悪性度腺癌の一例. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会, 別府, 2016年11月18-19日.
 46. 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 水谷奈津子, 市川美雄, 坂本憲彦, 長内喜代乃, 百村麻衣, 望月眞, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 卵巣Sertoli-Leydig細胞腫の1例. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会, 別府, 2016年11月18-19日.
 47. 鶴久大介, 炭谷由計, 近藤健, 箕輪久美, 澤井梓, 七条裕孝, 近藤琢磨, 保坂利男¹, 渡辺俊介, 倉田勇, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 藤原正親, 菅間博, 石田均: コルチゾールとNSAIDによる出血性胃潰瘍が再発したクッシング病. 第26回臨床内分泌代謝Update, さいたま, 2016年11月18-19日.
 48. 柴原純二: 浸潤性膠腫の病理診断. 第76回日本病理学会近畿支部学術集会, 大阪, 2017年2月4日.
 49. 渋谷幸見, 田中良太, 三ツ間智也, 橋啓盛, 中里陽子, 武井秀史, 近藤晴彦, 藤原正親, 菅間博: 急性膵炎で発見された肺癌術後膵転移の一例. 第178回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2017年3月4日.
- 論文**
1. 菅間博, 千葉知宏: 甲状腺未分化癌, 低分化癌Update 甲状腺低分化癌の病理診断基準Update. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33(Suppl.1): S65, 2016.
 2. 千葉知宏, 菅間博: 甲状腺低分化癌について. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33(2): 78-82, 2016.
 3. 藤原正親, 坂本憲彦, 加藤拓, 菅間博: PAX8免疫染色が診断に有用であったNapsin A陽性甲状腺癌による癌性胸膜炎の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 55:355-356, 2016.
 4. 和田翔子¹, 皿谷健¹, 辻本直貴¹, 蘇原慧伶¹, 中元康雄¹, 渡邊崇靖¹, 平田彩¹, 辻晋吾¹, 西沢知剛¹, 武井秀史², 藤原正親, 矢澤卓也, 滝澤始¹, 後藤元¹ (¹杏林大・医・呼吸器内科, ²杏林大・医・呼吸器・甲状腺外科): 胸部CTにおいて特発性間質性肺炎 (fibrotic nonspecific interstitial pneumonia) との鑑別を要し胸腔鏡下肺生検で診断し得たトリコスポロン抗原吸入による慢性過敏性肺炎の1例. 日本胸部臨床 75:551-556, 2016.
 5. 柴原純二: 脳腫瘍の病理学 乏突起膠腫. 日本臨床 74(増刊7): 192-195, 2016.
 6. 木下雄介¹, 増田裕¹, 本谷啓太¹, 横山健一¹, 黒木一典¹, 似島俊明¹, 藤原正親, 菅間博 (¹杏林大・医・放射線医学): 奇静脈への還流を認めた乳児肺葉内分画症の1例. 臨床放射線 62(1): 203-208, 2017.
 7. 山本浩之, 菅間博: 甲状腺細胞診の報告様式へのベセスダシステムの導入-第7版『甲状腺癌取扱い規約』における“鑑別困難”. 医学のあゆみ 260(9): 773-778, 2017.
 8. Hayashi A¹, Shibahara J, Misumi K¹, Arita J¹,

- Sakamoto Y¹, Hasegawa K¹, Kokudo N¹, Fukayama M¹ (University of Tokyo): Histologic assessment of intratumoral lymphoplasmacytic infiltration is useful in predicting prognosis of patients with hepatocellular carcinoma. *PLoSOne* 11(5):e0155744, 2016.
9. Shibahara J, Hayashi A¹, Misumi K¹, Sakamoto Y¹, Arita J¹, Hasegawa K¹, Kokudo N¹, Fukayama M¹ (University of Tokyo): Clinicopathologic characteristics of hepatocellular carcinoma with reactive ductule-like components, a subset of liver cancer currently classified as combined hepatocellular-cholangiocarcinoma with stem-cell features, typical subtype. *Am J Surg Pathol* 40(5):608-616, 2016.
 10. Saraya T¹, Nunokawa H¹, Fujiwara M, Ohkuma K¹, Tsujimoto N¹, Tsukahara Y¹, Ishii H¹, Goto H¹, Takizawa H¹ (Kyorin Univ. School of Medicine · Respiratory Medicine): Tracheobronchial Amyloidosis in a Patient with Sjögren's Syndrome. *Intern Med* 55:981-984, 2016.
 11. Hayashi A¹, Misumi K¹, Shibahara J, Arita J¹, Sakamoto Y¹, Hasegawa K¹, Kokudo N¹, Fukayama M¹ (University of Tokyo): Distinct clinicopathologic and genetic features of 2 histologic subtypes of intrahepatic cholangiocarcinoma. *Am J Surg Pathol* 40(8):1021-1030, 2016.
 12. Ikemura M¹, Shibahara J, Mukasa A¹, Takayanagi S¹, Aihara K¹, Saito N¹, Aburatani H¹, Fukayama M¹ (University of Tokyo): Utility of ATRX immunohistochemistry in diagnosis of adult diffuse gliomas. *Histopathology* 69(2):260-267, 2016.
 13. Endo H¹, Ishii H¹, Tsuchiya H¹, Takahashi Y¹, Shimoyamada H, Isomura A, Nakajima M², Hirano T³, Ohkura Y, Kubota H¹ (Kyorin Univ. School of Medicine · Cardiovascular Surgery, ²Kyorin Univ. School of Medicine · Neurology, ³Kyorin Univ. School of Medicine · Stroke and Cardiovascular Medicine): Pathologic Features of Lone Aortic Mobile Thrombus in the Ascending Aorta. *Ann Thorac Surg* 102(4):e313-e315, 2016.
 14. Hashimoto H¹, Kurata A², Fujiwara M, Hara K, Matsumoto J, Kusakabe M, Tachibana K, Nashiro T, Terado Y, Akahane M, Usui K, Suzuki Y, Kondo H, Kamma H, Kuroda M, Horiuchi H (NTT Medical Center, ²Tokyo Medical University): Solitary Pulmonary Capillary Hemangioma of Adult Cases: Clinicopathologic Characteristics as an Unrecognized Entity. *Am J Surg Pathol* 40(10):1380-1389, 2016.
 15. Hayashi A¹, Misumi K¹, Shibahara J, Kokudo N¹, Kato Y², Fukayama M¹ (University of Tokyo, ²Tohoku University): Immunohistochemistry using monoclonal antibody MsMab-2 is useful to detect IDH1R132L in intrahepatic cholangiocarcinoma. *Pathol Int* 66(10):578-582, 2016.
 16. Koizumi Y, Uehira T, Ota Y, Ogawa Y, Yajima K, Tanuma J, Yotsumoto M, Hagiwara S, Ikegaya S, Watanabe D, Minamiguchi H, Hodohara K, Murotani K, Mikamo H, Wada H, Ajisawa A, Shirasaka T, Nagai H, Kodama Y, Hishima T, Mochizuki M, Katano H, Okada S: Clinical and pathological aspects of human immunodeficiency virus-associated plasmablastic lymphoma: analysis of 24 cases. *Int J Hematol* 104(6):669-681, 2016.
 17. Tanaka Y¹, Tateishi K¹, Nakatsuka T¹, Kudo Y¹, Takahashi R¹, Miyabayashi K¹, Yamamoto K¹, Asaoka Y¹, Ijichi H¹, Teteishi R¹, Shibahara J, Fukayama M¹, Ishizawa T¹, Hasegawa K¹, Kokudo N¹, Koike N¹ (University of Tokyo): Sharpin promotes hepatocellular carcinoma progression via transactivation of Versican expression. *Oncogenesis* 5(12):e277, 2016.
 18. Hirata A¹, Saraya T¹, Arai N², Karita S², Kawachi R², Takei H², Ohkuma K¹, Ishida M¹, Fujiwara M, Takizawa H¹ (Kyorin Univ. School of Medicine · Respiratory Medicine, ²Kyorin Univ. School of Medicine · General Thoracic Surgery): Giant bulla formation in the lung because of a check-valve mechanism. *Respir Investig* 55(1):63-68, 2017.
 19. Mukasa A¹, Yanagisawa S¹, Saito K¹, Tanaka S¹, Takai K¹, Shibahara J, Ikegami M¹, Nakao Y¹, Takeshita K¹, Matsutani M², Saito N¹ (University of Tokyo, ²Saitama Medical University): Successful Treatment of mixed yolk sac tumor and mature teratoma in the spinal cord: case report. *J Neurosurg Spine* 26(3):319-324, 2017.
 20. Tanaka K¹, Muraoka Y¹, Toda Y¹, Kiyomoto C¹, Okubo Y, Nagashima T¹, Furukawa S¹, Fujiwara M, Mochizuki M, Kobayashi Y¹, Iwashita M¹ (Kyorin Univ. School of Medicine · Obstetrics and Gynecology): Finegoldia magna myometritis with uterine necrosis after uterine artery embolisation. *J Obstet Gynaecol* 20:1-2, 2017.
 21. Aihara K¹, Mukasa A¹, Nagae G¹, Nomura M¹, Yamamoto S¹, Ueda H¹, Tatsuno K¹, Shibahara J, Takahashi M¹, Momose T¹, Tanaka S¹, Takayanagi S¹, Yanagisawa S¹, Nejo T¹, Takahashi S¹, Omata M¹, Otani R², Saito K³, Narita Y⁴, Nagane M³, Nishikawa R⁵, Ueki K², Aburatani H¹, Saito N¹ (University of Tokyo, ²Dokkyo Medical University, ³Kyorin Univ. School of Medicine · Neurosurgery, ⁴National Cancer Center Hospital, ⁵Saitama Medical University): Genetic and epigenetic stability of oligodendrogliomas at recurrence. *Acta Neuropathol Commun* 5(1):18, 2017.
 22. Watanabe T¹, Furuse J², Okano N, Suzuki Y³, Kamma H, Sugiyama M³ (Kyorin Univ. School of Medicine · Lab. M., ²Kyorin Univ. School of Medicine · Oncology, ³Kyorin Univ. School of Medicine · Digestive Surgery): Pathological complete response after combined chemotherapy of gemcitabine and S-1 in advanced biliary tract cancer with para-aortic lymph nodes metastasis: a case report. *Surg Case Rep.* 3(1):26, 2017. doi:10.1186/s40792-017-0303-5.

**感染症学教室
(微生物学)**

講演

1. Hanawa T, Kamachi K, Kawakami H, Kamiya S: Pellicle formation at the air-liquid interface by *Bordetella pertussis*. 13th *Bordetella* symposium, Argentina, April 5th-8th, 2016.
2. 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 神谷茂: 若年者除菌治療のための糞便DNAを用いた*Helicobacter pylori*薬剤耐性遺伝子変異の検出と分離菌株の薬剤感受性. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016年4月15-16日.
3. 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* AlpABの多様性とバイオフィルム形成. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016年4月15-16日.

4. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: 肺炎マイコプラズマ菌体抗原感作が濾胞ヘルパーT細胞分化に及ぼす影響. 第90回日本感染症学会総会, 仙台, 2016年4月15-16日.
5. 神谷茂: *Clostridium difficile*感染症の最近の話題. 感染症セミナー2016, 名古屋, 2016年4月18日.
6. 神谷茂: 細菌集団と生体~バイオフィーム感染症から腸内細菌の役割まで. JST戦略的創造研究推進事業 (ERATO) 野村集団微生物制御プロジェクト・キックオフシンポジウム, つくば, 2016年5月25日.
7. 大崎敬子, 徳永健吾, 田中昭文, ザマンシンシア, 米澤英雄, 北条史, 高橋信一, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 感染と胃内細菌叢. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月24-26日.
8. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, ザマンシンシア, 神谷茂: AlpABの多様性が及ぼす*Helicobacter pylori* TK1402株バイオフィーム形成への影響. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月24-26日.
9. Zaman C, Osaki T, Yonezawa H, Hojo F, Kamiya S: Animal study on *Helicobacter pylori* infection using the strains isolated from one family members. The 13th Korea-Japan Joint Symposium on Helicobacter infection, 別府, 2016年6月24-26日.
10. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* AlpABの多様性がもたらすバイオフィーム形成への影響. 第30回日本バイオフィーム学会学術集会, 東京, 2016年7月2日.
11. 神谷茂: 腸内フローラ研究の進歩~メタゲノム解析をめぐって~. 第53回日本消化器免疫学会総会, 大阪, 2016年7月14日.
12. Kamiya S: Intrafamilial infection of *Helicobacter pylori* (Plenary lecture). The 2nd International Conference on Mongolian Medicine Industry Expo and the Eurasia-Pacific University Alliance of Mongolian Medicine Academic Forum, China, August 16th-17th, 2016.
13. 大崎敬子, 神谷茂: *Helicobacter pylori*家族内感染と腸内常在細菌叢. 第19回日本臨床腸内微生物学会, 三鷹, 2016年8月27日.
14. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T: Comparison of infectivity of *H. pylori* strains isolated from father, mother and 3 children of a family in gerbil model. European Helicobacter and Microbiota Study Group - EHMSG XXIXth International Workshop on Helicobacter and Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 15th-17th, 2016.
15. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: Metagenomic analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in the patients with atrophic gastritis. European Helicobacter and Microbiota Study Group - EHMSG XXIXth International Workshop on Helicobacter and Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 15th-17th, 2016.
16. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F, Kamiya S: Critical role of AlpA and AlpB for biofilm formation and cell adhesion of *Helicobacter pylori*. European Helicobacter and Microbiota Study Group - EHMSG XXIXth International Workshop on Helicobacter and Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 15th-17th, 2016.
17. 神谷茂: 腸内フローラと内科疾患. 第65回日本感染症学会東日本支部学術集会・第63回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会, 新潟, 2016年10月26-28日.
18. 神谷茂: イントロダクション. 第25回ヤクルト腸内細菌フローラシンポジウム, 東京, 2016年11月4日.
19. 遠藤沙佑美, 井上信一, 蔵田訓, 新倉保, 朝日博子, 大崎敬子, 神谷茂, 小林富美恵: サルモネラ感染によるマリア免疫記憶の減弱効果. 第45回杏林医学会総会, 東京, 2016年11月19日.
20. 神谷茂: 腸内フローラと健康・疾病. 日本クリニカルバス学会学術集会, 金沢, 2016年11月25-26日.
21. 神谷茂: 腸内フローラとプロバイオティクス. 東京農大大学院セミナー, 東京, 2017年1月20日.
22. 神谷茂: 腸内フローラと疾病. 第2回京滋腸内細菌研究会, 京都, 2017年2月3日.
23. 神谷茂: 糞便移植による感染防御. 第253回ICD講習会, 仙台, 2017年3月19日.
24. 神谷茂: 細菌学会における耐性菌対策と抗菌薬開発への取り組み. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
25. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Kurata S, Hanawa T, Kamiya S: Characterization of *Helicobacter pylori* strains in continuous flow culture system. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
26. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 北条史, 大崎敬子, ザマンシンシア, 神谷茂: 百日咳菌ペリクルバイオフィームに関わる遺伝子発現の解析. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
27. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: *in vitro*における*Mycoplasma pneumoniae* 抗原感作がTh2免疫応答に及ぼす作用. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
28. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, ザマンシンシア, 北条史, 神谷茂: *Helicobacter pylori*外膜タンパク質AlpAのバイオフィーム形成能への影響. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.

論文

1. Isa K¹, Oka K¹, Beauchamp N², Sato M¹, Wada K¹, Ohtani K³, Nakanishi S¹, McCartney E⁴, Tanaka M¹, Shimizu T³, Kamiya S, Kruger C⁴, Takahashi M¹ (Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ²Spherix Consulting, Rockville, MD, ³Kanazawa University, ⁴Pen & Tec Consulting): Safety assessment of the *Clostridium butyricum* MIYAIRI 588® probiotic strain including evaluation of antimicrobial sensitivity and presence of *Clostridium* toxin genes *in vitro* and teratogenicity *in vivo*. Hum Exp Toxicol, 35(8):818-832, 2016.
2. Yonezawa H, Osaki T, Fukutomi T¹, Hanawa T, Kurata S, Zaman C, Hojo F², Kamiya S (¹ Department of Pharmacology Kyorin University School of Medicine ² Institute of Laboratory Animals Graduate School of Medicine Kyorin University): Diversification of the AlpB Outer Membrane Protein of *Helicobacter pylori* Affects Biofilm Formation and Cellular Adhesion. J Bacteriol. 199:e00729, 2017.
3. Okuda M¹, Kikuchi S², Mabe K³, Osaki T, Kamiya S, Fukuda Y⁴, Kato M³ (¹Hyogo College of Medicine, ²Aichi Medical University, ³National Hospital Organization Hakodate Hospital, ⁴Kyowakai Medical Corporation Second Kyoritsu Hospital): Nationwide survey of *Helicobacter pylori* treatment for children and adolescents in Japan. Pediatr Int. 59(1):57-61, 2017.

4. Pepoyan AZ^{1,2}, Balayan MH^{1,2}, Manvelyan AM^{1,2}, Mamikonyan V², Isajanyan M², Tsururyan VV^{2,3}, Kamiya S, Ntrebov V⁴, Chikindas ML^{4,5} (¹Armenian National Agrarian University, ²International Association for Human and Animals Health Improvement, ³Yerevan State Medical University, ⁴Rutgers State University, ⁵New Jersey Institute for Food, Nutrition and Health) : *Lactobacillus acidophilus* INMIA 9602 Er-2 strain 317/402 probiotic regulates growth of commensal *Escherichia coli* in gut microbiota of familial Mediterranean fever disease subjects. *Lett Appl Microbiol* 64(4):254-260, 2017.
 5. 神谷茂:ディフィシル菌感染症の基礎と臨床 - 院内感染とその対策を含めて. *臨床腸内微生物学雑誌* 17(1):20-23, 2015 (2016年出版物) .
 6. 神谷茂:クロストリジウム・ディフィシル. *化学療法の領域* 32(9):1670-1678, 2016.
 7. 角田徹¹, 高橋信一², 神谷茂 (¹角田外科消化器科医院, ²立正佼成会附属佼成病院内科) : かかりつけ医における *Helicobacter pylori* 診療の実際と課題. *Helicobacter Research* 20(4):402-407, 2016.
 8. 神谷茂:腸内細菌研究の過去・現在・未来:腸内細菌が現代医療に与えるインパクト. *Medical ASahi* 3:15-17, 2016.
 9. 神谷茂:腸内細菌学の温故知新. *最新医学* 71(9):23-30, 2016.
 10. 大崎敬子:ゲノムから見た*Helicobacter pylori*の家族内感染. *Helicobacter research* 20(5):447-449, 2016.
 11. 花輪智子, 蒲池一成¹, 米澤英雄, 大崎敬子, 神谷茂 (¹感染症研究所) : 百日咳菌のバイオフィーム形成における3型分泌装置の役割. *Bacterial Adherence & Biofilm* 29:43-44, 2016.
 12. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori*外膜タンパク質AlpBの多様性とバイオフィーム形成. *Bacterial Adherence & Biofilm* 29:53-58, 2016.
 13. 神谷茂:腸内フローラと内科疾患. *The Japanese Journal of Antibiotics* 70(1):1-13, 2017.
 14. 大崎敬子, 神谷茂:鉄欠乏性貧血と*Helicobacter pylori*感染. *日本臨床* 75(増刊1):161-166, 2017.
 15. 神谷茂:腸内細菌叢研究の話. *日本医事新報* 4837:46-47, 2017.
 16. 神谷茂:腸内細菌叢(Microbiota)研究の現状と展望. *小児科臨床* 70(5):599-605, 2017.
- 著書**
1. 神谷茂:カンピロバクター感染症. 人獣共通感染症改訂3版. 木村哲, 喜田宏編. 東京, 医薬ジャーナル社, 2016. p. 301-309.
 2. 神谷茂:腸内細菌叢と腸管免疫. 高齢者感染症~超高齢社会の課題と特徴. 光山正雄編. 東京, 医薬ジャーナル社, 2016. p. 69-79.
 3. 神谷茂:腸内フローラのダイナミズム - 代謝産物の生理と病態 (腸内フローラシンポジウム24) . 東京, 医薬出版, 2016.
 4. 神谷茂:はじめに. 腸内フローラのダイナミズム - 代謝産物の生理と病態 (腸内フローラシンポジウム24) . 神谷茂編. 東京, 医薬出版, 2016. p. 1-6.
 5. 神谷茂:微生物の分類. 感染症専門医テキスト 第I部解説編 改訂第2版. 日本感染症学会編. 東京, 南江堂, 2017. p. 3-19.
 6. Hanawa T : Biofilm Formation and Environmental Signals in *Bordetella*. Stress and Environmental Regulation of Gene Expression and Adaptation in Bacteria. de Bruijn FJ. Ed. Hoboken NJ, Wiley, 2016. p. 1279-1286.
- その他**
1. 神谷茂:第19回杏林医学会例会開催「メチローム多様化による細菌の進化とその生物工学的応用」(講師:米國マサチューセッツ工科大学 古田芳一博士), 2016年4月5日.
 2. 神谷茂, 北条史:ドライクリーニング用液体洗剤の抗菌原性細菌作用の解析. 平成27年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長, 相澤好治編), 第42巻, p. 15-17, 2016.
 3. 神谷茂: *Clostridium difficile*感染症の最近の話題. *メディカルトリビューン*, 2016.
 4. 神谷茂:特集:腸内細菌の臨床応用の可能性 (監修), *日本医事新報* No. 4807:23, 2016.
 5. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F, Kamiya S : Critical role of AlpA and AlpB for biofilm formation and cell adhesion of *Helicobacter pylori*. *Helicobacter* 21(Suppl 1):118, 2016.
 6. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T : Comparison of infectivity of *Helicobacter pylori* strains isolated from father, mother and 3 children of a family in gerbil model. *Helicobacter* 21(Suppl 1):125-126, 2016.
 7. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka S, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S : Metagenomic analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in the patients with atrophic gastritis. *Helicobacter* 21(Suppl 1):168, 2016.
 8. 神谷茂:知られざる腸内フローラの世界. *コメンテーター*, BSフジ, 2016年11月6日.
 9. 神谷茂:第9回日本カンピロバクター研究会総会主催, 三鷹, 2016年11月26日.
 10. 神谷茂:性感染症のすべて - 病原体, 診断, 治療, 予防, はじめに. *臨床と微生物* 43(2):97, 2016.
 11. 神谷茂:性感染症のすべて - 病原体, 診断, 治療, 予防, 編集後記. *臨床と微生物* 43(2):184, 2016.
 12. 神谷茂:感染症とプロバイオティクス. *健康増進ヤクルトサイエンス・インフォーメーション*, 2016.
 13. 神谷茂:腸内細菌研究の進歩. *メディカルビューポイント*, 2016.
 14. 大崎敬子: *Helicobacter pylori*の家族内感染に腸内常在細菌叢はどう影響を与えるか. 公益財団法人三島海雲記念財団 平成28年度研究報告書, p. 45-48, 2016.
 15. 大崎敬子:常在細菌叢の外来病原性細菌に対する排除機構と宿主応答制御機構の研究. *ヤクルトバイオサイエンス財団 年報*第24号, p. 46-53, 2016.
 16. 神谷茂:緒方幸雄先生のご逝去を悼んで. *日本細菌学雑誌* 71(2):183, 2016.
 17. 神谷茂, 小林芳夫:古くて新しい日和見感染症 はじめに. *臨床と微生物* 44(1):1, 2017.
 18. 神谷茂:古くて新しい日和見感染症 編集後記. *臨床と微生物* 44(1):96, 2017.
 19. 神谷茂:外科学・整形外科学領域における感染症対策 はじめに. *臨床と微生物* 44(2):99, 2017.
 20. 神谷茂:外科学・整形外科学領域における感染症対策 編集後記. *臨床と微生物* 44(2):192, 2017.
 21. 神谷茂:小林芳夫先生のご逝去を悼んで. *臨床と微生物* 44(2):97-98, 2017.

22. 神谷茂: 「腸から始まる健康ライフ お正月SP」腸内フローラの役割について解説, TBSラジオ, 2017年1月3日.
23. 神谷茂, 畠山昌則, 山岡吉生: 人類のやっかいな相棒「ピロリ菌」. Newton別冊「人体 - 消化の旅」, ニュートンプレス, 2017. p. 36-41.
24. 大崎敬子: *Helicobacter pylori*感染小児および成人の胃粘膜における遺伝子発現比較(抄訳). 日本語抄訳版 *Helicobacter* 17(2): 28-31, 2017.

**感染症学教室
(寄生虫学)**

講演

1. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵: マラリア原虫感染防御における $V\gamma 1^+ \gamma \delta$ T細胞の重要性とその疲弊. 第27回日本生体防御学会学術総会, 福岡, 2016年7月7-9日.
2. 井上信一: 身近な食品から寄生虫をさがそう!. やさしい科学技術セミナー, 東京, 2016年8月18-19日.
3. Asahi H, Mohammed E.M. Tolba, Niikura M, Inoue S-I, Kobayashi F: Copper homeostasis for the developmental progression of intraerythrocytic malarial parasite. The XIX *International Congress for Tropical Medicine and Malaria (ICTMM 2016)*, Australia, September 18th-22nd, 2016.
4. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: $V\gamma 1^+ \gamma \delta$ T cell is a major subset responding to *Plasmodium berghei* XAT infection. The XIX *International Congress for Tropical Medicine and Malaria (ICTMM 2016)*, Australia, September 18th-22nd, 2016.
5. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: Maternal IFN- γ receptor signaling promotes placental pathology during *Plasmodium* infection. The XIX *International Congress for Tropical Medicine and Malaria (ICTMM 2016)*, Australia, September 18th-22nd, 2016.
6. 小林富美恵: マラリア原虫感染に対する宿主免疫機構. 第49回日本原生生物学会, 岡山, 2016年10月8-9日.
7. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: The effect of schizont membrane-associated cytoadherence protein (SMAC)-deficiency on the adverse pregnancy outcomes during *Plasmodium* infection. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会, 東京, 2016年10月22日.
8. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵: $V\gamma 1^+ \gamma \delta$ T細胞は*Plasmodium berghei* 感染防御免疫に関与する. 第76回日本寄生虫学会東日本支部大会, 東京, 2016年10月22日.
9. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: Preferentially expanding $V\gamma 1^+ \gamma \delta$ T cells are associated with protective immunity against *Plasmodium* infection. The 18th Forum Cheju, Korea, October 28th-30th, 2016.
10. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: IFN- γ receptor signaling plays a pivotal role in adverse pregnancy outcomes during severe malaria. The 18th Forum Cheju, Korea, October 28th-30th, 2016.
11. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵: マラリア原虫感染は $\gamma \delta$ T cell exhaustionを引き起こす. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
12. 遠藤沙佑美, 井上信一, 蔵田訓, 新倉保, 朝日博子, 大崎敬子, 神谷茂, 小林富美恵: サルモネラ感染によるマラリア免疫記憶の減弱効果. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
13. 松田理沙, 新倉保, 井上信一, 朝日博子, 小林富美恵: マラリア原虫のプリンスクレオチド生合成を介した新たなエネルギー代謝システムの解明. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
14. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: The effect of schizont membrane-associated cytoadherence protein (SMAC)-deficiency on the accumulation of erythrocytes infected with murine malaria parasites to placenta. The 14th Asian-Pacific Congress for parasitic zoonoses (APCPZ-2016). Sagami-hara, November 26th-27th, 2016.
15. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: Enhancement of dendritic cell activation via CD40 ligand-expressing $\gamma \delta$ T cells is responsible for protective immunity to *Plasmodium* parasites. The 14th Asian-Pacific Congress for parasitic zoonoses (APCPZ-2016). Sagami-hara, November 26th-27th, 2016.
16. Inoue S-I, Niikura M, Kobayashi F: $V\gamma 1^+ \gamma \delta$ T cell-exhaustion during *Plasmodium* infection. 第45回日本免疫学会学術集会. 宜野湾, 2016年12月5-7日.
17. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: Mechanisms responsible for increased susceptibility to malaria parasites during pregnancy. 第10回寄生虫感染免疫研究会, 徳島, 2017年2月9-10日.
18. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: MQO-mediated mitochondrial functions are involved in severe malaria during pregnancy. Seminars in Departmental Lecture Theatre of PGIMER, India, February 22nd-25th, 2017.
19. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: $\gamma \delta$ T cells are crucial effector cells for protective immunity to malaria. Seminars in Departmental Lecture Theatre of PGIMER, India, February 22nd-25th, 2017.
20. 小林富美恵: 女性研究者のキャリアパス形成. 北東北女性研究者研究・交流フェア 2016年度ロールモデル講演会, 盛岡, 2017年3月2日.
21. Niikura M: Role of IFNGR1 in pregnant mice infected with *Plasmodium berghei*. Japanese-Brazil Malaria Workshop 2017, Brazil, March 15th-17th, 2017.
22. Inoue S-I: $\gamma \delta$ T cell-related protective immunity against *Plasmodium berghei* infection. Japanese-Brazil Malaria Workshop 2017, Brazil, March 15th-17th, 2017.
23. Kobayashi F, Niikura M, Inoue S-I, Asahi H: Current status of imported malaria in Japan. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICP)", Sapporo, February 24th, 2017.
24. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: Role of MQO-mediated mitochondrial functions in severe malaria. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICP)", Sapporo, March 24th, 2017.
25. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: $\gamma \delta$ T cells are crucial effector cells for protective immunity to malaria. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICP)", Sapporo, March 24th, 2017.

論文

1. Honma H¹, Niikura M, Kobayashi F, Horii T², Mita T³, Endo H¹, Hirai M³ (¹Tokyo Women's Medical University, ²Osaka University, ³Juntendo University): Mutation tendency of mutator *Plasmodium berghei* with proofreading-deficient DNA polymerase δ . *Sci Rep* 6:36971, 2016. DOI:10.1038/srep36971.
2. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Iwakuwa Y¹, Kawakami Y², Kobayashi F (¹Tokyo University of Science, ²Azabu University): Preferentially expanding $V\gamma 1^+$ $\gamma\delta$ T cells are associated with protective immunity against *Plasmodium* infection in mice. *Eur J Immunol*, 2016. DOI:10.1002/eji.201646699. (Epub ahead of print).

著書

1. 小林富美恵: 寄生虫/原虫感染症/蠕虫感染症. 葉がみえる vol.3. 東京, メディックメディア, 2016.
2. 小林富美恵: 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 寄生虫病学 改訂版. 東京, 緑書房, 2017.
3. 小林富美恵: 寄生虫感染症. イヤーノート2018. 東京, メディックメディア, 2017.

その他

受賞

1. 小林富美恵: 日本原生生物学会賞「マラリア原虫感染に対する宿主免疫機構」. 第49回日本原生生物学会, 岡山, 2016年10月8-9日.
2. 井上信一: 第45回杏林医学会総会優秀賞「マラリア原虫感染は $\gamma\delta$ T cell exhaustionを引き起こす」. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.

報告

1. 小林富美恵: 杏林医学会第16回例会報告「New aspect of parasitic diseases in India by Prof. Rakesh Sehgal」, 杏林医学会雑誌 47(2), 2016.
2. 小林富美恵: 杏林医学会第20回例会報告「Malaria in pregnancy by Prof. Alka Sehgal」, 杏林医学会雑誌 47(2), 2016.

新聞記事

1. 小林富美恵: 寄生虫症-食品が媒介, 火を通して-, 琉球新聞, 2016年12月6日.
2. 小林富美恵: 食品が媒介する寄生虫症, 岩手日日新聞, 2016年12月5日.
3. 小林富美恵: 食品が媒介する寄生虫症-輸送技術向上も要因に-, 苫小牧民法, 2016年12月6日.

衛生学公衆衛生学教室

講演

1. Yoshida M, Mizuki N, Meguro A, Sakano T, Okada E: A fourteen year large scale follow-up study into the distribution of astigmatic axis in Japan. -The result of analysis of approximately 550,000 eyes of Japanese patients by spherical surface power-. ARVO 2016, USA, May 1st-5th, 2016.
2. Okada E, Mizuki N, Meguro A, Sakano T, Yoshida M: A thirteen year, large scale, follow-up study on the number of prescriptions of hard contact lenses in Japan. -The result of age group analysis of approximately 178,000 Japanese subjects eyes-. ARVO 2016, USA, May 1st-5th, 2016.
3. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: 肥満による脂肪組織のリモデリングに対するプロサイシン α の役割. 第86回日本衛生学会学術総会, 旭川, 2016年5月11-13日.
4. 白土健, 高成準, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 石橋義永, 今

- 泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: 酸化ストレスによる皮膚線維芽細胞のMMP発現誘導に対するETASの効果. 第86回日本衛生学会学術総会, 旭川, 2016年5月11-13日.
5. 小笠原準悦, 高成準, 白土健, 櫻井拓也, 大野秀樹, 木崎節子: PC12細胞の神経突起形成に及ぼすETAS (enzyme-treated asparagus extract)の効果. 第86回日本衛生学会学術総会, 旭川, 2016年5月11-13日.
6. 相澤陽太, 谷口善仁: 魚類におけるカドミウム毒性に対するメタロチオネインの役割~ゲノム編集技術を用いて. 第86回日本衛生学会学術総会, 旭川, 2016年5月11-13日.
7. 田村憲治, 近藤美則, 荻田香苗, 矢野栄二, 原邦夫, 本間純一: 大気汚染常時監視測定局のPM_{2.5}等の濃度時間値における問題点. 第86回日本衛生学会学術総会, 旭川, 2016年5月11-13日.
8. 荻田香苗: 女性の活躍推進が地域社会の未来をかえる~一人ひとりが輝くまちづくりのヒント~. 男女共同参画講演会×杏林大学公開講演会, 羽村, 2016年6月11日.
9. 石川守, 吉田正雄: 人間ドック保健指導を活用するための1試行. 第26回九州農村医学会, 那覇, 2016年7月2日.
10. Ogasawara J, Takanari J, Shirato K, Sakurai T, Ishibashi Y, Ohno H, Kizaki T: Neuroprotective effect of ETAS on cellular disorder in HT22 hippocampal cells. The 24th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, Sapporo, July 9th-10th, 2016.
11. Shirato K, Takanari J, Sakurai T, Ogasawara J, Ishibashi Y, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: Suppressive effects of Enzyme-treated Asparagus Extract on hydrogen peroxide-stimulated inflammatory responses in murine L929 skin fibroblasts. The 24th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, Sapporo, July 9th-10th, 2016.
12. 石川守, 細井克美, 吉田正雄: 健診当日結果説明100%, 当日保健指導100%を目指して. 第57回日本人間ドック学術学会, 松本, 2016年7月28-29日.
13. 石黒睦子, 岡本晋, 吉田正雄, 山本実: インスリン抵抗性からみたメタボリックシンドローム判定の再評価. 第57回日本人間ドック学術学会, 松本, 2016年7月28-29日.
14. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 大石修司, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: マウスマクロファージのインフラマソーム依存性サイトカイン分泌は自発性走運動により増強される. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月23-25日.
15. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: 運動は肥満による脂肪組織のプロサイモシン α 発現増加を減弱させる. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月23-25日.
16. 白土健, 高成準, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: 酵素処理アスパラガス抽出物はH₂O₂による皮膚線維芽細胞株L929のp65核内移行を抑制することにより炎症性応答を軽減する. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016年9月25-27日.
17. 北原玲子, 鈴木晴喜, 山下としえ, 岳真一郎, 吉田正雄: ワセリン使用による褥瘡好発部位の保湿効果~1ヶ月間の追跡研究. 第58回全日本病院学会in熊本, 熊本, 2016年10月8-9日.
18. 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡, 深澤絵里子, 小風暁, 荻田香苗: 若年女性の生活リズムと食生活習慣に関する調査. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月26-28日.
19. 谷口善仁: 核微細構造維持のための魚類メタロプロテアーゼZmpste24の役割. 日本放射線影響学会第59回大会,

広島, 2016年10月26-28日.

20. 吉田正雄, 岳真一郎, 原田まつ子, 井上聡, 小風暁, 荻田香苗: 加齢性白内障のリスク要因と一次予防対策解明のためのコホート研究~日本人約7万人を5年間追跡した結果~. 第24回日本慢性期医療学会, 金沢, 2016年10月27-28日.
21. 吉田正雄, 岳真一郎, 石川守, 小風暁, 原田まつ子, 井上聡, 荻田香苗: 眼圧値の変動に関連する因子と緑内障一次予防対策解明のための分析疫学的研究~喫煙習慣が眼圧値の変動に及ぼす影響~. 第10回日本禁煙学会学術総会, 東京, 2016年10月29-30日.
22. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木本紀代子, 大野秀樹, 木崎節子: マウス炎症性マクロファージのサイトカイン分泌能に及ぼす習慣的自発性運動の効果. 第45回杏林医学会総会, 三鷹, 2016年11月19日.
23. 荻田香苗, 井上聡, 吉田正雄, 原田まつ子: 大学生の不安性格傾向と気分プロフィールおよび自律神経バランスに関する性差の検討. 第81回日本民族衛生学会総会, 東京, 2016年11月26-27日.
24. 井上聡, 荻田香苗, 吉田正雄, 原田まつ子: 大学生の食生活習慣と体力測定の関係性について. 第81回日本民族衛生学会総会, 東京, 2016年11月26-27日.
25. 谷口善仁: CYP1A欠損が生体内代謝産物に与える変動. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月30日-12月2日.
26. 菅田慎一, 吉浦康寿, 安藤忠, Julian Stolper, 亀井保博, 成瀬清, 谷口善仁: アジア人型2型糖尿病様症状を示す新モデル生物. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月30日-12月2日.
27. 小笠原準悦: 運動は肥満に有効か? 脂肪細胞の機能変化に着目して. 第168回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2016年12月3日.
28. 荻田香苗: 実施事業, アンケート結果による効果測定等. 統括シンポジウム 杏林大学の女性研究者研究活動支援事業の成果と継続に向けて, 三鷹, 2016年12月17日.
29. 荻田香苗: 職場 家庭 地域でアクティブに行きするために. 第32回「女と男, とともに織りなすフォーラムinはむら」, 羽村, 2017年2月5日.
30. 小宮山千尋, 柳谷歩, 高橋恭子, 虻川和博, 山川達也, 岳真一郎, 吉田正雄: 回復期から療養病院に入院した重度介助患者に高頻度なりハ介入し自宅復帰した症例~補高付きAF0を用いて~. 第4回慢性期リハビリテーション学会, 横浜, 2017年3月18-19日.
31. 高濱知子, 西尾聖剛, 杉山康司, 村田真一, 祝原豊, 辻川比呂斗, 白土健, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 長澤純一: トレイルランレースが酸化ストレスにおよぼす影響. 第169回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2017年3月18日.
32. 荻田香苗, 井上聡, 原田まつ子, 吉田正雄, 小風暁: 男子大学生における不安・気分状態と安静座位および歩行時の自律神経活動の評価. 第87回日本衛生学会学術総会, 宮崎, 2017年3月26-28日.
33. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: 肥満による脂肪組織のプロサイモニン α 発現増加は運動によって減弱される. 第87回日本衛生学会学術総会, 宮崎, 2017年3月26-28日.
34. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 大石修司, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: 習慣的運動によるマウス炎症性マクロファージのIL-1 β とIL-18分泌亢進のメカニズム. 第87回日本衛生学会学術総会, 宮崎, 2017年3月26-28日.
35. 白土健, 高成準, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 今

泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: 酸化ストレスによる皮膚線維芽細胞の炎症性応答に対するETASの予防効果. 第87回日本衛生学会学術総会, 宮崎, 2017年3月26-28日.

論文

1. Shirato K, Takanari J¹, Sakurai T, Ogasawara J, Imaizumi K², Ohno H³, Kizaki T (Amino Up Chemical Co. Ltd, ²Waseda University, ³The Yamatokai Foundation): Enzyme-treated asparagus extract prevents hydrogen peroxide-induced pro-inflammatory responses by suppressing p65 nuclear translocation in skin L929 fibroblasts. *Nat Prod Commun* 11(12):1883-1888, 2016.
2. Kokaze A¹, Yoshida M, Ishikawa M², Matsunaga N, Karita K, Ochiai H¹, Shirasawa T¹, Nanri H¹, Mitsui K¹, Hoshimo H¹, Takashima Y (Showa University School of Medicine, ²Mito Red Cross Hospital): Mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism modulates the effects of coffee consumption on elevated levels of serum liver enzymes in male Japanese health check-up examinees: an exploratory cross-sectional study. *J Physiol Anthropol* 35: 15, doi: 10.1186/s40101-016-0098-2. (2016).
3. Naruse K¹, Chisada S, Sasado T¹, Takehana Y¹ (National Institute for Basic Biology): Medaka as a model animal and current status of medaka biological resources. *Research & Knowledge* 2(1): 31-34, 2016.
4. 木崎節子, 楊國昌, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健: 加齢性慢性炎症性疾患に対する運動効果: マクロファージ時計遺伝子をプローブとして. *杏林医学会雑誌* 47:s13-15, 2016.
5. 荻田香苗, 江頭説子 (杏林大・男女共同参画室): 多様な人材の活躍が大学の未来を変えるー杏林大学の取組み. *医学のあゆみ* 258(13):1223-1225, 2016.
6. 荻田香苗, 坂本峰至¹, 吉田稔², 龍田希³, 仲井邦彦³, 岩井美幸⁴, 岩田豊人⁵, 前田恵理⁵, 柳沼梢⁶, 佐藤洋⁷, 村田勝敬⁵ (国立水俣病総合研究センター, ²八戸学院大, ³東北大から, ⁴国立環境研究所環境リスク・健康研究センター, ⁵秋田大・院, ⁶尚綱学院大, ⁷東北大): メチル水銀, 水銀およびセレンに関する研究動向ー疫学研究を中心にー. *日衛誌* 71(3):236-251, 2016.
7. 荻田香苗: 許容濃度の暫定値(2016)の提案理由ーノルマルブチル-2,3エポキシプロピルエーテル. *産業衛生学雑誌* 58(5):228-232, 2016.
8. 岳真一郎¹, 吉田正雄, 山下としえ¹, 貝瀬奈保¹, 海老名泰子¹, 市沢美恵² (埼玉回生病院, ²八潮市南部地域包括支援センター): 埼玉回生病院の認知症への取り組み. *日本慢性期医療協会誌* 107(24):67-70, 2016.
9. 原田まつ子¹, 吉田正雄, 井上聡², 小風暁³, 荻田香苗 (東京家政大, ²帝京科学大, ³昭和): 若年女性の味覚感度低下と食生活習慣およびストレスとの関連性について. *民族衛生* 82(3):99-109, 2016.
10. 高井健太郎¹, 高田裕司¹, 渡邊正樹¹, 河崎由美子¹, 山下としえ¹, 岳真一郎¹, 吉田正雄 (埼玉回生病院): 拘束を行わずに転倒リスクを軽減するための試みーセンサーマットから非接触型超音波センサーへー. *全日本病院協会雑誌* 27(1):100-103, 2016.
11. 柳谷歩¹, 宮田幸造¹, 山川達也¹, 岳真一郎¹, 吉田正雄 (埼玉回生病院): 差尺と上肢の作業効率との関連ー簡易上肢機能検査による動作速度の比較ー. *全日本病院協会雑誌* 27(1):157-159, 2016.
12. Sakurai T, Ogasawara J, Shirato K, Izawa T¹, Ohishi S², Ishibashi Y, Radák Z³, Ohno H⁴, Kizaki T (Doshisha University, ²National Hospital

Organization Ibarakihigashi National Hospital, ³University of Physical Education, ⁴The Yamatokai Foundation): Exercise Training Attenuates the Dysregulated Expression of Adipokines and Oxidative Stress in White Adipose Tissue. OXID MED CELL LONGEV 2017: 9410954, 2017.

13. Shirato K, Imaizumi K¹, Sakurai T, Ogasawara J, Ohno H², Kizaki T (¹Waseda University, ²The Yamatokai Foundation): Regular Voluntary Exercise Potentiates Interleukin-1 β and Interleukin-18 Secretion by Increasing Caspase-1 Expression in Murine Macrophages. Mediators Inflamm 2017, 9290416, 2017.
14. Shirato K, Sato S¹, Imaizumi K², Sakurai T, Ogasawara J³, Oh-ishi S⁴, Ohno H⁵, Kizaki T (¹University of California, ²Waseda University, ³Asahikawa Medical University, ⁴National Hospital Organization, Ibarakihigashi National Hospital, ⁵Social Medical Corporation, the Yamatokai Foundation) : Regular exercise improves inflammatory responses by resident or recruited macrophages against bacterial pathogens. Macrophage 4:e1533, 2017.
15. Natori Y¹, Nasui M¹, Edo K¹, Sato S, Sakurai T, Kizaki T, Kihara-Negishi F¹(¹Teikyo University): NEU1 sialidase controls gene expression and secretion of IL-6 and MCP-1 through NF- κ B pathway in 3T3-L1 adipocytes. J Biochem 2017, doi:10.1093/jb/mvx006. (Epub 2017).
16. Yamaguchi A¹, Oh-Ishi T¹, Arai T¹, Sakata H^{2,3}, Adachi N¹, Asanuma S¹, Oguma E¹, Kimoto H⁴, Matsumoto J⁵, Fujita H⁶, Uesato T⁶, Fujita J⁶, Shirato K, Ohno H, Kizaki T(¹Saitama Children's Medical Center, ²Kawagoe Otolaryngology Institute, ³Mejiro University Audiology Clinic, ⁴Sannoh Doom Clinic, ⁵Sannoh Clinic, ⁶Aiwa Hospital): Screening for seemingly healthy newborns with congenital cytomegalovirus infection by quantitative real-time polymerase chain reaction using newborn urine: an observational study. BMJ Open 7(1): e013810, 2017.

著書

1. 吉田正雄：食習慣．エッセンシャル 社会・環境と健康 第2版第9刷．高島豊，櫻井裕編．東京，医歯薬出版，2017，pp.111-114.
2. 吉田正雄：学校保健対策．エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第9刷．高島豊，櫻井裕編．東京，医歯薬出版，2017，pp.237-242.

報告書

1. 荻田香苗（分担）：トリクロロエチレン健康リスク評価作業部会報告書，トリクロロエチレンに係る健康リスクの評価について．大気環境学会誌52:A23-57, 2017年3月．
2. 荻田香苗（分担）：大気汚染物質の環境基準等の調査・検討業務—光化学オキシダントの健康リスク評価調査等．平成28年度環境省請負業務結果報告書，日本エヌ・ユー・エス，2017年3月．
3. 荻田香苗（分担）：メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー；「水俣病に関する総合的研究（重金属等の健康影響に関する総合研究）」．平成28年度環境省委託業務報告書，2017年3月．

その他

1. 野村恭子，荻田香苗：次世代人材育成と今後の男女共同参画．第86回日本衛生学会シンポジウム1 開催趣旨．日衛誌71(Supplement):S93, 2016年5月．
2. 荻田香苗，車谷典男：就労女性が輝く男女共同参画社会

の実現を目指して．第89回日本産業衛生学会シンポジウム12 座長の言葉．産業衛生学雑誌58巻 臨時増刊号164, 2016年5月．

3. 白土健：第86回日本衛生学会学術総会若手優秀発表賞「酸化ストレスによる皮膚線維芽細胞のMMP発現誘導に対するETASの効果」，2016年5月12日．
4. Karita K et al: Committee for Recommendation of Occupational Exposure Limits, Japan Society for Occupational Health. Occupational Exposure Limits of lead, dimethylamine, n-butyl-2,3-epoxypropyl ether, and 2-ethyl-1-hexanol and carcinogenicity and occupational sensitizer classification. J Occup Health 58 (4 Special Issue):385-387, 2016.
5. 野村恭子，荻田香苗：日本衛生学会における男女共同参画推進活動．第14回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集，p.73, 2016年10月．
6. 吉田正雄：第24回日本慢性期医療学会優秀演題「加齢性白内障のリスク要因と一次予防対策解明のためのコホート研究～日本人約7万人を5年間追跡した結果～」，2016年10月28日．
7. 白土健：第45回杏林医学会総会優秀賞「マウス炎症性マクロファージのサイトカイン分泌能に及ぼす習慣的自発性運動の効果」，2016年11月19日．
8. 荻田香苗，江頭説子：文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」—3年間の成果と継続に向けて．杏林大学新聞 第17号，2017年3月6日発行．
9. 野村恭子，荻田香苗：学術研究からの少子化対策．第87回日本衛生学会シンポジウム2 開催趣旨．日衛誌72(Supplement):S99, 2017年3月．
10. 吉田正雄：編集後記．民族衛生83(1):38, 2017.
11. 櫻井拓也：取材協力：活性化させれば太らない!?「褐色脂肪細胞」の研究，Tarzan 713 : 84-87, 2017.

法医学教室

講演

1. 氣賀澤秀明，寺戸雄一，千葉知宏，岡部直太，吉池信哉，藤原正親，北村修，菅間博：腎癌に転移性乳腺小葉癌が混在した1例．第105回日本病理学会総会，仙台，2016年5月12-14日．
2. 武市敏明，北村修，王璐，塚正彦：Methamphetamine反復投与における線条体のストレス応答についての基礎的検討．第100次日本法医学会学術全国集会，東京，2016年6月15-17日．
3. 王璐，武市敏明，氣賀澤秀明，高篠智，吉田昌記，北村修：舌根部に発生した甲状舌管嚢胞の1剖検例．第100次日本法医学会学術全国集会，東京，2016年6月15-17日．
4. 王璐，武市敏明，高木徹也，高篠智，吉田昌記，山田千歩，氣賀澤秀明，岩楯桜子，高橋かすみ，北村修：自殺剖検例における下垂体の検討；Rathke嚢胞による前葉細胞の病理学的変化．第100次日本法医学会学術全国集会，東京，2016年6月15-17日．
5. 氣賀澤秀明，廣川達也，高橋かすみ，吉田昌記，高篠智，王璐，北村修：大腸内容物から疑われたエチレングリコール中毒の1剖検例．第85回日本法医学会学術関東地方集会，横須賀，2016年10月29日．
6. 高篠智，氣賀澤秀明，廣川達也，吉田昌記，王璐，松村譲兒，北村修：過長茎状突起を両側性で認めた1例．第122回日本解剖学会総会・全国学術集会，長崎，2017年3月28-30日．

論文

1. 氣賀澤秀明，吉田昌記，廣川達也，高篠智，王璐，北村

修: C型慢性肝炎の患者が糖尿病の急激な増悪を呈した1剖検例. 法医学の実際と研究 59: 61-64, 2016.

その他

1. 北村修: 第24回法医病理勉強会主催, 東京, 2016年6月15日.

共同研究施設
R I 部門

講演

1. 林優子, 小藤剛史, 田丸政男, 赤川公朗: Syntaxin1A遺伝子の欠損を認めた自閉症スペクトラムの5症例. 第58回日本小児神経学会学術集会, 東京, 2016年6月3-5日.
2. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Hayashi Y, Tamaru M, Akagawa K: HPC-1/syntaxin1A is one of causing gene for autistic spectrum disorder. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016年7月20-22日.
3. 小藤剛史, 藤原智徳, 真田ますみ, 三嶋竜弥, 林優子, 田丸政男, 赤川公朗: Disturbance of HPC-1/syntaxin1A gene expression and its CNV cause autistic spectrum disorder. 第59回日本神経化学会, 福岡, 2016年9月8-10日.
4. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 小藤剛史, 寺尾安生, 赤川公朗: シンタキシン1B遺伝子欠損マウスのけいれん表現型の解析. 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月28-30日.

論文

1. Fujiwara T¹, Sanada M¹, Kofuji T, Akagawa K¹(¹Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.): Unusual social behavior in HPC-1/syntaxin1A knockout mice is caused by disruption of the oxytocinergic neural system. *J Neurochem.* 138(1):117-23, 2016.
2. Kofuji T, Hayashi Y¹, Fujiwara T², Sanada M², Tamaru M¹, Akagawa K²(¹Prefectural Univ. Hiroshima, ²Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.): A part of patients with autism spectrum disorder has haploidy of HPC-1/syntaxin1A gene that possibly caused behavioral disturbance as in experimentally gene ablated mice. *Neurosci letters* 644: 5-9, 2017.

フローサイトメトリー部門

講演

1. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohyama M: Flowcytometric analysis of lymphocyte subset in an advanced melanoma patient during vemurafenib-associated toxic rash after nivolumab treatment. 「難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業): 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究(H26-難治等(難)-一般-081)」平成28年度第1回班会議プログラム, 東京, 2016年7月30日.
2. Sato Y, Takahashi R, Hayakawa J, Ohyama M: Attempt to identify predictors for outcomes of intravenous corticosteroid pulse therapy for rapidly progressive alopecia areata. The 4th Eastern Asia Dermatology Congress, Urayasu, November 16th-18th, 2016.
3. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohyama M: Impact of therapeutic PD-1 blockade on T cell profile in advanced malignant melanoma: a possible link between PD-1⁺CD4⁺ cell and prognosis. 41st JSID, Sendai, December 9th-10th, 2016.
4. Sato Y, Takahashi R, Kimishima M, Yamasaki Y, Shiohara T, Ohyama M: Search for early predictive factors for recovery from rapidly progressive

alopecia areata after intravenous corticosteroid pulse therapy. 41st JSID, Sendai, December 9th-10th, 2016.

5. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohyama M: Change in lymphocyte subsets during the nivolumab treatment in advanced melanoma patients. 「難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業): 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究(H26-難治等(難)-一般-081)」平成28年度第2回班会議プログラム, 東京, 2017年1月7日.

報告書

1. 高橋良: スティーブンス・ジョンソン症候群は、なぜマイコプラズマ肺炎に伴って発症するのか?. 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 2015年度 実施状況報告書(研究実施状況報告書).

その他

1. 高橋良: スティーブンス・ジョンソン症候群の発症機序の解明, 平成28年度杏林大学医学部 研究奨励賞, 2016.

実験動物施設部門

講演

1. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori*の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上と遺伝子発現差比較. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月24-26日.
2. 大崎敬子, 徳永健吾, 田中昭文, ザマンシンシア, 米澤英雄, 北条史, 高橋信一, 神谷茂: *Helicobacter pylori*感染と胃内細菌叢. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月24-26日.
3. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, ザマンシンシア, 神谷茂: AlpABの多様性が及ぼす*Helicobacter pylori* TK1402株バイオフィルム形成への影響. 第22回日本ヘリコバクター学会学術集会, 別府, 2016年6月24-26日.
4. Zaman C, Osaki T, Yonezawa H, Hojo F, Kamiya S: Animal study on *Helicobacter pylori* infection using the strains isolated from one family members. The 13th Korea-Japan Joint Symposium on *Helicobacter* infection, 別府, 2016年6月24-26日.
5. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T: Comparison of infectivity of *H. pylori* strains isolated from father, mother and 3 children of a family in gerbil model. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group - EHMSG XXIXth International Workshop on *Helicobacter* and Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 15th-17th, 2016.
6. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: Metagenomic analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in the patients with atrophic gastritis. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group - EHMSG XXIXth International Workshop on *Helicobacter* and Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 15th-17th, 2016.
7. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F, Kamiya S: Critical role of AlpA and AlpB for biofilm formation and cell adhesion of *Helicobacter pylori*. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group - EHMSG XXIXth International Workshop on *Helicobacter* and Microbiota in Inflammation and Cancer, Germany, September 15th-17th, 2016.

8. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 環境土壌中における*Helicobacter pylori*の生存性について. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
9. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Kurata S, Hanawa T, Kamiya S: Characterization of *Helicobacter pylori* strains in continuous flow culture system. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
10. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 北条史, 大崎敬子, ザマンシンシア, 神谷茂: 百日咳菌ペリクルバイオフィルムに関わる遺伝子発現の解析. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.
11. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, ザマンシンシア, 北条史, 神谷茂: *Helicobacter pylori*外膜タンパク質AlpAのバイオフィルム形成能への影響. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017年3月19-21日.

論文

1. Yonezawa H, Osaki T, Fukutomi T, Hanawa T, Kurata S, Zaman C, Hojo F, Kamiya S: Diversification of the AlpB Outer Membrane Protein of *Helicobacter pylori* Affects Biofilm Formation and Cellular Adhesion. *J Bacteriol.* 199:e00729, 2017.

その他

1. 神谷茂, 北条史: ドライクリーニング用液体洗剤の抗菌作用の解析. 平成27年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長, 相澤好治編), 第42巻, p.15-17, 2016.
2. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F, Kamiya S: Critical role of AlpA and AlpB for biofilm formation and cell adhesion of *Helicobacter pylori*. *Helicobacter* 21(Suppl 1):118, 2016.
3. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T: Comparison of infectivity of *Helicobacter pylori* strains isolated from father, mother and 3 children of a family in gerbil model. *Helicobacter* 21(Suppl 1):125-126, 2016.
4. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka S, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: Metagenomic analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in the patients with atrophic gastritis. *Helicobacter* 21(Suppl 1):168, 2016.

生物学教室

講演

1. Kato K, Awasaki T: Replacement of the glial architecture in *Drosophila* central brain during metamorphosis. 57TH ANNUAL DROSOPHILA RESEARCH CONFERENCE, USA, 2016年7月13-17日.
2. 澤村京一, Wang Zhuo, 三浦康平, 林貴朗, 平井和之, 栗崎健, 和田萌, 計良陽子, 石川裕之: ショウジョウバエにおけるヌクレオポリンの相互作用と生殖的隔離. 日本遺伝学会第88回大会, 三島, 2016年9月7-9日.
3. Awasaki T, Umeki Y, Tomura M, Kato K: Replacement of the glial architecture in *Drosophila* central brain during metamorphosis. The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.
4. Yoshioka S, Kobayashi W, Nagai S, Awasaki T, Itoh M, Tonoki A: Notch signaling in glial cells

regulates long-term memory in *Drosophila*. The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.

5. Ohsako T, Nakano R, Matsuda T, Awasaki T, Tomaru M, Karr TL, Takano T: Enhancer activity of human ultra-conserved elements in fruit fly. The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.
6. Sawamura K, Wang Z, Miura K, Hayashi T, Hirai K, Awasaki T, Wada M, Keira Y, Ishikawa HO: Interaction among nucleoporins and reproductive isolation in *Drosophila*. The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.
7. Kudo A, Awasaki T, Ishikawa Y, Matsuo T: piggyBac and phiC31 mediated genetic transformation of *Drosophila prolongata*. The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.
8. Ueda R, Takano T, Watada M, Awasaki T, Akashi R: National BioResource Project "Drosophila". The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.
9. Hirai K, Suzuki H, Minakuchi Y, Toyoda A, Matsuda M: The progression of the first mitosis and diploidization in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. The 12th Japanese Drosophila Research Conference, Tokyo, 2016年9月9-11日.
10. Hirai K, Suzuki H, Minakuchi Y, Toyoda A, Matsuda M: The progression of the first mitosis and diploidization in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. 22nd International Congress of Zoology/第87回日本動物学会大会合同大会, 宜野湾, 2016年11月14-19日.
11. 栗崎健: ショウジョウバエ脳神経系におけるグリアアセンブリ. 東京都医学総合研究所セミナー, 東京, 2016年11月25日.
12. 吉岡佐保, 永井咲紀, 小林航, 栗崎健, 伊藤素行, 殿城亜矢子: ショウジョウバエにおける加齢性記憶低下とNotchシグナルの関係性の検討. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月30日-12月2日.
13. 平井和之, 水口洋平, 豊田敦, 松田宗男: アナナスショウジョウバエ単為発生における核分裂開始機構. 国立遺伝学研究所研究集会 ショウジョウバエの生殖戦略と生殖生物学, 三島, 2017年2月7-8日.
14. Sawamura K, Wang Z, Miura K, Hayashi T, Hirai K, Awasaki T, Wada M, Keira Y, Ishikawa HO: Interaction among nucleoporins and reproductive isolation in *Drosophila*. Genome Evolution at Mishima, Mishima, 2017年3月27-29日.

論文

1. Sawamura K¹, Sato H, Lee CY², Kamimura Y^{2,3}, Matsuda M (¹University of Tsukuba, ²Universiti Sains Malaysia, ³Keio University): A Natural Population Derived from Species Hybridization in the *Drosophila ananassae* Species Complex on Penang Island, Malaysia. *Zoolog Sci* 33(5):467-475, 2016.
2. Goñi B¹, Matsuda M, Tobari YN¹ (¹Tokyo Metropolitan University): Male recombination in Brazilian populations of *Drosophila ananassae*. *Genome* 59(7):493-500, 2016.
3. Ren Q¹, Awasaki T, Huang YF¹, Liu Z¹, Lee T¹ (¹HHMI,

Janelia Research Campus): Cell Class-Lineage Analysis Reveals Sexually Dimorphic Lineage Compositions in the Drosophila Brain. *Curr Biol* 26(19):2583-2593, 2016.

その他

1. 栗崎健, 近藤周: 国立遺伝学研究所研究集会「ショウジョウバエの生殖生物学」主催, 三島, 2017年2月7-8日.

物理学教室

講演

1. 大谷宗久: Soliton in the hidden local gauge sector. 日本物理学会2016年秋季大会, 宮崎, 2016年9月21日.
2. 大谷宗久: カイラルランダム行列理論におけるインスタント数分布. 日本物理学会第72回年次大会, 豊中, 2017年3月18日.
3. 遠山満: 密度行列理論とCoupled-cluster理論の関係. 日本物理学会第72回年次大会, 豊中, 2017年3月20日.

論文

1. Schuck P¹, Tohyama M (1IPN Orsay): Progress in many-body theory with the equation of motion method: Time-dependent density matrix meets self-consistent RPA and applications to solvable models. *Phys Rev B* 96: 165117-1-27, 2016.
2. Schuck P¹, Tohyama M (1IPN Orsay): Self-consistent RPA and the time-dependent density matrix approach. *Eur Phys J A* 52: 307-323, 2016.
3. Tohyama M: Density-matrix theory versus coupled-cluster theory. *Prog Theor Exp Phys* 2016: 113D01-1-16, 2016.

化学教室

講演

1. 山本幸子, 菅田晴夫, 丑丸真: 脂肪酸アミドのCa²⁺ポンプ活性抑制効果. 日本生体エネルギー研究会第42回討論会, 名古屋, 2016年12月19-21日.
2. 菅田晴夫, 山本幸子, 丑丸真, 原論吉: カイコアルファ鎖とラットベータ鎖からなるハイブリッドNa/K-ATPaseの発現. 日本生体エネルギー研究会第42回討論会, 名古屋, 2016年12月19-21日.

論文

1. Yamamoto S¹, Takehara M², Kabashima Y³, Fukutomi T⁴, Ushimaru M¹ (1Department of Chemistry, Kyorin University School of Medicine, 2The University of Shiga Prefecture, 3The University of Tokyo, 4Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine): Identification of novel inhibitors of human SPCA2. *Biochem Biophys Res Commun.* 477(2):266-70, 2016.
2. Yamamoto S¹, Takehara M², Ushimaru M¹ (1Department of Chemistry, Kyorin University School of Medicine, 2The University of Shiga Prefecture): Inhibitory action of linoleamide and oleamide toward sarco/endoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase. *Biochim Biophys Acta.* 1861(1 Pt A):3399-3405, 2017.

英語学教室

講演

1. 黒田航: ヒトの“信仰の本能”から見たウワサの理論化—ウワサは神話として消費される物語である. 日本認知

科学会学習と対話研究会「デマの認知科学」, 京都, 2016年8月24日.

2. 黒田航, 阿部慶賀, 横野光, 田川拓海, 小林雄一郎, 金丸敏幸, 土屋智行, 浅尾仁彦: (言語学者による)容認度評定の認証システムを試作する構想—入念に設計された日本語文の容認度評定データベースに基づいて. 日本認知科学会第33回大会, 札幌, 2016年9月17日.
3. Kuroda K: In search of a psychologically realistic model of acceptability judgements: Towards a better understanding of how“context(ual) effects” work (or arise)? Conference on SIG “Thought and Language,”. IEICE, Tokyo, December 16th, 2016.
4. 黒田航, 仲村哲明, 河原大輔: 容認度判定の実態調査の報告: その正体は不均一な反応からなる, バイアスのかかった心理評定である. 言語処理学会第23回年次大会, つくば, 2017年3月15日.
5. 黒田航, 浅尾仁彦, 金丸敏幸, 小林雄一郎, 田川拓海, 横野光, 土屋智行, 阿部慶賀: 言語学は事例をどう扱っているのか?: 見本抽出から明らかになった扱い方の(意外な)片寄り. 言語処理学会第23回年次大会, つくば, 2017年3月15日.